静岡県柔道協会70周年記念

平成２０年からの歩み

静岡県柔道協会

静岡県柔道協会70周年記念

平成２０年からの歩み

静岡県柔道協会

目　　次

挨　拶

静岡県柔道協会　会　長　野田　昭一　・・・・・・・1
静岡県柔道協会　副会長（東部支部幹事長）　髙田　和夫　・・・・・・・2
静岡県柔道協会　副会長（中部支部幹事長）　田中　秀幸　・・・・・・・3
静岡県柔道協会　副会長（西部支部幹事長）　間宮　幸男　・・・・・・・4
静岡県柔道協会　副会長（理事長）　左口　直人　・・・・・・・5

1.10 年の歩み

静岡県少年柔道協議会 10 年の歩み　少年柔道協議会　会長　石川　裕章　・・・・・・・6
中学校柔道の歩み　中体連柔道専門部長　星野　祐樹　・・・・・・・10
高等学校体育連盟柔道専門部 10 年間の歩み　高体連柔道専門部長　西川　孝治　・・・・・・・17
大学・高専柔道の 10 年の歩み　大学・高専柔道連盟　会長　井川　清隆　・・・・・・・23
警察柔道の 10 年の歩み　静岡県警察　渡邊　達也　・・・・・・・25

2．静岡県柔道祭を振り返る　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

3．全日本実業柔道団体対抗大会を振り返る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

4．「柔道しずおか」に見る 10 年の歩み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61

5．雑誌「柔道」に見る静岡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211

編集後記

創立 70 周年に寄せて



静岡県柔道協会　会長 **野 田 昭 一**

静岡県柔道協会が昭和 23 年に創設されて以来、70 年目を迎えましたことは、誠に喜びに耐えません。これもひとえに歴代会長をはじめとする諸先生方の熱心な御指導や、関係各位の皆様の御支援・御協力の賜物と深く敬意を表するとともに、感謝申し上げます。

平成 26 年から、私が会長の重責を任されて現在に至りますが、先輩方に少しでも近づき、静岡県の柔道発展に寄与してまいりたいと思う所存であります。

変化の激しい現代社会においては、協会組織の改革を進めてゆく必要を感じ、組織の再編をするべく、総務委員会をはじめとする四つの委員会と強化部と女性部会を設置し、役割分掌を明確にしてまいりました。

また、新たな試みとしては、女性部会の主導による「女性のための指導者講習会」を開催することができました。今後も継続的・発展的な事業の実施を進めてまいりたいと考えております。近年、柔道人口の減少が叫ばれ、本協会でもその対応に苦慮しております。しかしながら、次代を担う少年少女への柔道の普及なくして、未来はあり得ないとも感じております。

2020 年東京オリンピックのキャンプ地として、藤枝市や浜松市・伊豆の国市が、それぞれ、イタリア、ブラジル、モンゴルのナショナルチームと覚書を交わしております。世界の選手を間近に見ることが可能な貴重な機会です。トップレベルの試合を見ることで、柔道の魅力が子供達に伝わり、柔道人口が増えることを期待しています。

そして同じ年には、全国中学生柔道大会が、本県静岡市で開催されます。チーム静岡の力が試されると言っても過言ではありません。多くの皆様のお力をお借りして、大会を成功裏に導くべく、強化部会を中心にチーム静岡一丸となって鋭意努力してまいります。

創立 70 周年の節目にあたり、これまでのよき伝統を踏襲しつつ、さらなる発展に向け努めてまいりますので、今後とも皆様の一層の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本記念誌に御祝辞や玉稿を賜りました皆様方に、厚く御礼申し上げまして、御挨拶といたします。

静岡県柔道協会70周年を記念して



静岡県柔道協会副会長　髙 田 和 夫

静岡県柔道協会が創立 70 周年を迎えられたことを先ずもって心から静岡県のすべての柔道関係者と共に慶びたいと思います。また、ここまで本協会を導いていただいた諸先輩方に感謝の意を表します。

この 10 年を振り返りますと、東日本大震災を筆頭に多くの地震や集中豪雨、異常気象などにより多くの犠牲者が出ました。

世界情勢では、アラブの春、北朝鮮問題、アルカイダ・ISIL のテロ活動など世界を揺るがす事件や出来事が発生しました。

柔道では、ロンドン五輪、リオ五輪、世界選手権があり、それぞれに日本代表選手が頑張りました。松本　薫選手、大野将平選手、ベイカー茉秋選手、田知本　遥選手などが記憶に残ります。県内では、佐藤和哉選手･谷川美歩選手をはじめ、多くの全国大会で活躍した選手達がいましたが、将来の静岡柔道選手として帰ってきてくれれば良いなと思います。

協会会長もこの 10 年間で高柳喜一会長から安齋悦雄会長に移り、そして現在の野田昭一会長に変わり、歴代会長を中心に会員全員が将来に向けて企画・運営を行ってきました。その間に会長であった高柳喜一先生、東部地区幹事長の中西儀久先生、中部地区幹事長の瀧井康次郎先生、池上耐事先生、赤池進司先生、齊藤　剛先生、吉川博智先生、殿岡崇廉先生、山之内良彦先生、佐野始先生、多久島一貴先生、中林忠史先生などが鬼籍に入られました。この多くの先生方の御意志を私達はしっかりと後生につなげなければならないと思います。

ここ数年、毎日のように殺人や多くの犯罪がマスコミに流れています。特に人の命をあまりにも簡単に絶ってしまう殺人については、本当に怒りを覚え、不安を抱きます。人の痛みをわからないまま育った青少年が多くなった現状は、それを放置してしまった教育の在り方が問題なのではと、教育者の一人として思うところがあります。青少年の健全育成のためにも柔道を愛する我々は、これからの日本を背負う青少年に、柔道というすばらしい伝統文化を通じて、夢を持ち、理想を唱え、明るく、正しい導きをしなくてはなりません。

少子化や柔道少年の中・高校の進路先・部活動など、これからの青少年の柔道は前途多難です。また、それに携わる若き道場指導者や学校の部活動顧問への助言や支援をしていく事が協会や私達年長者の役割だと思っています。

最後に、これからの本協会の進むべき道には、いろいろな課題や問題が降りかかるかもしれませんが、会員全員の英知と努力、団結をもって対処し、本協会の更なる発展のために伝統を守り、努力することをお約束申し上げ発刊のお祝いの言葉といたします。

60年間にわたる柔の道を歩んで



静岡県中部支部柔道協会
幹事長 田 中 秀 幸

静岡県柔道協会は、平成30年（2018）をもって創立70周年を迎えた。11月には創立70周年記念第60回静岡県柔道祭を、また12月には創立記念祝賀会が盛大に挙行された。振り返れば、戦前の静岡県柔道有段者会は発展的に解消され、静岡県柔道協会として昭和23年（1948）に創立され、今日に至っている。初代会長は尾崎光暲で以後大蝶美夫、西田　亀、山口国一、望月映英、高柳喜一、安齊悦雄、そして野田正一現会長と継承されている。

私は横浜市の生まれ育ちで、中学1年生から柔道を習い始めた。そして中学、高校と進み、その後も柔道を続けたいと思い、専門的に学べる大学へ入学した。将来教員としての資質を身につけるべく体育学とともに柔道に汗を流した。卒業後、縁あって静岡大学の教員として採用され、授業に、研究に、学内活動に、そして社会体育にとの4本柱で動き回った。そして定年退職したが、柔の道に進んで良かったと思うこの頃である。勝負に対する心構え、人との交流、健康、仲間、感謝の心など、柔道を通して多くのものを学びそして得た。これも嘉納治五郎師範の提唱した「精力善用・自他共栄」の精神に共鳴したからであろう。この素晴らしい理想を後進に機会あるごとに伝えている。

静岡県柔道協会安齊悦雄氏が、高柳会長の後任として県新会長に着任した平成20年に、それまでの静岡市柔道連盟会長を辞したのを機会に、私が市会長に推薦された。そして平成26年に中部地区川中邦夫幹事長の退任に伴い、私が幹事長の任についた。以来、幹事長（県副会長）として中部支部のまとめ役として各種大会、県・地区の会議、各種の委員長として汗を流している。役に就いて思うのは私一人では何も出来ないということである。何をするのにもスタッフ、周囲の人々の協力・支援が必要で、彼らがいてくれる幸せ、ありがたさを痛感している。昇段試合、月次試合などに出場する中学生、高校生は、人生の基礎を作る青少年期の大切な時期であり、その時期に柔道を通して心身を鍛えることの重要性、必要性を選手本人や保護者らに伝えている。

来たる2020年には静岡市で全国中学生柔道大会が開催される。これを何としても成功させたいという思いから、福岡大会、広島大会と視察を重ね、今年も兵庫大会に行きたいと思う。選手強化、運営スタッフ、財政面など多くの課題は山積しているが、県はもとより静岡市の会長としても静岡大会を是非とも成功させたいと全力で頑張っているこの頃である。

創立 70 周年を迎えて



静岡県柔道協会　副会長
（西部地区幹事長）　間 宮 幸 男

昭和 23 年（1948）に静岡県柔道協会として発足し、平成 30 年をもって、創立 70 周年を迎えることができましたことは、会員各位の皆様から、平素より、柔道協会の活動の上にお心寄せをいただいているからです。深く感謝申し上げます。

心技体を一体として、礼を修め、技を磨き、身体を鍛え、心胆を練る「礼に始まり、礼に終わる」と言われるように、礼節を重んじる武道が、今日、わが国のみならず、広く人々に愛され、親しまれていることは誠に喜ばしいことです。

この 10 年で、中学校体育では武道が必修科目となり、子ども達が固有の伝統と文化を学ぶことは誠に意義深く、可能性に期待が寄せられます。近年、全国的に問題視されている競技人口の減少や重大事故の頻発といったこともありますが、柔道ルネッサンス、柔道マインドを通じて、子ども達、指導者がともに心と力を寄せ合い、仲間づくりや安全に十分注意、配慮しながら静岡県の柔道を盛り上げ、発展させてくれることを願います。

2020 年の東京オリンピック、そして、全国中学校柔道大会の開催を契機として、更なる指導者研修、選手育成強化、審判員養成向上等の研修会を重ね、なお一層の普及、発展を目指して頑張って参ります。

創立 70 周年記念行事を顧みて



静岡県柔道協会　副会長
（理事長）左口直人

静岡県柔道協会創立 70 周年記念事業として、平成 30 年 11 月 25 日に静岡県立武道会にて、静岡県柔道協会創立 70 周年記念第 60 回静岡県柔道祭、12 月 8 日には記念祝賀会を多くの御来賓が参加され盛大に挙行されました。滞りなく終了できたのは、柔道協会員の皆様方のご協力と心より感謝申し上げます。

さて、静岡県柔道協会創立 70 周年の記念誌の発刊にあたり近年の柔道人口の減少に関する指導者としての求める姿を述べさせていただきます。平成の時代も残り少なくなり、明治・大正・昭和の各時代で栄華を誇っていた柔道は、現在では登録人口・競技人口が過去の時代では考えられないほど減少しています。先の第 60 回静岡県柔道祭での野田会長の挨拶の中で「先人たちの努力と工夫により現在の静岡県柔道協会の形成が出来上がったと思います。しかしながら昨今柔道人口の状況をみると著しく減少が見られます。本協会でもその対応に苦慮しております。次代を担う少年少女への柔道の普及なくして未来はあり得ないとも感じております。」と申されました。また、マスコミでの発表で 2020 年の東京オリンピックで期待される種目として各世代のアンケートによりますと柔道は辛うじてベスト 10 に入る状態でした。過去この様なアンケートでは常に上位に位置していたと思います。この人気の無さを指導者の一人として真摯に受け止めこの問題を多くの指導者と共に究明に努め、この状況を乗り切る事が必要ではないかと思います。

現在の柔道はローマ字の「ＪＵＤＯ」の競技スポーツ「ＪＵＤＯ」だと思います。この「ＪＵＤＯ」も試合の出来る喜び、相手を尊ぶ心、公正心など多様な状況下で規律と道徳を重んじ心身を鍛えるスポーツとして世界百数十か国以上に広まっております。試合や日常の鍛錬を通しての人間育成を目指していると思います。しかしながら現状では指導者が、勝ち負けに拘り過ぎ柔道の一本を取る豪快さよりも、巧みな試合運びでの勝ちに拘り柔道本来の魅力を捨てているように見えます。また多くの人々も結果のみに酔いしれているように見られます。確かに勝負の勝ち負けは必要ですが、拘り過ぎは指導者の指導方向を見間違え大きな問題を起こす原因となる様に感じられます。

柔道本来の魅力と加納治五郎師範の求める処の「精力善用自他共栄」の精神を私を含め多くの指導者が忘れているような気がします。多くの指導者が原点に戻り世界中で愛され認められた日本発祥のスポーツとして、また先人の歩んだ道のりと努力を胸に刻みそれを継承できる誇りを持ち修業し多くの少年少女の人間育成に一役を買うことが、指導者として「今求められている道」ではないでしょうか。柔道をこよなく愛している多くの指導者が一丸となり同じ方向を見て進みこの状況を打開し、静岡の柔道の発展にご協力をお願い申し上げます。

1. 10年の歩み

静岡県柔道協会の10年の歩みを、（1）少年柔道、（2）中学校の柔道、（3）高校の柔道、（4）大学・高専の柔道、（5）警察の柔道の各分野の代表者の方々に振り返っていただいた。各分野の流れを見ることができる。

静岡県少年柔道協議会10年の歩み
（2008 ～ 2018）



少年柔道協議会　会長 石 川 裕 章

静岡県少年柔道協議会は平成 29 年 4 月に、前身の静岡県少年柔道連絡協議会より全国少年柔道協議会の発足に準じて、静岡県柔道協会の傘下となり、その運営を移行した。

全国少年柔道協議会は、平成 27 年 7 月、日本柔道の基盤である少年柔道の普及と定着率の向上・振興を主眼として発足し、全国で「少年柔道教室」の開催を通して、競技者のみならず、未就学児・柔道初体験者やその保護者にも広く参加を呼びかけ、柔道の裾野発展に従事している。

静岡県少年柔道連絡協議会は平成 14 年 4 月に第一回少年柔道東海合宿の開催を期に、東部柔道場連盟、中部地区少年柔道連盟、西部柔道場連盟が連携し発足した。翌年より第一回全国小学生学年別柔道大会が開催されるようになり、まさに少年柔道の発展に先駆けた発足となった。当時東海合宿への参加選手は各地区からの推薦選手で参加していたが、後に全国小学生学年別大会県予選の入賞者から選抜されるようになった。以後、少年柔道東海合宿は毎年行われ、平成 30 年で 16 回を数える恒例行事となり、静岡県に於ける少年柔道のレベルアップに繋がっている。

静岡県少年柔道協議会が主幹する主な行事は、平成 15 年に第一回が行われた「全国小学生学年別柔道大会県予選」、平成 30 年度で 38 回を数える「全国少年柔道大会県予選」に加え、静岡県独自の体重区分による「静岡県小学生学年別柔道選手権大会」が平成 23 年より開催されている。また 2020 年に行われる「全国中学生柔道選手権大会」の静岡県開催を見据え、平成 30 年に「静岡県少年柔道強化練習会」の第一回を行い、これを期に今後も継続する予定である。その他平成 28 年、平成 29 年と静岡市北部体育館にて開催された、全国少年柔道協議会が企画する「少年柔道教室」の運営も行っている。

少子化の影響から柔道競技人口も毎年減少の一途を辿る中、静岡県少年柔道協議会の発足により、これまで各地区それぞれ独自の体制により運営されてきた小学生を対象とした催事にも、静岡県柔道協会を中心とした組織化が図られ、より統一された管理のもと、活性化が期待されている。

■静岡県小学生学年別柔道大会 兼 全国小学生学年別柔道大会県予選会（平成20～30年）

第5回 H20・6・15　　※開催県のため各階級2名参加／全国（静岡）大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝			第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	☆森下 北斗	（神士館）	優勝	上村 悠真	（高山柔道塾）	予選リーグ	森下 勇斗	（神士館）	飯川 夢二郎	（田代道場）
		45kg超級	○小笠原 雄也	（藤枝柔道倶楽部）	三位入賞	山村 響	（育誠館）	予選リーグ	和田 樹希也	（富士市柔道会）	曽根 拓磨	（静岡東部柔道クラブ）
	6年生	50kg級	望月 飛翔	（静岡錬心館）	予選リーグ	小林 大貴	（清流館山縣道場）	予選リーグ	堀内 進次	（韮山柔道教室）	野沢 聖	（笠井柔道館）
		50kg超級	岡村 康平	（富士市柔道会）	ベスト8	花井 拓哉	（積武館）	ベスト16	植田 蒼太郎	（浜松養神館）	安食 裕大	（焼津誠道館）
女子	5年生	40kg級	○鈴木 茉莉	（柔清会）	三位入賞	成宮 妃世梨	（静岡東部柔道クラブ）	ベスト16	米倉 若奈	（伊豆市柔道部）	米川 凪咲	（大東柔道クラブ）
		40kg超級	楠 麻衣	（伊豆長岡柔道会）	ベスト8	植松 ほたる	（富士市柔道会）	予選リーグ	鳥沢 規子	（大仁柔道会）	渡辺 佳	（高山柔道塾）
	6年生	45kg級	岩崎 光沙	（神士館）	予選リーグ	渡辺 香奈	（静岡錬心館）	予選リーグ	福本 菜摘	（富士市柔道会）	高山 和	（高山柔道塾）
		45kg超級	遠田 真子	（清水柔道倶楽部）	予選リーグ	佐山礼夢瑠	（大仁柔道会）	予選リーグ	小原 奈々	（大仁柔道会）	山本 ひな	（富士市柔道会）

第6回 H21・6・14　　全国（長野）大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝			第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	寺田 海斗	（柔好会）	ベスト16	溝口 透	（大仁柔道会）		杉本 誠太	（藤枝柔道倶楽部）	萱間 力斗	（伊豆市柔道部）
		45kg超級	川井 康平	（静岡錬心館）	予選リーグ	岩倉 優輝	（大東柔道クラブ）		石川紘大	（大仁柔道会）	斉藤太河	（田代道場）
	6年生	50kg級	森下 北斗	（神士館）	予選リーグ	森下 勇斗	（神士館）		上村 悠真	（高山柔道塾）	法月 綾憂	（焼津誠道館）
		50kg超級	小笠原 雄也	（藤枝柔道倶楽部）	ベスト8	和田 樹希也	（富士市柔道会）		山村 響	（育誠館）	大橋 昴文	（神士館）
女子	5年生	40kg級	菅谷 友紀	（育誠館）	怪我のため棄権	小林 夏希	（清流館）	ベスト8	寺尾 瑠莉	（友愛道場）	渡辺 真央	（大仁柔道会）
		40kg超級	嘉地 唯花	（藤枝柔道倶楽部）	予選リーグ	加藤 樹梨	（神士館）		安竹 真利奈	（柔好会）	堀 夏海	（積武館）
	6年生	45kg級	鈴木 茉莉	（柔清会）	ベスト16	成宮 妃世梨	（静岡東部柔道クラブ）		米川 凪咲	（大東柔道クラブ）	米倉 若菜	（伊豆市柔道部）
		45kg超級	植松 ほたる	（富士市柔道会）	予選リーグ	楠 麻衣	（伊豆長岡柔道会）		増島 佑紀	（韮山柔道教室）	鯉川 京香	（高山柔道塾）

第7回 H22・6・13　　全国（北海道）大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	伊藤 柚汰	（育誠館）	二回戦	古関 夕響	（富士市柔道会）	田倉 淳ノ介	（静岡東部柔道クラブ）	矢萩 奨真	（富士市柔道会）
		45kg超級	渡辺 将一	（静岡錬心館）	ベスト16	長屋 友	（育誠館）	米山 竜生	（富士市柔道会）	大橋 海斗	（神士館）
	6年生	50kg級	杉本 誠太	（藤枝柔道倶楽部）	二回戦	寺田 海斗	（NPO法人武道学舎）	岡本 龍司	（静岡錬心館）	長屋 涼	（育誠館）
		50kg超級	岩倉 優輝	（大東柔道クラブ）	二回戦	川井 康平	（静岡錬心館）	斉藤 大河	（田代道場）	渡邉 良祐	（御殿場市柔道連盟）
女子	5年生	40kg級	鶴巻 実	（神士館）	二回戦	三須 葵	（大仁柔道会）	伊藤会理奈	（三島柔道会）	仲地 萌結	（韮山柔道教室）
		40kg超級	井上 明日香	（神士館）	二回戦	村田 紀華	（正心塾渡辺道場）	磯野 令奈	（袋井S協会柔道部）	寺田 海香	（NPO法人武道学舎）
	6年生	45kg級	菅谷 友紀	（育誠館）	ベスト16	小林 夏希	（清流館）	河野 涼子	（清水町柔道会）	渡辺真央	（大仁柔道会）
		45kg超級	嘉地 唯花	（藤枝柔道倶楽部）	ベスト8	安竹真利奈	（柔好会）	加藤 樹梨	（神士館）	菊池 涼音	（大仁柔道会）

第8回 H23・6・12　　全国（大阪）大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	村松 孝紀	（静岡錬心館）	二回戦	岩倉 優晟	（大東柔道クラブ）	菊池 魁	（大仁柔道会）	松浦 貫介	（友愛道場）
		45kg超級	杉本 康平	（清水町柔道会）	一回戦	依田 紘希	（大仁柔道会）	岡本 陽佑	（積武館）	長倉 有希	（伊豆長岡柔道会）
	6年生	50kg級	小笠原 一貴	（静岡錬心館）	二回戦	伊藤 柚汰	（育誠館）	古関 夕響	（富士市柔道会）	矢萩 奨真	（富士市柔道会）
		50kg超級	渡辺 将一	（静岡錬心館）	三回戦	大橋 海斗	（神士館）	長屋 友	（育誠館）	奥山 拓海	（育誠館）
女子	5年生	40kg級	池谷 弥	（育誠館）	二回戦	田島 小夏	（大仁柔道会）	袴田芽久望	（育誠館）	川崎 真奈	（柔好会）
		40kg超級	澤崎 莉子	（清水町柔道会）	ベスト8	楠 明日香	（伊豆長岡柔道会）	袴田 彩	（高山柔道塾）	宇佐美 茉海	（育誠館）
	6年生	45kg級	鶴巻 実	（神士館）	二回戦	安食 亜美	（焼津誠道館）	加藤 麻梨也	（神士館）	平井 佑佳	（神士館）
		45kg超級	井上明日香	（神士館）	二回戦	菊池 さくら	（大仁柔道会）	杉山 奈那	（清水町柔道会）	増井 涼	（三島柔道会）

第9回 H24・6・10　　全国（鹿児島）大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	柴田 蓮音	（清水柔道倶楽部）	三回戦	平井 慎一郎	（神士館）	神馬 光貴	（袋井S協会柔道部）	塩谷 和史	（函南柔道会）
		45kg超級	伊藤 栄都	（育誠館）	二回戦	福田 力斗	（育誠館道場）	飯田 空翔	（和道場）	菊池 功大	（富士市柔道会）
	6年生	50kg級	村松 孝紀	（静岡錬心館）	一回戦	菊池 魁	（大仁柔道会）	松浦 貫介	（友愛道場）	石川 俊介	（三島柔道会）
		50kg超級	杉本 康平	（清水町柔道会）	一回戦	依田 紘希	（大仁柔道会）	渡邊 麗音人	（積武館）	黒川 平次	（清水町柔道会）
女子	5年生	40kg級	袴田 佳名瑚	（育誠館）	二回戦	長倉 誉	（伊豆長岡柔道会）	吉永 繭	（静岡東部柔道クラブ）	森 映瑠	（積武館）
		40kg超級	山本 杏	（神士館）	三回戦	米川 明穂	（大東柔道クラブ）	渡辺 瑚波	（積武館）	小林 成美	（函南柔道会）
	6年生	45kg級	田島 小夏	（大仁柔道会）	二回戦	小林 美咲	（山縣道場）	池谷 弥	（育誠館）	袴田 芽久望	（育誠館）
		45kg超級	澤崎 莉子	（清水町柔道会）	三回戦	楠 明日香	（伊豆長岡柔道会）	宇佐美茉海	（育誠館）	袴田 彩夏	（高山柔道塾）

第10回 H25・6・9　　全国（広島）大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	岡本 紳吾	（静岡錬心館）	一回戦	菅谷 尚優	（和道場）	加藤 遼馬	（伊豆長岡柔道会）	吉田 篤申	（高山柔道塾）
		45kg超級	小田 春樹	（伊豆長岡柔道会）	二回戦	佐々木 勇太朗	（大仁柔道会）	若田部 桔平	（伊豆長岡柔道会）	矢﨑 洋介	（富士共栄道場）
	6年生	50kg級	平井 慎一郎	（神士館）	一回戦	柴田 蓮音	（清水柔道倶楽部）	青木 颯洵	（清水柔道倶楽部）	田中 大介	（三島柔道会）
		50kg超級	○下橋 颯斗	（富士共栄道場）	三位入賞	伊藤 栄都	（和道場）	福田 力斗	（育誠館道場）	飯田 空翔	（和道場）
女子	5年生	40kg級	橋口 英子	（静岡東部柔道クラブ）	二回戦	大石 紋萌	（静岡東部柔道クラブ）	佐野 実日子	（清水町柔道会）	新村 侑郁	（浜北柔道スポ少）
		40kg超級	髙山 美憂	（焼津誠道館）	一回戦	四條 瑠那	（富士宮柔道会）	鯉川 千穂	（高山柔道塾）	芦沢 佑奈	（焼津誠道館）
	6年生	45kg級	袴田 佳名瑚	（和道場）	ベスト16	吉永 繭	（静岡東部柔道クラブ）	荒木 絵里菜	（清水柔道倶楽部）	長倉 誉	（伊豆長岡柔道会）
		45kg超級	米川 明穂	（大東柔道クラブ）	ベスト16	山本 杏	（神士館）	松野 愛瑠	（浜北柔道スポ少）	渡辺 紫月	（正心塾渡辺道場）

第11回 H26・5・27　　全国(岩手)大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	渡邉 爽偉	(清水町柔道会)	二回戦	辻本 龍基	(田代道場)	池沼 尋	(積武館)	谷口 慶乃介	(神士館)
		45kg超級	山本 師道	(育誠館道場)	二回戦	齋藤 優紀	(神士館)	竹田 大和	(柔好会)	佐々木 里旺	(清水柔道倶楽部)
	6年生	50kg級	服部 航太	(育誠館道場)	二回戦	加藤 遼馬	(伊豆長岡柔道会)	若田部 桔平	(伊豆長岡柔道会)	岡本 紳吾	(静岡錬心館)
		50kg超級	小田 春樹	(伊豆長岡柔道会)	一回戦	細川 兼伸	(和道場)	佐々木 勇太朗	(大仁柔道会)	武井 朔太郎	(田代道場)
女子	5年生	40kg級	杉山 月琉	(清水町柔道会)	二回戦	青島 こころ	(静岡錬心館)	時森 琴梨	(静岡東部柔道クラブ)	片桐明日美	(育誠館道場)
		40kg超級	☆澤崎 凜	(清水町柔道会)	優勝	渡辺麻唯乃	(柔好会)	望月 珠樺	(富士市柔道会)	佐々木愛海	(大仁柔道会)
	6年生	45kg級	橋口 英子	(静岡東部柔道クラブ)	二回戦	佐野 実日子	(清水町柔道会)	須川 あかり	(藤枝柔道倶楽部)	福田 智花	(育誠館道場)
		45kg超級	高山 美憂	(焼津誠道館)	二回戦	四條 瑠那	(富士宮柔道会)	丹沢 莉子	(鷹柔クラブ)	村田 結那	(大井川柔道スポ少)

第12回 H27・5・24　　全国(山梨)大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	小林 勇斗	(柔好会)	ベスト16	半田 裕太	(柔好会)	青木 滉明	(清水柔道倶楽部)	佐藤 俊英	(清水柔道倶楽部)
		45kg超級	渡邊 琉雅	(正心塾渡辺道場)	ベスト8	岡本 剛道	(伊豆長岡柔道会)	木内 銀平	(富士共栄道場)	遠藤 一朗	(正心塾渡辺道場)
	6年生	50kg級	渡邉 爽偉	(清水町柔道会)	二回戦	辻本 龍基	(田代道場)	池沼 尋	(積武館)	服部 真也	(静岡東部柔道クラブ)
		50kg超級	佐々木里旺	(清水柔道倶楽部)	二回戦	荒 誠人	(柔好会)	齋藤 優紀	(神士館)	竹田 大和	(柔好会)
女子	5年生	40kg級	辻本 栞穂	(田代道場)	ベスト16	安竹 克海	(柔好会)	鈴木 里利華	(静岡東部柔道クラブ)	袴田 彩郁	(和道場)
		40kg超級	飯田 星那	(和道場)	二回戦	中山 七海	(東伊豆柔道会)	斉藤 有咲	(湖西おもんが柔道クラブ)	安食 妃那	(焼津誠道館)
	6年生	45kg級	○杉山 月琉	(清水町柔道会)	三位入賞	山中 美里	(大仁柔道会)	長倉 嘉保	(伊豆長岡柔道会)	青島 こころ	(静岡錬心館)
		45kg超級	○澤崎 凜	(清水町柔道会)	三位入賞	渡辺 麻唯乃	(柔好会)	金 杏幸実	(湖西おもんが柔道クラブ)	小川 真美	(友愛道場)

第13回 H28・5・22　　全国(三重)大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	長澤 拓海	(藤枝柔道倶楽部)	ベスト8	宇佐美 颯	(富士共栄道場)	山本 蓮心	(神士館)	内山 久羽吾	(育誠館道場)
		45kg超級	沖山 智	(静岡東部柔道クラブ)	二回戦	飯田 叶輝	(和道場)	杉山 彪馬	(清水町柔道会)	筑根 龍哉	(伊豆長岡柔道会)
	6年生	50kg級	小林 勇斗	(柔好会)	二回戦	半田 裕汰	(柔好会)	青木 滉明	(清水柔道倶楽部)	勝又 颯人	(神士館)
		50kg超級	木内 銀平	(富士共栄道場)	一回戦	岡本 剛道	(伊豆長岡柔道会)	横澤 司	(静岡錬心館)	遠藤 一朗	(正心塾渡辺道場)
女子	5年生	40kg級	○森近 颯	(和道場)	三位入賞	佐々木 麻陽	(清水柔道倶楽部)	井出 百花	(富士共栄道場)	勝亦 千尋	(友愛道場)
		40kg超級	里見 奏来	(清水町柔道会)	二回戦	青島 彩巴	(大井川柔道スポ少)	福井 琴莉	(積武館)	武田 結露	(伊豆市柔道部)
	6年生	45kg級	辻本 栞穂	(田代道場)	二回戦	安竹 克海	(柔好会)	岡本 和花	(掛川柔道倶楽部)	鈴木 里利華	(静岡東部柔道クラブ)
		45kg超級	飯田 星那	(和道場)	二回戦	安食 妃那	(焼津誠道館)	外岡 叶芽	(田代道場)	中山 七海	(東伊豆柔道会)

第14回 H29・5・21　　全国(北海道)大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	岡本 篤弥	(静岡錬心館)	ベスト8	池田 怜謙	(柔好会)	海野 来太	(柔好会)	新村 彪太	(浜北柔道スポ少)
		45kg超級	眞田 諒太	(藤枝柔道倶楽部)	二回戦	岡本 旺季	(伊豆長岡柔道会)	森本 倖啓	(浜北柔道スポ少)	古賀 一颯	(富士市柔道会)
	6年生	50kg級	寺田 葵依	(柔好会)	ベスト16	長澤 拓海	(藤枝柔道倶楽部)	筑根 龍哉	(伊豆長岡柔道会)	内山 久羽吾	(育誠館道場)
		50kg超級	沖山 智	(静岡東部柔道クラブ)	二回戦	飯田 叶輝	(和道場)	横山 虎汰	(藤枝柔道倶楽部)	杉山 彪馬	(清水町柔道会)
女子	5年生	40kg級	金子 穂尚美	(清水町柔道会)	二回戦	樋口 実夢	(藤枝柔道倶楽部)	三木 にこ	(藤枝柔道倶楽部)	菅沼 りみ	(田代道場)
		40kg超級	鈴木 千夏	(浜北柔道スポ少)	二回戦	笠間 芽伊	(井上柔道クラブ)	松田 琴海	(長泉柔道会)	佐野 莉乃愛	(鷹柔クラブ)
	6年生	45kg級	◎森近 颯	(和道場)	準優勝	佐々木 麻陽	(清水柔道倶楽部)	守屋 咲来	(港柔道教室)	殿村 歩実	(藤枝柔道倶楽部)
		45kg超級	里見 奏来	(清水町柔道会)	二回戦	田尻 真緒	(浜北柔道スポ少)	清水 琴莉	(積武館)	渥美 沙咲	(磐南柔道クラブ)

第15回 H30・5・20　　全国(山口)大会入賞者 ☆優勝 ◎準優勝 ○三位

区分			優勝			準優勝		第三位		第三位	
			氏名	所属	全国大会成績	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
男子	5年生	45kg級	杉山 笑資	(育誠館)	ベスト16	筑根 滉太	(伊豆長岡柔道会)	佐野 奨弥	(笠井柔道館)	門倉 寛太	(藤枝柔道倶楽部)
		45kg超級	川合 遼	(藤枝柔道倶楽部)	一回戦	大橋 弘誠	(豊田柔道クラブ)	高橋 琉維	(田代道場)	藤田 郁磨	(鷹柔クラブ)
	6年生	50kg級	長屋 進	(育誠館)	一回戦	渡邉 誉一	(伊豆長岡柔道会)	柴田 龍樹	(大仁柔道会)	岡本 篤弥	(静岡錬心館)
		50kg超級	堀川 泰生	(菊川市柔道スポ少)	二回戦	西村 蓮	(富士宮柔道会)	巻井 優雅	(神士館)	森本 倖啓	(浜北柔道スポ少)
女子	5年生	40kg級	袴田 有里奈	(和道場)	ベスト16	松村 美来	(永友会)	今井 葵彩	(神士館)	渡辺 ミラノ	(富士宮柔道会)
		40kg超級	渡邊 美海	(神士館)	ベスト16	高田 樹	(富士市柔道会)	渡邉 夏希	(永友会)	田嶋 いちか	(中央柔道クラブ)
	6年生	45kg級	吉田 旺布	(育誠館)	一回戦	樋口 実夢	(藤枝柔道倶楽部)	高岡 実理	(富士宮柔道会)	渡部 華奈	(東部柔道クラブ)
		45kg超級	鈴木 千夏	(浜北柔道スポ少)	一回戦	鈴木 結虹	(浜北柔道スポ少)	井口 結愛	(浜北柔道スポ少)	菅沼 りみ	(田代道場)

■ 静岡県少年柔道団体選手権大会 兼 全国少年柔道大会県予選（平成20～30年）

	優勝	（全国大会成績）		準優勝	三位	三位
第28回　（平成20年）	富士市柔道会	ベスト8	5年生の部：和田 樹希也 6年生の部：岡村 康平	神士館	大仁柔道会	韮山柔道教室
第29回　（平成21年）	神士館	二回戦	5年生の部：大橋 海斗（二回戦） 6年生の部：森下 北斗（三回戦）	富士市柔道会	伊豆長岡柔道会	育誠館道場
第30回　（平成22年）	静岡錬心館	二回戦	5年生の部：渡辺 将一 6年生の部：川井 康平	育誠館道場	神士館	大仁柔道会
第31回　（平成23年）	静岡錬心館	二回戦	5年生の部：村松 孝紀（一回戦） 6年生の部：渡辺 将一（三位入賞）	神士館	富士市柔道会	育誠館道場
第32回　（平成24年）	清水町柔道会	一回戦	5年生の部：殿岡 慎平（一回戦） 6年生の部：澤崎 莉子（二回戦）	育誠館道場	大仁柔道会	伊豆長岡柔道会
第33回　（平成25年）	和道場	ベスト16	5年生の部：菅谷 尚優（二回戦） 6年生の部：伊藤 栄都（ベスト16）	伊豆長岡柔道会	大仁柔道会	育誠館道場
第34回　（平成26年）	伊豆長岡柔道会	二回戦	5年生の部：岡本 治祈（二回戦） 6年生の部：小田 春樹（二回戦）	育誠館道場	神士館	柔好会
第35回　（平成27年）	柔好会	リーグ戦2位	－	清水柔道倶楽部	伊豆長岡柔道会	育誠館道場
第36回　（平成28年）	伊豆長岡柔道会	ベスト16	－	富士共栄道場	和道場	柔好会
第37回　（平成29年）	藤枝柔道倶楽部	リーグ戦2位	－	神士館	育誠館道場	清水町柔道会
第38回　（平成30年）	藤枝柔道倶楽部	リーグ戦2位	－	育誠館道場	伊豆長岡柔道会	柔好会

中学校柔道のあゆみ



県中体連柔道専門部長 **星 野 祐 樹**

静岡県柔道協会創立70周年を心よりお慶び申し上げます。70周年という節目に中体連柔道専門委員長として静岡県の柔道に携われることを幸せに感じています。

さて、柔道協会より70周年記念誌の原稿を依頼され、中体連の10年間を振り返る機会をいただきました。平成20年から現在まで、中学柔道を取り巻く環境は大きく変化をしています。特に深刻な変化は、やはり柔道人口の減少だと感じています。柔道に限らず、どの種目も同様に、全国的に大きな課題になっていることです。静岡県内の柔道部がある学校もここ数年で校数が減ってきています。平成20年度には79校あった柔道部も平成30年度では63校に減少しました。更に、部員数は平成20年度には1423名が柔道部員として活動していたのに対し、平成30年度では963名となっています。（県中体連事務局データ）少子化により柔道部が廃部に追い込まれている事実もあります。柔道人口の減少には、もう一つの原因があると思います。単に少子化が原因なのではなく、「柔道＝危険」というようなイメージも原因の一つになっているのではないでしょうか。平成23年度から、中学校では武道が必修化となりました。それに伴い、柔道未経験の指導者が授業を行うことに大きな不安を抱えていたことと思います。当初、柔道が授業として選択されることに対して、多くの批判がメディアを賑やかしました。実際、学校現場や各市町の教育委員会に「安全は確保されているのか」、「けがが起きるのではないか」などといった意見が多く寄せられていたのを覚えています。柔道の授業を安全に行うために、各市町で研修会が毎年開かれるようになりました。全柔連も毎年「全国中学校(教科)柔道指導者研修会」を開催し、指導者が柔道の授業を安全に行うための研修会を行っています。中体連としても県内から保健体育科の教員で柔道経験者1名、未経験者1名を研修会に参加させ、柔道を安全に指導することができる教員を増やしてきました。中学校の授業で、柔道の魅力や安全性が生徒を通して保護者にも理解されることも柔道離れを止める大きな役割を担うと思います。

現在、静岡県柔道協会では柔道人口の裾野を拡大させるために、親子柔道教室を開催するなどして柔道の魅力を各地区に広めています。中体連では、各地区で合同練習会や指導者講習会を定期的に開き、若手指導者や柔道を専門としない顧問との情報交換の場を増やしています。各学校の指導者が、練習方法や指導方法だけではなく、嘉納師範の教えを中学生に伝えることが、柔道を通して人間形成をしていく大事な一歩だと感じています。「柔道＝危険」から「柔道＝楽しい」イメージに変えていくことも中学校の教師としての使命だと考え、柔道の普及に尽力していきます。

この10年間、県中体連として、中学生の競技力向上にも力を入れてきました。平成24年には静岡県柔道協会長杯の団体戦、平成25年には個人戦が静岡県柔道協会の御指導、御協力の下、新たに新設をされました。これまで、秋に中学生の大会がなかったため、県内の中学生や柔道部の

顧問にとって大きなモチベーションになると共に、県中学総体へのシードの選考になる重要な大会となりました。県中学総体では男子団体戦の静岡学園中学校の８連覇、女子団体戦の東海大付属翔洋高校中等部の６連覇など、県内においてもレベルの高い試合が行われてきました。また、東海大会や全国大会においても多くの静岡県選手が活躍しています。平成 28 年には 19 年ぶりに西部地区から浜松市立引佐南部中学校が県を制しました。また、翌年には 32 年ぶりに東部地区から伊豆の国市立長岡中学校が県を制し、静岡県全体の競技力が向上したと言える 10 年間となりました。

2020 年には 33 年ぶりに全国中学校柔道大会が静岡県で開催されます。現在、県トレセンにて、柔道協会と高体連の協力を得ながら中学生の育成をしています。選手たちは、高等学校のより細かい技術や技の掛け方など普段の稽古では体験できない刺激を得ることができます。

中体連柔道競技部一同、2020 年全国中学校柔道大会を成功させ、静岡県の柔道をさらに発展させられるよう尽力していきます。

１０年間の主な出来事

平成２０年度　第 38 回全国中学校柔道大会（島根全中）
　女子４４kg級　優勝　片岡まゆ　富士宮第一中学校
平成２２年度　世界カデの階級に合わせ、県中学総体で男子５０kg級、女子４０kg級を追加
平成２３年度　第３３回東海中学校総合体育大会が静岡県で開催。
平成２４年度　静岡県柔道協会長杯中学校柔道大会新設（１１月）
　第１回大会優勝校　男子：静岡学園中学校
　女子：東海大学付属翔洋高等学校中等部
平成２５年度　静岡県柔道協会長杯中学校体重別柔道大会新設（２月）
平成２７年度　静岡県柔道協会長杯中学校柔道大会が５月に移動する。
平成２８年度　第 47 回全国中学校柔道大会（新潟全中）
　女子７０kg超　優勝　米川明穂　藤枝順心中学校
平成２９年度　第３９回東海中学校総合体育大会が静岡県武道館で開催される
平成３０年度　第４９回全国中学校柔道大会（広島全中）
　女子４０kg級　優勝　百田久奈　藤枝順心中学校
　女子５７kg級　優勝　杉山月琉　東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部

歴代の専門委員長

平成１９年４月～平成２２年３月　戈茂　一幸
平成２２年４月～平成２９年３月　山口　麻和
平成２９年４月～　現在　星野　祐樹

過去の大会結果

静岡県大会：男子個人戦

	階級	1位	2位	3位	3位
平成20年度	55kg級	佐藤光将（静岡学園）	フジタケンジ（笠井）	鈴木優希（常葉橘）	友澤正（東海大翔洋）
	60kg級	大塚智也（開成）	秋本健吾（常葉橘）	望月隆光（芝川）	福本真佐也（静岡学園）
	66kg級	立川功大（東海大翔洋）	伊奈慶貴（長岡）	辻薫平（静岡学園）	本多優介（湖東）
	73kg級	大島遼平（静岡学園）	田中健登（東海大翔洋）	田村雅樹（高台）	白井聖人（湖東）
	81kg級	山本雄也（笠井）	山口裕太（御殿場）	福嶋佑馬（服織）	柳田瑞輝（常葉橘）
	90kg級	渡辺浩貴（福田）	木村崇志（岳陽）	佐野将大（静岡学園）	庄司大晟（静岡学園）
	90kg超級	小澤秀彰（静岡学園）	小澤春貴（桜が丘）	平部一樹（御殿場）	柏木淳（東海大翔洋）
平成21年度	55kg級	鈴木優希（常葉橘）	フジタケンジ（笠井）	佐野良樹（高台）	友澤正（東海大翔洋）
	60kg級	佐藤光将（静岡学園）	遊屋貴斗（愛鷹）	川村倫平（金岡）	矢萩大貴（東海大翔洋）
	66kg級	西村直之（富士南）	原田大樹（韮山）	増田大地（大富）	熊澤匡範（東海大翔洋）
	73kg級	田村雅樹（高台）	辻薫平（静岡学園）	新美公秀（掛川東）	山形圭祐（市沼高中）
	81kg級	遠田扶己也（東海大翔洋）	浅賀慎太郎（静岡学園）	鈴木涼太（愛鷹）	白井聖人（湖東）
	90kg級	佐野将大（静岡学園）	佐藤和哉（静岡学園）	望月陽介（藤枝明誠）	鈴木稔也（東海大翔洋）
	90kg超級	大田和也（静岡学園）	河合将史（浜松南部）	清水圭三郎（藤枝明誠）	原康雅（沼津第三）
平成22年度	50kg級	法月綾憂（静岡学園）	溝口航（大仁）	杉山慎吾（常葉橘）	杉本寛太（藤枝明誠）
	55kg級	小林駿平（静岡学園）	小原光雄（新居）	佐野良樹（高台）	望月飛翔（静岡学園）
	60kg級	梅澤真仁（東海大翔洋）	松本竣（細江）	佐原康平（白須賀）	鎌田達也（函南）
	66kg級	高田拓海（静岡学園）	齋藤光星（金岡）	岩澤勇佑（長岡）	ユサ・ルーカス（佐鳴台）
	73kg級	星野圭祐（静岡学園）	矢萩大貴（東海大翔洋）	小原諒平（新居）	川崎翔（函南）
	81kg級	植田蒼太朗（高台）	鈴木和也（高台）	西山誠悟（金谷）	小澤康祐（長田南）
	90kg級	佐藤和哉（静岡学園）	望月陽介（藤枝明誠）	内海翔（藤枝明誠）	手老優輝（函南）
	90kg超級	清水圭三郎（藤枝明誠）	畑山幸彬（東海大翔洋）	岡村康平（東海大翔洋）	片山瑛介（高台）
平成23年度	50kg級	上村悠真（高台）	芹沢翔哉（函南）	加藤唯人（服織）	小池康太（鷲津）
	55kg級	小林大貴（金岡）	法月綾憂（静岡学園）	野沢聖（笠井）	野岡健裕（北浜東部）
	60kg級	望月飛翔（静岡学園）	加藤雄也（市沼高中）	塚本瑠羽（市沼高中）	嵩井陵太（函南）
	66kg級	辻大成（静岡学園）	フジタヨシオ（笠井）	堀内進次（韮山）	飯川夢次郎（金岡）
	73kg級	佐野安大（静岡学園）	藤田尊行（静岡学園）	井内智也（浜名）	伊藤瑛志（笠井）
	81kg級	植田蒼太朗（高台）	山下洸平（笠井）	渡辺裕記（磐田第一）	レキ・ガブリエル（鷲津）
	90kg級	花井拓哉（中郡）	小笠原雄也（藤枝明誠）	森山駿（常葉橘）	熊澤廣隆（東海大翔洋）
	90kg超級	岡村康平（東海大翔洋）	椿原涼（岡部）	鈴木幹太（高台）	星野正春（磐田南部）
平成24年度	50kg級	片桐大夢（笠井）	知久尚斗（清南高中）	鈴木拓海（高台）	川部拳士郎（常葉橘）
	55kg級	芹沢翔哉（函南）	上村悠真（高台）	小笠原一貴（藤枝明誠）	増田光亮（籠上）
	60kg級	嵩井陵太（函南）	法月綾憂（静岡学園）	岡本龍司（静岡学園）	石井流河（函南）
	66kg級	塚本瑠羽（市沼高中）	上林裕卓（東海大翔洋）	三浦由暉（掛川西）	緒方尚弥（篠原）
	73kg級	飯川夢二郎（金岡）	沖山直希（常葉橘）	鈴木悠平（岳洋）	藤田洋平（周南）
	81kg級	石神倫哉（静岡学園）	辻幸之介（市沼高中）	池田光洋（東益津）	池田澪（笠井）
	90kg級	大橋昂文（錦田）	福井洋貴（細江）	市川航太（静岡東）	堀内風吾（袋井）
	90kg超級	小笠原雄也（藤枝明誠）	月岡早瀬（静岡学園）	山村響（細江）	鈴木幹汰（高台）
平成25年度	50kg級	片桐大夢（笠井）	鈴木大達（浜西高中）	松永翔太（長岡）	鈴木絢大（金岡）
	55kg級	長屋涼（函南）	大野幹太（原）	星野匠海（観山）	川瀬翔（東海大翔洋）
	60kg級	岡本龍司（静岡学園）	山下海斗（新居）	原颯一（韮山）	大石涼平（常葉橘）
	66kg級	杉本誠太（藤枝明誠）	秋山竜也（市沼高中）	内田哲平（長泉）	小笠原一貴（藤枝明誠）
	73kg級	原恵太（函南）	石川紘大（函南）	伊藤暖（静岡学園）	佐藤威基（東海大翔洋）
	81kg級	大橋海斗（錦田）	渡邉良祐（静岡学園）	齋藤太河（東海大翔洋）	渡邊稜都（東海大翔洋）
	90kg級	池田光洋（東益津）	長屋友（神久呂）	長谷川和也（龍玉）	堀内風吾（袋井）

	90kg 超級	川井康平（静岡学園）	森田　博（藤枝明誠）	石川純也（上野）	イシカワケンジロ（鷲津）
平成 26 年度	50kg 級	鈴木大達（浜西高中）	橋口　雄（静岡学園）	船津匡史（東海大翔洋）	松浦貫介（愛鷹）
	55kg級	矢萩翔真（東海大翔洋）	伊藤柚太（高台）	渥美　舜（裾野東）	内藤洋介（湖東）
	60kg級	古関夕響（吉原第一）	大野幹太（原）	坂本航輝（静岡学園）	井出海輝（大渕）
	66kg 級	北田晃大（東海大翔洋）	奥山拓海（入野）	山田幹太（細江）	水野円中（高台）
	73kg 級	小笠原一貴（藤枝明誠）	吉田　航（韮山）	根岸迅仁（御殿場）	小股拓真（富士南）
	81kg 級	重田幸大（裾野東）	渡辺稜都（東海大翔洋）	熊谷健太（岩松）	望月瑛斗（藤枝明誠）
	90kg 級	大橋海斗（錦田）	米山竜生（東海大翔洋）	武田駿之介（静岡東）	山本壮汰（吉原第二）
	90kg 超級	長屋　友（神久呂）	磯部昂佑（東海大翔洋）	下橋颯斗（鷹岡）	池田　諒（龍玉）
平成 27 年度	50kg 級	石川俊介（函南）	山田空河（中郡）	出野優汰（大浜）	初野壱昴（静岡翔洋）
	55kg級	石川聖人（静岡学園）	塩谷航輝（大仁）	伊藤龍太（笠井）	仲原拓人（鷲津）
	60kg級	井出海輝（大淵）	菊池　魁（日大三島）	渡邉哲平（長岡）	岡本陽祐（笠井）
	66kg 級	村松孝紀（静岡翔洋）	伊藤栄都（高台）	樋口　健（富士岡）	坂本航輝（静岡学園）
	73kg 級	水野円中（高台）	角田英知（静岡翔洋）	齋藤光葉（金岡）	笹津備永（暁秀）
	81kg 級	飯田空翔（高台）	依田紘希（日大三島）	杉山諒馬（町立清水）	中山裕介（富塚）
	90kg 級	熊谷健太（岩松）	黒川平次（町立清水）	疋田涼也（浜松日体）	酒井颯介（積志）
	90kg 超級	下橋颯斗（鷹岡）	磯部昂佑（静岡翔洋）	成田陸斗（静岡翔洋）	福田力斗（引佐南部）
平成 28 年度	50kg 級	加藤遼馬（長岡）	大賀弘渡（市沼高中）	野村創大（三島南）	山本遥斗（函南）
	55kg級	桶渡修大（引佐南部）	水野晶斗（高台）	殿岡慎平（町立清水）	成田魁星（富士南）
	60kg級	鈴鹿功織（高台）	平井慎一郎（山田）	岡村羽奏（静岡翔洋）	岡本紳吾（静岡学園）
	66kg 級	伊藤栄都（高台）	田村駿人（錦田）	吉田篤申（聖隷）	宇津山英弥（湖東）
	73kg 級	山本斗夢（静岡翔洋）	柴田蓮音（静岡翔洋）	小山拓夢（龍玉）	中谷　隼（大村）
	81kg 級	飯田空翔（引佐南部）	後藤悠成（篠原）	北澤健伍（観山）	須川豊生（青島）
	90kg 級	大和碧瑠（観山）	菅沼良成（沼津第三）	山﨑雄麻（観山）	安間俊太（引佐南部）
	90kg 超級	下橋颯斗（鷹岡）	福田力斗（引佐南部）	姫野亘亮（笠井）	大矢優男（鷲津）
平成 29 年度	50kg 級	源平琉真（静岡翔洋）	鈴鹿睦月（高台）	大賀弘渡（市沼高中）	小山仁志（清水第二）
	55kg級	加藤遼馬（長岡）	菅谷尚優（高台）	池沼　尋（積志）	山本遥斗（函南）
	60kg級	成田魁星（富士南）	福澤翔太郎（日大三島）	岡村羽奏（静岡翔洋）	服部航太（湖東）
	66kg 級	吉田篤申（聖隷）	鈴鹿功織（高台）	岡本紳吾（静岡学園）	長澤篤希（静岡学園）
	73kg 級	宇津山英弥（湖東）	宇佐美一誠（富士）	福田翔大（静岡学園）	酒井聖矢（大富士）
	81kg 級	岡村羽詞（静岡翔洋）	渡邉爽偉（静岡翔洋）	若田部桔平（長岡）	伊藤祥真（引佐南部）
	90kg 級	矢﨑洋介（岳陽）	植松大郎（大富士）	荒　誠人（静岡学園）	林　恭平（高台）
	90kg 超級	小田春樹（長岡）	増田孝貴（北浜）	蒔田稀翔（引佐南部）	甲田真吾（城南静岡）
平成 30 年度	50kg 級	小林勇斗（静岡翔洋）	渡邉銀士（長岡）	内藤蒼太（湖東）	秦　魁都（市沼高中）
	55kg級	鈴鹿睦月（高台）	片桐叶夢（笠井）	石川吟ノ助（裾野東）	谷口慶乃介（長泉北）
	60kg級	原　章博（市沼高中）	岡本治祈（長岡）	柴田嶺音（清水第八）	新井陸斗（田子浦）
	66kg 級	辻本龍基（静岡学園）	秋山龍杜（伊東南）	宇佐美知優（高台）	杉山颯茉（細江）
	73kg 級	長澤篤希（静岡学園）	村上大心（北上）	服部昴輝（笠井）	繁田寛太（静岡翔洋）
	81kg 級	木田敦也（静岡学園）	井口豪琉（北浜）	服部真也（観山）	金子　翼（細江）
	90kg 級	山本師道（可美）	野村晟也（長泉）	鈴木大空（静岡学園）	木内銀平（静岡翔洋）
	90kg 超級	荒　誠人（静岡学園）	井内春希（北浜）	中山新治（北浜）	佐々木里旺（静岡翔洋）

静岡県大会：女子個人戦

	階級	1位	2位	3位	3位
平成20年度	44kg級	岡本理帆（藤枝順心）	成宮未結（常葉橘）	馬場あゆ美（東海大翔洋）	照井嬉子（福田）
	48kg級	片岡まゆ（富士宮第一）	花村礼乃（長岡）	鈴木結加利（福田）	神山悠香（韮山）
	52kg級	秋山侑里佳（藤枝順心）	松田海佑（富士宮第一）	海野伶央（常葉橘）	伊奈郁乃（長岡）
	57kg級	渡辺明里（富士宮第一）	菊池優貴乃（静岡学園）	吉永眞子（常葉橘）	古川稜子（東海大翔洋）
	63kg級	村山のどか（市沼高中）	堀川郁美（新居）	大橋知紗（磐田南部）	小野千裕（愛鷹）
	70kg級	渡辺貴子（富士宮第一）	中村恵子（金岡）	山下亜矢（東海大翔洋）	平田英里佳（北浜東部）
	70kg超級	岩崎光希（東海大翔洋）	中村優（北上）	伊藤愛（東海大翔洋）	滝川真央（富士宮第一）
平成21年度	44kg級	岡本理帆（藤枝順心）	繁田青夏（藤枝順心）	長屋春菜（神久呂）	井口可菜美（高台）
	48kg級	馬場あゆ美（東海大翔洋）	伊奈郁乃（長岡）	鈴木楓（藤枝順心）	渡辺香奈（藤枝順心）
	52kg級	花村礼乃（長岡）	小木曽舞（焼津）	金田明日香（篠原）	田中茉衣（高台）
	57kg級	渡辺明里（富士宮第一）	古川稜子（東海大翔洋）	川部恵佳（常葉橘）	杉山茉優（市沼高中）
	63kg級	菊池優貴乃（静岡学園）	神田日和（常葉橘）	山田葵（市沼高中）	遠田真子（東海大翔洋）
	70kg級	村山のどか（市沼高中）	吉長桃子（中郷）	佐々木唯（庄内）	渡辺結（高台）
	70kg超級	滝川真央（原）	鳥沢由美（長井崎）	松本ほな美（吉田）	伊藤愛（東海大翔洋）
平成22年度	40kg級	金田采芽（新居）	戸澤友希（高洲）	加藤凪彩（服織）	小原綾華（新居）
	44kg級	繁田青夏（藤枝順心）	岩崎光沙（藤枝順心）	片岡里帆（新居）	井口可菜美（高台）
	48kg級	鈴木楓（藤枝順心）	石川亜子（常葉橘）	山口奈菜美（御殿場）	成宮妃世梨（藤枝順心）
	52kg級	田中茉衣（高台）	渡辺香奈（藤枝順心）	川原礼花（東海大翔洋）	伊奈郁乃（長岡）
	57kg級	渡辺明里（大仁）	山本ひな（東海大翔洋）	前山理菜（服織）	大石朋佳（新居）
	63kg級	佐藤幸世（市沼高中）	佐藤和世（東海大翔洋）	渡辺千晶（吉原第一）	村山かなみ（錦田）
	70kg級	遠田真子（東海大翔洋）	吉長桃子（中郷）	仁科鈴菜（裾野東）	佐藤知穂（湖西）
	70kg超級	滝川真央（原）	藁科悠里奈（富士南）	松本ほな美（吉田）	楠麻衣（長岡）
平成23年度	40kg級	小原綾華（新居）	戸澤友希（高洲）	戸澤智帆（高洲）	渡辺りほ（裾野西）
	44kg級	鈴木茉莉（藤枝順心）	岩崎光沙（藤枝順心）	小林夏希（暁秀）	山本風月（細江）
	48kg級	成宮妃世梨（藤枝順心）	野﨑舞夏星（浜西高中）	福本菜摘（市沼高中）	加藤凪彩（服織）
	52kg級	川原礼花（東海大翔洋）	渡辺香奈（藤枝順心）	山口明子（錦田）	堀侑那（積志）
	57kg級	山本ひな（東海大翔洋）	土屋杏花（金岡）	土屋葵（鷲津）	小野美緒（御前崎）
	63kg級	安竹真利奈（東海大翔洋）	烏山葉月（長田西）	木下由美（新居）	米山綾乃（岳洋）
	70kg級	遠田真子（東海大翔洋）	佐山礼夢瑠（大仁）	瀬川侑希（市沼高中）	鯉川京香（磐田南部）
	70kg超級	楠麻衣（長岡）	小原奈々（大仁）	志村希和（服織）	植松ほたる（東海大翔洋）
平成24年度	40kg級	松浦都衣（愛鷹）	安食亜美（藤枝順心）	北村歩里（深良）	川瀬莉々愛（小嵐）
	44kg級	鈴木茉莉（藤枝順心）	小林夏希（暁秀）	竹内智紗子（龕玉）	法月美優（藤枝順心）
	48kg級	成宮妃世梨（藤枝順心）	渡辺真央（大仁）	早川実里（岡崎）	竹内智衣子（龕玉）
	52kg級	加藤樹梨（錦田）	堀夏海（積志）	高倉ありさ（細江）	杉山奈那（東海大翔洋）
	57kg級	瀬川侑希（市沼高中）	菊池涼音（長岡）	米山綾乃（岳陽）	神谷真彩（新居）
	63kg級	安竹真利奈（東海大翔洋）	増島佑紀（市沼高中）	藤田ひかる（鷲津）	菊池さくら（市沼高中）
	70kg級	楠麻衣（長岡）	外山紗奈（東海大翔洋）	鯉川京香（磐田南部）	鳥沢規子（長井崎）
	70kg超級	大澤宜歩（御前崎）	植松ほたる（東海大翔洋）	志村希和（服織）	萩原彩（大里）
平成25年度	40kg級	松浦都衣（愛鷹）	安食亜美（藤枝順心）	竹田麻里亜（焼津豊田）	小林美咲（市沼高中）
	44kg級	小林夏希（暁秀）	田島小夏（大仁）	池谷弥（湖東）	法月美優（藤枝順心）
	48kg級	竹内智紗子（龕玉）	河野涼子（町立清水）	川口彩恵子（市沼高中）	渡辺真央（大仁）
	52kg級	加藤樹梨（錦田）	竹内智衣子（龕玉）	堀夏海（積志）	三須葵（市沼高中）
	57kg級	菊池涼音（長岡）	山下亜的（小川）	岩井柚里香（東海大翔洋）	野中菜央（龕玉）
	63kg級	安竹真利奈（東海大翔洋）	菊池さくら（市沼高中）	山市美穂（藤枝順心）	松野愛以（西遠女子）
	70kg級	澤崎莉子（東海大翔洋）	外山紗奈（東海大翔洋）	小股舞子（富士南）	大城ﾌｧﾋﾞｱﾅ（鷲津）
	70kg超級	植田桃花（高台）	楠明日香（長岡）	萩原彩（大里）	大野ｱｲﾘｰﾝ（藤枝順心）

平成26年度	40kg級	鈴木　葵（藤枝順心）	久保田明日加（清水第二）	永田真菜（今沢）	相原瑠那（大仁）
	44kg級	安食亜美（藤枝順心）	小林美咲（市沼高中）	吉永　繭（観山）	近藤　舞（城南静岡）
	48kg級	三須　葵（市沼高中）	法月美優（藤枝順心）	市川美桜子（金岡）	田島小夏（大仁）
	52kg級	杉山奈那（東海大翔洋）	鶴巻　実（藤枝順心）	松橋　美羽（浜松東部）	服部芳美（観山）
	57kg級	増井　涼（三島北）	飯塚歩咲（常葉学園）	前田珠貴（藤枝順心）	伊藤会理奈（中郷西）
	63kg級	菊池さくら（市沼高中）	岩井柚里香（東海大翔洋）	百井優佳（東海大翔洋）	井上明日香（浜北北部）
	70kg級	澤崎莉子（東海大翔洋）	山本　杏（市沼高中）	森下　明（北浜）	平野みのり（北浜）
	70kg超級	楠　明日香（長岡）	米川明穂（藤枝順心）	渡邉愛海（三島南）	渡邉七海（三島南）
平成27年度	40kg級	大石紋萌（観山）	望月友梨香（片浜）	相原瑠那（大仁）	久保田明日加（清水第二）
	44kg級	小林美咲（市沼高中）	酒井結花（北浜）	近藤　舞（城南静岡）	鈴木　葵（藤枝順心）
	48kg級	松野愛瑠（浜北北部）	池谷　弥（湖東）	山本美羽（新居）	吉永　繭（観山）
	52kg級	袴田桂名瑚（浜北北部）	百田久佳（藤枝順心）	石川桃子（市沼高中）	福田智花（引佐南部）
	57kg級	袴田芽久望（浜北北部）	前田珠貴（藤枝順心）	本間由奈（観山）	川口彩恵子（市沼高中）
	63kg級	岩井柚里香（静岡翔洋）	百井優桂（静岡翔洋）	杉浦亜希（篠原）	渡辺瑚波（積志）
	70kg級	山本　杏（市沼高中）	澤崎莉子（静岡翔洋）	四篠琉那（静岡翔洋）	長島水城（吉原第二）
	70kg超級	米川明穂（藤枝順心）	楠　明日香（長岡）	植松こはる（井之頭）	宇佐美茉海（浜北北部）
平成28年度	40kg級	大橋　碧（青島）	野末実鈴（引佐南部）	太田瑞月（観山）	太田葉月（観山）
	44kg級	長倉　誉（長岡）	新村侑郁（浜北北部）	酒井結花（北浜）	大石紋萌（観山）
	48kg級	松野愛瑠（浜北北部）	川口　優（静岡翔洋）	大野和花（原）	荒川菜々香（長岡）
	52kg級	袴田佳名瑚（浜北北部）	福田智花（引佐南部）	野澤つぐみ（積志）	石川桃子（市沼高中）
	57kg級	百田久佳（藤枝順心）	杉山月琉（静岡翔洋）	森　映璃（積志）	池沼　月（積志）
	63kg級	鈴木夢乃（浜北北部）	渡辺瑚波（積志）	渡辺麻唯乃（静岡翔洋）	橋口英子（静岡学園）
	70kg級	高山美優（藤枝順心）	山本　杏（市沼高中）	四条瑠那（静岡翔洋）	森下　明（北浜）
	70kg超級	米川明穂（藤枝順心）	大野イボーン（藤枝順心）	杉田菜奈（静岡翔洋）	渡邊愛海（三島南）
平成29年度	40kg級	百田久奈（藤枝順心）	太田葉月（観山）	太田瑞月（観山）	露遥菜（浮島）
	44kg級	新村侑郁（浜北北部）	大橋　碧（青島）	野末実鈴（引佐南部）	片桐明日美（引佐南部）
	48kg級	酒井結花（北浜）	佐藤由舞（静岡翔洋）	菅沼りさ（市沼高中）	小林さくら（引佐南部）
	52kg級	福田智花（引佐南部）	村松杏樺（篭玉）	安食妃那（藤枝順心）	長倉嘉保（長岡）
	57kg級	杉山月琉（静岡翔洋）	大石紋萌（観山）	関　愛未（青島）	芦沢佑奈（焼津）
	63kg級	橋口英子（静岡学園）	渡辺麻唯乃（静岡翔洋）	望月珠樺（市沼高中）	金杏幸実（新居）
	70kg級	高山美憂（藤枝順心）	四條瑠那（静岡翔洋）	通場瑞稀（清水第八）	外岡叶芽（市沼高中）
	70kg超級	飯田星那（高台）	ｵﾄｳﾎﾞひなた（鷲津）	丹沢莉子（岳陽）	杉田菜奈（静岡翔洋）
平成30年度	40kg級	百田久奈（藤枝順心）	金子舞果（町立清水南）	酒井茉優（長田西）	吉田季布（聖隷）
	44kg級	山中美里（藤枝順心）	原田詩依菜（藤枝順心）	太田瑞月（観山）	太田葉月（観山）
	48kg級	山本唯未（湖西）	青島こころ（大富）	原川珠緒（藤枝順心）	時森琴梨（静岡東）
	52kg級	望月佑彩（市沼高中）	片桐明日美（引佐南部）	長倉嘉保（長岡）	安食妃那（藤枝順心）
	57kg級	杉山月琉（静岡翔洋）	安竹克海（静岡翔洋）	上原愛菜（大仁）	辻本琹穂（市沼高中）
	63kg級	望月珠樺（市沼高中）	安竹杏純（焼津豊田）	近藤小晴（藤枝順心）	小川真美（原）
	70kg級	渡辺麻唯乃（静岡翔洋）	通場瑞稀（清水第八）	原田しいな（湖西）	金杏幸実（新居）
	70kg超級	杉田菜奈（静岡翔洋）	飯田星那（高台）	岩﨑美空（函南）	ﾀﾞｼﾙﾊﾞ･ｶﾛﾘｰﾅ（磐田南部）

静岡県大会結果：男子団体戦

	1位	2位	3位	3位
平成２０年	静岡学園	常葉橘	金岡	東海大翔洋
平成２１年	静岡学園	東海大翔洋	金岡	高台
平成２２年	静岡学園	藤枝明誠	高台	東海大翔洋
平成２３年	静岡学園	笠井	高台	金岡
平成２４年	静岡学園	東海大翔洋	藤枝明誠	細江
平成２５年	静岡学園	東海大翔洋	麁玉	藤枝明誠
平成２６年	東海大翔洋	麁玉	高台	函南
平成２７年	静岡翔洋	高台	引佐南部	長岡
平成２８年	引佐南部	観山	静岡翔洋	静岡学園
平成２９年	長岡	静岡学園	静岡翔洋	高台
平成３０年	静岡学園	静岡翔洋	長岡	北浜

静岡県大会結果：女子団体戦

	1位	2位	3位	3位
平成２０年	富士宮第一	静岡学園	東海大翔洋	新居
平成２１年	市立沼津高中	富士宮第一	東海大翔洋	長岡
平成２２年	東海大翔洋	藤枝順心	高台	大仁
平成２３年	東海大翔洋	藤枝順心	新居	大仁
平成２４年	東海大翔洋	藤枝順心	長岡	市立沼津高中
平成２５年	東海大翔洋	市立沼津高中	鷲津	麁玉
平成２６年	東海大翔洋	市立沼津高中	藤枝順心	浜北北部
平成２７年	静岡翔洋	浜北北部	長岡	市立沼津高中
平成２８年	藤枝順心	浜北北部	市立沼津高中	静岡翔洋
平成２９年	静岡翔洋	藤枝順心	市立沼津高中	引佐南部
平成３０年	静岡翔洋	市立沼津高中	引佐南部	藤枝順心

高等学校体育連盟柔道専門部 10年間の歩み



県柔道専門部委員長 西 川 孝 治

平成20年から29年の10年間における全国高等学校総合体育大会柔道競技及び全国高校柔道選手権大会（静岡県高校新人柔道大会）の歩み

（1）全国高等学校総合体育大会柔道競技

団体戦優勝校をその歴史と共に振り返ってみたいと思います。

男子団体は、優勝回数の多い順から静岡学園6回、東海大翔洋の3回、そして創部15年目で初優勝を飾った加藤学園です。中でも静岡学園は、平成21年度～25年度の5連覇という圧倒的な実力を見せました。

女子団体は、平成21年度に念願の初優勝を飾った藤枝順心4回、東海大翔洋3回、市立沼津、静岡学園、富士市立（静岡学園、富士市立は共に初優勝）の1回となります。

また、東海高等学校総合体育大会における女子団体では、平成20年度、23年度は東海大翔洋、藤枝順心がそれぞれ優勝を果たしました。

一方、個人戦では、全国に優秀な選手を数多く輩出しております。全国大会3位以内の入賞者を挙げてみると、男子では、平成23年度の100kg超級 渡辺祥真（市立沼津）第3位、平成22年度の66kg級 吉澤　駿（静岡学園）3位、平成26年度の81kg級 山田知輝（東海大翔洋）3位。

女子では、平成20年度の52kg級 加賀谷千保（藤枝順心）優勝、平成22年度の57kg級 井口采美（浜松商）3位、平成24年度の48kg級 岡本理帆（藤枝順心）優勝、70kg級 村山のどか（市立沼津）2位、78kg超級 滝川真央（富士市立）2位、平成25年度も 滝川真央（富士市立）が2年連続で2位となりました。そして平成26年度の57kg級は谷川美歩（藤枝順心）優勝、平成27年度の78kg級 伊藤七海（藤枝順心）3位の結果となりました。

以上のようにこの10年間、素晴らしい実績をあげており全国トップのレベルの選手が育っております。

（2）全国高校柔道選手権大会（静岡県高校新人柔道大会）

団体戦優勝校を振り返ってみますと、男子団体は、優勝回数の多い順から静岡学園6回、東海大翔洋2回、浜松商1回、そして総体同様、創部15年目で初優勝を飾りました加藤学

園です。中でも静岡学園は、平成 22 年度～ 24 年度の 4 連覇という実力を見せました。

女子団体は、平成 20 年度、念願の初優勝をとげた藤枝順心の 8 回、東海大翔洋、市立沼津の各 1 回となります。特筆すべき点として、藤枝順心が平成 20 年度～ 22 年度の 3 連覇、平成 24 年度～ 28 年度までの 5 連覇と、この 10 年間、圧倒的な強さを見せています。

一方、個人戦では、高校総体同様、全国で優秀な実績をあげることができました。

男子では、平成 23 年度の無差別級 佐藤和哉（静岡学園）第 3 位、平成 24 年度は優勝を遂げました。平成 25 年度の 81kg 級 佐野安大（静岡学園） 3 位、平成 28 年度は、無差別級 高木一石（湖西） 3 位となりました。

女子では、平成 23 年度の 52kg 級 岡本理帆（藤枝順心）優勝、70kg 級 村山のどか（市立沼津）優勝、無差別級 滝川真央（富士市立） 3 位、滝川は、平成 24 年度も 2 年連続で 3 位となりました。

平成 26 年度の 57kg 級 谷川美歩（藤枝順心）優勝、平成 28 年度の 63kg 級 杵渕 萌（東海大翔洋） 3 位、平成 29 年度では、57kg 級 袴田佳名瑚（藤枝順心） 3 位、無差別級 米川明穂（藤枝順心） 2 位となりました。

以上のようにこの 10 年は、男女ともに全国で素晴らしい実績をあげてその実力を発揮することができました。

歴代の役員

専門部長

平成１９年４月～平成２１年３月　笹原　正和（富士宮北）
平成２１年４月～平成２６年３月　塩谷　廣男（富士東　伊東）
平成２６年４月～平成３０年３月　村山　和彦（伊東商）

委員長

平成１５年４月～平成２１年３月　梶原　和洋（御殿場）
平成２１年４月～平成２６年３月　間宮　幸男（興誠　浜松学院）
平成２６年４月～平成２９年３月　平井　幸逸（市立沼津）
平成２９年４月～　　西川　孝治（静岡東）

平成 20 年度からの 10 年間は、梶原先生（ 1 年間）21 年度から間宮先生（ 5 年間）26 年度から平井先生（ 3 年間）が県委員長として県内、東海地区の高校柔道の発展に大きく貢献され、高体連柔道専門部を牽引されました。

平成 29 年度より委員長を拝命しましたが、今後共、諸先輩方の築いてきた素晴らしい流れを引き継ぎ、県柔道協会はじめ多くの先生方の御指導のもと、安全、安心で楽しく柔道が行えるような練習環境を整え裾野を広げるとともに、柔道の普及・発展に努めて行きたいと思っています。

10年間の記録

全国高等学校総合体育大会柔道競技

（男子団体）　県予選

	1位	2位	3位	3位	東海総体 1位	東海総体 2位	全国総体（団体・個人） 3位以内
平成20年度	東海大翔洋	静岡学園	飛龍	浜松商			
平成21年度	静岡学園	浜松商	新居	市立沼津		静岡学園	100kg超級 渡辺祥真（市立沼津）3位
平成22年度	静岡学園	浜松商	東海大翔洋	市立沼津			66kg級　吉澤　駿（静岡学園）　3位
平成23年度	静岡学園	浜松商	東海大翔洋	市立沼津			
平成24年度	静岡学園	浜松商	加藤学園	常葉学園橘			
平成25年度	静岡学園	浜松商	加藤学園	飛龍			
平成26年度	東海大翔洋	浜松商	飛龍	静岡学園		東海大翔洋	81kg級　山田知輝（東海大翔洋）3位
平成27年度	東海大翔洋	加藤学園	静岡学園	浜松商			
平成28年度	静岡学園	加藤学園	日大三島	浜松商			
平成29年度	加藤学園	日大三島	浜松商	東海大翔洋		加藤学園	

（女子団体）　県予選

	1位	2位	3位	3位	東海総体 1位	東海総体 2位	全国総体（団体・個人） 3位以内
平成20年度	東海大翔洋	浜松商	市立沼津	藤枝順心	東海大翔洋		52kg級 加賀谷千保（藤枝順心）優勝
平成21年度	藤枝順心	東海大翔洋	浜松商	市立沼津		藤枝順心	
平成22年度	静岡学園	藤枝順心	市立沼津	東海大翔洋		市立沼津	57kg級　井口采美（浜松商）3位
平成23年度	東海大翔洋	藤枝順心	静岡学園	加藤学園	藤枝順心	東海大翔洋	
平成24年度	市立沼津	藤枝順心	東海大翔洋	富士市立		富士市立	48kg級　岡本理帆（藤枝順心）優勝 70kg級　村山のどか（市立沼津）2位 78kg超級　滝川真央（富士市立）2位
平成25年度	富士市立	藤枝順心	加藤学園	東海大翔洋		藤枝順心	78kg超級　滝川真央（富士市立）2位
平成26年度	藤枝順心	加藤学園	市立沼津	東海大翔洋		東海大翔洋	57kg級　谷川美歩（藤枝順心）優勝
平成27年度	藤枝順心	市立沼津	東海大翔洋	富士市立			78kg級　伊藤七海（藤枝順心）3位
平成28年度	東海大翔洋	藤枝順心	富士市立	浜北西			
平成29年度	藤枝順心	東海大翔洋	富士市立	市立沼津		東海大翔洋	

東海高等学校総合体育大会柔道競技

回数	期日	会場
55	平成20年6月21日−22日	大垣市武道館
56	平成21年6月21日−22日	名張市武道館交流館いきいき
57	平成22年6月19日−20日	愛知県武道館
58	平成23年6月18日−19日	浜北総合体育館
59	平成24年6月16日−17日	大垣市武道館
60	平成25年6月15日−16日	名張市武道館交流館いきいき
61	平成26年6月21日−22日	愛知県武道館
62	平成27年6月20日−21日	静岡県武道館
63	平成28年6月18日−19日	大垣市武道館
64	平成29年6月17日−18日	名張市武道館交流館いきいき

全国高等学校総合体育大会優勝校一覧（男・女）

	男子団体		女子団体		開催県	
平成20年度	東海大相模	神奈川	阿蘇	熊本	埼玉	埼玉県立武道館
平成21年度	東海大相模	神奈川	埼玉栄	埼玉	奈良	天理大学杣之内第一体育館
平成22年度	国士舘	東京	淑徳	東京	沖縄	沖縄県立武道館
平成23年度	国士舘	東京	高岡龍谷	富山	秋田	秋田県立武道館
平成24年度	東海大浦安	千葉	阿蘇中央	熊本	富山	アルビス小杉総合体育館
平成25年度	崇徳	広島	埼玉栄	埼玉	福岡	福岡市民体育館
平成26年度	国士舘	東京	東大阪敬愛	大阪	千葉	成田市中台運動公園体育館
平成27年度	国士舘	東京	大成	愛知	奈良	天理大学杣之内第一体育館
平成28年度	国士舘	東京	大成	愛知	島根	島根県立浜山体育館
平成29年度	桐蔭学園	神奈川	桐蔭学園	神奈川	福島	郡山総合体育館

全国高等学校総合体育大会柔道競技

（男子個人）県予選　第1位

	60kg級	66kg級	73kg級	81kg級	90kg級	100kg級	100kg超級
平成20年度	鈴木壮太 （浜松西）	白土　優 （浜松商）	鈴木　隼 （静岡学園）	堀川達也 （東海大翔洋）	伊野和也 （飛龍）	平井亮輔 （東海大翔洋）	新村三四郎 （浜松商）
平成21年度	加賀谷太郎 （藤枝明誠）	庄司史成 （静岡学園）	菊池　颯 （市立沼津）	髙田博文 （静岡学園）	関根龍成 （静岡学園）	飯沼元紀 （常葉橘）	渡辺祥真 （市立沼津）
平成22年度	黒川誠司 （新　居）	吉澤　駿 （静岡学園）	石田　亘 （浜松商）	石井都百希 （日大三島）	細川敦大 （浜松商）	渡辺　漢 （浜松商）	鈴木翔哉 （浜松商）
平成23年度	福本真佐也 （静岡学園）	佐藤光将 （静岡学園）	伊奈慶貴 （日大三島）	田中健登 （東海大翔洋）	山本雄也 （浜松商）	下田一輝 （浜松商）	徳丸佑馬 （加藤学園）
平成24年度	小林駿平 （静岡学園）	佐藤光将 （静岡学園）	秋元健吾 （常葉橘）	浅賀慎太郎 （静岡学園）	齋藤光星 （加藤学園）	篠田大希 （御殿場西）	佐藤和哉 （静岡学園）
平成25年度	泉　高祥 （市立沼津）	青山拓哉 （市立沼津）	横山稜悟 （東海大翔洋）	小原諒平 （浜松商）	齋藤光星 （加藤学園）	岡将太郎 （飛龍）	佐藤和哉 （静岡学園）
平成26年度	芹沢翔哉 （静岡学園）	望月飛翔 （静岡学園）	加藤月歩 （加藤学園）	山田知輝 （東海大翔洋）	植田蒼太朗 （浜松商）	大橋昂文 （日大三島）	林　巧真 （飛龍）
平成27年度	芹沢翔哉 （静岡学園）	荒井大成 （東海大翔洋）	塚本瑠羽 （東海大翔洋）	飯川夢二郎 （飛龍）	佐々木健友 （東海大翔洋）	米山竜生 （東海大翔洋）	川井康平 （静岡学園）
平成28年度	岡本龍司 （静岡学園）	川瀬　翔 （東海大翔洋）	渋谷　恭英 （東海大翔洋）	田倉淳ノ介 （加藤学園）	佐藤　威基 （東海大翔洋）	米山竜生 （東海大翔洋）	川井康平 （静岡学園）
平成29年度	山本蒼良 （東海大翔洋）	矢萩　奨真 （東海大翔洋）	小笠原一貴 （藤枝明誠）	鍵山　潤 （日大三島）	重田　幸大 （日大三島）	米山竜生 （東海大翔洋）	高木一石 （湖西）

（女子個人）県予選　第1位

	48kg級	52kg級	57kg級	63kg級	70kg級	78kg級	78kg超級
平成20年度	金田結花 （浜松商）	加賀谷千保 （藤枝順心）	秋山奈々絵 （藤枝順心）	鈴木流風 （浜松商）	綾部友美 （東海大翔洋）	井深寿深 （庵原）	土屋文香 （東海大翔洋）
平成21年度	金田結花 （浜松商）	秋山侑里佳 （藤枝順心）	井口采美 （浜松商）	岩澤胡桃 （加藤学園）	山村瑞葉 （浜松北）	村瀬由樹 （静岡学園）	小牧夏希 （藤枝順心）
平成22年度	伊藤美麗 （藤枝順心）	神山結里 （市立沼津）	井口采美 （浜松商）	原田祐花 （静岡学園）	村山のどか （市立沼津）	村瀬由樹 （静岡学園）	中村　優 （藤枝順心）
平成23年度	岡本理帆 （藤枝順心）	秋山侑里佳 （藤枝順心）	松川美世 （藤枝順心）	原田祐花 （静岡学園）	村山のどか （市立沼津）	菊池優貴乃 （静岡学園）	滝川真央 （富士市立）
平成24年度	岡本理帆 （藤枝順心）	馬場あゆ美 （東海大翔洋）	益子楓彩奈 （藤枝順心）	古川稜子 （市立沼津）	村山のどか （市立沼津）	菊池優貴乃 （静岡学園）	滝川真央 （富士市立）
平成25年度	鈴木　楓 （藤枝順心）	伊奈郁乃 （富士市立）	益子楓彩奈 （藤枝順心）	佐藤和世 （富士市立）	仁科鈴菜 （富士市立）	吉長桃子 （藤枝順心）	滝川真央 （富士市立）
平成26年度	鈴木茉莉 （藤枝順心）	成宮妃世梨 （藤枝順心）	谷川美歩 （藤枝順心）	安竹真利奈 （東海大翔洋）	遠田真子 （東海大翔洋）	篠田沙織 （藤枝順心）	大澤宜歩 （藤枝順心）
平成27年度	鈴木茉莉 （藤枝順心）	成宮妃世梨 （藤枝順心）	谷川美歩 （藤枝順心）	今　唯 （藤枝順心）	安竹真利奈 （東海大翔洋）	伊藤七海 （藤枝順心）	上田莉圭 （藤枝順心）
平成28年度	渋谷　舞 （東海大翔洋）	中村愛香莉 （藤枝順心）	山上　春奈 （藤枝順心）	杵渕　萌 （東海大翔洋）	安竹真利奈 （東海大翔洋）	伊藤七海 （藤枝順心）	外山　紗奈 （東海大翔洋）
平成29年度	渋谷　舞 （東海大翔洋）	鶴巻　実 （藤枝順心）	山上　春奈 （藤枝順心）	杵渕　萌 （東海大翔洋）	池田　紗也 （藤枝順心）	山本　杏 （藤枝順心）	竹川　瑠奈 （富士市立）

全国高校柔道選手権大会　兼　静岡県高校新人柔道大会

（男子団体）県予選　　全国大会（男女個人・男子団体）

	1位	2位	3位	3位	3位以内
平成20年度	静岡学園	浜松商	加藤学園	東海大翔洋	
平成21年度	浜松商	市立沼津	静岡学園	加藤学園	
平成22年度	静岡学園	東海大翔洋	市立沼津	浜松商	
平成23年度	静岡学園	藤枝明誠	常葉橘	浜松商	無差別級　佐藤和哉（静岡学園）3位
平成24年度	静岡学園	浜松商	飛龍	加藤学園	無差別級　佐藤和哉（静岡学園）優勝
平成25年度	東海大翔洋	静岡学園	浜松商	飛龍	81kg級　佐野安大（静岡学園）3位
平成26年度	静岡学園	東海大翔洋	加藤学園	浜松商	
平成27年度	静岡学園	東海大翔洋	加藤学園	湖西	
平成28年度	東海大翔洋	加藤学園	浜松商	日大三島	無差別級　高木一石（湖西） 3位
平成29年度	加藤学園	浜松商	静岡学園	東海大翔洋	

（女子団体）県予選　　全国大会（男女個人・男子団体）

	1位	2位	3位	3位	3位以内
平成20年度	藤枝順心	東海大翔洋	市立沼津	浜松商	
平成21年度	藤枝順心	浜松商	静岡学園	加藤学園	
平成22年度	藤枝順心	市立沼津	加藤学園	静岡学園	
平成23年度	市立沼津	富士市立	加藤学園	藤枝順心	52kg級　岡本理帆（藤枝順心）優勝 70kg級　村山のどか（市立沼津）優勝 無差別級　滝川真央（富士市立）3位
平成24年度	藤枝順心	富士市立	浜松西	浜松商	無差別級　滝川真央（富士市立）3位
平成25年度	藤枝順心	市立沼津	東海大翔洋	加藤学園	
平成26年度	藤枝順心	東海大翔洋	浜北西	浜松商	57kg級　谷川美歩（藤枝順心）優勝
平成27年度	藤枝順心	東海大翔洋	富士市立	浜北西	
平成28年度	藤枝順心	東海大翔洋	富士市立	市立沼津	63kg級　杵渕萌（東海大翔洋）3位
平成29年度	東海大翔洋	藤枝順心	富士市立	加藤学園	57kg級　袴田佳名瑚（藤枝順心）3位 無差別級　米川明穂（藤枝順心）2位

全国高校柔道選手権大会優勝校

	男子団体		女子団体	
平成20年度	東海大相模	神奈川	埼玉栄	埼玉
平成21年度	国士舘	東京	敬愛	福岡
平成22年度	東日本大震災の為、大会中止			
平成23年度	東海大浦安	千葉	埼玉栄	埼玉
平成24年度	東海大浦安	千葉	敬愛	福岡
平成25年度	修徳	東京	埼玉栄	埼玉
平成26年度	国士舘	東京	埼玉栄	埼玉
平成27年度	日体荏原	東京	敬愛	福岡
平成28年度	桐蔭学園	神奈川	夙川学院	兵庫
平成29年度	国士舘	東京	夙川学院	兵庫

全国高等学校柔道選手権大会　兼　静岡県高等学校新人柔道大会

（男子個人）県予選　　第1位

	60kg級	73kg級	81kg級	90kg級	無差別級
平成21年度	吉澤　駿 （静岡学園）	石田　亘 （浜松商）	石井都百希 （日大三島）	細川敦大 （浜松商）	南口優太 （加藤学園）
平成22年度	吉竹尚城 （常葉橘）	立川功大 （東海大翔洋）	田中健登 （東海大翔洋）	山本雄也 （浜松商）	森田悠斗 （市立沼津）
平成23年度	大場隆成 （浜松城北工）	新美公秀 （浜北西）	浅賀慎太郎 （静岡学園）	渡辺毅輝 （浜松商）	佐藤和哉 （静岡学園）
平成24年度	小林駿平 （静岡学園）	岩澤勇佑 （加藤学園）	佐野安大 （静岡学園）	齋藤光星 （加藤学園）	佐藤和哉 （静岡学園）
平成25年度	小林大貴 （加藤学園）	加藤月歩 （加藤学園）	佐野安大 （静岡学園）	植田蒼太朗 （浜松商）	大橋昂文 （日大三島）
平成26年度	芹沢翔哉 （静岡学園）	塚本瑠羽 （東海大翔洋）	石岡裕樹 （東海大翔洋）	鈴木隆聖 （加藤学園）	川井康平 （静岡学園）
	60kg級	66kg級	73kg級	81kg級	無差別級
平成27年度	岡本龍司 （静岡学園）	長屋　涼 （加藤学園）	渋谷　恭英 （東海大翔洋）	石川紘大 （加藤学園）	川井康平 （静岡学園）
平成28年度	石川　俊介 （加藤学園）	橋口　雄 （静岡学園）	小笠原一貴 （藤枝明誠）	鍵山　潤 （日大三島）	高木一石 （湖西）
平成29年度	山本蒼良 （東海大翔洋）	寺内遼太郎 （浜松商）	角田英知 （東海大翔洋）	村松孝紀 （東海大翔洋）	熊谷健太 （加藤学園）

（女子個人）県予選　　第1位

	52kg級	57kg級	63kg級	70kg級	無差別級
平成21年度	神山結里 （市立沼津）	井口采美 （浜松商）	原田祐花 （静岡学園）	清　貴凜 （浜松商）	中村　優 （藤枝順心）
平成22年度	岡本理帆 （藤枝順心）	松川美世 （藤枝順心）	原田祐花 （静岡学園）	村山のどか （市立沼津）	中村　優 （藤枝順心）
平成23年度	岡本理帆 （藤枝順心）	前山理菜 （加藤学園）	古川稜子 （市立沼津）	村山のどか （市立沼津）	滝川真央 （富士市立）
平成24年度	渡辺香奈 （藤枝順心）	益子楓彩奈 （藤枝順心）	神林希衣 （加藤学園）	仁科鈴菜 （富士市立）	滝川真央 （富士市立）
平成25年度	鈴木茉莉 （藤枝順心）	谷川美歩 （藤枝順心）	今　唯 （藤枝順心）	遠田真子 （東海大翔洋）	楠　麻衣 （加藤学園）
平成26年度	鈴木茉莉 （藤枝順心）	谷川美歩 （藤枝順心）	水野瑚春 （藤枝順心）	米山綾乃 （富士市立）	伊藤七海 （藤枝順心）
	48kg級	52kg級	57kg級	63kg級	無差別級
平成27年度	安食亜美 （藤枝順心）	竹内智紗子 （浜北西）	金本　唯 （藤枝順心）	杵渕　萌 （東海大翔洋）	伊藤七海 （藤枝順心）
平成28年度	渋谷　舞 （東海大翔洋）	中村愛香莉 （藤枝順心）	山上春奈 （藤枝順心）	杵渕　萌 （東海大翔洋）	澤崎莉子 （東海大翔洋）
平成29年度	渋谷　舞 （東海大翔洋）	中村愛香莉 （藤枝順心）	袴田佳名瑚 （藤枝順心）	向尾知妃 （藤枝順心）	米川明穂 （藤枝順心）

※　平成20年度は非開催。平成27年度から階級が変更。

大学高専柔道 10 年間の歩み



静岡県大学高専柔道連盟　会長 井 川 清 隆

静岡県大学高専大会も開催されてから今年で 35 年の歴史が経ちました。田中秀幸先生をはじめ、佐藤治夫先生、溝口紀子先生と引き継がれ、今年度より、わたくしが会長を引き継ぎました。ここでは私より、平成 20 年から平成 30 年までの 10 年間で本連盟として大きく変わった３つをお伝えします。

まず始めに、静岡大学で開催されていた会場が変更されたことです。昭和 59 年、５月に第１回が開催されてから、平成 21 年までの 26 年間、静岡大学で開催されていたと思います。それから３年間、静岡市北部体育館で開催され、現在では静岡産業大学にて６年間、開催されたことが大きな変化の一つと感じます。

二つ目は、柔道人口の減少です。わたしが 15 年前に本大会に選手を引率した当時と比較すると選手は半分以下になったと感じます。当時は１大学から２チームずつのエントリーがあり、大変盛況と思い出します。昼食を挟み、午後から個人戦も熱戦が繰り広げられたことを昨日のように思い出します。柔道人口の減少が本連盟にも直面しており、本大会も運営に支障が出ております。現在では、昼休憩も無くなりました。また近年では大会継続のため、出場するためのルールも毎年、見直しをしております。平成 23 年から年１回の開催へ縮小、平成 27 年からは合同チームでの団体戦の参加可能、平成 28 年からは卒業生の参加可能（30 歳未満）、と駆使しながら大会を継続しております。次年度以降は個人戦のみの大会開催も視野に入れております。このような状況は他県でも問題となり、大会継続が困難となっているようです。本連盟でも何とかこの問題と共存しながら継続していきたいと考えております。

三つ目は、学生の成長を感じる大会運営です。現在では、稲川副会長兼審判長の指導もあり、学生審判の導入を実施しております。学生には審判を体験できる場として好評です。また大会運営も同様で学生主体としております。賞状作成、大会の司会、パンスレット作成、計量係、記録係、時計係など、多くの運営を学生と共に実施できる大会へ変わりました。これには学生自身の大きな経験にも繋がっていると感じています。ここで育つ学生と静岡県の柔道を今後も盛り上げて活きたいと考えております。





静岡県大学高専青年柔道大会
（H20年からH30年）

開催	年	月	会場	団体戦1位	無段1位		軽量級1位		中量級1位		重量級1位		女子部1位		型の部
25	20	5	静岡大学	静産大	静産大	趙	静産大	成島	静産大	濱浦	静産大	長島	東海大学	高井	静岡大学
		11	静岡大学	静産大	静産大	柏木	日大	茂木	静産大	内田	静産大	芝	静産大	竹輪	静岡大学
26	21	5	静岡大学	静産大	沼津高専	伊藤	静産大	小泉	静産大	高原	静産大	真部	静産大	竹輪	静岡大学
		11	静岡大学	静産大	文芸大	石川	静産大	濱浦	東海大	高桑	静産大	吉田	静産大	栗田	静岡大学
27	22	5	北部体育館	静産大	文芸大	石川	静産大	久保田	静産大	遠藤	静産大	内田	静産大	福澤	
		11	北部体育館	静産大	沼津高専	花城	静産大	今	静産大	大木	静産大	岡田	静産大	栗田	
28	23	11	北部体育館	静産大			静産大	今	静産大	大木	静産大	宿輪	静産大	澤口	
29	24	11	北部体育館	静産大	文芸大	杉山	東海大	岩本	静産大	坂本	静産大	森田	東海大学	坂本	
30	25	10	静産大	静産大	東海大	安井	静産大	古川	静産大	松川	静産大	永野	静産大	神田	
31	26	10	静産大	静産大	文芸大	井本	東海大	平野	静産大	松川	静産大	岳川			
32	27	10	静産大	静産大	静産大	鈴木	静産大	小池	静産大	早坂	静産大	日高	静産大	岩崎	
33	28	12	静産大	静産大	静産大	鈴木	静産大	熊野	静産大	服部	静産大	工藤	静産大	石川	
34	29	12	静産大	静産大	東海大	依田	静産大	秩父	静産大	早坂	静産大	工藤	静産大	新倉	
35	30	12	静産大	静産大			静産大	秩父	静産大	根布長	静産大	佐藤	静産大		

警察柔道10年の歩み
～強い静岡を目指して～



静岡県警察 渡 邊 達 也

1　はじめに

私自身、平成17年から9年間、柔道特別訓練監督の指名を受け、現在は、師範として指導に当たっているわけですが、その間、この伝統ある静岡県警察で今まで諸先輩方に築いていただいた偉大な功績に敬意を表し、感謝するとともに柔道に対する重責を感じているところであります。

2　記憶に残る大会

指導者として大会に臨んできた中で一番印象に残るのが「全国警察柔道大会における平成19年度及び21年度の2回の団体第3部優勝」です。

これは、共に前年度第2部における惜敗により、第3部降格となっての背水の陣で臨んだ大会でした。若手とベテランがチームの勝利のために一丸となりチームワークで勝ち取った価値ある優勝でありました。(「静岡県警察試合記録」参照)

また、「平成20年度全国警察柔道大会開会式」では、当時主将であった渡部成也選手が出場48チームを代表して警察庁長官に対し、選手宣誓を行ったことは光栄なことであり、記憶に残る場面といえます。

個人戦においては、「平成26年度全国警察柔道選手権大会」に出場した、山下諒輔（81kg級）及び正治和也（66kg級）のアベック優勝です。

同大会の全国制覇は、静岡県警察初の快挙であり、静岡学園高校同級生の二人は、県警に奉職後も互いに切磋琢磨し、山下諒輔は「大外刈」、正治和也は「背負投」を武器に栄光を勝ち取ったものでありました。

そして、山下諒輔にあっては、翌年の「平成27年度全国警察柔道選手権大会」でも81kg級において優勝を飾り、2連覇を達成しています。

3　理想の選手像

静岡県警察の柔道特別訓練選手は、柔道においてはトップレベルの選手であり、全国又は関東警察の柔道大会並びに部外競技大会には、静岡県警察を代表する選手として出場し、その大会において活躍することで静岡県警察の強さを内外に知らしめ、延いては、警察柔道全体のレベルの底上げにも一躍担っているということがいえます。

「強い静岡県警を目指せ！」選手には常々こう言っています。柔道特別訓練選手が各種大会で活躍し名を挙げれば、県民の県警全体に対する「強さ」のイメージアップにもつながるのではないでしょうか。

また、「強いばかりの特別訓練選手ではなく他の警察官の模範となるべく生活態度を保持し、人間性を頼られる存在でなければならない。」これも柔道特別訓練選手に求められることです。

県警察の代表という覚悟をもって、訓練に精進する選手の今後の活躍に期待するところです。

「壁の向こうに壁がある。ただ精進あるのみ！」

誰のための県警柔道なのか、県警柔道に何が求められているのか、ひとつひとつの壁に真摯に向き合い乗り越えていく所存です。これからもご理解・ご協力をお願いいたします。









静岡県警察試合記録

年度	関東警察柔道大会	全国警察柔道大会	全国警察柔道選手権大会
平成20	平成20年7月31日 関東管区警察学校 団体Ａ組 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　木村優介 鈴木慎一　大村恭一 小椋俊彦　佐野太一 佐藤邦洋　吉澤伸悟 野村祐介　日下徹朗 渡部成也　荒木孝介 成績　**Ａ組３位** ○静岡　３－１　皇宮 △静岡　１－６　神奈川 女子個人 川口有紀（無差別） ○川口－中野（栃木） △川口－七條（警視庁）	平成20年10月15日 日本武道館 団体第２部 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　吉澤伸悟 木村優介　佐野太一 大村恭一　佐藤邦洋 日下徹朗　荒木孝介 渡部成也 成績　**第２部リーグ敗退** □静岡　３－３　山形 △静岡　１－２　長崎	平成20年9月12日 日本武道館 齊藤和仁（無差別） △齊藤－淺野（京都） 小椋俊彦（90kg級） ○小椋－菅原（岩手） △小椋－松村（熊本） 日下徹朗（73kg級） △日下－永岡（宮崎） 渡部成也（66kg級） △渡部－千葉（宮城） 川口有紀（63kg以下）**準優勝** ○川口－吉村（北海道） ○川口－坂野（警視庁） ○川口－岡野（皇宮） △川口－七條（警視庁）
平成21	平成21年6月25日 関東管区警察学校 団体Ａ組 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　木村優介 鈴木慎一　坪山勇太 小椋俊彦　小國泰斗 吉澤伸悟　野村祐介 日下徹朗　眞野洋光 渡部成也　荒木孝介 成績　**Ａ組リーグ敗退** △静岡　１－３　長野 △静岡　０－５　神奈川 女子個人 川口有紀（無差別） △川口－東（警視庁） 間部恭子（無差別） △間部－大久保(埼玉) 中嶋三沙子（無差別） △中嶋－加藤（栃木）	平成21年10月20日 日本武道館 団体第３部 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　鈴木慎一 木村優介　小椋俊彦 眞野洋光　吉澤伸悟 日下徹朗　渡部成也 成績　**第３部　優勝** ○静岡　２－０　大分 ○静岡　２－０　三重 □静岡　１－１　栃木 ○静岡　２－１　長野 ○静岡　３－１　徳島	平成21年9月11日 日本武道館 小椋俊彦（90kg級） △小椋－三宅（広島） 日下徹朗（73kg級）**第５位** ○日下－向田（青森） △日下－浦（福岡） 川口有紀（63kg以下） △川口－古杉（警視庁）
平成22	平成22年6月24日 関東管区警察学校 団体Ｂ組 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　鈴木慎一 木村優介　小椋俊彦 小國泰斗　吉澤伸悟 野村祐介　眞野洋光 渡部成也　荒木孝介 日下徹朗 成績　**Ｂ組準優勝** ○静岡　４－２　山梨 □静岡　２－２　群馬 △静岡　１－５　千葉 女子個人 中嶋三沙子（無差別） △中嶋－中川（警視庁）	平成22年9月16日 日本武道館 団体第２部 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　鈴木慎一 木村優介　小椋俊彦 野村祐介　眞野洋光 吉澤伸悟　日下徹朗 渡部成也 成績　**第２部　準優勝** ○静岡　４－１　山口 ○静岡　３－０　宮城 ○静岡　２－１　奈良 ○静岡　３－１　岩手 △静岡　０－５　愛知	平成22年8月26日 日本武道館 小椋俊彦（90kg級） △小椋－中原（鹿児島） 眞野洋光（73kg級）**第５位** ○眞野－佐藤（秋田） △眞野－佐野（京都） 日下徹朗（66kg級） △日下－小茂田（広島）

年度	関東警察柔道大会	全国警察柔道大会	全国警察柔道選手権大会
平成23	平成23年6月23日 関東管区警察学校 団体Ａ組 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　木村優介 鈴木慎一　坪山勇太 増田圭省　小椋俊彦 小國泰斗　吉澤伸悟 野村祐介　眞野洋光 渡部成也　日下徹朗 成績　**Ａ組リーグ敗退** △静岡　１－４　埼玉 △静岡　０－５　警視庁 女子個人 伊藤綾香（無差別）**第３位** ○伊藤－小宅（栃木） ○伊藤－木内（長野） △伊藤－坂野（警視庁）	**中止** **（東日本大震災のため）**	**中止** **（東日本大震災のため）**
平成24	平成24年6月21日 関東管区警察学校 団体Ｂ組 監督　渡部成也 選手　齊藤和仁　鈴木慎一 坪山勇太　木村優介 増田圭省　小椋俊彦 滝川英克　吉澤伸悟 眞野洋光　野村祐介 日下徹朗 成績　**Ｂ組準優勝** ○静岡　２－１　長野 ○静岡　４－０　新潟 △静岡　２－３　栃木 女子個人 川口有紀（無差別） △川口－坂野（警視庁）	平成24年10月22日 日本武道館 団体第１部 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　鈴木慎一 木村優介　増田圭省 滝川英克　小椋俊彦 眞野洋光　吉澤伸悟 日下徹朗　渡部成也 成績　**第１部リーグ敗退** △静岡　０－５　神奈川 △静岡　１－４　富山	平成24年9月7日 日本武道館 鈴木慎一（無差別） △鈴木－遠藤（北海道） 増田圭省（100kg級） ○増田－中村（北海道） △増田－木下（兵庫） 滝川英克（90kg級） △滝川－増渕（京都） 眞野洋光（73kg級）第５位 ○眞野－桑田（鳥取） △眞野－吉田（兵庫）
平成25	平成25年6月20日 関東管区警察学校 団体Ａ組 監督　渡邉達也 選手　齊藤和仁　増田圭省 坪山勇太　滝川英克 木村優介　小椋俊彦 鈴木慎一　渡部成也 眞野洋光　山下諒輔 日下徹朗　正治和也 成績　**Ａ組リーグ敗退** △静岡　３－４　千葉 △静岡　１－２　神奈川 女子個人 長嶋麻未（無差別）第５位 ○長嶋－平（栃木） △長嶋－佐藤（警視庁） 星野未帆（無差別）第３位 ○星野－大金（栃木） ○星野－丸（千葉） △星野－柴田（新潟）	平成25年10月22日 日本武道館 団体第２部 監督　渡邉達也 選手　坪山勇太　増田圭省 齊藤和仁　小椋俊彦 鈴木慎一　山下諒輔 眞野洋光　正治和也 日下徹朗 成績　**第２部リーグ敗退** △静岡　３－３　広島 ○静岡　２－０　青森	平成25年9月6日 日本武道館 増田圭省（無差別） ○増田－三浦（島根） △増田－山本（兵庫） 山下諒輔（81kg級）**第３位** ○山下－一戸（北海道） ○山下－広瀬（三重） ○山下－松本（兵庫） △山下－小野瀬（神奈川） 眞野洋光（73kg級）**第５位** ○眞野－池田（福岡） △眞野－金岡（警視庁）

年度	関東警察柔道大会	全国警察柔道大会	全国警察柔道選手権大会
平成26	平成26年6月17日 関東管区警察学校 団体Ｂ組 監督　根本哲郎 選手　齊藤和仁　増田圭省 坪山勇太　木村優介 滝川英克　鈴木慎一 小椋俊彦　眞野洋光 山下諒輔　正治和也 岡本健吾 成績　**Ｂ組優勝** ○静岡　４－２　新潟 ○静岡　６－０　山梨 ○静岡　３－２　群馬 女子個人 長嶋麻未（無差別） ○長嶋－大木（埼玉） △長嶋－池田（警視庁） 星野未帆（無差別） ○星野－渡邉（埼玉） △星野－保坂（山梨）	平成26年10月27日 日本武道館 団体第２部 監督　根本哲郎 選手　坪山勇太　齊藤和仁 増田圭省　鈴木慎一 滝川英克　小椋俊彦 山下諒輔　眞野洋光 正治和也 成績　**第２部リーグ敗退** △静岡　３－３　徳島 △静岡　２－２　長崎	平成26年9月11日 日本武道館 滝川英克（100kg級） △滝川－岩渕（山形） 山下諒輔（81kg級）優勝 ○山下－田原（兵庫） ○山下－金子（新潟） ○山下－田中（埼玉） ○山下－武藤（神奈川） 眞野洋光（73kg級）**第５位** ○眞野－渡邊（兵庫） ○眞野－藤本（熊本） △眞野－佐野（京都） 正治和也（66kg級）**優勝** ○正治－浅見（愛媛） ○正治－三原（警視庁） ○正治－吉田（神奈川） ○正治－肥後（京都） ○正治－渡部（神奈川）
平成27	平成27年6月16日 関東管区警察学校 団体Ａ組 監督　根本哲郎 選手　増田圭省　木村優介 飯沼元紀　渡邊祥真 鈴木慎一　小椋俊彦 久松達斗　山下諒輔 鈴木日文　眞野洋光 正治和也　岡本健吾 成績　**Ａ組リーグ敗退** △静岡　１－３　埼玉 △静岡　０－３　神奈川 女子個人 兼子貴江（無差別）**第３位** ○兼子－小島（神奈川） ○兼子－三輪（警視庁） △兼子－塚越（警視庁）	平成27年10月14日 日本武道館 団体第３部 監督　根本哲郎 選手　増田圭省　飯沼元紀 鈴木慎一　滝川英克 小椋俊彦　山下諒輔 眞野洋光　正治和也 成績　**第３部第３位** ○静岡　３－１　高知 ○静岡　４－０　鳥取 ○静岡　１－０　長野 △静岡　２－２　栃木 ○静岡　３－０　大分	平成27年9月11日 日本武道館 飯沼元紀（100kg級） △飯沼－木下（兵庫） 山下諒輔（81kg級）優勝 ○山下－高田（熊本） ○山下－橋本（兵庫） ○山下－形部（香川） ○山下－住谷（大阪） 正治和也（66kg級） △正治－小寺（警視庁） 大木恭介（66kg級）**第３位** ○大木－右田（福岡） ○正治－岩城（広島） ○正治－江藤（熊本） 兼子貴江（63kg超）**第５位** ○兼子－島袋（沖縄） △兼子－橋口（大阪） 村瀬由樹（63kg級）**準優勝** ○村瀬－武智（大阪） ○村瀬－小林（千葉） ○村瀬－大月（新潟） △村瀬－塚越（警視庁）
平成28	平成28年6月21日 関東管区警察学校 団体Ｂ組 監督　根本哲郎 選手　増田圭省　木村優介 滝川英克　渡邊祥真 飯沼元紀　鈴木慎一 久松達斗　小椋俊彦 鈴木日文　大木恭介 正治和也　岡本健吾 成績　**Ｂ組準優勝** ○静岡　１－０　茨城 ○静岡　５－０　長野 △静岡　３－４　群馬 女子個人 村瀬由樹（63kg以下） △村瀬－三輪（警視庁） 兼子貴江（63kg超） △兼子－矢澤（埼玉）	平成28年10月17日 日本武道館 団体第２部 監督　根本哲郎 選手　増田圭省　渡邊祥真 滝川英克　飯沼元紀 久松達斗　小椋俊彦 大木恭介　正治和也 岡本健吾 成績　**第２部第５位** ○静岡　４－２　富山 ○静岡　３－１　青森 △静岡　２－３　京都 △静岡　０－５　佐賀	平成28年9月6日 日本武道館 増田圭省（100kg超級） △増田－江藤（福岡） 滝川英克（100kg級） ○滝川－藁科（和歌山） △滝川－内（鹿児島） 正治和也（66kg級） ○正治－松下（愛知） △正治－久間（警視庁） 大木恭介（66kg級） △大木－佐々木（兵庫） 兼子貴江（63kg超） △兼子－赤嶺（沖縄） 村瀬由樹（63kg級） △村瀬－北岡（兵庫）

年度	関東警察柔道大会	全国警察柔道大会	全国警察柔道選手権大会
平成29	平成29年6月22日	平成29年10月17日	平成29年9月5日
	関東管区警察学校	日本武道館	日本武道館
	団体Ａ組 監督　根本哲郎 選手　増田圭省　滝川英克 鈴木慎一　飯沼元紀 小椋俊彦　久松達斗 鈴木日文　多田陽平 岡本健吾　正治和也 大木恭介 成績　**Ａ組リーグ敗退** △静岡　１－３　埼玉 △静岡　０－６　警視庁	団体第２部 監督　根本哲郎 選手　増田圭省　久松達斗 滝川英克　飯沼元紀 鈴木慎一　多田陽平 鈴木日文　大木恭介 正治和也 成績　**第２部リーグ敗退** △静岡　０－３　広島 ○静岡　２－１　岐阜	滝川英克（100kg超級） ○滝川－庄司（山形） △滝川－川北（大阪） 飯沼元紀（100kg級） △飯沼－古田（福岡） 大木恭介（66kg級） ○大木－伊藤（徳島） △大木－佐々木（兵庫） 村瀬由樹（63kg超級） ○村瀬－矢澤（埼玉） △村瀬－岡村（熊本） 原田祐花（63kg級） ○原田－清水（愛媛） △原田－髙森（熊本）
	女子個人 村瀬由樹（63kg以下） ○村瀬－飯岡（栃木） △村瀬－森（警視庁） 原田祐花（63kg以下） ○原田－岡野（茨城） △原田－川戸（警視庁）		
平成30	平成30年6月14日	平成30年10月22日	平成30年9月25日
	関東管区警察学校	日本武道館	日本武道館
	団体Ｂ組 監督　渡部成也 選手　増田圭省　入江　翼 滝川英克　飯沼元紀 齋藤光星　久松達斗 渡辺浩貴　鈴木日文 多田陽平　岡本健吾 正治和也　大木恭介 成績　**Ｂ組準優勝** ○静岡　４－１　栃木 ○静岡　５－１　長野 △静岡　３－１　群馬	団体第２部 監督　渡部成也 選手　増田圭省　齋藤光星 久松達斗　飯沼元紀 鈴木日文　多田陽平 岡本健吾　大木恭介 正治和也 成績　**第２部リーグ敗退** △静岡　２－３　大分 △静岡　０－２　京都	鈴木日文（90kg級） △鈴木－横田（北海道） 多田陽平（73kg級） △多田－佐藤（秋田） 大木恭介（66kg級） ○大木－清田（石川） △大木－西山（警視庁） 菊池優貴乃（70kg級）第５位 ○菊池－山本（徳島） △菊池－矢澤（埼玉） 原田祐花（63kg級） △原田－清水（愛媛）
	女子個人 菊池優貴乃（63kg超級） △菊池－滝川（警視庁） 原田祐花（63kg以下）**第５位** ○原田－山口（長野） △原田－森（警視庁）	女子団体 監督　根本哲郎 選手　菊池優貴乃　原田祐花 竹内智衣子 成績　リーグ敗退 △静岡　０－３　大阪 △静岡　０－３　警視庁	

２．静岡県柔道祭を振り返る

静岡県柔道協会の一大イベントである「静岡県柔道祭」が、平成 30 年 11 月 25 日、静岡県武道館にて開催された。特に本年は、協会創立 70 周年記念並びに第 60 回大会という節目の年にあたり、例年とは違った形での実施となった。具体的には、

①各種別の参加チーム数を各地区 8 チームから 4 チームへ

②それに伴い試合場数も 8 から 5 へと変更

③午前中に表彰式並びに記念演武（石田姉妹による「柔の形」を実施）　などである。

写真を中心にして、準備の様子や表彰式、記念演武や試合の様子などを振り返ってみたい。

試合進行表

注意事項

①小学生と高校生男子の一回戦は第1・2・4・5会場

②中高女の一回戦の第1試合は第3会場

③試合の進行状況によっては試合場を移動することがある

	第1会場（一般）	第2会場（小学生）	第3会場（高校男）	第4会場（中高女）	第5会場（中学男）	
1	小学生－1回戦	小学生－1回戦	高校女－1回戦	小学生－1回戦	小学生－1回戦	1
2	高校男－1回戦	高校男－1回戦	中学女－1回戦	高校男－1回戦	高校男－1回戦	2
3	一般－1回戦	小学生－2回戦	高校男－2回戦	高校女－1回戦	中学男－1回戦	3
4	一般－1回戦	小学生－2回戦	高校男－2回戦	中学女－1回戦	中学男－1回戦	4
5	一般－1回戦	小学生－2回戦	高校男－2回戦	高校女－1回戦	中学男－1回戦	5
6	一般－1回戦	小学生－2回戦	高校男－2回戦	中学女－1回戦	中学男－1回戦	6
7	一般－2回戦	小学生－準決勝	高校男－準決勝	高校女－1回戦	中学男－2回戦	7
8	一般－2回戦	小学生－準決勝	高校男－準決勝	中学女－1回戦	中学男－2回戦	8
9	一般－2回戦		**中学女－決　勝**	高校女－2回戦	中学男－2回戦	9
10	一般－2回戦		**高校女－決　勝**	中学女－2回戦	中学男－2回戦	10
11	一般－準決勝		**中学男－決　勝**	高校女－2回戦	中学男－準決勝	11
12	一般－準決勝		**一　般－決　勝**	中学女－2回戦	中学男－準決勝	12
13			**小学生－決　勝**	高校女－2回戦		13
14			**高校男－決　勝**	中学女－2回戦		14
15				高校女－2回戦		15
16				中学女－2回戦		16
17				高校女－準決勝		17
18				中学女－準決勝		18
19				高校女－準決勝		19
20				中学女－準決勝		20

SHIZUOKA

静岡県柔道協会創立70周年記念

第六十回 静岡県柔道祭



■日時：平成30年11月25日(日) 午前10時00分
■会場：静岡県武道館
■主催：静岡県柔道協会
■後援：静岡県教育委員会・(公財)静岡県体育協会
静岡県高等学校体育連盟・静岡県中学校体育連盟
(公社)静岡県柔道整復師会・静岡県武道協議会

開会式・記念式典　次第

【10:00～】　❖開会式❖

1	開会宣言	静岡県柔道協会	副会長　左口 直人
2	挨　拶	静岡県柔道協会	会　長　野田 昭一
3	祝　辞	衆議院議員	塩谷　立　様
		藤枝市副市長	栗田 隆生　様
4	来賓紹介	静岡県議会議員	杉山 盛雄　様
		静岡県議会議員	野澤 義雄　様
5	優勝旗返還		
6	選手宣誓	藤枝順心高校	袴田 佳名瑚 選手
7	閉　式		

【10:30～】　❖表彰式❖

1　開　式

(1) 創立70周年記念特別表彰　＜8名＞

(2) 優秀団体章表彰　＜1団体＞

(3) 優秀選手章表彰　＜7名＞

(4) 優秀指導者章表彰　＜2名＞

2　閉　式

（表彰者一覧：p2・3）

【11:00～】　❖記念演武「柔の形」❖

【取】 石田桃子 選手 （米田柔整専門学校）

【受】 石田真理子 選手 （　〃　）

★ 演武終了後、記念撮影

（選手プロフィール：p4）

2018 静岡県柔道協会 創立 70 周年記念 第 60 回静岡県柔道祭 役員

【大会役員】

（順不同，敬称略）

■名誉会長	安齊 悦雄					
■大会会長	野田 昭一					
■大会副会長	左口 直人	田中 秀幸	髙田 和夫	間宮 幸男	石川 裕章	
■大会顧問	安原 精二郎	酒井 初雄	飯田 稔	永田 重郎	山崎 陸雄	根来 礎夫
	石黒 金次	髙田 勝之	川中 邦夫			
■大会参与	小澤 喜一	鈴木 英彦	伊達 靖			
■大会委員	興梠 正人	梶原 和洋	川合 孝弘	根木谷 信一	小林 賢治	小笠原 淳
	望月 優映	阿部 光好	工藤 信二	熊谷 幸洋	古川 隆士	和久田 守男
	磯部 正博	栗田 徳光	榑林 行雄	宮崎 貞夫	水野 進	渡邉 達也
	井川 清隆	西川 孝治	山口 麻和	後藤 奈美	星野 祐樹	永田 親則
	丸山 繁	船越 雅人				

【競技役員】

❖= 主任

■委員長	石川 裕章					
■副委員長	古川 隆士	渡邉 達也				
■運営委員長	梶原 和洋					
■運営副委員長	興梠 正人	伊藤 道明				
■運営委員	橋口 渉	青木 達之	川合 孝弘	桑山 和夫	岡村 和幸	遠藤 重和
	伊藤 路照	佐野 宏明	青島 友和	佐野 薫	伊藤 貴能	中村 航
	後藤 奈美	菊池 としえ	大畑 三津子	山崎 美和子	星野 祐樹	髙田 幸治
	今井 靖史	榑林 正人	眞野 洋光			
委員（記念式典）	増尾 清己	工藤 信二	植田 秀	山口 麻和	鈴木 清仁	
■審判長	望月 優映					
■副審判長	渡邉 達也					
■医務係	藤田 孝明					
■受付	❖ 川合 孝弘	遠藤 重和	伊藤 貴能	望月 慈希	中村 航	
■接待	❖ 菊池 としえ	山崎 美和子	大畑 三津子	後藤 奈美	稲川 郁子	
■進行／表彰	❖ 橋口 渉	榑林 正人	大畑 三津子	後藤 奈美	菊池 としえ	
	（司会）片川 乃里子					
■記録／報道	❖ 伊藤 貴能	谷川 尚	佐野 薫	望月 慈希	青木 達之	植田 秀
■女子係	❖ 古内 千夏	加賀谷 千保	山崎 美和子			
■駐車場	❖ 岡村 和幸	伊藤 路照	佐野 宏明	青島 友和		
■会場設営	❖ 中村 航	髙田 幸治	伊藤 道明	望月 慈希		
	静岡学園中／高	静岡商業高	城南静岡中／高	島田樟誠高		
■補助役員	❖ 高田 幸治	静岡学園高	東海大翔洋高	藤枝順心高	加藤学園高	
		浜松商業高				
■試合撮影	静岡学園高					
■優秀選手選考委員長	古川 隆士					
副委員長	渡邉 達也					
委員	井川 清隆	西川 孝治	阿部 光好	栗田 徳光		
	一般	高校生	中学生	小学生		

■ 会長特別表彰 感謝状（創立 70 周年記念 特別表彰）

(1) **安原 精二郎**　静岡県柔道協会顧問　（中部支部）
(2) **酒井 初雄**　〃　（西部支部）
(3) **飯田 稔**　〃　（西部支部）
(4) **永田 重郎**　〃　（中部支部）
(5) **山崎 陸雄**　〃　（西部支部）
(6) **根来 礎夫**　〃　（中部支部）
(7) （故）**山口 友孝**　〃　（東部支部）
(8) **石黒 金次**　〃　（西部支部）

■ 優秀団体章

(1) (学) **藤枝学園 藤枝順心高等学校**

◇ 全国高校総体 女子団体 第３位
2018.8.11　サオリーナ（津市産業・スポーツセンター）

■ 優秀選手章（表彰規程、第２条(7)、第３条(7)- ア）

(1) **米川 明穂**　藤枝順心高校２年生　初段

◇ 全国高校柔道選手権大会 女子無差別級 準優勝
2018.3.20　日本武道館

◇ 全日本カデ柔道体重別選手権大会 女子 70kg 超級 優勝
2018.4.15　大阪府立間真スポーツセンター

◇ 全国高校総体　女子 78kg 超級　準優勝
2018.8.12　サオリーナ（津市産業・スポーツセンター）

◇ 平成 30 年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 女子 78 kg超級 第三位
2018.9.9　埼玉県立武道館

(2) **袴田 佳名瑚**　藤枝順心高校２年生　初段

◇ 全国高校柔道選手権大会 女子個人 57kg 級 第３位
2018.3.20　日本武道館

(3) **百田 久奈**　　藤枝順心中学校３年生　一級

◇ 第 49 回全国中学校柔道選手権大会 女子 40 kg級 優勝

2018.8.19　広島県立総合体育館

(4) **杉山 月琉**　　東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部３年生 一級

◇ 第 49 回全国中学校柔道選手権大会 女子 57 kg級 優勝

2018.8.19　広島県立総合体育館

(5) **山中 美里**　　藤枝順心中学校３年生　一級

◇ 第 49 回全国中学校柔道選手権大会 女子 44 kg級 第三位

2018.8.19　広島県立総合体育館

(6) **長澤 篤希**　　静岡学園中学校３年生　初段

◇ 第 49 回全国中学校柔道選手権大会 男子 73 kg級 第三位

2018.8.20　広島県立総合体育館

(7) **渋谷 舞**　　東海大学付属静岡翔洋高等学校 ３年生 初段

◇ 平成 30 年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 女子 48 kg級 第三位

2018.9.8　埼玉県立武道館

■ 優秀指導者章

(1) **沼野 由香利**　　藤枝順心高等学校 / 中学校 教諭

全日本カデ柔道体重別選手権大会 女子 70kg 超級 優勝の米川明穂選手を指導・育成

全国中学校柔道選手権大会 女子 40 kg級 優勝 百田久奈選手の指導・育成

(2) **古内 千夏**　　東海大学付属静岡翔洋高校 教諭

全国中学校柔道選手権大会 女子 57 kg級 優勝 杉山月琉選手の指導・育成

石田 桃子選手・石田 真理子選手による「柔の形」祝賀演武



2018年世界形選手権大会（メキシコ・カンクン）

■石田桃子選手・石田真理子選手プロフィール

取：石田 桃子　女子四段

米田柔整専門学校 職員 柔道部コーチ
南山大学 卒
米田柔整専門学校 卒

受：石田 真理子　女子三段

米田柔整専門学校 3年生
南山大学 卒

■主な戦績

2015年11月　全日本柔道形競技大会「柔の形」優勝
2015年12月　アジア柔道形選手権　「柔の形」優勝
2017年10月　全日本柔道形競技大会「柔の形」優勝
2017年10月　世界柔道形選手権　「柔の形」優勝
2018年10月　世界柔道形選手権　「柔の形」優勝 2連覇

柔の形とは…

第一教
突出（つきだし）
肩押（かたおし）
両手取（りょうてどり）
肩廻（かたまわし）
腮押（あごおし）

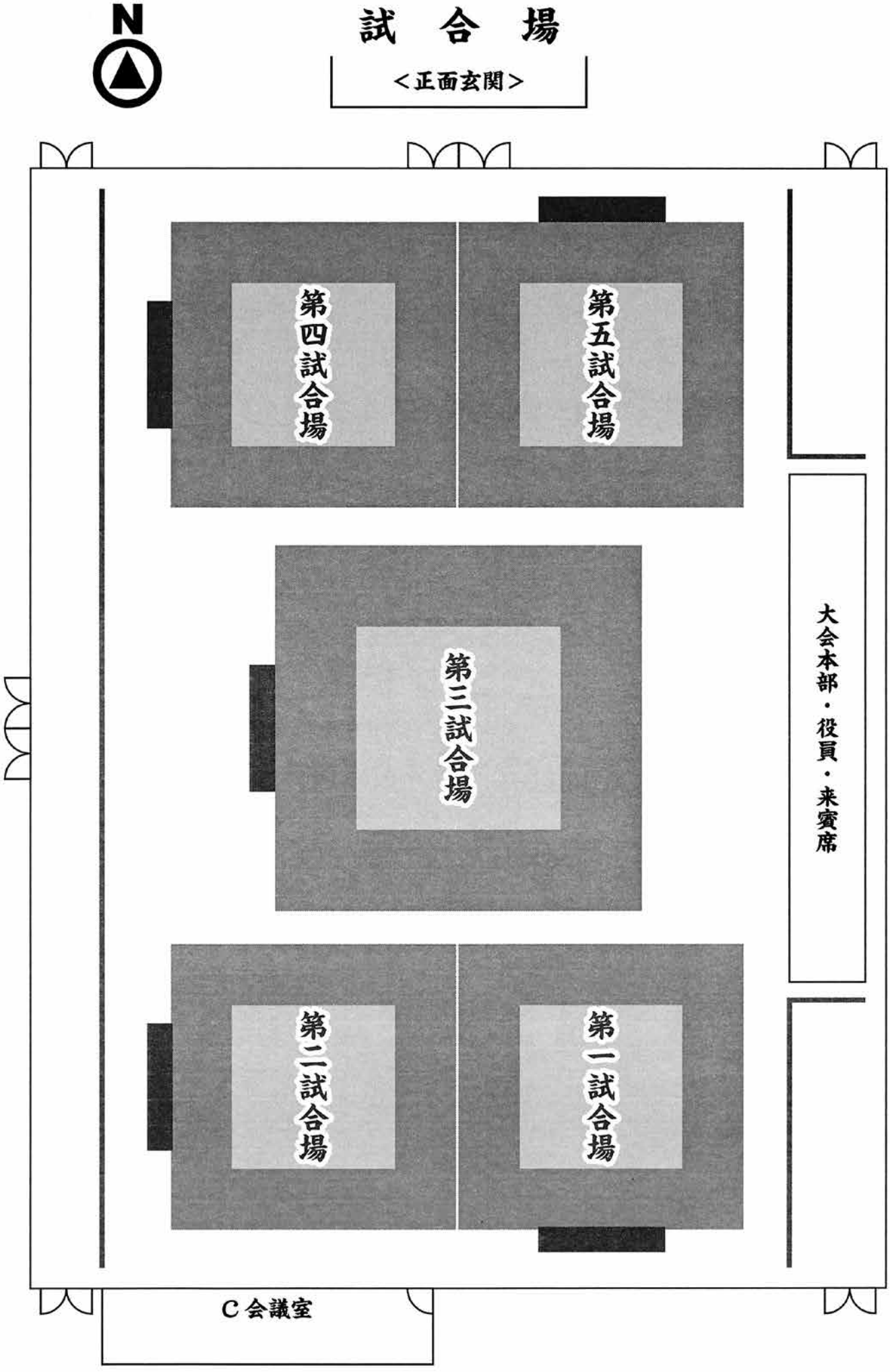
第二教
切下（きりおろし）
両肩押（りょうかたおし）
斜打（ななめうち）
片手取（かたてどり）
片手拳（かたてあげ）

第三教
帯取（おびとり）
胸押（むねおし）
突上（つきあげ）
打下（うちおろし）
両眼突（りょうがんつき）

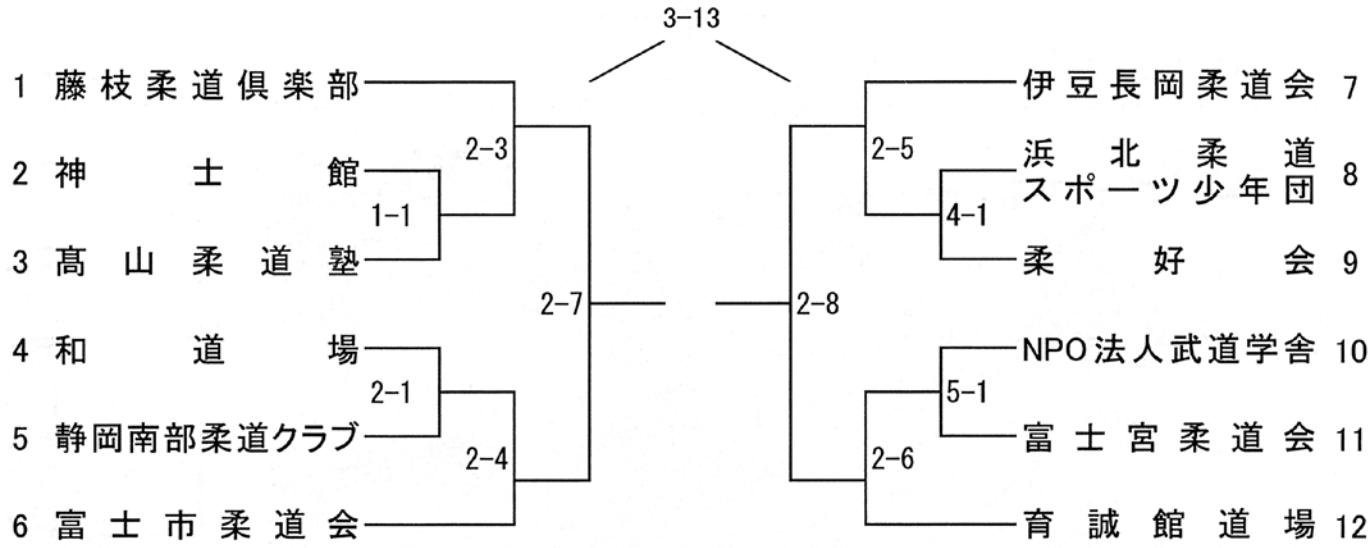
柔の形は、柔よく剛を制するの、理合を会得するために、緩やかな動作で、力強く、表現的、体育的に組み立てられたもので、第一教から第三教まで各5本の計15本から成り立つ。嘉納治五郎師範は、最初に学ぶべき形として柔の形をあげ、相手の力に順応して勝ちを制するという理屈を理解するのに都合が良い点、さらに投げられることもなく、かつ、静かな運動であるから初心者に習いやすい点を挙げている。また、講道館では、柔の形の特徴を次のように説明している。

1 どんな服装でも、どんな場所でも、どんな時でも、自由に練習することができる。
2 老若男女の区別なく、誰でも楽しく柔道の理論を学ぶことができる。
3 攻撃防御の動作を緩やかな動作で行うから、その理合を正確かつ容易に学ぶことができる。
4 伸筋を働かせたり、体を反らせたりすることが多いので、乱取りと併せ行うことによって、体の円満な発達をはかることができる。
5 自然な体さばきと、無理のない変化により、美的な情操を養うことができる。

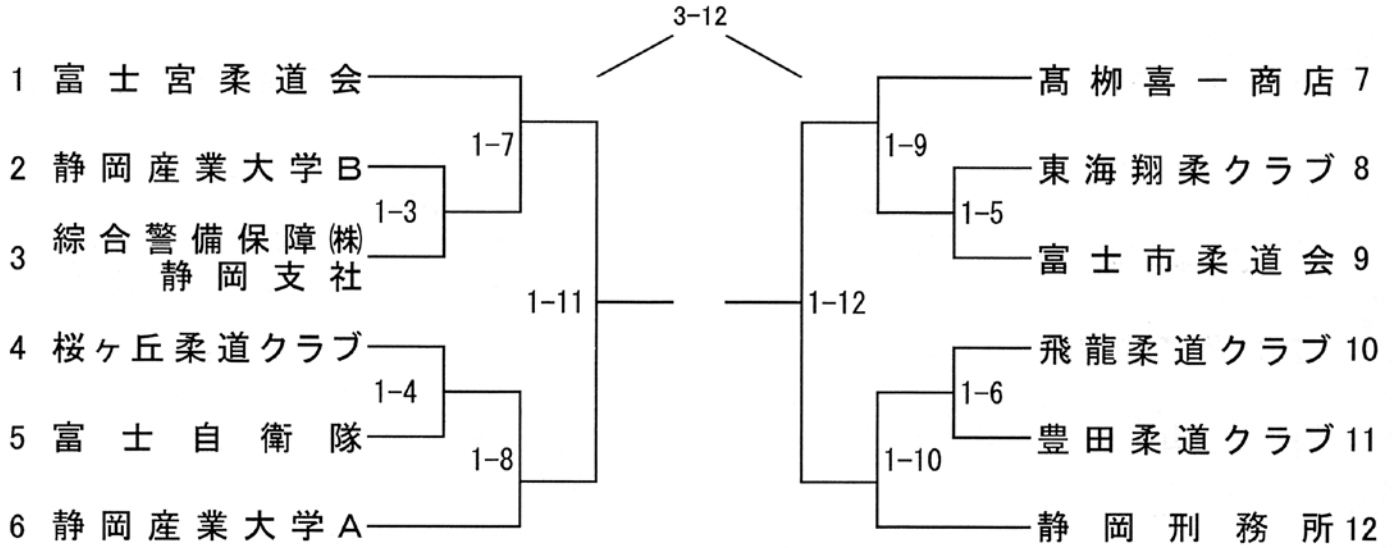



N
試　合　場
<正面玄関>
第四試合場
第五試合場
第三試合場
第二試合場
第一試合場
大会本部・役員・来賓席
C会議室

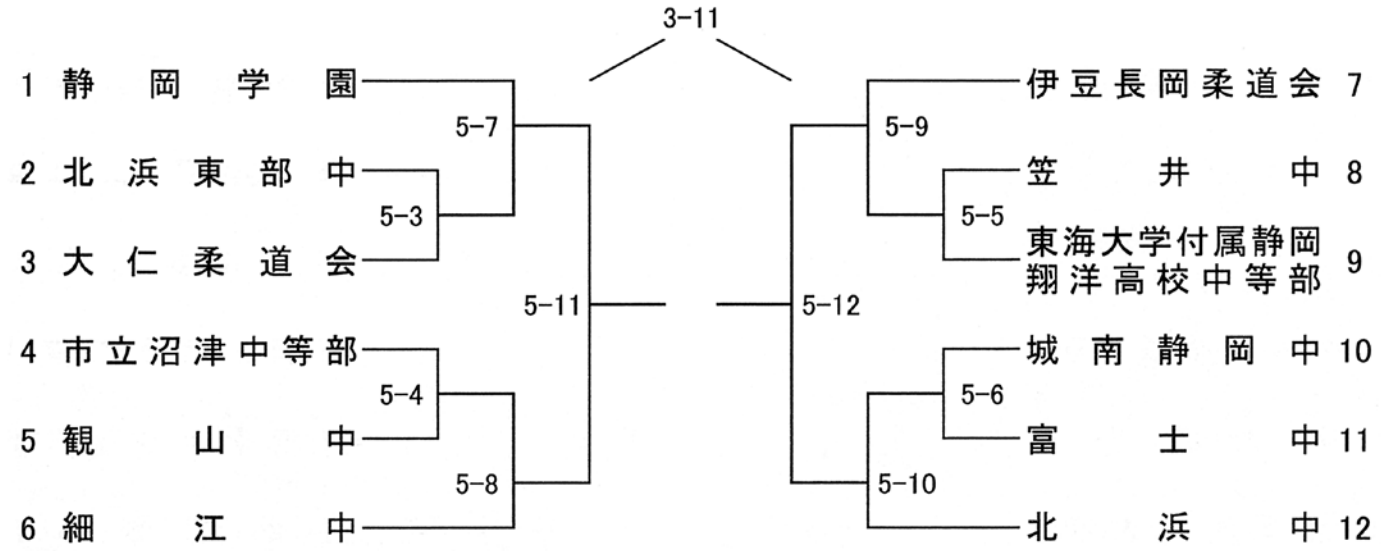
小学生の部


3-13
1 藤枝柔道倶楽部
2 神士館
3 髙山柔道塾
4 和道場
5 静岡南部柔道クラブ
6 富士市柔道会
2-3
1-1
2-1
2-4
2-7
2-8
2-5
4-1
5-1
2-6
伊豆長岡柔道会 7
浜北柔道スポーツ少年団 8
柔好会 9
NPO法人武道学舎 10
富士宮柔道会 11
育誠館道場 12

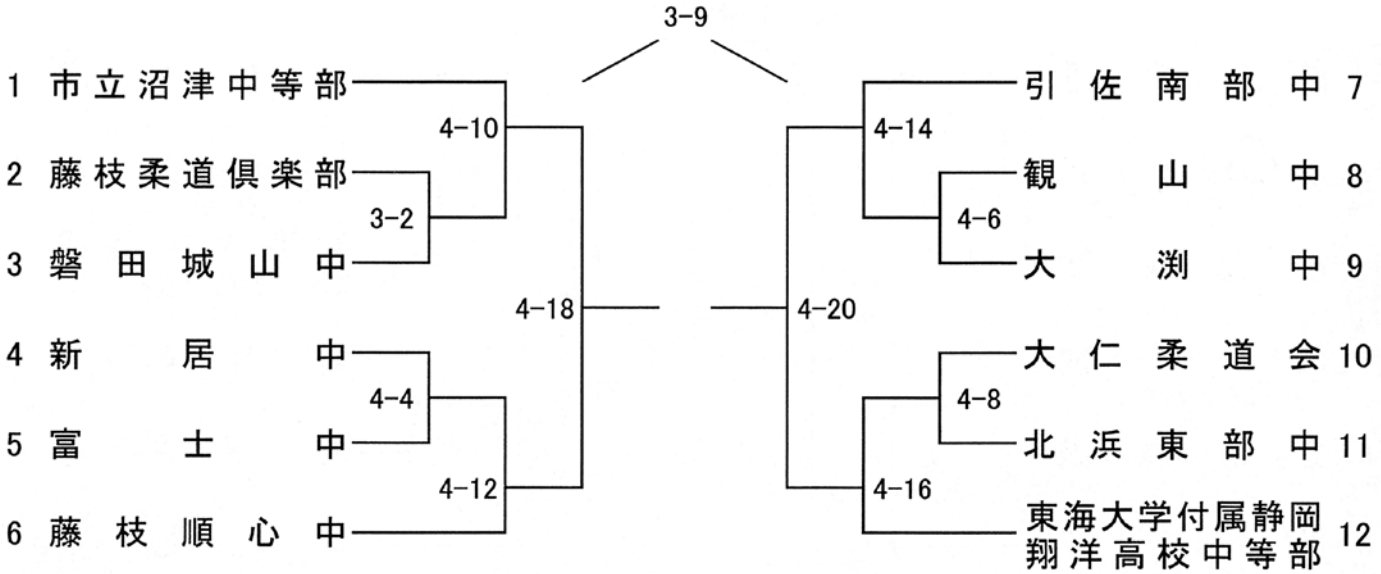
一般の部


3-12
1 富士宮柔道会
2 静岡産業大学B
3 綜合警備保障㈱静岡支社
4 桜ヶ丘柔道クラブ
5 富士自衛隊
6 静岡産業大学A
1-7
1-3
1-4
1-8
1-11
1-12
1-9
1-5
1-6
1-10
髙柳喜一商店 7
東海翔柔クラブ 8
富士市柔道会 9
飛龍柔道クラブ 10
豊田柔道クラブ 11
静岡刑務所 12

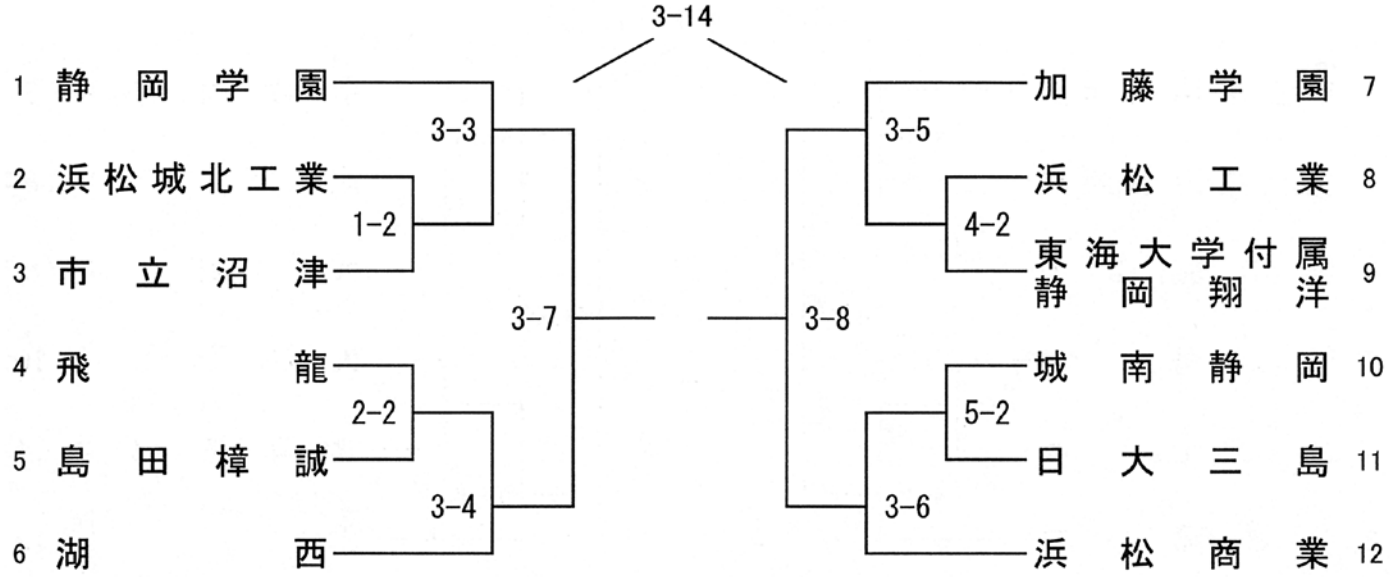
中学生　男子の部



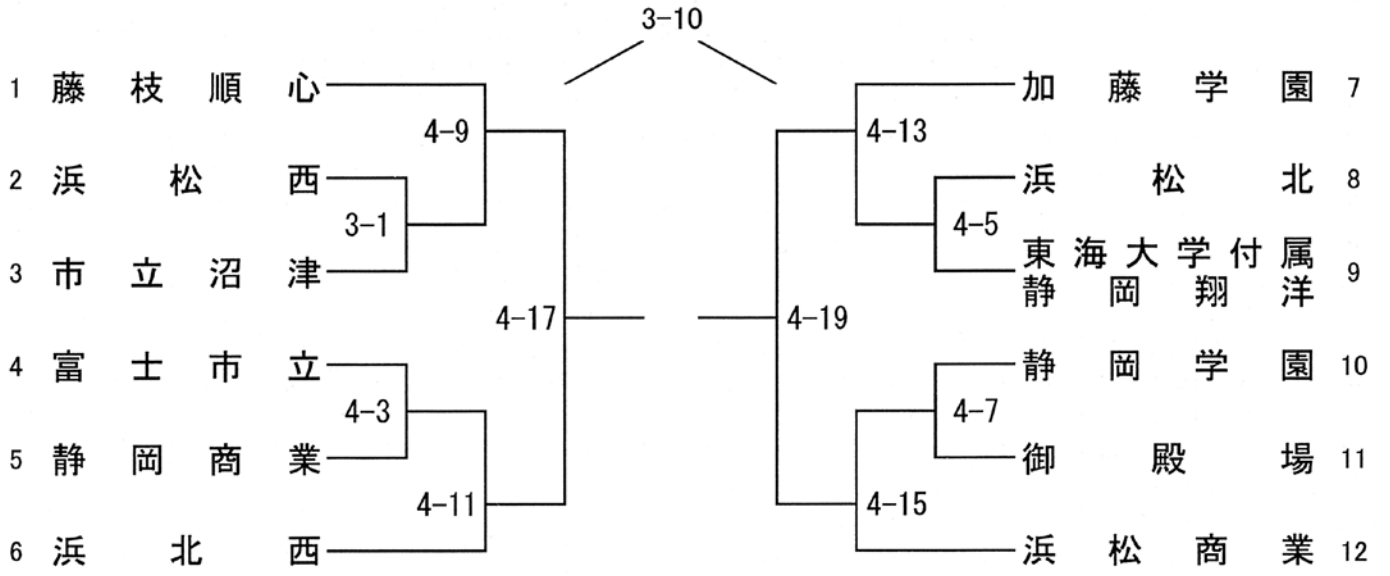
中学生　女子の部



高校生　男子の部



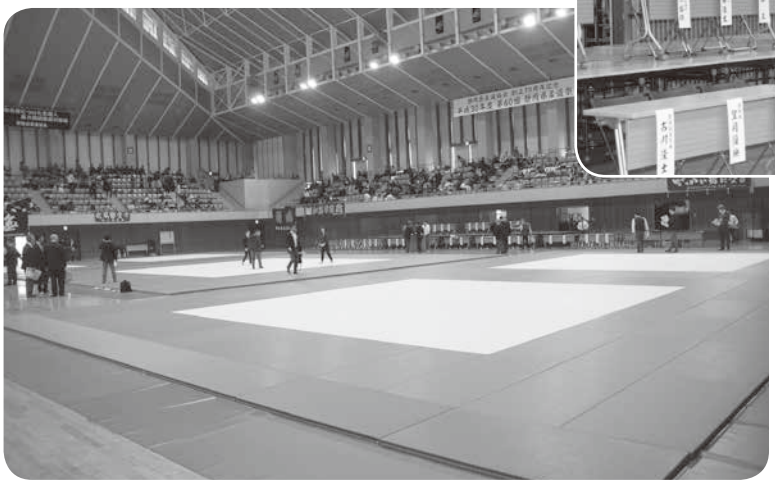
高校生　女子の部



準　備



●雛壇の様子



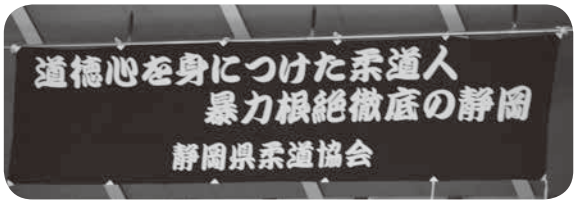
●試合会場の様子



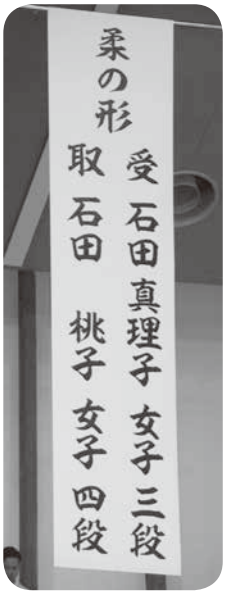
●受付風景



●柔道祭　横断幕



●暴力根絶のスローガン



●演武者紹介垂れ幕



●演武者との打ち合わせ



●整列位置を確認して…



●整列風景　その一



●整列風景　その二

開会式



●協会役員整列



●選手整列



●選手宣誓（藤枝順心高校　袴田選手）



●来賓挨拶（衆議院議員　塩谷　立様）



●来賓挨拶（藤枝市副市長　栗田様）



●野田会長挨拶

試合の様子



●小学生の熱戦の様子



●激しい組手争いからの攻撃



●果敢に攻める（一般）



●内股で大きく跳ねるものの…（高校男子）



●大内刈一閃！



●決まるか？背負投！



●攻めと防禦



●美しい日本の柔道－礼儀－



●表彰風景　その一（一般の部）



●表彰風景　その二（高校男子の部）



●表彰風景　その三（高校女子の部）



●一般の部　優勝　静岡産業大Ａチーム

特別表彰者受賞の風景



●栄光の優勝盃



●酒井初雄先生



●飯田　稔先生（代理受賞：間宮先生）



●永田重郎先生



●山﨑睦雄先生



●石黒金次先生



●杉山月琉選手



●山中美里選手

記念演武「柔の形」
〔石田姉妹〕



●相手の力に順応して勝ちを制す



●ぴたりと決まる姿勢



●理合にかなう動き



●力強さの中に見える美



●華のある演武が続く



●演武を終えてホッと一息

静岡県柔道協会 創立70周年記念

記念式典 次第

SHIZUOKA

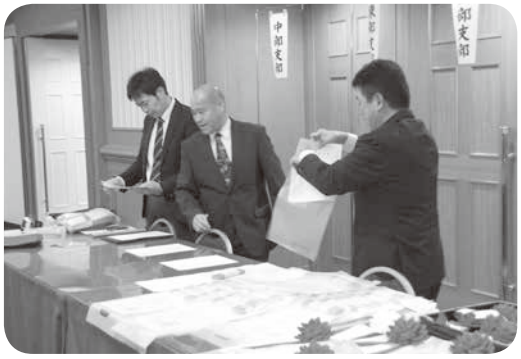
日時:平成３０年１２月８日(土)
１７:３０～
会場:ホテルセンチュリー静岡

1	開式の言葉	静岡県柔道協会 副会長 髙田和夫
2	表　彰	❖ 功労章 〈2名〉
		❖ 奨励章 〈14名〉
3	式　辞	❖ 静岡県柔道協会 会長 野田昭一
4	来賓祝辞	❖ 東海柔道連合会 会長 河原月夫 様
		❖ 静岡県議会議員 杉山盛雄 様
		❖ 静岡県議会議員 野澤義雄 様
5	来賓紹介	❖ 東海柔道連合会 理事長 松本宣子 様
		❖ 岐阜県柔道協会 会長 中田喜代司 様
		❖ 三重県柔道協会 相談役 乙部満生 様
		❖ 三重県柔道協会 会長 平賀秀忠 様
6	乾　杯	静岡県柔道協会 副会長 間宮幸男
7	ご歓談	
8	中締め	
9	閉式の言葉	静岡県柔道協会 副会長 田中秀幸

祝賀会



●記念祝賀会横断幕



●受付にて記念品の準備



●野田昭一会長挨拶



●河原月夫東海柔道連盟会長
祝辞



●野田会長を囲んでの記念写真



●歓談風景　その一



●万歳三唱



●歓談風景　その二



●功労賞・奨励賞　表彰

３．全日本実業柔道団体対抗大会を振り返る

全日本実業柔道連盟主催の「第 64 回全日本実業柔道団体対抗大会」が平成 26 年 6 月 7 日、8 日、静岡県武道館にて開催された。今大会において特筆すべき出来事は、男子第三部において静岡県警察チームが第２位に、そして東海翔柔クラブが第３位になったことである。

厚生労働大臣杯争奪

第64回 全日本実業柔道 団体対抗大会



開催日　平成26年 6月7日(土)～8日(日)

場　所　静岡県武道館

こども☆みらい☆輝くまち
for the future, for the children
60
藤枝市制施行60周年

主　催　全日本実業柔道連盟

主　管　東日本実業柔道連盟・静岡県柔道協会

後　援　厚生労働省、(公財)全日本柔道連盟、(公財)講道館、読売新聞社、静岡県、静岡県教育委員会
(公財)静岡県体育協会、藤枝市、藤枝市教育委員会、NPO法人藤枝市体育協会、藤枝市観光協会
藤枝商工会議所、(公社)静岡県柔道整復師会、静岡県武道協議会、静岡新聞社・静岡放送
中日新聞東海本社、静岡朝日テレビ、だいいちテレビ、テレビ静岡

大 会 次 第

開 会 式

1．役員・選手入場
2．開会宣言　　大会委員長　和 田 慶 宏
3．国歌斉唱
4．優勝旗、優勝杯返還
　　男子第１部　旭 化 成 Ａ
　　男子第２部　パ ー ク 24
　　男子第３部　旭　化　成
　　女子第１部　三井住友海上火災保険
　　女子第２部　JR東日本女子柔道部A
5．あいさつ　　大会会長　宗 岡 正 二
6．祝　　辞
　　藤枝市長　北 村 正 平
7．年間最優秀選手賞
　永野重雄賞　　パーク24　海老沼　匡
　宮崎　輝賞　　了徳寺学園　緒方亜香里
8．功労者表彰
9．試合上の注意　　審判長　諏 訪　剛
10．選手宣誓　　旭化成　野 田 嘉 明
11．役員・選手退場

表彰式（第１日目）
　(1)団体賞　男子第３部
　　女子第１部
　　厚生労働大臣杯
　　賞状・優勝旗・優勝杯
　　読売新聞社賞
　　藤枝市長賞
　(2)個人賞
　　優秀選手賞

閉 会 式

1．役員・選手入場

2．成績発表並びに表彰
　(1)団体賞　男子第１部
　　男子第２部
　　女子第２部
　　厚生労働大臣杯
　　賞状・優勝旗・優勝杯
　　読売新聞社賞
　　藤枝市長賞
　(2)個人賞
　　優秀選手賞

3．閉会宣言
　　大会委員長　和 田 慶 宏

4．役員・選手退場

大 会 日 程

月　日	行 事 名	時　間	場	所
6月6日(金) 大会前日	練習	13：00～17：00	静岡県武道館	第１、第２道場
	選手変更受付	15：00～16：30	ホテルアソシア	会議室
	理事会・定時総会	16：30～17：00		
	監督会議	17：00～18：00		
	女子予備計量	16：00～16：30	静岡県武道館	女子更衣室
	女子公式計量	16：30～17：00		
6月7日(土) 第１日目	審判会議	８：45～９：15	静岡県武道館 男子：第３部 女子：第１部	会議室
	開会式	９：30～		試合場
	試合開始	開会式終了後		
	練習	13：00～17：00		第１、第２道場
	女子予備計量	16：00～16：30		女子更衣室
	女子公式計量	16：30～17：00		
	表彰式	16：30～(予定)		試合場
	レセプション	19：00～20：30	ホテルアソシア	駿府
6月8日(日) 第２日目	審判会議	８：45～９：15	静岡県武道館 男子：第１部 第２部 女子：第２部	会議室
	試合開始	９：30～		試合場
	表彰式	14：00～(予定)		
	大会終了	14：30　(予定)		

試 合 場 割 当 表

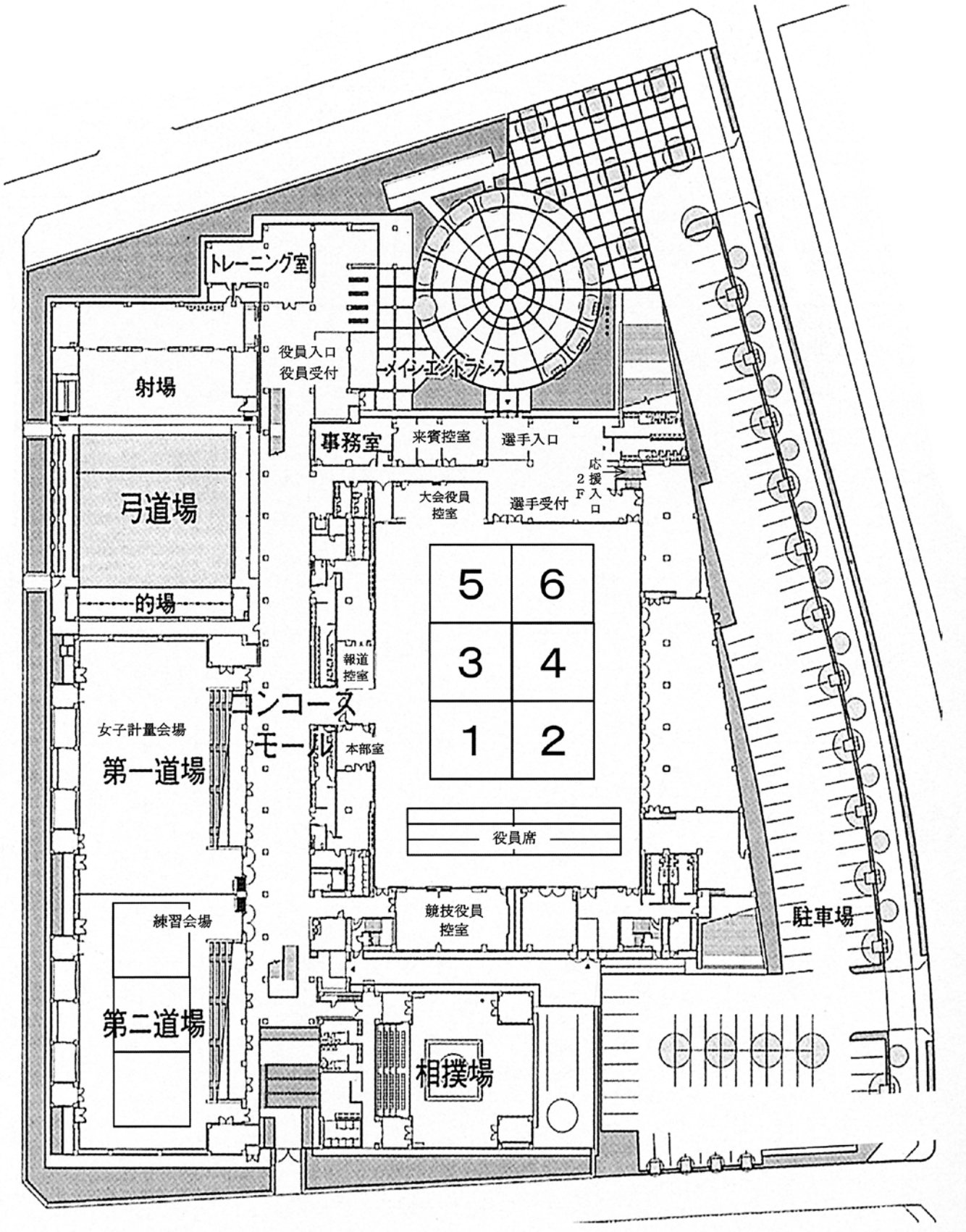
【第１日目】　６月７日(土)

NO.	第１試合場	第２試合場	第３試合場	第４試合場	第５試合場	第６試合場
９時30分　～開会式						
1	男③－１	男③－４	男③－９	男③－18	男③－20	男③－25
2	男③－２	男③－５	男③－10	男③－19	男③－21	男③－26
3	女①－１	男③－６	男③－11	男③－14	男③－22	男③－27
4	女①－２	男③－７	男③－12	男③－15	男③－23	男③－28
5	男③－３	男③－８	男③－13	男③－16	男③－24	男③－29
6	女①－３	男③－31	男③－34	男③－17	男③－40	男③－43
7	女①－４	男③－32	男③－35	男③－37	男③－41	男③－44
8	男③－30	男③－33	男③－36	男③－38	男③－42	男③－45
9	女①－５	男③－46	男③－48	男③－39	男③－51	男③－53
10	女①－６	男③－47	男③－49	男③－50	男③－52	男③－57
11	男③－56	男③－54		男③－55		
12	男③－58準決勝	男③－59準決勝				
13	男③－60決勝					

【第２日目】　６月８日(日)

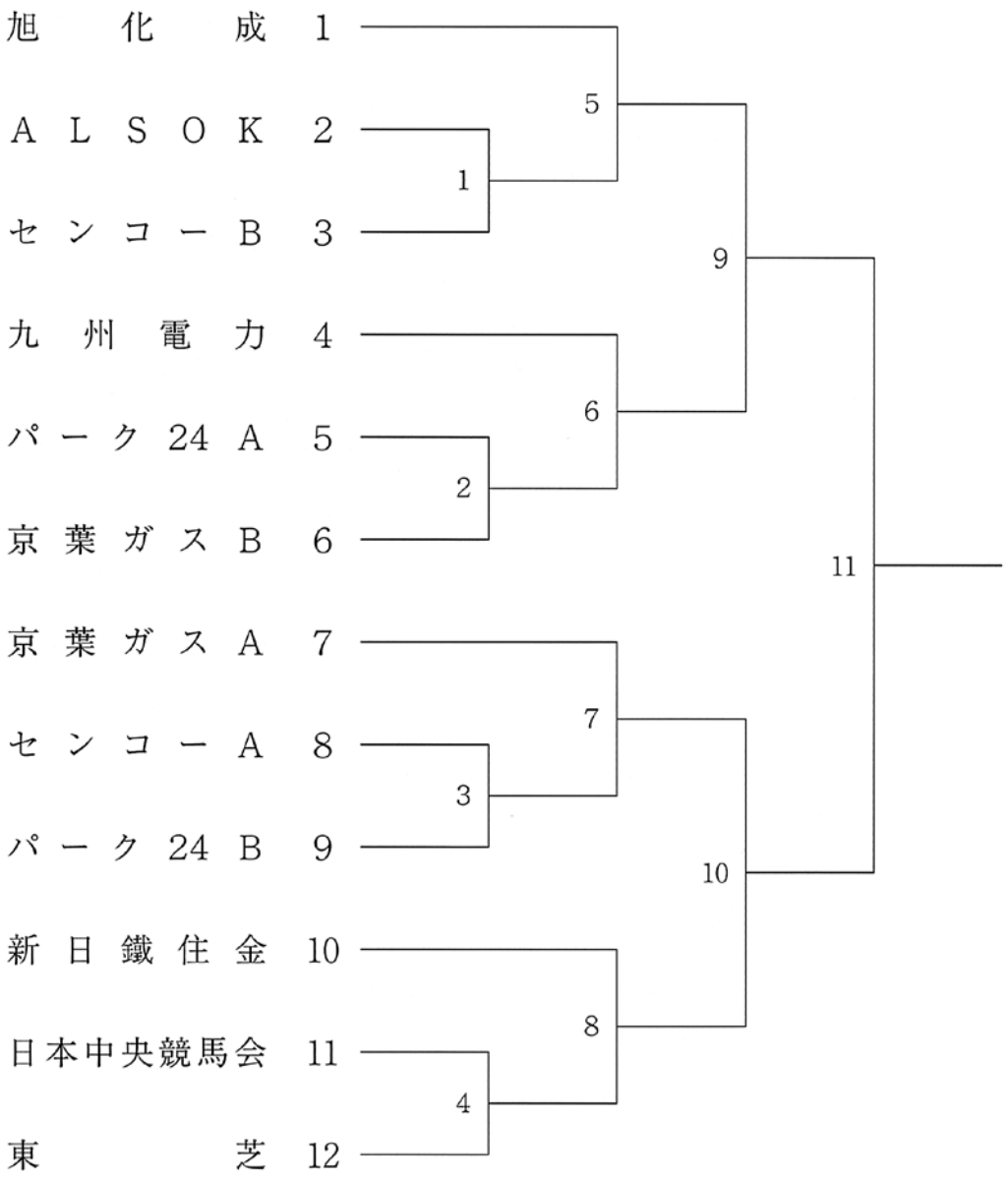
NO.	第１試合場	第２試合場	第３試合場	第４試合場	第５試合場	第６試合場
９時30分　～試合開始						
1	男①－１	男①－３	女②－２	女②－４	女②－６	女②－１
2	男①－２	男①－４	女②－３	女②－５	女②－７	女②－８
3	女②－10	女②－12	男②－１	男②－３	男②－５	女②－９
4	女②－11	女②－13	男②－２	男②－４	男②－６	男②－７
5	男①－５	男①－７	男②－９	男②－11	男②－13	男②－８
6	男①－６	男①－８	男②－10	男②－12	男②－14	男②－15
7			男②－17	男②－18	男②－19	男②－16
8						男②－20
9	女②－14準決勝	女②－15準決勝	男②－21準決勝	男②－22準決勝		
10	男①－９準決勝	男①－10準決勝				
11	女②－16決勝					
12	男②－23決勝					
13	男①－11決勝					

会　場　図


トレーニング室
役員入口
役員受付
メインエントランス
射場
事務室
来賓控室
選手入口
応援2F入口
弓道場
大会役員控室
選手受付
的場
報道控室
5
6
3
4
1
2
コンコース
女子計量会場
モール
本部室
第一道場
役員席
練習会場
競技役員控室
駐車場
第二道場
相撲場

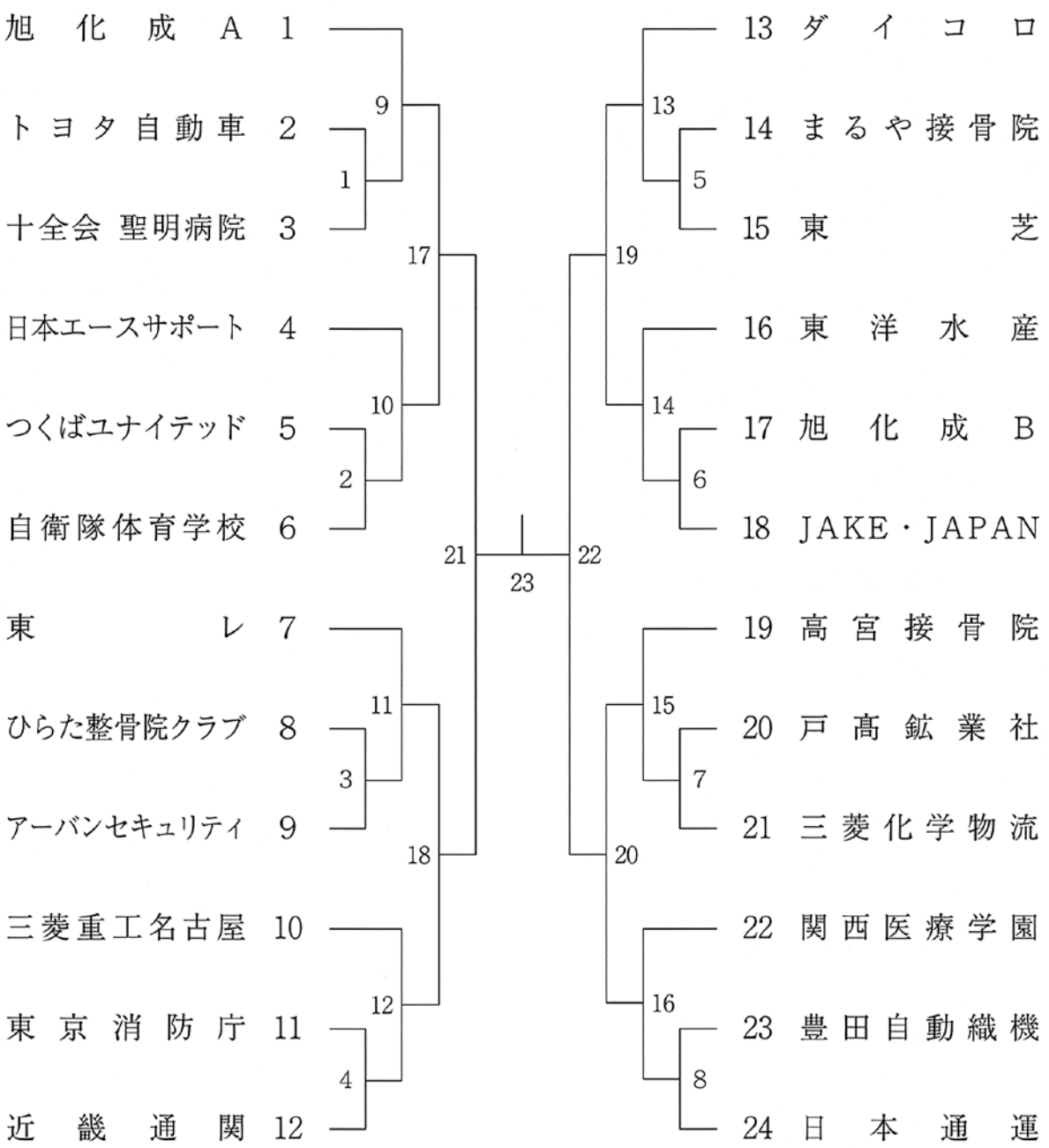
男子第１部　　組み合わせ表

優　勝	
準優勝	
第３位	
第３位	



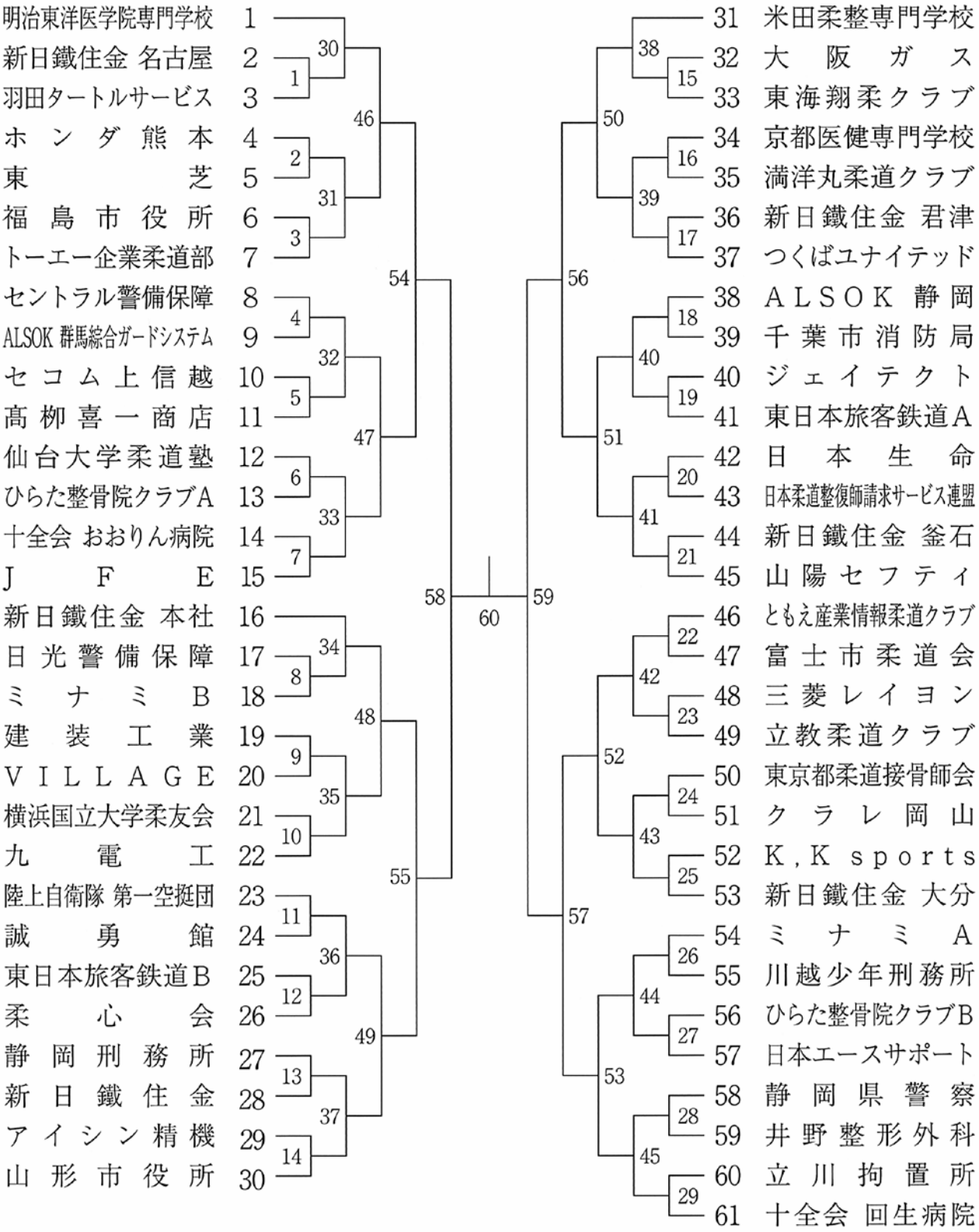
男子第２部　組み合わせ表

優　勝	
準優勝	
第３位	
第３位	



男子第３部　　組み合わせ表

優　勝	
準優勝	
第３位	
第３位	



女 子 第 1 部

	三井住友海上火災保険	JR東日本女子柔道部	コ　マ　ツ	自衛隊体育学校	勝敗	順位
1 三井住友海上火災保険		1	3	6		
2 JR東日本女子柔道部			5	4		
3 コ　マ　ツ				2		
4 自衛隊体育学校						

1　三井住友海上火災保険　対　JR東日本女子柔道部
2　コ　マ　ツ　対　自衛隊体育学校
3　三井住友海上火災保険　対　コ　マ　ツ
4　JR東日本女子柔道部　対　自衛隊体育学校
5　JR東日本女子柔道部　対　コ　マ　ツ
6　三井住友海上火災保険　対　自衛隊体育学校

＊＊

女子第２部　　組み合わせ表

優　勝
準優勝
第３位
第３位



参加チーム一覧

No.	団体名	所在地	男子			女子	
			1部	2部	3部	1部	2部
1	アーバンセキュリティ	東京		1			
2	アイシン精機	愛知			1		
3	旭化成	宮崎	1	2			
4	ALSOK	東京	1				1
5	ALSOK 北関東綜合警備保障	栃木					1
6	ALSOK 群馬綜合ガードシステム	群馬			1		
7	ALSOK 静岡	静岡			1		
8	井野整形外科	群馬			1		
9	VILLAGE	神奈川			1		
10	大阪ガス	大阪			1		
11	川越少年刑務所	埼玉			1		
12	関西医療学園	大阪		1			1
13	九州電力	福岡	1				
14	JR九州	福岡					2
15	九電工	福岡			1		
16	京都医健専門学校	京都			1		
17	近畿通関	大阪		1			
18	クラレ岡山	岡山			1		
19	K,K sports	神奈川			1		1
20	京葉ガス	千葉	2				
21	建装工業	東京			1		
22	コマツ	東京				1	
23	山陽セフティ	岡山			1		
24	JR東日本女子柔道部	東京				1	
25	JFE	千葉			1		
26	JAKE・JAPAN	北海道		1			
27	自衛隊体育学校	埼玉		1		1	
28	ジェイテクト	愛知			1		
29	静岡刑務所	静岡			1		
30	静岡県警察	静岡			1		
31	医療法人社団 柔心会	秋田			1		
32	十全会 おおりん病院	福岡			1		
33	十全会 回生病院	福岡			1		1
34	十全会 聖明病院	静岡		1			
35	新日鐵住金	兵庫	1		1		
36	新日鐵住金 本社	東京			1		
37	新日鐵住金 釜石	岩手			1		
38	新日鐵住金 君津	千葉			1		
39	新日鐵住金 名古屋	愛知			1		
40	新日鐵住金 大分	大分			1		
41	誠勇館	静岡			1		
42	セコム上信越	新潟			1		
43	センコー	東京	2				
44	仙台大学柔道塾	宮城			1		
45	セントラル警備保障	東京			1		1
46	創柔会柔道クラブ	東京					1
47	ダイコロ	大阪		1			
48	高宮接骨院	東京		1			
49	高栁喜一商店	静岡			1		
50	立川拘置所	東京			1		
51	千葉市消防局	千葉			1		
52	つくばユナイテッド	茨城		1	1		2
53	東海翔柔クラブ	静岡			1		1
54	東京消防庁	東京		1			
55	東京都柔道接骨師会	東京			1		
56	東芝	東京	1	1	1		
57	東洋水産	東京		1			
58	東レ	滋賀		1			
59	トーエー企業柔道部	北海道			1		
60	戸高鉱業社	大分		1			
61	ともえ産業情報柔道クラブ	東京			1		
62	トヨタ自動車	愛知		1			
63	豊田自動織機	愛知		1			
64	日光警備保障	東京			1		1
65	日本エースサポート	大阪		1	1		1
66	日本柔道整復師請求サービス連盟	大阪			1		
67	日本生命	大阪			1		1
68	日本中央競馬会	東京	1				
69	日本通運	東京		1			
70	パーク24	東京	2				
71	羽田タートルサービス	東京			1		
72	東日本旅客鉄道	東京			2		
73	ひらた整骨院クラブ	大阪		1	2		
74	福島市役所	福島			1		
75	富士市柔道会	静岡			1		
76	ホンダ熊本	熊本			1		
77	まるや接骨院	山梨		1			
78	満洋丸柔道クラブ	愛知			1		
79	三井住友海上火災保険	東京				1	
80	三菱化学物流	東京		1			
81	三菱重工名古屋	愛知		1			
82	三菱レイヨン	広島			1		
83	ミナミ	秋田			2		
84	明治東洋医学院専門学校	大阪			1		
85	ヤックス	千葉					1
86	山形市役所	山形			1		
87	横浜国立大学柔友会	神奈川			1		
88	米田柔整専門学校	愛知			1		1
89	陸上自衛隊 第一空挺団	千葉			1		
90	立教柔道クラブ	東京			1		
計118チーム(男子97・女子21)			12	24	61	4	17

第64回全日本実業柔道団体対抗大会　結果

男子第一部	優勝	旭化成
	２位	新日鐵住金
	３位	パーク２４Ａ
	３位	京葉ガスＡ
男子第二部	優勝	旭化成Ａ
	２位	旭化成Ｂ
	３位	東レ
	３位	日本通運
男子第三部	優勝	新日鐵住金
	２位	静岡県警察
	３位	東芝
	３位	東海翔柔クラブ
女子第一部	優勝	コマツ
	２位	三井住友海上火災保険
女子第二部	優勝	ALSOK
	２位	ＪＲ九州Ａ
	３位	つくばユナイテッドＡ
	３位	創柔会柔道クラブ

優秀選手

男子第一部	吉田優也（旭化成）、西潟健太（旭化成）、吉永慎也（新日鐵住金）、 西山将士（新日鐵住金）、北野裕一（パーク２４Ａ）
男子第二部	小林叡之（旭化成Ａ）、穴井航史（旭化成Ａ）、西田泰悟（旭化成Ｂ）、 齋藤　涼（旭化成Ｂ）、武山大代（日本通運）
男子第三部	武田茂之（新日鐵住金）、酒井高喜（新日鐵住金）、小野勇輝（新日鐵住金）、 山下良輔（静岡県警察）、滝川英克（静岡県警察）
女子第一部	宇髙菜絵（コマツ）、大野陽子（コマツ）、新井千鶴（三井住友海上火災保険）
女子第二部	安松春香（ＡＬＳＯＫ）、田知本　遙（ＡＬＳＯＫ）、野関晴菜（ＪＲ九州Ａ）

4.「柔道しずおか」に見る10年の歩み

今年で「柔道しずおか」も第22号を発行することになっています。そこで今回は、第11号から第21号を概観して、最近の10年を広報委員長の増尾が振り返ることとしました。本来ならば前広報委員長の宮﨑貞夫先生にお願いするべきところなのですが、ご多忙ゆえ不肖増尾が相務めることとなりました。私独自の視点で振り返りますことをお許し願いたく存じます。

広報誌「柔道しずおか」（第11号から第21号まで）を振り返る



静岡県柔道協会広報委員長　増尾清己

「柔道しずおか」を改めて読み返して、「先人達の柔道に対する熱い想い」や「柔道人口減少への危機感」といったことを強く感じる。それらを如実に物語っているのは、各号を飾る「巻頭言」である。この部分を中心にして振り返ってみたい。

第11号では、安齋悦雄理事長の「国体こそ我が柔道人生の道標」と掲げ、国体が若き選手達の登竜門的存在であることを示され、「互いに切磋琢磨する絶好の機会」と述べられた。

第12号には安齋悦雄会長が「柔道を普及させる上で、柔道は楽しいもの、かつ安全なものというイメージが大切」と述べ、その上で競技力向上をと訴えている。

第13号では石黒金次副会長が「日本の柔道発展と後継者育成のために」と題して私見を述べられている。とくに小学生の試合における体重区分の細分化を提唱され、安全性の確保とともに、試合に出場するチャンスを増やし、勝つことの喜びを分かち合えるシステム作りが必要との考えを主張している。それが日本柔道を活性化に繋がると述べられている。

第14号では左口直人副会長が、「より安全な柔道を目指して」と題し、「一本を取る柔道や瞬時の技に対応する受身は、多くの経験の中から身につけるもの」であり、「その体験の場所を試合に求めるのではなく、稽古において作り上げることが必要」と表明されている。

第15号では安齋悦雄会長が、武道必修化に伴う柔道の安全講習の必要性を説き、指導者派遣事業、同育成事業等への積極的関与について述べられています。「指導者一人一人が事故は絶対に起こさないといった信念を持ち、決してネガティブにならず、これまで培われた技量、体験を十分発揮され、自信を持って指導にあたっていただきたい」という言葉がそれを強く物語っている。

第16号では高田勝之副会長が、自身が中学校での柔道授業の協力者として派遣されたときの思い出を語っている。安全配慮はもちろんのこと、礼儀・他者を思いやる心といった、柔道が持つ本来の良さを、中学生や中学の先生方が共有できたことの喜びがひしひしと伝わってくる文面である。

第17号では、川中邦夫副会長が「先師の教え、柔道精神の原点に立ち返り、柔道に関わる一人一人があるべき道を模索していく」事が肝要と提言された。

第18号では現会長の野田昭一会長が「柔道に携わる者全てが、この柔道ＭＩＮＤ（Manner, Independence, Nobility, Dignityの頭文字を取ったもの）を持ち続けていけば、おのずと柔道の素晴らしさが社会全体に理解され、ひいては柔道人口の増加にも寄与するものと確信しています」と述べている。

第19号では田中秀幸副会長が「柔道を習い始める個々人のニーズを満たす指導を施すことに必要性」を説き、指導者が日々研鑽に努めなければならないと述べている。さらには人間教育としての柔道指導に言及している。

第20号では髙田和夫副会長が、「雑感」と称して、県柔道協会のこと、リオ五輪から思うこと、柔道人口減少のことの三点から語っている。特に柔道人口の減少については多面的検証を加えての論理で、厳しさだけではない指導の提案をされている。

第21号では間宮幸男副会長が本県の柔道界を取り巻く厳しい現状に触れ、学校統廃合による部活動存続が出来なくなり、結果的に柔道離れに歯止めがきかない状況を打開する策を模索していくことを語っている。

もちろん広報誌の役割は、その年度の出来事をまとめていくことに重点があるのは言うまでもない。今後も静岡県柔道界に微力ながら寄与できればと思っている。

「柔道しずおか」第 11 号から 21 号まで

題字
高柳会長

第11号

柔道しずおか

平成20年３月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒431-0302　静岡県浜名郡新居町新居3035-6　石黒金次
TEL・FAX〈053〉594-2403

【巻頭言】

「国体」こそわが柔道人生の道標

静岡県柔道協会副会長・理事長　八段　安齊悦雄

第62回秋田国体の際、㈶全日本柔道連盟の推薦により栄誉ある「国体功労者表彰」を受賞した。これは、㈶日本体育協会の表彰制度に従い「国体に通算30回以上参加した者」に与えられるものである。私の場合、今回に至るまで、選手として10回、監督として10回、総監督２回、審判員６回、本部役員３回、競技役員１回合計32回参加したことになる。

９月29日、総合開会式に先立ち、県体協　斉藤斗志二会長のご配慮により、県選手団の前で受賞報告と花束贈呈という思いがけないセレモニーが用意され、晴れがましい想いで何年か振りかの入場行進に選手団とともに参加することができた。

開会式終了後、秋田キャッスルホテルでの表彰式に臨み、森喜朗　日体協会長より表彰状を授与された。さらに懇親会の席上では、ご臨席を賜った天皇・皇后両陛下に拝謁、今回の表彰経緯をご報告申し上げると、「これまで本当にご苦労様でした。今後も一層励んでください。」と親しくお言葉を頂戴、まさに感極まった次第である。



森元総理より表彰される

ふり返ってみれば、国体こそわが柔道人生の道標であったと感慨も一入である。

高校二年生で初出場以来、足掛け45年間、視察員やスカウト活動などを加えれば40回を超えたことになる。

この国体で、優勝の歓喜も、惨敗の屈辱も共に味わい、その一つひとつは、今となってみれば貴重な体験だったと思わずにはいられない。

そもそも柔道を始めるきっかけを作ってくれたのも、昭和30年、第10回国体柔道競技が郷里の鎌倉で開かれた時である。当時小学校四年生10歳だった私も、先生に引率されて級友たちと柔道の試合を初めて観戦した。

これを機に鎌倉でも柔道ブームが訪れ、兄や友人たちが町道場へ通い始め、野球少年だった私も時々道場の武者窓から覗くようになり、たちまちその魅力の虜となってしまったのである。もちろん中学入学と同時にためらうことなく柔道部に入部したわけである。

以来、柔道一直線、高校二年17歳の時、初の全国規模の大会、即ち第17回岡山国体で第３位入賞を果たしたことは強烈な印象として今も鮮やかに思い出すことができる。

偶然にも、国体の回数と私の年齢が重なっていることに因縁めいたものを感じ、国体への思い入れを一層強いものにしている。

第62回大会において、わが静岡県チームは大活躍、とりわけ女子は、少年女子３位、成年女子５位となり、皇后杯２位という過去最高の成績を収めてくれたことは、わが柔道しずおかの未来に明るい展望をもたらしてくれたものとして、その健闘を高く評価するとともに、これを機に多くの選手諸君が志を高く夢に向かって翔いてくれることを期待してやまない。

国体は、勝負はもちろん、全国の選手・役員が一堂に会する場として、友情の輪をひろげ、さまざまな情報交換を行い、互いに切磋琢磨する絶好の機会である。

また、開催地の風土や人情に触れることができ、生涯忘れ得ぬ思い出づくりとしても格好の場所でもあろう。

これからも、若い選手たちの登竜門として一層の充実と発展を願うものである。

第62回 国民体育大会

秋田わか杉国体　柔道競技
女子チーム大活躍
皇后杯２位

秋田わか杉国体が、10月7日(日)～9日(火)秋田県立武道館で開催された。県勢は、少年男子は東海大会を勝ち抜くことができなかったが、少年女子、成年男子、成年女子が本大会に出場した。成年男子も3回戦進出とがんばったが、女子チームが、少年女子3位、成年女子5位、皇后杯2位となり大活躍だった。

代表チームの主務を務めた宮本昌人さんからの国体報告と、少年女子チームの先鋒として活躍した加賀谷千保さんの感想を掲載する。



国体で初の皇后杯２位に輝く

◆善戦した成年女子・男子

常葉学園高等学校教諭　宮本昌人

第62回国民体育大会『秋田わか杉国体』が秋田県立武道館に於いて、平成19年10月7日(日)～9日(火)の日程で開催されました。野田総監督をはじめ、少年女子・勝呂監督、成年女子・左口監督・成年男子・渡辺監督のもと、スタッフ・選手が一丸となって上位入賞を目指しました。

成年女子一回戦は、国内外で活躍した強豪をそろえる埼玉県と対戦しました。先鋒・川口、中堅・松本、大将・岡田の3選手が引き分けたため、代表戦で岡田選手と埼玉県の大将・小松崎選手が対戦して、岡田選手の寝技での攻撃が功を奏し、判定で岡田選手が辛勝しました。続いての準々決勝では地元、秋田県チーム（成年女子：優勝）と対戦しました。開催県である秋田県チームの登場とあって、地元チームへの声援は凄まじいものがありました。静岡県チームはそれを跳ね返すような積極的な攻撃を見せましたが、中堅・松本選手が一本負けして、残念ながらベスト8で敗退してしまいました。

しかし、少年少女・成年女子の活躍により、静岡県柔道の歴史はじまって以来、皇后杯・準優勝という輝かしい成績を残すことが出来ました。

成年男子は2回戦からの登場で、山口県と対戦しました。先鋒・川島、次鋒・真野両選手が引き分け。中堅・小椋選手が指導を2回受け、注意で負けてしまったものの、副将・齋藤、大将・土田両選手が、気を吐き積極的に攻撃した結果、相手の反則により優勢勝ちをおさめ、2対1で勝ちました。

3回戦で東京都と対戦した成年男子は惜しくも内容の差で負け、準々決勝進出を逃してしまいました。東京は全日本クラスの選手ばかりで、本県選手は思うような柔道をさせてもらえませんでした。先鋒・川島、次鋒・真野、中堅・小椋の3選手が粘って引き分け。副将・齋藤選手も相手の攻めをよくしのぎましたが、中盤に支え釣り込み足を取られ苦杯をなめました。大将・土田選手はじっくりチャンスを待ち、残り1分15秒、相手が足を掛けにきたところを内股すかしで返し有効を取ることができました。すかさず一本を狙い、そのまま抑え込みに入ろうとしましたが逃げられてしまい、惜敗しました。

今回の国民体育大会は選手の気概あふれる闘いぶりが心に残る大会となりました。

◆試合結果

【少年女子】

10月7日（日）第1日目

1回戦
静岡県(赤)　3対0　長野県(白)

2回戦
東京都(赤)　0対1　静岡県(白)

準々決勝
静岡県(赤)　①対1　千葉県(白)
（内容勝ち）

準決勝
静岡県(赤)　1対①　宮崎県(白)
（代表勝ち）

3位決定戦
静岡県(赤)　1対0　埼玉県(白)

少年女子3位入賞



【成年女子】
10月7日（日）第1日目
1回戦
静岡県（赤）◎対0 埼玉県（白）
（代表勝ち）
準々決勝
静岡県（赤）0対1 秋田県（白）

成年女子ベスト8

【成年男子】
10月8日（月）第2日目
2回戦
静岡県（赤）2対1 山口県（白）
10月9日（火）第3日目
3回戦
東京都（赤）①対1 静岡県（白）
（内容勝ち）

◆3人で一試合

藤枝順心高等学校　**加賀谷千保**

昨年の秋、私は初めて国体に出場しました。会場は、各県の代表選手や応援団で賑わっていました。試合場はとても広く畳が一段上がっていて、ここで試合が出来るのだとワクワクしたことを覚えています。

一回戦の相手は長野県でした。私は先鋒なのでチームの流れをつくるという役割があります。だから、絶対にポイントを取ってこようと思い、試合に臨みました。少しやりにくい相手でしたが、内股で技ありを取って次につなげることが出来ました。続く増田さん、村瀬さんは二人とも一本勝ちで快勝することができました。

二回戦は東京都でした。私の相手は国内外で活躍している中村美里（渋谷教育学園渋谷高校）選手です。しかし、私がポイントを取られてしまったらチームに迷惑をかけてしまうので、何とか引き分けようと思いました。中村選手は組み手が上手く、全くと言っていいほど自分の組み手にすることが出来ません。当然技をかけることも出来ずに、なんとか引き分けに持ち込むことが出来ました。その後、増田さんも引き分けで勝負は大将戦に持ち込まれました。最初、村瀬さんはやりにくそうでしたが払い巻き込みでポイントを取り、そのまま抑え込んでチームを勝利へと導いてくれました。

しかし喜んでいる暇はありません。三回戦の千葉県はインターハイ団体戦三位の八千代高校の選手が代表として出場していました。私の相手は今年のインターハイの個人戦で対戦し、一本勝ちした選手でした。当然ベンチは私の勝ちを計算していたと思います。しかし、逆に有効ポイントを取られ負けてしまいました。私が作ってしまった悪い流れを断ち切るように、増田さんが強敵相手にきっちりと引き分けてくれました。そして大将戦。私は祈るような気持ちでした。…「一本」村瀬さんが見事勝利!! 私のミスを二人がカバーしてくれ、準決勝に進むことが出来ました。

準決勝は宮崎県。私は気持ちを切り替えて試合に臨み、一本を取ることが出来ました。続く増田さんの相手は、インターハイ63kg級優勝者の菊川選手でした。強敵相手に粘りましたが、一本を取られてしまいました。大将戦は引き分け。一対一の同点で代表決定戦となりましたが、僅差で負けてしまいました。

しかし、落ち込んではいられません。まだ、三位決定戦が残っていたのです。相手は埼玉県。三人ともあの有名な埼玉栄高校の選手でした。強敵ですが気持ちで負けてはいけないと思い、強気で試合に臨みました。すると、思っていたよりもあっさりと一本を取ることが出来ました。増田選手の相手はあの上野巴恵（旭川南高校）選手に勝ったことがある池田選手です。しかし増田さんは臆することなく攻めていきました。途中、様子が変わり不安になりましたが、引き分けで大将戦となりました。村瀬さんも引き分け、一対〇で三位入賞することが出来ました。静岡県チームは笑顔で試合を終えました。

後から増田さんに聞いた話ですが、池田選手との試合中に肩がはずれてしまったのだそうです。様子が変わったのはそのせいだったのだとわかりました。しかし、ケガを負っても最後まで試合をやりきったということに、私は大変驚き、感動しました。学校は三人とも別々ですが、全員が心を一つにして戦えたと思います。団体戦は三人で一試合。まさにその通りだと今回の団体戦で改めて感じることが出来ました。

国体出場にあたり、大変多くの方々にお世話になりました。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。今後の自分の柔道に生かせるよう、もっともっと努力していきます。

第62回 国民体育大会
柔道競技静岡県選手団

総監督　野田昭一（静岡学園高校教員）
総　務　間宮幸男（興誠高校教員）
主　務　宮本昌人（常葉学園高校教員）
トレーナー　鈴木孝次（孝心整骨院）

成年男子
監　督　渡辺達也（静岡県警察）
先　鋒　川島靖史（豊岡中学校教員）
次　鋒　真野洋光（東海大学）
中　堅　小椋俊彦（静岡県警察）
副　将　齋藤和仁（静岡県警察）
大　将　土田将正（十全会聖明病院）

成年女子
監　督　左口直人（天竜林業高校教員）
先　鋒　川口有紀（静岡県警察）
中　堅　松本笑嘉（東海大学）
大　将　岡田紘味（三井住友海上火災㈱）

少年女子
監　督　勝呂良三（庵原高校教員）
コーチ　沼野由香利（藤枝順心高校教員）
先　鋒　加賀谷千保（藤枝順心高校）
中　堅　増田奈美（静岡学園高校）
大　将　村瀬晴香（庵原高校）

少年男子（東海大会代表チーム）
監　督　間宮幸男（興誠高校教員）
コーチ　小柳津敬博（東海大翔洋高校教員）
コーチ　宮本昌人（常葉学園高校教員）
先　鋒　朝比奈直治（東海大翔洋高校）
次　鋒　福長優司（静岡学園高校）
中　堅　山下亮輔（静岡学園高校）
副　将　平井亮輔（東海大翔洋高校）
大　将　外村健行（東海大翔洋高校）

第49回

静岡県柔道祭開催

今年度の柔道祭は、５月６日（日）午前９時30分から例年通り静岡県武道館で開催された。開会式に続いて、恒例の柔道協会表彰が行われた。特別功労賞２名、功労賞11名が表彰された。また、優秀選手賞として、第21回全日本視聴覚障害者柔道大会63kg級で優勝した山内真由美さん（高山柔道塾）が表彰された。

今年度からスポーツ祭が無くなり、県下の柔道家が一同に集う大会はこの柔道祭だけになった。小学生から一般まで多くの柔道家の元気な声が一日中響いていた。

静岡県柔道協会表彰

特別功労賞

七段　中西儀久、加藤一郎

功労賞

七段　竹島政幸
六段　丸山　繁
五段　古屋定彦、宮本武幸
　　佐野慎吾、鈴木克美
　　高山直久、阿部光好
四段　中澤一仁、坪内仁志
参段　渡辺寿久

優秀選手賞

初段　山内真由美（高山柔道塾）
第21回全日本視覚障害者柔道大会　63kg級　優勝

講道館柔道形の部優秀賞

投の形　取四段　斉藤収司
　　受三段　尾藤設則
　　（士道会）
極の形　取五段　森下良男
　　受四段　髙林裕介
　　（浜北柔道協会）
柔の形　取六段　一瀬　誠
　　受六段　竹内紀久夫
　　（浜北柔道協会）

団体成績

小学校の部

1位　伊豆長岡柔道会
2位　大仁柔道会
3位　高山柔道塾
3位　新居町柔道少年団

中学校の部（男子）

1位　静岡学園中学校
2位　東海大翔洋中学校
3位　錦田中学校
3位　長岡中学校

中学校の部（女子）

1位　市立沼津高校中等部
2位　東海大翔洋中学校
3位　富士宮第一中学校
3位　常葉学園橘中学校

高校の部（男子）

1位　静岡学園高校
2位　東海大翔洋高校
3位　飛龍高校
3位　浜松工業高校

高校の部（女子）

1位　庵原高校
2位　浜松商業高校
3位　藤枝順心高校
3位　静岡学園高校

一般の部

1位　富士市柔道会
2位　東海翔柔クラブ
3位　静岡産業大学
3位　滝井道場

優秀選手

小学校の部

遠藤太一（伊豆長岡柔道会）
渡辺明星（大仁柔道会）

中学校の部（男子）

小澤秀彰（静岡学園中学校）
佐藤貴也（東海大翔洋中学校）

中学校の部（女子）

神山結理（市立沼津高校中等部）
瀬川直莉（東海大翔洋中学校）

高校の部（男子）

正治和也（静岡学園高校）
堀川達也（東海大翔洋高校）

高校の部（女子）

村瀬晴香（庵原高校）
兼子貴江（浜松商業高校）

一般の部

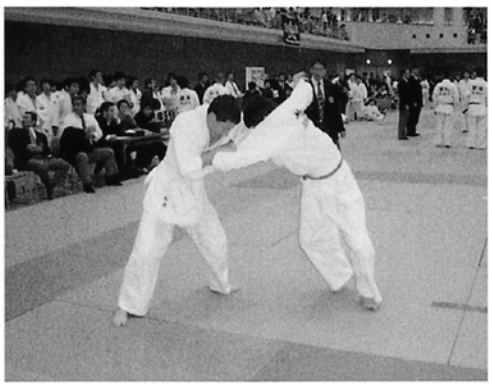
土田将正（富士柔道会）
小笠原一敏（東海翔柔クラブ）

◆皇后杯２位祝賀会開催

秋田国体で静岡県女子チームは成年女子が５位、少年女子が３位に入賞し、総合２位になった。静岡県柔道にとって初めての快挙であり、１月19日（土）静岡で祝賀会を行った。高柳会長の挨拶に続き、女子県チームの監督・コーチ・選手に賞状と記念品が贈呈された。国体を思い出しながら、話に花が咲いた夜だった。



第一回静岡スポーツフェスティバル柔道競技について



第一回静岡スポーツフェスティバル柔道競技が平成19年11月11日に行われた。西部地域大会が浜北総合体育館グリーンアリーナ、東部地域大会は沼津市勤労者体育センターを会場に実施された。大会会長よりご挨拶があり、その中で第一回静岡スポーツフェスティバル大会会長斉藤斗志二様からのフェスティバルの経緯・趣旨説明メッセージが紹介された。次にご来賓の方々からご挨拶をいただいた。その後、元気な選手宣誓があり大会が開始された。

西部地区の大会の小学生低学年は3人制による団体点取り試合で実施された。団体戦に初めて出場する選手も見られ緊張感が感じられたが、試合が進むにつれて日ごろの練習の成果が発揮されているようだった。小学生高学年は5人制による団体点取り試合で実施された。

中学生男子は5人制による団体点取り試合で実施された。技のきれやスピード感があり見ごたえのある試合が随所に見られた。

中学生女子は3人制による団体点取り試合で実施された。体重差、実力差が感じられる試合が多くあった。また、三人選手がそろわず二人で出場するチームもあり、選手不足が表面化してきた。

高校生男子は一年生で無段者・有段者の体重別個人試合で実施された。無段者で黒帯を目指す選手が元気よく一本を取る柔道をしていた。有段者では来年を見据えての厳しい試合が繰り広げられていた。

高校生女子は一年生で無段者・有段者の体重別個人試合を計画したが、有段者軽量級のみに参加があり、物足りなさを感じたが、選手は真剣に試合をしていた。

成年は段別個人戦で実施された。公認試合ということもあり参加者が多く、年齢を感じさせない良い試合で汗を流していた。

東部地区でも5人制の小学生団体戦の部、3人制の中学生女子団体戦の部、5人制の中学生男子団体戦の部、高校生個人の部（有段者と無段者の部）、段別の一般の部に分かれて熱戦が展開された。

第一回目ということもあり参加を控えていたチームもあったようだが、底辺の拡大・柔道人口を増やすためには、今後大会が継続されるように協力をしていただけることを願っている。

柔道協会表彰

平成19年11月10日(土)
午後2時から

例年県民スポーツ祭の県大会で実施していた柔道協会表彰ですが、今年度から県民スポーツ祭が無くなり、各地区ごとのスポーツフェスティバルに変更になったため、県の理事会に合わせて実施された。

今年度の表彰者は下記の通りだが、都合で表彰対象者本人が参加されたのは6名だった。最初に高柳会長から挨拶があり、続いて記念品と賞状が授与された。



柔道協会表彰

◆優秀選手

○都道府県対抗
第23回全日本女子柔道大会
団体第3位
監督　六段　左口直人（天竜林業高等学校）
大将　二段　岡田紘味（三井住友海上火災㈱）
副将　二段　松本笑嘉（東海大学）
中堅　二段　杉山希美（東海大学）
次鋒　三段　川口有紀（静岡県警察）
先鋒　三段　望月加奈子（常葉学園橘高等学校）

○第10回全日本女子ジュニア
柔道体重別選手権大会
52kg級　優勝
2007年韓国ジュニア
国際柔道大会
52kg級　優勝
初段　加賀谷千保（藤枝順心高等学校）

○第56回全国高等学校
総合体育大会柔道競技
男子　66kg級　第3位
初段　正治和也（静岡学園高等学校）

○第38回全国中学校柔道大会
女子　44kg級　第3位
片岡まゆ（富士宮第一中学校）

岡田選手全日本出場

天竜林業高校卒業、三井住友海上火災所属の岡田さんが昨年に続き今年度も全日本女子選手権大会に出場した。上位進出は成らなかったが、今後の活躍に期待したい。

平成20年静岡県柔道選手権兼全日本柔道選手権大会予選会

平成20年2月10日（日）
県武道館

男子の部
第1位　小椋俊彦（機動隊）
第2位　増田圭省（セコム）

女子の部
第1位　野呂　瞳（富士柔道会）
推　薦　岡田紘味（三井住友海上火災）
以上4名が東海地区予選会に出場する。

第4回全国小学生学年別柔道大会

平成19年8月19日
愛媛県武道館

○男子5年生45kg級
加藤雄哉（神士館）　予選リーグ敗退
○男子5年生45kg超級
花井拓哉（積武館）　予選リーグ敗退
○男子6年生50kg級
矢萩大貴（神士館）　予選リーグ敗退
○男子6年生50kg超級
佐藤和哉（武道学舎）　予選リーグ敗退
○女子5年生40kg級
渡邉香奈（静岡錬心館）　予選リーグ敗退
○女子5年生40kg超級
遠田真子（清水柔道倶楽部）　予選リーグ敗退
○女子6年生45kg級
伊奈郁乃（伊豆長岡柔道会）　予選リーグ敗退
○女子6年生45kg超級
滝川真央（友愛道場）　決勝トーナメント（ベスト16）

第38回全国中学校柔道大会

平成19年8月22日～25日
山形県総合運動公園総合体育館

男子団体
静岡学園中学校　予選リーグ2勝
静岡学園中①―1
　青森山田中（青森）
静岡学園中2―1
　藍住中（徳島）
静岡学園中学校
　決勝トーナメント1回戦敗退
静岡学園中0―2
　太刀洗中（福岡）

女子団体
東海大翔洋中学校
　予選リーグ1勝1分
東海大翔洋中1―1
　福工大福井中（福井）
東海大翔洋中2―1
　五十市中（宮崎）
東海大翔洋中学校
　決勝トーナメント2回戦進出
東海大翔洋中2―0
　國学院栃木中（栃木）
東海大翔洋中0―2
　藍中（兵庫）（ベスト8）

男子個人
55kg級　惟村伸平（愛鷹中）　初戦敗退
60kg級　吉澤　駿（静岡学園中）　初戦敗退
66kg級　土田彰吾（錦田中）　初戦敗退
73kg級　小和田省三（観山中）　2回戦進出
81kg級　時田　卓（葉梨中）　2回戦進出
90kg級　渡辺　漢（高台中）　初戦敗退
90kg超級　鈴木悠仁（福田中）　初戦敗退

女子個人
44kg級　片岡まゆ（富士宮一中）　第3位入賞
48kg級　豊島菜摘（常葉学園中）　2回戦進出
52kg級　長嶋麻未（市立沼津中）　3回戦進出（ベスト16）
57kg級　村上のどか（市立沼津中）　2回戦進出
63kg級　小野千裕（愛鷹中）　3回戦進出（ベスト16）
70kg級　渡辺貴子（富士宮一中）　4回戦進出（ベスト8）
70kg超級　瀬川直莉（東海大翔洋中）　3回戦進出（ベスト16）

第56回全国高等学校総合体育大会

平成19年8月8日～12日
佐賀県基山町総合体育館

男子団体戦　静岡学園高等学校
全国ベスト16に入り優秀賞となる
予選リーグ　優勝
一回戦　静岡学園3―1
　長崎東（長崎）
二回戦　静岡学園5―0
　城ノ内（徳島）
決勝トーナメント戦　初戦敗退
一回戦　静岡学園1―2
　山形工業（山形）

女子団体戦　庵原高等学校
予選リーグ　2位
一回戦　庵原高校1―1
　宮崎商業（宮崎）
二回戦　庵原高校1―1
　旭川大高（北海道）

男子個人戦
60kg級　朝比奈真治（東海大翔洋）　初戦敗退
66kg級　正治和也（静岡学園）　第3位入賞
73kg級　福長優司（静岡学園）　ベスト16
81kg級　前原　聖（浜松商業）　初戦敗退
90kg級　山下諒輔（静岡学園）　初戦敗退
100kg級　伊野和也（飛龍）　ベスト16
100kg超級　外村健行（東海大翔洋）　ベスト16

女子個人戦
48kg級　鈴木由紀乃（藤枝順心）　ベスト16
52kg級　加賀谷千保（藤枝順心）　ベスト16
57kg級　勝呂　綾（庵原）　初戦敗退
63kg級　中尾彩乃（東海大翔洋）　ベスト16
70kg級　鈴木流風（浜松商業）　ベスト16
78kg級　増田奈美（静岡学園）　ベスト8
78kg超級　村瀬晴香（庵原）　初戦敗退

男子第39回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
女子第10回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会

平成19年7月1日
静岡県武道館
　各クラス優勝者は東海大会に出場、東海大会の優勝者が全国大会出場

男子ジュニア
60kg級　吉竹雄城（常葉学園橘）　全国大会出場（ベスト8）
66kg級　正治和也（静岡学園）
73kg級　堀内将志（東海大翔洋）
81kg級　遠藤　仁（静岡産業大）
90kg級　後藤　亮（東海大翔洋）
100kg級　平井亮輔（東海大翔洋）
100kg超級　坂中慎吾（静岡産業大）

女子ジュニア
48kg級　鈴木由紀乃（藤枝順心高）
52kg級　加賀谷千保（藤枝順心高）　全国大会出場（優勝）
57kg級　勝呂　綾（庵原高）　全国大会出場
63kg級　中尾彩乃（東海大翔洋）　全国大会出場
70kg級　山村瑞葉（浜松北高）
78kg級　増田奈美（静岡学園高）　全国大会出場（ベスト8）
78kg超級　村瀬晴香（庵原高）　全国大会出場（ベスト8）

都道府県対抗 第23回全国女子柔道大会 3位入賞

都道府県対抗第23回全国女子柔道大会が平成19年6月16日・17日に岡山武道館で開催され、一昨年に続いて全国3位に入賞することができた。監督を務められた天竜林業高校の左口先生より報告をいただいたので掲載する。

監督　左口直人（天竜林業高校教員）
先鋒　望月加奈子（常葉学園橘高校教員）
次鋒　川口有紀（静岡県警察）
中堅　杉山希美（東海大学学生）
副将　松本笑嘉（東海大学学生）
大将　岡田紘美（三井住友海上火災㈱）

予選リーグ
静岡県　0―1　神奈川県
静岡県　3―1　京都府
予選リーグ3県三竦みになり、勝ち点内容がよい静岡県が決勝トーナメントに出場

決勝トーナメント
1回戦
静岡県　2―1　茨城県
若い二人が（杉山、松本）が、「ここ一番の力を発揮して2勝した」、後ろ3人の力で勝利した。しかし、前の二人が流れを作ってくれたことがチームの勝因である。

2回戦
静岡県　2―0　千葉県
この試合も前の二人が流れを作り、若い三人がのびのびと試合をした事が勝因である。杉山・松本・岡田が少しずつではあるが自信をつけたように感じられた。この試合で望月が負傷した。残り1分を片足で戦ったことが全員の闘志を燃え上がらせた事も勝因である。

準決勝
静岡県　1―4　愛媛県
望月の負傷はチームにとっては大変痛かったが、後を川口が繋ぎ若い三人が一丸となり強化指定選手に挑戦していった。力及ばず敗れたものの、今後の静岡県の柔道界にとって大きな財産になったと思う。

★総評
全体的には他県と比べて若いチームだと思われる。先鋒の望月はチームの柱として、次鋒の川口はチームのムードメーカーとしてその役割をしっかり果たしてくれた。中堅の杉山は試合に慣れるに従って力を出してきた。副将の松本も昨年に比べて落ち着きが出てきたと思う。大将の岡田は精神的にも技術的にも成長過程にあり来年は今年よりさらに期待できる。

若いチーム故のもろさもあるが、今後多くの大会で経験を積んでいけば面白いチームができると感じた。また、大学生の参加を呼びかけ、層の厚さを増すことが今後の課題であると思う。



◆教員大会を振り返って…

監督　伊藤武治

8月5日、大分県立総合体育館におきまして第63回国民体育大会リハーサル大会として第32回全国教員柔道大会が開催されました。静岡県チームは選手も若く『団結力』で試合に臨みました。一回戦はシードで沖縄対大阪の勝者と対戦することになり試合を見ていましたが、大阪が4―1で圧勝し対戦することになりました。厳しい試合が予想されましたが選手一人一人が悔いのない試合をしてくれることを望みました。

引き分け狙いにきている相手からポイントを取るのは大変厳しいものがありましたが、選手は力を出し切って試合をしてくれました。試合中に怪我をする他県選手も見られ、練習不足がちな教員の試合には今後議論を呼びそうな感じがします。試合以外の時間で選手たちと情報交換をし、柔道に対する熱意・情熱が感じられ、先輩指導者として大変有意義な時間を過ごすことができ感謝しています。

2回戦　静岡県0―1大阪府

第32回全国教員柔道大会
静岡県選手団名簿

監督　伊藤武治　新居高等学校教頭
大将　山崎大介　富士宮北高等学校教員
副将　井口往彦　浜北西高等学校教員
中堅　松野立　浜松城北工業高等学校教員
次鋒　小塚直哉　飛龍高等学校教員
先鋒　佐野薫　清水東高等学校教員



道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区２道場ずつ紹介します。

①名称
②住所
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

韮山柔道教室

②〒410-2123　伊豆の国市四日町231－１
③☎055－949－6664（長嶋）
④会長　　長　嶋　秀　基
⑤小学生47名　中学生16名
　高校、社会人24名（女子21名）

⑥道場紹介

昭和44年４月地元青年団が韮山町青年団柔道教室を創設。47年４月斉藤圭司、小島登両先生が小、中学生を中心に韮山町柔道教室（現韮山柔道教室）と名称変更し毎週火・金は小学生、木は中学～社会人が稽古に励んでいます。

「元気よく楽しく」をモットーに小学生から大人まで巾広く柔道以外に座禅、キャンプ、スキー等楽しみもあります。



伊豆市柔道部

②〒410-3302　伊豆市土肥46（会長宅）
③☎0558－98－2568（事務局　山口雄一）
④会長　　山　口　友　孝
⑤幼児17人　小学生87人　中学生18人
　高校生４人　学生・社会人56人
　計182人



⑥道場紹介

伊豆市柔道部は、平成16年４月１日、４町の合併により誕生した「伊豆市」と共に、山口友孝（元オリンピック・ナショナルコーチ）会長の下に創設されました。

それ以前から活動していた修善寺柔道会、土肥柔道クラブ、天城柔道会、中伊豆柔道会が一つになり、伊豆市柔道部としての活動を始めました。

各地域間は遠距離なため、平日の稽古は、創設前と同様に各地域の道場で行っていますが、１ヶ月に１回程度の合同練習と12月に少年大会を開催するなど、「精力善用　自他共栄」の精神で交流を重点に活動しています。

藤南柔道塾

②〒426-0063　藤枝市青南町２－３－14
③☎054－635－8414
④塾長　　川　中　邦　夫
⑤児童３人　小学生20人　中学生８人
　高校生３人　大学社会人25人

⑥道場紹介

平成14年７月２日、静岡県武道館を稽古拠点として発足した。

火木土の夜間、県下一の道場で稽古ができる喜びをかみしめ励んでいます。

平成19年11月４日に開塾５周年記念藤南少年柔道大会を20団体280名の選手の参加を得て盛大に開催する事ができ、内部的にも塾の絆を更に深めることができました。

塾の目的を「柔道を生涯スポーツととらえ、柔道を通して少年の健全育成を図る」又「邂逅」を旗印としており、柔道を通した出会いを大切に、精進を重ねております。

今後もご指導ご協力をお願い致します。



静岡錬心館

②〒424-0835　静岡市清水区上清水３－４
③☎054－353－2565
④館長　　岡　本　雅　之
⑤小学生31名　中学生11名



⑥道場紹介

平成14年４月、旧東海大一高柔道場をお借りしてスタートしたばかりの道場ですが、「正しい柔道技能の修得を目標に、その修練を通じ心身の鍛練をはかり『精力善用、自他共栄』の精神の体得に努める」を指導方針に、指導者、岡本雅之、林義則、古川隆士三人の情熱だけはどこにも負けないぞという意気込みで指導に当たっています。

現在は、東海大翔洋高柔道場にて、毎週月・火・水・金の19時より21時まで、小学生31名、中学生11名が元気に汗を流しています。

お陰で、全国小学生学年別大会に３名が出場、中学総体でも、４名が全国へ出場、団体でも、今年の中部地区大会で優勝を果たすことができました。

これからも県下各地の伝統ある道場を目標に、「追いつけ、追い越せ」とがんばっていきたいと思います。

菊川市柔道スポーツ少年団

②〒439-0018
静岡県菊川市本所950－47 ㈱ウサミ内
③☎0537－35－2758㈹
④代表者　　沖　　義　和
⑤児童（幼児）１名　小学生36名
中学生12名　高校生４名　大学生２名
社会人（指導者）６名
一般社会人２名　合計63名



⑥道場紹介

私たち菊川市柔道スポーツ少年団は、菊川市体育協会柔道部の一部として活動をしています。道場の歴史は浅いですが地域の各道場様、菊川警察署様のご協力を頂きながら現在は60名ほどの団員になりました。

菊川柔道の団員各自が柔道を始めた理由はそれぞれ違いますが、礼儀を重んじ、生涯スポーツとして柔道を長く楽しみ、当地域で柔道を行う人が少しでも多くなるように、自主性と人の交流を大切にして道場の運営をしております。

新居町柔道スポーツ少年団

②〒431-0303　浜名郡新居町浜名383－１
③☎053－594－0509
④代表者　　白　井　康　二
⑤児童１名　小学生34名　中学生10名
高校生１名　社会人10名

⑥道場紹介

新居町柔道少年団の歴史は故疋田一さんが、昭和39年新居警察の道場を借りて始めた小学生中心の柔道教室が最初です。翌昭和40年、警察道場にて正式に柔道少年団が結成、昭和45年には新居中学柔道部が創設、昭和47年に約100畳の２代目おそんが道場が完成しました。柔道部入部者は全員が少年団員となり、指導も中学生が中心となり疋田先生の基、20年間で団体戦全国３位をはじめ、全国大会４回出場、西部大会８回優勝、個人戦ではＯＢも含めて10名以上が全国大会に出場しました。その間小学生は積極的な活動は余りしませんでした。疋田先生が町長となり、指導が出来なくなったことで中学柔道部が低迷し始めましたが、今後は、中学柔道部は学校の先生にお任せして、小学生の優秀な児童を中学に送ることを目標に、平成４年より小学生を中心とした活動に変わりました。近年卒団生から10名の全中、インターハイ等の全国大会出場者を出しましたが、まだ日本のトップクラスに入る選手は育っていません。我が団の特徴は、将来どんなスポーツにも対応できるように、いわゆる筋トレはやらずに調整力（敏捷性、巧緻性、平衡性）の向上を目指しています。その他毎年、餅つき、遠足、豆まき、合宿、親子柔道教室、ドッジボール大会、スキー教室等の行事を行い、選手以外の団員も楽しめるようにしています。また、毎年少年団主催で県内外から小学生400名を招待して行う柔道大会と、新居町と湖西市を中心とした南浜名湖柔道会主催で年に３回、必ず全員が参加できる大会を、一部国際ルールを用いて開催しています。平成２年には中学柔道場としては、おそらく日本でも余り例のない、約200畳の３代目おそんが道場が完成しました。今後も、このりっぱな大道場に負けないよう柔道人口の底辺拡大に努力していきたいと思います。



平成19年度講道館講習会
静岡県中央指導者講習会

平成19年4月14日（土）
講師　向井幹博先生（講道館道場指導部）



今年度の静岡県中央指導者講習会は、講道館の道場指導部向井先生をお招きして開催された。参加者は協会の関係者を含め、県内各地で主に少年を指導されている先生方約110名であった。

開会式に続いて、向井先生の御講演から講習会は始まった。

講演の内容

小学2年生のときから柔道を始め、筑波大学に進学した。地元の高校教諭を務めた後、筑波大学の大学院に戻り、その後、縁があって講道館で主に少年を指導している。

指導者にとって大切なものは**①パッション**（情熱）**②ミッション**（使命感）**③ハイテンション**（明るく楽しく）の3つだと思っている。

講道館ではアンケートを実施し、通ってきている子供たちのニーズを確認した。試合に出たい子供たちもいることが分かり、従来の練習時間に1時間プラスして試合に出るための指導を加えた。試合では日本一になることは目指さないで、全国ベスト8に入ることを目標にした。

少年指導では、子供たちが指導者に言われたことを的確に行動できるようになることが大事だと感じている。試合に出たい子は3割くらいなので、他の子は精神性を求めてきていることに答えて指導する必要がある。柔道を好きになってもらい、今は弱くても将来柔道の応援団になってくれればすばらしいことだと思っている。

講演に続いて、実技指導が行われた。準備体操を兼ねて「ドラゴンタッチ」を行い、さらに「アニマル」「カエル」「クモ」「カンガルー」「忍者」「ゴリラ」「アザラシ」「キョンシー」などと名づけられているトレーニングを行った。

寝技では、「カメ」からの入り方や「ヒラメ」からの入り方の指導が解説された。

午後からは「タッチ鬼」で体をほぐし、寝技の続きで、「世界一周」と名づけられた連絡変化について解説があった。



続いて立ち技の実技指導が行われた。立ち技では「体さばき」の重要性、特に引き出して技をかけることが実践的に大切で、なかなか大変だがその指導が必要であることを強調された。足技（送り足払い、出足払い、大内刈）の指導方法が紹介された。その後背負い投げの指導法が解説された。

天理大学の藤井省三先生の「ゆさぶり」の必要性を強調されていたのが印象的であった。また、指導者は「一人よがり」にならないことが大事であり、常に自らも学んでいる途中であるという自覚が必要であることも強調されていた。

長年、講道館で少年たちを指導されている向井先生の実技指導は理にかなっており、また技のネーミングやユーモア溢れる指導法は子供たちの興味・関心を高めることに役立っているようだった。先生の返し技に入るときの掛け声である「ライダー変身」は見事であった。

講演、実技指導と全体を通して非常に有意義な講習会になっていた。このような講習会が定期的に行われるとすばらしいと多くの参加者が感じたのではないかと思う。少年レベルの指導法が向上し、柔道の底辺拡大に役立つことを期待したい。



新人選手紹介コーナー

今年度活躍された期待の若い選手を紹介します。今年度も若手選手の活躍状況は、例年通り女性がリードしていますが、男子選手も登場します。団体としては昨年のような報告はできませんが、個人では大いにがんばってくれました。第38回全国中学校柔道大会女子44kg級で準優勝した片岡まゆさん（富士宮市立富士宮第一中学校）、第56回全国高等学校総合体育大会柔道競技男子66kg級第３位の正治和也君（静岡学園高等学校）、そして昨年も登場し、今年は昨年以上の活躍だった第10回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会52kg級で優勝した加賀谷千保さん（藤枝順心高等学校）です。



片岡まゆさん

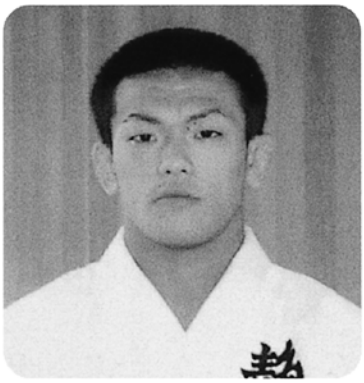
（富士宮市立富士宮第一中学校２年）

◎第38回全国中学校柔道大会
女子44kg級準優勝

期待の女子選手、片岡まゆさんです。柔道を始めたきっかけは、お姉さんが柔道をやっており、その影響を受けて柔道の道に入ったそうです。

「目標は優勝することが目標だったので悔しかった。」と強気に語っています。小学校時代から県のトップ選手として活躍しており、６年では全国ベスト８に進出していますから、順調に実力を伸ばしています。２年生ですから、「来年は48kg級で日本一を目指す。」そして、将来は「谷亮子選手みたいに世界で活躍できる選手になりたい。」と夢を語っています。

顧問の渡辺智之先生より「柔道を楽しんでいる選手である。常に前向きで、どんなに相手が大きくても強くても逃げることなく倒すことだけを考えています。今年の全中は小差の判定であったが、来年は48kg級で日本一を目指します。そのために日々練習に取り組んでいます。」という心強いコメントをもらっている。



正治和也君

（静岡学園高等学校３年）

◎第56回全国高等学校総合体育大会
柔道競技男子66kg級第３位

昨年に続き男子選手が登場してくれます。インターハイで３位に入賞した静岡学園高校の正治和也君です。柔道を始めたきっかけは、いとこが柔道をやっていて自分でもやってみたいと思って始めたそうです。入賞の感想としては次のように語っています。「全国大会で上位に入賞できて本当にうれしかった。今後日本一を目指して頑張って行きたい。」

団体戦のメンバーとしても活躍し、インターハイベスト16進出に貢献しています。今後は日本大学に進学しさらに柔道を続けるそうですから、今後の頑張りに期待したいと思います。

顧問より「チームのキャプテンとしてインターハイでは団体・個人共精一杯やってくれました。今後の活躍に期待したいと思います。」とのコメントをもらっている。



加賀谷　千保さん

（藤枝順心高等学校２年）

◎第10回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会52kg級優勝
◎２００７年韓国ジュニア国際柔道大会女子52kg級優勝
◎２００７年アジアジュニア選手権大会女子52kg級優勝

昨年は高校１年生ながら第９回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会52kg級で第３位に入賞し、この欄に登場してくれた加賀谷さんですが、今年はさらに大きく飛躍してくれました。全日本ジュニアで昨年の借りを返し見事に優勝し、さらに国際大会でも実績を残しました。国体での活躍も見事でした。

入賞の感想は「まさかの自分が優勝できるとは思っていませんでした。嬉しいというよりも信じられないという気持ちの方が大きかったです。」と謙虚です。また、「今はジュニアクラスの強化指定選手なので、今後はシニアクラスでも戦える選手になりたいと思っています。」と今後の希望を語っています。

顧問の沼野先生より「毎日の努力の積み重ねが結果につながったのだと思います。今後も努力をしていくことはもちろん、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに頑張って欲しい。」とエールを送られています。

訃報

故　森本登美夫　八段

平成二十年一月一日逝去
行年八十七歳



森本先生は三島商業高校を卒業し、静岡県警察官を拝命され、県を代表する柔道選手として国体、全国警察大会などに出場し、輝かしい戦績を残された。

先生はその後、警察学校の教官・県警師範として後身の育成に尽力され、多くの人材を世に送り出した。また、常に研鑽を重ね、特に種々の形や活法に精通され、先生の右に出る者はいなかった。

静岡県柔道協会にあっては、県副会長・中部地区幹事長の重責を果たされ、平成十二年には静岡県体育協会から体育賞を贈られている。退任後も柔道協会顧問として適切な助言もいただいていた。

先生は嘉納治五郎師範の説く「精力善用・自他共栄」の心をまさに生涯にわたって実践し、凛とした八十余年の人生を全うされた。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

故　木下浩一　四段

平成二十年一月四日逝去
行年六十七歳



石川県出身。金沢大学卒業後、静岡県高等学校教諭として奉職。浜名高校、磐田農業高校、袋井商業高校、磐田西高校を歴任して、保健体育科教諭、柔道部顧問として活躍された。

お人柄は誠実、温厚実直、且つ剛直であり、生徒指導は熱く、教育者として、人間として、多くの教え子、同僚から敬愛されていた。

磐田西高校在職中に病を得て、定年を待たずに退職され、旺盛な気力で病と闘うも再起叶わず、本年一月四日、惜しまれつつ永眠された。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

故　永野哲夫　七段

平成十九年十二月二十七日
逝去　行年六十七歳



先生は昭和十五年静岡市に生まれ、中学時代、静岡柔道倶楽部に入門。静岡県立静岡高等学校より名門早稲田大学に進み、大澤慶己十段に師事。同期には片岡安現九段（島田市金谷出身）がいる。

卒業後、家業を嗣ぐべく帰省、静岡柔道倶楽部にて一貫して修業を続けてきた。

平成四年には、静岡柔道倶楽部会長に就任、静岡市柔道連盟副会長・静岡県柔道協会監事などの重責を全うされた。

先生は、公明正大な理論家の一方、友誼に篤く、円満なお人柄で、その徳を慕う柔道人は多い。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

全国小学生大会開催

平成20年8月24日（日）に第5回全国小学生学年別柔道大会が浜松アリーナで開催されます。全国47都道府県の代表（5年生と6年生、体重別各2階級の男女で全8階級）が参加し、静岡県は開催県として2名出場でき、全48名を3人ずつのリーグで予選を戦い、決勝トーナメントにつなげていく大会です。

来年度の準備ということで第4回大会を視察してきたのでその報告を簡単にします。

大会前日行なわれた、柔道教室は全柔連が講師選考を行い、今年は篠原選手と徳野選手でした。富山大会では中西英敏先生と山口香先生で男女に分けて指導していました。

試合時間が2分ですから、試合が始まるとどんどん進行していきます。特に、愛媛では8会場にしたので非常にスムースな進行でした。

浜北グリーンアリーナで6月にマルちゃん杯が行われます。この大会を全国大会のリハーサル大会と位置づけていきたいと考えています。国体、マスターズに続く全国大会です。選手に気持ちよく試合してもらえるようがんばろうではありませんか。

トピックス

「バルボザ・ユリ」という名前に記憶はないでしょうか。天竜林業高校で活躍した女子選手ですが、高校卒業後母国ブラジル帰国しました。ブラジルでも柔道を続け、先頃の世界選手権にブラジル代表として出場し、嘉納杯にも元気な姿を見せてくれた。北京オリンピックも十分可能性あるようですのでバルボザさんの今後に注目していきたい。

訂正

柔道しずおか第10号3ページ、3段目に「勝呂綾（庵原）二回戦敗退」となっていますが、「勝呂綾（庵原）全国ベスト16」に訂正します。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

速報

高校新人大会

男子団体

1位　飛龍高校
2位　浜松商業高校
3位　静岡学園高校
3位　東海大学翔洋高校

女子団体

1位　東海大学翔洋高校
2位　浜松商業高校
3位　庵原高校
3位　藤枝順心高校

題字
安齊会長

第12号

柔道しずおか

平成21年３月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒420-0911　静岡市葵区瀬名7-2-38　佐々木秀男
TEL　054-265-5272　FAX　054-265-5274

【巻頭言】

会長就任にあたり

静岡県柔道協会　会長　八段　安　斉　悦　雄



平成20年3月の評議員会において静岡県柔道協会会長に推挙され、身に余る光栄であると同時に責任の重さを痛感している次第であります。

就任にあたり、私なりに平素より考えていたことについて若干述べさせていただきます。

現在、当協会は、運営にあたりまして様々な課題が山積している状況にあります。

そうした課題を一つでも多く解決できるか、また、どのように改善できるのかが、私の役割であり、それが職責であろうと考えております。

当協会は、柔道の普及発展と競技力向上を二本の柱とし、推進しているところであります。

このためには、先ずは、柔道人口の減少対策に取り組まなければなりません。

少子化が加速する中、いかに、柔道人口の減少を食い止めることができるか。あるいは、あわよくば増すことができるかということになろうかと思われます。

この時代、道場で入門者を待っているだけでは、なかなかきてくれません。

柔道の普及については、ポスターや関係施設へのチラシ配布などのPR、普及活動が不可欠であると考え従来から実施していることろです。

柔道を普及させる上で、柔道は、楽しいもの、かつ安全なものというイメージが大切で、これを訴えていかなければならないと考えております。

これをベースとし、未体験の一般を対象とした親子（母子）柔道教室や公開柔道教室等々の継続開催が必要となります。

そして、経験者には安全教室、指導者講習会、審判講習会、生涯柔道を目指した形競技会や高段者大会の開催、柔道ルネッサンス活動、その他、過去の経験者掘り起こしなども同様に大切になってくるわけであります。

また、試合の運営方法等にも改善の余地がありましょう。出場者がステータスを感ずることのできるような会場づくり、整斉と進行できる環境づくり等々であります。

競技力向上については、オリンピックの例を挙げるまでもなく、強くなれば人気が出ます。普及活動の特効薬的な役割を果たします。当協会の組織力・実力というものを県内外に示すことができるものとして、大いに力を注ぐ必要があると思っております。

この他にも、年間行事や役員委嘱に伴う連絡方法の合理的な簡素化、改善すべきことは、たくさんあります。

いっぺんにはできません。初年度は、できることから始めようと、副会長、理事長、事務局長等主要役員と相談し、理事等役員各位の同意を得ながら進めております。

しかしながら、これらを進めていくための財源が必要となることをご理解いただかなくてはなりません。競技人口の減少の中、現在の昇段審査受験料頼みでは、困難となって参ります。

資金作りについての抜本的な方策は、会費問題等々、避けては通れません。将来的には、組織の見直し等も視野に入れながら進めて行かなければならないと考えており、我々からも理事会等を通じ、発信して参りますので、皆様方からの積極的なご意見をお寄せいただきたいと思います。

いずれにいたしましても、協会の運営は会員皆様の協力なしでは成り立ちません。

これら課題を会員全体の共通した問題として正面から対応し、先達が築いてきた伝統ある静岡県柔道協会を正しく継承・発展させていかなければならないと思っておりますので、皆様方のより一層のご協力をお願い申し上げます。



【退任挨拶】
退任に当たり思うこと
～転換期の柔道～

前会長　高柳喜一

三期九年にわたり会長を務め、静岡県の柔道の普及に努めてきた。「感動する柔道」を合い言葉に、柔道人口を増やし、指導者の充実をめざし、国体やマスターズ等の大会を静岡県で行った。

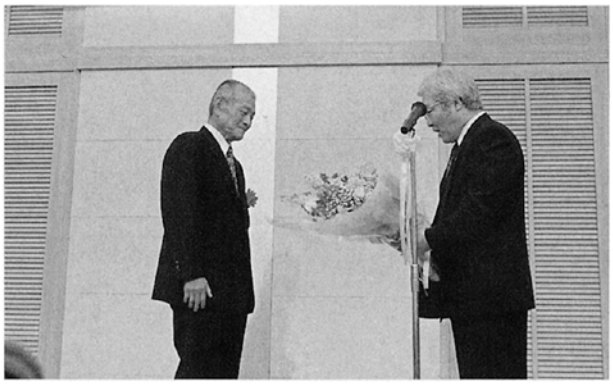
さらなる柔道の発展を期待するが、その上で、今柔道が大きな転換期にあることを認識しておく必要がある。その一つが新しく導入される「世界ランキング制」である。国際大会で勝った選手には賞金が与えられ、また成績に応じてポイントも与えられるようになる。世界中の選手をランキングで分け、ランキングの上位にいなければオリンピックにも出場できなくなる。現在の選考と大きく変り、はっきり分る結果で選手を選ぶというのは分かりやすく、選手も納得できていいという面もある。世界中の選手を、大会毎に強さでランキングすることで、大会の注目度を増す、世界一になろうと選手はより練習に励み、柔道のレベルも上がる。そうしたことで、世界の柔道人口は増えていくであろう。また、賞金が与えられることで、選手が柔道に集中できる環境が整うようになるかもしれない。柔道はアマチュアスポーツで、一部の選手を除き柔道だけで生計を立てるのは年々難しくなっている。不況になると、これまで選手をサポートしていた企業の数が減るからだ。既に賞金制やランキング制が導入されているテニスでは、発祥の地イギリスから、60年以上チャンピオンが出ていないように、柔道においても、日本からチャンピオンがでなくなる可能性がある。そうしたことがないように、後進の指導にしっかりあたっていくことが、これまで以上に求められていくと思う。

さらに、賞金やランキングがあまりに重視されすぎて、柔道の精神を忘れてはならないということだ。嘉納師範は「精力善用」「自他共栄」を柔道哲学とした。「精力善用」とは自分の持つ心身の力を最大限に使って、社会に対して善い方向に用いること、「自他共栄」とは相手に対し、敬い、感謝をすることで信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく、他人と共に栄えある世の中にしようということである。こうした柔道を通して得られる精神こそ大切だという考え方だ。勝つことはもちろん大切だが、それよりも、そこへ至る準備や努力が重要なのである。負けた時は、勝負の道を教えて頂き有り難うございましたと潔く頭を下げ、また努力する、そこに、勝負を越えた、「礼に始まり、礼に終る」嘉納師範の精神があると思う。ランキング制になり、毎回の試合で順位が変わるようになれば、勝つことが一番の目的になる。勝つことはもちろん大事だが、勝ちにこだわるあまり、嘉納師範が掲げた精神を忘れてしまえば、柔道が本来持つ意味がなくなってしまう。柔道の大きな転換点を迎えている今こそ、柔道の基本に立ち返る必要を感じる。

高柳前会長・安齊新会長を囲む会

平成20年6月13日
午後6時30分
ホテルアソシア

110名を超える出席者の中、野田理事長の開式の言葉で囲む会が開始された。司会は佐々木事務局長が担当した。発起人を代表して高田副会長から挨拶があり、両氏に花束が贈られた。高柳前会長へは川中副会長が、安齊新会長には県警の小椋さんが贈呈した。その後両氏の謝辞があり、永田顧問の発声により乾杯が行われ懇談となった。



途中、生後まもないご長男を連れてバルセロナ五輪銀メダリストの溝口氏も参加され花を添えてくれた。高柳・安齊両氏を囲み和やかな歓談が続いた。

予定時間をだいぶ超過して、中西顧問の音頭で万歳三唱が行われ、野田理事長の閉式の言葉で会は終了した。

なお、囲む会に先立って協会役員により慰霊祭が行われ、最近の10年間に亡くなられた柔道協会関係者の霊を慰めた。



第63回 国民体育大会

大分国体成年男子3回戦進出

第63回国民体育大会柔道競技は大分県立総合体育館にて開催され、本県は成年男子のみの出場となった。結果は、3回戦で優勝した東京都に敗退し上位進出はならなかった。国体の様子を渡辺達也監督（静岡県警察）に報告してもらう。



第六十三回国民体育大会柔道競技報告

成年男子監督　渡辺達也（静岡県警察）

第六十三回国民体育大会は、平成二十年九月二十八日から三十日までの間、大分県立総合体育館にて開催されました。

大分県での国民体育大会開催は四十二年ぶりでそのときの柔道少年男子では静岡県が優勝をおさめており、本県とは縁のある県での開催となりました。そして、当時の優勝メンバーで大将で出場した根木谷信一先生（沼津市立高校教員）も応援に駆けつけていただきました。

今回の静岡県チームは、少年男女、成年女子が東海ブロック大会で敗退したことから成年男子のみの参加となり、出場できなかった他の選手のためにも一戦一戦勝ち抜いて静岡の強さを見せなければとチーム一丸となって試合に臨みました。

○静岡県選手団

総監督
野田昭一（東海リハビリテーション専門学院長）

総務
勝呂良三（庵原高校教員）

トレーナー
鈴井孝次（孝心整骨院）

成年男子
監督　渡辺達也（静岡県警察）
先鋒　漆畑　良（東海大学）
次鋒　日下徹朗（静岡県警察）
中堅　小椋俊彦（静岡県警察）
副将　増田圭省（㈱セコム）
大将　齊藤和仁（静岡県警察）

初戦は、二回戦からで、一回戦で鳥取県に勝った山形県との対戦となりました。

【静岡県　二　対　0　山形県】

・先鋒　漆畑（東海大学）
○優勢勝　新野（自衛隊）

序盤は五分の展開。漆畑は右組で小内刈、背負投、袖釣込腰、新野も右組の四つで大外刈、巴投で攻め合う。中盤、新野の右小外刈を上手く捌いて朽木倒で「有効」そのまま攻め続け試合終了。先鋒が勝利したことで試合の流れを掴むことができた。

・次鋒　日下（静岡県警察）
引き分け　斉藤（山形県警察）

お互い左組の合い四つで組み合い、日下は足技を中心に攻める。残り一分、日下の朽木倒で斉藤が横倒しとなり、主審は有効を宣告するも両副審に取り消しとなる。試合終了間際に日下が大外刈を仕掛け、投げたものの僅かにブザーが早く試合終了。

・中堅　小椋（静岡県警察）
引き分け　酒井（山形県警察）

お互いケンカ四つで小椋は、内股、小内刈、体落で積極的に攻めるも決め手がなく時間となる。

・副将　増田（㈱セコム）
○一本勝ち　松田（山形県警察）

開始早々、組際の右一本背負投が見事に決まり「一本」試合時間四秒。静岡県の勝利が決まる。

・大将　齊藤（静岡県警察）
引き分け　海藤（山形県警察）

お互いケンカ四つで齊藤は内股、大外刈、海藤は朽木倒で攻めるが両者譲らずそのまま時間終了となる。

三回戦は、強豪の東京都との対戦。昨年の秋田国体でも三回戦で対戦して一対一の内容差で惜敗していることから、今年こそはなんとか勝ちに結び付けたいと試合に臨みました。

【東京都　四　対　一　静岡県】

・先鋒　江種（警視庁）
○一本勝ち　漆畑（東海大学）

開始早々、漆畑は、組み手を先にとられ何もできないまま右一本背負投「一本負け」

・次鋒　成田（アルゼ）
優勢勝○　日下（静岡県警察）

日下は開始早々、狙いすましたように小外刈から朽木倒への連絡技で「技あり」。その後日下は劣勢となり朽木倒で「有効」を奪われるが、その後巧く捌いて時間終了。

・中堅　西山（新日本製鐵）
○一本勝ち　小椋（静岡県警察）

お互い左組の合い四つで両者激しい組み手争いであったが若干消極的となった小椋に「教育的指導」。二分過ぎに組み勝った西山が仕掛けた大外刈が見事に決まって「一本」となる。

・副将　高井（旭化成）
○棄権勝　増田（㈱セコム）

序盤、増田は袖釣込腰を中心に攻め、高井の内股を巧く捌いていた。増田が裏技を仕掛ける場面もあったが不十分。中盤、高井は左内股から大外刈に連絡し、「技あり」を奪いそのまま押え込みにいくが投げられた際に増田が左手首を負傷し、棄権となる。

・大将　棟田（警視庁）
○一本勝ち　齊藤（静岡県警察）

お互いケンカ四つで引き手の取り合いであるが一分三十秒、齊藤に「教育的指導」その後、棟田の仕掛けた内股が「技あり」となりそのまま袈裟固で抑え込まれ合技「一本負け」となる。

結局、成年男子は東京都が圧倒的な強さで優勝。全日本の一線級の選手をそろえ、層の厚さから常に上位入賞している東京都との対戦でしたが、昨年、今年と対戦できたことは選手にとって良い経験となったと思っています。今後は強化練習等を積極的に実施し、選手の強化に努めていく所存であります。大会出場にあたり、ご支援及びご声援いただいた方々に感謝申し上げ、大会の報告といたします。

◆第56回体育功労賞　8段　中西儀久

柔道協会の東部地区幹事長を長く務められた中西儀久先生が静岡新聞社・静岡放送スポーツ賞（体育功労者賞）を受賞され、祝う会が3月16日ホテル沼津キャッスルで開催された。主催者挨拶に続き、齊藤県体協会長・安齊柔道協会会長から祝辞をいただき、永田重郎顧問の御発声で乾杯、約120名の参加者の参加を得て盛会に行われた。



第63回国民体育大会

東海ブロック予選会 代表選手ならびに結果

平成20年8月17日　愛知県武道館

（メンバー）

総監督　野田昭一（東海リハビリテーション専門学院長）
総務　渡辺達也（静岡県警察）
総務　西川勝啓（裾野高校教員）

成年女子

監督　左口直人（天竜林業高校教員）
先鋒　川口有紀（静岡県警察）
中堅　松本笑嘉（東海大学）
大将　岡田紘味（三井住友海上火災㈱）

少年男子

監督　間宮幸男（興誠高校教員）
コーチ　宮本昌人（常葉学園高校教員）
先鋒　庄司史成（静岡学園高校）
次鋒　鈴木　隼（静岡学園高校）
中堅　伊野和也（飛龍高校）
副将　渡辺祥真（沼津市立沼津高校）
大将　新村三四郎（浜松商業高校）

少年男子支援選手

先鋒　新垣海斗（御殿場西高校）
次鋒　白土　優（浜松商業高校）
中堅　高田博文（静岡学園高校）
副将　平井亮輔（東海大翔洋高校）
大将　堀川達也（東海大翔洋高校）

少年女子

監督　勝呂良三（庵原高校教員）
コーチ　沼野由香利（藤枝順心高校教員）
先鋒　加賀谷千保（藤枝順心高校）
中堅　井深寿美（庵原高校）
大将　土屋文香（東海大翔洋高校）

少年女子支援選手

先鋒　金田結花（浜松商業高校）
中堅　綾部友美（東海大翔洋高校）
中堅　鈴木流風（浜松商業高校）
大将　古木里香（浜松商業高校）

結果

成年女子　静岡3勝　昨年1位で地区予選を通過した時と同じメンバーであったが、リズムが狂ってしまい全敗となってしまった。

少年男子　静岡2勝1敗　同率1位になったが内容差で3位となり、本大会への出場を逃がした。

少年女子　2勝1分　先鋒加賀谷選手の欠場を補欠の金田選手が良く頑張りその責任を果たした。中堅も綾部選手に変更し勝負に出たが、同率1位、内容差で愛知県に惜敗した。

第50回

静岡県柔道祭開催

今年度の柔道祭は5月4日（日）静岡県武道館で開催された。恒例の静岡県柔道協会表彰は以下の方々が表彰された。

静岡県柔道協会表彰

特別功労賞

八段　高柳喜一
七段　山崎陸雄、望月秋男
　　西島外美雄
六段　渡辺篤司

功労賞

五段　西川勝啓、今富孝憲
　　鈴木　精、加藤　宏
　　西川孝治、河合和夫
四段　村松辰巳

優秀選手賞

三段　日下徹朗（静岡県警察）
平成19年度全国警察柔道選手権大会　73kg級　第3位

また、国際大会出場選手紹介ということで、5月17日にフランスで行われるフランスジュニア国際大会女子52kg級に出場する加賀谷千保選手（藤枝順心高校3年）が紹介された。

小学生から社会人まで静岡県内の柔道愛好家が一堂に会する唯一の大会となった「柔道祭」が文字通り「祭り」のように盛大に開催された。

団体成績

小学校の部

1位　錬心館
2位　神士館
3位　大仁柔道会
3位　清水柔道倶楽部

中学校の部（男子）

1位　静岡学園中学校
2位　東海大翔洋中学校
3位　静岡服織中学校
3位　浜松北浜東部中学校

中学校の部（女子）

1位　富士宮第一中学校
2位　静岡学園中学校
3位　常葉学園橘中学校
3位　新居中学校

高校の部（男子）

1位　飛龍高校
2位　浜松商業高校
3位　静岡学園高校
3位　市立沼津高校

高校の部（女子）

1位　東海大翔洋高校
2位　藤枝順心高校
3位　加藤学園高校
3位　浜松商業高校

一般の部

1位　NPO武道学舎
2位　綜合警備保障静岡
3位　富士市柔道会
3位　東海翔柔クラブ

優秀選手

小学校の部

熊澤廣隆（錬心館）
森下北斗（神士館）

中学校の部（男子）

小澤秀彰（静岡学園中学校）
立川功大（東海大翔洋中学校）

中学校の部（女子）

渡辺貴子（富士宮第一中学校）
原田祐花（静岡学園中学校）

高校の部（男子）

伊野和也（飛龍高校）
鈴木良幸（浜松商業高校）

高校の部（女子）

土屋文香（東海大翔洋高校）
星野未帆（藤枝順心高校）

一般の部

萩原　渡（NPO武道学舎）
杉山佑紀（綜合警備保障静岡）

講道館柔道「形」優秀賞

投の形

取四段　斉藤修司（士道会）
受四段　尾藤設則（士道会）

極の形

取五段　森下良男（浜北柔道協会）
受四段　高林裕介（浜北柔道協会）

柔の形

取七段　白井康二（新居体育協会）
受四段　白井恵子（新居体育協会）

スポーツフェスティバル

今年度のスポーツフェスティバルは西部地区は11月９日（日）浜松市浜北総合体育館、中部地区は11月16日（日）静岡市北部体育館、東部地区は11月９日（日）沼津市勤労者体育センターで開催された。各地区それぞれ工夫して実施しており、柔道の普及に努めている。各地区の様子を簡単に報告する。

西部地区

成年の部（66名参加）初段から４段までリーグ戦にて実施した。高校男子無段の部（１年生33名参加）トーナメント戦にて実施した。高校男子有段者の部（１年生36名参加）は体重別で３階級に分けてトーナメント戦にて実施した。高校女子の部（１年生14名参加）は体重無差別のトーナメント戦で実施した。中学女子は団体戦で行い12チーム約60名が参加した。中学男子も団体戦で行い21チーム約150名が参加した。小学生の部は低学年と高学年に分け団体戦にて実施し、合わせて30チーム約180名が参加した。

中部地区

三種別による団体戦（３人制）を実施した。種別①（初段～３段、18歳～30歳）年齢は若く現役で活躍する選手が多く参加した。種別②（２段～４段、30歳～45歳）年齢は中位、実力と重みがある往年の名選手が多く出場した。種別③（２段～４段、40歳以上）年齢は上位、仕事と柔道を両立させ精一杯の試合を見せてくれた。14チーム約50名が参加した。

東部地区

一般の部（22名参加）は初段から４段までリーグ戦にて実施した。高校男子（36名参加）はAの部、Bの部に分けてトーナメント戦にて実施した。高校女子（８名参加）は体重無差別トーナメント戦で実施した。中学男子（15チーム約100名参加）は団体戦トーナメント戦で実施した。中学女子（15チーム約60名参加）も団体戦トーナメント戦にて実施した。小学生（15チーム約100名参加）は団体戦トーナメント戦にて実施した。



協会表彰

平成20年度静岡県柔道協会表彰が11月22日（土）午後４時からホテルシティオ静岡にて行われた。

受賞者は以下の通りで例年になく多くの受賞者がおり、喜ばしいことである。安齊会長から挨拶があり、賞状と記念品が贈呈された。受賞者を代表して藤枝順心高校の加賀谷千保さんがお礼の言葉を述べた。

柔道協会表彰

○２００８年世界ジュニア女子体重別選手権大会52kg級
優勝
○第11回全日本ジュニア女子柔道体重別選手権大会52kg級
優勝
○２００８年フランスジュニア女子国際大会52kg級
準優勝
○第57回全国高等学校総合体育大会柔道競技女子52kg級
優勝
○平成20年度講道館杯全日本体重別柔道選手権大会女子
52kg級
３位
初段　加賀谷千保
（藤枝順心高等学校）
○平成20年度全国警察柔道選手権大会女子63kg級
準優勝
参段　川口有紀
（静岡県警察）
○第39回全国中学校柔道大会女子48kg級
優勝
初段　片岡まゆ
（富士宮第一中学校）
○第39回全国中学校柔道大会男子73kg級
準優勝
初段　大島遼平
（静岡学園中学校）
○第39回全国中学校柔道大会女子70kg級
３位
初段　渡辺貴子
（富士宮第一中学校）
○第39回全国中学校柔道大会女子44kg級
３位
初段　岡本理帆
（藤枝順心中学校）
○第５回全国小学生学年別柔道大会５年生男子45kg級
優勝
森下北斗　（神士館）
○第５回全国小学生学年別柔道大会５年生男子45kg超級
３位
小笠原雄也
（藤枝柔道倶楽部）
○第５回全国小学生学年別柔道大会５年生女子40kg級
３位
鈴木茉莉　（柔清会）
○２００８年北京オリンピック柔道競技63kg級
出場
弐段　バルボザ・ユリ
（県立天竜林業高校ＯＧ）
○２００８年北京パラリンピック柔道競技52kg級
出場
初段　土屋美奈子
（県立浜松視覚特別支援学校）



第５回全国小学生学年別柔道大会

平成20年８月24日
浜松アリーナ

５年男子45kg級
森下北斗（神士館）　**優勝**
上村悠真（高山柔道塾）
予選リーグ敗退

５年男子45kg超級
小笠原雄也（藤枝柔道倶楽部）　**３位**
山村　響（育誠館）
予選リーグ敗退

６年男子50kg級
小林大貴（清流館山縣道場）
予選リーグ敗退
望月飛翔（静岡錬心館）
予選リーグ敗退

６年男子50kg超級
花井拓哉（積武館）
決勝トーナメント
１回戦敗退（ベスト16）
岡村康平（富士市柔道会）
決勝トーナメント
２回戦進出（ベスト８）
５年女子40kg級
鈴木茉莉（柔清会）　**３位**
成宮妃世梨（静岡東部柔道クラブ）
決勝トーナメント
１回戦敗退（ベスト16）

５年女子40kg超級
楠　麻衣（伊豆長岡柔道会）
決勝トーナメント
２回戦進出（ベスト８）
植松ほたる（富士市柔道会）
予選リーグ敗退

６年女子45kg級
岩崎光沙（神士館）
予選リーグ敗退
渡辺香奈（静岡錬心館）
予選リーグ敗退

６年女子45kg超級
佐山礼夢瑠（大仁柔道会）
予選リーグ敗退
遠田真子（清水柔道倶楽部）
予選リーグ敗退

第39回全国中学校柔道大会

平成20年８月19日～22日
石川県

男子団体
静岡学園中学校
予選リーグ１位
決勝トーナメント
１回戦負け
静岡学園中０―２
企救中（福岡）
企救中は準優勝

女子団体
富士宮市立富士宮第一中学校
ベスト16
予選リーグ１位
決勝トーナメント
１回戦
富士宮第一中１―０
五所川原第一中（青森）
２回戦
富士宮第一中０―２
相原中（神奈川）
相原中は優勝

男子個人
55kg級 佐藤光将（静岡学園中）　３回戦進出
60kg級 大塚智也（開成中）　３回戦進出
66kg級 立川功大（東海大翔洋中）　３回戦進出
73kg級 大島遼平（静岡学園中）　**準優勝**
81kg級 山本雄也（笠井中）　初戦敗退
90kg級 渡辺浩貴（福田中）　初戦敗退
90kg超級 小澤秀彰（静岡学園中）　３回戦進出

女子個人
44kg級 岡本理帆（藤枝順心中）　**３位**
48kg級 片岡まゆ（富士宮一中）　**優勝**
52kg級 秋山侑里佳（藤枝順心中）　**５位**
57kg級 渡辺明里（富士宮一中）　**５位**
63kg級 村山のどか（市沼高中）　２回戦進出
70kg級 渡辺貴子（富士宮一中）　**３位**
70kg超級 岩崎光希（東海大翔洋中）　３回戦進出

第57回全国高等学校総合体育大会

平成20年８月５日～９日
埼玉県上尾市

男子団体戦
東海大学付属翔洋高等学校
初戦敗退

女子団体戦
東海大学付属翔洋高等学校
ベスト16
二回戦　東海大翔洋①―１
立命館宇治（京都）
三回戦　東海大翔洋１―②
敬愛（福岡）
二回戦　東海大翔洋１―②
新田（愛媛）

男子個人戦
60kg級 鈴木壮太（浜松西）　初戦敗退
66kg級 白土　優（浜松商業）　ベスト16
73kg級 鈴木　隼（静岡学園）　初戦敗退
81kg級 堀川達也（東海大翔洋）　初戦敗退
90kg級 伊野和也（飛龍）　２回戦敗退
100kg級 平井亮輔（東海大翔洋）　初戦敗退
100kg超級 新村三四郎（浜松商業）　初戦敗退

女子個人戦
48kg級 金田結花（浜松商業）　ベスト16
52kg級 加賀谷千保（藤枝順心）　**優勝**
57kg級 秋山奈々絵（藤枝順心）　初戦敗退
63kg級 鈴木流風（浜松商業）　初戦敗退
70kg級 綾部友美（東海大翔洋）　ベスト16
78kg級 井深寿美（庵原）　初戦敗退
78kg超級 土屋文香（東海大翔洋）　初戦敗退

第33回全国教員柔道大会

7月27日
新潟市豊栄総合体育館
1回戦　静岡県0―4長崎県
出場選手
先鋒　水口　透（日本大学三島高校）
次鋒　中村　航（島田学園高校）
中堅　須田直之（清水東高校）
副将　井口往彦（浜北西高校）
大将　山崎大介（富士宮北高校）
監督　梶原和洋（御殿場高校）

都道府県対抗第24回全国女子柔道大会

6月14・15日
岡山武道館
1回戦　静岡県1―2佐賀県
先鋒　川口有紀（静岡県警察）
次鋒　勝呂　綾（日本大学）
中堅　杉山希美（東海大学）
副将　鈴木美穂（名城大学）
大将　岡田紘味（三井住友海上火災）
コーチ　望月加奈子（常葉学園橘高校）
監督　左口直人（天竜林業高校）



全日本ジュニア柔道体重別選手県大会

県大会
7月6日
静岡県武道館

全国大会
9月13日（土）14日（日）
埼玉県立武道館

男子60kg級
庄司史成（静岡学園高校）
男子66kg級
白土　優（浜松商業高校）
男子73kg級
梅原拓実（韮山柔道教室）
男子81kg級
高田博文（静岡学園高校）
男子100kg級
渡辺祥真（沼津市立沼津高校）
男子100kg超級
坂中慎吾（静岡産業大学）
全国大会2回戦進出
女子48kg級
伊藤美麗（藤枝順心高校）
全国大会ベスト8進出
女子52kg級
近藤美咲（藤枝順心高校）
加賀谷千保（藤枝順心高校）
全国大会優勝
女子57kg級
鈴木里穂（東海大翔洋高校）
女子63kg級
鈴木流風（浜松商業高校）
女子70kg級
綾部友美（東海大翔洋高校）
女子78kg級
古木里香（浜松商業高校）
全国大会2回戦進出
女子78kg超級
土屋文香（東海大学翔洋高校）
全国大会5位
（東海地区大会を経て全国大会に出場）

世界ジュニア選手権大会（タイ　バンコク）

女子52kg級
加賀谷千保（藤枝順心高校）
優勝

講道館杯

女子52kg級
加賀谷千保（藤枝順心高校）
第3位

全日本選手権大会

4月29日（火）
日本武道館
増田圭省（セコム）
2回戦敗退

全日本女子柔道選手権大会

4月20日（日）
岡田紘味（三井住友海上火災）
3回戦敗退（ベスト16）

第20回マルちゃん杯中部少年柔道大会

平成20年6月1日（日）
浜北総合体育館　グリーンアリーナ
5月31日（土）午後2時からマルちゃん杯では5年ぶりとなる柔道教室が行われた。講師は佐藤全日本柔道連盟副会長、越野国際武道大学柔道部監督、中村旭化成柔道部監督の三先生が務められ、東洋水産株式会社柔道部の皆さんと地元の中学校の柔道部顧問の先生方が補助として参加された。安齊会長の挨拶に続き、佐藤先生から最近の柔道界の様子等の講話が行われ、越野先生と中村先生の技の披露が行われた。

背負い投げの越野先生と、内股の中村先生に分かれて技の講習が行われた。小学生にも理解できるように非常に丁寧にかつ適切な解説がなされた。その後、学年別で乱取り稽古が行われ、参加した生徒たちは心地よい汗をかいていた。

参加者は約500人だったが、皆満足できるすばらしい講習会になった。講師の中村先生は所用のため講習会終了後帰られたが、忙しい中小学生と気軽に写真を撮りきちんと挨拶をされ会場を後にした姿はすばらしかった。

中部地区9県から少年、中学校男子、中学校女子合わせて2061チーム約1700人の選手が参加して行われた。開会式では会場いっぱいの選手が整列し壮観であった。県毎に紹介され大きな拍手を受けていた。

試合場では終日気合のこもった掛け声が飛び交い、2階席の保護者から熱い声援が送られていた。

少年では岐阜の羽島柔道少年団が優勝し、中学は男女とも愛知県大成中学が優勝し全国レベルの実力を発揮した。静岡県勢の結果は以下の通り。

中学男子の部
静岡学園中学　第2位

中学女子の部
富士宮第一中学　第2位

佐藤五八郎杯（県内優秀選手）
小学生　岡村康平（富士市柔道会）
中学生男子　小澤秀彰（静岡学園中学）
中学生女子　渡辺貴子（富士宮第一中学）

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区２道場ずつ紹介します。

①名称
②住所
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

伊豆長岡柔道会



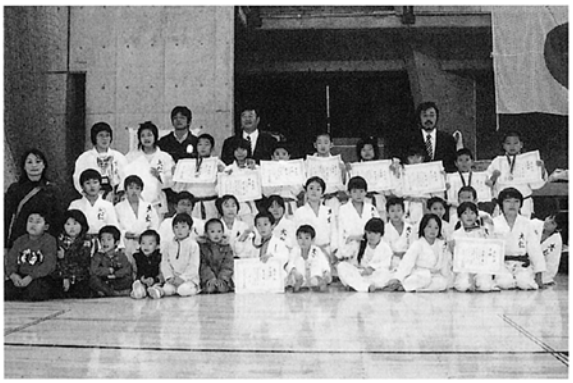
②〒410-2221
伊豆の国市南江間1930-27
③☎055－947－0537
④会長　正治　嘉
⑤児童３人　小学生30人
中学生10人

⑥道場紹介
昭和51年、現師範橋本五十夫先生・現会長正治嘉先生他有志により伊豆長岡柔道会を創設。県内大会や全国大会においても優秀な成績を修めてきました。
現在も火・木・金・土の週４日、伊豆の国市長岡体育館にて、幼稚園生から小学生・中学生が目標を持って練習に励んでいます。

大仁柔道会

②〒410-2325　伊豆の国市神島1121-5
（代表　菊池　隆）
③☎0558－76－2813
（代表　菊池　隆）
④代表者　菊池　隆
会長　望月良和
⑤児童５人　小学生35人
中学生10人　高校生８人
大学・社会人12人

⑥道場紹介
昭和25年頃より大仁警察署の道場で大仁高校の男子生徒の柔道指導を始めた当柔道会の創設者であります故望月映英先生が、戦後の第一次青少年荒廃期と言われた時代背景を受け、昭和29年９月、30余名の会員と地元理解者の後押しを元に大仁柔道会が設立されました。
会創立以来、54年の月日を数えるに至りました。この間、多くの優秀選手を排出し、数々の大会に大仁柔道会の足跡を刻んできました。現在、約50名の小中学生と10名程の指導者で伊豆の国市大仁武道館にて火、木、土の19時から21時まで、「一本を取る柔道」を目標に汗を流しております。厳しい中にも楽しい雰囲気の稽古ができておりますので、お気軽に顔を見せてください。



静岡東部柔道クラブ

②〒420-0847
静岡市葵区西千代田町33-5
③☎054－245－0829
④代表者　森　順次
⑤小学生16人　中学生15人
大学・社会人７人

⑥道場紹介
私たち、静岡東部柔道クラブは、静岡市体育協会の夜間スポーツ教室の一貫として、活動しています。
当柔道クラブは、平成２年８月に東部体育館の開設とともに柔道教室として立ち上がりました。
当時、故永野哲夫先生を中心に、２～３名の指導員で数名の教室生を相手に練習を行なっていましたが、十分な練習も出来なく、中央体育館の柔道教室に出稽古に行くことがしばしばありました。
静岡東部柔道クラブのモットーは、「柔道は強くなくてもあいさつは出来る」の故永野先生の教えを大切に守り、礼法と大きな声を出すことを常に心掛けています。
現在、小学生から一般まで38名が練習に取り組んでいます。練習日は毎週月・木の２日、時間帯としては前半の１時間は小学生を中心とした基礎練習を行い、後半では中学生から一般の教室生を中心に実践的な乱取り稽古を行なっています。
教室生の柔道を始めるきっかけはそれぞれ違いますが、小学一年生から始めた生徒は、六年生、更に中学、高校まで続けてくれることが何よりも嬉しく思います。
ビックなニュースとして、教室生のOGで現在、藤枝順心高校の加賀谷千保さんが、10月23日、バンコクで行なわれた世界ジュニア大会52kg級で見事優勝したことです。教室生たちには良い見本となり、よい目標となることと確信しています。
まだまだ、未熟な柔道クラブですが、指導員一丸となって柔道の底辺拡大に寄与したいと思います。
今後ともご指導、ご支援のほど宜しくお願いいたします。



大井川柔道スポーツ少年団

②〒421-0216　焼津市相川476-1
③☎054－622－4176
④団長　　石田明志
⑤児童３人　小学生16人



⑥道場紹介

昭和52年6月21日、大井川町ちびっ子柔道教室として始まり、焼津市立大井川体育館に於いて毎週火曜日と金曜日の2回、午後6時30分より8時30分まで稽古をしています。

指導員は10名、たまに卒団した中、高校生が参加してくれます。

団員には、大きな声を出す、練習は休まない、そして友達を大切にするように指導をしています。

柔道を通して、逆に、子ども達に教えられる事も多く、私達も考えさせられています。

柔道の素晴らしさを実感しています。

大東柔道クラブ

②掛川市三俣398
③☎0537－72－2268
④部長　　岩倉隆樹
⑤児童１人　小学生35人　中学生３人
大学・社会人12人



⑥道場紹介

昭和53年大東町柔道クラブとして設立し、その後町村合併により掛川市体育協会柔道部に編入され、大東柔道クラブと改名し来年は創立30周年を迎えます。今は130畳の立派な道場で週2回の練習をしていますが、最初の5年間程は、練習の度に50畳の畳を上げ下ろししていたことは忘れられません。当然練習時間は今の半分でしたが、その頃のほうが強かったのは集中力の違いでしょうか。

創立当時入部してきた小学生が今は立派に成長し指導者として戻ってきて指導の中心となっています。

指導方針は小学生が主力のクラブということで、余分なことは教えない、柔道の基本だけを繰り返し繰り返し教える、ということをモットーとしています。勝ち負けは基本を身に付けたうえでこだわればいいと考えています。指導運営に手は抜かないがあまり熱くなりすぎない事が肝要と考えています。あまり熱くなりすぎると内、外共に軋轢が生じ長続きしません。「たかが柔道、されど柔道」が基本方針です。よろしくご指導お願いいたします。

笠井柔道館

②〒431-3107　浜松市東区笠井町340の1
③☎053－433－9167
④代表者　　坪山龍夫
⑤児童２人　小学生18人　中学生16人
大学生１人　社会人５人



⑥道場紹介

昭和62年6人の子供達と16畳の店舗改造の道場からスタートしました。その後、父母の方々の手を借りて現在の場所に道場設立、20年が経ちました。

その間に全国大会へ大勢出場する事が出来ました。「勇往邁進」（諦めずに前に進む事）をモットーに掃除から始まり、元気なあいさつ、礼儀正しさ、苦しさに耐える心、喜びや、チームでの達成感などを通して「基本重視」の柔道を学んでいます。

さらに、道場で行なわれているレスリング教室では、俊敏性、粘り強さ、バランス感覚も強化しています。

生涯を通じて柔道が好きであり続けて欲しいと云う願いからOB・先輩が後輩を指導しながら全力で稽古に励んでいます。

形講習会

6月7日（土）午前10時～午後4時　静岡県武道館

講道館護身術の講習会が講道館練成部主事・早稲田大学教授八段小野澤弘史先生をお迎えして行われた。受講者は協会役員合わせて69名と盛会であった。

安齊会長の挨拶の後、野田理事長より講師の小野澤先生の紹介が行われ、先生の講義が始められた。

講義の後は実技指導になり説明と模範演技を見せていただいた。受講生の皆さんは、繰り返し練習し、より早く正確に演ずることができるよう努力していた。

閉校式では安齊会長から受講生を代表して水嶋武雄七段に修了書が授与された。



平成20年度静岡県柔道選手権大会

平成21年2月8日（日）静岡県武道館

男子
優勝　小椋俊彦（静岡県警察）
2位　土田将正（聖明病院）
3位　齊藤和仁（静岡県警察）

優勝した小椋選手と推薦で増田圭省（セコム）が東海大会へ出場する。女子は土屋文香（東海大学翔洋高校）選手と岡田紘味（掛川柔道クラブ）選手が東海大会へ出場する。

安全指導講習会開催

平成21年2月8日（日）静岡県武道館

全日本柔道連盟主催の「安全指導」講習会が佐藤幸夫（東京都教職員研修センター教授）先生をお迎えして行われた。県内の指導者が多数参加し、熱心に先生の講義を受講した。全日本柔道連盟が発行している「柔道の安全指導」の冊子を参考に指導者として必要な事柄を、限られた時間の中で丁寧に説明していただいた。

なお、安全講習会に続いて安齊悦雄会長を講師として今回改定された国際柔道連盟試合審判規定に関す講習会が実施され、多くの指導者が受講し、新ルールに対する理解を深めた。



少年講習会

12月21日（日）静岡市北部体育館

児童・指導者・協会関係者約650名が参加して全柔連主催の柔道教室が開催された。講師は金野潤氏（日本大学柔道部監督）、腹巻宏一氏（柔道塾「紀柔館」館長）、松田基子氏（大阪体育大学柔道部コーチ）の3名が担当された。

安齊会長の挨拶に続き、講師の3名より挨拶をいただき早速講習が開始された。腹巻先生は普段指導されている実践に基づき基本的な動きを指導された。

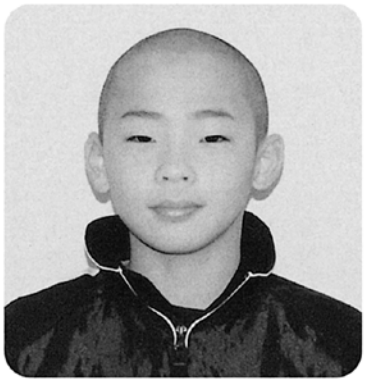
松田先生は得意の「払い腰」を指導された。日大の金野先生は強くなる秘訣として①柔道を好きになること、②正しい柔道を学ぶこと、③感謝の心を持つこと、の3つをあげられた。

昼食後の懇談の中でも、各先生方の実体験に基づいた指導方法など多くの示唆に富んだ話をしていただいた。実技や講話を含め大変中味の濃い講習会で午後3時半まで行われた。



新人選手紹介コーナー

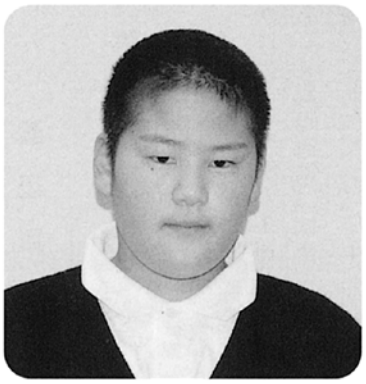
今年度活躍された若い選手を例年通り紹介します。今年度は８月に浜松で行われた第５回全国小学生学年別大会で３名の入賞者が出ました。５年生男子45kg級優勝の森下君（神士館）５年男子45kg超級３位の小笠原君（藤枝柔道倶楽部）５年女子40kg級３位の鈴木さん（柔清会）の３名です。また、第39回全国中学校柔道大会では４名の入賞者が出ました。女子48kg級で優勝した片岡さん（富士宮第一中学）、男子73kg級で準優勝した大島君（静岡学園中学）、女子70kg級で３位に入賞した渡辺さん（富士宮第一中学）、そして女子44kg級で３位に入賞した岡本さん（藤枝順心中学校）の４名です。そして今年度最も活躍してくれたのは、昨年度も紹介しましたが藤枝順心高校の加賀谷さんです。全日本ジュニアで優勝し、インターハイも優勝でした。フランスジュニア国際では準優勝と充実した１年でした。また、嘉納杯では３位に入賞し、シニアの部でも十分戦えることを示してくれました。以上の８名を紹介します。



森下北斗君（神士館）

◎第５回全国小学生学年別柔道大会５年生男子45kg級優勝

浜松アリーナで開催された大会で地元静岡県勢でただ一人見事優勝を果たしてくれました。柔道を始めたきっかけは所属する神士館の会長さんに勧められたからだそうです。優勝して改めて全国のレベルを実感したそうです。まだ５年生ですので来年の大会もあります。柔道が強い中学校に進学し、全国中学校大会でも優勝したいという夢を持っているそうです。指導されている神山さんからは「静岡県の開催となった年に優勝できたのでとても嬉しく思います。当日の試合では、立ち技でも寝技でも先に攻めるというスピードのある柔道ができていました。この結果は、本人の日頃の努力は勿論ですが、彼を支え応援してくれるご両親や、双子の弟でライバルでもある雄斗君の存在が大きいと感じました。まだ小学生ですが、今後どんな活躍をしてくれるか非常に楽しみな選手です。」とのコメントをいただいています。



小笠原雄也君（藤枝柔道倶楽部）

◎第５回全国小学生学年別柔道大会５年男子45kg超級　３位

小笠原君は父親の一敏さんの柔道の練習について行き、楽しそうだなあと思ったことがきっかけで柔道を始めたそうです。入賞に関しては「まさか入賞できるとは思っていませんでした。僕の柔道に関わって下さった全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。」と、謙虚です。まだ５年生ですので「一日一日の練習、一試合一試合を大切にしていきたい」と来年度に向けて意気込みを語っています。指導者からは「普段の練習はもちろんの事、出稽古や家でのトレーニングなど毎日の積み重ねが今回の結果につながったのだと思います。来年は小学生最後の年なので今年以上の成績が残せるよう期待しています。」と励ましの言葉をもらっています。



鈴木茉莉さん（柔清会）

◎第５回全国小学生学年別柔道大会５年女子40kg級　３位

鈴木さんが柔道を始めたきっかけは、お兄さんがやっていて楽しそうだと思ったことだそうです。入賞しての感想は「初めて出場した全国大会で緊張したけど、３位になれてうれしかっ

たです。でも、優勝できなかったのは悔しかったです。」と素直に語ってくれました。「来年も全国大会に出場し、優勝したいです。将来は谷本選手のように内股を練習し上手くできるようになりたいです。そして、オリンピックに出て活躍したいです。」と来年そして将来の夢を語っています。指導者からは「全国大会では目標のベスト４に入ることができました。これも日頃から練習を熱心にやり続けた結果だと思います。これからも大きな目標（夢はオリンピック）に向けて鍛錬してください。」とエールを送られています。

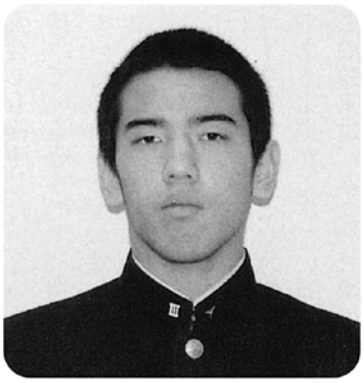


片岡まゆさん
（富士宮第一中学）

◎第39回全国中学校柔道大会
女子48kg級　優勝

片岡さんは以前このコーナーで紹介したことがあります。団体戦でも全国５位に入賞する等、順調に育ってくれています。優勝の感想は次のように語っている。「狙っていたので優勝できてよかった。先生とみんなで歩んできた一年は厳しかったけど充実していた。富士宮第一中学校の渡辺先生だから優勝させてくれたのだと思う。」今後は「４年後のロンドンオリンピックに出場し、８年後のオリンピックでは金メダルを取りたい。」大きな夢を持っています。指導者からは「とにかく柔道が大好きで、常に目標を持って、練習・試合に取り組んでいます。今の謙虚さを忘れないでオリンピックを狙って欲しいです。」との言葉を送られています。





大島遼平君
（静岡学園中学）

◎第39回全国中学校柔道大会
男子73kg級　準優勝

大島君が柔道を始めたきっかけは「パワーが有り余って、いたずらばかりしていたので父親のやっていた柔道でパワーを発散させようと思い始めました。」というユニークなきっかけです。準優勝については「優勝を目指していたので、うれしさよりも悔しさの方が大きかったです。」と無念のようです。今後は「高校生になったら優勝できなかった悔しさをバネに日本一を目標にがんばりたい」と決意を述べてくれました。指導者からは「文武両道を貫き、性格も良く勉強面においても努力を惜しまない生徒。柔道に対しては貪欲であり常に向上心を持ち日々の練習に取り組んでいる。柔軟性もあり足技を上手く使いこなすことができる選手であるので、これからの成長が楽しみであり、高校では必ず日本一を取って欲しい。」と賞賛されています。



渡辺貴子さん
（富士宮第一中学）

◎第39回全国中学校柔道大会
女子70kg級３位

渡辺さんが柔道を始めたきっかけは、「中学の柔道部監督である父親の道場（練習）に毎日遊びに行っているうちに自然に始めていた」ということだそうです。３位の感想は「判定で優勝した選手に負けたけど、まだまだ努力不足だと思いました。もっともっと練習して100％の自信をつけたい。父であり監督でもある渡辺先生に優勝をプレゼントできなくて……。それが一番悔しいです。」今後は「まだまだ努力不足なので、しっかり練習をしてまずはインターハイで優勝したいです。進路は寝技の強い高校に行きたいです。」と足元をしっかり見つめています。指導者からは「決してセンスがあるわけではないけど、私の厳しさに負けないで努力してきました。父として監督としてよくがんばったと褒めてやりたいと思います。」とすばらしい言葉を送られています。



岡本理帆さん
（藤枝順心中学校）

◎第39回全国中学校柔道大会
女子44kg級　３位

岡本さんが柔道を始めたきっかけは「姉の友達に誘われた」というごく平凡な理由だそうです。しかし、そんなきっかけで始めた柔道ですが見事全国３位になりました。３位入賞には



加賀谷　千保さん
（藤枝順心高校）

◎全日本ジュニア柔道体重別選手権大会　優勝（２連覇）

「優勝したかったのでくやしかったです。」とコメントしてくれました。２年生ですので「来年は絶対優勝したいです。」と決意を述べています。指導者からは「毎日高校生と一緒に練習を行っている彼女ですが、強くなりたいという気持ち、相手に負けたくないという気持ち、投げられた時の悔しい気持ち等、高校生以上に強い気持ちを持って練習しているからこそ今年度のような結果がでたのだと思います。この結果に満足せずにさらなる頑張り、努力をしてほしいと思います。」と期待を寄せられています。

◎世界ジュニア柔道選手権大会　優勝
◎第57回全国高校総合体育大会　優勝
◎フランスジュニア国際柔道大会　準優勝
◎講道館杯全日本柔道体重別選手権大会　３位
（階級は全て52kg級）

昨年もこのコーナーで紹介しましたが、今年はさらに大きく成長し、見事に昨年以上にすばらしい結果を残してくれました。今年度の結果に対しては「嬉しいの一言です。今まで私を支えてきて下さった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。」と素直に喜びを語っています。来年度からは「山梨学院大学に進学します。今後も努力を怠らずに、自分の目標に向かってがんばります。」と今後の抱負を語ってくれました。指導者からは「彼女が目標・夢を実現させるために頑張る姿には私も勉強させられました。また、彼女の頑張りは柔道部の仲間達にも勇気と感動を与えました。大学進学後も努力をする大切や周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに頑張ってほしいと思います。」との言葉を送られています。

訃報

故　菅尾信義　五段
平成十九年十月二十七日逝去
行年五十九歳



講道館柔道五段　菅尾信義先生が去る平成十九年十月二十七日享年五十九歳をもってご逝去されました。

先生は、昭和二十四年、沼津市西浦に生まれ地元の高校で柔道部に所属し、レギュラーメンバーとして大会で活躍されました。

卒業後、家業の酒店を継ぎながら沼津西浦柔道会に入会し、自らの柔道修業と同時に少年部を指導し、柔道普及、青少年の育成にご尽力され、現在、沼津西浦柔道会副会長としての重責を果たしておりました。

又、東部地区役員・沼津柔道連盟役員として各大会の審判を務め多くの方々の信望をあつめておりました。

先生の志は、まだまだこれからという時期であり誠に残念です。哀心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

故　石川　盛　六段
平成二十年五月九日逝去
行年六十六歳



栃木県出身の石川先生は国士舘大学卒業後、縁あって静岡県の公立高校採用試験を受験され合格し、体育科教員として三十九年間に渡りご尽力されました。榛原高校、横須賀高校、焼津水産高校、静岡中央高校と長きに渡り高校教育の第一線でご活躍になりました。各学校では主に柔道部の顧問として生徒と共に汗を流し多くの優秀な選手を育てられました。特に榛原高校ではインターハイ出場に導くなど活躍されました。

また、静岡県柔道協会では中央評議員や中央の事務局を担当するなど、多くの役職を勤められ、欠くことのできない人材でした。先生の書かれた賞状をお持ちの方も多いことと思います。

穏やかで温厚な石川先生が六十六才という若さでお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

故　小関泰之　四段
平成二十年十二月十日逝去
行年六十八歳



小関先生は静岡大学教育学部ご卒業後、静岡県公立学校に就職され、長年教員・校長としてご尽力されました。

掛川柔道倶楽部には静岡大学在学中の昭和三十六年四月に入会され、長年にわたりご自身の修行に努めると共に後進の指導を担当されました。昭和五十年四月からは静岡県柔道協会西部地区の幹事として協会の発展にも寄与されました。掛川市立逆川中学校や桜ヶ丘中学校の柔道部顧問として生徒の指導にも熱意を注がれました。

昭和六十三年からは掛川柔道倶楽部の副会長に就任され、平成十四年からは静岡県柔道協会西部地区参与に就任され貴重なご意見をいただいておりました。

掛川柔道倶楽部の関係者はもとより、多くの方々から慕われていた先生のご冥福を心からお祈りいたします。

合掌

第５回全国小学生学年別柔道大会開催

平成20年８月24日（日）静岡県浜松市の浜松アリーナにて第５回全国小学生学年別柔道大会が開催された。



開会式では野田昭一大会委員長の開会宣言に続き、嘉納行光大会会長、安齊悦雄大会副会長、鈴木康友名誉顧問（浜松市長）の挨拶があり、藤猪省太審判長より試合上の注意があった。選手宣誓は岡村康平君（富士市柔道会）が行った。柔道ルネッサンス運動の発表は山村響君（育誠館）と遠田真子さん（清水柔道倶楽部）が行い、それぞれ柔道に取り組む決意を述べてくれた。



試合は昨年に続き各階級毎の８会場（32畳）で実施された。予選リーグで三竦みとなりリーグの再戦も多く、決勝トーナメントの開始は予定より多少遅れたが、熱のこもったすばらしい試合が展開された。決勝戦は軽い階級から女子・男子交互に行われ、８試合のうち４試合が「一本」で勝負がつき、まさに「一本を取る柔道」を実践してくれた試合であった。

なお、前日の23日（土）には全日本柔道連盟主催で柔道教室が実施され、地元児童・大会出場者約４５０名の参加があった。





講師は地元浜松西高校出身でバルセロナオリンピック52kg級の銀メダリスト溝口紀子先生（静岡文化芸術大学）と、つい先日まで現役として活躍されたカイロ世界選手権無差別級の金メダリスト薪谷翠先生（ミキハウス）であった。溝口先生の講話と薪谷先生と得意技指導があり、約２時間があっという間に経過した。

静岡県関係では優勝者１名、３位入賞が２名とすばらしい結果を残してくれた。日頃道場で子ども達を指導していただいている関係者の皆様の努力の成果を称えたいと思う。



また、会場設営や補助役員としてがんばってくれた地元高校生を始め、柔道協会関係者の皆様の協力によりすばらしい大会運営がなされたことも報告しておきたい。

表彰

静岡県体育協会創立80周年記念表彰

7段　川中邦夫
7段　望月秋男
7段　石黒金次
7段　田中秀幸
6段　佐藤重雄
5段　大石鐵夫

静岡新聞社・静岡放送スポーツ賞

体育功労者賞

8段　高田勝之

速報

土屋文香（東海大翔洋高校）東海地区を勝ち抜き、平成21年度全日本女子選手権大会に出場する。

速報

高校新人大会

男子団体

優勝　静岡学園高校
2位　浜松商業高校
3位　加藤学園高校
3位　東海大翔洋高校

女子団体

優勝　藤枝順心高校
2位　東海大翔洋高校
3位　市立沼津高校
3位　浜松商業高校

題字
安齊会長

第13号

柔道しずおか

平成22年３月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒420-0911　静岡市葵区瀬名7-2-38　佐々木秀男
TEL　054-265-5272　FAX　054-265-5274

【巻頭言】

日本の柔道発展と後継者育成のために

静岡県柔道協会　副会長　七段　石黒金次



本の柔道の振興の一助となれば、これほど嬉しいことはございません。そして、日ごろの皆様の献身的なご努力に、あらためて感謝いたします。

■日ごろのご努力に感謝

静岡県西部地区柔道協会を立派につくりあげた高柳先生をはじめ、飯田先生、前幹事長山崎先生の多大なるご努力に感謝の念を表する次第です。

西部地区は各地域の指導者がそれぞれの活動拠点に情熱を注ぎ、ご苦労を重ねて指導を続けてきました。その中から若い指導者も誕生し、さらに大きな輪となって発展しています。中学・高校においても指導者の皆様の熱意が、地域の柔道の活性化を担っていることを実感しております。私自身も西部地区幹事長として地区活動の育成に力を注いでまいりましたが、それが日

■日本柔道を活性化するために

このような皆様のご尽力にも関わらず、日本の柔道人口の減少は紛れもない事実です。発祥の地である日本の柔道人口は20万人で、これはドイツと並ぶ数字です。フランスの登録人口は50万人といわれ、これには学ぶべきところがあるといえるでしょう。全柔連は、さらなる調査研究をされ、その結果情報を積極的に発信していただきたいと考えています。絶対的な柔道人口の増加は活性化の必須条件であり、日本の柔道界を支える原動力です。

■体重別の細分化が不可欠

今後の柔道人口を増やすための方策はないものでしょうか。ここでは、私自身の体験をもとに感じていることをお伝えしたいと思います。

確かに柔道とは「勝ち負けだけ」が問われるスポーツではありません。しかし、特に小学生クラスにおいては、「勝つこと」が大きな喜びであり、続けることのモチベーションに直結します。負け続ければ気持ちが萎えてしまうのも、とてもよくわかります。そして、負ける原因のほとんどが体力差や体重差による「力負け」なのです。教え子が努力を重ねて習得した技が、体重で押しつぶされてしまうのは指導者として見ていても、非常に忍びないことです。

このような問題を解消するには、体重区分の細分化が必要だと考えます。もちろん小学生だけではなく中学・高校についても同様であり、さらに団体戦も体重別とし、女子は5名の団体戦とするのが私の持論です。現在の日本の柔道界を活性化させるためには、試合に出場するチャンスを増やし、勝つことの喜びを分かち合えるようなシステムが不可欠なのです。

■安全に直結する体重差の問題

体重別の細分化は、安全という大切な問題にも直接関わります。52kgの選手が110kgの選手を相手に背負い投げで一本勝ちしましたが、十字靭帯断裂を起こして選手生命を絶たれました。また、60kg差の選手が同体で倒れ頚椎骨折をした例もあり、これも指導者として忘れることはできません。

資料によると、10kgの体重差は、約2tの筋力差と同等となります。しかし、講道館昇段資格の内規では初段から四段までの試合は体重無差別とされています。このような条件で軽量者が勝つことは非常に困難な状況です。

柔道では昇段することは最大の夢であり願望です。したがって、講道館及び全柔連はこの体重差の問題を踏まえた上で、原点から規約を見直していただきたいと考えます。世の中が大きく変化している時代、柔道界にも新風を望みます。この改革こそ、日本の柔道を活性化させるための必勝の一本技といえるでしょう。

第64回
新潟国民国体大会

新潟国体成年男子3回戦進出、成年女子5位入賞
天皇杯18位皇后杯10位

第64回国民体育大会柔道競技は新潟市豊栄総合体育館で開催され、本県は成年男子と地区予選を勝ち抜いた成年女子が出場した。成年男子はまたも3回戦で優勝した東京都と対戦し、成年女子は準々決勝に進出した。国体の様子を渡辺達也監督（成年男子、静岡県警察）勝呂良三監督（成年女子、庵原高校教諭）に報告してもらう。



静岡県成年男子チーム

成年女子監督　勝呂良三（庵原高校）

成年女子は各ブロック大会を勝ち抜いた精鋭十六チームの戦いとなり、5位入賞を目標に試合に臨みました。

成年女子監督
　勝呂良三（庵原高校教員）
コーチ
　西川勝啓（裾野高校教員）
先鋒　川口有紀（静岡県警察）
中堅　山下敦子（伊豆長岡綜合食品）
大将　土屋文香（東海大学）

一回戦
静岡県　①－1（内容勝ち）　福岡県
先鋒　川口有紀（静岡県警）
　引き分け
　叶　梨絵（福岡大学）
中堅　山下敦子（長岡綜合食品）
　大内刈り技あり負け
　川上由貴（福岡大学）
大将　土屋文香（東海大学）
　袈裟固め一本勝ち
　山崎裕子（福岡工業大学）

1回戦は昨年準優勝の福岡県との対戦となりました。接戦は予想されましたが、最後はエース土屋文香（東海大学1年）が押さえ込み①－1の内容勝ちで、準々決勝に進出することが出来ました。

準々決勝
静岡県　0－2　富山県
先鋒　川口有紀（静岡県警）
　引き分け
　西中亜由美（高岡法科大学）
中堅　山下敦子（長岡綜合食品）
　内股一本負け
　田知本　遥（東海大学）
大将　土屋文香（東海大学）
　あわせ技一本負け
　田知本　愛（東海大学）

全日本強化選手の田知本姉妹を擁する優勝候補筆頭の富山県（準優勝）との準々決勝となりました。先鋒をうまく引き分けられ、接戦に持ち込むことが出来ませんでした。しかし、都道府県対抗から、主将の川口を中心に良い雰囲気で試合に臨むことが出来、目標である五位入賞、皇后杯十位という成績を収めることが出来ました。これもひとえに選手及び各所属の指導者の努力と会長をはじめたくさんの方々の御支援のおかげとたいへん感謝しています。

平成二十四年に国体を控えた岐阜県、全国でもトップレベルの愛知県のいる東海地区において、本大会出場枠が一チームという厳しい実状の中で、近年、本県の女子柔道の強化は着実になされていると感じます。国体の状況や各種大会をみてもその結果が出ていると思います。更なる飛躍を目指すために、小・中・高の一貫した強化体制の確立と成年男女のふるさと出場のための環境作りをしていきたいと思います。

国体出場に当たり、御支援いただいた方々に感謝申し上げ、国体の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

成年男子監督　渡辺達也（静岡県警察）

第六十四回国民体育大会は、平成二十一年十月三日から五日までの間、新潟市豊栄総合体育館にて開催されました。

今回の静岡県チームは、東海ブロック大会で成年女子が一位となり本大会出場を決めたものの少年男女が惜敗したことから成年男女の参加となりました。なお、成年男子のメンバーは昨年の大分国体と同じメンバーであることから、それぞれの気心は知れたものでチームワークの良さが特徴であり、今年もチーム一丸となって一戦一戦勝ち抜いて静岡の強さを見せようと試合に臨みました。

○静岡県選手団（成年男子）
総監督　野田昭一
（東海リハビリテーション専門学院長）
総　務　間宮幸男（興誠高校教員）
トレーナー　一瀬　誠（一瀬整骨院）

成年男子監督
　渡辺達也（静岡県警察）
同　先鋒　漆畑　良（東海大学）
同　次鋒　日下徹朗（静岡県警察）
同　中堅　小椋俊彦（静岡県警察）
同　副将　齊藤和仁（静岡県警察）
同　大将　増田圭省（セコム）

初戦は、二回戦からで、一回戦で鹿児島県に勝った石川県との対戦となりました。

【静岡県　三　対　一　石川県】
・先鋒　漆畑（東海大学）
　引き分け
　酒元（金沢刑務所）
・次鋒　日下（静岡県警察）
　○朽木倒有効勝ち
　鈴木（金沢自衛隊）
・中堅　小椋（静岡県警察）
　○反則勝ち
　八重樫（国士舘大学）
・副将　齊藤（静岡県警察）
　注意負け○
　山根（金沢学院大学）
・大将　増田（セコム）
　○掬投有効勝ち
　川端（金沢大学大学院）

三回戦は、過去五年で三回優勝している東京都との対戦。東京都とは、今年で三年連続三回戦での対戦となり、実力では格上であるチームとの対戦ではありますが今年こそはなんとか一矢を報いたい気持ちで試合に臨みました。

【東京都　四　対　〇　静岡県】
・先鋒　豊田（警視庁）
　引き分け
　漆畑（東海大学）
・次鋒　金岡（警視庁）
　○掬投有効負け
　日下（静岡県警察）
・中堅　西山（新日本製鐵）
　○小外刈技あり負け
　小椋（静岡県警察）
・副将　高橋（新日本製鐵）
　○大外刈一本負け
　齊藤（静岡県警察）
・大将　立山（ＪＲＡ）
　○浮落一本負け
　増田（セコム）

東京都の昨年優勝のメンバーは中堅の選手が残っているだけで他の選手は入れ替わっていたものの圧倒的な強さで優勝。全日本の一線級の選手をそろえ、層の厚さから常に上位入賞している東京都との対戦で結果は敗退しましたが、決して完敗ではなくもう少し試合運びを考えて変えていたら接戦となっていたと思われます。今後も強化練習等を積極的に実施し、選手の強化に努めていく所存であります。大会出場にあたり、ご支援及びご声援いただいた方々に感謝申し上げ、大会の報告といたします。


静岡県成年女子チーム

第64回国民大会

第64回国民大会東海ブロック予選会

平成21年8月16日　静岡県武道館

「国民体育大会第30回東海ブロック大会柔道競技」兼「第64回国民体育大会東海地区予選会」が、8月16日（日）静岡県武道館で開催された。

我が静岡県は、本大会出場を目指し初戦の三重県と対戦した。少年男子は先鋒が終了直前に内股で有効を取り、次鋒以下4人が厳しい戦いを引き分け1対0で勝利した。少年女子と成年女子は共に3者引き分けのスタートだった。

2戦目は、国体開催を控え強化に努めている岐阜県との戦いとなった。少年男子は先鋒が技ありを取られるスタートとなったが、中堅が反則ポイントを誘い、副将も苦しい展開の中、終了直前の内股で引き分けに持ち込み大将戦につないだ。そして大将が一本を取り2対1で勝利した。少年女子は中堅の失点を挽回できなくて0対1で敗れた。成年女子は先鋒と大将が一本勝ちを収め2対0で勝利した。

最後は愛知県との戦いだった。少年男子は強敵愛知県に対し大将戦まで勝負を持ち込んだが1対2で敗れた。少年女子も大将戦の勝負となり0対1で敗れた。しかし、成年女子は先鋒と大将が寝技で一本勝ちし、本大会出場を決めた。

直前の地震で会場使用が危ぶまれたが、多くの地元高校生や柔道協会関係者の協力で、会場準備や当日の競技運営など非常にスムーズに行うことができ、開催県の責務を果たすことができた。

静岡県選手団

総監督　野田昭一（東海リハビリテーション専門学院長）
総　務　宮本昌人（常葉学園高校教員）

少年女子

監　督　沼野由香利（藤枝順心高校教員）
コーチ　西川勝啓（裾野高校教員）
大　将　小牧夏希（藤枝順心高校）
中　堅　村瀬由樹（静岡学園高校）
先　鋒　金田結花（浜松商業高校）

少年男子

監　督　間宮幸男（興誠高校教員）
コーチ　小柳津敬博（東海大学洋高校教員）
大　将　渡辺祥真（沼津市立沼津高校）
副　将　平井亮輔（東海大翔洋高校）
中　堅　髙田博文（静岡学園高校）
次　鋒　菊地颯（沼津市立沼津高校）
先　鋒　吉澤駿（静岡学園高校）

成年女子

監　督　勝呂良三（庵原高校教員）
コーチ　西川勝啓（裾野高校教員）
大　将　土屋文香（東海大学）
中　堅　山下敦子（長岡綜合食品）
先　鋒　川口有紀（静岡県警察）

結果

成年女子　静岡県2勝1分け
ブロック1位で本大会出場
少年女子　静岡県0勝2敗1分け
ブロック3位で敗退
少年男子　静岡県2勝1敗
ブロック2位で敗退

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

第51回

静岡県柔道祭開催

平成21年5月4日（月・祝）午前9時30分　静岡県武道館

今年度の柔道祭が5月4日、静岡県武道館で開催された。小学生の部から一般の部まで県内の柔道愛好家が一同に集まる県内唯一の大会となっている。

恒例の柔道協会表彰が行われ、特別功労賞3名、功労賞10名の表彰が行われた。今年度から優秀選手（全国大会優勝）を育てた指導者も優秀指導者賞を授与されることになり、3名の指導者が表彰された。また、今年度の優秀選手として片岡まゆさん（富士宮市立富士宮第一中学校）が表彰された。最後に、先日お亡くなりになった前東部地区幹事長・県柔道協会副会長の中西様に8段が贈られた。

形の演技に続いて競技が開始された。高校男子の1回戦が8会場で実施され、一気に会場の熱気があふれてきた。その後各会場で各部の試合が行われた。例年のことではあるが、スタンドから大きな声援が送られ、一般の部の決勝戦まで熱気あふれる試合が行われた。試合結果や表彰者は以下の通り。

平成21年度静岡県柔道協会表彰

《特別功労賞》
七段　鈴木　宅治
六段　髙田　厚
六段　渡邉　格一

《功労賞》
七段　渡辺　達也
六段　大形　厚三
六段　寺田特太郎
六段　森永　祐司
五段　興梠　正人
五段　小出　晃章
四段　増井　廣康
四段　中野　有哉
四段　平井　孝治
三段　増尾　清己

《優秀指導者賞》
四段　神山　信之（神士館館長）
第5回全国小学生学年別柔道大会
5年生男子45kg級優勝　森下北斗君を育成
四段　渡邉　智之
（富士宮第一中学校柔道部顧問）
第39回全国中学校柔道大会
2009年チューリンゲン国際柔道大会
女子48kg級優勝　片岡まゆさんを育成
三段　沼野由香利
（藤枝順心高等学校柔道部顧問）
2008年世界女子ジュニア体重別選手権大会
女子52kg級優勝　加賀谷千保さんを育成

《優秀選手賞》
初段　片岡　まゆ（富士宮第一中学校）
2009年チューリンゲン国際柔道大会女子48kg級優勝

団体成績

小学校の部
1位　大仁柔道会
2位　田代道場
3位　笠井柔道館
3位　髙山柔道塾

中学校の部（男子）
1位　静岡学園中学
2位　浜松高台中学
3位　東海大翔洋中学
3位　沼津金岡中学

中学校の部（女子）
1位　市立沼津中等部

2位　富士宮第一中学
3位　東海大翔洋中学
3位　常葉学園橋中学

高校の部（男子）
1位　静岡学園高校
2位　市立沼津高校
3位　新居高校
3位　浜松商業高校

高校の部（女子）
1位　藤枝順心高校
2位　東海大翔洋高校
3位　市立沼津高校
3位　浜松商業高校

一般の部
1位　静岡産業大学
2位　長岡綜合食品店
3位　ＮＰＯ法人武道学舎
3位　韮山柔道教室

優秀選手

小学校の部
辻　幸之助（大仁柔道会）
飯川夢二郎（田代道場）

中学校の部（男子）
佐野将大（静岡学園中学）
田村政樹（市立沼津中等部）

中学校の部（女子）
村山のどか（市立沼津中等部）
山口凌歌（富士宮第一中学）

高校の部（男子）
髙田博文（静岡学園高校）
渡辺祥真（市立沼津高校）

高校の部（女子）
伊藤美麗（藤枝順心高校）
鈴木里穂（東海大翔洋高校）

一般の部
内田武三士（静岡産業大学）
西田将貴（長岡綜合食品店）

講道館柔道「形」優秀賞

投の形
取四段　斉藤修司（士道会）
受三段　岡部真也（士道会）

極の形
取五段　森下良男（協栄森下道場）
受五段　髙林祐介（協栄森下道場）

柔の形
取七段　白井康二（新居体育協会）
受四段　白井恵子（新居体育協会）

講道館護身術
取六段　一瀬　誠（浜北柔道協会）
受六段　竹内紀久夫（浜北柔道協会）

五の形
取七段　西島温行（福田柔道クラブ）
受七段　磯部正博（福田柔道クラブ）

スポーツフェスティバル

今年度のスポーツフェスティバルは西部地区11月8日（日）浜松市浜北総合体育館、中部地区は11月15日（日）静岡市北部体育館、東部地区は11月8日（日）沼津市勤労者体育センターで開催された。各地区それぞれ工夫して実施しており、柔道の普及に努めている。今年は中部地区の様子を簡単に報告する。

中部地区スポーツフェスティバル

今年度は二種別による団体戦（3人制）を実施した。

種別①（無段～3段、18歳～30歳）年齢は若く現役で活躍する選手が多く参加した。9チームが参加し、予選リーグ・決勝リーグで勝敗を争った。若くて元気な試合には好感が持てたが、中には練習不足で息が上がる選手も見受けられ仕事と練習の調整が難しいことを感じさせた。優勝はＡＬＳＯＫ静岡支社であった。静岡市内のチームが多く参加しており、静岡市外のチームのさらなる参加が望まれる。

種別②（2段以上、30歳以上）7チームが参加し、予選リーグ・決勝戦で勝敗を争った。年齢は30歳代16名40歳代10名とベテランの参加があり、実力と重みがある往年の名選手が多く出場した。「お父さん頑張って」と応援する母子の姿があり、ほほえましい会場となり笑いを誘っていた。優勝は静岡柔道クラブを決勝で破った東海翔洋倶楽部であった。

協会表彰

平成21年度の静岡県柔道協会表彰が11月28日（土）午後4時からホテルシティオ静岡にて行われた。受賞者は以下の5名でした。

鈴木優希君
（常葉学園橋中学校）
第40回全国中学校柔道大会
男子55kg級
3位入賞

田村雅樹君
（浜松市立高台中学校）
第40回全国中学校柔道大会
男子73kg級
3位入賞

渡辺祥真君
（沼津市立沼津高等学校）
第58回全国高等学校総合体育大会
柔道競技校男子１００kg超級
3位入賞

岡本里帆さん
（藤枝順心中学校）
第40回全国中学校柔道大会
女子44kg級
準優勝

渡辺明里さん
（富士宮市立富士宮第一中学校）
第40回全国中学校柔道大会
女子57kg級
3位入賞

保護者、柔道協会の理事などが見守る中、今年度の表彰が行われた。安齊会長から挨拶があり、受賞者に記念品と賞状が贈られた。最後に受賞者を代表し、沼津市立沼津高等学校の渡辺君からお礼の言葉があり、合わせて力強い今後の抱負も聞くことができた。



表彰者を囲んで

全日本選手権女子
土屋文香（東海大学）
ベスト8進出

第29回全国少年柔道大会
平成21年5月5日　講道館
個人6年生　森下北斗

5年生　大橋海斗
3回戦進出

団体戦　神士館
2回戦進出

第31回全国高校選手権

平成21年3月20日
女子団体　藤枝順心高校
ベスト8進出
男子団体　静岡学園高校
初戦敗退

第26回静岡県大学高専柔道春季大会

5月3日（日）静岡大学
形の部　優勝　静岡大学
取り　内野靖之
受け　長谷川翔太
団体　優勝　静岡産業大学A
個人
女子　竹輪有基（静岡産業大学）
無段　伊藤　洸（沼津高専）
68kg級　小泉仁史（静岡産業大学）
80kg級　高原憲司（静岡産業大学）
80kg超級　眞部　光（静岡産業大学）

都道府県対抗第25回全日本女子柔道大会

6月20日（土）21日（日）
岡山県武道館
1回戦　静岡県1－1
群馬県（内容勝ち）
2回戦　静岡県0－1　山口県
監督　勝呂良三（庵原高校教員）
コーチ　西川勝啓（裾野高校教員）
先鋒　川口有紀（静岡県警察）
次鋒　勝呂　綾（日本大学）
中堅　伊藤綾香（龍谷大学）
副将　山下敦子（長岡綜合食品）
大将　土屋文香（東海大学）

全日本ジュニア県大会

平成21年6月27日（土）
静岡県武道館
60kg級　吉澤　駿（静岡学園高校）
66kg級　庄司史成（静岡学園高校）
73kg級　前原直道（浜松商業高校）
81kg級　髙田博文（静岡学園高校）
90kg級　関根龍成（静岡学園高校）
100kg級　平井亮輔（東海大学祥洋高校）
100kg超級　渡辺祥真（市立沼津高校）
48kg級　金田結花（浜松商業高校）
52kg級　神山結理（市立沼津高校）
57kg級　井口采美（浜松商業高校）
63kg級　岩澤胡桃（加藤学園高校）
70kg級　山村瑞葉（浜松北高校）
78kg級　村瀬由樹（静岡学園高校）
78kg超級　小牧夏希（藤枝順心高校）

全日本ジュニア東海ブロック大会

7月12日（日）愛知県武道館
各級優勝者が全国大会へ出場

全日本ジュニア選手権大会

9月12日（土）13日（日）
埼玉県立武道館
男子60kg級
吉澤　駿（静岡学園高校）
初戦敗退
男子100kg級
渡辺祥真（沼津市立沼津高校）
初戦敗退
女子48kg級
金田結花（浜松商業高校）
初戦敗退
女子52kg級
神山結理（沼津市立沼津高校）
初戦敗退
女子70kg級
山村端葉（浜松北高校）
初戦敗退
女子78kg級
村瀬由樹（静岡学園高校）
初戦敗退
その他本県関係者
女子52kg級
加賀谷千保（山梨学院大学1年）
優勝
女子78kg超級
土屋文香（東海大学1年）
準優勝
男子66kg級
正治和也（日本大学2年）
初戦敗退

第34回　全国教員柔道大会

8月2日（日）講道館
2回戦　静岡県2－0　京都府
3回戦　静岡県0－3　東京都
監督　須田直之（清水東高校）
大将　山崎大介（富士宮北高校）
副将　小塚直哉（飛龍高校）
中堅　井口佳彦（浜北西高校）
次鋒　中村　航（島田学園高校）
先鋒　水口　透（日本大学三島高校）

関東警察柔道大会

6月25日（木）
団体
静岡県　1－3　長野県
静岡県　0－5　神奈川県

第6回全国小学生学年別柔道大会

8月23日
長野県松本市松本総合体育館
5年男子45kg級
寺田海斗（柔好会）
ベスト16
45kg超級
川井康平（錬心館）
予選リーグ敗退
5年女子40kg級
小林夏希（清流館山縣道場）※
ベスト8
40kg超級
嘉地唯花（藤枝柔道倶楽部）
予選リーグ敗退
6年男子60kg級
森下北斗（神士館）
予選リーグ敗退
60kg超級
小笠原雄也（藤枝柔道倶楽部）
ベスト8
6年女子45kg級
鈴木茉莉（柔清会）
ベスト16
45kg超級
植松ほたる（富士市柔道会）
予選リーグ敗退
※5年女子40kg級は菅谷友紀（育誠館）が県大会優勝したが、怪我のため選手変更された。

全国中学校柔道大会

8月22日～25日
沖縄県立武道館
女子団体戦（予選リーグ）
沼津市立沼津中学校　2－1
阿波中学校（徳島県）
沼津市立沼津中学校　3－0
豊見城中学校（沖縄県）
決勝トーナメント

沼津市立沼津中学校　0－2
私立淑徳中学校（東京都）

男子団体（予選リーグ）

私立静岡学園中学校　1－2
五十市中学校（宮崎県）
私立静岡学園中学校　3－0
緑南中学校（北海道）

個人戦

44kg級　岡本理帆（藤枝順心中学校）　準優勝
48kg級　馬場あゆ美（東海大学翔洋中学校）　2回戦敗退
52kg級　花村礼乃（伊豆長岡中学校）　5位入賞
57kg級　渡辺明里（富士宮第一中学校）　3位入賞
63kg級　菊池優貴乃（静岡学園中学校）　2回戦進出
70kg級　村山のどか（市立沼津中学校）　3回戦進出（ベスト16）
70kg超級　滝川真央（沼津原中学校）　2回戦敗退
55kg級　鈴木優希（常葉橋中学校）　3位入賞
60kg級　佐藤光将（静岡学園中学校）　2回戦進出
66kg級　西村直之（富士南中学校）　5位入賞
73kg級　田村雅樹（浜松高台中学校）　3位入賞
81kg級　遠田扶巳也（東海大学翔洋中学校）　3回戦進出（ベスト16）
90kg級　佐野将大（静岡学園中学校）　3回戦進出（ベスト16）

全国高等学校総合体育大会 柔道競技

平成21年8月8日～12日
奈良県天理市天理大学体育館

90kg超級　大田和也（静岡学園中学校）　初戦敗退

男子団体

静岡学園高校　2－1
青森北高校（青森県）
静岡学園高校　2－1
前橋育英高校（群馬県）
静岡学園高校　0－2
国士舘高校（東京都）　ベスト8進出

女子団体

藤枝順心高校　2－0
秋田商業高校（秋田県）
藤枝順心高校　0－2
埼玉栄高校（埼玉県）

60kg級　加賀谷太郎（藤枝明誠高校）　2回戦進出
66kg級　庄司史成（静岡学園高校）　初戦敗退
73kg級　菊池　颯（市立沼津高校）　2回戦進出
81kg級　髙田博文（静岡学園高校）　2回戦進出
90kg級　関根龍成（静岡学園高校）　初戦敗退
100kg級　飯沼元基（常葉学園橋高校）　初戦敗退
100kg超級　渡辺祥真（市立沼津高校）　3位入賞
48kg級　金田結花（浜松商業高校）　ベスト8進出
52kg級　秋山侑里佳（藤枝順心高校）　3回戦進出
57kg級　井口采美（浜松商業高校）　2回戦進出
63kg級　岩澤胡桃（加藤学園高校）　3回戦進出
70kg級　山村瑞葉（浜松北高校）　ベスト8進出

第26回静岡県大学高専柔道秋季大会

78kg級　村瀬由樹（静岡学園高校）　初戦敗退
78kg超級　小牧夏希（藤枝順心高校）　初戦敗退

11月3日（火・祝）静岡大学

形の部　優勝　静岡大学
取り　藤原一仁
受け　横山泰亮

団体の部　優勝
静岡産業大学A

女子個人　優勝
栗田実季（静岡産業大学）

無段の部　優勝
石川　貢（静岡文化芸術大学）

全国警察柔道選手権大会

吉田一統（静岡産業大学）
9月11日（金）日本武道館

90kg級　小椋　初戦敗退
73kg級　日下　ベスト8進出
63kg級　川口　初戦敗退
68kg級　優勝　浜浦祐貴（静岡産業大学）
80kg級　優勝　高桑広樹（東海大学）
80kg超級　優勝

速報　高校新人柔道大会



個人戦　平成22年1月16日（土）　県武道館
団体戦　平成22年1月23日（土）　県武道館

今年度から高校柔道新人大会（選手権大会）が大きく変更された。個人戦女子は52kg、57kg、63kg、70kg、無差別の5階級となり、男子個人戦は60kg、73kg、81kg、90kg、無差別の5階級となった。全国大会は3月21日東京日本武道館で開催される。

男子個人優勝者

60kg　吉澤　駿（静岡学園高校）
73kg　石田　亘（浜松商業高校）
81kg　石井都百希（日本大学三島高校）
90kg　細川　敦大（浜松商業高校）
無差別　南口　優太（加藤学園高校）

女子個人優勝者

52kg　神山　結理（沼津市立沼津高校）
57kg　松川　美世（藤枝順心高校）
63kg　原田　佑花（静岡学園高校）
70kg　清　貴凛（浜松商業高校）
無差別　中村　優（藤枝順心高校）

男子団体　優勝
浜松商業高校

女子団体　優勝
藤枝順心高校

男女の団体戦の全国大会は3月20日東京日本武道館にて開催される。

速報　全日本選手権県予選会

平成22年2月13日　県武道館

1位　増田　圭省（セコム）
2位　小椋　俊彦（県警官）
3位　真野　洋光（県警官）

1・2位の選手が東海大会に出場する。
女子は、岡田紘味（静岡産業大学）と村瀬由樹（静岡学園高校）が東海大会に出場する。

形講習会

6月6日（土）午前10時～　静岡北部体育館柔道場

講道館講習会・静岡県形中央講習会が6月6日（土）午前10時から静岡北部体育館柔道場にて開催された。講習会の様子を審判研修委員会の八木委員長に報告していただく。

静岡県柔道協会　審判研修委員会
委員長　八木　卓

静岡県柔道協会では、講道館より講師を派遣していただき、講道館講習会・静岡県形中央講習会として次の通り開催した。

1　日時　平成21年6月6日（土）
　午前10時～午後4時
2　場所　静岡市北部体育館
　柔道場
3　「形」の種別と講師
　「柔の形」　講師八段
　尾形敬史先生
　講道館教育普及委員会委員長・
　茨城大学教授
4　受講者数　役員8名・
　受講生52名

尾形先生には、平成14年に翌年の静岡国体に備え、静岡市北部体育館にて「講道館柔道審判規定」、「国際柔道連盟試合審判規」の解説のご指導を頂きました。この講習会に参加した者もあって、何となく先生を身近に感じて終始和やかな雰囲気での講習会となった。


指導される尾形先生

開講式で、静岡県柔道協会安齊悦雄会長より「皆さんは、この貴重な機会を利用して、尾形先生から正当な形をしっかり学び、細かな点までご指導頂いて技の理合い、原点を体感して更にいろいろな形に接するようお願いしたい。」との挨拶があった。

講習に入り、最初に明治20年の「柔の形」の制定から平成6年のＶＴＲ制作に至るまでの経緯について、そして、嘉納師範「柔の形」説明（『柔道』大正4年2月）から「柔の形」の成立の概要について説明があった。

また、この形の持つ特色を活かして、力にたよりがちな男子の柔道とは異なり、柔道の理合いや心構え、原則的な進退動作、体捌き、及び力の用法に重きを置いた講道館女子部の稽古について、先生の体験から大変興味深いお話が聞けた。

第一教に入るにあたり、「右手で左手の手首を持ち両手が離れないようにして、左手で右手の手首を持ち替えてください。」と、相手に手首を制されたときに、それを外して逆に相手の手首を制する方法を「柔の形」の導入として紹介して下さった。

午前中には、第一教の「両手取」から始めて、「肩廻」「腮押」「肩押」と進み、最も難しいとされる「突出」を練習して午前の部を終了した。

午後は、第二教の「切下」「両肩押」「斜打」「片手取」「片手拳」と順に進んでいったが、第一教で指導を受けた崩しや攻防の理合いを意識しながら先生の解説を聞いたため、午前の講習より速いペースで進んでいった。

第一教から第三教まで15本終了したところで、全受講生が道場全域に広がり正面への礼から15本を通しで復習した。「柔の形」を初めてやる者から、15本を一通り理解している者まで幅があるために、成果の発表は第一教をやる者、第二教をやる者、第三教をやる者に分かれた。受講生を代表して、第一教では海野良信六段・植田秀四段、第二教では水野進7段・中村寿一7段、第三教では高校生の長嶋初段・神山初段の3組が形を演じた。それぞれに尾形先生から講評を頂いたなかで、高校生は、「受が確実に崩されている。しっかりできていた。更に練習して、ぜひ、形選手権にでられるように頑張りなさい。」と励ましの言葉を頂いた。

閉講式に移り、安齊会長から受講生を代表して、望月純子二段が修了証を授与された。そして、高田勝之副会長の御礼の言葉で講習会は終了した。

「講習会の案内は毎年頂くが、今回初めて参加させて頂いた。中央の先生からご指導を頂き、正しい形を練習できて本当に良かった。自分の不勉強で初歩的な事柄を質問しても尾形先生は懇切丁寧にご指導下さり、正しい形の普及に本当にご尽力されていることがよく分かりました。」の感想が聞かれた。

また、「今まで『柔の形』を指導してきたが、自分は形だけにとらわれて技の攻防の理合いなど本質までは指導できていなかった。今日は尾形先生のご指導のお陰で、今後の指導に幅が広がり本当に有難かった。」という、ご年配の先生のこの言葉は、受講生が各地区へ戻り、この講習の成果として正しい「柔の形」の普及発展に尽力してくれることが期待できるものであった。

最後に、本事業を開催して頂きました講道館、および、お忙しい中大変熱心にご指導いただきました尾形先生に厚く御礼申し上げます。



尾形先生を囲んで

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

戸田柔道会



②〒410-3402
沼津市戸田388-1
③☎0558－94－2146
④水口　裕
⑤児童２人　小学生７人
中学生１人
大学・社会人５人

⑥道場紹介

昭和62年11月に柔道会を創立。当初は保健センターの一画に道場を設けて練習していましたが、平成4年7月に総合スポーツ施設であるB&G海洋センターのオープン以来、2階柔道場にて練習に励んでいます。

練習日は火・水・金と変わりはないものの、当時は60名を越える生徒数も現在では10名程となってしまいました。

しかし、夏には東部地区の審判講習会と合宿を兼ねた大会、冬には道場の大会と、年2回行われる大会は、近隣の道場の協力のもと盛大に開催しております。

小さな道場ではありますが、今後ともご指導、ご協力お願い致します。

函南柔道会



②〒419-0112
田方郡函南町柏谷995番地の25
③☎055－978－8287
④会長　松岡政文
⑤児童６人（女性１人）
小学生22人（女性２人）
中学生15人
高校社会人21人

⑥道場紹介

函南柔道会は、指導員不足から会員減少により、平成13年から道場連盟を休会しておりましたが、子供の希望を叶えている小野博之先生の姿を見て、感銘した栗原・山田先生方の力をお借りする事ができましたことから、入会を希望しましたところ、道場連盟役員の方々のお力添えを頂き、平成19年から再入会を認められ、「感謝の気持ちを持った元気な挨拶・正しい勇気を持って新しい一歩を踏み出す・友達との絆を大切にする心」をもっとうに活動中です。日本柔道への寄与と青少年育成を大事に励んで参りますので、道場連盟役員及び各道場の先生方のご指導ご協力をお願い致します。

港柔道教室

②〒425-0052
焼津市田尻340
③☎054－624－1055
④代表者　福村　直
⑤児童４人　小学生15人
中学生２人　高校生１人
大学・社会人15人

⑥道場紹介

港柔道教室は昭和62年、焼津市のはずれ小川漁港近くの港小学校の小体育館を市の武道協議会が借り受け柔道は毎週月曜日と金曜日の午後7時から8時まで小学生8時から9時まで中学、高校、一般と練習しております。

モットーは子供達が少しでも柔道を好きになってくれればそれでよし、又柔道を通じ礼儀や忍耐、協調性等を学び立派な大人になってくれれば良いと言う考えで運営されております。勝つ事を至上とせずどんな子供も受け入れて生きる力（自信）を育みたい。



嬉しい事には、かつて練習生だった子供達が幼稚園生、小学生の親になり、親子で入会し練習に来てくれる人達が出て来ました。又子供を連れて来たお母さんが、自らも子供達と練習をし、初段を取った方もおります。

焼津市は市内の全ての中学校、高等学校で柔道部が廃部になっ

て、中高生の練習生が極端に少なくなってしまった事が残念でなりません。

指導者、子供達、父母会共に明日に向かって楽しく頑張って行きたいと思います。



岳南塾

②静岡市駿河区向敷地846
③☎054－259－2162
④塾長　佐藤充宏
⑤小学生16人　中学生11人
高校生5人
大学・社会人8人

⑥道場紹介

岳南塾は故望月稔先生が安倍川越しに富士山が眺望できる向敷地の地に静岡市の商工会議所の援助を受けて「岳南塾・養正館」として青少年の健全育成を謳って建てられた。稽古後午前様になるまで先生を車座に囲んで嘉納治五郎先生の直門としての体験談や武道は勿論、政治、経済、世界情勢などなど多くを語り合った。また欧米を中心に多くの門人が内弟子を志願し、先生の薫陶を受けて賑わった。

望月稔先生没後、道場経営を担当していたご子息から、道場の老朽化から売却の話が持ち上がり、望月先生を慕って入門していた現佐藤充宏氏が望月稔先生の武道の継承を願って道場を引き継いだ。

道場では望月稔先生の教えを中心に幼児、小学生、中・高校生、一般の柔道部と合気道、柔術、ボクササイズ、空手と多様な部門に亘って道場を利用している。

少年柔道では礼儀正しい、思いやりのある人を育てることを目標に小学低学年には勝敗には余りこだわらない指導で基本を重視している。

少年柔道部の出身者の中には小学6年で柔道を終えて、社会で指導的立場に立っている人、中学や高校、大学まで続け、中体連で全中に出場した者、インターハイに出場した者、国体に出場した者など多くの門人が巣立っている。

＊写真は小学生、中学生の集合写真です。岳南塾で撮影しました。

袋井スポーツ協会柔道部

②〒437-0226
袋井中学武道場
③☎090－9125－0091
④代表者　千葉嘉次
⑤児童1人　小学生11人
中学生7人　高校生0人
大学・社会人7人

⑥道場紹介

部員達は厳しい練習に負けず、礼法を守り明るく頑張っております。

試合で勝つことは大事なことですが、部員同士や先生との絆、厳しい練習をやりぬく強い気持ち、自分で考え道を切り開いて前に進む勇気、など試合で勝つことより大事なことを練習の中からみつけてほしいと思います。

元気で頑張っている部員達を見るとみんなが元気をもらえる、そんなチームでありたいと指導者、父母会共々、頑張っております。



練武館

②〒431-1305
浜松市北区細江町気賀
細江中学校内
③電話・FAX　053-523-0152
④館長　野沢義雄
代表　金子厚幸
⑤小学生18人　中学生5人
高校生2人　大学・社会人16人

⑥道場紹介

当道場は明治27年武術修業者有志18名で創設した歴史ある道場で現在柔道部と剣道部で組織されています。（当時は弓道部も有りました。）

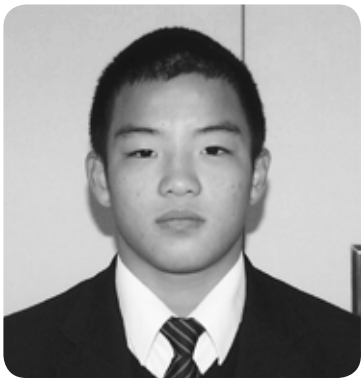
道場の場所は細江神社境内から始まり、いろいろと移転し、現在は浜松市立細江中学校武道場練武館で毎週火・土曜日夜7時～9時まで稽古しています。又、1月寒稽古、8月暑中稽古を各5日間ずつ行っています。

各種大会での成績は今一つですが、攻める・前へ出る・元気で積極的な柔道を目標に、これからもがんばっていきます。



新人選手紹介コーナー

今年度活躍された期待の若い選手を紹介します。例年女子選手の活躍が目立つ本県柔道界ですが、今年度は男子選手ががんばってくれました。第40回全国中学校柔道大会男子55kg級で3位入賞した鈴木優希君（常葉学園橘中学校）、同じく第40回全国中学校柔道大会男子73kg級で3位入賞した田村雅樹君（浜松市立高台中学校）、そして第58回全国高等学校総合体育大会柔道競技校男子100kg超級で3位入賞した渡辺祥真君（沼津市立沼津高等学校）です。女子選手は、第40回全国中学校柔道大会女子44kg級で準優勝した岡本里帆さん（藤枝順心中学校）と、第40回全国中学校柔道大会女子57kg級で3位入賞した渡辺明里さん（富士宮市立富士宮第一中学校）です。今年度は以上の個人5人を紹介します。



鈴木優希君
（常葉学園橘中学校3年）

◎第40回全国中学校柔道大会
男子55kg級3位入賞

鈴木君が柔道を始めたきっかけは、父親の知人のお子さんが柔道をやっており、誘われたことだったそうです。

今回全国大会で見事3位に入賞したのですが、「まさか入賞できるとは思っていなくてとてもうれしかった。」と入賞の感想を述べています。

団体戦でも県で準優勝し東海大会に出場しています。今後の希望では、「日本一になり、さらに世界一になる。」と大きな夢を持っています。

監督からは「初心を忘れないこと。一戦一戦の集中力で結果が決まる。」というアドバイスが送られています。



田村雅樹君
（浜松市立高台中学校3年）

◎第40回全国中学校柔道大会
男子73kg級3位入賞

田村君が柔道を始めたきっかけは小学校の先生に道場を紹介していただいたからだそうです。全国3位という成績については「3位という結果はとても嬉しいです。でも、この結果に満足しないで、高校に入っても毎日練習を頑張ってまた全国の舞台で活躍したいです。」と前向きに語ってくれました。高台中学卒業後は地元の高校に進学しさらに練習を重ねるようです。

監督からは「彼の良さは積極的に組み、技を繰り出すところである。また、バランス感覚に優れ、相手の動きに対しての反応が早い。まだまだパワー不足、組み手など課題もあるので今後さらなる努力によって成長してくれるものと考える。」との言葉をいただいています。



渡辺祥真君
（沼津市立沼津高等学校3年）

◎第58回全国高等学校総合体育大会柔道競技校男子100kg超級
3位入賞

渡辺祥真君は久しぶりに高校生男子として全国大会で入賞を果たしてくれました。柔道を始めたきっかけは父親に誘われたからという事です。全国3位入賞については「本当にうれしかった。自分でもびっくりした。」と謙虚に語っています。全日本ジュニアの試合でも東海地区で優勝し、全国大会に出場し、国体の東海地区予選にも県

の大将として出場しがんばってくれました。

今後は「大学に進学し、日本一を目標にがんばる。」と将来の夢を語っています。

監督からは「部員数も少なく、充分な練習状態でない公立高校でも目標をもってがんばっていけば結果を出すことができることを証明してくれたと思います。」と渡辺君の頑張りを高く評価しています。



岡本里帆さん

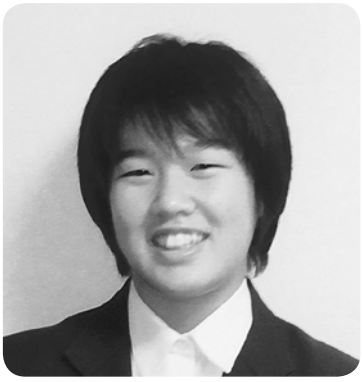
（藤枝順心中学校3年）

◎第40回全国中学校柔道大会
女子44kg級準優勝

岡本理帆さんが柔道を始めたきっかけは姉の影響ということです。入賞の感想は「入賞できましたが、去年と同じ相手に負けてしまったので、悔しかったです。入賞できたのも先生や先輩達、親の応援があったからだと思うので、感謝の気持ちを忘れずにこれからもがんばりたいです。」としっかりと自分を見つめています。

今後の希望は「今度は全国優勝できるようにまた頑張りたい。」と非常に前向きです。

監督からは「現状に満足せず、常に上を目指して欲しいと思います。」と岡本さんに対する期待を語ってくれました。



渡辺明里さん

（富士宮市立富士宮第一中学校2年）

◎第40回全国中学校柔道大会
女子57kg級3位入賞

渡辺さんが柔道を始めたきっかけは「友人に誘われた」というごく普通のきっかけでした。全国大会入賞の感想は「優勝を目標にやってきたのですが、追い込みきれずに3位という結果でした。3位で満足せず来年こそは優勝したいと思います。」と現状に満足することなく、早速来年度に向けての意欲を感じさせてくれます。

今後の夢は「全中優勝そしてチューリンゲン国際大会優勝」と世界に羽ばたく大きな希望を持っています。

監督からは「明るく素直で誰からも応援される選手です。将来は『日の丸』をつける選手になると思います。」と期待の大きさを感じさせるコメントをいただいています。

第2回全国視覚障害者学生柔道大会開催

第2回全国視覚障害者学生柔道大会が8月8日浜松市浜北区のグリーンアリーナで開催された。男子個人（60kg、66kg、73kg、81・90kg合同）女子個人合同の5階級で試合が行われた。試合時間は通常と同じ4分だが、あらかじめ2人が組んだ状態から試合が始まり、分かれてしまったら「まて」となり、また組んだ状態から開始となる。試合そのものは大きな差が無く、激しい技の応酬が行われた。また、組んで始まるのだが組が左右で異なるときは非常に厳しい組み手争いが行われた。

午前中には西部地区の道場連盟の合同練習会が行われ、子ども達も多く試合を観戦した。特に開会式への入場などでは選手を誘導するなど活躍してくれた。日頃目にすることがない試合を見せていただき、子ども達と同様勇気をもらうことができた。

静岡文化芸術大学の学生さんや地元の出世太鼓のグループの方々、柔道協会の方々の協力もありすばらしい大会になった。



平成21年6月28日（日）県立土肥高校で、東部柔道場連盟主催の平成21年東部少年錬成会が開催されました。当日は、県東部の12道場から3・4年生の部18チーム、5・6年生の部20チーム約200人の選手が集まりました。

各部を2ブロックに分け総当たりで対戦する試合形式の稽古で、参加人数には制限がないので、全ての選手が真剣勝負を数多く経験できました。また、錬成会ということで気軽に声を掛け合う選手も多く、試合外の交流も活発でした。



東部柔道場連盟　強化委員
宮本哲也

訃報



故 **中西儀久** 八段
平成二十一年四月二日逝去
行年七十二歳

先生は昭和30年3月静岡県立沼津商業高校ご卒業後、日本国有鉄道に就職された。主に鉄道公安室に勤務され、浜松鉄道公安室長・沼津鉄道公安室長を歴任され昭和62年退職され、船津製作所を設立された。

柔道を沼津商業高校入学と同時に始められ、故工藤勝太郎先生のご指導を受け実力を高めていかれた。日本国有鉄道入社後も柔道を継続し、全国鉄柔道大会に長年出場された。全日本産業別柔道大会にも全国鉄部門の代表として10回出場し、選手としてだけでなく助監督・監督・総監督も務められた。

柔道協会では昭和37年に東部地区幹事に就任され、地区会計、県第一審議員、中央評議員、中央幹事、中央理事、第二審議員などを歴任し、平成2年からは東部地区幹事長を務められた。

長年の活動が評価され、静岡新聞社・静岡放送スポーツ賞（体育功労者賞）を受賞された。

東部地区の柔道関係者はもとより、多くの方々から慕われていた先生のご冥福を心からお祈りいたします。

合掌



故 **橋本　章** 六段
平成二十一年六月十七日
行年六十五歳

橋本先生は、昭和34年に静岡商業高等学校へ入学され、柔道を始められました。在学中は、静商柔道部黄金期を縁の下の力持ちとして支えていただきました。

また、とても愛校心が強く、卒業後も多くの後輩たちの指導をしていただきました。静商ではどの年代でも、橋本先生を知らない方はおりません。近年では静商柔道部後援会会長を務め、OB会の親睦にも貢献されました。

高校卒業後は、滝井道場に所属し多くの生徒を教え、滝井康次郎先生のもと形の修業もされました。

静岡県柔道協会では、中央役員会計や中部地区副幹事長を務められ欠かすことできない存在でした。各種県大会では、会場準備をされ、旅費の入った封筒を事前に用意する等、きめ細かな心遣いをされていました。

先生はとても明るい人柄で、分け隔てなく人と接し、年輩の方々から若者まで皆さんお世話になった方も多いと思います。65歳という若さでお亡くなり、とても残念です。謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

合掌



山崎先生のお祝い



山崎陸雄先生
体育章（功労章）受章

前西部地区幹事長の山崎先生が静岡県体育協会体育章（功労章）を受章された。受章を祝う会が7月18日㈯午後5時から浜松名鉄ホテルにて開催された。安齊会長を始め多くの方々のご参加をいただき盛大に祝う会が行われ、山崎先生の長年のご努力をたたえる楽しい会となった。

髙田先生のお祝い



髙田勝之先生
静岡新聞社・静岡放送スポーツ賞（体育功労者賞）受賞

現東部地区幹事長の髙田先生が静岡新聞社・静岡放送スポーツ賞（体育功労者賞）を受賞された。

受章を祝う会が4月5日（日）ホテル沼津キャッスルにて開催された。安齊会長を始め多くの方々のご参加をいただき盛大に祝う会が行われ、髙田先生の長年のご努力をたたえる楽しい会となった。

表彰

静岡県体育協会体育章受賞者

功労章　山崎陸雄
優秀選手賞　加賀谷千保選手
奨励賞　片山まゆ選手

編集後記

柔道しずおかの第13号ができました。平成21年度の柔道協会の歩みが分かるよう編集したつもりですがいかがでしょうか。何か御意見などありましたら各地区広報普及委員会の委員にお知らせ下さい。

平成21年は静岡県柔道協会にとって大切な人を失った年でした。計報に載せましたが中西様と橋本様です。お二人とも長年柔道協会のために尽くされ、本当に残念でなりません。特に橋本様はまだ現役の協会役員であり、経営者ですので、ご家族のご無念もはかりしれません。お二人のご冥福をお祈りいたします。

世の中は政権が変り、「事業仕分け」が話題になりました。柔道協会も厳しい財政状況であることはたびたび指摘されています。柔道人口を増やし柔道を普及し競技力を高めて行くことが求められているわけですが、何でもできるわけではありません。『知恵』を出し合いながら頑張って行こうではありませんか。

題字
安齊会長

第14号

柔道しずおか

平成23年３月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒420-0911　静岡市葵区瀬名7-2-38　佐々木秀男
TEL　054-265-5272　FAX　054-265-5274

【巻頭言】

より安全な柔道を目指して

静岡県柔道協会　副会長　六段　左口直人



競技人口の減少と安全性が叫ばれている昨今、どのようにしたら競技人口を増加させられるか、どのようにしたらより安全な競技になるかが柔道の大きな課題であります。県西部地区においては、協会諸先輩方の甚大な努力と地区協会役員の先生方の協力で、競技人口の減少も少なく、また大きな事故も無く落ち着いていると思われます。これも協会役員や柔道指導者のご尽力の御蔭と感謝しております。

しかしながら、柔道全体・県全体を見渡すと競技人口は確実に減少しております。なぜ競技人口の減少があるのでしょうか。減少の要因の一つに、「怪我の多さ」があるのではないかと思われます。

私も大学2年の時に同級生が、講道館の紅白試合において試合中に内股を掛け俗に言う「首を突っ込む」状態になり、首の第3頚椎・第4頚椎の骨折脱臼を起こした事故に遭遇しました。彼のその後の人生は、全身麻痺の状態で寝たきりでした。幾度か見舞いに行きましたが、人工呼吸器を着け、元気だった頃の面影を失った姿を見るたびに悲しく・寂しい思いをしました。残念ながらこの様な事故が、今年も新聞・テレビ・ラジオで報道されるのを多く見聞き致しました。

競技スポーツとしての柔道は、ある程度の危険とは隣りあわせだと思われます。私も指導者の末席に身を置く一人として「多くの部員に試合を経験させたい」「勝利の味を味あわせたい」という気持ちから、初心者に未熟と知りつつ試合に参加させた事がありました。幸いに大きな怪我もせず「無事」に終わり、事なきを得ました。この「無事」が、この次は「大丈夫」と云う考えに変化して、そして「怪我などはしない」と云う気持ちになり、自信過剰の考えを持つ様になったと記憶しております。そして、選手の中には大なり小なりの怪我をした者がおりました。この怪我も、一種の事故だと今振り返ると思われます。

本来の武道としての柔道は、礼節を重んじ、相手を思い尊ぶと同時に自分自身の身を守るものだと思われます。つまり、勝負の勝ち負けの前に礼節や相手を尊ぶ事や感謝の気持ちなどを身に付けさせることが基本ではないでしょうか。

そして、本来の一本を取る柔道を目指し、瞬時の技に対応する受身を身に付けさせる事が必要だと思われます。この一本を取る柔道や瞬時の技に対応する受身は、多くの経験の中から身に付けるものだと思われます。その体験の場所を試合に求めるのではなく、稽古において作り上げることが必要ではないかと思われます。指導者として、選手の一本を取る柔道や瞬時の技に対応する受身の動作を見極め、段階的に稽古相手を変えさせ、怪我のない選手を育成する事が大きな使命ではないかと思われます。そして、武道本来の柔道を目指し心身共に成長させ、社会に貢献できる人間育成が「柔道」の大きな役割であり、そのことが、柔道競技人口の増加にも大きく関わる事ではないでしょうか。

国体報告

第65回国民体育大会柔道競技 報告

平成22年度第65回千葉国体の様子を監督を務めた静岡県警察の渡辺達也氏から報告してもらう。



静岡県チーム

総　監　督	野田昭一	静岡県柔道協会理事長
総　　務	勝呂良三	吉原商業高校教諭
トレーナー	鈴木千春	内村はりきゅう治療院
監　　督	渡辺達也	静岡県警察
コ　ー　チ	大村恭一	静岡県警察
先　　鋒	漆畑　良	東海大学４年
次　　鋒	眞野洋光	静岡県警察
中　　堅	滝川英克	国士舘大学４年
副　　将	齊藤和仁	静岡県警察
大　　将	増田圭省	静岡県警察

第六十五回国民体育大会柔道競技は、平成二十二年十月一日から三日の間、千葉県成田市のサウンドハウス・スポーツセンターにおいて開催されました。

本年は八月に開催された東海ブロック予選で成年女子及び少年男女が敗退したため、成年男子のみの出場となりました。

試合は、体重別で行う五人の団体戦で行われ、静岡県は、二回戦からの出場で過去十年で二回の優勝実績のある埼玉県との対戦となりました。

	静岡県	2	対	3	埼玉県
先　鋒	漆　畑		指導２	㊀	田　中
次　鋒	眞　野	㊀	内　股		赤　迫
中　堅	滝　川		指導２	㊀	手　塚
副　将	齊　藤		大外刈	㊀	新　井
大　将	増　田	㊀	裏　投		濵　島

過去三年とも五位入賞を懸けた三回戦で惜敗しているだけに今年こそはと選手一丸となって試合に臨みました。

○先鋒（60kg以下）
漆畑　良（東海大学）

組手の上手い相手に自分のいいところを持たせてもらえず、後退したところを2回指導を受ける。後半攻めるも時間切れとなる。



試合中の眞野選手

○次鋒（73kg以下）
眞野洋光（静岡県警察）

試合巧者の相手であったが開始二分五十秒、相手の右内股を透かすようにしてかわし切れ味鋭く逆に投げ返す。審判合議となるが技ありを与えられそのまま試合終了。公式記録の決まり技は「内股」。

○中堅（90kg以下）
滝川英克（国士舘大学）

先鋒同様なかなか自分の組手にさせてもらえず、左小外掛で惜しい場面もあったが、2回の指導を受け敗退。

○副将（90kg超）
齊藤和仁（静岡県警察）

前半積極的に攻め立て指導が相手に与えられるも後半守りに回り、開始三分に大外刈で技ありを奪われそのまま時間切れ、チームは3敗目を喫する。

○大将（無差別）
増田圭省（静岡県警察）

今年から静岡県警察として全国デビューを果たした増田選手は、積極的に技を仕掛け、開始一分十秒相手の技を受け止め、裏投で技ありを奪い勝利する。

試合は二対三で敗れたものの強豪の埼玉県相手に一進一退の試合を繰り広げ、国体の舞台で静岡県の強さを示すことができました。

課題としては、勝利するには、いかに早く組勝ち、いかに早く相手より先に技を仕掛けることができるかにかかっていると思われ、攻撃柔道に徹することの重要性を感じております。

更に精進を重ね最強・最高のチーム作りに励みたいと存じます。

関係各位に感謝を申し上げますと共に平成二十三年の活躍を誓い、大会結果の報告をさせていただきます。ありがとうございました。

（文責　渡辺達也）



成年男子メンバー

第31回国体東海ブロック大会

平成22年8月22日　大垣武道館

静岡県選手団

総監督　野田昭一（静岡県柔道協会強化委員長）
審判員　米山安基夫七段（静岡県警察）
審判員　渡辺達也七段（静岡県警察）
審判員　大村恭一六段（静岡県警察）

少年女子

監督　西川勝啓（裾野高校教諭）
コーチ　磯部拡美（庵原高校教諭）
選手　神山結理（市立沼津高校）
〃　村瀬由樹（静岡学園高校）
〃　岩崎光希（東海大翔洋高校）
補欠　伊藤美麗（藤枝順心高校）
〃　村山のどか（市立沼津高校）

少年男子

監督　小柳津敬博（東海大翔洋高校教諭）
コーチ　宮本昌人（常葉高校教諭）
選手　加賀谷太郎（藤枝明誠高校）
〃　伊久美　新（静岡学園高校）
〃　細川敦大（浜松商業高校）
〃　渡辺　漢（浜松商業高校）
〃　鈴木翔也（浜松商業高校）
補欠　黒川誠司（新居高校）
〃　石田　亘（浜松商業高校）
〃　田中健登（東海大翔洋高校）
〃　長嶋　司（静岡学園高校）
〃　村山　拓（市立沼津高校）

成年女子

監督　勝呂良三（吉原商業高校教諭）
選手　鈴木香澄（名城大学）
〃　岩澤胡桃（愛知産業大学）
〃　土屋文香（東海大学）

結果

成績は成年女子2分け1敗で3位、少年男子は3敗で4位、少年女子は1勝2敗で3位だった。1位のみが本大会出場権を得られるので、残念ながら出場権を得ることはできなかった。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

第52回

静岡県柔道祭開催

平成22年5月9日（日）
静岡県武道館

今年度の柔道祭が5月9日（日）、静岡県武道館で開催された。他の大会との関係で例年より少し遅れた時期での開催となった。小学生の部から一般の部まで県内の柔道愛好家が一堂に集まる唯一の大会となっている。

恒例の柔道協会表彰が行われ、特別功労賞4名、永年功労賞3名、功労賞3名の表彰が行われた。

形の競技には投げの形・護身術の形各2組、固めの形・柔の形・五の形・古式の形各1組が参加され、日頃鍛えた形を披露してくれた。

形に続いて競技が開始された。高校男子の1回戦が6会場で実施され、その後各会場で各部の試合が行われた。例年のことではあるが、スタンドから大きな声援が送られ、決勝戦まで熱気あふれる試合が行われた。試合結果や表彰者は以下の通り。

平成22年度静岡県柔道協会表彰

《特別功労賞》
七段　石黒金次
七段　風岡儀一
六段　故橋本　章
五段　大石鐵夫

《永年功労賞》
七段　栗原孝雄
六段　芝原健夫
五段　森下　修

《功労賞》
五段　稲葉清吉
三段　猪原生男
二段　桑山和夫

第52回静岡県柔道祭成績

団体成績

小学校の部
1位　育誠館
2位　大仁柔道会
3位　静岡錬心館
3位　神士館

中学校の部（男子）
1位　静岡学園中学
2位　東海大翔洋中学
3位　高台中学
3位　藤枝明誠中学

中学校の部（女子）
1位　大仁柔道会
2位　神士館
3位　東海大翔洋中学
3位　藤枝順心中学

高校の部（男子）
1位　浜松商業高校
2位　静岡学園高校
3位　加藤学園高校
3位　市立沼津高校

高校の部（女子）
1位　藤枝順心高校
2位　東海大翔洋高校
3位　浜松商業高校
3位　静岡学園高校

一般の部
1位　静岡産業大学A
2位　静岡産業大学B
3位　富士市柔道会
3位　韮山柔道教室

優秀選手

小学校の部
長屋　友（育成館）
溝口　透（大仁柔道会）

中学校の部（男子）
佐藤和哉（静岡学園中学）
矢萩大貴（東海大翔洋中学）

中学校の部（女子）
吉長桃子（神士館）
渡辺明里（大仁柔道会）

高校の部（男子）
鈴木翔哉（浜松商業高校）
伊久美　新（静岡学園高校）

高校の部（女子）
松川美世（藤枝順心高校）
岩崎光希（東海大翔洋高校）

一般の部
濱浦祐貴（静岡産業大学A）
伊藤陽介（静岡産業大学B）

講道館柔道「形」最優秀

投の形
取　渡部成也（静岡県警察）
受　荒木孝介（静岡県警察）

固の形
取　川島伸夫（福田柔道クラブ）
受　伊藤厚志（福田柔道クラブ）

柔の形
取　白井康二（湖西市体育協会）
受　白井恵子（湖西市体育協会）

講道館護身術
取　黒田英樹（県柔道整復師会）
受　渡邉武彦（藤枝柔道クラブ）

五の形
取　西島温行（福田柔道クラブ）
受　磯部正博（福田柔道クラブ）
古式の形
取　渡辺達也（静岡県警察）
受　小野瀬康行（静岡県警察）

第22回マルちゃん杯中部少年柔道大会

柔道教室
6月5日（土）
浜北総合体育館
講師　村田正夫六段　びわこ成蹊スポーツ大学柔道部監督
金野　潤五段　日本大学柔道部監督

14時から開会式が行われ挨拶や講師紹介に続き講師の講話が行われた。


実技指導中の村田先生

講話に続いて各講師から得意技の披露と実技指導が行われた。

大会
6月6日（日）
浜北総合体育館

岐阜県の少年大会と日程が重なり岐阜の参加チームが少なかったが、それでも中部地区の精鋭が集まり、全国大会出場を目指し熱戦を繰り広げた。静岡県内チームも頑張り、静岡学園中学と東海大学翔洋中学が全国大会出場を決めた。

静岡県成年柔道体重別選手権大会（国体選手候補選考会）

7月10日（土）
静岡県武道館

例年以上に大学生の出場が多く、盛り上がりを感じた大会であった。特に、90kg級で友愛道場の滝川選手が準決勝で長く本県の柔道会を支えてくれている小椋選手（静岡県警察）を破り、その勢いで決勝でも同じ大学生の山下選手（東洋大）に勝ち優勝したのは見事であった。この大会の結果を参考に県国体チームが編成された。

柔道協会優秀選手表彰

静岡県柔道協会優秀選手表彰式が11月27日ホテルシティオ静岡で例年通り行われた。

今年度の対象者は新人選手紹介コーナーで取り上げている以下の選手である。佐藤和哉君（静岡学園中学校）第41回全国中学校柔道大会男子個人選90kg級準優勝、滝川真央さん（沼津市立原中学校）第41回全国中学校柔道大会女子個人選70kg超級3位、吉澤駿君（静岡学園高等学校）第59回全国高等学校総合体育大会柔道競技男子個人66kg級3位、井口采美さん（浜松商業高校）第59回全国高等学校総合体育大会柔道競技女子個人57kg級3位の4人です。


優秀選手を囲んで

安齊会長の挨拶に続き、各選手を表彰した。最後に選手を代表して佐藤君から挨拶があり、集合写真を撮影した後閉会した。


表彰された４選手

各種大会の報告

第32回全国高等学校柔道選手権大会

3月20日（土）・21日（日）
日本武道館

男子団体　浜松商業高校　2回戦敗退
女子団体　藤枝順心高校　5位
男子個人
60kg級
吉澤　駿（静岡学園高校）　2回戦敗退
73kg級
石田　亘（浜松商業高校）　1回戦敗退
81kg級
石井都百希（日大三島高校）　5位
90kg級
細川敦大（浜松商業高校）　2回戦敗退
無差別級
南口優太（加藤学園高校）　1回戦敗退
女子個人
52kg級
神山結理（市立沼津高校）　5位
57kg級
松川美世（藤枝順心高校）　5位
63kg級
原田祐花（静岡学園高校）　1回戦敗退
70kg級
清　貴凛（浜松商業高校）　3回戦敗退
無差別級
中村　優（藤枝順心高校）　3回戦敗退

第25回全日本女子選手権大会

4月18日（日）
横浜文化体育館

岡田紘味（東海・静岡産大）　初戦敗退

平成22年度 静岡県大学高専春季大会

5月3日（月・祝）
静岡市北部体育館

団体の部　優勝
静岡産業大学B

個人の部
81kg超級　優勝
内田武三士（静岡産業大学）
81kg以下級　優勝
遠藤　仁（静岡産業大学）
66kg以下級　優勝
久田章太（東海大学）
女子の部　優勝
福澤玲美（静岡産業大学）
無段の部　優勝
石川　貢（静岡文化芸術大学）

関東警察柔道大会

6月24日（木）
関東管区警察学校

団体戦
B組　準優勝　静岡県警察

東海形選手権大会

7月4日（日）
大垣武道館

投の形
取五段　渡部成也
受五段　荒木孝介　3位

固の形
取四段　川島伸夫
受四段　伊藤厚志　4位

極の形
取五段　森下良男
受五段　高林祐介　4位

柔の形
取七段　白井康二
受四段　白井恵子　3位

講道館護身術
取七段　黒田英樹
受五段　渡邉武彦　4位

古式の形
取七段　渡辺達也
受七段　小野瀬康行　2位

東海ジュニア試合成績

7月11日（日）
大垣武道館
1位選手は全国大会に出場
全国大会9月18日(土)19日(日)
埼玉県武道館

男子
55kg級
鈴木優希（常葉学園橋高校）　1位
全国大会初戦敗退
60kg級
大木恭介（静岡学園高校）　4位
66kg級
南口優太（加藤学園高校）　1位
全国大会2回戦敗退
73kg級
伊久美　新（静岡学園高校）　2位

81kg級
芹沢孝哉（市立沼津高校）　4位
90kg級
関根龍成（静岡産業大学）　3位
100kg級
宿輪幸治（静岡産業大学）　4位
100kg超級
鈴木翔哉（浜松商業高校）　3位

女子
44kg級
星名志保（浜松商業高校）　3位
48kg級
伊藤未麗（藤枝順心高校）　2位
52kg級
神山結理（市立沼津高校）　3位
57kg級
長嶋麻未（市立沼津高校）　2位
63kg級
原田佑花（静岡学園高校）　1位
全国大会初戦敗退
70kg級
清　貴凛（浜松商業高校）　3位
78kg級
村瀬由樹（静岡学園高校）　2位
78kg超級
中村　優（藤枝順心高校）　1位
全国大会初戦敗退

第35回全国教員柔道大会

8月1日（日）
山口県萩市萩市民体育館
1回戦
静岡2－3沖縄

全国高等学校柔道大会

8月8日（日）～12日（木）
沖縄県立武道館

男子団体
静岡学園高校　初戦敗退
女子団体
静岡学園高校　初戦敗退

男子個人
60kg級
黒川誠司（新居高校）
3回戦進出（ベスト16）
66kg級
吉澤　駿（静岡学園高校）
第3位
73kg級
石田　亘（浜松商業高校）
3回戦進出（ベスト16）
81kg超級
石井都百希（日大三島高校）
1回戦敗退
90kg級
細川敦大（浜松商業高校）
第5位（ベスト8）
100kg級
渡辺　漢（浜松商業高校）
2回戦敗退

監督　須田直之（清水東高校）
先鋒　田力秋洋（下田高校）
次鋒　山崎大介（磐田南高校）
中堅　井口往彦（浜北西高校）
副将　高田幸治（城南静岡高校）
大将　大場章吾（沼津商業高校）

全国中学校柔道大会

8月19日（木）～22日（日）
松江市総合体育館

男子団体戦（予選リーグ）
静岡学園中学校　3－2　高尾台
静岡学園中学校　4－0　大正東

100kg超級
鈴木翔哉（浜松商業高校）
2回戦敗退
女子個人
48kg級
伊藤美麗（藤枝順心高校）
第5位（ベスト8）
52kg級
神山結理（市立沼津高校）
1回戦敗退
57kg超級
井口采美（浜松商業高校）
第3位
63kg級
原田祐花（静岡学園高校）
1回戦敗退
70kg級
村山のどか（市立沼津高校）
2回戦敗退
78kg級
村瀬由樹（静岡学園高校）
1回戦敗退
78kg超級
中村　優（藤枝順心高校）
3回戦進出（ベスト16）

決勝トーナメント
静岡学園中学校　1－4　国士舘

女子団体戦（予選リーグ）
東海大翔洋中学校　0－3　大刀洗
東海大翔洋中学校　3－0　秦荘

男子個人戦
55kg級　小林駿平（静岡学園中学校）　1回戦敗退
60kg級　梅澤真仁（東海大翔洋中学校）　2回戦敗退
66kg級　高田拓海（静岡学園中学校）　3回戦敗退
73kg超級　星野圭祐（静岡学園中学校）　2回戦敗退
81kg級　植田蒼太朗（浜松高台中学校）　2回戦敗退
90kg級　佐藤和哉（静岡学園中学校）　準優勝
90kg超級　清水圭三郎（藤枝明誠中学校）　1回戦敗退

女子個人戦
44kg級　繁田青夏（藤枝順心中学校）　1回戦敗退
48kg級　鈴木　楓（藤枝順心中学校）　1回戦敗退
52kg超級　田中茉衣（浜松高台中学校）　1回戦敗退
57kg級　渡辺明里（大仁中学校）　2回戦敗退
63kg級　佐藤幸世（市立沼津中学校）　1回戦敗退
70kg級　遠田真子（東海大翔洋中学校）　第5位（ベスト8）
70kg超級　滝川真央（沼津原中学校）　第3位

第7回全国小学生学年別柔道大会

8月22日（日）
北海道立総合体育センター

5年男子45kg級
伊藤柚汰（育誠館）　2回戦
45kg超級
渡辺将一（錬心館）　ベスト16
5年女子40kg級
鶴巻　実（神士館）　2回戦
40kg超級
井上明日香（神士館）　2回戦
6年男子50kg級
杉本誠太（藤枝柔倶）　2回戦
50kg超級
岩倉優輝（大東柔ク）　2回戦
6年女子45kg級
菅谷友紀（育誠館）　ベスト16
45kg超級
嘉地唯花（藤枝柔倶）　ベスト8

平成22年度 全国警察柔道大会

9月16日（木）
日本武道館

第2部　準優勝　静岡

第27回静岡県大学高専柔道秋季大会

11月3日（水・祝）
静岡市北部体育館

団体の部　優勝
静岡産業大学A
個人の部
81kg超級　優勝
岡田拓磨（静岡産業大学）
81kg級　優勝
大木　翔（静岡産業大学）
66kg級　優勝
今　関人（静岡産業大学）
女子の部　優勝
栗田実季（静岡産業大学）
無段の部　優勝
花城拓史（沼津高専）

第59回全国青年大会 柔道競技大会

11月13日（日）
講道館大道場

静岡県代表　浜北柔道協会
個人戦　無差別級
優　勝　井口信彦
準優勝　本田真敏
73kg級
4位　高林裕樹
団体戦　1回戦
静岡県対福岡県　2対②
（代表戦ゴールデンスコア負け）

高校新人戦の結果

平成23年1月15日（土）
県武道館

男子個人戦
60kg級優勝
吉竹尚城（常葉学園橘高校）
73kg級優勝
立川功大（東海大学翔洋高校）
81kg級優勝
田中健登（東海大学翔洋高校）
90kg級優勝
山本雄也（浜松商業高校）
無差別級優勝
森田悠斗（沼津市立沼津高校）
女子個人
52kg級優勝
岡本理帆（藤枝順心高校）
57kg級優勝
松川美世（藤枝順心高校）
63kg級優勝
原田祐花（静岡学園高校）
70kg級優勝
村山のどか（沼津市立沼津高校）
無差別級優勝
中村優（藤枝順心高校）

3月20日、日本武道館で行われる全国大会に出場する。

男・女団体戦
平成23年1月22日（土）
県武道館
男子団体戦優勝　静岡学園高校
女子団体戦優勝　藤枝順心高校

3月21日、日本武道館で行われる全国大会に出場する。

速報　静岡県柔道選手権大会

平成23年2月12日
県武道館

静岡県柔道選手権大会で増田圭省選手（静岡県警察）が優勝し、2位の小椋俊彦選手（静岡県警察）とともに、東海予選に出場する。女子は、村瀬由樹選手（静岡学園高）、村山のどか選手（沼津市立高）が出場する。

速報　少年柔道団体選手権大会

平成23年2月27日
県武道館

優勝　静岡錬心館

平成23年5月4・5日に講道館で開催される全国大会に出場する。

平成22年度「柔道ルネッサンス・フォーラム」報告

日時　平成22年5月14日（金）
場所　講道館

オリエンテーション

フォーラム開催の趣旨
柔道ルネッサンス部会長　寺澤豊志

各都道府県の活動に関する情報交換、問題点の確認、今後の活動計画を考える場、機会にしてほしいとの趣旨説明がされた。

開講講演

「柔道ルネッサンスが目指したもの」
筑波大学名誉教授　中村良三氏

柔道ルネッサンス活動が始まった経過、活動の目指す事柄について最初に唱えた中村良三先生から説明がなされた。

柔道ルネッサンス活動事例発表

山形県柔道連盟
神奈川県柔道連盟
富山県柔道連盟

過去に表彰された県の活動内容が各県の担当者から説明された。

意見交換会Ⅰ

ブロック別討論会（北信越・東海ブロックに参加）

各県の活動内容を説明し、今後の活動のあり方について討論をし、課題や解決法を考えた。

ブロック別討論会発表

6ブロックの討議の内容が発表された。

1日目の感想

柔道ルネッサンス活動については当然知っているし、活動もしていたが、今回改めてその出発の様子を当事者から説明を受けて活動の必要性を感じた。

特に、各都道府県での「組織作り」の重要性が強調されていたが、静岡県では広報普及委員会の宮崎が担当しているが、正式に組織だって活動はなされていない。今後の課題だと思う。現実的には広報普及委員会内に分野ごとに担当者を決め組織を作っていくことが考えられる。

各都道府県で実施している内容については、静岡県でも実施していることが多かった。挨拶の中で行われるルネッサンスに関連したスピーチなどは、多少マンネリ化している所もあり、今後の課題と感じた。



フォーラムに参加した田辺・山下氏

柔道ルネッサンス10年間の歩みと今後の課題

講道館企画室長　古志田　憲一氏

柔道ルネッサンス活動として取り組んだ内容を時系列で紹介していただき、今後の活動への課題を提示された。

基調講演

「柔道を通した人つくり」
柔道ルネッサンス特別委員会委員長　東海大学教授　山下　泰裕氏

柔道ルネッサンス活動に対する山下氏の思いを語られた。最初にご自身の柔道や指導者との出会い（中学校時代の白石氏、高校大学時代の佐藤氏）を通して学ばれたことを話された。次に柔道ルネッサンス活動を始められた経過を話され、活動の目指す所を語られた。

全日本クラスの選手のエピソードやオリンピックの時の裏話などを織り交ぜながら分りやすくルネッサンス活動の意義を語られた。

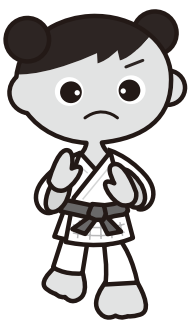
意見交換会Ⅱ

テーマ別討論会
第1分科会参加「柔道が持つ教育的価値の伝え方は」

最初に柔道の持つ価値とは何かについて討議した。参加者がどんなところで指導をし、価値を感じているかを話し合い①技術・体力向上面での価値②伝統文化的な価値③人間教育・人つくりの面での価値が考えられた。

伝える場としては、学校（中学校・高校）柔道「体育授業時の柔道・部活動時の柔道」、道場での柔道「少年柔道・一般柔道」、警察、社会人（企業）が考えられる。

指導者は、嘉納先生の教えを正しく理解し、生徒・子ども・保護者にしっかり伝えないといけないこと、練習や試合での事故に十分注意することなどが各自の体験に基づき話された。



討論会報告

5つの分会からの報告がなされた。

柔道ルネッサンス宣言2010
柔道ルネッサンス部会会長　寺澤　豊志

柔道ルネッサンス宣言２０１０

1．指導者自らが襟を正し、「己を完成し、世を補益する」ことを実践します。

1．理にかなった技の習得、「一本」をとる柔道を目指します。

1．老若男女が親しめる、安全に配慮した柔道の普及・発展に努めます。

1．美しい礼、正しいマナーで、品格ある柔道人を育てます。

平成22年5月15日
柔道ルネッサンス特別委員会

まとめ

全日本柔道連盟専務理事
小野沢　弘史

修了書授与

2日目の感想

正しい柔道（嘉納先生が考えられた）をしっかり理解し、指導者や保護者に伝えていかないと、児童・生徒には伝わっていかない。そして、具体的にどのように伝えていくのかを考えていかなくてはならない。限られた条件の中で難しいことではあるが、できることを少しずつでもやるしかないと思う。静岡県でも組織作りを行い、スピーチ活動の充実を考えていきたい。

柔道教養講座「嘉納師範に学ぶ」報告

静岡県柔道協会主催平成22年度柔道教養講座「嘉納師範に学ぶ」を平成22年11月6日（土）静岡県武道館で開催したのでその様子を報告する。

静岡県柔道協会主催、静岡県教育委員会・静岡県武道協議会・静岡新聞社・静岡放送後援で柔道教養講座「嘉納師範に学ぶ」を開催した。開催の趣旨は「平成24年度から実施される中学校武道（柔道）必修化を機会に、原点である嘉納治五郎師範が起こした講道館柔道について学び、もって日本の伝統文化としての柔道の武道的・体育的・教育的意義を再確認し、県内柔道人の指導力向上に資する。」（実施要綱より）である。講師には村田直樹先生（講道館図書資料部長・日本武道学会理事長・講道館七段）をお迎えした。高校生からベテラン指導者まで県内各地から１２０名の柔道人が出席した。午前中の講話「柔道史概論」に続いて午後は「柔道を語る、柔道の良さと今日的課題」と題してパネルディスカッションを行った。



講師の村田直樹先生

1．講演「嘉納治五郎師範に学ぶ－私達は柔道をどのように理解しておけばよいのか－」

村田先生自作のパワーポイントや資料を用いながら講演が開始された。

資料の目次は次のようにまとめられていた。

Ⅰ．柔道の誕生→５つの理由⇩
　４つの疑問と１つの感嘆
Ⅱ．普及の契機→警視庁武術大会の勝利
Ⅲ．創始者の横顔→本人・家族・知人・門人・外国人等の声
Ⅳ．制度行事の整備→形・五教の技・試合・段位・鏡開式等
Ⅴ．修行者数→ＫＤＮ・ＡＪＪＦ・ＩＪＦ
Ⅵ．武道の禁止から競技スポーツとして復活→ＪＵＤＯへの道
Ⅶ．競技スポーツの発展原理→ＳＤＣＭＳ
Ⅷ．武道教育の技と心→心の中身は少なくとも３つある
Ⅸ．修行かスポーツか→発祥国の宿命と知恵
Ⅹ．現代社会論→期待される国士の育成

最初に歴史を研究する場合、共通に理解しなくてはならないポイントとして、①直接体験できないので常に「あやしい」ということを意識すること、②今回の講義では嘉納師範本人の記録を基にして考察していく、の２点が強調され、今日の講演も「鵜呑み」にしないでほしいと研究者らしく語られた。

前半は柔道成立の歴史が語られた。特に４つの疑問と１つの感嘆という話は面白く説得力があった。「柔の理」だけでなく「心身の力をもっとも有効に使うこと」を柔道の原理とする話は新鮮であり納得できた。

また、嘉納先生が長年書かれていた英文の日記が存在し、その解読がなされていないこともはじめて知った。早く研究が進むことを期待したい。

戦後、学校武道が禁止され、競技スポーツとして復活し、ＪＵＤＯへと発展していくところの解説も興味深かった。

「武道教育の技と心」では、特に３つのポイントを話された。①運動に伴う心、②勝負に即した心、③伝統の心、の３つであるが、柔道を指導する立場のものとしてははっきりと意識しておかなくてはならない点だと感じた。

「修行かスポーツか」では、日本は柔道発祥の国として宿命があり、知恵が求められているとの解説がなされた。特にルールについて、村田先生は講道館柔道試合審判規定とＩＪＦ規定の「すみ分け」を主張されていた。

柔道の目的に関して村田先生は「国士の育成である」ことを強調された。戦後65年の中で自己中心的な態度や目に余るマナー違反が日常的に見られるようになってきており、これらを改善するのに武道教育が役立つのではないかと提案された。

2．パネルディスカッション

コメンテーター
村田直樹先生

パネリスト
安齊悦雄
（静岡県柔道協会会長）
田中秀幸（静岡大学名誉教授）
溝口紀子
（静岡文化芸術大学准教授）
伊藤武治
（県立浜松東高等学校教頭）
川合達彦
（浜松市立龍玉中学校教諭）

司　会
佐々木秀男
（静岡県柔道協会事務局長）

3. 受講者の感想・意見（一部抜粋）

・2年ほど前から授業で教えるために柔道を学んでいる。まだ月日も浅く柔道をよく知らないので、生徒に教えるにあたってきちんと学びたいと日々思っていた。（略）今回嘉納師範の思いや講道館柔道の成り立ちなどを聞くことができ指導しやすくなった。

・今回のような講座が大切だと考える。単なる技術力の強化のみの追及ではなく、柔道思想をきちんと身に付けることが柔道家の使命とも考える。

・今回は指導者が対象だったが、中学生・高校生・大学生・一般の柔道愛好家等にも聞かせたい内容も多かった。機会があれば多くの方が参加できる講習会をお願いしたい。

4. まとめ

午前の講義で講道館柔道の成り立ちとその価値を再確認することができ、午後のパネルディスカッションを通して、今静岡県で何が問題になっているのか改めて考えることができた。平成22年5月14日・15日に東京で開催された柔道ルネッサンスフォーラムでも嘉納先生の教えを正しく理解し伝えていくことの大切さが強調されたが、今回改めてその必要性を感じた。

各県でも競技力向上は当然やられていることと思う。しかし柔道のさらなる普及と発展の為には、今回の様な講座を実施し、指導者が柔道の心を学び伝えていく努力が求められている。講道館でも積極的にバックアップしていただきたいと思う。

充実した時間を過ごすことができ、もっと詳しく話を聞きたいと思ったのは私だけでは無かったと思う。貴重な講義をしていただいた村田先生ありがとうございました。



村田先生を囲んで

救急講習会開催

静岡県少年柔道連絡協議会が主催し、浜松市消防局の協力を得て平成22年9月5日浜松市武道館で救急講習会が開催された。指導者30名、選手220名、父兄50名の300名の参加があった。講習会の様子を西部地区の菅谷和彦さんに報告していただく。

今年は県内の函南町・隣県長野県で中学柔道の活動中に痛ましい事故が起こり、柔道事故の多発が懸念されている。危険予知と危険回避義務について書かれている「柔道の安全指導」の冊子が全柔連から出された。指導者には事故直後に適切に対応する事や、安全に関する知識や正しい救急法の知識が求められている。また、中学校での武道必修化の完全実施もあり、指導者は柔道の事故防止に努めなくてはならない。

そんな中、今回その対応策の一つとして救急講習会が実施された。浜松市消防局の協力を得て、消防士4名に指導をお願いした。具体的には、救急車到着前の応急処置を行う上での注意点や処置の仕方を実演を交えて指導していただいた。脳しんとうの回復後に再度頭部を打つと病状が重大になりやすいことや、首の骨折が疑われる場合の処置の仕方など小学生にも分り安く指導していただいた。その後、AEDの使用法や、熱中症への対策方法なども教えていただいた。



講習会の様子

受講した指導者の感想としては次の様なものがあった。

・今後も定期的に実施していただきたい。

・子どもたちも何かあれば早めに連絡してくれると思う。

・身近で起こりうることなので気を引き締めて対処しなくてはならない。

多くの指導者が継続的にこの様な講習会を開催して欲しいという希望を持っていた。多くの指導者が受講し、子どもたちも受講すれば、事故やその後の悪化を少しでも減らせるのではないかと思う。



実技指導の様子

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数



長泉柔道会

②長泉町立長泉中学校、
長泉北中学校
③〒411-0944
駿東郡長泉町竹原109の1
☎055－986－7745
④永田正義
⑤小学生15人　中学生5人
大学・社会人10人

⑥道場紹介

昭和47年4月に柔道会が発足して現在まで38年の永きに亘り継続されて参りましたが、今年の6年生が卒業しますと、来年度は団体戦が組めなく成り苦慮しております。

幼稚園から、小、中、高校生、一般の方で柔道に興味をお持の方は是非参加お願いします。練習日は、月曜、金曜日は北中、水曜日は長泉中の両道場に於いて、午後7時から9時迄練習しております。

今後共、上部団体の先生旁の指導を仰ぎ、精進努力して参ります。宜しくお願い申し上げます。

＊写真説明
平成21年夏
古賀稔彦先生柔道教室に参加
御殿場市
国立中央青年の家に於いて



清水町柔道会

②駿東郡清水町堂庭287－1
清水町体育館内
③〒410-0022
沼津市大岡3890
☎055－922－8787
④宮本達夫
⑤児童1人　小学生32人
大学・社会人29人

⑥道場紹介

昭和46年より開催された町柔道教室（指導者：平井弥一郎、佐野光弘）が本会の始まり。その後当時の平井喜久夫町長、加藤寿津實8段を中心に柔道愛好者が集い、柔道教室を発展解消し、昭和51年6月現在の組織が設立されました。

小中学生の育成、柔道愛好者の活動の場として今日に至っています。子供を筆頭に、ここで柔道を習い指導者になった、社会人になって始めた、帰省したので顔を出す学生、いろいろな世代が共に汗を流しています。

清水柔道倶楽部

②静岡市清水区折戸3－20－1
東海大翔洋高校
③〒424-0858
静岡市清水区大沢町6－1
☎054－352－8915
④山梨公良
⑤児童7人　小学生18人
中学生7人　大学・社会人6人

⑥道場紹介

清水体育協会柔道部から、静岡市・清水市合併に伴い2003年4月より清水柔道倶楽部に名称を変更し、継続して活動をしております。

活動場所は、火・木・土曜日東海大学翔洋高校柔道場、水曜日は清水武道館にて、午後7時から9時まで幼児から小学生・中学生と和気藹々の中、大声を出して楽しみながら、苦しさも味わえる練習をし、他県への遠征も実施しております。

少しでも興味のある御家庭は、いつでもお気軽に見学しに来て下さい。





しぞ～か城北柔士会

②静岡市葵区安東三丁目13
安東中学校柔道場
③〒420-0886
静岡市葵区大岩一丁目3－30(兵藤)
☎054－248－3618
④杉山元彦
⑤児童3人　小学生30人　中学生5人
高校生6人　大学・社会人14人

⑥道場紹介

私達は平成20年から静岡安東中学を拠点に毎週3回月・水・金曜日、稽古に励んでおります。

歴史は浅いものの私達の道場には故西田亀九段直筆の「勇魂美技」の額が掲げられております。

西田先生の魂とともに一人でも多く、地域の人々に柔道に触れて頂けるよう創意工夫しております。

残念ながら安東中学柔道部は来年度から廃部となってしまいましたが、近い将来の部活動復活と子供たちの進む道を切り拓くため、更なる情熱と使命感をもって元気よく柔道普及に努めて参ります。

随時新規入会者を募っております。初心者・経験者・老若男女を問いません。





三ヶ日少年少女柔道教室

②浜松市北区
三ヶ日町都筑3116－24
③〒431-1415
浜松市北区三ヶ日町岡本1764
☎053－525－0666
④外山幸久
⑤児童2人　小学生8人　中学生5人
大学・社会人10人

⑥道場紹介

三ヶ日少年少女柔道教室は昭和50年に三ヶ日体協柔道部の牧野晴行氏が中心となり三ヶ日町内への柔道の幅広い普及と青少年の健全育成を目的とし発足しました。当初は三ヶ日中学の柔道場を借りて練習していましたが平成5年に総合スポーツ施設B&G海洋センターのオープン後、2階の柔道場にて練習しております。

練習日は毎週火・土曜日のPM7：30～PM9：00で、幼児から一般まで幅広い年齢層が一緒に練習しています。近年柔道教室の卒業生が親となり、子供と一緒に練習へ参加してくれるケースが増えています。

豊田柔道クラブ

②静岡県磐田市立野200
（豊田南中学校）
③〒438-0831
静岡県磐田市上新屋16－3
☎0538－35－0202
④鈴木敏幸
⑤児童1人　小学生26人　中学生8人
高校生2人　大学・社会人27人

⑥道場紹介

今年で創立38周年を迎える豊田柔道クラブは現在、幼児～小学生27人・中学生～一般38人の団員が所属しています。練習は毎週火・金曜日で、幼児～小学生は7時から1時間半、中学生～一般は8時30分から1時間程度ですが、元気に楽しく武道に励んでいます。

柔道の修練を通じて、ただ柔道が強くなる事だけでなく、「礼儀正しく、仲間を大切にして何にでも頑張れる子」を目標に日々努力しています。

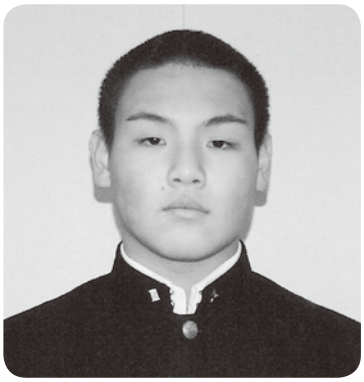
今後も、礼儀やあいさつを大切にして取り組んでいきますので、柔道協会役員・各道場の皆様のご指導ご協力をお願い致します。



新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーで紹介できる選手がでました。全国大会で３位までに入賞した若い選手を紹介しているコーナーですが、今年度は４名の選手を紹介することができます。

第４１回全国中学校柔道大会男子９０kg 級で準優勝した佐藤和哉君（静岡学園中学校）、同じく第４１回中学校柔道大会女子７０kg 超級で３位に入賞した滝川真央さん（沼津市立原中学校）、第５９回全国高等学校総合体育大会柔道競技男子６６kg 級で３位に入賞した吉澤駿君（静岡学園高等学校）、そして最後は第５９回全国高等学校総合体育大会柔道競技女子５７kg 級で３位入賞を果たした井口采美さん（静岡県立浜松商業高等学校）です。　例年女子選手が活躍する例が多かったのですが昨年は男子選手が頑張り、今年も男女半分ずつとなりました。



佐藤和哉君
（静岡学園中学校）

◎第41回全国中学校柔道大会
男子90kg級準優勝

佐藤和哉君が柔道を始めたきっかけは「父と何となく練習を見に行ったこと」だそうですが、その後の努力が報われて今回の全国大会準優勝につながりました。しかし、佐藤君は準優勝にも「嬉しさよりも悔しさの方が大きかったので、次は勝てるようにもっと努力したい」と前向きに入賞の感想を語っています。　指導者からは「この成績に満足することなく、より一層の成長を願っている。柔道を通して心身共に大きな選手になってほしい」とさらなる飛躍を期待されています。



滝川真央さん
（沼津市立原中学校）

◎第41回全国中学校柔道大会
女子70kg超級３位入賞

滝川真央さんが柔道を始めたきっかけは「兄が友愛道場に入ったので一緒に入りました」ということで、お兄さんに誘われたようです。全国大会３位入賞の感想は「最後の試合で負けて３位だったけど、全部出し切ることができたので悔しかったけど３位は嬉しかったです。全国大会で初めて入賞できて本当に良かった」と素直に感想を語っています。「将来は世界で活躍できる選手になり、オリンピックで金メダルを取ることです。また、警察官になり柔道を続けたい」という夢を持っているようです。
指導者からは「しっかり組んでから技をかける練習をし、メンタル面での強化も合わせて取り組んできた事の成果が出たものと思う。本人が納得できたことが良かったと思う」というコメントをいただいています。また、顧問の先生からは「全国大会優勝を目指し道場で練習してきた成果が今回の成績につながったと思う。苦戦しながらも勝ち進み、優勝まで後一歩というところで負けてしまっても、涙を流さず堂々としている姿はとてもすばらしいものでした」とお褒めの言葉をいただいています。



吉澤駿君
（静岡学園高等学校）

◎第59回全国高等学校
総合体育大会柔道競技
男子66kg級３位入賞

吉澤駿君が柔道を始めたきっかけは「小学生のときに親に勧められた」ということだそうです。全国大会3位入賞の感想は「楽しんで試合をしていたら結果が出ていた。これは今までやってきた練習の成果だと思う。しかし、準決勝で負けたのは悔しかったのでこれからも努力し、大学でも全力で柔道を続けたいと思った」と今後の進路も含め、積極的な感想を述べてくれました。全国大会レベルでの今後の活躍が期待されます。

指導者からは「これから先も高い目標を持って、練習稽古に臨んでほしいと思います」とアドバイスを送られています。



井口采美さん
（静岡県立浜松商業高等学校）
◎第59回全国高等学校総合体育大会柔道競技
女子57kg級3位入賞

井口采美さんが柔道を始めたきっかけは「いとこが柔道をしていて、自分もやりたいと思ったから」ということだそうです。全国大会3位入賞については「昨年のインターハイでは初戦で負けてしまいました。今年は初戦突破を目標としていたので、3位に入賞することができ、自分でも驚きもありましたが嬉しかったです。一緒に練習してくれたチームの仲間、先生、先輩方や家族、たくさんの方々に感謝しています」と謙虚に語ってくれました。

今後は大学に進学する予定だそうです。顧問の先生からは「ひたむきにコツコツと努力をすることができる選手です。現在も大学進学に備え、手を抜くことなく勉学と練習を頑張っています。柔道の実力もインターハイのときよりさらに強くなっていると思います」という、井口さんの人柄が偲ばれるお褒めの言葉を送られています。

武道協議会　創設10周年武道始め

静岡県武道協議会が創設されて10周年となり、平成23年1月8日（土）県武道館にて記念講演会が行われた。講師は東海大学の山下泰裕先生だった。県内の武道愛好家が集まり山下先生のご講演を聞き、その後、各団体（柔道・剣道・空手等9団体）の演舞を見ることができた。

山下先生は柔道との出会いと柔道によって多くのことを学ぶことができたことを具体的に話しをしてくれ、参加した子どもたちにも十分伝わったことと思う。

特に柔道関係者には講演後忙しい時間を割いていただき、一緒に記念写真を撮っていただくなど参加した子どもたちには良い思い出になったことと思う。

午後の演舞には西部地区の道場連盟に所属する子どもたちが参加し、座礼から始まり打ち込みや受身・乱取り等を披露し、最後に投げの形を演じてくれた。参加団体中の最後の演舞であり、きびきびした動作で見事に全体を引き締めてくれた。



山下先生を囲んで



開会式の様子



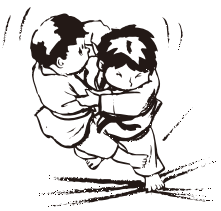
演武中の小学生

編集後記

柔道しずおか第14号をお届けします。今年度もいろいろな事がありました。特に印象に残るのは村田先生の柔道教養講座の開催でした。嘉納先生が始められた講道館柔道の歴史を初めて体系的に学ぶことができたと思います。柔道を学ぶものは一度は先生の講義を聴く必要があると感じました。

過去数年にわたり柔道勧誘のポスターを広報普及委員会として作製してきましたが、今年度は中止しました。来年度以降どうするか会員の皆様のご意見をお聞かせください。各地区の広報普及委員にお知らせください。

4月10日（日）に平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会が県武道館で開催されます。世界カデ柔道選手権大会の日本代表選考会です。カデとは、平成23年中に15～16歳になる選手の部門です。成功するよう静岡県柔道協会全体で頑張りましょう。



訃報

故　大塚　馨　五段

平成二十二年七月二十九日逝去
行年八十四歳



大塚先生は大正14年11月5日のお生まれで、旧制見附中学（現磐田南高校）から岐阜大学に進まれ、卒業後は静岡県公立高校の教員として勤務されました。農業の授業を担当され、磐田農業高校、農業経営高校で教鞭をとられ、周智高校の教頭先生として昭和61年3月に退職されました。

柔道部での指導を続けられ、ご退職後は、西部地区柔道協会の幹事として主に事務処理を担当され、地区の協会運営を長く支えていただき、参与をお願いしていました。

柔道だけでなく、野球や駅伝等のスポーツ全般に造詣が深く、また趣味で短歌を作られる等まさに文武両道を実践された先生でした。

２００５年に先生の作られた短歌を紹介します。

「生き得たる奇跡のごとく宵闇の庭に白百合の花暮れ残る」
（磐田市芸術祭会長賞受賞）

謹んで大塚先生のご冥福をお祈りいたします。

故　西島温行　七段

平成二十二年八月九日
行年六十八歳



西島温行先生は大学ご卒業後静岡県公立高校の体育科教員として勤務されました。浜松商業高校、浜北西高校、池新田高校、下田南高校、浜松江ノ島高校、磐田北高校と6校で教鞭をとられました。柔道部の顧問として多くの県チャンピオンを輩出し、全国大会に多くの選手・チームを導かれました。先生の指導力は群を抜いていました。その間、高体連柔道部西部地区委員長、高体連柔道部県副委員長、県高体連理事、東海地区高体連評議員等を務められました。

ご退職後は、福田町の町会議員や磐田市の市議会議員となり政治の世界でも活躍されました。

柔道関係では地区・県の幹事等を務められると共に、磐田市柔道協会会長、柔道協会西部地区顧問、福田柔道クラブ師範などとして活動されていました。

68歳という若さでお亡くなりになり、今後のご活躍が期待されていたのですがとても残念です。謹んで西島先生のご冥福をお祈り申しあげます。

故　竹下　担　四段

平成二十二年九月三十日
行年六十六歳



竹下先生は浜松農工業高等学校（現浜松城北工業高等学校）において、故水野周徳先生に師事された後、浜松養神館に入門し、故佐藤五八郎先生（八段）の教えを受けられました。

昭和55年以降、柔道スポーツ少年団の指導員を務められ、平成4年12月に浜松養神館理事長に就任され、浜松養神館の運営と後進の指導を担当されました。

浜松市スポーツ少年団理事として長年務められ、その発展に寄与されたことが評価され表彰されています。

また、静岡県柔道協会西部地区の幹事や参与を務められ、数多くの大会において審判等を務められ大会の運営に積極的に貢献されました。長年にわたり少年団柔道の育成にその情熱を注がれた先生でした。

66歳という若さでお亡くなりになり、今後のご活躍が期待されていたのですがとても残念です。謹んで竹下先生のご冥福をお祈り申しあげます。

故　宮本武幸　五段

平成二十二年十月八日
行年五十一歳



宮本先生は、昭和46年に引佐町立引佐南部中学校に入学され柔道を始められました。静岡県立引佐高等学校在学中も柔道部で活躍し、昭和52年卒業と同時に引佐町士道会に入り、引佐町柔剣道スポーツ少年団の指導者になりました。引佐町士道会は柔道と剣道が武道の名のもとに一つになった団体で、スポーツ少年団の柔道を担当し、30年以上にわたり中心的な指導者として子どもたちの指導を担当されました。

また柔道協会では西部地区の幹事・参与を務められました。

宮本先生は平成22年1月24日に行われた第60回記念士道会柔剣道大会で審判中に倒れられ、9ヶ月間の闘病の末51歳という若さでご逝去されました。柔道をこよなく愛した先生らしく、三十数年間選手として出場し、二十数年間引佐町士道会の大将として活躍された大会の畳の上で倒れられたのがせめてもの慰めです。心より宮本先生のご冥福をお祈り申し上げます。



題字
安齊会長

柔道しずおか

第15号

平成24年３月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒420-0911　静岡市葵区瀬名7-2-38　佐々木秀男
TEL　054-265-5272　FAX　054-265-5274

【巻頭言】

柔道の安全指導について

静岡県柔道協会　会長　八段　安齊悦雄



平素より、当協会の運営につきましては、多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、当協会は、正しい柔道の普及発展と競技力の向上そして、柔道を通した青少年の健全育成を大きな柱として推進しているところであります。

その根幹を成す柔道人口の確保、これがなければ、普及どころか競技力向上もありません。

少子化が加速する中、いかに減少を食い止め、あるいは少しでも増加させていくには、どうしていけばよいのか、何が必要なのかを考え、先ずは、柔道人口の減少対策に取り組んでいかなければなりません。

柔道を普及させる上で、柔道は、楽しいもの、魅力あるもの、そして、何よりも安全であるというイメージが重要であり、柔道の持つ特性や素晴らしさを発信していかなければならないと思うわけであります。

そうした中、本県で平成22年7月に発生した部活中における中学生死亡事故に伴い、本年の1月に柔道部の顧問が書類送検されたという報道がされました。

このことは、我々柔道関係者にとって、大変衝撃的なことであり、深刻な問題として重く受け止めなければなりません。

申すまでもなく、重大事故は、絶対にあってはならない、起こしてはならないことであります。当協会としても、例年、安全講習会や指導者講習会等を開催するなど、積極的に対応してきたところでありますが、誠に残念でなりません。

さて、いよいよ本年度から文科省令により、中学校の武道（柔道、剣道、相撲から選択）必修化が始まります。

統計によりますと、全国の中学校の70％強が柔道を選択されるとのことであります。

ところが、ここへきて、柔道による重大事故の多発や現場での専門指導者の不足が指摘され、安全性を懸念するような報道がされるようになり、保護者の間からも必修化中止や授業拒否を求める声が出てきていると聞いております。

これでは、柔道人口の増加どころか、ますます減少傾向に歯止めが掛からないのではと危惧しております。

必修化導入につきましては、従前より県教育委員会に対し、指導者育成事業、指導手引きの作成あるいは指導者派遣事業等々、全面協力をしているところであります。

全柔連でも現状を踏まえ、平成22年新たに「安全指導プロジェクト特別委員会」を発足させ、医科学委員会とともに、更なる安全普及のための「新・安全指導マニュアル」を作成しました。

昨年、全柔連主催の安全指導講習会が開催され、本県からは、中体連、高体連それぞれの代表者を派遣したところです。そこで、平成24年度からの全柔連指導者登録には、この安全講習会修了（各県での伝達講習を含む）が義務付けされました。

本県では、その伝達講習会を、指導者全員が受講できるよう、昨年12月の東部地区を皮切りに開催し、2月に西部、4月に中部、そして6月には、未受講者を含めた県全体の中央講習会と順次、開催を予定しておりますので、積極的な受講をお願いする次第です。

柔道普及の大きな危機とも言える、こうした情勢を真摯に受け止めるとともに、指導者ひとり一人が事故は絶対起こさせないといった強い信念を持ち、決してネガティブにならず、これまで培われた技量、体験を存分に発揮され、自信を持って指導に当たっていただきたいのであります。そして、万が一、事故が発生した場合においても、適切な判断と重大事故に発展させないための応急措置等々、迅速な対応ができるよう、医学的な見知を含めた更なる研鑽が不可欠であり、それが柔道に携わる者の責務であると考えております。

この他にも当協会の抱える課題は山積しておりますが、それらを会員全体の共通した問題として正面から対応し、斯道の発展はもとより、先達が築いてきた伝統ある静岡県柔道協会を正しく継承・発展させていくため、一層のご協力をお願い申し上げます。

国体報告

国民体育大会柔道競技 報告



静岡県チーム

第六十六回国民体育大会柔道競技は、平成二十三年十月二日から四日の間、山口県萩市の萩市民体育館において開催されました。

総監督	野田昭一	静岡県柔道協会理事長
総務	勝呂良三	富士市立高校教諭
トレーナー	赤池　理	アカイケ鍼灸接骨院
監督	渡辺達也	静岡県警察
コーチ	大村恭一	静岡県警察
先鋒	鈴木壮太	筑波大学３年
次鋒	鈴木　隼	拓殖大学３年
中堅	渡邉勝充	帝京大学３年
副将	坪山勇太	静岡県警察
大将	鈴木慎一	静岡県警察

八月に開催された東海ブロック予選では、成年女子及び少年男女がそれぞれ健闘しましたが惜しくも一県の出場枠を獲得することができず、成年男子のみの出場となりました。

今回の国体は、本県出場選手五人が全員初出場というフレッシュなチーム構成となりましたが経験不足をチームの団結力と若さでカバーし、五位以上の入賞を目標に掲げ、大会に臨みました。

【成年男子二回戦】

静岡県は二回戦からの出場で、福井県に代表戦の末勝ち上がった福島県との対戦となる。

○先鋒（60kg以下）

	静岡県	3	対	0	福島県
先鋒	鈴木壮	×	引き分け	×	村　上
次鋒	鈴木隼	○	裏　投		古　谷
中堅	渡　邉	○	指導２		野　島
副将	坪　山	×	引き分け	×	佐　藤
大将	鈴木慎	○	内　股		添　田

鈴木壮太（筑波大学）

背負投、袖釣込腰で積極的に攻めるも決め手なく引き分け。

○次鋒（73kg以下）

鈴木　隼（拓殖大学）

体落で有効を奪われたが、後半相手が内股を仕掛けてきたところを裏投で応じ、逆転の一本勝ち。

○中堅（90kg以下）

渡邉勝充（帝京大学）

開始早々の左内股に相手が宙に浮くもポイントとならず、更に内股・小外刈で積極手に攻め指導二を奪い優勢勝ち。

○副将（90kg超）

坪山勇太（静岡県警察）

左内股・大外刈で積極的に攻めるも決めてなく引き分け。

○大将（無差別）

鈴木慎一（静岡県警察）

序盤から動き良く、開始一分半に相手の頭を下げさせた状態からケンケン内股で豪快に一本を奪う。



会長より激励される選手団

【成年男子三回戦】

北海道・群馬県に勝ち、波に乗っている佐賀県との対戦となる。

○先鋒　鈴木壮太（筑波大学）

巴投から寝技に持ち込むが相手も上手くかわす。奥襟を掴むスタイルで積極的に技を仕掛けるが決め手なく引き分け。

○次鋒　鈴木　隼（拓殖大学）

背部を掴む得意の組み手となるが相手の技の仕掛けが早く消極的となったところを指導二受け、後半攻めに転じたがそのまま時間切れとなる。

○中堅　渡邉勝充（帝京大学）

得意の内股がかわされ、逆に相手の得意の寝技で攻められ、四つん這いになったところを横に返され崩袈裟固で抑えられ一本負け。

	佐賀県	3	対	0	静岡県
先鋒	片　渕	×	引き分け	×	鈴木壮
次鋒	坂　本	○	指導２		鈴木隼
中堅	田　中	○	崩袈裟固		渡　邉
副将	楯　崎	○	縦四方固		坪　山
大将	陣　内	×	引き分け	×	鈴木慎

○副将　坪山勇太（静岡県警察）

一分半に寝技の攻防で右肩を負傷するがそのまま縦四方固で抑えられ一本負け。

○大将　鈴木慎一（静岡県警察）

既にチームの敗退は決まっていたが積極的に技を仕掛け、指導の反則を奪うがその後攻めきれず引き分けとなる。

佐賀県とは、ほぼ互角の実力であっただけに、勝負へのこだわりというか、チームに勝ちの流れをもってくることができずに敗退してしまったというのが実感です。この三回戦で勝てば五位入賞だっただけに残念な試合結果でした。

今後の課題としては、勝利するには、試合時間の最初から最後まで技を掛け続けるスタミナを養い、正しい組み手からの攻撃柔道に徹することが必要かと思われます。

更に精進を重ね最強・最高のチーム作りに励みたいと存じます。

関係各位に感謝を申し上げますと共に平成二十四年岐阜県国体での活躍を誓い、大会結果の報告をさせていただきます。ありがとうございました。

（文責　渡辺達也）

第32回国体東海ブロック大会

平成23年8月21日　名張市武道交流館

静岡県選手団

団長　野田昭一（静岡県柔道協会強化委員長）
総務　勝呂良三（富士市立高校教諭）

少年男子

監督　小柳津敬博（東海大翔洋高校教諭）
コーチ　宮本昌人（常葉高校教諭）
選手　福本真佐也（静岡学園高校）
〃　伊奈慶貴（日本大学三島高校）
〃　浅賀慎太郎（静岡学園高校）
〃　藤本貴大（浜松商業高校）
〃　徳丸佑真（加藤学園高校）

少年女子

監督　西川勝啓（裾野高校教諭）
コーチ　磯部拡美（庵原高校教諭）
選手　神山悠香（加藤学園高校）
〃　村山のどか（沼津市立沼津高校）
〃　滝川真央（富士市立高校）

成年女子

監督　間宮幸男（浜松学院教諭）
コーチ　磯部拡美（少年成年兼任）
選手　鈴木りほ（東海大学）
〃　岩澤胡桃（愛知産業大学）
〃　土屋文香（東海大学）

少年男女・成年女子ともに本選出場は、東海ブロックより1チームで、毎年厳しい戦いを強いられる。

少年男子は、大成高校を中心とする愛知によく善戦し、2位となり、来年に弾みをつけた。

少年女子は、全国の中でも、レベルが高く、岐阜・愛知・静岡の三つ巴の戦いとなり、代表となった愛知には、1対1の内容負けで、惜しくも本選出場を逃した。愛知が本国体を優勝しているだけに、残念な敗戦であった。

成年女子は来年度に国体開催を控えている岐阜が、全日本強化選手3名を揃え、圧勝した。

来年は、全種別出場を目指して、頑張りたい。

第53回 静岡県柔道祭開催

平成23年5月8日午前9時30分　静岡県武道館

恒例の柔道祭が今年度も県武道館で開催された。安齊会長の挨拶に続き、静岡学園高校の佐藤和哉君により選手宣誓が行われた。佐藤君は全日本カデ柔道体重別選手権大会でも選手宣誓をしており、今回もすばらしい宣誓をしてくれた。選手宣誓に続き、恒例の柔道協会表彰が行われた。表彰された方々は次の通り。

平成23年度静岡県柔道協会表彰

《永年功労賞》
六段　稲木寛男
六段　宮本達夫
六段　石田泰嗣
四段　佐々木清作

《功労賞》
七段　磯部正博
六段　横山尚博
五段　松沢正信
五段　清　恵二
五段　渡辺明彦
五段　渡邉武彦
五段　才茂一幸
五段　高山知久
四段　伊藤道明
四段　加藤浩之
四段　川口善弘

《優秀指導者賞》
五段　鈴木克美
（東海大学付属翔洋高校中等部柔道部顧問）

平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝
遠田真子選手を育成

《優秀選手賞》
初段　遠田真子
（東海大学付属翔洋高校中等部3年）

平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝、世界カデ柔道体重別選手権大会に日本代表として出場

表彰に続き試合が開始された。小学生から一般まで県内の柔道選手が一同に集まる唯一の大会で、会場は大いに盛り上がりを見せていた。

第53回静岡県柔道祭成績

団体成績

小学校の部
1位　静岡錬心館
2位　神士館
3位　富士市柔道会
3位　育誠館

中学校の部（男子）
1位　静岡学園中学
2位　東海大翔洋中学
3位　笠井中学
3位　常葉学園橋中学

中学校の部（女子）
1位　藤枝順心中学
2位　東海大翔洋中学
3位　大仁柔道会
3位　大仁中学

高校の部（男子）
1位　静岡学園高校
2位　浜松商業高校
3位　飛龍高校
3位　市立沼津高校

高校の部（女子）
1位　東海大翔洋高校
2位　藤枝順心高校
3位　加藤学園高校
3位　静岡学園高校

一般の部
1位　SSU柔道クラブ
2位　東海翔柔クラブ
3位　韮山
3位　富士市柔道会

優秀選手

小学校の部
黒柳篤季（錬心館）
大橋海斗（神士館）

中学校の部（男子）
佐野安大（静岡学園中学）
岡村康平（東海大翔洋中学）

中学校の部（女子）
渡辺香奈（藤枝順心中学）
山本ひな（東海大翔洋中学）

高校の部（男子）
小澤秀彰（静岡学園高校）
下田一輝（浜松商業高校）

高校の部（女子）
堀川都美（東海大翔洋高校）
小川莉歩（藤枝順心高校）

一般の部
内田武三士（SSU柔道クラブ）
古賀　航（東海翔柔クラブ）

飯田稔元静岡県柔道協会副会長（元西部地区幹事長）県知事表彰を受ける



飯田稔先生が長年「教育学術文化スポーツ」の分野で貢献したとして、静岡県知事表彰を受けられた。表彰式が文化の日県庁別館二十一階の展望ロビーで行われた。柔道協会としては十一月二十六日理事会の後、先生の受賞をお祝いする会を開催した。

柔道協会優秀選手表彰

恒例の静岡県柔道協会優秀選手表彰が11月26日ホテルシティオ静岡で行われた。対象者は新人選手紹介コーナーで紹介する以下の選手たちである。特に佐藤君は2年連続での表彰となった。表彰された選手は、第31回全国少年柔道大会個人戦6年の部で3位に入賞した渡辺将一君（静岡錬心館道場）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝・２０１１年度カデ体重別選手権大会女子70kg級準優勝の遠田真子さん（東海大翔洋高等学校中等部）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手県大会男子50kg級3位入賞の杉山慎吾君（常葉学園橘高等学校）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子90kg級3位入賞の佐藤和哉君（静岡学園高等学校）、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子55kg級3位の鈴木優希君（常葉学園橘高等学校）、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子48kg級3位・平成23年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会女子48kg級3位の岡本理帆さん（藤枝順心高等学校）の6人である。

安齊会長から挨拶が行われた後、賞状と記念品が参加者に授与された。選手を代表して遠田真子選手がお礼の言葉を述べ閉会した。


お礼の言葉を述べる遠田選手


優秀選手を囲んで

各種大会の報告

第28回春季静岡県大学高専柔道大会

5月3日（火・祝）
静岡市北部体育館

団体の部
優勝　静岡産業大学A

個人の部
女子無差別級
優勝　澤口桃子（静岡産業大学）
男子66kg級
優勝　岩本洋範（東海大学）
男子81kg級
優勝　大木　翔（静岡産業大学）
男子81kg超級
優勝　伊藤陽介（静岡産業大学）

第31回全国少年柔道大会

5月5日（木・祝）
講道館

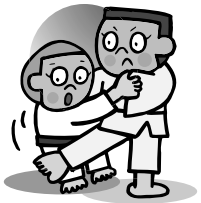
団体戦
静岡錬心館　2回戦進出

個人戦
5年生
村松孝紀　初戦敗退
6年生
渡辺将一　3位入賞

平成23年度東海地区形競技大会

7月3日（日）
名張市武道交流館

投の形
取四段　齋藤修司
受四段　尾藤設則
固の形
取四段　川島伸夫
受四段　伊藤厚志
極の形
取五段　森下良男
受五段　高林祐介
柔の形
取七段　白井康二
受女子五段　白井恵子
講道館護身術
取六段　一瀬　誠
受六段　竹内紀久夫
五の形
取七段　磯部正博
受七段　中村寿一
古式の形
取七段　渡辺達也
受七段　小野瀬康行
1位全国大会出場



平成23年度静岡県成年柔道体重別選手権大会 兼 国民体育大会柔道競技候補選手選考会

7月9日（土）
静岡県武道館

成年男子
60kg級
鈴木壮太（筑波大学） 1位
73kg級
鈴木　隼（拓殖大学） 1位
90kg級
渡邉勝充（帝京大学） 1位
無差別
鈴木慎一（静岡県警察） 1位
成年女子
52kg級
鈴木理穂（東海大学） 1位
70kg級
岩澤胡桃（愛知産業大学） 1位
無差別
土屋文香（東海大学） 1位

平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会東海地区予選会

7月10日（日）
三重県名張武道館

男子
55kg級
鈴木優希（常葉橘高校） 1位
60kg級
福本真佐也（静岡学園高校） 2位
66kg級
石田　亘（浜松商業高校） 4位
73kg級
伊奈慶貴（日大三島高校） 1位
81kg級
浅賀慎太郎（静岡学園高校） 3位
90kg級
山本雄也（浜松商業高校） 3位
100kg級
佐藤和哉（静岡学園高校） 2位
100kg超級
小澤秀彰（静岡学園高校） 4位
女子
44kg級
井口可菜美（浜松商業高校） 2位
48kg級
岡本理帆（藤枝順心高校） 1位
52kg級
神山悠香（加藤学園高校） 2位
57kg級
松川美世（藤枝順心高校） 3位
63kg級
原田祐花（静岡学園高校） 1位
70kg級
村山のどか（市立沼津高校） 2位
78kg級
菊池優貴乃（静岡学園高校） 1位
78kg超級
中村　優（藤枝順心高校） 4位

JOCジュニアオリンピックカップ 平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

9月10日（土）～11日（日）
埼玉県立武道館

女子
48kg級
岡本理帆（藤枝順心高校） 3位
63kg級
原田祐花（静岡学園高校）
1回戦敗退
70kg級
村瀬由樹（静岡学園高校～国際武道大学）
1回戦敗退
78kg級
菊池優貴乃（静岡学園高校）
2回戦敗退
男子
55kg級
鈴木優希（常葉橘高校） 3位
66kg級
吉澤　駿（静岡学園高校～東洋大学）
2回戦敗退
73kg級
伊奈慶貴（日大三島高校）
1回戦敗退
90kg級
細川敦大（浜松商業高校～日体大学）
1回戦敗退

第36回全国教員柔道大会

8月6日（土）
講道館

第36回全国教員柔道大会は、東京講道館にて開催されました。静岡県チームは、中堅のベテラン井口選手を中心に、小塚選手、山崎選手、大場選手に初出場の川端選手と団結力のあるメンバーで大会に臨みました。

静岡県は、開会式直後の第1試合にて、第1回戦で岩手県と対戦しましたが、残念ながら2対1で初戦敗退に終わってしまいました。

2対1で初戦で敗退しましたが、選手は、皆、全力を尽くして力を出し切る試合をしてくれました。また、いろいろと柔道の指導方針や学校での仕事内容などの情報交換もあり大変勉強になる時間を過ごす事ができました。

私自身も、初めての教員大会の監督で大変に良い経験をし勉強になりました。監督をさせてもらった事に大変感謝しています。ありがとうございます。

監督　藤巻文雄

1回戦
静岡県1－2岩手県
監督　藤巻文雄（御殿場西高校）
大将　大場章吾（沼津商業高校）
副将　小塚直哉（飛龍高校）
中堅　井口往彦（浜北西高校）
次鋒　山崎大介（磐田南高校）
先鋒　川端常弘（湖西高校）

第8回全国小学生学年別柔道大会

8月28日（日）
大阪中央体育館

5年男子45kg級
村松孝紀（静岡錬心館）
2回戦進出
5年男子45kg超級
杉本康平（清水町柔道会）
初戦敗退
6年男子50kg級
小笠原一貴（静岡錬心館）
2回戦進出
6年男子50kg超級
渡辺将一（静岡錬心館）
3回戦進出
5年女子40kg級
池谷　弥（育誠館）
2回戦進出
5年女子40kg超級
澤崎莉子（清水町柔道会）
ベスト8進出
6年女子45kg級
鶴巻　実（神士館）
2回戦進出
6年女子45kg超級
井上明日香（神士館）
3回戦進出

平成23年度全国高等学校総合体育大会 第60回全国高等学校柔道大会

8月9日（火）～13日（土）
秋田県立武道館

男子団体
静岡学園高校
3回戦敗退（ベスト16）

女子団体
東海大翔洋高校
3回戦敗退（ベスト16）

男子個人
60kg級
福本真佐也（静岡学園高校）
1回戦敗退

66kg級
佐藤光将（静岡学園高校）
3回戦敗退（ベスト16）

73kg級
伊奈慶貴（日大三島高校）
2回戦進出

81kg級
田中健登（東海大翔洋高校）
3回戦敗退（ベスト16）

90kg級
山本雄也（浜松商業高校）
1回戦敗退

100kg級
下田一輝（浜松商業高校）
2回戦進出

100kg超級
徳丸佑真（加藤学園高校）
1回戦敗退

女子個人
48kg級
岡本理帆（藤枝順心高校）
5位（ベスト8）

52kg級
秋山侑里佳（藤枝順心高校）
1回戦敗退

57kg級
松川美世（藤枝順心高校）
3回戦進出（ベスト16）

63kg級
原田祐花（静岡学園高校）
1回戦敗退

70kg級
村山のどか（市立沼津高校）
3回戦進出（ベスト16）

78kg級
菊池優貴乃（静岡学園高校）
5位（ベスト8）

78kg超級
滝川真央（富士市立高校）
1回戦敗退

第42回全国中学校柔道大会

8月22日（月）～25日（木）
和歌山ビッグホエール

男子団体
予選リーグ敗退
静岡学園中学校
1－2　東海大相模（神奈川）
2－1　出雲第一（島根）

女子団体
予選リーグ敗退
東海大翔洋中学校
3－0　下吉田（山梨）
0－1　広陵（奈良）

男子個人戦
50kg級
上村悠真（高台中学校）
1回戦敗退

55kg級
小林大貴（金岡中学校）
2回戦進出

60kg級
望月飛翔（静岡学園中学校）
3回戦進出

66kg級
辻　大成（静岡学園中学校）
1回戦敗退

73kg級
佐野安大（静岡学園中学校）
3回戦進出

81kg級
植田蒼太朗（高台中学校）
3回戦進出

90kg級
花井拓哉（中郡中学校）
2回戦（初戦敗退）

90kg超級
岡村康平（東海大翔洋中学校）
2回戦（初戦敗退）

女子個人戦
44kg級
鈴木茉莉（藤枝順心中学校）
2回戦進出

48kg級
成宮妃世梨（藤枝順心中学校）
3回戦進出

52kg級
川原礼花（東海大翔洋中学校）
2回戦（初戦敗退）

57kg級
山本ひな（東海大翔洋中学校）
2回戦進出

63kg級
安竹真利奈（東海大翔洋中学校）
2回戦進出

70kg級
遠田真子（東海大翔洋中学校）
ベスト8進出

70kg超級
楠　麻衣（長岡中学校）
2回戦（初戦敗退）

速報 高校新人柔道大会

個人戦　平成24年1月14日（土）　県武道館
団体戦　平成24年1月21日（土）　県武道館

各部門県大会1位が左記の日程で行われる全国大会に県代表として出場する。

男女個人試合
平成24年3月19日（月）
男女団体試合
平成24年3月20日（火）
日本武道館

男子団体
優勝　静岡学園高等学校（2年連続10度目）
2位　藤枝明誠高等学校
3位　常葉橘高等学校

女子団体
優勝　沼津市立高等学校（初出場）
2位　富士市立高等学校
3位　加藤学園高等学校

男子個人優勝者
60kg級　大場隆成（浜松城北工業高校）
73kg級　新見公秀（浜北西高校）
81kg級　浅賀慎太郎（静岡学園高校）
90kg級　伴野佑樹（新居高校）
無差別級　佐藤和哉（静岡学園高校）

女子個人優勝者
52kg級　岡本理帆（藤枝順心高校）（2年連続）
57kg級　前山理菜（加藤学園高校）
63kg級　古川稜子（市立沼津高校）
70kg級　村山のどか（市立沼津高校）（2年連続）
無差別級　滝川真央（富士市立高校）

速報 静岡県柔道選手権大会

平成24年2月4日（土）
県武道館

男子
1位　増田圭省（県警）
2位　小椋俊彦（県警）
3位　齊藤和仁（県警）

女子
1位　村山のどか（沼津市立高）
2位　滝川真央（富士市立高）
3位　原田祐花（静岡学園高）

男女とも1・2位が東海大会に出場する

速報 少年柔道団体選手権大会

平成24年2月26日（日）
県武道館

1位　清水町柔道会

講道館講習会・静岡県中央形講習会開催

平成23年7月17日（日）
午前9時30分～午後3時30分
静岡市北部体育館
講師　道場良久七段
（講道館指導員・警視庁柔道師範）

講道館形講習会が県中央形講習会を兼ねて開催された。今年度は警視庁の師範である道場先生に指導していただいた。受講者は役員5名、受講生37名であった。講習の様子を八木卓審判研修委員長に伝えていただく。

講道館講習会・静岡県形中央講習会が、平成二三年七月一七日（日）静岡市北部体育館において、講師に警視庁師範・講道館指導員の道場良久先生をお迎えして、県内各地からの受講生三七名の参加をもって開催された。道場先生は今年度ヨーロッパで行われた講道館講習会に講師として参加、また、講道館形シリーズの「固の形」で演技されるなど豊富な形指導のご経験があり大変分かり易いご指導を頂いた。

講習の最初に「形の演技は、礼法、姿勢、攻防の動き、取と受の位置など全部を含めて演技となる。」と述べられ、踞姿、膝行、受の仰臥姿勢など参加者全員を見て回り、丁寧にご指導された。抑込技の指導に入るに当たり、「固の形は乱取の形ですが、投の形と比べ、固の形は地味ですので、取の極めに対して、受がそれから逃げるための攻防の理合いを表現するには、それぞれの動きに関連性を持たせ、動作を大きく表現することが大切です。」と話され、その為には、取が極めのあと、受が動きを作れるよう多少の隙を作ってやると受の動きを大きくすることができるというアドバイスを頂いた。

取と受の攻防の理合いを理解するために、袈裟固では、それぞれの三つの動きを確認した。①受は右掌に左掌を添えて取の左肘の逆を取る。取はこれに応じて左足を大きく踏み出し、うつ伏せで対応する。②受はあおりを利用して右膝を取の体の下へ入れる。取は腰を切ってこれに応ずる。③受は取の左肩越しから帯（背中）をとりにいき、鉄砲で返す。取は左足を大きく踏み出しうつ伏せになって応ずる。そして、受は「参り」の合図をする。そして、攻防によって移動した位置から、取は受を最初の仰臥姿勢の位置へ戻し近間、東間と移動して踞姿する。

この三つの攻防の動作を1つずつ確実にできるようにして、何回も繰り返し、最後は、取の極めから受の「参り」までの動きを途切れることなく行えるようにした。

このような方法で、三つの受の逃げ方と取の対応を決め、肩固、上四方固、横四方固、崩上四方固のご指導をいただき、礼法から抑込技の五本を通しで練習して、午前の部を終了した。

午後の部は十三時から始まり、先生が参加された三月のヨーロッパ講道館講習会の様子や感想などの講演で講習が始まった。ヨーロッパの実情や今後の世界選手権の展望など例を挙げてお話されたので大変興味深く聞くことができた。

講演に引き続き、絞技に入り、片十字絞、裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞と取の細かい留意点と受の応じ方の指導を受けた。特に受の「参り」の際の姿勢が活きていないことを指摘されそれを是正する方法の指導を受けた。

続いて、関節技に入り腕緘、腕挫腕固、腕挫十字固、腕挫膝固、足緘と取の細かい留意点と受の応じ方の指導を受けた。受の襟を取りに行くタイミングは、教本に取の「攻める気勢」と表現してあるように、約束でそれが分かるようにしておくこと、腕挫十字固では受は取の襟を取りに行くとき親指が襟の中に入り、取られた瞬間親指が上になるように取ること、腕挫膝固では取に右足先を左内股に当て大きく前に崩されたときしっかり左手で前受け身を取って右膝を付き踏ん張ること、等の指導があった。

休憩を挟んで、それぞれの組で抑込技から関節技までを通しで練習して、最後に受講生を代表して山崎敦史三段・本山太一郎三段、海野幸雄六段・加藤毅士二段の二組が講習の成果を演じ、他の受講生の拍手を浴びる中、道場先生からお誉めの言葉を頂いた。そして、本講習への受講生の取り組みへの講評とそれぞれの立場で更なる向上を目指すよう期待が述べられ講習会が無事終了した。

静岡県では、三月に第一回「形」競技会が開催され、古式の形を除く六つの形に七組の参加があった。また、五月には静岡県柔道整復士会柔道大会で第一回小学生「形」競技会が開催され、投の形に九組の出場があった。投げの形で優勝した神士館の鶴巻実さんと平井佑佳さんの演技は大変素晴らしく、会場の大勢の皆さんから盛んな拍手が送られた。小学生の段階から形を学ぶことによって、技の理解が更に深まり今後の技術向上と大会での活躍に期待したい。また、正しい取と受の動作を正確に出来るようにご指導された先生方のご尽力に頭が下がります。

講道館講習会は、講師に形を極めた素晴らしい先生方が派遣されるので、分かり易い丁寧なご指導によって、形のビデオやDVDまた教本ではなかなか理解できないことが大変よく分かるようになります。また、その先生方のご体験や柔道界の立場により、中央や世界の柔道についてお話が聞けることも大変大きな魅力です。

形講習会に多数参加されて、昇段のため、形競技大会の出場を目指す、後進のために形指導の技術向上を目指す等それぞれの立場で、こうした機会を有効に活かしてくれることを望みます。

柔道底辺拡大への取り組み報告

各地区で柔道人口拡大のための取り組みが行われています。今回は西部地区の取り組みを中心に各地区の取り組みを報告する。

西部地区

親子柔道教室開催

浜松市武道館
平成23年11月6日午後1時から午後4時まで
主催　静岡県柔道協会、静岡文化芸術大学
共催　静岡県西部地区柔道協会
協賛　西部柔道場連盟
講師　溝口紀子（静岡文化芸術大学准教授、バルセロナオリンピック銀メダリスト）
講師　青木　倫（株式会社河合楽器製作所体育事業部健康増進推進室長）


参加者全員集合

幼稚園の年少から小学2年生までを対象とした親子柔道教室が西部地区でも開催された。女性の柔道人口を増やす対策の一環として県下で計画されたが、その西部地区での実践である。西部地区各道場に所属する子どもだけでなく一般の子どもたちも参加してくれた。合わせて保護者の皆さんも体操服で参加していただいた。


親子で体操

最初に青木先生と2人のコーチにより基本的な体操の指導がなされた。子どもたちは本当に楽しそうに親子で取り組んでいた。後半は溝口先生より柔道的な指導がなされた。特に抑え込みでは親子で取っ組み合いになり、また有段者を抑えるときには溝口先生には多くの子どもが殺到し、さすがのメダリストも抑え込まれていた。


溝口先生に挑戦！

最後のインタビューに答える様子から、子どもも保護者も本当に楽しい時間を過ごすことができたと思われる。今後の継続や、一般の保護者への浸透についてはこれからの課題である。

中部地区

親子体験柔道教室開催

平成23年8月21日（日）午前10時から正午までの日程で、静岡市北部体育館柔道場で開催された。「親子で体験したい方ならどなたでも参加できます。基礎運動を中心に行いますので、投げられるなどの動作はありません。特に、お母さんや女性の方の参加は大歓迎です。ぜひ、この機会に柔道を体験してみてください。」と呼びかけている。

参加者は、指導者が22名、講習参加者は親子合わせて87名だった。

準備体操、柔道ゲーム、礼法指導、受身指導、柔道の形に挑戦、押さえ込み実践など楽しそうなメニューが用意された。

レンタル柔道着（静岡市柔道連盟で買い足している）が非常に役立った。親子のスキンシップがとれ、新たな距離感が生まれた。準備運動にエアロビックスを取り入れたことで楽しくスタートすることができた。参加者の中にかつて柔道をされていた方がおり、人材発掘することができた。以上のような意見が寄せられている。

東部地区

東部地区では「エアロビ柔道」が実践されていて、週3回（火・水・土曜日、午後7時から8時30分）、沼津市立沼津高等学校柔道場で開催されている。「年齢に関係なく、健康で『柔道の礼法・受身』などを体得し、怪我防止と体力増強を目指したい人、また子どもや孫と遊びたい人」を対象に、「全市民、礼と受身の体得を」をスローガンに掲げ実践されている。

また、親子柔道教室も実践している。

平成23年度 全日本カデ柔道体重別選手権大会

平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会が、全日本柔道連盟主催・静岡県柔道協会主管で平成23年4月10日（日）静岡県武道館（静岡県藤枝市）を会場に開催された。

今回初めて実施された15歳・16歳の日本一を決める大会であり、8月にウクライナで開催される世界カデ選手権大会の日本代表選考を兼ねる大会である。男女各8階級で実施され、各階



上村先生のあいさつ

級選抜された8名のみの出場である。

開会式に先立ち、東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げた。また、選手宣誓をおこなった静岡学園高等学校1年佐藤和哉君も、「頑張っている被災地の人たちに、柔道を通し勇気と希望を与えられるよう全力を尽くし、このような状況の中で柔道ができる喜びを感じ試合すること」を誓っていた。

日本柔道界の将来を確実に背負っていくであろう総勢128名の若者の熱き戦いの一日だった。

大会運営に関しては、急な大会開催であったが国体を初め大きな大会を体験してきており、スムーズに運営できたと思う。静岡県柔道協会の団結力を示すことができたと思う。



女子70kg級で優勝した遠田選手

柔道安全指導講習会開催

平成23年6月12日　柔道安全指導講習会が小学生学年別大会終了後、静岡市北部体育館柔道場で開催された。全体では173名の参加者がおり、所属別では協会所属29名、高体連所属23名、中体連所属14名、少年団所属81名、警察その他所属26名であった。講師には全柔連から浅野哲男先生をお迎えし、柔道の安全指導に関する講習を受けることができた。

感想要望では以下の意見が寄せられた。

・頭部事故防止対応マニュアルを早目に入手したい。
・練習計画を作成したいが、参考例があれば見せて欲しい。
・講習の場所をもっと受講しやすいところを考えて欲しい。



講習会の様子



講師の浅野先生

・フランスでは柔道事故が無いと聞くが詳細を知りたい。
・マスコミの柔道は危険なスポーツと決め付けた報道はいかがなものか、また、勝てばよいという柔道部活動の風潮もこの機会に正して欲しい。
・本日の講習で学んだことを今後の指導にいかしていきたい。
・中学校の部活動で、指導者がきちんと指導できる勤務体制を確立するよう関係方面に要請して欲しい。
・パワーポイントだけでなく、冊子の資料があればよいと思う。
・実技指導も講習に入れて欲しい。
・ヘッドギアの着用は有効なのか。着用の義務化の動きはあるのでしょうか。

平成23年度 全日本柔道連盟柔道教室

平成23年度11月23日（水・祝）静岡市北部体育館柔道場　午前9時30分から午後3時30分

平成23年度全日本柔道連盟の柔道教室が行われた。講師には岡田弘隆先生（筑波大学）、北田晃三先生（東海大学望星学塾）、山下亜希先生（了徳寺大学）の3名をお迎えした。

開講式では県少年柔道連絡協議会会長の栗田先生の開会宣言、安齊会長の挨拶に続き田中県理事から講師の紹介が行われた。3人の講師から挨拶が行われ、午前の講習が開始された。午前中は準備運動に続き、柔道の基本動作が指導された。寝技では足捌きの練習や下からの攻め方、かめの状態からの攻め方等ゲームの要素を入れながら楽しく講習が進められた。立ち技でも基本の重要性が強調され、打ち込みの指導が行われた。受けの大切さが強調されていたのが印象に残った。常に「礼法」を強調されていたことも印象に残った。

昼食の時間を少し短くし、講師と参加者の意見交換を行った。試合のときに力を発揮する方法や、安全面での配慮など日頃指導者や保護者が疑問に思っている事柄等を講師に直接問いかけていました。実技だけでなく貴重な時間となりました。午後の講習では乱取り練習が中心に行われ、予定通り終了した。



開講式の様子



参加者全員集合

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

神士館（こうしかん）

②三島市立錦田中学校、
三島市民体育館
③〒410-1113
裾野市稲荷216-12
④神山信之
⑤小学生28人　中学生7人
指導者6人

⑥道場紹介
三島柔道会の指導者であった神山巌先生が、昭和61年12月、三島市谷田に個人道場として「神士館」を開館、地域の子供たち4・5人を集めて練習を始めた。4年後の平成2年、県の代表として全国大会に初出場、平成21年に、記念すべき10回目の全国大会を果たした。現在は、錦田中学校に練習場所を移し、全国大会に出られる様な道場作りを目指し、日々練習に励んでいる。





三島柔道会

②三島市南本町12－23
③〒411-0841
三島市南本町12-23
☎055－972－3660
④下山隆伸
⑤児童2人　小学生8人



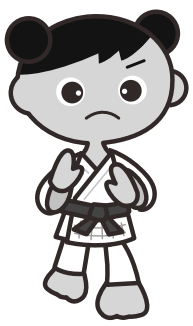
⑥道場紹介
昭和22年6月に青少年の健全育成を目的に初代会長に田邊寿之助氏、初代理事長に望月角衛氏が就任し三島柔道会が設立されました。練習日は月、水、土曜日の午後7時から9時まで練習しています。三島柔道会では柔道の技術などを教える事はもちろん、今の子供達があまりできなくなってしまった挨拶や目上の人に対する礼儀、言葉使いなどもしっかりとできるように育てています。
今後も「人間はやれば必ずできる！」をモットーに、自分に負けない強い精神力をもった子供の育成を目指し、指導者一同頑張って参ります。

柔好会

②焼津中央高校内
③☎054－629－1063
④安竹克好
⑤小学生22人　中学生4人
一般20人

⑥道場紹介
２００５年に柔好会設立、焼津中央高校内柔道場を借りて練習しております。
練習日は月・水・金の週3回、幼児～大人まで地域柔道普及の為、日々精進しております。
焼津市は中学柔道部が無くなり、中学生用の柔道場として開始しましたが、2年前から小学生も始め、今では幼児から大人まで幅広く「柔道を好きになる会」を目指し努力しております。





長田柔道倶楽部

②静岡市駿河区鎌田98-8
③054-258-6221
〒421-0111
静岡市駿河区丸子新田458－11
④増岡秋男
⑤小学生20人　中学生10人
高校生1人　大学・社会人22人

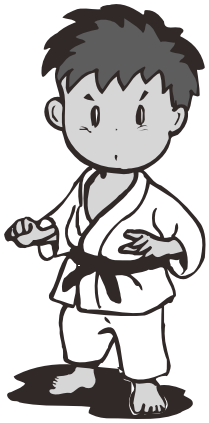
⑥道場紹介

長田柔道倶楽部は、長田体育館の新設に伴い昭和61年4月に始まりました。

柔道の精神である「心技体」を主軸に、心と体の成長を目標にしています。

水・土曜日の週二回、一部は6時30分から小学生・初心者を中心に、二部は7時30分～8時45分まで中学生から一般までが汗を流しています。「継続は力なり」一緒にやりましょう。一年を三期に分け、その期ごと募集していますので、一度見学に来て下さい。





髙山柔道塾

②浜松市中区高林1丁目17－2
③〒432-8003
浜松市中区和地山1丁目7－612
④塾長　高山直久
⑤児童3人　小学生16人
中学生6人
大学・社会人10人



⑥道場紹介

髙山柔道塾は、我々兄弟が、中学時代に柔道と出合った事で、人生観が変わり後進に柔道の素晴らしさを伝えたくて、平成2年5月2日に兄弟2人で開塾致しました。

開塾2年前から県内の柔道の試合は勿論全国大会まで足を運び、全国大会を目標に開塾致しました。

稽古は、（月）（水）（金）の週3回19時～21時半迄、幼児・中高生・一般の塾生が稽古に励んでおります。

現役の塾生及びOB・OGを含め、のべ70名近くの塾生が全国大会に出場しております。

知波田道場

②湖西市古見1154－1
③〒431-0442
湖西市古見1154－1
☎053－576－3612
④水野　進
⑤小学生17人
大学・指導者2人

⑥道場紹介

今知波田道場で主に取り組んでいる事は、リズム感を持って技を理解する事です。そのために音楽のリズムに合わせて柔道の技をステップで、総合的に体感出来る様工夫しながら、楽しく早く柔道を学べる事が出来るように研究しています。例えばビートルズのデイ、ツリッパーでは足払い、燕返し、送り足払い、右小内刈、左大内刈、左小内刈、右大内刈、のローテーションを三回から四回繰り返します。イエローサブマリンに合わせての背負投、エリノア、リグビーに合わせての体落し等未だ開発中のものも、息をきらせながら楽しくやっています。



新人選手紹介コーナー

例年どおり、今年度もこのコーナーで紹介できる選手がでました。柔道協会としては本当に喜ばしいことです。全国大会で3位までに入賞した若い選手を紹介しているコーナーですが、今年度は6名の選手を紹介することができます。

第31回全国少年柔道大会個人戦6年の部で3位に入賞した渡辺将一君（静岡錬心館道場）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝・2011年度世界カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級準優勝の遠田真子さん（東海大学翔洋高等学校中等部）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子50kg級3位入賞の杉山慎吾君（常葉学園橘高等学校）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子90kg級3位入賞の佐藤和哉君（静岡学園高等学校）、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子55kg級3位の鈴木優希君（常葉学園橘高等学校）、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子48kg級3位・平成23年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会女子48kg級3位の岡本理帆さん（藤枝順心高等学校）です。例年女子選手が活躍する例が多かったのですが、今年は男子4人女子2人と男子選手が頑張ってくれました。また、今年は世界大会やジュニア大会、シニアの大会で活躍した選手も目立ちました。



渡辺将一君
（静岡錬心館道場）

◎第31回全国少年柔道大会
個人戦6年の部3位

渡辺君が柔道を始めたきっかけは「姉が柔道に興味を持ち錬心館道場に入ることになったとき、一緒に入った」ということで、おねえさんの影響が大きかったようです。全国大会入賞の感想は一言「うれしかった」実感だと思います。静岡県小学生学年別柔道大会でも優勝しており、小学生年代では県内はもとより全国でもトップクラスの実力を持つ期待の選手です。今後の夢は柔道を続け「インターハイ出場」と言っていますが、出場だけでなく入賞そして優勝を目指して欲しいものです。指導者からは「柔道に対する直向な姿勢が好結果をもたらしたと思う。今後の更なる活躍に期待する」と熱いエールを贈られています。ぜひ柔道を継続し、夢を実現して欲しいものです。



遠田真子さん
（東海大学翔洋高等学校中等部）

◎平成23年度全日本カデ柔道
体重別選手権大会
女子70kg級優勝
◎2011年度世界カデ柔道
体重別選手権大会
女子70kg級準優勝

遠田さんが柔道を始めたきっかけは「父と兄の影響で」と言うことで、まさに柔道一家だと言えると思います。世界大会入賞の感想は「自分でもここまでいけるとは思っていなかったので、正直すごくうれしかったです。これからもっと上を目指していきたいです。」と、素直に感想を述べてくれました。

全国中学校柔道大会でも5位入賞している実力者で、今後の活躍が期待されます。将来の夢は「まずは日本一を目指し、最終的には世界一になりたいです。」と大きな夢を持っています。全日本体重別選手権やオリンピックでの活躍を目指して頑張って欲しいものです。指導者からは「これからも練習に励み、目標を達成するため日々努力あるのみ。」と厳しく励まされています。高等学校でも頑張ってほしいものです。

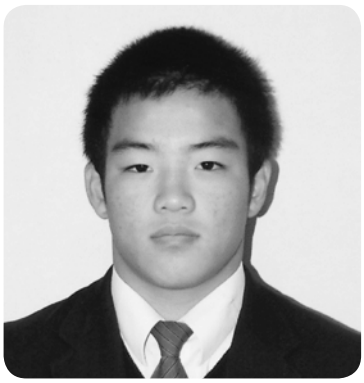


佐藤和哉君
（静岡学園高等学校）

◎全日本カデ柔道選手権大会

男子90kg級3位

佐藤和哉君は昨年も全国中学校柔道大会個人戦90kg級準優勝でこのコーナーで紹介しています。今回の結果で、本人の努力や関係者の指導で順調に成長していることが分かります。柔道を始めたきっかけは「父に勧められたこと」だそうです。今回の入賞に関しては「1位にならなければ世界カデ大会には出場できなかったのでこの結果は悔しいです。でも、この試合で学んだことは多いので、次の試合で今回学んだことを活かしていけるようがんばりたいです。」と非常に前向きに感想を述べてくれました。将来の夢は「オリンピック出場」とはっきりと目標を定めています。ぜひ夢を実現してください。そして日の丸を揚げて欲しいものです。指導者からは「柔道に対しての意識が高く、毎日の練習に向上心を持って取り組んでいる。日本一を取る力はあると思っているので、精神面を鍛え努力を重ね夢を実現して欲しい」とさらなる飛躍を期待されています。



鈴木優希君
（常葉学園橘高等学校）

◎平成23年度全日本ジュニア
体重別選手権大会
男子55kg級3位

鈴木君が柔道を始めたきっかけは「道場に通っていた人に誘われたから」と言うことで、誘ってくれた人のおかげで今の鈴木君が存在したことになります。今回の結果については「目指していたのは優勝だったので悔しかったけど、3位入賞もすばらしい成績なので素直に喜びたい。」と感想を述べています。鈴木君もかつて全国中学校柔道大会で3位入賞しており、今回の入賞で順調な成長を証明しています。今後の夢は「柔道をやっている間は常に頂点を目指し、周囲から尊敬されるような選手になりたい」と模範的な夢を持っています。指導者からは「減量や練習の苦しさから逃げず努力をしています。これからも自分自身の目標に向かい頑張ってほしいと思います。」とお褒めの言葉とエールを贈られています。



杉山慎吾君
（常葉学園橘高等学校）

◎平成23年度全日本カデ柔道
体重別選手県大会
男子50kg級3位

杉山君が柔道を始めたきっかけは「道場の先生に誘われたため」と答えてくれました。誘ってくれた先生に見る目があったのでしょう。平成23年度全日本カデ柔道体重別選手県大会男子50kg級3位入賞という今回の結果については「初戦を勝てたことは嬉しかったが、準決勝で負けてしまい悔しかった。」と決勝進出を逃した悔しさを語っています。中学校時代には東海大会で準優勝している等、期待されている選手ですので今後も怪我に注意して成長していってもらいたいものです。

指導者からは「試合当日減量に苦しみましたが、精神力でカバーしていました。『文武両道』を実践する人物として本校の誇りとする生徒の一人です。」と杉山君を高く評価しています。



岡本理帆さん
（藤枝順心高等学校）

◎平成23年度全日本ジュニア
柔道体重別選手権大会
女子48kg級3位

◎平成23年度講道館杯
全日本柔道体重別選手権大会
女子48kg級3位

岡本さんが柔道を始めたきっかけは「姉の影響」と柔道姉妹のようです。岡本さんも中学校時代から全国で活躍している選手ですが、高校でも着実に成長しているようです。今回の入賞については「いつも応援してくださる人達のおかげで勝つことができています。感謝の気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたい。」と謙虚に語ってくれました。そして、今後の夢としては「全国制覇」と今回果たせなかった夢の実現をあげています。高校生（ジュニア）世代だけでなくシニア世代でも十分チャンスがあると思いますからぜひがんばって欲しいものです。指導者からは「強くなる為には努力、勝つ為には研究を実践していったことで、今回の結果が出せたのだと思います。これからも努力・研究をしていってほしいと思います。」と『努力』と『研究』の重要性を強調されています。

指導者講習会開催

柔道の安全指導が叫ばれている折、静岡県でも指導者講習会が実施されている。東部・西部・中部・そして全県と合計4回開催される。講師は中央講習会に参加した伊藤道明四段（焼津高等学校教諭）と阿部光好五段（静岡市立長田西中学校教諭）そして、医師として鈴木英彦医師（藤枝市）と伊達靖医師（掛川市）が交互に担当される。内容は各会共通で1．講義「柔道の安全指導」(1)全柔連の取り組み (2)頭部・頸部負傷時の対応、2．実技「柔道の基本指導」(1)トレーニング論 (2)基本指導の実際、3．その他という内容で実施される。県内では約1000名の受講が予定されている。





平成24年2月19日（日）浜松市武道館で開催された西部地区の講習会の様子を紹介する。午前中に行われた西部地区の審査会に続いて、午後1時から4時にかけて実施された。中央から派遣された金丸雄介5段と賀持道明6段も参加され、西部地区の指導者や学校の顧問を中心に約230名の参加があった。

安齊静岡県柔道協会会長の挨拶に続き、佐々木事務局長より講師の紹介が行われ、講習会が始まった。

講義Ⅰ　(1)安全指導の取り組み　伊藤道明講師、(2)頭部・頸部負傷時の対応　伊達靖講師

講義Ⅱ　(1)指導者の在り方とコーチング　伊藤道明講師、(2)基本指導　阿部光好講師

以上のような内容で講習が行われた。

伊藤先生はパワーポイントを使用して講習を行い、映像は資料としても配布されていたので、非常に分かりやすい講習であった。ただ、内容的には非常に厳しいもので、柔道による死亡事故や重症化した事故の実例が説明された。事故原因の分析や指導者に求められる安全配慮義務など、今後求められる基本的な事柄が丁寧に紹介された。また、医師の伊達先生からは医学的見地から頭部打撲について説明がなされた。「セカンド・インパクト」というあまり聞きなれないが、大切な言葉も紹介された。同様に頸部負傷についても説明がされた。



休憩をとった後伊藤先生より「柔道指導者とは」というテーマでコーチング論が紹介された。講習の最後に、阿部先生より基本指導の実際ということで実技指導が行われた。焼津高校の生徒と若手指導者が実技を体験させていただいた。会場の都合もあり、着替えることができなかった参加者も周囲で熱心に見つめていた。補助運動や受身の練習、投げ技の基本練習等を指導していただいた。

閉講式での質疑応答ではかなり専門的なことも議論されていた。左口西部地区幹事長の講評があり、安齊会長から左口幹事長に受講者の代表として終了証が授与された。

柔道の安全指導の小冊子や柔道の基本指導の冊子が配布され、部活動の指導マニュアルというべき資料も用意され、非常に参考になる講習会であったと思う。参加者は今回の講習で学んだことを日頃の指導に生かしてほしいものである。



編集後記

柔道しずおか15号をお届けします。

中学校で武道必修化にともない柔道事故が注目され、柔道の危険性が報道されています。体育の授業中に事故が起きているのではなく、部活動の中での事故ですので区別しなくてはならないと思います。しかし、身を守る柔道の練習で事故・怪我が発生し、命を失うことがあってはなりません。事故発生原因をしっかり検証し再発防止に柔道界全体で取り組まなくてはならないと思います。

今年は昨年中止した、柔道勧誘のためのポスターを作り、柔道啓蒙ポスター（形の名称ポスター等）は中止としました。このことに関して皆様のご意見をお聞かせください。また、せっかく作ったポスターですので活用してください。

底辺拡大のための親子の柔道教室を各地区で開催しています。今年度西部地区が開始し、3地区全てで実施されました。今後とも継続し、底辺拡大そして静岡県柔道界の発展につながることを期待します。

題字
安齊会長

柔道しずおか

第16号

平成25年３月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒420-0911　静岡市葵区瀬名7-2-38　佐々木秀男
TEL　054-265-5272　FAX　054-265-5274

【巻頭言】

中学武道（柔道）協力者を体験して

静岡県柔道協会　副会長　八段　髙田　勝之



駅から真直ぐに急な上り坂が続く。額ににじむ汗を感じ一息入れようと振り返ると壮大な相模湾が広がり、朝日に光る海上に近くの初島遠くに伊豆大島が美しい姿を見せている。中学武道の必須化に伴い柔道授業の協力者として派遣され、一年振りに眺める相模湾である。少し乱れた呼吸を整え熱海中学へ向かう。

文科省は二〇〇六年教育基本法に「伝統と文化の尊重」を盛り込み、二〇一二年四月から中学にダンスと武道の必須授業を取り入れました。静岡県内の柔道選択率は七〇パーセントを超えたという。

県教委で出した「柔道授業の安全な指導のための留意点～柔道事故〇を目指して～」の（2）武道（柔道）のねらい「第一学年及び第二学年」によると、

『ア、相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて投げたり抑えたりするなどの攻防を展開することを通して技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。

イ、武道に積極的に取組むとともに相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること。分担した役割を果そうとすることなどや禁じ技を用いないなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。

ウ、武道の特性や成立ち、伝統的な考え方、技の、名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。』

とあります。

柔道を取り入れることにより懸念されることは、負傷事故であります。新聞・テレビ等で柔道は重大な事故につながる、「必須化は絶対反対」などの意見が報道されました。特に頭部の負傷については一般の方々は当然ながら柔道人にとっても十分に留意しなければならないところです。これは他のスポーツにとっても言えることだと思います。

柔道事故〇を目指して当協会も平成二十四年度武道必須化に伴う指導協力者を指名、人材登録をして要請があれば派遣することにしました。そして県教委の「地域連携柔道協力者派遣事業」に協力しているところです。又、全日本柔道連盟も「都道府県柔道指導者講習会」の受講を義務付け、安全指導の徹底と医学知識の修得や事故に遭遇した際の応急処置の方法やその対応等に万全を期そうと指導者の能力向上に努めております。

私も協力者として前記中学に、昨年に続き今回も要請を受け、武道担当の先生の補助として協力できたことと、一年振りに会った子供たちの成長した姿に接して大いに喜びを感じたところです。

熱海中学には柔道部はありませんでした。柔道を選択することについては保護者側からも怪我の心配や危険性について危惧する声や質問等があったようですが敢えて柔道選択に踏み切ったようです。柔道経験者は全生徒の中で町道場へ通う子が一名のみで他はすべて初心者でした。柔道衣の着方・帯の結び方、生活様式の違いから襟を合わすことや帯を結ぶことが初めてだという子も多いようです。礼法・受身の必要性を理解させ柔道の楽しさを知ってもらい、その喜びを先生と生徒とともに味わうことができました。

ただ一クラスが年十回という短い時間の中でできることは限られます。協力者としてふと思うことは「大外刈」の指導の禁止です。頭部の負傷事故に思いをやれば後ろに投げる技は全て禁止の考えに至ってしまいそうです。他の技は大外刈に比べて安全かといえば、技術の伴わない初心者にとっては全ての技が危険な技に思われてしまいそうです。一学年でわずか十回の授業であるのなら危険性のできるだけ少ないと思われる技に限定した方が良いのではないか。例えば、膝車・支釣込足・大腰等…。もちろん投技については「引き手は絶対に離さない」ことを厳守させるなど。

授業担当の先生も指導方法を熱心に研究され、指導していることが伝わってきます。「心・技・体」・「克己心」・「精力善用」・「自他共栄」の言葉を引用して、礼法・安全・協調性・思いやりの心・向上心に関すること等分かりやすく伝えており、私も聞いていて初心に帰った思いでした。

又、実技で具体的な一例としては、四人一組のグループをつくり課題（後ろ受身、前回り受身など）を与えて、それぞれ上達の度合いを「一本・技有り・有効」で評価する。自らが評価し、評価されることによって、技術の向上と技の効果の判断が自然に理解されていくなど大変興味深く参考になりました。

「おはようございます！」の元気なあいさつに迎えられ、孫と同年代の子供たちと柔道衣を着て汗を流し、これに関わる多くの人たちとの出会いを心から感謝します。

終わりにこの貴重な体験の機会を与えてくれた皆様に厚くお礼を申し上げ報告といたします。ありがとうございました。

第67回 国民体育大会柔道競技 報告

第67回国民体育大会柔道競技は、平成24年10月6日から8日の間、岐阜県大垣市総合体育館において開催されました。

本大会出場を懸けた東海ブロック予選では、成年女子及び少年男女がそれぞれ健闘しましたが惜しくも出場枠を獲得することができず、昨年に引き続き成年男子のみの出場となりました。

前回は、本県出場選手全員初出場というフレッシュなチームでしたが、今回は、齋藤・増田のベテランを中心として、次鋒で出場予定であった鈴木（拓殖大）の負傷により選手変更となった眞野、そして初出場の山下・大石がどれだけチームの勝利に貢献できるのかがポイントとなるチーム構成となりました。結束力を発揮し、5位以上の入賞を目標に掲げ大会に臨みました。

総監督	野田昭一	静岡県柔道協会理事長
総務	宮本昌人	常葉学園高校教諭
監督	渡辺達也	静岡県警察
コーチ	間宮幸男	浜松学院高校教諭
主務	磯部拡美	庵原高校教諭
トレーナー	赤池　理	アカイケ鍼灸接骨院
先鋒(60kg以下)	大石悠太	近畿大学3年
次鋒(73kg以下)	眞野洋光	静岡県警察
中堅(90kg以下)	山下諒輔	静岡県警察
副将(90kg超)	増田圭省	静岡県警察
大将(無差別)	齊藤和仁	静岡県警察

1回戦

静岡県の1回戦は、群馬県警の選手を中心とした群馬県との対戦となりました。

先鋒（60kg以下）の大石（近畿大学）は動きが硬く、開始早々に相手の一本背負投を不用意に受け一本負けしリードを許す。

次鋒（73kg以下）の眞野（県警）は積極的に技を掛けるもいまひとつ攻めきれず引き分け。

中堅（90kg以下）の山下（県警）は攻撃的な柔道を展開し、開始2分30秒「膝車」で一本勝ちし内容を五分に戻す。

副将（90kg超）の増田（県警）は開始から袖釣込腰等で積極的に攻め、指導二を奪い優勢勝ち。

大将（無差別）の齋藤（県警）は右内股・大外刈で積極的に攻めるも決め手なく引き分け。

2対1で勝利したものの各選手の動きは硬く、今一度自分の組み手を確認し、積極的に技を仕掛けることができるように2回戦での奮起を促す。

1回戦	群馬県	1	対	2	静岡県
先鋒	芹澤	○	一本背負投		大石
次鋒	梶原	×	引き分け	×	眞野
中堅	小島		膝車	○	山下
副将	阿倍		指導2	㊀	増田
大将	渡辺	×	引き分け	×	齊藤

2回戦

上位入賞の常連であり、京都府警察の選手を中心とした京都府との対戦となる。

先鋒の大石は1回戦と比べ技が出るようになり背負い投げを中心に攻め込むも決め手なく引き分け。

次鋒の眞野は、対戦相手とは過去対戦していることから、互いに牽制しあって膠着状態となり攻めを欠き、ポイントを奪えず、時間切れ引き分け。

中堅の山下の相手は、中量級ながら全日本選手権大会に出場している業師であり、山下は、自分の信条でもある積極柔道を展開し攻め込むも、後半に一瞬気を許した隙に巧みに寝技で抑え込まれ一本負け。

副将の増田はリードされている場面ではあったが冷静に対処し、開始一分過ぎに狙い澄ました小外刈りで豪快に一本を奪う。

大将の齋藤は、積極的に勝負に行かなければならない場面であったが、相手の圧力が強く得意の組み手にさせてもらなかった。消極的になったところ「指導三」を受け、そのまま時間切れとなりチームは一対二で敗戦となる。

京都府とは、ほぼ互角の実力であり、自分の力を出し切れば勝っていた試合もあっただけに自分の柔道を出し切る強い精神力と勝負へのこだわりというものが足りなかったのではと感じております。

更に精進を重ね最強・最高のチーム作りに励みたいと思います。

関係各位に感謝申し上げますと共に平成25年東京都国体での活躍を誓い、大会結果の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

静岡県警察　渡辺達也

2回戦	京都府	2	対	1	静岡県
先鋒	鳥田	×	引き分け	×	大石
次鋒	佐野	×	引き分け	×	眞野
中堅	平尾	○	横四方固		山下
副将	菊川		小外刈	○	増田
大将	淺野	㊀	指導3		齊藤



安齋会長のアドバイスを受ける選手



選手と関係者

第33回国体東海ブロック大会

平成24年8月19日　愛知県武道館

少年男子　静岡1－①愛知
静岡4－0三重
本大会出場は2勝の愛知県

少年女子　静岡0－2愛知
静岡3－0三重
本大会出場は2勝の愛知県

成年女子　静岡1－2三重
静岡1－①愛知
本大会出場は1勝1分けの三重県

出場選手

少年男子
監督　小柳津敬博（東海大学翔洋高校教諭）
コーチ　渡部直樹（静岡学園高校教諭）
選手　佐藤和哉（静岡学園高校）
〃　渡辺浩貴（浜松商業高校）
〃　齊藤光星（加藤学園高校）
〃　佐藤光将（静岡学園高校）
〃　鈴木優希（常葉学園橘高校）

少年女子
監督　西川勝啓（裾野高校教諭）
コーチ　磯部拡美（庵原高校教諭）
選手　滝川真央（富士市立高校）
〃　村山のどか（沼津市立沼津高校）
〃　岡本理帆（藤枝順心高校）

成年女子
監督　間宮幸男（浜松学院高校教諭）
コーチ　磯部拡美（庵原高校教諭）
選手　土屋文香（東海大学）
〃　村瀬由樹（国際武道大学）
選手　山下まな実（日本体育大学）

以上の結果、成年女子・少年女子・少年男子共に本大会出場はならなかった。

国体スタッフ
強化委員長　石川裕章（静岡県柔道協会）
事務局長　佐々木秀男（静岡県柔道協会）
事務局次長　伊藤武治（静岡県柔道協会）
総務　宮本昌人（常葉学園高校教諭）
医科学　加藤伸司（常葉学園橘高校教諭）
トレーナー　赤池理（アカイケ鍼灸接骨院）

第54回 静岡県柔道祭開催

平成24年5月6日午前9時30分開始
静岡県武道館

恒例の柔道祭が今年度も県武道館で開催された。安齊会長の挨拶に続き、富士市立高校の滝川真央さんにより選手宣誓が行われた。滝川さんは第34回全国高等学校柔道選手権大会女子無差別級で3位に入賞しており、初々しい宣誓をしてくれた。選手宣誓に続き、恒例の柔道協会表彰が行われ、次の方々が表彰された。

《特別功労賞》
七段　山梨公良
七段　館山紀生

《永年功労賞》
七段　前田伸太郎
七段　齊藤剛
七段　福村忠史
六段　大村勝利
六段　鈴木孝昌
六段　山之内良彦
六段　新村昌司
四段　清水虔

《功労賞》
六段　茶山和己
五段　沖義和
五段　松下満男
四段　加藤吉行
三段　加藤伸司

《優秀指導者賞》
女子三段　沼野由香利
（藤枝順心高校柔道部顧問）
岡本理帆選手を育成
六段　須田直之
（沼津市立沼津高校柔道部顧問）
村山のどか選手を育成

《優秀選手賞》
女子初段　岡本理帆（藤枝順心高校）
2011ワールドカップ柔道チェジュ大会女子48kg級優勝、第34回全国高等学校柔道選手権大会女子52kg級優勝
女子初段　村山のどか（沼津市立沼津高校）
第34回全国高等学校柔道選手権大会女子70kg級優勝
初段　佐藤和哉（静岡学園高校）
第34回全国高等学校柔道選手権大会男子無差別級3位
女子初段　滝川真央（富士市立高校）
第34回全国高等学校柔道選手権大会女子無差別級3位
女子初段　遠田真子（東海大学付属翔洋高校）
平成24年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級3位

表彰に続き試合が開始された。毎年のことではあるが、小学生から一般まで県内の柔道選手が一堂に集まる唯一の大会で、県武道館は大いに盛り上がり、観客席から大きな声での声援が送られていた。

第54回静岡県柔道祭成績

団体戦成績

小学生の部
1位　育誠館
2位　清水町柔道会
3位　伊豆長岡柔道会
3位　大仁柔道会

中学男子の部
1位　静岡学園中学校
2位　細江中学校
3位　錦田中学校
3位　藤枝明誠中学校

中学女子の部
1位　藤枝順心中学校
2位　東海大学付属翔洋中学
3位　沼津市立沼津中学
3位　長岡中学

高校男子の部
1位　静岡学園高校
2位　浜松商業高校
3位　加藤学園高校
3位　常葉学園橘高校

高校女子の部
1位　藤枝順心高校
2位　富士市立高校
3位　東海大学付属翔洋高校
3位　焼津高校

一般の部
1位　静岡県警察
2位　静岡産業大学A
3位　富士市柔道会
3位　東海翔柔クラブ

優秀選手

小学生の部
宇佐美菜海（育誠館）
澤崎莉子（清水町柔道会）

中学男子の部
岡本龍司（静岡学園中学）
植村恵吾（細江中学）

中学女子の部
鈴木茉莉（藤枝順心中学）
安竹真利奈（東海大学付属翔洋中学）

高校男子の部
浅賀慎太郎（静岡学園高校）
渡辺毅輝（浜松商業高校）

高校女子の部
吉長桃子（藤枝順心高校）
滝川真央（富士市立高校）
一般の部
眞野洋光（静岡県警察）
関根龍成（静岡産業大学A）

柔道協会優秀選手表彰

恒例の静岡県柔道協会優秀選手表彰が11月24日（土）ホテルシティオ静岡で行われた。対象者は新人選手紹介コーナーで紹介する以下の選手たちである。岡本理帆さん（藤枝順心高等学校）は今年度多くの大会で活躍し、大きく飛躍した一年だったと思う。平成24年度全日本選抜柔道体重別選手権大会女子48kg級第2位、全国高等学校総合体育大会柔道競技女子48kg級優勝、全日本ジュニア柔道体重別選手県大会女子48kg級優勝、2012アジアジュニアユース柔道選手県大会優勝、講道館杯全日本柔道体重別選手県大会第3位とジュニアレベルだけでなくシニアのレベルでもすばらしい成績を残しており、世界が視野に入っている。村山のどかさん（沼津市立沼津高等学校）も期待の選手で順調に成長している。全国高等学校総合体育大会柔道競技女子70kg級で準優勝した。滝川真央さん（富士市立高等学校）も注目されている選手で、順調に成長している。全国高等学校総合体育大会柔道競技女子78kg級で準優勝した。4人目は鈴木茉莉さん（藤枝順心中学校）で、全国中学校総合体育大会柔道競技女子44kg級準優勝した。



受賞者を囲んで

また、優秀指導者として沼野由香利先生（藤枝順心高等学校教諭）が表彰された。受賞理由は「藤枝順心高等学校の教え子岡本理帆選手が全国大会・アジア大会で3度にわたり優勝。その指導力を讃え優秀指導者賞を贈る。」とされている。おめでとうございます。

安齊会長から挨拶が行われた後、賞状と記念品が参加者に授与された。選手を代表して藤枝順心中学校の鈴木茉莉選手がお礼の言葉を述べ閉会しました。

平成24年度静岡県体育協会体育章受賞
高田勝之（静岡県柔道協会）
奨励賞受賞
岡本理帆（藤枝順心高校）
村山のどか（沼津市立沼津高校）
遠田真子（東海大学翔洋高校）

各種大会の報告

第34回全国高等学校柔道選手権大会

平成24年3月19日（月）20日（火・祝）
日本武道館

男子団体
静岡学園高校（2人残し）埼玉栄高校　初戦敗退
女子団体
1回戦
沼津市立沼津高校2－0高松商業高校（香川）
2回戦
沼津市立沼津高校2－1柴田高校（宮城）
3回戦
沼津市立沼津高校0－2敬愛高校（福岡）
ベスト16進出

全日本女子柔道選手権大会

平成24年4月15日（日）
横浜文化体育館

滝川真央（富士市立高校）選手出場

全日本柔道選手権大会

平成24年4月29日（日）
日本武道館

増田圭昌（静岡県警察）選手出場

男子個人
60kg級　大場隆成（浜松城北工業高校）　初戦敗退
73kg級　新美公秀（浜北西高校）　初戦敗退
81kg級　浅賀慎太郎（静岡学園高校）　初戦敗退
90kg級　伴野祐樹（新居高校）　初戦敗退
無差別級　佐藤和哉（静岡学園高校）　3位
女子個人
52kg級　岡本理帆（藤枝順心高校）　優勝
57kg級　前山理菜（加藤学園高校）　ベスト16
63kg級　吉川稜子（沼津市立沼津高校）　初戦敗退
70kg級　村山のどか（沼津市立沼津高校）　優勝
無差別級　滝川真央（富士市立高校）　3位

第32回全国少年柔道大会

平成24年5月5日（土・祝）
講道館

団体戦　清水町柔道会　初戦敗退
個人戦
5年生　殿岡慎平（清水町柔道会）　初戦敗退
6年生　澤崎莉子（清水町柔道会）　2回戦進出

全日本選抜柔道体重別選手権大会

平成24年5月12日（土）・13日（日）
福岡県

女子
48kg級　岡本理帆（藤枝順心高校）　準優勝

第59回東海高等学校総合体育大会柔道競技

平成24年6月16日（土）・17日（日）
岐阜県大垣武道館

男子団体　静岡学園高校　3位
女子団体　富士市立高校　2位

男子
60kg級　3位　小林駿平（静岡学園高校）
73kg級　2位　岩澤勇佑（加藤学園高校）
81kg級　優勝　浅賀慎太郎（静岡学園高校）

90kg級
3位 植田蒼太朗（浜松商業高校）
100kg超級
優勝 佐藤和哉（静岡学園高校）
女子
48kg級
2位 岡本里帆（藤枝順心高校）
57kg級
優勝 益子楓彩奈（藤枝順心高校）
63kg級
3位 神林希衣（加藤学園高校）
70kg級
優勝 村山のどか（沼津市立沼津高校）
78kg級
2位 菊池優貴乃（静岡学園高校）
78kg超級
3位 伊藤 愛（東海大学翔洋高校）
3位 滝川真央（富士市立高校）

マルちゃん杯柔道大会小学生の部

平成24年6月24日（日）
長野県松本市
清水町柔道会
第3位 全国大会出場

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

平成24年6月30日（土）
静岡県武道館
男子
55kg級
優勝 小林大貴（加藤学園高校）
60kg級
優勝 鈴木優希（常葉学園橘高校）
東海大会優勝全国大会出場

66kg級
優勝 佐藤光将（静岡学園高校）
73kg級
優勝 秋本健吾（常葉学園橘高校）
81kg級
優勝 浅賀慎太郎（静岡学園高校）
90kg級
優勝 齊藤光星（加藤学園高校）
100kg級
優勝 渡辺浩貴（浜松商業高校）
100kg超級
優勝 佐藤和哉（静岡学園高校）
東海大会優勝全国大会出場
女子
44kg級
優勝 鈴木茉莉（藤枝順心高校）
48kg級
優勝 岡本理帆（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
52kg級
優勝 渡辺香奈（藤枝順心高校）
57kg級
優勝 益子楓彩奈（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
63kg級
優勝 古川綾子（沼津市立沼津高校）
70kg級
優勝 村山のどか（沼津市立沼津高校）
78kg級
優勝 菊池優貴乃（静岡学園高校）
78kg超級
優勝 滝川真央（富士市立高校）

東海地区形競技大会

平成24年7月1日（日）
静岡県武道館
投の形
渡辺成也 五段
佐藤邦洋 五段
固の形
森田賢一 四段
高林祐介 五段
極の形
杉山元彦 六段
中道修二 五段
柔の形
安竹克好 五段
渡邉武彦 五段
講道館護身術
一瀬 誠 六段
竹内紀久夫 六段
五の形
白井康二 七段
中村寿一 七段
古式の形
渡辺達也 七段
小野瀬康行 七段
全国大会出場

平成24年度静岡県成年柔道体重別選手権大会（兼国民体育大会柔道競技選手選考会）

平成24年7月7日（土）
静岡県武道館
成年男子 優勝者
60kg級 大石悠太（近畿大学）
73kg級 鈴木 隼（拓殖大学）

90kg級 山下諒輔（静岡県警察）
無差別級 齊藤和仁（静岡県警察）
成年女子 優勝者
52kg級 山下まな実（日本体育大学）
70kg級 村瀬由樹（国際武道大学）
無差別級 土屋文香（東海大学）

第61回全国高等学校柔道大会

平成24年8月2日(木)～6日(月)
富山県
男子団体戦
1回戦
静岡学園高校4－0秋田高校
2回戦
静岡学園高校1－3前橋育英高校
女子団体戦
1回戦
沼津市立沼津高校2－1豊岡高校
2回戦
沼津市立沼津高校①－1桐蔭学園高校
3回戦
沼津市立沼津高校2－1柳ヶ浦高校
準々決勝
沼津市立沼津高校0－2阿蘇中央高校
（ベスト8進出）
男子
60kg級 小林駿平（静岡学園高校）
2回戦進出
66kg級 佐藤光将（静岡学園高校）
3回戦進出
73kg級 秋本健吾（常葉学園橘高校）
2回戦進出
81kg級 浅賀慎太郎（静岡学園高校）
初戦敗退

90kg級 齊藤光星（加藤学園高校）
初戦敗退
100kg級 篠田大希（御殿場西高校）
初戦敗退
100kg超級 佐藤和哉（静岡学園高校）
第5位入賞（ベスト8）
女子
48kg級 岡本理帆（藤枝順心高校）
優勝
52kg級 馬場あゆ美（東海大学翔洋高校）
初戦敗退
57kg級 益子楓彩奈（藤枝順心高校）
初戦敗退
63kg級 古川綾子（市立沼津高校）
第5位入賞（ベスト8）
70kg級 村山のどか（市立沼津高校）
準優勝
78kg級 菊池優貴乃（静岡学園高校）
2回戦進出
78kg超級 滝川真央（富士市立高校）
準優勝
※各階級県大会優勝者、優勝チームが全国大会に出場している。

平成24年度東海中学校総合体育大会柔道競技

平成24年8月8日(水)・9日(木)
静岡市立北部体育館
男子団体
静岡学園中学校 3位
女子団体
東海大学翔洋中学校 3位
藤枝順心中学校 3位

男子
55kg級
優勝　芹沢翔哉（函南中学）
2位　上村悠真（高台中学）
3位　羽田野航（大安中学）
66kg級
3位　塚本瑠羽（市立沼津中学）
73kg級
3位　飯川夢二郎（金岡中学）
81kg級
3位　辻幸之介（沼津市立沼津中学）
90kg級
3位　大橋昴文（錦田中学）
3位　福井洋貴（細江中学）
90kg超級
3位　月岡校早瀬（静岡学園中学）

女子
40kg級
2位　松浦都衣（愛鷹中学）
3位　安食亜美（藤枝順心中学）
44kg級
優勝　鈴木茉莉（藤枝順心中学）
3位　小林夏希（暁秀中学）
48kg級
3位　成宮妃世梨（藤枝順心中学）
52kg級
3位　加藤樹梨（錦田中学）
57kg級
3位　菊池涼音（長岡中学）
70kg級
3位　楠　麻衣（長岡中学）
3位　外山紗奈（東海大学翔洋中学）

全国教員大会

平成24年8月12日（日）　講道館

監督　藤田明啓（浜松西高校）
先鋒　川端常弘（湖西高校）
次鋒　大原尚喜（新居高校）
中堅　井口往彦（浜北西高校）
副将　山崎大介（磐田南高校）
大将　高田幸治（城南静岡高校）
1回戦　静岡3－2福岡
2回戦　静岡2－1長野
3回戦　静岡2－2岩手（代表戦勝）
準々決勝　静岡2－3大阪

監督の浜松西高校教諭の藤田先生より、「選手の頑張りによりベスト8進出という大変貴重で有意義な経験をすることができました。安齊会長をはじめ多大な御支援をいただき誠にありがとうございました。」というコメントをいただいています。貴重な経験を、各学校での先生方の指導に役立てていただきたいと思います。

第43回全国中学校柔道大会

平成24年8月21日（火）～24日（金）　神奈川県川崎市

男子団体戦
静岡学園中学校1－1広陵中学校
静岡学園中学校0－5国士舘中学校
予選リーグ敗退

女子団体戦
東海大学翔洋中学校3－0大山口中学校
東海大学翔洋中学校2－0弥刀中学校
決勝トーナメント
東海大学翔洋中学校0－2藍住中学校

男子
50kg級　片桐大夢（笠井中学）　初戦敗退
55kg級　芹沢翔哉（函南中学）　初戦敗退
60kg級　嵩井陵太（函南中学）　初戦敗退
66kg級　塚本瑠羽（沼津市立沼津中学）　初戦敗退
73kg級　飯川夢二郎（金岡中学）　第5位入賞（ベスト8）
81kg級　石神倫哉（静岡学園中学）　初戦敗退
90kg級　大橋昴文（錦田中学）　2回戦進出
90kg超級　小笠原雄也（藤枝明誠中学）　第5位入賞（ベスト8）

女子
44kg級　鈴木茉莉（藤枝順心中学）　準優勝
48kg級　成宮妃世梨（藤枝順心中学）　2回戦進出
52kg級　加藤樹梨（錦田中学）　初戦敗退
57kg級　瀬川侑希（沼津市立沼津中学）　初戦敗退
63kg級　安竹真利奈（沼津市立沼津中学）　3回戦進出（ベスト16）
70kg級　楠　麻衣（長岡中学）　3回戦進出（ベスト16）
70kg超級　大澤宜歩（御前崎中学）　初戦敗退

各階級県大会優勝者が全国大会に出場している。
※女子40kg級は正式種目ではないが全日本カデ大会選考会として実施され、小林夏希（暁秀中学校）が出場し優勝した。

第9回全国小学生学年別柔道大会

平成24年8月26日（日）　鹿児島

男子5年
45kg級　柴田蓮音（清水柔道倶楽部）　3回戦進出
45kg超級　伊藤栄都（育誠館）　2回戦進出
男子6年
50kg級　村松考紀（静岡錬心館）　初戦敗退
50kg超級　杉本康平（清水町柔道会）　初戦敗退

女子5年
40kg級　袴田佳名瑚（育誠館）　2回戦進出
40kg超級　山本　杏（神士館）　3回戦進出
女子6年
45kg級　田島小夏（大仁柔道会）　2回戦進出
45kg超級　澤崎莉子（清水町柔道会）　3回戦進出

6月10日に実施された県大会の各階級優勝者が全国大会に出場している。

全国ジュニア柔道大会

平成24年9月8日（土）・9日（日）　埼玉県

男子
60kg級　鈴木優希（常葉学園橘高校）　初戦敗退
100kg超級　佐藤和哉（静岡学園高校）　2回戦進出
女子
48kg級　岡本理帆（藤枝順心高校）　優勝
57kg級　益子楓彩奈（藤枝順心高校）　初戦敗退

アジアジュニアユース大会

平成24年9月25日（火）～10月1日（月）　台湾

女子
48kg級　岡本理帆（藤枝順心高校）　優勝

第29回静岡県大学高専柔道秋季優勝大会

平成24年11月3日（土・祝）　静岡市北部体育館

団体の部
優勝　静岡産業大学B
2位　静岡産業大学A
3位　東海大学

個人戦の部
女子の部
優勝　坂本由里（東海大学）
無段の部
優勝　杉山雅人（静岡文芸大学）
66kg級
優勝　岩本洋範（東海大学）
81kg級
優勝　坂本健驢（静岡産業大学）
81kg超級
優勝　森田悠斗（静岡産業大学）

第35回全国高等学校柔道選手権大会（男女個人戦）

平成25年1月13日（日）　静岡県武道館

女子
52kg級
優勝　渡辺香奈（藤枝順心高校）
57kg級
優勝　益子楓彩奈（藤枝順心高校）
63kg級
優勝　神林希衣（加藤学園高校）
70kg級
優勝　仁科鈴菜（富士市立高校）
無差別級
優勝　滝川真央（富士市立高校）
男子
60kg級
優勝　小林駿平（静岡学園高校）
73kg級
優勝　岩沢勇佑（加藤学園高校）
81kg級
優勝　佐野安大（静岡学園高校）
90kg級
優勝　斉藤光星（加藤学園高校）
無差別級
優勝　佐藤和哉（静岡学園高校）

第35回全国高等学校柔道選手権大会（男女団体戦）

平成25年1月26日（土）　静岡県武道館

女子団体戦　優勝　藤枝順心高校
男子団体戦　優勝　静岡学園高校

平成25年3月19日（火）・20日（水祝）日本武道館で開催される全国大会に出場する。

平成25年度静岡県柔道選手権大会（全日本選手権大会県予選）

平成25年2月2日（土）

女子
優勝　滝川真央（富士市立高校）
2位　土屋文香（東海大学）
男子
優勝　佐藤和哉（静岡学園高校）
推薦　増田圭省（静岡県警察）

以上4名が東海大会出場



柔道教室

西部地区

親子柔道教室開催

浜松市武道館
平成24年11月4日午後1時から午後3時30分まで
講師　溝口紀子（静岡文化芸術大学准教授、バルセロナオリンピック銀メダリスト）
講師　ジェレミ・アンドリュ（フランススポーツ指導員、フランス選手権66kg級優勝）

幼稚園の年少から小学3年生以下を対象にした第2回親子柔道教室が西部地区で開催された。女性の柔道人口を増やす対策の一環として県下3地区で計画されたが、その西部地区での実践である。西部地区各道場に所属する子どもだけでなく一般の子どもたちも参加してくれた。合わせて保護者の皆さんも参加していただいた。子どもたちが131人、保護者65人、指導者30人の参加であった。

今回は講師に、フランスの柔道界に詳しい溝口先生と、フランススポーツ指導員でフランス選手権66kg級で優勝経験のあるジェレミ・アンドリュ先生を迎えて行われた。柔道の人気が高く、柔道人口が非常に多いフランス流の指導の一環を経験することができた。

最初に溝口先生とアンドリュ先生から柔道の基本的な準備体操の指導がなされた。子どもたちは本当に楽しそうに親子で取り組んでいた。

後半はアンドリュ先生から柔道の実技が紹介され、浜松西高校OBで筑波大学学生の鈴木君を受けに切れの良い技を披露してくれた。

中部地区

親子柔道教室開催

平成24年8月26日（日）午前10時から正午まで静岡市北部体育館柔道場で開催された。参加者は、大人男性19人、女性10人（内有段者3人）、子ども男子26人女子14人、指導者15人であった。

指導内容は、開講式に続き、エアロビックスを取り入れた準備運動、ゆかいな柔道ゲーム、礼法指導、受身指導、お父さん・お母さんを投げ飛ばせ、閉校式と楽しそうなメニューで行われた。



お父さんを投げよう

教室参加者からは以下のような意見や感想が寄せられています。

・始めて柔道衣を着ましたが、心が清潔になったような気がしました。
・親子で組み合うことで日常にないスキンシップができました。
・女性指導者の優しい言葉や接し方が柔道へ導くうえでの男性指導者にはない魅力である。


バランスいいね


基本が大事

・プロの指導者によるエアロビックスを準備運動に取り入れたが好評であった。
・100名を越える参加者があり楽しい教室であった。
・50着を超えるレンタル柔道衣の洗濯には苦労する。



正しい座礼を

東部地区

東部地区では「エアロビ柔道」が長年実践されていている。毎週水曜日午後7時から8時30分、沼津市立沼津高等学校柔道場で開催されている。

「年齢に関係なく、健康で『柔道の礼法・受身』などを体得し、怪我防止と体力増強を目指したい人、また子どもや孫と遊びたい人」を対象に、「全市民、礼と受身の体得を」をスローガンに掲げ行なわれている。

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

清流館

②裾野市深良1764−1
（山縣哲夫）
③〒410−1102
裾野市深良1764−1
山縣哲夫
055−997−2779
④山縣　司
⑤児童3人、小学生15人、中学生11人、高校生5人、大学生3人、社会人17人

⑥道場紹介

昭和58年に山縣道場を開設、以来地域や近隣市町の柔道修行者の受け皿として活動してきました。汗を流せる道場、自らを鍛える道場として「精進」をモットーに幼児から大人までが各人の目標を持って努力を続けています。

平成13年に清流館と改名。特に汗の中から生まれる「勇気」、対決する経験から生まれる「自信」、自分と対峙することから生まれる「自覚」、柔道衣を着続けることから生まれる「誇り」等、人格を支えていく中心の柱を大切にして日々の稽古を重ねています。



御殿場市柔道連盟

②御殿場市ぐみ沢670−1　市民体育館
（火曜日・土曜日、午後6時30分〜午後8時）
御殿場市ぐみ沢644　御殿場西高校
（木曜日、午後6時30分〜午後8時）
③〒412−0042　御殿場市萩原1278−18
0550−83−8170
④顧問 内海隆治　会長 矢後　忠
⑤児童11人、小学生32人、中学生5人、高校生0人、大学・社会人8人

⑥道場紹介

御殿場市柔道連盟の前身は、昭和23年7月に当時の玉穂村長、江藤誠之氏を会長とし、北駿柔道倶楽部として発足しました。当時は米軍が、滝が原・板妻・駒門と駐留し、占領下の町の風紀は乱れ、住民は恐怖と屈辱を受けながら戦後の復興に励んでいました。青少年健全育成を旗印に稽古に励み、米軍兵にも柔道指導を行い軍指令以下に大変感謝され、日米親善と市民の人心安定と自信回復に寄与し、顧問内海隆治前会長の元に現在に至っています。

現在は、幼児・小学生・中学生・高校生・一般と広く地域と一体となり楽しく稽古に励んでいます。



蓮柔館

②藤枝市音羽町5−16−12
③〒426−0087
藤枝市音羽町5−16−12
054−644−4690
④鈴木　勝
⑤児童2人、小学生12人、中学生6人、高校生0人、大学・社会人0人

蓮柔館は平成20年4月青少年の健全育成を目的として開館しました。毎週月曜日・火曜日・木曜日は西益津中学校柔道場、金曜日は藤枝西高校柔道場で練習しています。練習時間は午後7時から午後9時までです。

柔道を通じ、精神面・肉体面の強化を含め、礼儀作法等の向上にも努めていきたいと思っています。また、一日一日の練習を大切にして、全国大会への出場を目標に頑張っています。



しずはたスポーツクラブ

②〒420−0063
静岡市葵区通車町2−5
③加藤茂　054−252−5510
④加藤一郎
⑤児童・小学生15人
中学生4人
高校・大学生4人
一般15人

⑥道場紹介

私たち「しずはたスポーツクラブ」は、毎週月、水、金の3日間、午後6時30分から午後9時まで静岡市立北部体育館柔道場（月曜日は賤機中学校柔道場）で、未就学児から大人までが汗を流しています。

当クラブでは礼法を厳しく指導するとともに、怪我をしない体作りを目的としており、子どもたちに「何でも良いから一番になりなさい」と言い聞かせています。「僕は一番大きな声を出すよ」「私は一番早く道場へ行くよ」と、それぞれが自分の「一番」になれるように稽古に励んでいます。

また、基本を習熟させるため、準備運動時に近代的なトレーニングを織り交ぜ、受身も一回一回丁寧に確認しながら行っています。

当クラブでは見学・体験も受け付けています。初心者はもちろん、経験者の方の参加をお待ちしています。



積武館

②浜松市東区有玉北町1200
浜松市立積志中学校柔道場
③〒431−3112
浜松市東区大島町1148−2
053−435−0614
④渡邊正人
⑤児童0人、小学生28人、
中学生11人、
一般13人（内指導者10人）

⑥道場紹介

地域の中学生・高校生・一般有志により昭和2年に発足し、その翌年より「積武館」の看板を掲げ、今年で設立84周年を迎える大変歴史のある道場であります。

現在は小学生・中学生を中心に、火曜日・金曜日の午後7時30分から約2時間、日曜日の午前8時30分から約3時間の練習に励んでいます。

私達は、「自分の為にする事が、他の人の為になる！」という気持ちで日々稽古に取組み、試合はそれを試させてもらう処、そして次への目標を見つけ又精進するということを心がけています。

柔道を通して、強い心と体を作り、将来社会の役に立てる人の育成を目指して努力しております。



浜岡黒潮柔道スポーツ少年団

②御前崎市立浜岡中学校柔道場
③〒437−1612
御前崎市池新田1683−19
0537−86−7310
④栗田徳光
⑤児童0人、小学生14人、中学生6人、
高校生0人、一般4人



昭和32年の浜岡町体育協会設立に伴い、柔道経験者が集い体育協会柔道部を立ち上げました。

昭和45年には、県の青年大会を制して全国大会出場を果し、体育協会柔道部の発展に大きく寄与しました。また、スポーツ少年団制度の発足を受け、体育協会柔道部の有志が指導者となり、町内の小学生を対象に、浜岡黒潮柔道スポーツ少年団として登録し活動を続けています。浜岡黒潮柔道スポーツ少年団結成後、池新田高校の柔道場を借りての練習でしたが、浜岡中学校の柔道場の完成を機に練習場所を移し、練習も月曜日・水曜日・金曜日の夜3回に変更しました。毎週水曜日には、スポーツ少年団の練習終了後に中学生・高校生・一般との合同練習を追加し、後進の育成に当たっています。

道場に掲げられた『尊礼修道』・『力必達』の額の言葉を胸に、日夜稽古に励んでいます。



新人選手紹介コーナー

例年どおり、今年度もこのコーナーで紹介できる選手が数多くでた。柔道協会としては本当に喜ばしいことだと思う。全国大会で3位までに入賞した若い選手（高校生以下の選手）を紹介しているコーナーで、今年度は6名の選手を紹介することができる。中には連続して紹介する選手もおり、「新人」ではないかもしれないが順調に成長している様子が伺われる。

平成24年度全日本カデ柔道体重別選手県大会女子70kg級3位の遠田真子さん（東海大学翔洋高等学校）、第34回全国高等学校柔道選手県大会男子無差別級3位入賞の佐藤和哉君（静岡学園高等学校）、2011ワールドカップ柔道チェジュ大会女子48kg級優勝、第34回全国高等学校柔道選手県大会女子52kg級優勝、平成24年度全日本選抜柔道体重別選手権大会女子48kg級準優勝、全国高校総合体育大会女子48kg級優勝、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子48kg級優勝、2012アジアジュニアユース柔道選手権大会女子48kg級優勝、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会女子48kg級3位の岡本理帆さん（藤枝順心高等学校）、第34回全国高等学校柔道選手権大会女子70kg級優勝、平成24年度全国高校総合体育大会女子70kg級準優勝の村山のどかさん（沼津市立沼津高等学校）、第34回全国高等学校柔道選手権大会女子無差別級3位、平成24年全国高校総合体育大会女子無差別級準優勝の滝川真央さん（富士市立高等学校）、平成24年度全国中学校総合体育大会女子44kg級準優勝の鈴木茉莉さん（藤枝順心中学校）の6人を紹介する。

昨年は例年になく男子選手が頑張ってくれましたが、今年度は女子選手が活躍する例が多かった。特に、岡本里帆さん（藤枝順心高校）はジュニア世代の大会だけでなくシニアの大会でも大活躍し、国内だけでなく国際大会でも実績を残し、オリンピック出場も視野に入ってきたと思う。



遠田真子さん
（東海大学翔洋高等学校）

◎平成24年度全日本カデ柔道
体重別選手県大会
女子70kg級3位

昨年もこのコーナーで紹介した遠田さんですが順調に実力を伸ばしているようです。昨年紹介したように、遠田さんが柔道を始めたきっかけは「父と兄の影響で」と言うことで、まさに柔道一家だと言えます。

今回の入賞については「去年が優勝だったので、正直悔しいです。もっとがんばって絶対に勝てるようにしたいです。」と、当然ですが嬉しさよりも、悔しさのほうが大きいようです。今後については「一戦一戦集中して戦いたい。」と前向きな姿勢を見せています。

全国中学校柔道大会でも5位に入賞し、昨年のカデ大会に続いて全国レベルの大会での入賞です。将来の夢は「まずは日本一を目指し、最終的には世界一になりたいです。」と大きな夢を持っています。顧問の山梨先生からは「受けは元来良いものを持っていますから、攻撃の技術（技）を身に付けなければいけないと思います。」とアドバイスを贈られています。遠田さんの今後の活躍を期待します。



佐藤和哉君
（静岡学園高等学校）

◎第34回全国高等学校選手権大会
男子無差別超級3位

佐藤和哉君もこのコーナーでは常連になっており、常に全国レベルの大会に出場し上位に入賞しています。本人の努力や関係者の指導で順調に成長していることが分かります。

すでに紹介したように、柔道を始めたきっかけは「父に勧められたこと」だそうです。将来の夢は「大学での活躍」とはっきりと目標を定めています。ぜひ夢を実現してください、そして日の丸を付けて欲しいものです。

指導者からは「日常の生活の中でもおごることなく勉学と柔道を両立させている。柔道日本一を目指し努力精進しているからこそ達成してほしい。」とさらなる飛躍を期待されています。



岡本理帆さん
（藤枝順心高等学校）

◎2011ワールドカップ柔道
チェジュ大会
女子48kg級優勝

◎第34回全国高等学校柔道選手権大会
　女子52kg級優勝
◎平成24年度全日本選抜柔道体重別選手権大会
　女子48kg級準優勝
◎全国高校総合体育大会
　女子48kg級優勝
◎全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
　女子48kg級優勝
◎２０１２アジアジュニアユース柔道選手権大会
　女子48kg級優勝
◎講道館杯全日本柔道体重別選手権大会
　女子48kg級３位

岡本さんも連続してこのコーナーで紹介している静岡県を代表する選手です。昨年紹介したように、岡本さんが柔道を始めたきっかけは「姉の影響」と柔道姉妹のようです。岡本さんも中学校時代から全国で活躍している選手ですが、高校でも着実に成長しています。今回の入賞については「この結果に満足せず、もっと上を目指してやっていきたいです。」と前を見据えて語ってくれました。高校生（ジュニア）世代だけでなくシニア世代でも十分通用する実力を身につけていますから、今後ともぜひがんばって欲しいものです。日本を代表して国際大会への出場もあり、指導者からも「これからも頑張ってほしいと思います。」と期待されています。

今後は国士館大学に進学され、さらに上を目指して『努力』と『研究』を重ねていかれるものと思います、頑張ってください。



滝川真央さん
（富士市立高等学校）

◎第34回全国高等学校柔道選手権大会
　女子無差別級３位
◎平成24年全国高校総合体育大会
　女子無差別級準優勝

滝川さんは友愛道場の出身で、お兄さんが友愛道場に通っていたことで、練習についていったのが柔道を始めたきっかけになったそうです。今回のインターハイの準優勝という結果については「ポイントを取っていて、ラスト23秒で追いつかれ、ゴールデンスコアの末旗判定になり2対1の僅差判定だったので悔しいと最初に思いました。」と語っています。今後の夢は「まずは日本一になること。」だそうです。将来の進路については今のところ未定だそうです。指導されている勝呂先生からは「今年度は、皇后盃全日本女子柔道選手権大会を皮切りに、各種全国大会に出場することができ、実力もレベルアップしてきた。次回の高校選手権・高校総体とさらに良い結果がでるよう精進させたい。」と熱いエールが贈られています。



鈴木茉莉さん
（藤枝順心中学校）

◎平成24年度全国中学校総合体育大会
　女子44kg級準優勝

鈴木さんが柔道を始めたきっかけは「兄がやっていたから」という、ごく普通の理由からですが、大きく成長してきました。今回の入賞については「嬉しかったがまだまだだと思いました。」と意欲的です。今後の夢は、ズバリ『全国制覇』だそうです。中学3年生ですが、これから高校でも大きく羽ばたいてくれることだと思います。鈴木さんの今後の活躍を期待します。



村山のどかさん
（沼津市立沼津高等学校）

◎第34回全国高等学校柔道選手権大会
　女子70kg級優勝
◎平成24年度全国高校総合体育大会
　女子70kg級中準優勝

村山さんが柔道を始めたきっかけは他の多くの選手と同じで「兄が柔道をやっていたから」というものでした。今回の入賞に関しては「大変うれしく思います。」と控えめに喜びを語ってくれています。高校選手権優勝に続き、全国高校総合体育大会柔道競技（インターハイ）でも準優勝と、現在の高校生の中では日本のトップレベルの実力を有しています。

今後は大学に進学し、さらに柔道を続け日本一を目指すそうです。指導されている須田先生からは「高校時代は基礎基本をみっちり教え込みました。まだまだ伸びしろや潜在的な能力をたくさん持っていると思います。大学でも競技を続けるので大きく飛躍して日本を代表する選手に育ってほしいと思っています」と期待をこめて熱いエールを贈られています。



全柔連指導者資格制度について

　昨年の編集後記で次のような文を載せました。『中学校で武道必修化にともない柔道事故が注目され、柔道の危険性が報道されています。体育の授業中に事故が起きているのではなく、部活動の中での事故ですので区別しなくてはならないと思います。しかし、身を守る柔道の練習で事故・怪我が発生し命を失うことがあってはなりません。事故発生をしっかり検証し再発防止を柔道界全体で取り組まなくてはならないと思います。』このことについて、具体的な取り組みが始まりました。全柔連公認指導者資格制度です。昨年度より各地区や県で実施された講習会に参加した指導者を公認指導者として認定していく制度です。

　すでに講習が終了し、AからCの区分をして県から全柔連に名簿が提出され、認定が行われ、平成25年4月より制度が開始される予定になっています。

　指導者として、制度に従い登録等をしていくことは必要ですが、常に自己研鑽を積み事故などが起きない指導を心がけ、もし起きてしまった時は、適切な対応ができることが求められます。柔道を普及していくためには必要なことだと思います、頑張りましょう。

中学校武道必修化に対応
柔道協会指導者派遣

　中学校での武道必修化に伴い、柔道の危険性と指導者不足が問題となりました。柔道協会では、中学校の先生方の不安を少しでも軽減し生徒にとって良い柔道の授業になればということで、授業協力者の登録を行ないました。多くの方々に協力をいただきありがとうございます。平成24年11月28日には登録をしていただいた方々の授業参加・研修会を開催しました。

　「巻頭言」で高田先生から体験記を紹介していただいておりますが、中学校での柔道指導が安全かつ有意義な授業になることを期待します。



訃報



鈴木敏充　六段
平成24年10月14日永眠(70歳)

　鈴木敏充先生は昭和34年静岡県立掛川西高等学校に入学後、柔道部に入部し渡辺富士松氏（六段）に師事し柔道修行を開始されました。

　高校卒業後、静岡鉄道管理局に入社し、中西儀久氏（七段）に師事し、柔道を続けました。その後、昭和47年7月の小笠町（現菊川市）体育協会柔道部創設時に参加し、活動を続けられました。昭和50年からは、小笠柔道クラブの指導者として、小学生から一般の道場生を指導されました。

　昭和61年から、静岡県柔道協会西部地区幹事となり、月次試合や審査会の審判や協会運営に尽力されました。その間の功績により、平成8年には静岡県柔道協会より功労賞を授与されました。

　高校卒業後、勤務先のJR東海柔道部及び母校の掛川西高校柔道部への指導を続けると共に、掛川柔道倶楽部にも出稽古を続け、50歳になるまで継続されました。先生は小笠町（現菊川市）の柔道の礎を築き、その発展に大きく寄与されました。

　永眠される一週間前までお元気で、子どもたちに柔道を指導されていました。本当に柔道が大好きな先生でした。

　先生のご冥福をお祈りいたします。



編集後記

　柔道しずおか16号をお届けします。

　今年度は高校生の活躍が顕著でした。平成24年3月の高校選手権大会で、優勝者が2人（女子52kg級の岡本さんと70kg級の村山さん）、3位が2人（男子無差別級の佐藤君と女子無差別級の滝川さん）というすばらしい結果を残してくれました。

　国民体育大会でも、全国大会へ出場できることを確信しましたが、残念ながら成年男子のみの出場でした。来年こそは全種目の出場を目指しましょう。

　さて、広報普及委員会では、今年は昨年作成した柔道勧誘のためのポスターを中止し、柔道啓蒙ポスター（形の名称ポスター）を作成しましたので、各道場で御活用ください。このことに関して皆様のご意見をお聞かせください。

　平成26年に全日本実業柔道団体対抗大会が静岡県で開催されることになりました。全日本カデ大会以来の全国大会です。成功させましょう。

　底辺拡大のための親子のための柔道教室を各地区で開催しています。昨年度西部地区が開始し、3地区全てで実施されて2年目になります。今後とも継続し、底辺拡大そして静岡県柔道界の発展につながることを期待します。

広報普及委員会
委員長　宮﨑貞夫



題字
安齊会長

第17号

柔道しずおか

平成26年３月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒420-0911　静岡市葵区瀬名7-2-38　佐々木秀男
TEL　054-265-5272　FAX　054-265-5274

【巻頭言】

柔道人生を振り返って

静岡県柔道協会　副会長　八段　川中邦夫



古希を過ぎ、半生を振り返ってみると私の場合「柔道」の二文字をおいては考えられないとつくづく思う。しかも、なんと幸運だったことだろう。

私の柔道との縁は、家の事情で北海道から島根県安来市に引越し、地元の高校の柔道部に入ったことに始まる。農家の長男として子供時代から力仕事を手伝ったお陰で体力に自信があり、心身を思いきりぶつけることができる柔道にたちまちのめり込んで行ったものである。そして、あこがれの国士舘大学に進むことができ、私の将来は決定した。体育科教員となり、身につけた柔道を一人でも多くの高校生に体験してもらいその精神を伝えていく道だ。

昭和四十年、赴任したのがなんと静岡県それも新設されたばかりの清水南高校であった。外から来た者にとっては、「清水港は鬼よりこわい…」と唄われたすごい土地柄である。以来、この地で人生行路を歩むことになった。当時は「姿三四郎」や「柔道一直線」などテレビや映画で人気絶頂だったことも幸いして、部員を募ったところ百名を超す生徒が入ってきて、まだ柔道場も未完成の時代で嬉しい悲鳴を上げたことも懐かしい思い出である。

その後、転勤した藤枝東、掛川西、藤枝北高とどこへ行っても部員に恵まれ、インターハイや国体にも選手を送ることができた。

平成三年には県高体連柔道副部長として全国総体を迎える立場となり永田重郎部長のもと、準備から始まって大会当日まで多忙を極めたが、その甲斐あって選手諸君も大健闘、団体戦・個人戦とも上位入賞を果してくれた。

平成四年からは県強化委員（会計）を仰せつかり、高田勝之委員長の膝下で強化合宿など「縁の下の力持ち」として働いたことも貴重な体験だったと思う。

平成十五年には、二巡目の静岡国体が新設なった浜北グリーンアリーナで開催され、大成功を収めたことは、高柳喜一会長のもと県下の全柔道人が一丸となって尽力したからこそ可能であった。協会役員の一人としても県柔道史に輝かしい一ページを残すことができたことと誇りに思わずにはいられない。

予想していなかった大役が回ってきたのは平成十八年である。永田重郎先生の後任として中部地区幹事長、県協会副会長に推挙されたのである。わが柔道人生にとって大きな転機が訪れたと言っていい。幸い、望月秋男、故橋本章両副幹事長をはじめすばらしいスタッフに恵まれ、当初は暗中模索ながら月次試合・形講習・昇段審査会などの年間行事をなんとか滞りなく統括することができた。

しかし、時利あらず、少子化・武道離れと柔道人口の減少は留まることを知らず、地区運営は苦難に陥り二期目に入ると、改善改革は必至となった。ありがたいことに田中秀幸、熊谷幸洋副幹事長、興梠正人会計という「知恵袋」のお陰で、一級審査と月次試合を午前中に、形講習会を午後に行うことにより、役員の雑費・昼食代などの経費削減を図りなんとか難局を切り抜けることができた。それにしても、長い間の慣例を改変していくためには役員の皆さんの協力なくしては不可能であり、快く対応して下さったことを退任するにあたり心よりお礼申し上げる次第です。

高校教員としても平成十四年無事定年退職を迎えることができ、これも家族をはじめ多くの方々の暖かい支えがあればこそと頭の下がる想いである。ついては、これまでのご恩返しを何かの形で果たしていきたいと思案していたところ、タイミングよく地元藤枝に県武道館が開館した。そこで、「藤南国士塾」を立ち上げ、柔道振興・底辺拡大・青少年育成に微力ながら尽力しようと、深田静悦氏らと相計りスタートし今日に至っている。

今や日本伝講道館柔道は大きな試練に直面している。次々と不祥事が取り沙汰され、全柔連は最悪の危機的状況にあることは、我々柔道人の眼からも否定することはできない。一体、嘉納治五郎師範の掲げた「精力善用・自他共栄」の心はどこに行ったというのだろう。上層部の責任を追及するだけでは難題を解決することはできない。小手先の策を施して済む問題でもないだろう。ここに至っては、先師の教え、柔道精神の原点に立ち返り、柔道にかかわる一人ひとりがあるべき道を模索していくしか道は開けないのではないか。

退任にあたり、これまでの御指導御鞭撻に心から感謝すると共に、新体制のもと、中部地区そして県柔道協会の益々の発展を祈願して挨拶とさせていただきます。

第68回

国民体育大会（スポーツ祭東京２０１３）報告

平成25年10月5日(土)～7日(月)　東京都

成年女子準優勝

皇后杯　3位
天皇杯　6位

成年女子
一回戦　静岡①－1鹿児島
二回戦　静岡2－0栃木
準決勝　静岡2－1山梨
決　勝　静岡0－3千葉

成年男子
二回戦　静岡1－1鹿児島
　　代表戦負

少年男子
一回戦　静岡2－3新潟

今大会は久しぶりに東海予選を成年女子と少年男子が勝ち抜き3種別が本大会出場を果し、大いに意気が上がった大会であった。

戦いの様子を各チームの監督から報告してもらう。

成年女子

東海大会を4年ぶりに突破して、第64回新潟国体（平成21年）以来の本大会出場を勝ち取ることができた。各地区を勝ち上がってきた16県チームが参加、柔道競技では最もチーム数が少ないが、各試合場では熱戦が続いた。本県は1回戦、鹿児島県と対戦、先鋒金田選手が幸先良く、森崎選手（鹿屋体育大学大学院）を大外刈から寝技に連動して、袈裟固で1本勝、中堅村山選手は古賀選手（鹿屋体育大学）に対して、試合運びよく両者に指導1で引分とし、大将土屋選手が鹿児島県の強化指定の稲森選手（三井住友海上）の猛攻を指導3にとどめ、薄氷ながら①－1の内容で1勝を勝ち取った。

関東地区の栃木県との準々決勝では、先鋒金田選手が好調を持続して、塚原選手（栃木県警）から、ここでも背負投、大外刈で有効を先取、中堅村山選手が井野選手（綜合警備）相手に巧みな試合運びで捌いて引分、大将土屋選手が体格を生かした技で檜山選手（綜合警備）を払腰で横にさせ、上に乗りそのまま上四方固で決めて、見事2－0で勝ちを手にした。ここで4強に進出、静岡（東海地区）、山梨、千葉、東京（関東地区）となった。

準決勝は山梨学院大学を中心とした山梨県と対戦、先鋒金田選手は同郷出身の神山選手（加藤学園高出身）と戦い、前半は組み手争いの攻防となったが、後半組み手に勝る神山選手に攻められ、合技で先行される。中堅村山選手は守りに入った佐野選手（山梨学院大学）を追い詰めて、指導2を奪い、追い上げを見せた。気合い十分の大将土屋選手に勝負を賭けて試合場に送り出し、静岡県勢の大声援のもと、試合は西田選手（山梨学院大学）に攻められるも、場外際、起死回生の払巻込を掛けると、相手は堪えきれずに弧を描いて畳に叩きつけられ、2－1で決勝進出を果たした。応援団からは割れんばかりの拍手喝采であった。

決勝は優勝候補の東京を破って上がってきた千葉との対戦となった。先鋒金田選手は、学生チャンピオンの角田選手（東京学芸大学）と互角の戦いをするも、体落から崩されて、寝技に移行され、腕挫十字固に屈した。中堅村山選手は全日本強化の今井選手（了徳寺学園職員）と対戦、組手が厳しく、受けに回る場面があり、下がるところを腰車に乗ってしまい、1本負けをする。大将土屋選手は、勝負はついていたが、全力で、渡邉選手（了徳寺学園職員）と対戦、積極果敢に攻めるも、試合運びうまく、指導2を与えられ、0－3で借敗したが、本県チームは準優勝を勝ち取り、平成15年静岡国体以来の皇后杯3位、天皇杯6位を獲得した。

本年度は、石川強化委員長が揚げた全種目出場をスローガンに一致団結、国体合宿から選手達を鼓舞して東海大会に挑み、見事成年女子チームは出場権を勝ち取った。今年のチームは、経験豊富な土屋選手を中心に、大学生2人がまとまり、初戦の苦しい1戦を勝ち上り、選手個々にやれるという気持ちができた。その後も、苦しい戦いが続いたが、決勝まで勝ち上がった。コーチの磯部先生も同性として、女子チームの気遣いをしていただき、選手達も思う存分、今大会で力が発揮することが出来たのも、一つの要因でもある。

今後についても、ふるさと選手に頼るところがあるかも知れないが、地元企業、教職員、警察、大学等の採用枠をひろげていって、選手強化に繋げてもらいたい。

成年女子監督　間宮幸男
（浜松学院教諭）



成年女子のメンバー



成年女子チームと県役員

成年男子

第68回国民体育大会柔道大会は平成25年10月5日～7日の間、東京都足立区の東京武道館において開催されました。

今大会は、激戦の東海ブロック予選を勝ち抜いて出場権を獲得した成年女子・少年男子と共に出場することができ、久しぶりに大人数の選手団で大会に臨むことができました。

今回の成年男子は、ベテラン増田選手を中心とした県警の４選手の活躍と初出場の大学生惟村がどれだけ自分の力を発揮できるかがポイントとされるチーム構成となりました。チームの和を大切に、５位以上の入賞を目標に掲げ、大会に臨みました。

１回戦シードとなった静岡県の２回戦は、秋田県との対戦に勝った鹿児島県との対戦となりました。

先鋒（60kg以下級）
惟村は十分な組み手になれずに引き分け。

次鋒（73kg以下級）
眞野は積極的に技をかけるもいまひとつ攻めきれず引き分け。

中堅（90kg以下級）
山下は攻撃的な柔道を展開し、「小外刈」で技有を奪ったあともなお攻撃の手を緩めず「大内刈」で技有を決め、合わせ技で一本勝ちしリードする。

副将（90kg超級）
滝川は体落で積極的に攻め、何回か相手を腹ばいにさせるも決め手なく引き分け。

大将（無差別級）
増田は相手の右内股を不用意に受けてしまいまさかの一本負け。

１対１の同内容による代表戦は、大会規定により引き分けとなった対戦の内、一試合を再戦（３分間のゴールデンスコア方式）するので、抽選の結果、先鋒戦に決まった。

一番若い惟村選手に期待がかかる戦いとなった。相手は全国体育系学生体重別の優勝者という実力者ではあるが、背負投げ等を積極的に掛け、互角の勝負を繰り広げたもののいまひとつ及ばず判定で敗れチームの敗戦となってしまった。

前日の成年女子の活躍に奮起して、頑張らなくてはいけないところであったのですが、自分たちの力を出し切れば勝っていた試合で、勝ちにこだわる強い精神力が足りなかったのではないかと感じております。更に精進を重ね最強・最高のチーム作りに励みたいと存じます。

関係各位に感謝申し上げますと共に平成26年長崎国体での活躍を誓い、大会結果の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

成年男子監督　渡辺達也
（静岡県警察）

静岡県選手団

総監督	石川裕章	静岡県柔道協会
総務	宮本昌人	常葉学園高校教諭
主務	西川勝啓	静岡県立裾野高校教諭
トレーナー	赤池　理	アカイケ鍼灸接骨院

成年男子

監督	渡辺達也	静岡県警察
コーチ	大村恭一	静岡県警察
先鋒(60kg以下級)	惟村伸平	帝京科学大学
次鋒(73kg以下級)	眞野洋光	静岡県警察
中堅(90kg以下級)	山下諒輔	静岡県警察
副将(90kg超級)	滝川英克	静岡県警察
大将(無差別)	増田圭省	静岡県警察

少年男子

監督	小柳津敬博	東海大学翔洋高校教諭
コーチ	渡部直樹	静岡学園高校教諭
先鋒	泉　高祥	沼津市立沼津高校
次鋒	横山稜悟	東海大学翔洋高校
中堅	齋藤光星	加藤学園高校
副将	植田蒼太郎	静岡県立浜松商業高校
大将	片山瑛介	静岡県立浜松商業高校

大将に予定していた佐藤和哉君（静岡学園高校）は怪我のため欠場となった。

成年女子

監督	間宮幸男	浜松学院高校教諭
コーチ	磯部拡美	静岡市立清水桜ヶ丘高校教諭
先鋒	金田結花	帝京大学
中堅	村山のどか	筑波大学
大将	土屋文香	松前柔道クラブ

成年女子準優勝



成年男子のメンバー

少年男子

今年度は少年男子が９年ぶりに東海ブロックを勝ち抜いて本大会に出場することができました。４県で１チームの出場となってから久しく本大会に出場していませんでした。昨年もあと一歩のとことで愛知県に惜敗し悔し涙を流しました。今エンドはポイントゲッターの佐藤選手（静岡学園）の活躍はいうまでもありませんでした。さらに他の４選手もブロック予選を勝ち抜いて本大会に出場するんだという気迫のこもった試合を展開してくれてブロック優勝を果しました。チームワークの勝利だったと思います。

そして本大会の東京武道館に臨みましたが、その佐藤選手が怪我で出場不可になり今一歩のところで初戦敗退となりました。大変悔しい思いをしましたが、選手たちの健闘には心から拍手を送りたいと思います。

応援していただいた協会の役員の先生方、各所属の監督の先生方に厚く感謝の意を伝えたいと思います。ありがとうございました。

少年男子監督　小柳津敬博
（東海大学翔洋高校教諭）



少年男子のメンバー

第34回国体東海ブロック大会

平成25年8月25日　静岡県武道館

少年男子　静岡３－２愛知
静岡②－２三重
静岡②－２岐阜
本大会出場は３勝の静岡県

少年女子　静岡１－２愛知
静岡①－１三重
静岡１－１岐阜
本大会出場は３勝の愛知県

成年女子　静岡３－０三重
静岡１－０愛知
静岡２－０岐阜
本大会出場は３勝の静岡県

出場選手

少年男子

監督　小柳津敬博（東海大学翔洋高校教諭）
コーチ　渡部直樹（静岡学園高校教諭）
選手　佐藤和哉（静岡学園高校）
〃　植田蒼太朗（浜松商業高校）
〃　齊藤光星（加藤学園高校）
〃　横山稜悟（東海大学翔洋高校）
〃　泉　高祥（沼津市立沼津高校）

少年女子

監督　西川勝啓（裾野高校教諭）
コーチ　磯部拡美（庵原高校教諭）
選手　滝川真央（富士市立高校）
〃　遠田真子（東海大学翔洋津高校）
〃　伊奈郁乃（富士市立高校）

成年女子

監督　間宮幸男（浜松学院高校教諭）
コーチ　磯部拡美（庵原高校教諭）
選手　土屋文香（松前柔道クラブ）
〃　村山のどか（筑波大学）
〃　金田結花（帝京大学）

以上の結果、成年女子・少年男子が本大会出場を果した。

地元静岡県での予選会開催であり、選手監督コーチ一丸となり本大会出場を目指した。少年男子は各県とも実力が拮抗しており初戦から厳しい試合となった。ポイントを先行されることが多かったが、中盤から盛り返し大将の佐藤君（静岡学園高校）が勝負を決めるという形で勝利を収めた。佐藤君と共に、副将の植田君（浜松商業高校）の活躍が目立った。

成年女子もチームワーク良く勝ちを収めた。３選手それぞれ持ち味を出し全国大会出場を決めた。少年女子も良く頑張ったが、宿敵愛知県に敗れ全国出場を逃がした。



東海ブロックを戦ったメンバー

第30回 静岡県大学高専柔道春季練成大会

平成25年５月３日（金・祝）
静岡産業大学経営学部
第３スポーツセンター柔道場

参加

東海大学海洋学部、静岡大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学

午前10時から理事会を行い、平成24年度の会計報告、30周年記念誌発行の進行状況の説明などが行われた。

午前10時30分からは練成会ということで、練習試合が行われた。静岡産業大学と他の大学の連合チームとの対戦となった。11人制で実施したが、静岡産業大学の圧勝であった。その後合同自由練習を行い、新装成った静岡産業大学の２４０畳の道場で気持ちの良い汗を流した。

第55回 静岡県柔道祭開催

平成25年５月５日午前９時30分開始
静岡県武道館

今年も静岡県柔道祭が県武道館で開催された。柔道界が様々な問題でゆれる中、安齊会長からあいさつの中で「静岡県柔道協会指導者心得」の紹介があった。指導者として再度確認すべき事柄である。今年は静岡学園高校の佐藤和哉君により選手宣誓が行われた。佐藤和哉君は第35回全国高等学校柔道選手権大会男子無差別級で優勝し、先日行われた全日本選手権にも高校生としては久しぶりに出場し、さらに初戦を突破し、３回戦まで駒を進めるという活躍をした。優勝候補の一人であった百瀬選手に敗れたもののすばらしい試合を披露してくれた。佐藤君の選手宣誓に続き、恒例の柔道協会表彰が行われ、次の方々が表彰された。

《特別功労賞》

今年度は該当者なし

《永年功労賞》

六段　（故）鈴木敏充
（平成24年10月14日ご逝去）

《功労賞》

七段　小野瀬康行
六段　渡辺和秀
六段　根本哲郎
五段　鈴木　勝
三段　高塚一成

《優秀指導者賞》

女子四段　沼野由香利
（藤枝順心高校柔道部顧問）
岡本理帆選手・鈴木茉莉選手を育成
五段　渡部直樹
（静岡学園高校柔道部顧問）
佐藤和哉選手を育成

《優秀選手賞》

女子二段　岡本理帆（国士舘大学）
２０１３ヨーロッパオープン柔道ソフィア大会女子48kg級優勝、２０１３グランプリ柔道ドュセルドルフ大会女子48kg級優勝

三段　佐藤和哉（静岡学園高校）
第35回全国高等学校柔道選手権大会男子無差別級優勝

女子初段　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
平成25年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子44kg級優勝

女子二段　滝川真央（富士市立高校）
第35回全国高等学校柔道選手権大会女子無差別級３位、平成25年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子無差別級第２位

女子初段　小林夏希（加藤学園暁秀中学校）
平成25年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子44kg級第２位

また、先日行われた全日本カデ柔道体重別選手権大会に出場

した県内選手に激励金が贈られた。

表彰に続き試合が開始された。毎年のことではあるが、小学生から一般まで県内の柔道選手が一同に集まる唯一の大会で、県武道館は大いに盛り上がり、観客席から大きな声での声援が送られていた。大会も比較的スムーズに運営され、各種別ともほぼ同じ時間で終了することができた。

第55回静岡県柔道祭成績

小学生の部
優勝　伊豆長岡柔道会
2位　藤枝柔道倶楽部
3位　育誠館
3位　高山柔道塾

中学男子の部
優勝　東海大学翔洋高校中等部
2位　函南中学校
3位　長岡中学校
3位　麓玉中学校

中学女子の部
優勝　東海大学翔洋高校中等部
2位　市立沼津高校中等部
3位　麓玉中学校
3位　鷲津中学校

高校男子の部
優勝　静岡学園高校
2位　浜松商業高校
3位　飛龍高校
3位　加藤学園高校

高校女子の部
優勝　富士市立高校
2位　藤枝順心高校
3位　加藤学園高校
3位　浜松西高校

一般の部
優勝　静岡県警察
2位　和道場
3位　富士市柔道会
3位　静岡産業大学Ａ

優秀選手

小学生の部
荒川菜々香（伊豆長岡柔道会）
前田陽菜（藤枝柔道倶楽部）

中学男子の部
斉藤大河（東海大学翔洋高校中等部）
原　恵太（函南中学校）

中学女子の部
外山紗奈（東海大学翔洋高校中等部）
菊地さくら（市立沼津高校中等部）

高校男子の部
佐藤和哉（静岡学園高校）
片山瑛介（浜松商業高校）

高校女子の部
仁科鈴奈（富士市立高校）
益子楓彩奈（藤枝順心高校）

一般の部
眞野洋光（静岡県警察）
山下晃司（和道場）

第25回マルちゃん杯 中部少年柔道大会

平成25年6月1日・2日
浜北総合体育館

柔道教室

6月1日（土）

恒例の柔道教室が開催された。今回は講師に国際武道大学の越野先生と東海大学の上水先生をお迎えし、地元の児童・生徒や明日の大会に参加する選手指導者など約４００人が参加した。上水先生の柔道に取組む心構えを中心にした講話に続き、お二人の先生方の得意技披露が行われた。その後背負い投げを中心にした越野先生のグループと、内股を中心にした上水先生のグループに分かれて技術指導が行われ、参加者たちは熱心に技を繰り返していた。最後に乱取りが行われ、約2時間の講習会はあっという間に終了した。


指導する越野先生

柔道大会

6月2日（日）

試合が行われた。中部地区9県から百九十三チーム、約千二百人が出場した。

今回のマルちゃん杯では中学校男子・女子で優勝した愛知大成中学校の強さが目を引き、男女とも圧勝であった。地元勢も頑張り、特に小学生の部では和道場が3位に入賞した。主な地元の受賞者は次の通り。

小学校　第3位和道場　中学校男子第5位東海大学付属翔洋（以上全国大会出場）佐藤五八郎杯　小学校　菅谷尚優（和道場）　中学校男子　斉藤大河（東海大学付属翔洋中学）中学校女子　外山紗奈（東海大学付属翔洋中学）優秀選手小学校　飯田空翔（和道場）

大会運営には地元西部地区の関係者のご協力をいただき、非常にスムーズに大会を運営することができた。

柔道協会優秀選手表彰

今年度の静岡県柔道協会優秀選手表彰は都合により変則的で3回に分けて実施された。国体で2位に入賞した成年女子の選手役員の皆さんに対しては、11月22日に11月理事会に合わせて行われた。都合で村山さんは欠席されたが、土屋さんと金田さん、間宮監督・磯部コーチが出席された。



団体　成年女子メンバーを囲んで

全国定通制大会に関連した、男子団体戦3位（選抜チーム）、女子団体戦3位（選抜チーム）、女子個人戦優勝木下さん（新居高）の表彰は11月24日に定通制秋季大会が行われた三島長陵高校で行われた。田中表彰委員長から選手たちに賞状と記念品が贈呈された。


定通制秋季大会にて

それ以外の表彰は12月8日静岡北部体育館小学生ウインタリーグ開始前に行われた。



表彰選手を囲んで

ドイツカデ柔道国際大会・世界カデ柔道選手権大会で女子44kg級優勝の鈴木茉莉さん（藤枝順心高）、世界カデ柔道選手権大会女子70kg級2位の遠田真子さん（東海大学翔洋高）、全国高等学校総合体育大会柔道競技女子78kg級2位滝川真央さん（富士市立富士高）、全国中学校総合体育大会柔道競技女子63kg級3位安竹真利奈さん（東海大学翔洋中）同男子60kg級2位岡本龍司君（静岡学園中）全国小学生学年別柔道大会6年男子50kg超級3位下橋颯斗君（富士共栄道場）全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子100kg超級3位佐藤和哉君（静岡学園高）全国警察柔道選手権大会男子81kg級3位山下諒輔君（静岡県警察清水警察署）以上8名の方々を表彰した。

各種大会の報告

全日本柔道選手権大会（男女）東海地区大会

平成25年3月3日（日）　三重県

佐藤和哉（静岡学園高校）
滝川真央（富士市立高校）

全日本選手権大会出場決定

柔道グランプリ大会（ドイツ　デュッセルドルフ）

平成25年2月23日

女子
48kg級　岡本理帆（藤枝順心高校）　優勝

第34回全国高等学校柔道選手権大会

平成25年3月19日（火）20日（水・祝）　日本武道館

男子団体
静岡学園高校（1人残し）水戸啓明高校（茨城）　初戦敗退

女子団体
1回戦
藤枝順心高校1－0創志学園高校（岡山）
2回戦
藤枝順心高校2－0三浦学園（神奈川）
3回戦
藤枝順心高校2－1新田高校（愛媛）
準々決勝
藤枝順心高校2－1阿蘇中央高校（熊本）　代表負け　ベスト8進出

男子個人
60kg級　小林駿平（静岡学園高校）　3回戦進出
73kg級　岩澤勇祐（加藤学園高校）　ベスト8進出
81kg級　佐野安大（静岡学園高校）　初戦敗退
90kg級　齋藤光星（加藤学園高校）　ベスト8進出
無差別級　佐藤和哉（静岡学園高校）　優勝

女子個人
52kg級　渡辺香奈（藤枝順心高校）　初戦敗退
57kg級　益子楓彩奈（藤枝順心高校）　ベスト8進出
63kg級　神林希衣（加藤学園高校）　初戦敗退
70kg級　仁科鈴菜（富士市立高校）　初戦敗退
無差別級　滝川真央（富士市立高校）　3位

全日本カデ柔道体重別選手権大会

平成25年4月14日（日）　大阪なみはやドーム

男子
66kg級　荒井大成（東海大学翔洋高校）　初戦敗退

女子
40kg級　小原綾華（湖西高校）　初戦敗退
40kg級　小林夏希（加藤学園暁秀中学校）　2位
44kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）　優勝
70kg級　遠田真子（東海大学翔洋高校）　初戦敗退
70kg級　滝川真央（富士市立高校）　2位

全日本女子柔道選手権大会

平成25年4月21日（日）　横浜文化体育館

滝川真央（富士市立高校）選手出場
2回戦
滝川真央○－只野真梨枝（JR九州）
3回戦
滝川真央－○緒方亜香里（了徳寺学園職員）

緒方選手は優勝した。

全日本柔道選手権大会

平成25年4月29日（月・祝）　日本武道館

佐藤和哉（静岡学園高校）選手出場
2回戦
佐藤和哉○－菊川　顕（岡山商科大学職員）
3回戦
佐藤和哉－○百瀬　優（旭化成）

2013ドイツカデ柔道国際大会

2013．5．4　ドイツ・ベルリン

女子44kg級
優勝　鈴木茉莉（藤枝順心高校）

第33回全国少年柔道大会

平成25年5月5日（日・祝）　講道館

団体戦
1回戦
和道場4－0野木町柔道クラブ（栃木県）
2回戦
和道場1－0USAs：j．c（大分県）
3回戦
和道場0－1津沢柔道スポーツ少年団（富山県）

個人戦
5年生　菅谷尚優（和道場）　ベスト16進出
6年生　伊藤栄都（和道場）　初戦（2回戦）敗退

第60回東海高等学校総合体育大会柔道競技

平成25年6月15日（土）16日（日）　名張市武道交流館いきいき

男子団体
静岡学園高校　3位

女子団体
藤枝順心高校　2位
富士市立高校　3位

男子
60kg級
3位　泉　高祥（沼津市立沼津高校）

66kg級
３位　青山拓哉（沼津市立沼津高校）
90kg級
３位　齋藤光星（加藤学園高校）
100kg超級
優勝　佐藤和哉（静岡学園高校）
女子
48kg級
優勝　鈴木　楓（藤枝順心高校）
48kg級
３位　山口奈菜美（富士市立高校）
52kg級
優勝　伊奈郁乃（富士市立高校）
57kg級
優勝　益子楓彩奈（藤枝順心高校）
63kg級
２位　佐藤和世（富士市立高校）
70kg級
３位　小原奈々（沼津市立沼津高校）
78kg級
２位　吉長桃子（藤枝順心高校）
78kg超級
優勝　滝川真央（富士市立高校）
３位　植松ほたる（富士市立高校）

マルちゃん杯柔道大会

平成25年6月2日（日）
静岡県浜松市浜北総合体育館
小学校の部
第３位　和道場
中学校男子の部
第５位　東海大学付属翔洋
（以上全国大会出場）

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

平成25年6月29日（土）
静岡県武道館
男子
55kg級　加藤唯人（加藤学園高校）
60kg級　工藤俊矢（静岡産業大学）
66kg級　小林駿平（静岡学園高校）
73kg級　吉川翔太（静岡産業大学）
81kg級　山田知輝（東海大学翔洋高校）
90kg級　植田蒼太朗（浜松商業高校）
100kg級　望月陽介（藤枝明誠高校）
100kg超級　佐藤和哉（静岡学園高校）
東海大会優勝全国大会出場
全国３位
女子
44kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
48kg級　岩崎光紗（藤枝順心高校）
岩崎選手負傷のため
鈴木楓（藤枝順心高校）
東海大会出場東海大会優勝
全国大会出場
52kg級　繁田青夏（藤枝順心高校）
57kg級　益子楓彩奈（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
63kg級　村山かなみ（富士市立高校）
70kg級　遠田真子（東海大学翔洋高校）
東海大会優勝全国大会出場
78kg級　吉長桃子（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
78kg超級　滝川真央（富士市立高校）
東海大会優勝全国大会出場
全国５位

なお、東海大会は7月7日（日）三重県名張市、全国大会は9月7日（土）8日（日）埼玉県にて開催された。

東海地区形競技大会

平成25年6月30日（日）
愛知県武道館
投の形
渡辺成也　五段
佐藤邦洋　五段
固の形
小椋俊彦　五段
鈴木慎一　三段
極の形
安竹克好　五段
渡邉武彦　五段
柔の形
岡村和幸　五段
才茂一幸　五段
講道館護身術
一瀬　誠　七段
竹内紀久夫　六段
五の形
中村寿一　七段
磯部正博　八段
古式の形
渡辺達也　七段
小野瀬康行　七段

平成25年度静岡県成年柔道体重別選手権大会（兼国民体育大会柔道競技選手選考会）

平成25年7月6日（土）
静岡県武道館
成年男子
60kg級　惟村伸平（帝京科学大学）
73kg級　眞野洋光（静岡県警察）
90kg級　山下諒輔（静岡県警察）
無差別級　増田圭省（静岡県警察）
成年女子
52kg級　金田結花（帝京大学）
70kg級　村山のどか（筑波大学）
無差別級　土屋文香（松前柔道クラブ）

2013世界カデ柔道選手権大会

2013．8．8
アメリカ・マイアミ
女子44kg級
優勝　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
女子70kg級
準優勝　遠田真子（東海大学翔洋高校）

第62回全国高等学校柔道大会

平成25年8月8日（木）～11日（日）
福岡県
男子団体戦
1回戦
静岡学園高等学校1－4国士舘高校（東京都）
女子団体戦
1回戦
富士市立高等学校3－0広島皆実高等学校（広島県）
2回戦
富士市立高等学校1－2国学院大学栃木高等学校（栃木県）
男子
60kg級　泉　高洋（沼津市立沼津高校）
3回戦進出
66kg級　青山拓哉（沼津市立沼津高校）
初戦敗退
73kg級　横山稜悟（東海大学翔洋高校）
3回戦進出
81kg級　小原諒平（浜松商業高校）
初戦敗退
90kg級　齋藤光星（加藤学園高校）
初戦敗退
100kg級　岡将太郎（飛龍高校）
初戦敗退
100kg超級　佐藤和哉（静岡学園高校）
第5位入賞（ベスト8）
女子
48kg級　鈴木　楓（藤枝順心高校）
初戦敗退
52kg級　伊奈郁乃（富士市立高校）
第5位入賞（ベスト8）
57kg級　益子楓彩奈（藤枝順心高校）
2回戦進出
63kg級　佐藤和世（富士市立高校）
2回戦進出
70kg級　仁科鈴奈（富士市立高校）
2回戦進出
78kg級　吉長桃子（藤枝順心高校）
第5位入賞（ベスト8）
78kg超級　滝川真央（富士市立高校）
※各階級県大会優勝者、優勝チームが全国大会に出場している。

平成25年度東海中学校総合体育大会柔道競技

平成25年8月8日（木）9日（金）
岐阜県
男子団体
静岡学園中学校　2位
準優勝

浜松市立鹿玉中学校　3位
女子団体
東海大学翔洋高校中等部　2位
男子
50kg級
優勝　片桐大夢（笠井中学校）
2位　鈴木絢大（金岡中学校）
55kg級
2位　長屋　涼（神久呂中学校）
60kg級
優勝　岡本龍司（静岡学園中学校）
81kg級
優勝　大橋海斗（錦田中学校）
90kg級
優勝　池田光洋（東益津中学校）
90kg級超級
3位　川井康平（静岡学園中学校）
女子
40kg級
優勝　安食亜美（藤枝順心中学校）
2位　松浦都衣（愛鷹中学校）
44kg級
3位　小林夏希（暁秀中学校）
48kg級
2位　竹内智紗子（鹿玉中学校）
52kg級
2位　加藤樹梨（錦田中学校）
57kg級
3位　菊池涼音（長岡中学校）
63kg級
2位　安竹真利奈（東海大高校中等部）
70kg級
2位　澤崎莉子（東海大高校中等部）
70kg超級
3位　植田桃佳（高台中学校）

全国教員大会

平成25年8月3日（土）　講道館

監督　藤田明啓（県立浜松西高校）
先鋒　今井靖史（函南町立函南中学校）
次鋒　川端常弘（県立湖西高校）
中堅　井口往彦（県立浜北西高校）
副将　正治大輔（静岡学園高校）
大将　土屋彰裕（湖西市立鷲津中学校）
1回戦　静岡県2－1鹿児島県
2回戦　静岡県3－2岡山県
3回戦　静岡県3－1栃木県
準々決勝　静岡県1－3神奈川県（ベスト8）

浜松西高校の藤田監督を中心に、昨年度とはメンバーは変わりましたが、2年連続で全国ベスト8というすばらしい成績を収められました。各先生方がこの大会で得ることができた貴重な経験を、各学校での先生方の指導に役立てていただきたいと思います。

第44回全国定時制通信制柔道大会

平成25年8月4日（日）　講道館

男子団体戦　静岡県選抜チーム　3位
風岡代史（富士宮東高校）
三城広大（クラーク記念国際高校浜松）
山田駿治（三島長陵高校）
仲山純輝（浜松大平台高校）
山口晴也（浜松大平台高校）
鈴木文弥（浜松大平台高校）
山本拳也（浜名高校）
県大会無差別級上位進出者による選抜チーム
女子団体戦　静岡県選抜チーム　3位
木下由美（新居高校）
河津サユリ（富士高校）
芦澤依莉子（未来静岡高校）
森　安奈（倉橋学園キラリ高校）
県大会無差別級上位進出者による選抜チーム
個人戦
男子
軽量級
小山智良（小山高校）初戦敗退
中量級
三城広大（クラーク記念国際高校浜松）
3回戦敗退（ベスト8）
重量級
仲山純輝（浜松大平台高校）2回戦敗退
女子
中量級
森　安奈（倉橋学園キラリ高校）初戦敗退
重量級
木下由美（新居高校）優勝

第44回全国中学校柔道大会

平成25年8月18日（日）～21日（水）　三重県伊勢市

男子団体戦
静岡学園中学校2－3粟津中学校（滋賀県）
静岡学園中学校3－2鹿屋東中学校（鹿児島県）
勝ち数で決勝トーナメント進出
1回戦
静岡学園中学校1－4東海大学相模中学校（神奈川県）
女子団体戦
東海大学翔洋高校中等部1－1丘中学校（長野県）
東海大学翔洋高校中等部3－0諫早中学校（長崎県）
丘中学校と同率のため代表戦となり、決勝トーナメント進出。
1回戦
東海大学翔洋高校中等部1－①広陵中学校（奈良県）
個人戦
男子
50kg級
片桐大夢（笠井中学校）
初戦敗退
55kg級
長屋　涼（神久呂中学校）
3回戦進出（ベスト16）
60kg級
岡本龍司（静岡学園中学校）　準優勝
66kg級
杉本誠太（藤枝明誠中学校）
3回戦進出（ベスト16）
73kg級
原　恵太（函南中学校）
初戦敗退
81kg級
大橋海斗（錦田中学校）
準々決勝進出（ベスト8）
90kg級
池田光洋（東益津中学校）
3回戦進出（ベスト16）
90kg超級
川井康平（静岡学園中学校）
初戦敗退
女子
40kg級
松浦都衣（愛鷹中学校）
初戦敗退
44kg級
小林夏希（暁秀中学校）
初戦敗退
48kg級
竹内智紗子（鹿玉中学校）
初戦敗退
52kg級
加藤樹梨（錦田中学校）
3回戦進出（ベスト16）
57kg級
菊池涼音（長岡中学校）
2回戦進出
63kg級
安竹真利奈（東海大学翔洋高校中等部）
第3位
70kg級
澤崎莉子（東海大学翔洋高校中等部）
3回戦進出（ベスト16）
70kg超級
植田桃佳（高台中学校）
2回戦進出
各階級県大会優勝者が全国大会に出場している。

第10回全国小学生学年別柔道大会

平成25年8月25日（日）　広島県

男子5年
45kg級
岡本紳吾（静岡錬心館）
初戦敗退
45kg超級
小田春樹（伊豆長岡柔道会）
2回戦進出
男子6年
50kg級
平井慎一郎（神士館）
初戦敗退
50kg超級
下橋颯斗（富士共栄道場）
第3位
女子5年
40kg級
橋口英子（静岡東部柔道クラブ）
2回戦進出
40kg超級
高山美憂（焼津誠道館）
初戦敗退
女子6年
45kg級
袴田佳名瑚（和道場）
3回戦進出（ベスト16）
45kg超級
米川明穂（大東柔道クラブ）

３回戦進出（ベスト16）

6月9日に実施された県大会の各階級優勝者が全国大会に出場している。

全国警察柔道選手権大会

平成25年9月6日（金）
日本武道館

無差別級
増田圭省　３回戦敗退

81kg級
山下諒輔　３位

73kg級
眞野洋光　ベスト8進出

定通制柔道東海大会

平成25年9月8日（日）
鈴鹿市武道館

男子団体戦
1位　浜松大平台高校

男子個人

65kg級　鈴木文弥（浜松大平台高校）　初戦敗退

73kg級　小原智良（小山高校）　棄権

75kg級　三城広大（クラーク記念国際高校浜松）　1位

山本拳也（浜名高校）　棄権

75kg超級　仲山純輝（浜松大平台高校）　3位

山田駿治（三島長陵高校）　初戦敗退

女子個人

60kg級　森　安奈（倉橋学園キラリ高校）　1位

60kg超級　木下由美（新居高校）　1位

第30回 静岡県大学高専柔道秋季優勝大会

平成25年10月27日（日）
静岡産業大学

団体の部
優勝　静岡産業大学
2位　東海大学
3位　静岡大学

個人戦の部

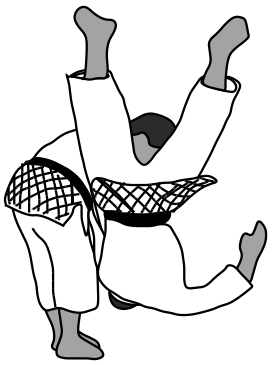
女子の部
優勝　神田日和（静岡産業大学）

無段の部
優勝　安井　健（東海大学）

66kg級
優勝　古川諒（静岡産業大学）

81kg級
優勝　松川　勝（静岡産業大学）

81kg超級
優勝　永野裕樹（静岡産業大学）



柔道底辺拡大への取り組み報告

各地区で柔道人口拡大のための取り組み行われています。今回東部地区の取り組みを中心に各地区の取り組みを報告する。

東部地区

東部地区では「エアロビ柔道」が実践されており、今回は特に中心になって取組んでおられる根木谷先生から「日は東から昇る」と題しての報告を掲載する。

平成22年4月17日（日）の静岡県柔道協会理事会において、施策「女子柔道人口増加をはかる」とし、男女昇段を念頭に東・中・西部三地区が独自の発想で進めることを決定しました。

東部地区は「エアロビ柔道」を毎週水曜日の午後7時から8時半まで市立沼津高校柔道場で行うこと。関心を持つ老若男女を対象に、簡単で楽しく生活にいかせる内容を参加者と共に考えることとにしました。

同年5月19日（水）に開講。婦人層を中心に中学生や高校生、時には園児も参加し、毎週十数名が至福の時間を過ごしています。実技は「トレーニング編」と「おむすび受け身編」の二部門からなり、「トレーニング編」は、立礼・座礼、ストレッチから始まり、立技・寝技の基本と動作、体力作り、一人打ち込み、クーリンダウンと続き、最後にまた立礼・座礼です。曲は宇多田ヒカル、嵐、モーニング娘などの曲を使います。「おむすび受け身編」は後ろ受け身、横受け身、前受け身を歌を歌いながら楽しむもので、前受け身の歌は私が作詞作曲しました。最近「トレーニング編」の曲も著作権問題を考え、東京音大出身の作曲家にお願いし、現在八曲の依頼に対して五曲が出来上がっています。新曲と共にCDや絵本で柔道を理解することも大切と考え、その準備も進めています。

勉強のため、平成23年3月11日（金）14時45分未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」に見舞われた年から、岩手県大船渡市にボランティア活動と東南海地震の予備知識を得るために毎年出かけ、また栃木県宇都宮市や県内では伊豆の国市、沼津市の中学授業や道場、旅館を借りての講習会のも実施し、新しい発見や発想を得ています。

柔道協会の実施には商標登録も必要と考え、平成24年12月31日（月）付けで申請、特許庁は平成25年5月24日（金）付けで「エアロビ柔道」の商標登録を認可しました。平成25年6月14日（金）商標原簿に十年間の権利記載をしました。

柔道修行について、嘉納治五郎師範は「己を完成し、世を補益する」ことと説きます。高齢化社会に突入した日本、国民が受け身を体得すれば転倒による怪我防止と体力向上に役立ちます。立礼と座礼は日常生活に欠



前受け身の指導

かせないマナーとなります。医療費の節約と生き甲斐にも結びつく「エアロビ柔道」を根付かせることは「世を穂益する」ことに通ずることと信じ、東部地区は無二無三に走っています。

中部地区

平成25年11月3日（日）

静岡市北部体育館柔道場

幼児・小学生や保護者など94名の参加で今年度も実施しました。午前10時からの開講式に続き、エアロビクスを取り入れた準備体操を行いました。ゆかいな柔道ゲームで楽しみ、休憩を挟んで礼法指導・受け身の指導、そして「お父さん・お母さんを投げ飛ばせ」と柔道に親しんでもらいました。「親子で柔道着を着ることができ、何とも言えない清々しい気持ちになりました。」と参加者からも好評でした。

西部地区

親子柔道教室開催

浜松市武道館

平成25年11月3日（日）

午後1時から午後3時30分まで

講師　溝口紀子（静岡文化芸術大学准教授、バルセロナオリンピック銀メダリスト）

講師　大原尚喜（静岡県立新居高校教諭）

幼稚園の年少から小学3年生以下を対象にした第3回親子柔道教室が開催された。女性の柔道人口を増やす対策の一環として県下3地区で計画されており、その西部地区での実践である。西部地区各道場に所属する子どもだけでなく一般の子どもたちも参加してくれた。合わせて保護者の皆さんも参加していただいた。

今回は講師に、3回連続の溝口先生と、静岡県立新居高校教諭で柔道部の顧問をされている大原先生をお迎えした。大原先生は学生時代世界レベルで活躍し、東洋水産（株）でも実績を残した柔道家であり、現在は新居高校で体育の教師をしながら柔道部の指導を担当されている。前半は溝口先生を中心に親子で準備運動を行い楽しく汗をかいた。後半は低年齢を溝口先生が担当し、残りの経験者を中心とした小学生を大原先生が担当してくれた。

平成25年度講道館主催「静岡県中央審判講習会」

平成25年8月4日（日）

午前10時～午後3時

島田市総合スポーツセンター

静岡県中央審判講習会が島田市のローズアリーナで行われた。講師には全日本柔道連盟審判委員で講道館七段高橋進先生（全柔連S級審判員、IJFインターナショナル審判員）が派遣された。百名を超える協会員が参加し充実した講習会が行われた。審判部の和久田さんからの報告を基に講習の様子を簡単にまとめておく。

・現行ルールと新ルールの違い

「足取り」についての解釈、クロスグリップの変化など国際大会での事例を交えて解説していただいた。

・ジュリー等の意見聴取

合議は短時間で終わらせることや、ジュリーからアドバイスを受けたときの対応など普段なかなか気付かない指摘をいただいた。

・高橋先生の経験より

高橋先生のご経験の中で、最初の「偽装的攻撃」のペナルティーを取りきれず、その後何回か同様な攻撃があったが最初に取れなかったので最後までとりきれなかった苦い体験を話され、「アッ」と思ったらとるべきだというアドバイスをいただいた。

・新ルールの説明

新ルール導入の経緯や一人審判制の説明などをしていただいた。

・技の評価

静岡県警察特錬選手の実技を交え「一本」の見極めについて説明された。

・ゴールデンスコア

時間無制限で行われることになったゴールデンスコアだが、実際の試合では比較的短時間で終わることが紹介された。

・技重視

ペナルティの考え方が変わり、「技重視」の方向が説明された。積極的にペナルティをとることで選手に技を積極的にかけさせることを目指していることが紹介された。

受講者からは「高橋先生の国際大会等を通じての貴重な経験を基に、分かりやすいご指導を頂き大変勉強になった。新ルールについてもっと勉強したい。」など多くの感想が寄せられ、有意義な講習会になった。



指導者資格認定制度

A指導員36名、B指導員274名、C指導員285名、学校指導者61名でスタートしました。今後は資格付与の講習会と資格更新の講習会が実施されることになります。（A・B指導員は4年に1回平成28年度から実施、C指導員は2年に1回平成27年度から実施、の更新が必要）

特集　佐藤和哉（静岡学園高校）

高校生として全日本選手権大会に出場するなど、今年度もすばらしい活躍をした静岡学園の佐藤君を特集する。



佐藤君のデータ　身長181㎝、体重108㎏、足のサイズ右30㎝・左30㎝、握力右58㎏・左61㎏、50ｍ走6.5秒

インタビュー

質問　十七年ぶり史上四人目の現役高校生として出場した全日本選手権に参加しての感想は？

佐藤　やはり、全国トップレベルの選手たちしかいない大会に出場できたのはとても良い経験になりました。また、将来的にどのレベルまで高めなければいけないかというのも大まかですが知ることもできたし、あのような独特な試合場での雰囲気も体で感じることができたのがよかったです。

質問　世界ジュニア大会（スロベニア）に参加しての感想は？

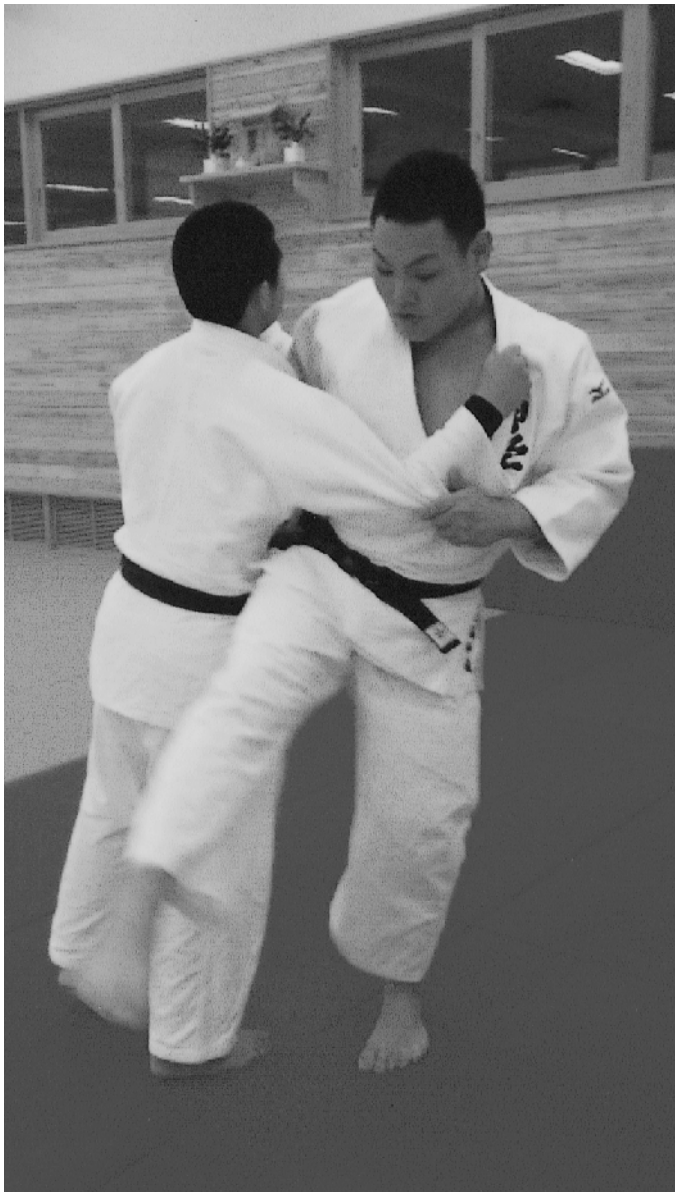
佐藤　全戦全敗。「心・技・体」全ての部分がまだまだ足りないことを痛感しました。代表としての意識の薄さ、日常の練習量の少なさ、一発で決められる技のキレの無さ、自分が日本でいいと思っていたところが世界に出てみたらまったく通用しなかったことに、ただただ落ち込みましたが、今は逆に、もっと強化できるし強くなれると思って、また新しい目標ができ楽しくやっています。

質問　好きな練習（稽古）メニューは？

佐藤　研究をしているときが一番楽しいです。理由は、研究で思いついた面白い発想が実際乱取りで決まったときの気持ちは最高です!!。

質問　試合や稽古に臨む際、心がけていることや気をつけていることは？

佐藤　稽古では常に自分と同じか自分より大きい選手を想定してやっています。そして、足技・組み手を軽量級の選手に負けないくらいやってやろうと心がけています。試合では、とにかく自然体で頭の中でいいイメージに溢れさせることを意識しています。



質問　これまで柔道を続けてきて思うことは？

佐藤　柔道をしていたことでいろいろな人に出会うことができました。そして、多くの人から様々な技術、そして生きていく上で大切なこと、気持ちの持ち方などを教えていただきとても感謝しています。

質問　今後の目標は？

佐藤　ジュニアの試合では圧倒的に勝てるように今より大幅に強化すること。そして、シニアの試合ではよりよい結果が出せるようになって、世界大会にもっと多く出場して、最終的には講道館杯・全日本選手権・オリンピックで優勝できるように努力し続けたいです。

取材11月

静岡県柔道協会
広報普及委員会

道場紹介

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

①裾野柔道協会（裾野柔道スポーツ少年団）

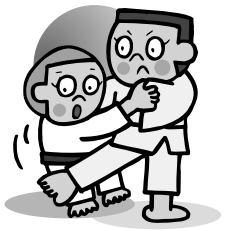
②裾野市稲荷24　裾野市民体育館内
③〒410−1113
裾野市稲荷190−23　今富孝憲
055−993−0757
④山之内良彦
⑤児童0人、小学生10人、中学生5人、高校生1人、大学・社会人5人



⑥道場紹介

裾野柔道協会の前身は、昭和35年石脇区の倉庫跡に柔道場完成と共に裾野柔道クラブとして発足しました。昭和41年8月に少年部が裾野柔道スポーツ少年団として認定を受け、昭和53年から裾野市民体育館の柔道場にて活動しています。現在毎週木曜日・土曜日の2回、午後7時から9時まで稽古を行い、学年に応じた基本練習の中で、体力の強化と何事にもへこたれず、自分に打ち勝つ精神を鍛錬し、将来につながる稽古に汗を流しています。

柔道の創始者・嘉納治五郎師範の教えである「精力善用・自他共栄」の精神は、日本体育協会初代会長（創設者）でもあることから、いま日本体育協会が推進する「フェアプレイ宣言」につながります。そこで、その考えに賛同し、協会員で「フェアプレイ宣言」をしました。



①長泉柔道会

②駿東郡長泉町納米里
長泉町立体育館柔道場
③〒411−0944
駿東郡長泉町竹原109−1
055−986−7745
④永田正義
⑤児童0人、小学生5人、
中学生6人、高校生0人、
大学・社会人7人（内指導者5人）

⑥道場紹介

昭和47年4月に地域の柔道経験者が意志を通じ合い立ち上りました。当初は少人数でのスタートでした。年を重ねて一般、中学生、小学生も増加して参りましたが、年によっては増加したり減少したりの繰り返しです。現在は小学生5名で団体戦も組めない状況です。NPO法人、体育協会の協力を得て募集も行っておりますが思うようには成りません。少子化の影響もあると思いますが、小学生の時に始めた子供が中学校に入っても続けることが難しいようです。地元の長泉中学校・長泉北中学校2校とも柔道部が無いことがネックになっているようです。

現在毎週3回練習を行っています。午後7時から8時30分（小学生）、8時30分から9時まで（中学生・一般）、月曜日・水曜日・金曜日に実施しています。また、地域内や地域外の他道場からもお誘い戴き練習試合や稽古に参加させてもらっています。

これからも日々努力精進して後進の育成発展に尽力致します。柔道に興味をお持ちの方、小学生・中学生・一般の方々の参加をお持ちしています。



①NPO法人武道学舎

②静岡市立桜ヶ丘高等学校
（旧清水商業高校）柔道場
③〒424−0067
静岡市鳥坂1247−57
電話054−348−4792
④川嶋敏秀
⑤児童5人　小学生36人　中学生6人
高校3人　大学・社会人20人

⑥道場紹介

少子高齢化が進む中、長引く不況等々、アベノミクスにより復活の兆しが見えてきた今日この頃です。

武道学舎の前身である清水柔専塾は昭和42年4月、清水警察署、旧静岡市立清水商業高等学校、及び旧静岡県立清水工業高等学校、市公民館、日立製作所道場にて開講し、以来入門者２５００名以上を数えています。現在は幼児、小学生、中学生、一般、指導者男女計70名が静岡市立桜ヶ丘高等学校柔道場にて毎週月曜日・水曜日・金曜日に稽古に励んでおり、卒業生も地域社会の体育向上と青少年健全育成に努めております。

今年度は、佐藤和哉君（静岡学



園高校）が高校日本一、全日本選手権試合出場などと頑張り、他にも多くの塾生が全国で活躍しております。

凶悪犯罪青少年非行が叫ばれている社会情勢の中にあって、市内の中学・高校の武道（部活動）を復興させ、武道の「知育」「徳育」「体育」の精神を普及し、武道を通じて「人づくり」を目的に平成18年９月に特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）武道学舎の認定、認証を取得しました。指導者として４段通場千里（旧姓石橋）先生、８段石川裕章先生の指導を受け、我が国伝統文化の普及と文武両道を目的に社会に貢献できる立派な人材を育成し、後世に伝授していくことを目指しています。

①長田柔道倶楽部

②静岡市駿河区鎌田98−8
③〒421−0111
静岡市駿河区丸子新田458−11
054−258−6221
④増岡秋男
⑤児童0人、小学生15人、中学生16人、高校生6人、大学･社会人25人

⑥道場紹介

長田柔道倶楽部は、長田体育館の新設に伴い昭和61年４月に始まりました。柔道を通じ、柔道の精神である「心・技・体」を主軸に精神の練磨及び体力の増強を図り健康な体と礼儀正しさを身につけ、心と体の成長を目標にしています。主任指導員を中心に、９人の指導員が熱心に指導に当たっており、週２日水曜日・土曜日の夜、一部は午後６時30分から小学生・初心者を中心に基本を学び、二部は午後７時30分から８時45分まで中学生から一般までが技術の向上を目標に汗を流しています。また、女性指導員が子供達の精神的な支えになるなど、ふれあいを大切にした教室です。

「継続は力なり」、一緒にやりましょう。一年を3期に分け、その期ごとに募集しておりますのでいつでもお気軽に見学してください。





①和道場

②浜松市中区住吉2−15−11
③〒430−0906
浜松市中区住吉2−17−16
053−472−7246
④菅谷和彦
⑤児童6人、小学生21人、中学生8人、高校生2人、大学･社会人20人

⑥道場紹介

私たち和（やわら）道場は、平成23年４月に浜松市中区住吉に道場を開設し地域の小学生・中学生を中心とし、火曜日・金曜日の夜７時から約２時間と土曜日の15時から約２時間の稽古をしております。また高校生・一般は別に月曜日・木曜日に稽古をしております。現在幼児から一般まで約40名が稽古で汗を流しております。

柔道を極めたい方ばかりではなく、基礎体力を付けたい、柔軟性やバランス感覚を養い怪我をしないようにしたい、自分の身を守りたいなど様々な理由で入門されています。子供たちは、仲間とともに練習に参加し、体をめいっぱい動かし、思いやりの心を持ち、いろいろな世代の人と係わり合いを持つという貴重な体験をしております。

柔道を大好きになって、一生付き合える仲間を見つけてほしい。また、柔道を通じてたくましい心と体を作り人を思いやれる気持ちを養い、大きな声で挨拶のできる人間へと成長してもらいたいと思います。



①磐南柔道クラブ

②磐田市立磐田南部中学校柔道場
③〒438−0045
磐田市下岡田543
0538−34−5687
④森下拓司･寺田貴保
⑤児童1人、小学生13人、中学生3人、高校生3人、大学･社会人9人

⑥道場紹介

私たち「磐南柔道クラブ」は、平成18年12月に小中学生の健全育成を目的として立ち上げ、毎週火曜日・土曜日の夜間２時間、幼児から一般まで汗を流しています。

当クラブでは技術向上は勿論、礼儀作法について特に厳しく指導し「やる気・負けん気・頑張る気」の３つの気持ちを促しながら先輩を敬い、後輩を慈しむ事を学ばせ、他分野そして将来広く社会に貢献でき得る人材育成に力を入れています。その一つとして、全体リーダーは小学最上級生ですが、別に「体操リーダー」を設け、日替わりで低学年にもリーダーを任せています。

我々指導員は日々子供達の著しい成長を嬉しく思いつつ、更なる向上を目指して楽しくかつ一所懸命頑張っています。

新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーで紹介できる選手が数多くでた。全国大会で３位までに入賞した若い選手（高校生以下の選手）を紹介しているコーナーで、今年度は９名の選手を紹介することができる。国際大会で結果を残してくれた選手も多く、今後が期待される。なお、静岡学園高校の佐藤君については記事の中で紹介しているので載せていない。連続して紹介する選手もおり、「新人」ではないかもしれないが順調に成長している様子が伺われる。



遠田真子さん

（東海大学翔洋高等学校）

◎世界カデ柔道選手権大会女子70kg級２位

３年連続でこのコーナーで紹介する遠田さんですが順調に実力を伸ばしているようです。毎年紹介しているように、遠田さんが柔道を始めたきっかけは「父と兄の影響で」と言うことで、まさに柔道一家だと言えます。

今回の入賞については「今年こそ優勝したかったという気持ちが正直なところですが、決勝に進めたことは嬉しかったです。まだまだ力不足を実感したのでこれからもっと上を目指して頑張っていきたい。」と述べています。今後の目標としては「目の前の試合を確実に勝つこと。」と決意を述べてくれました。

多くの大会で活躍している遠田さんですが、顧問の山梨先生からは「今の遠田の実力としては良い成績だったと思います。この結果を生かし、次の試合につなげていってほしいと思います」とアドバイスを送られています。遠田さんの更なる活躍を期待します。



安竹真利奈さん

（東海大学翔洋中）

◎全国中学校総合体育大会柔道競技女子63kg級３位

安竹さんが柔道を始めたきっかけは「父の影響で始めた。」ということです。今回の入賞については「嬉しかったけれど、あと一歩のところで負けたのは悔しかった。」と述べています。今後の夢は「インターハイで日本一になりたい。」と中学校では果せなかった「日本一」の夢を高校で成し遂げたいという強い意志を見せてくれています。指導者からは「柔道が強くなると共に精神的にも大きく成長してきました。全国、そして世界大会への夢を持って頑張ってほしいです。」と期待されています。安竹さんの今後の活躍を期待します。

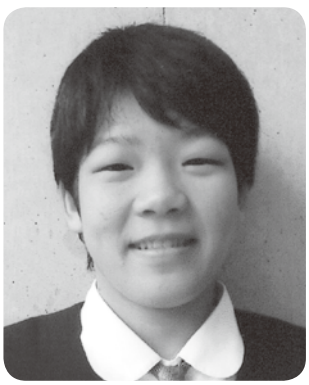


滝川真央さん

（富士市立高等学校）

◎第35回全国高等学校柔道選手権大会女子無差別級３位、平成25年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子無差別級第２位、全国高等学校総合体育大会柔道競技女子78kg級２位

滝川さんもこのコーナーの常連です。柔道を始めたきっかけは「兄が柔道をしていて、道場についていって始めるようになりました。」ということで、お兄さんの影響だそうです。今回の入賞の感想は「昨年度２位であり、今年こそはと思って臨んだが負けてしまいとても悔しかった。」ということですが、全国２位という成績は素晴らしいものです。今後は日本大学に進学し、「リオデジャネイロ・東京オリンピックに出場し金メダルを取りたい」ということでさらに柔道に精進されるようです。彼女の今後の活躍を見守っていきたいと思います。指導されている顧問からは「夢をかなえるため大学に行っても頑張ってほしい。」とエールを贈られています。



鈴木茉莉さん

（藤枝順心中学校）

◎平成25年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子44kg級・ドイツカデ柔道国際大会・世界カデ柔道選手権大会優勝

昨年は全国中学校総合体育大会女子44kg級準優勝ということで、このコーナーで紹介した鈴木さんですが、今年はさらにレベルアップし世界大会での優勝を成し遂げてくれました。

昨年紹介しましたが、鈴木

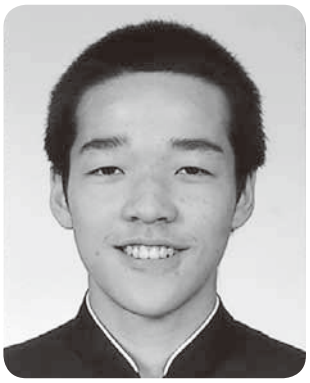
さんが柔道を始めたきっかけは「兄がやっていて楽しそうだったから。」という、ごく普通の理由からです。今回の入賞については「嬉しかったし、活躍している先輩方に少しだけでも近づくことができたと思いました。もっと近づいていけるよう頑張ります。」と意欲的です。今後の夢は、「高校選手権やインターハイで良い結果を残すこと。」と世界だけでなく自分の足元をしっかり見つめています。指導者からは「今後も目標に向かって頑張ってください。」と期待されています。鈴木さんの今後の活躍を期待します。



下橋颯斗さん
（富士共栄道場）

◎全国小学生学年別柔道大会６年男子50kg超級３位

下橋君が柔道を始めたきっかけは「両親に勧められて始めました。」ということで、ご両親の影響でした。入賞の感想は「嬉しかった。でも負けてしまった時は「まだまだだなぁ」とても悔しかった。自分より強い子は沢山いるのでこれからも挑戦したいです。」と素直に語ってくれました。今後の夢は「２０２０年の東京オリンピックに日本代表として出場し、他の国の選手と戦いたい。将来なりたい職業は警察官です。」としっかりと将来を見通しています。立派な警察官目指して頑張ってほしい。指導者からは「何事にも前向きな姿勢で、夢に向かって突き進め‼柔道ができる喜びを忘れるな。」と激励されています。



岡本龍司さん
（静岡学園中）

◎全国中学校総合体育大会柔道競技男子60kg級２位

岡本君が柔道を始めたきっかけは「もともと体が弱く、体を鍛えるために始めました。」ということで、多くの仲間に希望を与えるような理由です。今回の入賞に関しては「２位という結果で終わってしまいましたが、目標は優勝だったので悔しいです。実力では負けている相手が全国には沢山いました。結果としては２位ですが、まだまだ優勝は遠いと改めて感じました。」謙虚さと共に力強さを感じます。今後の希望は「全国制覇」と力強く宣言してくれました。指導者からは「日頃より柔道に対しての情熱は強く、好奇心は旺盛で努力家である。もう少し身体が大きくなれば将来は「日の丸」を背負えるような人材だと思う。文武両道で精進し期待を裏切らぬよう頑張ってほしい。」と本当に大きな期待をかけられています。岡本君の今後の活躍を期待します。



小林夏希さん
（加藤学園暁秀中学校）

◎平成25年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子40kg級第２位

小林さんが柔道を始めたきっかけは「兄が道場に通っていたから」ということで、このコーナーに登場する選手に良くあるケースです。今回の入賞については「入賞できて嬉しかったですが、優勝できなくて悔しかったです。」と感想を述べています。準優勝は悔しさが残る結果だと思います。指導者からは「減量と怪我に苦しみましたが、良く戦ったと思います。」とねぎらいの言葉をかけられています。今後の益々の活躍を期待したいと思います。



木下由美さん
（静岡県立新居高等学校定時制課程）

◎第44回全国高等学校定時制通信制柔道大会女子個人戦63kg超級　優勝

木下さんは全国定時制通信制柔道大会で優勝されました。静岡県の定通制の選手としては始めての快挙です。あわせて、団体戦３位進出の原動力として活躍されました。

木下さんが柔道を始めたきっかけは「少年団の先生に誘われたから」ということです。今回の結果については「全国大会で優勝できて本当に嬉しく思います。」素直に感想を述べてくれました。定通制の東海大会や県の秋季大会でも優勝しています。まだ１年生ですが「高校を卒業してからも柔道に携わっていきたいと思う。」と今後の夢を語ってくれています。柔道が好きでたまらないということが伝わってきます。顧問からは「新居高校定時制には柔道部がありません。今後いかに練習する場所を確保できるかが課題だと思っています。」と積極的に支援していくことが感じられます。



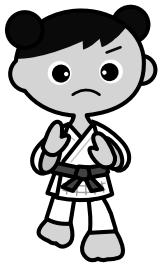
静岡県柔道協会指導者心得

1 指導に当たっては、暴力行為・パワハラ行為は一切行ってはならない。
2 日頃から危機管理に留意し、事故・怪我等が発生した場合には最善かつ適切な処置をする。
3 家庭との連絡を定期的に行い、子どもや生徒の健康状態等の把握に努める。
4 柔道の素晴らし伝統文化を伝えるため、常に修養と研鑽を怠らない。

平成 25 年 4 月 21 日
静岡県柔道協会

「暴力の根絶」についての静岡県柔道協会の対応

Ⅰ組織
暴力根絶委員会（専門委員会として）を設置する
Ⅱ委員会の構成
1委員会の構成14名
委員長1名
県柔道協会会長
副委員長2名
県柔道協会理事長
県少年柔道連絡協議会会長
委員11名
県柔道協会幹事長3
事務局長
県少年柔道連絡協議会地区役員3
女性代表
中学代表
高校代表
大学代表
※幹事長・道場連盟役員・女性代表・学校代表は該当地区や女性問題・種別に係る場合だけ協議に加わる。なお、重大な事案が発生した場合は原則として14名全員で協議を行い、全柔連に報告する。
Ⅲ窓口（4箇所）
幹事長宅（3箇所）事務局長宅
Ⅳ対応
1窓口に通報があった場合は
（1）「通報者の状況調査書」により事情聴取する。
（2）全て副委員長（理事長）に報告し、状況により委員会の開催を依頼する。
2中学・高校・大学の教員が該当する場合には、当該学校の管理職に報告し指導を任せる。
3部活動等の外部指導者が該当する場合には、部活動顧問に報告し対応を学校に任せ、なおかつ委員会で指導内容を決定する。
4大会等で見聞きした場合には、副委員長（理事長・道場連盟会長）が種別（小・中・高・大）の協力を得て事情聴取する。
※ただし、以上1～4のいずれも処分を行った場合、全柔連報告書に記載し、全柔連および通報者に連絡する。
Ⅴ周知の方法
1大会プログラムに掲載し、開会式で説明する。（保護者に周知する）
2手引書に掲載
3柔道しずおかに掲載
4その他



編集後記

「柔道しずおか」17号をお届けします。

今年度も小学生から高校生、そして警察と静岡県の柔道選手の活躍が顕著でした。平成25年3月の高校選手権大会で、男子無差別級で優勝・女子無差別級で3位というすばらしい結果を残してくれました。また全日本選手権にも高校生の男女各1名が出場しそれぞれ初戦を突破しました。その他多くの選手が国内だけでなく海外の試合でも素晴らしい成績を残してくれました。カデの大会で世界チャンピオンも誕生しました。今後に期待したいと思います。

国民体育大会でも、久しぶりに3種別が本大会へ出場し、特に成年女子は2位に入賞し柔道静岡を全国に発信してくれました。

さて、広報普及委員会では、今年は柔道勧誘のためのポスターを作成しましたので、各道場等で御活用ください。このことに関して皆様のご意見をお聞かせください。

平成26年に全日本実業柔道団体対抗大会が静岡県で開催されることになりました。（平成26年6月7日（土）8日（日）静岡県武道館）全日本カデ大会以来の全国大会です。静岡県柔道協会一丸となって成功させましょう。

指導者資格認定制度が始まりました。今後講習も必要になりますので、よろしくお願いします。また、静岡県柔道協会のホームページを始めることになりました、ご利用ください。

静岡県柔道協会ＨＰ
http://www.geocities.jp/shizuokajudo/

第18号

柔道しずおか

平成27年3月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒431-3114　浜松市東区積志町1503　伊藤武治
TEL　090-1473-4136　FAX　053-589-3000
http://www.geocities.jp/shizuokajudo/

【巻頭言】

会長就任にあたり

静岡県柔道協会会長　七段　**野田昭一**



昨年二月の理事会にて会長に選任され就任いたしました。職責の重さを痛感するとともに、微力ではありますが、静岡県柔道協会の発展に尽力する所存であります。

暗いニュースが多かった日本の柔道界ですが、宗岡正二全柔連会長を中心に改革に取り組み、徐々にその効果が現れています。中でも今年度から発足した「柔道 MIND プロジェクト」特別委員会は、嘉納治五郎先生の教えの精神、柔道の心に立ち返ろうという取り組みであり、MIND は四つの頭文字をつなげたものです。

M は Manner（礼儀）、I は Independence（自立）、N は Nobility（高潔）、D は Dignity（品格）を意味します。これらを守ってこそ真の柔道家に相応しいとのメッセージがこめられています。

少子化が進み、競技人口の減少が大きな問題となっていますが、まずは、柔道に携わる者全てが、この柔道 MIND を持ち続けていけば、おのずと柔道の素晴らしさが社会全体に理解され、ひいては柔道人口の増加にも寄与するものと確信しています。

静岡県柔道協会としても、この「柔道 MIND プロジェクト」を積極的に推進していこうと思っております。

静岡県の柔道界に目を向けると、昨年六月に全日本実業団柔道団体対抗戦が四十五年振りに静岡県で開催され、オリンピック選手をはじめ全国トップレベルの選手が一同に会し熱戦を繰り広げました。関係各位の御協力のもと一年余りの準備の甲斐もあり、無事大会を終了することができました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

強化の面では、藤枝順心高校の鈴木選手が全日本カデ大会で二連覇、谷川選手がインターハイで優勝したのをはじめ、その他にも小学生からシニアまで多くの選手が全国大会で活躍してくれました。これも強化の取り組みが徐々に実を結んできているものと感じています。

また、全柔連審判委員会の西田孝宏委員長を講師としてお招きし、審判講習会を開催するなど、選手だけでなく、指導者や審判のレベルアップについても力を入れてきました。

このような取り組みの基盤となる協会組織につきましても、今年度より以下のとおり再編し、役割分担を明確にし、各種事業の推進に取組んでいます。

◆総務委員会（財務部会　柔道 MIND プロジェクト部会　登録部会）

◆審判・「形」委員会（審判技術向上部会　形技術向上部会）

◆広報・普及委員会（広報・記録部会　普及部会）

◆強化部

全柔連同様、静岡県柔道協会も「改革」が必要です。しかし、まだ試行錯誤の連続で、皆様の協力なしでは成り立ちません。静岡県の柔道が全国のモデルになるよう、執行役員一丸となり、普及・強化、組織の充実を図っていく所存ですので、これまで以上に当協会への御協力、御支援と更なる御指導、御鞭撻を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

第69回 国民体育大会柔道競技 報告

総　監　督	石川裕章	石川接骨院
総　務	磯部拡美	清水桜が丘高校教諭
トレーナー	赤池　理	アカイケ鍼灸接骨院
監　督	渡辺達也	静岡県警察
先　鋒（60kg級以下）	鈴木優希	流通経済大学
次　鋒（73kg級以下）	眞野洋光	静岡県警察
中　堅（90kg級以下）	小椋俊彦	静岡県警察
副　将（90kg超級）	平井諒輔	東海大学翔洋高校教諭
大　将（無差別）	滝川英克	静岡県警察

第六十九回国民体育大会柔道競技は、平成二十六年十月十九日から二十一日の間、長崎県諫早市小野体育館において開催されました。

八月に開催された東海ブロック予選では、成年女子及び少年男女がそれぞれ健闘しましたが惜しくも一件の出場枠も獲得することができず、成年男子のみの出場となりました。

今回の成年男子は、実績のある県警三選手に選手選考会で県警の増田・齋藤選手に勝ち、勢いのある平井選手、国体初出場ながら全国大会出場経験のある鈴木選手、以上五人のチーム構成となり、チームワークを大切に五位以上の入賞を目標に掲げ、大会に臨みました。

成年男子一回戦

一回戦は、チェリャビンスク世界柔道選手権大会100kg超級銀メダルの七戸龍選手を擁する沖縄県との対戦となりました。

先鋒の鈴木は十分な組み手になることができなかったものの、機を伺い狙いすました内股で有効を奪いチームに勢いを呼び込んだ。

次鋒の眞野の対戦相手は、警察体重別大会準優勝の実力者だった。両者牽制しあって膠着状態となり攻めてを欠き、ポイントを奪えず時間切れ引き分けとなった。

中堅の小椋は、相手の力が強く自分の組み手にさせてもらえず、いまひとつ攻めきれず引き分けとなった。

副将の平井は、相手の圧力が強く得意の組み手にさせてもらえず、後半消極的になったところ払腰を受けてしまい一本負けだった。

大将の滝川は、世界選手権大会銀メダルの七戸選手に臆することなく左小外刈でグラつかせる場面もあったが、相手の技の仕掛けが早く消極的になったところを反則を取られ、指導2差で敗れた。

先鋒戦で勝利したものの次鋒以降の選手でチームに流れを持ってくることができずに敗退してしまったというのが実感です。今後の課題としては、勝利するには試合時間の最初から最後まで技を掛け続けるスタミナを養い、正しい組み手からの攻撃柔道に徹することが必要であると感じています。更に精進を重ね、最強・最高のチーム作りに励みたいと存じます。

関係各位に感謝申し上げますとともに平成二十七年和歌山国体での活躍を誓い、大会結果の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

（文責　静岡県警察　渡辺達也）



第35回国体東海ブロック大会

平成26年8月24日　岐阜県

成年女子

静岡県0－2愛知県
静岡県2－1三重県
静岡県3－0岐阜県
2勝1敗　2位　愛知県が本大会出場

少年男子

静岡県1－4愛知県
静岡県3－2三重県
静岡県2－2岐阜県
（内容負け）
1勝2敗　2位　愛知県が本大会出場

少年女子

静岡県0－3愛知県
静岡県2－1三重県
静岡県1－1岐阜県
（内容負け）
1勝2敗　3位　愛知県が本大会出場

少年男子選手

先　芹沢翔哉（静岡学園高校）
次　横山稜悟（東海大学翔洋高校）
中　植田蒼太朗（浜松商業高校）
副　大橋昴文（日本大学三島高校）
大　川井康平（静岡学園高校）

少年女子選手

先　福本菜摘（沼津市立沼津高校）
中　安竹真利奈（東海大学翔洋高校）
大　楠　麻衣（加藤学園高校）

成年女子

先　神山結理（立命館大学）
中　神林希衣（高岡法科大学）
大　村瀬由樹（国際武道大学）

第56回 静岡県柔道祭開催

平成26年5月4日午前9時30分開始
静岡県武道館

今年も静岡県柔道祭が県武道館で開催された。新しく静岡県柔道協会会長に就任した野田昭一会長からあいさつに続き、今年は静岡学園高校の佐野安大君により選手宣誓が行われた。佐野君は第36回全国高等学校柔道選手権大会男子81kg級で3位に入賞し、今年活躍が期待される選手である。佐野君の選手宣誓に続き、恒例の柔道協会表彰が行われ、次の方々が表彰された。

特別功労賞

高田勝之　八段
川中邦夫　八段
吉川博智　七段
神山　厳　七段
木内孝教　七段
佐藤重雄　六段
佐藤有宏　六段

永年功労賞

橋本五十夫　八段
佐野武雄　七段
福村　直　七段
北川輝彦　七段
山口義四男　六段
下山隆伸　四段
黒柳忠義　四段

功労賞

工藤信二　六段
増田博通　五段
神谷元久　五段

渡邉智巳　四段
山口麻和　三段
沼野由香利　女子四段
後藤奈美　女子三段

優秀指導者賞

沼野由香利　女子四段
（藤枝順心高校柔道部顧問）
鈴木茉莉選手を育成

優秀選手賞

佐野安大　初段（静岡学園高校）
第36回全国高等学校柔道選手権大会男子81級　第3位
鈴木茉莉　女子初段（藤枝順心高校）
平成26年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子44kg級　優勝
安竹真利奈　女子初段（東海大学翔洋高校）
平成26年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子63級　第3位

表彰に続き試合が開始された。毎年のことではあるが、小学生から一般まで県内の柔道選手が一同に集まる唯一の大会で、観客席から大きな声での声援が送られ県武道館は大いに盛り上がっていた。

第56回静岡県柔道祭成績

小学生の部

優勝　育誠館道場
2位　大仁柔道会
3位　清水町柔道会
富士宮柔道会

中学男子の部

優勝　東海大学翔洋高校中等部
2位　育誠館道場
3位　高台中学校
磐田南部中学校

中学女子の部

優勝　東海大学翔洋高校中等部
2位　市立沼津高校中等部
3位　神士館
浜北北部中学校

高校男子の部

優勝　東海大学翔洋高校
2位　浜松商業高校
3位　静岡学園高校
加藤学園高校

高校女子の部

優勝　東海大学翔洋高校
2位　沼津市立沼津高校
3位　加藤学園高校
藤枝順心高校

一般の部

優勝　静岡県警察
2位　静岡産業大学A
3位　富士市柔道会
高柳喜一商店

優秀選手

小学生の部

服部航太（育誠館道場）
佐々木勇太朗（大仁柔道会）

中学男子の部

米山竜生（東海大学翔洋高校中等部）
長屋友（育誠館道場）

中学女子の部

澤崎莉子（東海大学翔洋高校中等部）
菊地さくら（市立沼津高校中等部）

高校男子の部

塚本瑠羽（東海大学翔洋高校）
植田蒼太郎（浜松商業高校）

高校女子の部

遠田真子（東海大学翔洋高校）
福本菜摘（沼津市立沼津高校）

一般の部

滝川英克（静岡県警察）
森田悠斗（静岡産業大学A）

今年の優秀選手

例年秋に表彰していたが今年は大会毎に表彰しているので、柔道祭で表彰してからの優秀選手をまとめておく。

水野瑚春　女子初段（藤枝順心高校）
平成26年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子63級　第3位
山田知輝　二段（東海大学付属翔洋高校）
全国高等学校総合体育大会柔道競技男子81kg級　第3位
谷川美歩　女子初段（藤枝順心高校）
全国高等学校総合体育大会柔道競技女子57kg級　優勝
全国高等学校定時制通信制柔道大会女子団体戦　第3位
静岡県女子チーム
（瀧本光咲・クラーク記念国際高校浜松、加藤樹梨・三島長陵高校、木下由美・新居高校）
木下由美　女子初段（新居高校）
全国高等学校定時制通信制柔道大会女子個人63kg超級　第3位
澤崎凛（清水町柔道会）
全日本小学生学年別柔道大会小学5年女子40kg超級　優勝
大橋海斗　初段（三島市立錦田中学校）
全国中学校体育大会柔道競技男子90kg級　第3位
山下諒輔（静岡県警察）
全国警察柔道選手権大会男子81kg級　優勝
正治和也（静岡県警察）
全国警察柔道選手権大会男子66kg級　優勝

第64回 全日本実業柔道団体対抗大会

平成26年6月7日（土）、8日（日）　静岡県武道館

静岡県では過去に多くの全国大会を実施してきているが、平成23年4月に行われた全日本カデ柔道選手権大会以来の全国大会であった。協会の事務局長を中心に準備作業が進められ、大会当日を迎えることができた。

開会式では、全日本柔道連盟と実業柔道連盟の宗岡正二会長が「柔道界の現状から、人格と強さを兼ね備えた柔道人を育成していかなくてはならない」と挨拶を行った。旭化成の野田選手が選手宣誓を行い、1日目の競技が開始された。女子1部は4チームのリーグ戦で行われ、日本のトップクラスの選手たちが息詰まる熱戦を展開してくれた。コマツが女子1部を制した。男子3部は、地元静岡県のチームが活躍し、静岡県警察が準優勝、東海翔柔クラブが3位に入賞した。スタンドから「パパがんばって」という声援が飛び、真剣勝負の中にもさわやかさを感じた。

2日目は男子1部と2部、女子2部の試合が行われた。前日の試合より更に厳しくかつ面白い試合が展開された。男子では旭化成チームの強さが目立った。2部では旭化成チーム同士の決勝戦となり、1部でも旭化成チームが優勝した。男子は体重別の試合ではなく無差別の戦いであり、何十kgも体重が違う選手同士の戦いは非常に面白く、「柔よく剛を制す」の言葉どおり、大きな相手を投げ飛ばし、会場から大きな歓声が上がった試合もあった。女子2部ではALSOKが底力を発揮して優勝した。

大会運営では地元高校生が活躍し、会場の設営や片付け、補助役員などを務めてくれた。高校生が身近に一流選手の技を見ることができ、大きな刺激を受けてくれたことと思う。




古式の形を演じた渡辺・磯部氏

各種大会の報告

全日本柔道選手権大会（男女）東海地区大会

平成26年3月2日（日）　三重県

佐藤和哉（静岡学園高校）
予選リーグ2位、決勝リーグ1位、全日本選手権大会出場決定
増田圭省（静岡県警察）
予選リーグ3位
滝川真央（富士市立高校）
予選リーグ3位
仁科鈴菜（富士市立高校）
予選リーグ3位

第36回全国高等学校柔道選手権大会

平成26年3月20日（木）21日（金・祝）　日本武道館

男子団体
東海大学付属翔洋高校（1人残し）○桐蔭学園高校（神奈川）
初戦敗退

女子団体
1回戦
藤枝順心高校2－0徳島北高校（徳島）
2回戦
藤枝順心高校0－2埼玉栄高校（埼玉）

男子個人
60kg級　小林大貴（加藤学園高校）　2回戦進出
73kg級　加藤月歩（加藤学園高校）　2回戦進出
81kg級　佐野安大（静岡学園高校）　3位
90kg級　植田蒼太朗（浜松商業高校）　2回戦進出
無差別級　大橋昴文（日本大学三島高校）　初戦敗退

女子個人
52kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）　3回戦進出
57kg級　谷川美歩（藤枝順心高校）　3回戦進出
63kg級　今　唯（藤枝順心高校）　初戦敗退
70kg級　遠田真子（東海大学翔洋高校）　3回戦進出
無差別級　楠　麻衣（加藤学園高校）　2回戦進出

近代柔道杯全国中学生柔道大会

平成26年3月29日30日　静岡学園1－2沖学園（福岡）
東海大翔洋0－4大蔵（福岡）

平成26年度全日本選抜体重別柔道選手権大会

平成26年4月6日（日）　福岡県

男子
81kg級　山下諒輔（静岡県警察）　初戦敗退

全日本カデ柔道体重別選手権大会

平成26年4月13日（日）　大阪なみはやドーム

男子
60kg級　岡本龍司（静岡学園高校）　初戦敗退

女子
44kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）　優勝
63kg級　水野瑚春（藤枝順心高校）　3位
63kg級　安竹真利奈（東海大学翔洋高校）　3位

全日本柔道選手権大会

平成26年4月29日（火・祝）　日本武道館

佐藤和哉（静岡学園高校）選手出場
1回戦
佐藤和哉（日本大学）－○羽賀龍之介（旭化成）

第34回全国少年柔道大会

平成26年5月5日（月・祝）　講道館

団体戦
1回戦
伊豆長岡柔道会（内容勝）1－1清心館（滋賀県）
2回戦
伊豆長岡柔道会2－3宜野湾署スポーツ少年団（沖縄県）

個人戦
5年生　岡本治祈（伊豆長岡柔道会）　2回戦進出
6年生　小田春樹（伊豆長岡柔道会）　初戦敗退

東海地区「形」競技会

平成26年7月6日（日）　岐阜県

投の形　渡辺達也　佐藤邦彦
固の形　森田賢一　山下朝司
極の形　小椋俊彦　鈴木慎一
柔の形　岡村和幸　佐野宏明
講道館護身術　安竹賢治　渡邉武彦
五の形　小林賢治　小笠原淳
古式の形　磯部正博　渡辺達也
東海地区優勝

全日本形競技大会　2位

第61回東海高等学校総合体育大会柔道競技

平成26年6月21日（土）22日（日）　愛知県武道館

男子団体
東海大学翔洋高校　2位
女子団体
東海大学翔洋高校　2位
藤枝順心高校　3位

男子
60kg級　2位　芹沢翔哉（静岡学園高校）
66kg級　2位　望月飛翔（静岡学園高校）
73kg級　3位　加藤月歩（加藤学園高校）
81kg級　2位　山田知輝（東海大学翔洋高校）
90kg級　3位　植田蒼太朗（浜松商業高校）
100kg超級　2位　井川康平（静岡学園高校）
3位　林　巧真（飛龍高校）

女子
48kg級
優勝　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
3位　岩崎光沙（藤枝順心高校）
57kg級　2位　谷川美歩（藤枝順心高校）
63kg級　3位　水野瑚春（藤枝順心高校）
3位　安竹真利奈（東海大学翔洋高校）
70kg級　3位　遠田真子（東海大学翔洋高校）
78kg級　3位　篠田沙織（藤枝順心高校）

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

平成26年6月28日（土）　静岡県武道館

男子
55kg級　加藤唯人（加藤学園高校）
60kg級　小林大貴（加藤学園高校）
66kg級　荒井大成（東海大学翔洋高校）
73kg級　横山綾悟（東海大学翔洋高校）
81kg級　佐野安大（静岡学園高校）
90kg級　植田蒼太朗（浜松商業高校）
100kg級　花井拓哉（浜松城北工業高校）
100kg超級　川井康平（静岡学園高校）

女子
44kg級　岩崎光沙（藤枝順心高校）
48kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
52kg級　渡辺香奈（藤枝順心高校）
57kg級　谷川美歩（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
63kg級　水野瑚春（藤枝順心高校）
70kg級　嘉地唯花（藤枝順心高校）
78kg級　楠　麻衣（加藤学園高校）
78kg超級　大澤宣歩（藤枝順心高校）

なお、東海大会は7月13日（日）静岡県武道館、全国大会は9月13日（土）14日（日）埼玉県にて開催された。

平成26年度静岡県成年柔道体重別選手権大会
（兼国民体育大会柔道競技選手選考会）

平成26年7月5日（土）
静岡県武道館

成年男子
60kg級 鈴木優希（流通経済大学）
73kg級 眞野洋光（静岡県警察）
90kg級 小椋俊彦（静岡県警察）
無差別級 滝川英克（静岡県警察）
成年女子
52kg級 神山結理（立命館大学）
70kg級 神林希衣（高岡法科大学）
無差別級 村瀬由樹（国際武道大学）

第63回全国高等学校総合体育大会 柔道競技

平成26年8月2日（土）～6日（水）
千葉県

男子団体戦
1回戦
東海大学翔洋高校3－1上宮高校（大阪府）
2回戦
東海大学翔洋高校1－3東海大学浦安高校（千葉県）
女子団体戦
1回戦
藤枝順心高校0－3東大阪大敬愛高校（大阪府）
男子
60kg級 芹沢翔哉（静岡学園高校）2回戦進出
66kg級 望月飛翔（静岡学園高校）初戦敗退
73kg級 加藤月歩（加藤学園高校）初戦敗退
81kg級 山田知輝（東海大学翔洋高校）3位
90kg級 植田蒼太朗（浜松商業高校）第5位入賞（ベスト8）
100kg級 大橋昴文（日本大学三島高校）初戦敗退
100kg超級 林 巧真（飛龍高校）初戦敗退
女子
48kg級 鈴木茉莉（藤枝順心高校）初戦敗退
52kg級 成宮妃世梨（藤枝順心高校）ベスト16
57kg級 谷川美歩（藤枝順心高校）優勝
63kg級 安竹真利奈（東海大学翔洋高校）ベスト16
70kg級 遠田真子（東海大学翔洋高校）初戦敗退
78kg級 篠田沙織（藤枝順心高校）初戦敗退
78kg超級 大澤宜歩（藤枝順心高校）初戦敗退

※各階級県大会優勝者、優勝チームが全国大会に出場している。

平成26年度東海中学校総合体育大会柔道競技

平成26年8月9日（土）10日（日）
岐阜県

男子団体
3位 東海大学翔洋高校中等部（東海大学翔洋高校中等部中学校）
静岡学園中学校
男子
66kg級 3位 北田晃大（東海大学翔洋高校中等部中学校）
73kg級 3位 吉田 航（韮山中学校）
90kg級 優勝 大橋海斗（錦田中学校）
3位 米山竜生（東海大学翔洋高校中等部）
90kg超級 2位 長屋 友（神久呂中学校）
3位 下橋颯斗（静岡学園中学校）
女子
40kg級 2位 鈴木 葵（藤枝順心中学校）
44kg級 3位 小林美咲（沼津市立沼津中学校）
63kg級 3位 岩井柚里香（東海大学翔洋高校中等部）
70kg級 2位 澤崎莉子（東海大学翔洋高校中等部）
70kg超級 3位 米川明穂（藤枝順心中学校）

第39回全国教員大会

平成26年8月10日（土）
和歌山県

監督 大原尚喜（県立新居高校）
先鋒 佐々木啓至（県立新居高校）
次鋒 川端常弘（県立湖西高校）
中堅 山崎大介（県立磐田南高校）
副将 高田幸治（私立城南静岡高校）
大将 土屋彰裕（湖西市立鷲津中学校）
1回戦
静岡県（内容勝）2－2福井県
2回戦
静岡県0－4青森県

監督が新居高校の大原先生に代わり、メンバーも一部昨年と変わりました。1回戦は内容で際どく勝ちあがりましたが、2回戦で青森県に先行され、前半で勝負がついてしまいました。各先生方がこの大会で得ることができた貴重な経験を、各学校での指導に役立てていただければと思います。

第45回全国定時制通信制柔道大会

平成26年8月10日（日）
講道館

男子団体戦
1回戦 静岡県5－0新潟県
2回戦 静岡県3－2東京都A
3回戦 静岡県2－3愛知県
ベスト8進出
女子団体戦
1回戦 シード
2回戦 静岡県2－1千葉県
3回戦 静岡県1－2奈良県
3位
木下由美（新居高校）
河津サユリ（富士高校）
芦澤依莉子（未来静岡高校）
森安奈（倉橋）
男子個人戦
65kg級 宇野 克（未来静岡高校）初戦敗退
75kg級 山田駿二（三島長陵高校）3回戦進出（ベスト8）
75kg超級 戸田 初（浜松工業高校）初戦敗退
女子個人戦
52kg級 瀧本光咲（クラーク国際高校浜松校）初戦敗退
63kg級 加藤樹梨（三島長陵高校）2回戦進出
63kg超級 木下由美（新居高校）3位

第45回全国中学校柔道大会

平成26年8月22日（金）～25日（月）
愛媛県武道館

男子団体戦
東海大学翔洋高校中等部1－4福井工業大学福井中学校（福井県）
東海大学翔洋高校中等部0－5国士舘中学校（東京都）
予選リーグ敗退
女子団体戦
東海大学翔洋高校中等部1－2浜丘中学校（神奈川県）
東海大学翔洋高校中等部2－0万石浦中学校（宮城県）
予選リーグ敗退
個人戦
男子
50kg級 鈴木大達（浜松西高校中等部）準々決勝進出（ベスト8）
55kg級 矢萩奨真（東海大学翔洋高校中等部）3回戦進出
60kg級 古関夕響（吉原第一中学校）初戦敗退
66kg級 北田晃大（東海大学翔洋高校中等部）3回戦進出
71kg級 小笠原一貴（藤枝明誠中学校）3回戦進出
81kg級 重田幸大（裾野東中学校）初戦敗退
90kg級 大橋海斗（錦田中学校）3位
90kg超級 長屋 友（神久呂中学校）3回戦進出
女子
40kg級 鈴木 葵（藤枝順心中学校）3回戦進出
44kg級 安食亜美（藤枝順心中学校）初戦敗退

48kg級　三須　葵（沼津市立沼津中学校）　初戦敗退
52kg級　杉山奈那（東海大学翔洋高校中等部）　初戦敗退
57kg級　増井　涼（三島北中学校）　初戦敗退
63kg級　菊池さくら（東海大学翔洋高校中等部）　3回戦進出
70kg級　澤崎莉子（東海大学翔洋高校中等部）　3回戦進出
70kg超級　楠明日香（長岡中学校）　2回戦進出

各階級県大会優勝者が全国大会に出場している。

第11回全国小学生学年別柔道大会

平成26年8月17日（日）　岩手県

男子5年
45kg級　渡邉爽偉（清水町柔道会）　初戦敗退
45kg超級　山本師道（育誠館道場）　2回戦進出
男子6年
50kg級　服部航太（育誠館道場）　2回戦進出
50kg超級　小田春樹（伊豆長岡柔道会）　初戦敗退
女子5年
40kg級　杉山月琉（清水町柔道会）　2回戦進出
40kg超級　澤崎凛（清水町柔道会）　優勝
6年
45kg級　橋口英子（静岡東部柔道クラブ）　初戦敗退
45kg超級　高山美優（焼津誠道館）　2回戦進出

5月25日に実施された県大会の各階級優勝者が全国大会に出場している。

全国警察柔道選手権大会

平成26年9月5日（金）　日本武道館

100kg級　滝川　初戦敗退
81kg級　山下諒輔　優勝
講道館杯全日本柔道体重別選手権大会に出場
73kg級　眞野洋光　5位（ベスト8進出）
66kg級　正治和也　優勝
講道館杯全日本柔道体重別選手権大会に出場

定通制柔道東海大会

平成26年9月7日（日）　愛知県武道館

男子団体戦
クラーク記念国際高校　2位
島田商業高校　初戦敗退
男子個人
65kg級　風岡代史（富士宮東高校）　棄権
75kg級　山田駿治（三島長陵高校）　優勝
75kg超級　戸田初（浜松工業高校）　3位
原田望（島田商業高校）　初戦敗退
女子個人
52kg級　瀧本光咲（クラーク記念国際高校）　初戦敗退
63kg級　加藤樹梨（三島長陵高校）　棄権
63kg超級　木下由美（新居高校）　1位

第3回静岡県小学生学年別柔道選手権大会

平成26年9月23日（火祝）　静岡県武道館

1年生の部
塩谷公佑（高山柔道塾）
2年生の部
眞田諒太（藤枝柔道倶楽部）
3年生の部
沖山智（静岡東部柔道クラブ）
4年生男子軽量級
田中公介（三島柔道会）
4年生男子重量級
渡辺琉雅（正心塾渡辺道場）
4年生女子軽量級
原田誌依菜（焼津誠道館）
4年生女子重量級
飯田星那（和道場）
5年生男子軽量級
渡邉爽偉（清水町柔道会）
5年生男子重量級
佐々木里旺（清水柔道倶楽部）
5年生女子軽量級
杉山月琉（清水町柔道会）
5年生女子重量級
澤崎凛（清水町柔道会）
6年生男子軽量級
平井貴也（神士会）
6年生男子中量級
望月倖十（柔清会）
6年生男子重量級
小田春樹（伊豆長岡柔道会）
6年生女子軽量級
森　千鶴（積武館）
6年生女子中量級
新村侑郁（浜北柔道スポーツ少年団）
6年生女子重量級
高山美憂（焼津誠道館）

第31回静岡県大学高専柔道秋季優勝大会

平成26年10月12日（日）　静岡産業大学

団体の部
優勝　静岡産業大学
2位　東海大学海洋学部
3位　日本大学国際関係学部
個人戦の部
無段の部
優勝　井本草平（東海大学海洋学部）
66kg級
優勝　平野颯馬（東海大学海洋学部）
81kg級
優勝　松川　勝（静岡産業大学）
81kg超級
優勝　岳川大輝（静岡産業大学）

講道館杯全日本体重別選手権

平成26年11月8日（土）9日（日）　千葉県

81kg級　山下諒輔　3回戦進出
66kg級　正治和也　初戦敗退

第36回全国高等学校柔道選手権大会（男女個人戦）静岡県大会

平成27年1月17日（土）　静岡県武道館

女子
52kg級
優勝　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
57kg級
優勝　谷川美歩（藤枝順心高校）
63kg級
優勝　水野瑚春（藤枝順心高校）
70kg級
優勝　米山綾乃（富士市立高校）
無差別級
優勝　伊藤七海（藤枝順心高校）
男子
60kg級
優勝　芹沢翔哉（静岡学園高校）
73kg級
優勝　塚本瑠羽（東海大学付属翔洋高校）
81kg級
優勝　石岡裕樹（東海大学付属翔洋高校）
90kg級
優勝　鈴木隆聖（加藤学園高校）
無差別級
優勝　井川康平（静岡学園高校）

第36回全国高等学校柔道選手権大会（男女団体戦）静岡県大会

静岡県大会
平成27年1月25日（日）　静岡県武道館

女子団体戦
優勝　藤枝順心高校
男子団体戦
優勝　静岡学園高校

速報

平成27年3月20日（金）21日（土）日本武道館で開催される全国大会に出場する。

全日本柔道選手権大会（男・女）東海地区大会

山下諒輔（静岡県警察）
全日本選手権大会出場決定

平成26年度地方審判講習会 静岡県中央審判講習会

平成26年度9月21日（日）午前10時から午後3時　静岡市北部体育館柔道場

静岡県中央審判講習会は全柔連の地方審判講習会を兼ねて実施された。講師として全柔連審判委員長の西田孝宏先生（山梨学院大学教授　講道館7段）が派遣された。

静岡県各地から200名もの会員が参加して講習会は開催された。野田会長の挨拶に続いて講師の紹介があり、早速指導が始まった。最近の国際大会での審判の現状について御自身の体験を基に話しされ、新しい審判規定の解釈について、細かくジェスチャーなどを交えて丁寧に説明して戴きました。



高柳元会長　旭日双光章受章

静岡県柔道協会元会長の高柳喜一さんが平成二十六年秋に旭日双光章を受章され、平成二十七年二月十四日グランドホテル浜松にて祝賀会が開催された。多くの来賓の方々、柔道協会の関係者、先生の母校の静岡県立浜松商業高等学校の関係者、ご親族等三百名弱の参加者があり、高柳先生の受章をお祝いしました。



柔道底辺拡大への取り組み報告

各地区で柔道人口拡大のための取り組み行われています。今回西部地区の取り組みを中心に各地区の取り組みを報告する。

西部地区

第4回めばえの親子柔道教室

今年度の西部地区の親子柔道教室は11月2日（日）午後1時から午後3時30分に浜松市武道館で実施された。講師は溝口紀子先生（静岡文化芸術大学准教授・バルセロナオリンピック銀メダリスト）。今回は日本女子柔道倶楽部の御協力があり、北田典子先生（ソウルオリンピック銅メダリスト）と松川久美子・後藤徳子先生（日本女子柔道倶楽部）も特別に参加していただきました。

最初に開会式があり溝口講師の挨拶があり、北田先生から柔道の「礼」を中心にした講話を聴くことができました。その後ラニングで体をほぐしドッジボールで楽しく汗を流しました。

休憩を挟んだ後半では、後ろ受け身と前受け身を親子で練習しました。その後、持田先生から送り足払いの解説をしていただき打ち込み練習を行いました。足の運びと腕の使い方を練習しました。予定した時間はあっという間に過ぎました。閉会式では、北田先生の音頭で親子向かい合い、子供たちの元気なお礼の言葉が響きました。



参加した約80組の親子と普段道場で指導している指導者も良い汗をかいたことと思います。また、送り足払いの指導も「ハンドルを廻す」腕の使い方参考になったことと思います。

中部地区

親子柔道教室

静岡北部体育館

平成26年11月9日（日）午前10時から正午まで

今回は、本年度から立ち上げた「女子部会」を中心に「親子柔道教室」を実施しました。昨年度を上回る、幼児・小学生・保護者の方々合わせて114名の参加があり、それに女子部会の女性指導者と他の指導者が加わり、総勢129名で賑やかなイベントになりました。

まずは専門のインストラクターによる「誰にもできるエアロビック体操」で心肺機能を働くようにさせ、各所の幼稚園で行われている、コアキッズ体操や回転運動で身体をほぐしました。その後、年齢別・体格別に分かれて、親子でのリクリエーションを交えた運動を行いました。

最後に田中幹事長から、「礼法」の説明があり、粛々とした雰囲気で閉講となりました。「親子でスキンシップが取れたことが何よりです。」との参加者からの声もいただき、女子部立ち上げに花を添えるイベントになりました。

東部地区

エアロビ柔道

今年度も例年のようにエアロビ柔道が沼津市立沼津高校柔道場で開催されました。

平成二十六年度は四月二十三日から開始し、毎週水曜日午後七時～午後八時半まで、週一回のペースで実施しています。会場は例年通り沼津市立高等学校柔道場です。今年度はすでに四十回近く実施しています。参加者は数人の時もありましたが最近では増加しており、三十名を超えることもあります。十代から七十台まで老若男女が楽しく活動しています。地元の新聞にも取り上げてもらい、注目を集めています。（道場紹介のコーナーにもとりあげていますので参考にしてください。）

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

沼津柔道会

②沼津市御幸町15−1
〒410−0832
③〒410−0011
沼津市赤岡宮808−7
055−922−1712
090−1620−5207
④稲木寛男
⑤児童2人、小学生9人、
中学生5人、高校生2人、
大学・社会人20人

⑥道場紹介

戦後焼け野原の荒廃の中で自失と混迷から立ち直る早道は、柔道の普及であるという信念のもと、高田貞治・工藤勝太郎両先生を中心として、東部を中心とした愛好家が立ち上がりました。

昭和二十年十月に（株）国産電機の食堂をお借りして稽古を開始して以来、警察署や倉庫、店舗等を転々としての活動を始めました。各方面から多大な御理解と御支援を戴き昭和二十五年七月に、市場町八幡神社の境内に「沼津柔道館」として始めて本格的道場の建設が実現いたしました。道場開きの式典には嘉納履正講道館長をはじめとして、永岡十段、三船十段などの高段者多数がお祝いに駆けつけてくださる栄誉を賜わりました。その後、沼津市の御協力を得て文化センター内に香陵武道館が建設され「沼津柔道会」と改め青少年の健全育成と柔道普及活動の拠点として、活動してまいりました。

現在は、火・木・土曜日の午後六時半より九時までの練習日には稲木寛男会長を中心にして、約二十名の青少年が集い、土曜日には近在の他道場よりの出稽古者多数が加わり、盛んに汗を流しております。

先人たちの努力と歴史ある道場の名を汚すことなく、次代の若者たちに人盡己（じんこ）の精神を伝えて参りたいと思っております。



エアロビ柔道（沼津市柔道連盟）

②沼津市立高等学校柔道場
③〒410−0012
沼津市岡一色792−2
055−923−1358
④根木谷信一
⑤10代名、40代8名、
50歳以上11名、
年齢不明51名
（平成26年度は一般の
登録者は73名です）

⑥道場紹介

今までの道場紹介とは少し異なりますが、沼津市柔道連盟の根木谷信一先生を中心に実践を続けておられる「エアロビック柔道」を紹介します。根木谷先生が長年の創意工夫で始められ、商標登録をされたのが「エアロビック柔道」です。毎週水曜日、午後七時～午後八時三十分まで市立沼津高校柔道場で行われており、希望する老若男女誰でも自由に参加できます。一回あたりの参加人数は変動がありますが、最近では毎回四十人前後が参加しています。美容と健康と身を守ることを体得できる素晴らしいエアロビック柔道です。

多くの方々が参加されている理由は、とても楽しい、高齢者でもただでトレーニングできるなどで、最高齢者は七十七歳だそうです。興味がある方はぜひ一度見学してください。



柔清会

②清水総合運動場内武道場、
県立清水東高等学校柔道場
③〒424−0047
静岡市清水区鶴舞町4−14−2
電話054−367−5186
④杉山信行
⑤児童0人、小学生17人、
中学生3人、高校0人、
大学・社会人4人



⑥道場紹介

平成19年8月に、柔道が好きで強くなりたい子供たちを集めて道場を立ち上げました。でも、単に柔道が強いだけではなく、厳しい練習の中で強い精神と体力と、相手を思いやるやさしい心を、柔道を通して教えていきたいと練習に励んでいます。

発足当時の人数は三人でしたが、果敢にも団体戦にも出場しました。その中、個人戦では鈴木茉莉さん（現藤枝順心高校）は全国小学生大会では、五年生女子軽量級で三位の成績を残すことができました。その後の中学・高校でも優秀な成績を上げて、東京オリンピック出場が期待できる選手になりました。

現在の生徒は二十名で少人数ではありますが、少人数での良

さを活かして極め細かい指導をしています。また、高校生や中学生も練習に参加して、更なる技術向上を計っています。練習は基本重視のため、小学生では思うような成績は残せませんが、「練習は嘘をつかない」の言葉を胸に将来につながる練習をしています。

練習は毎週月・火・水・金曜日と、隔週土曜日の午後七時～午後九時まで練習をしていますので、元気がありすぎる子や少し優しすぎる子は一度練習を見に来てください。そして柔道を通して心と体を鍛えてみましょう。お待ちしています。

錬正館

②静岡県立清水東高等学校柔道場
③〒424－0044
静岡市清水区江尻台町2－2
054－365－6341
④徳丸明浩
⑤児童5人、小学生20人、中学生16人、高校生2人、社会人2人

⑥道場紹介

平成二十年より有志が集まり活動を始めて今年で七年目になります。

柔道の創始者である嘉納治五郎先生が説いた「精力善用・自他共栄」の精神を基に、柔道の基本である礼儀作法、受身、基本動作を主体とした稽古を行っています。



指導理念としては、日本伝統武道である柔道の精神を学び、現代人が忘れつつある日本の心に触れ、日常の振る舞いやしぐさを大切にし、自らが積極的に日本人としての心の表現ができるようになること目的とした柔道を教えていくことです。

小中学生という人生の価値観に最初に触れ学んでいくこの時期に柔道の教えを通して、生活習慣に「柔道の精神」を取り入れることで、相手を思いやる、ルールを守る、仲間と力を合わせる、我慢する、目標に向かって努力する、勉強や生活態度をしっかりする、素直な心を持つ、目上の人に対しての礼儀、自分のことを思ってくれる人の話しを素直に聞くことができるようになる、ということを学んで欲しいと思います。

森町クラブ
（森町柔道スポーツ少年団）

②森町森・森町中央体育館
③〒437－0211
周智郡森町城下611
0538－85－3730
④小林好己
⑤児童3人、小学生11人、中学生4人、高校生0人、大学・社会人9人

⑥道場紹介

森町柔道教室として昭和二十八年に発足し、森警察署や公民館等で練習をしていました。昭和五十年に森町中央体育館の完成に伴い体育協会に加入し、部員を募集して再スタートをきりました。以来、中央体育館の柔道場を拠点に活動に励んでいます。

しかし、中央体育館老朽化のため取り壊しが決定し、平成二十六年末から使用できなくなりました。新体育館が完成するまでの間、遠江総合高校の武道場をお借りして練習を続けています。

現在は毎週水曜日と金曜日の二回、午後七時から九時まで稽古に励んでいます。「礼儀正しく、忍耐強く、最後までやりぬく」をスローガンに、柔道を通して健全な身体と精神を鍛えています。



また、月に一度程度、近隣地域の他道場との合同練習に参加させていただいています。合同練習では、いつも以上に緊張感を持ち、集中して取組むことができます。

少子化の影響もあり、部員数がなかなか増えないことが課題ですが、日々精進して柔道愛好者の育成を行いたいと思います。

柔心館

②〒432－8047
浜松市中区神田町123
浜松市立江西中学校格技場
③〒432－8047
浜松市中区神田町154
053－442－1380
④酒井義之
⑤児童1人、小学生14人、中学生9人、高校生4人、大学・社会人18人

⑥道場紹介

柔心館は浜松市立江西中学校格技場をお借りして、平成十一年六月九日に小学生から一般の約二十名で発足しました。（当初は「江西柔友会」として発足し平成十七年に改名）



現在、柔心館は小学生・中学生を中心に月曜日・水曜日・金曜日の午後七時～九時まで稽古に励んでいます。

私達は「心・技・体」をモットーに、保護者や相手に対して感謝・思いやりの心を正しい礼法で表すことを学び、体力向上トレーニングをして病気や怪我に強い体を作り、正しい受身と体捌き、そしてしっかりと技をかける稽古を心がけております。

また、五年に一度、試合でのマナーや小学生が行う「投げの形」を重要視した記念柔道大会を開催しており、将来社会に貢献できる人材育成を目指しております。

新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーを継続することができた。全国大会で３位までに入賞した若い選手（高校生以下の選手）を紹介しているコーナーで、今年度は９名の選手が該当した。今回はそのうち８名（男子３、女子５名）を紹介することができる。国際大会で結果を残してくれた選手も多く、今後が期待される。連続して紹介する選手もおり、「新人」ではないかもしれないが順調に成長している様子が伺われる。



澤崎凛さん
（清水町柔道会）

全日本小学生学年別柔道大会
小学5年生女子40kg超級優勝

澤崎さんが柔道を始めたきっかけは「父と姉の影響」ということで、柔道一家のようです。

今回の優勝については、「非常にうれしかったのですが、まだまだ課題がありました。この優勝で満足する事なく、来年も優勝できるように毎回の練習を大事にしていきたい。」と浮かれる事無く、来年を見据えています。

本人も言っているように、当然来年の全国大会優勝（連覇）が目標でしょう。さらにその先に「２０２０年東京オリンピック優勝」と大きな夢を持っているそうです。

指導者からは「今回の結果に満足せず、将来もっと大きな舞台で活躍できるように成長してほしい。」とエールを贈られています。



安竹真利奈さん
（東海大学翔洋高校）

全日本カデ柔道体重別選手権大会女子63kg級３位

昨年も紹介しましたが、安竹さんが柔道を始めたきっかけは「父が柔道の先生だったため。」ということです。

今回の入賞については「中学３年の時、東海大会で勝てなかった相手にこの大会では勝つことができたので嬉しかったです。しかし、全国大会の準決勝で敗れた相手には全く歯が立たなかったので、納得はいきませんでした」と成長と課題を感じているようです。

今後の夢は「今まで以上に努力して、技やスピード・パワーを身につけ日本一になりたい。」と今回果せなかった「日本一」の夢をかなえたいという強い意志を見せてくれています。

指導者されている古内コーチからは「中学生の時に全国３位という結果で、カデに出場する権利を自らの手で掴み取り、次のステージで戦うことができました。結果としては３位でしたが、今の力が試された良い試合だったと思います。次はジュニアというステージで戦っていけるよう毎日精進してほしいと思います。」と暖かい言葉を贈られています。



水野瑚春さん
（藤枝順心高校）

全日本カデ柔道体重別選手権大会女子63kg級３位

水野さんが柔道を始めたきっかけは「友人に誘われて始めました。」ということで、本当に良くあるケースです。

今回の入賞については、「試合の内容が悪く、自分の力が出せなくて悔しかったです。」ということで、満足していないようです。

今後の目標は「日本一になること。」と力強く語っています。



鈴木茉莉さん
（藤枝順心高校）

全日本カデ柔道体重別選手権大会女子44kg級優勝

鈴木さんはこのコーナーの常連で、昨年は世界でも活躍しています。昨年紹介しましたが、鈴木さんが柔道を始めたきっかけは「兄がやっていたから。」という、ごく普通の理由です。

今回の優勝については「良い試合をすることができなかったので悔しかった。」と試合結果ではなく、試合の内容を厳しく見つめています。

今後の夢は、「日本一になること。」自分の足元をしっかり見つめています。





谷川美歩さん
（藤枝順心高校）

全国高等学校総合体育大会柔道競技女子57kg級優勝

谷川さんが柔道を始めたきっかけは、「兄と姉の練習に一緒に付いて行ったら、道場の先生に誘われて始めました。」ということです。

今回の優勝については、「優勝した時は、とても嬉しかったです。」と素直に喜びを語ってくれました。

今後の夢は、「試合や練習で見つかった課題を一つでも多く克服していき、世界で勝てるような強い選手になりたいです。」と控えめですが力強く語ってくれました。





大橋海斗さん
（三島市立錦田中学校）

全国中学校体育大会柔道競技男子90kg級3位

大橋君が柔道を始めたきっかけは、「親の知人に勧められたから」ということで、知人に『見る目』があったと思います。

今回の結果については、「今回の大会が終わり3位という結果でしたが、決して満足のいく結果ではありませんでした。しかし、この3位は次につながる3位だったと思います。全国の強豪と戦い準決勝で優勝者と試合することができ、自分の新たな課題を見つけることができ、とても良い経験になりました。」と、冷静に克前向きに分析しています。

今後については、「中学で取れなかった日本一を目指し、高校で精進していきます。」力強く決意を語ってくれました。

柔道部の顧問、三枝先生からは、「大橋君は天才というより、努力の天才です。中学校の部活動では部長として23人の部員をまとめ、本当によくがんばりました。部活動が終わると道場の練習へ、更に兄が通う高校へも出稽古に行きました。練習では決して手を抜かず、誰よりも真剣に取り組む姿勢が彼を強くしていったのだと思います。２０２０年の東京オリンピックを目指して頑張っていってほしいものです。」と期待の言葉を贈られています。



佐野安大さん
（静岡学園高校）

全国高等学校柔道選手権大会男子81kg級3位

佐野君が柔道を始めたきっかけは、「兄が柔道をしていたので、その影響で柔道を習い始めました。」ということで、やはり兄弟の影響です。

今回の入賞に関しては、「全国3位に入賞できたことは嬉しいことですが、優勝者に完敗したことで自分の力の無さを感じ悔しかった」と、喜びよりも、悔しさの方が勝っているようです。

今後については、「大学で、再び全国大会に出場し、今度こそ日本一になりたい。」と大きな目標を持っています。

渡邉柔道部顧問からは、「柔道に対して情熱は強く、何事にも最後までやり抜くことができる生徒です。けっして柔道のセンスが高いわけではないが、努力することで補っている。文武両道を貫いている生徒であり、静岡学園の中学校に入学して以来六年間常にクラスでもトップを維持している。今後も柔道を続けていくので、ぜひとも目標である『日本一』を達成して欲しい。」と大きな期待を寄せられています。



山田知輝さん
（東海大学翔洋高校）

全国高等学校総合体育大会柔道競技男子81kg級3位

山田君が柔道を始めたきっかけは「兄が最初にやっていて、道場に親と姉と自分で見に行ったときに、親に勧められて柔道を始めた。」という、良くあるケースであるが、本当に始めてよかったと思う。

今回の全国大会入賞に関しては、「個人戦で初めて全国大会に出場できた。最終学年でもあるので、絶対に優勝するという気持ちで大会に臨んだ。しかし、結果は3位だった。優勝することはできなかったが、全国大会で3位に入賞できたことはすごくうれしいです。」と素直に喜びを語ってくれました。

今後は大学に進学し、柔道を続け大学では日本一になるという目標を持っており、さらに２０２０年の東京オリンピックに出場し優勝するという大きな夢も持っている。夢の実現を目指して頑張ってほしい。

古内コーチからは、「チームのエースとして成長してきて、県で優勝したときにはうまくいけばもしかしたら（全国で勝てる）とは感じていました。結果は3位入賞でしたが、本人にとって良かったと思います。しかし、ここからが本当の勝負、大学に進学してもっともっと強くなってくれることを期待しています。」と山田君にエールを贈られています。

訃報



池上耐事　八段

中部地区で永年活躍された池上耐事八段は、平成二十六年十月二十一日逝去されました。七十九歳でした。先生は東海大学第一中学校を卒業後、静岡県立静岡工業高等学校へ入学。この頃から柔道を習い始め初段、二段、三段と一年間隔で昇段、静岡刑務所刑務官、その後日本鋼管株式会社清水製作所に勤務され、全日本柔道選手権大会へは四回出場し東京体育館を沸かせました。国民体育大会にも鎌倉国体から岐阜国体まで十回出場し、この間アジア大会、全日本東西対抗などにも出場、静岡に池上ありと名を轟かせました。また、優秀選手賞や功労賞を日本体育協会、静岡県知事、静岡県柔道協会、全日本実業柔道連盟、全国造船工業会等から受賞され、そして静岡県柔道協会理事、旧清水市体育協会常任理事、東海柔道連合会評議員などの要職を務めました。合気道にも精通され、養神館合気道五段の腕前でした。

先生のご冥福を祈り、我々一丸となって中部地区の柔道発展をお誓い申し上げます。

合掌

（静岡県柔道協会中部地区幹事長　田中秀幸）



山之内良彦　六段

裾野柔道協会会長、講道館柔道六段山之内良彦先生が去る平成二十六年十月十日、享年七十三歳をもってご逝去されました。

山之内先生は、長崎県の生まれで十三歳で柔道を始められ、長崎県立佐世保商業高校時代は柔道部に入部し、常に県大会出場を果され、昭和三十四年柔道特待生として大阪の三菱電機株式会社に就職し、実業団の柔道で活躍されました。そして、昭和三十七年より裾野に住居を移し、裾野柔道協会の選手並びに役員として、県柔道祭では三位三回、県スポーツ祭では優勝二回、準優勝、三位各一回、東部柔道祭では優勝、準優勝各一回、三位二回という素晴らしい成績を残しておられます。団体戦の選手として活躍するだけでなく、柔道の普及や青少年の育成にご尽力され、現在まで裾野柔道協会会長としての重責を果しておられました。

また、昭和四十年より東部地区役員として四十九年間に亘り、数多くの大会において審判などを務められ大会運営にも積極的に貢献されました。平成二十四年からは参与として多くの方々の信望を集めておりました。

柔道関係者はもとより、多くの方々から慕われていた先生のご冥福を心からお祈りいたします。

合掌

今富孝憲

静岡県柔道協会指導者心得

1　指導に当たっては、暴力行為・パワハラ行為は一切行ってはならない。

2　日頃から危機管理に留意し、事故・怪我等が発生した場合には最善かつ適切な処置をする。

3　家庭との連絡を定期的に行い、子どもや生徒の健康状態等の把握に努める。

4　柔道の素晴らしい伝統文化を伝えるため、常に修養と研鑽を怠らない。

平成25年4月21日静岡県柔道協会

「暴力の根絶」についての静岡県柔道協会の対応

Ⅰ組織

暴力根絶委員会（専門委員会として）を設置する

Ⅱ委員会の構成

1委員会の構成14名

委員長1名　県柔道協会会長

副委員長2名　県柔道協会理事長　県少年柔道連絡協議会会長

委員11名　県柔道協会幹事長3　事務局長　県少年柔道連絡協議会地区役員3　女性代表　中学代表　高校代表　大学代表

※幹事長・学校代表は該当地区や代表・道場連盟役員・女性女性問題・種別に係る場合だけ協議に加わる。なお、重大な事案が発生した場合は原則として14名全員で協議を行い、全柔連に報告する。

Ⅲ窓口（4箇所）

幹事長宅（3箇所）事務局長宅

Ⅳ対応

1窓口に通報があった場合は

（1）「通報者の状況調査書」により事情聴取する。

（2）全て副委員長（理事長）に報告し、状況により委員会の開催を依頼する。

2中学・高校・大学の教員が該当する場合には、当該学校の管理職に報告し指導を任せる。

3部活動等の外部指導者が該当する場合には、部活動顧問に報告し対応を学校に任せ、なおかつ委員会で指導内容を決定する。

4大会等で見聞きした場合には、副委員長（理事長・道場連盟会長）が種別（小・中・高・大）の協力を得て事情聴取する。

※ただし、以上1～4のいずれも処分を行った場合、全柔連報告書に記載し、全柔連および通報者に連絡する。

Ⅴ周知の方法

1大会プログラムに掲載し、開会式で説明する。（保護者に周知する）

2手引書に掲載

3柔道しずおかに掲載

4その他

編集後記

静岡県柔道協会にとって平成26年度は重要な年になったと思う。野田新会長が就任し、新しい体制でスタートし、多方面で機構改革を行っている。柔道人口減少、柔道指導者の暴力問題、柔道事故の問題と、全国的に大きな問題が続く柔道界を地方からどう立て直していくことができるか、静岡県の新しい取組が始まった。静岡県の柔道関係者全員で力を合わせて嘉納治五郎先生の柔道を発展させていきましょう。

第19号

柔道しずおか

平成28年3月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒431-3114　浜松市東区積志町1503　伊藤武治
TEL　090-1473-4136　FAX　053-589-3000
http://www.geocities.jp/shizuokajudo/

【巻頭言】

人間教育としての柔道指導

静岡県柔道協会副会長　八段　田中秀幸



平成二十六年四月から川中邦夫氏の後任として中部地区幹事長に選任され、また県副会長の重責を負うこととなり今日まで歩んでまいりました。県都静岡市を抱える中部地区は静岡県の中心であり、新幹線で東京へ一時間という東海道の要所でもあります。神奈川県横浜市に生まれ育った私は、縁あって静岡の地に生活して五十年になりました。中学一年生から習い始めた柔道ですが、始めは高校ぐらいまでやって止めようかなどと考えていたのですが、現在も関わっており近々六十年になろうとしています。こんなに長くやることになろうとは夢にも思ってなく、やはり柔道が好きだったのでしょう。今も県役員として引き続き活動の場を与えられ、大会や会議などで皆さんとお会いできるのが楽しみです。

私の柔道指導のモットーは「人間教育・人間形成」です。父が小学校教員だったこともあり、少年の頃は「教員になれたら良いな」と思っていました。運よく国立の教員養成の体育学部を有する大学に入学でき、将来は教員として生きていこうと決めました。学生時代四年間は強くなりたい一心で柔道に汗を流していました。四年生も卒業間近になった頃、ゼミ研究室の大瀧先生から「静岡大学で定年となる大蝶先生の後任として赴任しないか」との話しがあり、これが静岡へ赴任する始まりでした。

教員は他の職業人と比べ比較的自由な時間があり、特に大学人はその傾向が強いと思います。その大学人である私がやらずして誰がやるのか、と思い特に部活顧問・社会体育に重点を置き、私から柔道を取ってしまったら何も残らない、の気持ちで頑張りました。四十代後半から形に関心を持ち、講道館夏期講習会へ出向き一週間教えを受けました。やればやるほど奥が深く、生涯柔道としてこれからは形がクローズアップされる時代が来るだろうと考えて精進しました。七種類の形があり、それらを一つ一つ忘れないように身につけておくのは大変な努力を要します。今は競技化され全国大会、世界大会まで開催されるようになり、本協会では「全国「形」競技会へ出場するための対策」をその重点目標の一つに掲げ、選手強化に取組み始めたところです。

柔道を習い始める人々の動機・目標は様々です。年齢、性別、性格、体格、体力、運動能力、生活環境など千差万別です。そして個々人のニーズを満たす指導を施してあげなければなりません。そしてこの人にはこの指導法、この人にはこれというように多くの引出しを持っていなくてはなりません。そのために指導者は日々勉強で、いろいろな機会を捉えて研鑽を深める必要があります。フランスの元サッカー代表・ロジェルメール氏の「我々は学ばなくなったら教えるのもやめなければならない」の言葉は怠けようとする気持ちを励まします。柔道がうまく強くなりたい、健康になりたい、体力をつけたい、友だち（仲間）を見つけたい、護身法を身に付けたい、礼義正しくなりたいなど、その望む所（目標）へ運んであげる馬車（コーチ）の役割をするのが指導者の任務なのです。全柔連では柔道指導者資格制度を立ち上げ、各県などで資格養成、資格更新の講習会を開催して指導力向上に力を注いでいます。柔道の知識、基本、技術、練習法などの他に、安全指導、救急法、経営学、心理学、生理学、解剖学、身体運動学などの多くを学ぶことが出来ます。柔道を通して「人としてのあり方、生き方」について教え導くことも人間教育の一方法なのだと思いつつ今日も黒帯を締め道場に立っています。

第70回 国民体育大会柔道競技 報告

第70回国民体育大会柔道競技は、平成27年10月3日から和歌山県和歌山市和歌山ビックウェーブ体育館において開催されました。

東海ブロック予選では、成年女子が全勝で出場枠を獲得することができ、成年男子・成年女子と東京大会以来の複数チームの出場となりました。

今回の成年男子は、静岡県警察の単独チームとなり、選手選考会では、今まで国体チームを支えてきた県警の増田・小椋・真野選手を破り、新旧交代を思わせる若い選手で構成されました。山下諒輔選手は、全国警察大会81kg級2連覇（平成26・27年度）、大木恭介選手は、全国大学選手権66kg級で2位という実力のある選手を中心にしたチームです。成年女子は、東京大会では堂々の準優勝を達成した金田選手、土屋選手を中心に、チームワークを大切に、5位入賞を目標に掲げ大会に臨みました。

和歌山国体スタッフ

強化部長	石川裕章	石川接骨院
総監督	古川剛士	静岡県柔道協会
トレーナー	赤池　理	アカイケ鍼灸接骨院
総務	佐野　薫	静岡商業高校教諭
総務	伊藤貴能	浜松湖北高校教諭
総務	磯部拡美	清水桜が丘高校教諭

成年男子

監督	間宮幸男	浜松学院高校教諭
コーチ	根本哲郎	静岡県警察
先鋒（60kg級以下）	岡本健吾	静岡県警察
次鋒（73kg級以下）	大木恭介	静岡県警察
中堅（90kg級以下）	久松達斗	静岡県警察
副将（90kg超級）	飯沼元記	静岡県警察
大将（無差別）	山下諒輔	静岡県警察

成年女子

監督	西川勝啓	裾野高校教諭
コーチ	宮本昌人	常葉学園高校教諭
先鋒（52kg級以下）	金田結花	ＶＩＬＬＡＧＥ
中堅（70kg級以下）	村瀬由樹	静岡県警察
大将（無差別）	土屋文香	ヤックス

成年男子

静岡県2－3福井県

先鋒　岡本健吾（県警）㊀－山口嗣也（大阪体育大学）

両者喧嘩四つの攻防となり、相手の肩車で有効を先取されるも、その後、果敢に攻め、残り時間30秒となり、浮技で技ありを取り返すことができた。

次鋒　大木恭介（県警）○－増田侑矢（京葉ガス）

共に左組みで、積極的に攻め指導1、脇より左奥を取り得意の組手になり相手を腰に乗せ、大腰を仕掛け一本となりリードを広げた。

中堅　久松達斗（県警）－Ⓚ近藤拓也（京葉ガス）

講道館杯優勝の実力者相手に攻めるも、両者に指導。その後は慎重に試合を進めるも指導を追加され、指導差2で敗退する。

副将　飯沼元紀（県警）－○西村久毅（敦賀高校教諭）

全日本選手権出場の試合巧者相手に攻め、右組の相四つで技を仕掛けた所を裏投げに返され有効。その後大腰で技ありを取られた。取り返そうと果敢に攻めるも、一瞬の隙を突かれて一本背負いを受け、懸命にこらえたがこらえきれずに一本となった。2対2の同点ながら内容差でリードして大将戦を迎えた。

大将　山下諒輔（県警）－Ⓚ二谷修平（福井県警察）

大将戦に全てをかけ、試合場に送り出し息をのみながら勝負の行方を見守っていた。前半は試合展開を意識しながら左組でがっぷりと組み間合いを取ったが、技の繰り出しがやや慎重になり、双方に指導が与えられた。後半体格差があり持久戦が展開されたが、ディフェンシブな山下選手に指導2、残り30秒で指導3が付き、敗退が決まった。

先鋒・次鋒でリードをし、流れを作ったが、後半僅差の勝負となってしまいました。相手を圧倒するくらいの絶対的力がチームに勝ちを呼び寄せるためには必要かと思われます。本年度は若いチームで、体力的にも技術的にもこれからまだまだ伸びる要素はあると実感しました。

2年後には本大会も大きく変わり、成年男子も東海地区予選からの出場となり、国体女子チームの編成も、1チーム5人制となり高校生・社会人合同のチームとなります。したがって、高校生・大学生（ふるさと登録）等、若年層を広く取り込み更なる強化が急務かと思います。

関係各位に感謝申し上げますと共に、平成28年岩手国体での活躍を誓い、大会結果の報告とさせていただきます。（文責　浜松学院高等学校教諭　間宮幸男）

成年女子

八月に開催された東海ブロック予選では、成年女子が愛知、三重、岐阜との対戦で失点なしの三戦全勝で二年振りに一位通過し本国体出場を決めました。

成年女子の選手は先鋒金田結花（ＶＩＬＬＡＧＥ）中堅村瀬由



樹（静岡県警察）大将土屋文香（ヤックス）の三名です。チームワークが良く東海大会を見事突破し、全国大会でも活躍が期待される楽しみなチームでした。

一昨年の国体東京大会（平成25年）の準優勝のメンバーの金田、土屋選手も今回出場しており期待は高まっておりましたが、各ブロック地区を勝ち上がってきた十六チームは強豪ばかりです。一回戦は埼玉県との対戦で、厳しい試合となりました。埼玉はすべて自衛隊の体育学校の選手を揃えていました。三選手とも全日本のトップレベルの選手です。

先鋒の金田選手の対戦相手は、十田美里選手です。十田選手とは以前練習した経験があることから慎重になりすぎてしまい、指導を二つ取られ、僅差での敗戦となりました。先鋒としていい流れを作ろうと必死に戦ってくれました。

中堅の村瀬選手の対戦相手は、本県三島市出身の平井希選手です。受けも強く前半は攻めることが出来ずに相手の様子を窺う時間がありました。後半は攻め続けポイントこそ奪えませんでしたが、いい試合をしてくれました。

大将の土屋選手の対戦相手は、濱田尚里選手です。先鋒で取られたポイントを取り返そうと攻め続けてくれましたが、取り返せず引き分けとなり静岡県の敗戦が決まりました。試合での実力差はほとんど無く残念な結果となりましたが静岡県代表として一生懸命戦ってくれました。

対戦相手の埼玉県は勝ち上がり準優勝しました。来年度第71回国民体育大会柔道競技は、岩手県久慈市で行われます。東海ブロック大会を突破して本大会出場を目指したいと思います。（文責　裾野高校教諭　西川勝啓）



第36回国体東海ブロック大会

平成27年8月23日（日）三重県名張市

少年男子

監督　小柳津敬博（東海大学付属静岡翔洋高校教諭）
コーチ　渡辺直樹（静岡学園高校教諭）
先鋒　芹沢翔哉（静岡学園高校）
次鋒　塚本瑠羽（東海大学付属静岡翔洋高校）
中堅　石岡裕樹（東海大学付属静岡翔洋高校）
副将　米山竜平（東海大学付属静岡翔洋高校）
大将　川井康平（静岡学園高校）
補欠　佐藤威基（東海大学付属静岡翔洋高校）

成年女子

監督　西川勝啓（裾野高校教諭）
コーチ　宮本昌人（常葉学園高校教諭）
先鋒　金田結花（ＶＩＬＬＡＧＥ）
中堅　村瀬由樹（静岡県警察）
大将　土屋文香（ヤックス）

少年女子

監督　沼野由香利（藤枝順心高校教諭）
コーチ　宮本昌人（常葉学園高校教諭）
先鋒　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
中堅　谷川美歩（藤枝順心高校）
大将　今　唯（藤枝順心高校）
補欠　水野瑚春（藤枝順心高校）
補欠　伊藤七海（藤枝順心高校）

成年女子　静岡県２－０三重県
静岡県３－０岐阜県
静岡県２－０愛知県
３勝　１位　静岡県が本大会出場

少年男子　静岡県２－３三重県
静岡県３－０岐阜県
静岡県１－２愛知県
１勝２敗　３位　愛知県が本大会出場

少年女子　静岡県２－１三重県
静岡県２－１岐阜県
静岡県０－３愛知県
２勝１敗　２位　愛知県が本大会出場

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

第57回 静岡県柔道祭開催

平成27年11月22日（日）
午前９時30分開始
静岡県武道館

今年の静岡県柔道祭は例年と異なり、秋の実施となった。会場は恒例の県武道館で開催された。静岡県柔道協会の野田昭一会長からのあいさつに続き、今年は清水町柔道会の澤崎凛さんにより選手宣誓が行われた。澤崎さんは平成27年度全国小学生学年別柔道大会６年女子45kg超級３位に入賞した選手である。澤崎さんの選手宣誓に続き、恒例の柔道協会表彰が行われ、次の方々が表彰された。

《特別功労賞》

該当者なし

《永年功労賞》

該当者なし

《功労賞》

杉山元彦　七段
古川隆士　六段
橋口　渉　五段
外山幸久　五段
山下朝司　五段
佐野義幸　四段

《優秀指導者賞》

該当者なし

《優秀選手賞》

伊藤七海　女子初段（藤枝順心高校）
平成27年度全国高等学校総合体育大会柔道競技女子78kg級３位
澤崎　凛（清水町柔道会）
平成27年度全国小学生学年別柔道大会６年女子45kg超級３位
杉山月琉（清水町柔道会）
平成27年度全国小学生学年別柔道大会６年女子45kg級３位
山下諒輔　３段（静岡県警察）
平成27年度全国警察柔道選手権大会男子81kg級優勝
大木恭介　３段（静岡県警察）
平成27年度全国警察柔道選手権大会男子66kg級３位
村瀬由樹　女子３段（静岡県警察）
平成27年度全国警察柔道選手権大会女子63kg級２位

谷川美歩　女子初段（藤枝順心高校）
第37回全国高等学校柔道選手権大会女子57kg級優勝
（谷川選手は表彰ずみ）



今年度は表彰に続き「形」の演技が披露された。投げの形は、「取」渡辺銀士（伊豆長岡柔道会）、「受」大矢仁太（伊豆長岡柔道会）、「古式の形」「取」渡辺達也七段、「受」磯部正博八段が務めた。投げの形の2人は全国大会に出場し、古式の形の2人は全国2位の実力者である。見事な形が披露された。その後試合が開始された。毎年のことではあるが、小学生から一般まで県内の柔道選手が一同に集まる唯一の大会で、観客席から大きな声での声援が送られ県武道館は大いに盛り上がっていた。



第57回静岡県柔道祭成績

小学生の部
優勝　清水町柔道会
2位　柔好会
3位　清水柔道倶楽部
　　神士館

中学男子の部
優勝　浜松市立高台中学校
2位　浜松市立引佐南部中学校
3位　東海大学付属静岡翔洋高校中等部
3位　神士館

中学女子の部
優勝　藤枝順心中学校
2位　浜松市立浜北北部中学校
3位　東海大学付属静岡翔洋高校中等部
3位　浜松市立積志中学校

高校男子の部
優勝　静岡学園高校
2位　東海大学付属静岡翔洋高校
3位　浜松商業高校
3位　加藤学園高校

高校女子の部
優勝　東海大学付属静岡翔洋高校
2位　藤枝順心高校
3位　富士市立高校
3位　浜北西高校

一般の部
優勝　富士市柔道会
2位　高柳喜一商店
3位　SC柔道会
3位　浜北柔道協会

優秀選手

小学生の部
佐々木愛海（清水町柔道会）
荒　誠人（柔好会）

中学男子の部
伊藤栄都（高台中学校）
福田力斗（引佐南部中学校）

中学女子の部
米川明穂（藤枝順心中学校）
袴田佳名瑚（浜北北部中学校）

高校男子の部
池田光洋（静岡学園高校）
渋谷恭英（東海大学静岡翔洋高校）

高校女子の部
杵淵　萌（東海大学静岡翔洋高校）
伊藤七海（藤枝順心高校）

一般の部
相楽暢貴（富士市柔道会）
坂中慎吾（高柳喜一商店）

各種大会の報告

第35回静岡県少年柔道団体選手権大会

平成27年2月22日（日）
静岡県武道館

優勝　柔好会
2位　清水柔道倶楽部
3位　伊豆長岡柔道会
3位　育誠館道場

形競技大会

平成27年3月7日（土）
静岡市北部体育館

固めの形
加藤勝大　長根翔太
柔の形
稲川郁子　阿部恭子
護身術の形
安竹克好　渡邉武彦
五の形
小林賢治　小笠原淳
古式の形
渡辺達也　磯部正博

平成27年度全日本柔道選手権大会、第30回皇后杯全日本女子柔道選手権大会東海地区予選

平成27年3月8日（日）
浜松市武道館

男子
滝川英克（静岡県警察）
予選リーグ敗退
山下諒輔（静岡県警察）
優勝　全日本選手権大会出場

女子
村瀬由樹（国際武道大学）
決勝リーグ3位
土屋文香（東海翔洋クラブ）
決勝リーグ4位

第37回全国高等学校柔道選手権大会

平成27年3月20日（金）21日（土）
日本武道館

男子団体
静岡学園高校（1人残し）○木更津総合高校（千葉）
初戦敗退

女子団体
藤枝順心高校0－0（代表戦）○夙川学院高校（徳島）
初戦敗退

男子個人
60kg級　芹沢翔哉（静岡学園高校）
初戦敗退
73kg級　塚本瑠羽（東海大学付属静岡翔洋高校）
3回戦進出
81kg級　石岡裕樹（東海大学付属静岡翔洋高校）
2回戦進出
90kg級　鈴木隆聖（加藤学園高校）
初戦敗退
無差別級　川井康平（静岡学園高校）
3回戦進出

女子個人
52kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
5位入賞

57kg級　谷川美歩（藤枝順心高校）　優勝
63kg級　今　唯（藤枝順心高校）　初戦敗退
70kg級　米山綾乃（富士市立高校）　初戦敗退
無差別級　伊藤七海（藤枝順心高校）　2回戦進出

全日本柔道選手権大会

平成27年4月29日（水・祝）
日本武道館

山下諒輔（静岡県警察）選手出場
1回戦
山下諒輔（静岡県警察）○－法兼　真（愛媛県新田高校教諭）
2回戦
山下諒輔（静岡県警察）－○上田　轄麻（明治大学学生）

第35回全国少年柔道大会

平成27年5月5日（火・祝）
講道館

団体戦
1回戦
柔好会　4－0高橋道場（山形県）
2回戦
柔好会　0－2柔心館道場（鹿児島県）

第62回東海高等学校総合体育大会柔道競技

平成27年6月20日（土）21日（日）
静岡県武道館

男子団体
東海大学付属静岡翔洋高校　3位
男子
60kg級
優勝　芹沢翔哉（静岡学園高校）
66kg級
2位　荒井大成（東海大学静岡翔洋高校）
73kg級
優勝　塚本瑠羽（東海大学静岡翔洋高校）
2位　石神倫哉（静岡学園高校）
81kg級
3位　飯川夢二郎（飛龍高校）
90kg級
3位　佐々木健友（東海大学静岡翔洋高校）
100kg級
3位　米山竜生（東海大学静岡翔洋高校）
100kg超級
2位　井川康平（静岡学園高校）
女子
48kg級
優勝　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
52kg級
3位　成宮妃世梨（藤枝順心高校）
57kg級
優勝　谷川美歩（藤枝順心高校）
63kg級
2位　今　唯（藤枝順心高校）
70kg級
3位　安竹真利奈（東海大学静岡翔洋高校）
78kg級
2位　伊藤七海（藤枝順心高校）
78kg超級
3位　上田莉圭（藤枝順心高校）

東海地区国立大学体育大会柔道競技

平成27年6月27日（土）
静岡市北部体育館

男子団体
3位　静岡大学
女子個人
2位　大橋知紗（静岡大学）

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

平成27年7月4日（土）
静岡県武道館

男子
55kg級　秩父良亮（飛龍高校）
60kg級　芹沢翔哉（静岡学園高校）
66kg級　望月飛翔（静岡産業大学）
73kg級　嵩井稜太（日本大学三島高校）
81kg級　石岡裕樹（東海大学静岡翔洋校）
90kg級　鈴木隆聖（加藤学園高校）
100kg級　米山竜生（東海大学静岡翔洋高校）
100kg超級　川井康平（静岡学園高校）
東海大会優勝全国大会出場
女子
44kg級　辻村日奈野（浜松学院高校）
48kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）
東海大会優勝全国大会出場
52kg級　日高美春（藤枝順心高校）
57kg級　谷川美歩（藤枝順心高校）
63kg級　今　唯（藤枝順心高校）
70kg級　嘉地唯花（藤枝順心高校）
78kg級　伊藤七海（藤枝順心高校）
78kg超級　楠　麻衣（加藤学園高校）

なお、東海大会は7月12日（日）愛知県武道館、全国大会は9月12日（土）13日（日）埼玉県にて開催された。

平成27年度静岡県成年柔道体重別選手権大会

平成27年7月18日（土）
静岡県武道館

成年男子
60kg級　岡本健吾（静岡県警察）
73kg級　大木恭介（静岡県警察）
90kg級　久松達斗（静岡県警察）
無差別級　飯沼元紀（静岡県警察）
成年女子
52kg級　金田結花（ＶＩＬＬＡＧ）
70kg級　村瀬由樹（静岡県警察）
無差別級　土屋文香（ヤックス）

東海地区「形」競技会

平成27年7月5日（日）
三重県

投の形
渡部成也　佐藤邦洋
東海地区優勝　全国9位
固の形
加藤勝大　長根翔太
極の形
小椋俊彦　鈴木慎一
柔の形
稲川郁子　阿倍恭子
講道館護身術
安竹克好　渡邉武彦
五の形
小林賢治　小笠原淳
古式の形
磯部正博　渡辺達也

第64回全国高等学校柔道大会

平成27年8月8日（土）12日（水）
奈良県

男子団体戦
1回戦
東海大学静岡翔洋高等学校2－1小杉高校（富山県）
2回戦
東海大学静岡翔洋高等学校0－4作陽高校（岡山県）
女子団体戦
1回戦
藤枝順心高等学校1－2淑徳学園高等学校（兵庫県）
男子
60kg級　芹沢翔哉（静岡学園高校）　3回戦進出
66kg級　荒井大成（東海大学静岡翔洋高校）　5位入賞
73kg級　塚本瑠羽（東海大学静岡翔洋高校）　3回戦進出
81kg級　飯川夢二郎（飛龍高校）　2回戦進出
90kg級　佐々木健友（東海大学静岡翔洋高校）　初戦敗退
100kg級　米山竜生（東海大学静岡翔洋高校）　2回戦進出

100kg超級　川井康平（静岡学園高校）　初戦敗退

女子
48kg級　鈴木茉莉（藤枝順心高校）　初戦敗退
52kg級　成宮妃世梨（藤枝順心高校）　3回戦進出
57kg級　谷川美歩（藤枝順心高校）　5位入賞
63kg級　今　唯（藤枝順心高校）　初戦敗退
70kg級　安竹真利奈（東海大学付属翔洋高校）　初戦敗退
78kg級　伊藤七海（藤枝順心高校）　3位入賞
78kg超級　上田莉圭（藤枝順心高校）　初戦敗退

※各階級県大会優勝者、優勝チームが全国大会に出場している。

平成27年度東海中学校総合体育大会柔道競技

平成27年8月9日（日）10日（月）　三重県

男子団体
3位　東海大学静岡翔洋高校中等部

女子団体
2位　浜松市立浜北部中学校
3位　東海大学静岡翔洋高校中等部

男子
50kg級
3位　山田空河（浜松市立都中学校）
55kg級
3位　石川聖人（静岡学園中学校）
60kg級
3位　菊池　魁（日大三島中学校）
66kg級
2位　伊藤栄都（浜松市立高台中学校）
81kg級
3位　依田紘希（日大三島中学校）
90kg級
3位　酒井颯介（浜松市立積志中学校）

女子
40kg級
2位　大石紋萌（静岡市立観山中学校）
44kg級
3位　小林美咲（沼津市立沼津中学校）
48kg級
3位　松野愛瑠（浜松市立浜北部中学校）
52kg級
3位　袴田佳名瑚（浜松市立浜北部中学校）
57kg級
3位　袴田芽久望（浜松市立浜北部中学校）
63kg級
3位　岩井柚里香（東海大学静岡翔洋高校中等部）
70kg級
優勝　澤崎莉子（東海大学静岡翔洋高校中等部）
70kg超級
優勝　米川明穂（藤枝順心中学校）
2位　楠　明日香（伊豆の国市立長岡中学校）

第40回全国教員大会

平成27年8月1日（土）　講道館

監督　藤田明啓（県立浜松北高校）
先鋒　鈴木壮太（県立御殿場高校）
次鋒　川端常弘（県立湖西高校）
中堅　井口往彦（県立浜北西南高校）
副将　杉原正洋（私立浜松学院中学校・高校）
大将　土屋彰裕（湖西市立鷲津中学校）

1回戦　シード
2回戦　静岡県3－2栃木県
3回戦　静岡県0－2長崎県

監督が新居高校の大原先生から再び浜松北高校の藤田先生に代わり、新しいメンバーを加え全国大会に出場しました。初戦は先鋒から3人が勝利し、チームの勝利を決めました。3回戦も前半は引き分けが続きわどい勝負でしたが、後半2人で力尽きました。各先生方がこの大会で得ることができた貴重な経験を、勤務される学校での指導に役立てていただければと思います。

第46回全国定時制通信制柔道大会

平成27年8月2日（日）　講道館

男子団体戦
1回戦　静岡県5－0石川県
2回戦　静岡県3－1大阪府
3回戦　静岡県0－5神奈川県
ベスト8進出

女子団体戦
1回戦　シード
2回戦　静岡県1－2福岡県

男子個人戦
65kg級　大川裕生（三島長陵高校）　2回戦進出
75kg級　根岸大智（小山高校）　初戦敗退
75kg超級　山口未来（倉橋学園高校）　3回戦進出（ベスト8）

女子個人戦
52kg級　瀧本光咲（クラーク国際高校浜松校）　初戦敗退
63kg級　川津サユリ（富士高校）　初戦敗退

第46回全国中学校柔道大会

平成27年8月17日（月）～20日（木）　北海道函館市

男子団体戦
東海大学付属静岡翔洋高校中等部1－2曽根中学校（福岡県）

東海大学付属静岡翔洋高校中等部4－1村山楯岡中学校（山形県）
予選リーグ敗退

女子団体戦
東海大学付属静岡翔洋高校中等部2－0花巻大迫中学校（岩手県）
東海大学付属静岡翔洋高校中等部2－0足利第一中学校（宮城県）

決勝トーナメント
1回戦
東海大学付属静岡翔洋高校中等部1－2広陵中学校（奈良県）

個人戦
男子
50kg級　石川俊介（函南中学校）　2回戦進出
55kg級　石川聖人（静岡学園中学校）　初戦敗退
60kg級　井出海輝（大渕中学校）　2回戦進出
66kg級　村松孝紀（東海大学付属静岡翔洋高校中等部）　初戦敗退
73kg級　水野円中（高台中学校）　2回戦進出
81kg級　飯田空翔（高台中学校）　準々決勝進出　5位入賞
90kg級　熊谷健太（岩松中学校）　2回戦進出
90kg超級　下橋颯斗（鷹岡中学校）　3回戦進出

女子
40kg級　大石紋萌（観山中学校）　初戦敗退
44kg級　小林美咲（藤枝順心中学校）　初戦敗退
48kg級　松野愛瑠（浜北部中学校）　初戦敗退
52kg級　袴田佳名瑚（浜北部中学校）　3回戦進出
57kg級　袴田芽久望（浜北部中学校）　初戦敗退
63kg級　岩井柚里香（東海大学翔洋高校中等部）　2回戦進出
70kg級　山本　杏（沼津市立高校中等部）　3回戦進出
70kg超級　米川明穂（藤枝順心中学校）　準々決勝進出　5位入賞

各階級県大会優勝者が全国大会に出場している。

第12回全国小学生学年別柔道大会

平成27年8月30日（日）
山梨県甲府市

男子5年
45kg級　小林勇斗（柔好会）　3回戦進出
45kg超級　渡邊琉雅（正心塾　渡辺道場）　準々決勝進出（ベスト8）

男子6年
50kg級　渡邉爽偉（清水町柔道会）　初戦敗退
50kg超級　佐々木里旺（清水柔道倶楽部）　2回戦進出

女子5年
40kg級　辻本栞穂（田代道場）　3回戦進出
40kg超級　飯田星那（和道場）　初戦敗退

6年
45kg級　杉山月琉（清水町柔道会）　3位
45kg超級　澤崎　凛（清水町柔道会）　3位

5月24日に実施された県大会の各階級優勝者が全国大会に出場している。

定通制柔道東海大会

平成27年9月6日（日）
浜松市武道館

男子団体戦
三島長陵高校　優勝
島田商業高校　3位

男子個人
65kg級　大川裕生（三島長陵高校）　初戦敗退
川上ヒロシ（浜松大平台高校）　初戦敗退
75kg級　根岸大智（小山高校）　優勝
森　健児（鹿島学園高校浜松）　2位
75kg超級　戸田　初（浜松工業）　初戦敗退
山口未来（島貫橋学園キラリ高校）　初戦敗退

女子個人
63kg級　川津サユリ（富士高校）　棄権

全国警察柔道選手権大会

平成27年9月11日（金）
日本武道館

男子66kg級
第3位　大木恭介

男子90kg級
優勝　山下諒輔

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会に出場

女子63kg級
準優勝　村瀬由樹

第4回静岡県小学生学年別柔道選手権大会

平成27年9月23日（水・祝）
静岡県武道館

4年生男子軽量級
宇佐美　颯（富士共栄道場）
4年生男子重量級
杉山彪馬（清水町柔道会）
4年生女子軽量級
川合　凛（伊豆長岡柔道会）
4年生女子重量級
里見奏来（清水町柔道会）
5年生男子軽量級
小林勇斗（柔好会）
5年生男子重量級
岡本剛道（伊豆長岡柔道会）
5年生女子軽量級
辻本栞穂（田代道場）
5年生女子重量級
飯田星那（和道場）
6年生男子軽量級
小山仁志（清水柔道倶楽部）
6年生男子中量級
柴田嶺音（清水柔道倶楽部）
6年生男子重量級
佐々木里旺（清水柔道倶楽部）
6年生女子軽量級
片桐明日美（育誠館道場）
6年生女子中量級
山中美里（大仁柔道会）
6年生女子重量級
澤崎　凛（清水町柔道会）

第32回静岡県大学高専柔道秋季優勝大会

平成27年10月11日（日）
静岡産業大学

団体の部
優勝　静岡産業大学A
2位　静岡産業大学B
3位　東海大学海洋学部

男子個人戦の部
無段の部
優勝　鈴木健吾（静岡産業大学）
66kg級
優勝　小池康太（静岡産業大学）
81kg級
優勝　早坂大志（静岡産業大学）
81kg超級
優勝　日高嘉栄（静岡産業大学）

女子の部
優勝　岩崎　唯（静岡産業大学）

全国警察柔道大会

平成27年10月14日（水）
日本武道館

団体第3部
第3位　静岡県警察

講道館杯全日本体重別選手権

平成27年11月7日（土）8日（日）
千葉県

男子90kg級
山下諒輔（静岡県警察）　2回戦進出
男子66kg級
大木恭介（静岡県警察）　初戦敗退

女子63kg級
村瀬由樹（静岡県警察）　2回戦進出

静岡県高等学校秋季定通制体育大会柔道競技

平成27年11月15日（日）
沼津市立沼津高校

男子団体
優勝　浜松大平台高校
2位　富士高校
3位　三島長陵高校
3位　浜松工業高校

男子個人
軽量級
優勝　川上ヒロシ（浜松大平台高校）
中量級
優勝　根岸大智（小山高校）
重量級
優勝　鈴木隆太（浜松大平台高校）

女子個人
優勝　外山染季（クラーク浜松校）

第38回全国高等学校柔道選手権大会静岡県予選大会（男女個人戦）

個人戦
平成28年1月16日（土）
静岡県武道館

男子60kg級
優勝　岡本龍司（静岡学園高校）

男子66kg級
優勝　長屋　涼（加藤学園高校）
男子73kg級
優勝　澁谷恭平（東海大静岡翔洋高校）
男子81kg級
優勝　石川紘大（加藤学園高校）
男子無差別級
優勝　川井康平（静岡学園高校）
女子48kg級
優勝　安食亜美（藤枝順心高校）
女子52kg級
優勝　竹内智紗子（浜北西高校）
女子57kg級
優勝　金本　唯（藤枝順心高校）
女子63kg級
優勝　杵渕　萌（東海大静岡翔洋高校）
女子無差別級
優勝　伊藤七海（藤枝順心高校）
団体戦
平成28年1月24日（日）
静岡県武道館
男子
優勝　静岡学園高校
女子
優勝　藤枝順心高校

以上の選手・学校は全国大会に出場する。大会日時は男女個人戦平成28年3月19日（土）男女団体戦3月20日（日）会場は日本武道館です。

柔道普及活動

西部地区

第5回めばえの親子柔道教室

今年度の西部地区の親子柔道教室は11月8日（日）午後1時から午後3時30分に浜松市武道館で実施されました。講師は溝口紀子先生（静岡文化芸術大学准教授・バルセロナオリンピック銀メダリスト）。今回は住友海上柔道部特別コーチの恵本裕子先生（アトランタオリンピック金メダリスト）も特別に参加していただきました。

最初に開会式が行なわれ、溝口講師の挨拶があり、昨年の体操競技に続き今回は丁度世界選手権での日本チームの活躍で注目が集まるラグビーの練習を取り入れた準備体操になりました。





ヤマハ発動機「ジュビロ」のスタッフが指導してくれ貴重な体験ができました。



休憩を挟んだ後半では、恵本先生の大内刈り、地元静岡の通場先生の体落しという各講師の得意技を指導していただきました。

参加した200人強の親子と普段道場で指導している指導者も良い汗をかきました。また、ラグビーの練習も新しい刺激になったことと思います。

中部地区

親子柔道教室

平成27年11月29日（日）
10時～11時45分
静岡市北部体育館 柔道場

中部地区の親子柔道教室は地区の女性部を中心に実施されました。指導員として田中秀幸幹事長他多くの地区の役員が参加し、総参加人数142名（前年129）でした。

担当者や参加者の感想としては、次のようなものがでていました。

(1) 育児中の女性柔道経験者の参加が多かった為、幼児の参加者が多かった。

(2) 女性経験者の同窓会的なイベントになり、スリープしている女性指導員の現場復帰のきっかけになれば望ましい。

(3) 女性指導員（スタッフ）が親子でのプログラムを実施する際、フォローに入り優しく対応してくれてよかった。（参加者より）

(4) 今回は、女性指導員が指導にあたり、男性指導員はフォロー役に徹したため、全体的にのどかで、優しい雰囲気の教室だった。（参加者より）

(5) 楽しいプログラムだった。来年も参加したい。（参加者より）

地区の田中幹事長は次のように所感を述べている。「平成26年度に中部地区で立ち上げた女子部会（代表・後藤奈美）が、1年かけて実施内容を綿密に検討し、意見を述べあって作成した。また、各方面へ積極的に呼びかけをして100名を超える参加者があり、親子とも和気藹々のうちにスケジュールが進んだ。リズム体操、親子組みでバランス体操、休憩を挟んで礼法（立礼・座礼）や基礎基本などについて学んだ。内容が、バラエティに富んでいたので児童も父兄も興味をもって参加していたのが印象的であった。」

東部地区

今年度も例年のようにエアロビ柔道が沼津市立沼津高校柔道場で開催されました。

今年度さらに東部地区で実施された新しい試み（みんなで柔道2015静岡東部大会）をP12で紹介します。

新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーを継続することができた。全国大会で３位までに入賞した若い選手（高校生以下の選手）を紹介しているコーナーで、今年度は４名の選手が該当した。昨年の９名には及ばないがよく頑張ってくれました。



澤崎凛さん

（清水町柔道会）

平成27年度全国小学生学年別柔道大会６年女子45kg超級３位

澤崎さんは昨年全国大会で優勝し、このコーナーで紹介しています。順調に成長し今年度も紹介することができました。

澤崎さんが柔道を始めたきっかけは、昨年も紹介したように「父と姉の影響」ということです。

今回の結果については、「二連覇を目標にしていただけに悔しい思いをしましたが、次は中学で日本一を目指したいと思います。」と非常に前向きです。残念ながら二連覇はなりませんでしたが、全国三位は素晴らしい結果だと思います。

昨年も書いてくれましたが、将来の夢は「２０２０年東京オリンピック優勝」とはっきりしています。

指導者からは「全国大会二年連続で入賞できたことは非常に素晴らしいと思いますが、目標を達成することは出来ませんでした。非常に努力ができる子なので、次のステージでの活躍に期待したいと思います。」とエールを贈られています。



杉山月琉さん

（清水町柔道会）

平成27年度全国小学生学年別柔道大会６年女子45kg級３位

杉山さんが柔道を始めたきっかけは「父と母と姉が柔道をやっていたから。」ということで、まさに柔道一家ということになります。

今回の入賞に関しては「去年は全国大会に出場できたけれど、二回戦で負けてしまいました。だから、今年三位に入賞できたことはとてもうれしいです。でも、まだまだ課題がありました。この結果に満足せず、中学では日本一になれるように日々努力していきたいです。」着実に成長しています。

今後の目標としては「２０２０年東京オリンピック優勝」と大きな夢を持っています。

指導者からは「今回の結果に満足せず、次のステージでは今回以上の成績を残せるよう日々努力をして欲しい。」と期待を寄せられています。着実に進歩している杉山さんですから中学ではさらに素晴らしい結果を残してくれることを期待したいと思います。



伊藤七海さん

女子初段（藤枝順心高校）

平成27年度全国高等学校柔道大会女子78kg級３位

伊藤さんが柔道を始めたきっかけは「何気なく道場を見学に行った時、回転運動がやりたいと思ったから」ということだそうでなかなか面白いきっかけです。

今回の結果については次のように語っています。「初めてのインターハイで、一戦一戦落ち着いて試合ができてよかったです。今回の結果は自信になりました。でも、まだまだ日本一になるためには課題もたくさん残っているので、今後は一つ一つ克服していきたい。」伊藤さんの人柄が伝わってくるようなコメントです。

今後の目標はずばり「日本一になる」ということだそうで、期待したいと思います。

顧問の沼野先生は「素直な性格で柔道が好きだという気持ちが試合結果にもつながったのだと思います。この結果に満足せず努力できる選手になってほしいです。」と伊藤選手に期待を込めています。

伊藤さんの今後の活躍を期待しています。



谷川美歩さん

女子初段（藤枝順心高校）

第37回全国高等学校柔道選手権大会女子57kg級優勝

谷川さんはこのコーナーの常連です。今年もしっかりと実績を残してくれました。ロシアジュニア国際大会でも女子57ｋｇ級で準優勝しています。

優勝したことに関する感想は「昨年のインターハイで優勝した時よりも『日本一』になったんだという実感が大きかった。同時に、たくさんの人の支えがあっての優勝だと改めて感謝の気持ちが生まれた。」と述べており、周囲への心使いが感じられるコメントです。

今後の希望は「大学へ行き、たくさんの事を学びたい。もっと知識を得て体力も付けて柔道も人間性も成長させたい。一つ一つの事をしっかりやって結果を出したい。」と更なる成長を期待させます。

顧問の沼野先生からは「指導者になり21年目ですが、今まで指導してきた選手の中で一番の努力家です。彼女の日々の柔道に対する姿勢を見て、努力とはこのようなことなのかということを私自身も学ばされました。大学へ進学し、自分の目標に向かってさらに頑張ってくれることを期待しています。」と最大の賛辞を贈られています。

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

友愛道場

②沼津市東原50−7
③〒410−0303
沼津市西椎路164−1
ゆうあいクリニック
055−969−2777
④佐野義幸
⑤児童12人、小学生21人、
中学生11人、
大学・社会人7人

⑥道場紹介

日頃は合同稽古や試合等、誠にお世話になっております。沼津の友愛道場です。

昭和49年、沼津市西部の愛鷹地区に故久保正太郎師範が友愛道場を立ち上げました。「柔道は日本文化の継承の場、人間教育の場である」という信念のもと、稽古のみならずボランティア活動や犬棒カルタ、百人一首、作文、演劇等にもかなりの時間を割いており、これが現在も続く当道場の大きな特色になっています。

練習は毎週、月・水・金曜日の午後6時から8時半、佐野義幸師範を中心に30名ほどが汗を流しています。最近では「少子高齢化・女性の社会進出」の波が道場にも押し寄せております。小学生児童の減少に頭を悩ませる一方で、「黒帯お母さん」の人数は増加しており、団体戦も3チーム組める勢いがあります。これも新しい特色になるかもしれません。

今後とも友愛道場をよろしくお願いします。



富士市柔道会

②〒417-0041　吉原道場
富士市御幸町8-1
〒416-0801　富士道場
富士市本市場280
③〒417-0801
富士市大淵405-25
電話 090-2189-5122
④小笠原　淳
⑤児童2人、小学生25人、
中学生8人、高校生3人、
大学・社会人32人

⑥道場紹介

昭和3年に接骨院と道場を開設した吉野幾太郎4段が青少年を集めて指導したのが始まりです。

昭和22年頃吉原町の精致館を借り受け稽古を始めたのが吉原柔道倶楽部の発足の基となりました。その後、昭和26年に富士市本市場において30畳敷きの道場が建設されました。これが富士柔道会の発足の礎であります。

また、昭和44年、それまで別々に活動していた吉原柔道倶楽部と富士柔道会が合併の運びとなり、新たに『富士市柔道会』と改名し、会長に中村新吾氏が就任し、吉原・富士道場が別々なため、吉原道場に高田徹（現7段）富士道場に風岡儀一（現7段）を配し指導にあたりました。

現在は、吉原道場が月・水・金で富士道場が火・木・土の午後6時半から9時まで小・中・高校生や実業団を含めた一般の選手が稽古を重ね、盛んに汗を流しています。

また、平成20年の全国少年柔道大会には初出場ながら5位入賞を果たし、一般も県の柔道祭で数回優勝するなど好成績をあげています。

なお、全日本柔道選手権に当会より3人の選手を輩出したことは特筆すべき事と思っています。



藤枝柔道倶楽部

②藤枝市武道館
〒426-0034
藤枝市駅前3-21-1
③〒426-0061
藤枝市田沼1-1-15-903
054-637-3933
④水嶋武雄
⑤児童4名、小学生30名、
中学生12名、高校生4名、社会人15名

⑥道場紹介

藤枝柔道倶楽部は、昨年創設60周年を迎えた歴史ある倶楽部です。

水嶋武雄会長を中心に、幼稚園から一般まで約60名が集い、週3日（火・木・土）藤枝市武道館にて稽古に励んでいます。

また、月に1度、近隣の国士塾や柔好会と合同練習を開催しており、互いに切磋琢磨し競技力向上にも努めています。

今年度は、鈴木英彦副会長の人脈で、フランスのリール柔道クラブの16名も来藤し、柔道を通じて友好関係を深めました。

今後も「礼節」を一番に重んじ、中学、高校、大学、社会人と柔道を続ける選手が一人でも多く育つよう指導していきたいと思います。



大井川柔道スポーツ少年団

②焼津市中島1183
大井川体育館
③〒421−0216
焼津市相川476−1
054−622-4176
④石田明志
⑤児童2人、小学生7人、中学生0人、高校生1人、社会人10人



⑥道場紹介

昭和52年に旧大井川町立大井川中学校（現焼津市立大井川中学校）の柔道場を借り、現団長等柔道経験者が中心となりスポーツ少年団を立ち上げました。旧焼津市には以前から小学生対象の道場がありましたが、旧大井川町にもすそ野を広げるべく御尽力いただきました。

当時の大井川中学校の道場はプレハブ建てでしたが、現在では旧大井川地区の立派な大井川体育館2階柔道場を練習場所としています。練習は火曜日と金曜日の週2回、午後7時より9時まで小学生を中心に指導、稽古をしております。

当団では礼儀と怪我をしない・させない為の基本である、受け身・動作を重点的に指導しています。特に小学生低学年以下では集中力も持続せず大変ですが根気強く、時には厳しく時には楽しくと変化に富んだ活動を心がけています。

少子化の影響か、団員数も十名前後と少人数ではありますが、卒団生は上級学校でも優秀な成績を収めております。指導対象としては幼児から大人まで年齢問わず大歓迎です。実際に高校生、大人も一緒に稽古しておりますので興味のある方は一度見学にいらしてください。

掛川柔道倶楽部錬誠館

②〒436−0341
掛川市倉真565−3
③〒436−0079
掛川市掛川1035−6
0537−24−3777
④中村芳正
⑤児童2人、小学生17人、中学生3人、高校生4人、大学・社会人17人

⑥道場紹介

永年、掛川城下町に育まれた「尚武の精神」で、昭和14年に地域の柔道愛好家たちが集まり、掛川警察署道場にて故渡辺富士松先生を中心として『掛川尚武会』が設立されました。

戦後、掛川市城内『北の丸』の一部をお借りして道場を再開しました。そして、昭和24年4月「掛川柔道倶楽部錬誠館」として現在の名前で発足しました。その後、平成17年4月に掛川市倉真に道場を移転し現在に至っています。



普段の練習は、少子化の影響もありなかなか部員が集まらない昨今ですが、小学生・中学生・高校生・社会人週3回、火曜日・木曜日・土曜日の午後7時から9時（小学生）、中学生以上は午後9時30分まで稽古をしています。

嘉納治五郎師範の柔道精神を基に、「心・技・体」の鍛錬を念頭に、児童から高齢者まで熱心に練習しています。柔道を通じて、礼儀作法、人を思いやる心、我慢する心、病気や怪我に強い体を作り、基本に忠実で「立ってよし、寝てよし」の柔道を目指して練習を続けています。興味のある方はぜひ見学に来てください。

養神館植松道場

②浜松市東区植松町1472−4
武興浜松店内
③〒430-0803
浜松市東区植松町1472−4
武興浜松店内
053−464-1011（武興）日祝定休
④大畑三津子
⑤児童0人、小学生14人、中学生4人、大学・社会人2人

⑥道場紹介

浜松市東区にある武道具店「武興」のカウンター奥には道場につながる扉があります。毎週火曜日と土曜日の2回、午後6時を過ぎると子供たちの元気な挨拶と笑い声が聞こえます。午後7時に稽古が始まるまでは、掃き掃除さえ済ませてしまえば、たくさんのボールやフライングディスクで遊んで構わないのです。

午後7時になるとリーダーの号令で「遊びの時間」が終了し稽古が始まります。柔道特有のウォーミングアップに始まり、腕立て伏せや腹筋・馬跳びくぐりなどの補強運動や、道場に備え付けてあるロープ登り、体幹トレーニングなどを行い、小学生も中学生も、前半の1時間でいっぱいの汗をかきます。



後半は柔道の時間になります。打ち込み、乱取り、投げ込み、技の研究など、この時間は真剣な表情に変わり、受けも取りも大きな掛け声で気合を込めます。「勝ち負けよりも一生懸命」が私たちの道場の指導方針です。

稽古の最後は道場の掃除です。雑巾で畳をピカピカに拭いて終わります。おかげで10年以上使っていると思えないほどきれいな道場です。道場出入り時の挨拶や練習中の礼法は、間違ったり元気が無かったりすると何回でもやり直しをさせます。清掃も挨拶も、道場・稽古相手への感謝の気持ちの表れと考えているからです。

『柔道は人間道』これが私どもの道場のモットーです。

みんなで柔道2015 静岡東部大会開催

「家族や友達と一緒に柔道を楽しもう!!」を合言葉に、11月3日（火）文化の日に市立沼津高校柔道場で開催されました。内容は、体験プログラムとして、「エアロビ柔道」と「護身術」、参加プログラムとして「礼法と受け身のコンテスト」と「レディース柔道大会」が実施されました。大会当日は親子3代での参加も多く、楽しい時間を過ごすことができました。それぞれ簡単に紹介します。



1　エアロビ柔道

永年東部地区で行われている「エアロビ柔道」です。小林準一先生が指導され、約30分間楽しく汗をかくことができました。参加者は125名（女性87名、男性28名、最高齢者女性77歳、最年少者女子2歳）でした。

2　礼法と受け身コンテスト

立礼、座礼、後方受け身、演技構成の4項目を実施していただき、3人の審査員によって採点し評価をしました。

3　レディース柔道大会

試合時間2分、引き分けの場合はジャンケンで勝敗を決めることとして実施しました。初心者コース、経験者コース、昔経験者コースの3つのコースに分けて行い、参加人数は多くはありませんでしたが、元気に取り組みました。

4　護身術教室

東海柔道連合会会長の高田勝之先生の御指導で、講道館護身術の一部と、現実に起こりうる場面を想定しての身の守り方を学びました。高田先生からは「危ない場面は先ず逃げる」という心構えが大切だということを教えられ実戦的な動きを学びました。

なお、当日は託児所キッズルーム『遊笑（ゆうしょう）』を開設しました。ボランティアで、3名の保育士が18名のお世話をしてくれました。

家族や所属道場・学校の友人と楽しむことを最優先にした柔道普及の試みで、大会委員長の根木谷先生は「母親が参加しやすくなるよう託児所を開設した世界初の大会である」と評価されています。



訃報



殿岡崇廉　六段

富士市柔道会会長、殿岡崇廉六段は、平成二十七年十二月三日、享年六十三歳をもって御逝去されました。ここに謹んで御報告申し上げ、先生の御冥福を、お祈り申し上げます。

殿岡先生は、元吉原中学入学と同時に柔道部に入部、その恵まれた体格から繰り出す払い腰を武器に、めきめきと頭角を現し、各種大会で活躍。鳴り物入りで日大三島高校に入学。日大三島高校でもレギュラーとして各種大会で活躍されました。その後、家業を継ぐべく日大生産工学部に進学し、学部の柔道部に所属しました。

卒業と同時に富士市柔道会に入会。理事、理事長を経て平成十一年より会長に就任、その重責を果たしてきました。また、東部地区理事・県理事・柔道場連盟副会長など各団体の重鎮として静岡県の柔道界を支えてきたことは、周知の通りです。

先生は、温厚な性格で誰からも好意と信望を集めておられました。このような多くの方々から慕われた先生の柔道を愛する御意志を大切にし、これからも柔道発展のための努力をお誓いし、もう一度御冥福をお祈り申し上げます。

合掌

（東部地区幹事長　高田　和夫）



編集後記

今年も「柔道しずおか（第19号）」を発行することができました。感想などを聞かせていただきたいと思います。

今年度は久しぶりに成年女子チームが国体の本大会に出場することができ、東京大会の再現を期待しましたが残念な結果でした。成年男子チームも惜しい試合でした。少年男子・女子チームの本大会出場とともに、次の岩手大会での活躍を期待しましょう。

野田体制に移行して2年目に入り、落ち着いた一年だったと思います。新しい体制がスタートし、多方面で機構改革を行っており、各分野でその成果が出ていることと思います。

東部地区の柔道普及に関する新しい試みを紹介しました。従来から実施している「エアロビ柔道」を中心に試合や護身術、受け身のコンテストなどにチャレンジしています。素晴らしいことだと思います。中部地区、西部地区もそれぞれの取り組みを続けています。柔道普及に役立ってくれることを期待します。

柔道しずおか編集担当
宮﨑貞夫

第20号

柔道しずおか

平成29年3月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒431-3114　浜松市東区積志町1503　伊藤武治
TEL　090-1473-4136　FAX　053-589-3000
http://www.geocities.jp/shizuokajudo/

【巻頭言】「雑　感」

静岡県柔道協会副会長　八段　髙田和夫



平成二十六年四月より髙田勝之先生の後任として東部地区幹事長に推挙され、早三年が経とうとしています。

こうして無事ここまでこられたのは、特に東部の役員の方々の支えと柔道協会すべての皆様のおかげだと感謝しています。

県柔協のこと

平成二十六年四月より野田会長の体制になり、協会の組織改革と役員改選が行われました。今までの協会が永く続けてきた組織・運営方法などを刷新したもので、なんとなく違和感を持たれたのではないでしょうか。

平成二十九年からこの組織の二期目に入り、まだまだ新しい組織作りが続きます。皆様の意見が反映されるような組織でありたいし、それを皆様が望んでいることだと思います。皆様と一緒に努力したいと思っています。

リオ五輪から思うこと

リオオリンピックでは、日本選手が大活躍し、今までのメダル獲得数を更新した大会でした。特に大野将平選手（73kg）の決勝で、じっと一点を見つめ優勝を噛み締めている姿に「日本柔道の美しさと謙虚さ」、を見たのは私だけでしょうか。

他競技では、銅メダルでも高く評価され、日の丸を背負ってウイニングランやインタビューを受ける姿をテレビで見ます。ところが金メダルを取ることが期待される柔道では、マスコミが特集し、人々もそれにより更に期待を高めていきます。そんなプレッシャーの中で選手は戦い、優勝しないとまるでダメ人間のように見られ、すばらしい銅なのに泣きながら「すいません。」と謝る選手がいました。今は、決勝に行けなくても銅メダルを取るため貪欲に執念の戦いをしています。それは、メダル奪取のためにプライドと責任を持つことを選手もスタッフも理解するようになったからだと思います。そんなひたむきに金メダルを取りに行く柔道選手の姿を見て、人々は「畏敬の念」を抱いてくれるのだと確信しています。

柔道人口減少のこと

いろいろな大会の参加選手が年々減少しており、その減少に歯止めが効きません。柔道人口の減少に更に追い打ちをかけたのが、度重なる全柔連の失態、それと毎年おきる重大な事故や死亡事故などです。「柔道は危険なもの」として社会からレッテルを貼られ、少子化の社会の中で危険なスポーツから我が子を遠ざけたい保護者は、「教育としての柔道」の位置づけよりも危険回避を選択するのです。

指導者は、あらゆる知識をもって怪我からの回避を最優先にすべきです。そういう意識で指導に臨んでいれば、怪我が出たとしても、その時は最小限で済むはずです。

柔道が安全なものであるとの認識を社会に植え付けなければ、せっかくオリンピックや他の大会などで社会的評価を得ても柔道人口増加には繋がらないような気がします。

もう一つの減少の理由は、柔道人口を支える少年達の減少です。柔道は、少年達にとってマイナーなスポーツとして位置づけられているにもかかわらず、指導者は、旧態依然の「去る者は追わず、来る者は拒まず。」式な道場運営をしています。

それと同時に、せっかく柔道をやってくれている子供達に、勝つことだけを指導して、本来教えるべき礼節や品格をおろそかにしている所が多くなってきたように思います。

厳しさばかりでは、子供は嫌気がさし、次のステップアップを止めてしまいます。もっともっと遊ばせながら柔道の本質を教え、自然発生的に柔道が強くなりたいと思う時期まで待つことの大事さを知るべきです。

柔道を支えているのは、実は道場の先生方（指導者）です。そして、柔道人口の増減の鍵を握るのも道場の先生方ではないでしょうか。道場運営・練習内容など意識改革をし、もう一度見直すことで子供達の増加に繋がるかもしれません。

協会としても、私たちにできる勧誘の方法（新聞掲載・勧誘ポスターの店頭への貼付依頼など）をしなければいけないのではと思います。

以上、取り留めのない雑感として、御容赦いただきたい。

最後に、皆さんの御協力をもって静岡県柔道協会が更に発展していけますようお願い申し上げます。

第71回 国民体育大会柔道競技 報告

第71回国民体育大会柔道競技は、平成28年10月8日から10日までの間、岩手県久慈市久慈市民体育館において開催されました。

東海ブロック予選では、成年女子が優勝して出場枠を獲得することができ、昨年同様、成年男子・成年女子の2チームの出場となりました。

岩手国体スタッフ

強化部長	石川　裕章	石川接骨院
総監督	古川　隆士	古川管財（株）
トレーナー	赤池　　理	アカイケ鍼灸接骨院

成年男子

監督	根本　哲郎	静岡県警察
先鋒（60kg級以下）	小林　大貴	中央大学
次鋒（73kg級以下）	大木　恭介	静岡県警察
中堅（90kg級以下）	山田　知輝	帝京科学大学
副将（90kg超級）	滝川　英克	静岡県警察
大将（無差別）	増田　圭省	静岡県警察

成年女子

監督	渡辺　達也	静岡県警察
先鋒（52kg級以下）	金田　結花	ＶＩＬＬＡＧＥ
中堅（70kg級以下）	村山のどか	筑波大学
大将（無差別）	村瀬　晴香	ヤックス

成年男子

今回の成年男子は、実績のある県警三選手に強豪大学で主軸として活躍する山田選手・小林選手の二名を加えた五名で平均年齢24歳の若いチーム構成となりました。

昨年の和歌山国体を教訓に選手には先のことは考えず、初戦の岡山戦に集中して「初戦突破」を目標に置き大会に臨みました。



静岡県2－②岡山県

先鋒　小林大貴（中央大学）Ⓚ
－守安大介（岡山県警察）

ここで何としても一勝を掴みとることが戦略であった。小林、喧嘩四つと引手が取れない中、背負投を中心に果敢に攻め続け、残り時間50秒に指導①（偽装攻撃）、ラスト20秒に指導②（消極的）を奪い見事勝利しチームに勢いを呼び込んだ。

次鋒　大木恭介（県警）－○山﨑奨太（三菱化学）

先鋒が勝利し勢いに乗ると思われたが大木の動きが硬い。開始30秒、大木が内股を掛けて潰れたところを十字固から上四方固に変化され、そのまま抑え込まれ、まさかの一本負けと静岡にとって手痛い一敗となった。

中堅　山田知輝（帝京科学大学）－○安達健太（東海大学）

続く、山田は、開始早々に指導①（片襟）をもらう。試合中盤、山田は、奥襟を取りたいがなかなか取らしてもらえない中、強引に片襟から大外刈を掛け、相手が裏投げに返そうとしたところを、山田、さらに大内刈で切返し技有を先取する。ここで「合議」試合が一時中断、山田の掛けた大内刈が一本ではないかと審議、ビデオ確認をするが判定は覆らず技有、残り試合時間2分で再開となる。

山田、奥襟を取ろうと半身になったところを強引に潰され寝技に持ち込まれ肩固に変化し抑え込まれ逆転負けとなる。

2対1と岡山県リード、副将戦を絶対に勝利しなければならない状況に追込まれた。

副将　滝川英克（県警）×都築上志（岡山商科大学）

副将戦、滝川が勝たなければ敗戦が決まる試合となった。

開始1分、相手が前に出てきたところ真直ぐ下がってしまい指導①（場外）をもらう。

相手選手も引分以上でチームが勝利するため、なかなか組み合わず攻めて来ない。

中盤、滝川、両襟から内股を繰出し攻め指導①（消極的）を取り返す。その流れで後半攻め続けると思われたが、逆に慎重になり技が出ずタイムアップとなり、静岡の初戦敗退が決まった。

大将　増田圭省（県警）○－美濃大将（岡山商科大学）

この時点で静岡の敗戦が決定したが、増田が意地を見せてくれた。

相手選手がなかなか組んでこない中、増田、片襟から左右の背負投を繰出し主導権を握る。残り試合時間2分30秒、相手が奥襟を取りに来たところを強引に裏投げに切返し一本勝ち。静岡の意地を見せてくれた。

先鋒戦で勝利したものの次鋒戦以降の選手が実力を出し切れず、チームに流れを持って来ることが出来ずに敗戦してしまったと言うのが実感です。

団体戦の鉄則は「負けないこと」。それぞれの粘り・頑張りが、次の選手に気持ちが移り、チームに活気・良い流れが生まれ勝利に繋がると思う。

団体戦で、個人戦の様な勝つか負けるかの一発勝負をしていてはチームは勝ち上れません。

団体戦は我慢比べです。如何に気持ちを切らさず集中し、自分の仕事を熟すことが大切です。

今後の課題として、全国クラスの大会で肩を並べ戦うには寝技強化が先決で、寝技で一本取れる自分の形（パターン）を持っていなくては、他県選手と対等に戦えないと感じました。

更に研究・対策を重ね東海地区予選を勝ち上るチーム作りに励みたいと思います。

平成29年度から成年男子も東海地区予選からの出場となり、東海地区を勝ち上がるには、大学・高校生等の若手選手の強化を早急に図る必要があると思われます。

特に県体重別選手権大会への大学生等多くの参加者で競い合うことで最強・最高の静岡県チームが誕生するのではないかと思います。また、代表選手には静岡県の代表という誇りを持ち、大会に臨んでほしいと思っております。

関係各位に感謝申し上げますと共に、平成29年愛媛国体出場を誓い、大会結果の報告とさせていただきます。

（文責　静岡県警察　根本哲郎）

成年女子

8月に開催された東海ブロック大会では、愛知県とは引き分けたものの勝者数差により4県による接戦を制し、本大会出場を獲得しました。本県の成年女子は、昨年本大会出場を果たしたメンバーから中堅及び大将が入れ替わり、2年前の準優勝を超える成績を目標に臨みました。



静岡県0－2茨城県

過去7回優勝実績のある茨城県との対戦となった。

先鋒（52kg以下）の金田結花（ＶＩＬＬＡＧＥ）は、試合開始から積極的に技を繰り出すも後半相手の組み手が勝り、劣勢となったところを2回指導を受けて僅差負け。

中堅（52kg超70kg以下）の村山のどか（筑波大学4年）は、同じ大学の選手同士ということで手の内を知られていることから技を掛けるもうまくかわされ膠着状態のまま試合終了し、引き分け。

大将（無差別）の村瀬晴香（千葉薬品）の相手は、筑波大学の主力選手であるがそれに臆せず積極的に攻めるも技を不用意に受けてしまいそのまま崩上四方固で抑えられ一本負け。

チームは、0対2で敗退。茨城県は、そのまま勝ち上がり十年ぶり8度目の優勝となった。

自分の力を出し切れば勝っていた試合もあっただけに自分の柔道を出し切る強い精神力と勝負へのこだわりというものが足りなかったのではと感じております。

来年度は、成年女子と少年女子が統合されることが決定していることから、更に精進を重ね最強・最高のチーム作りに励みたいと存じます。

関係各位に感謝を申し上げますとともに平成29年の活躍を誓い、大会結果の報告をさせていただきます。ありがとうございました。

（文責　静岡県警察　渡邉達也）

第37回国体 東海ブロック大会

平成28年8月21日（日）愛知県名古屋市

少年男子

監督　小柳津敬博（東海大学静岡翔洋高校教諭）
コーチ　渡部直樹（静岡学園高校教諭）
先鋒　岡本龍司（静岡学園高校）
次鋒　渋谷恭英（東海大学静岡翔洋高校）
中堅　佐藤威基（東海大学静岡翔洋高校）
副将　米山竜平（東海大学静岡翔洋高校）
大将　川井康平（静岡学園高校）
補欠　高木一石（湖西高校）

成年女子

監督　渡辺達也（静岡県警察）
先鋒　金田結花（ＶＩＬＬＡＧＥ）
中堅　村山のどか（筑波大学）
大将　村瀬晴香（ヤックス）

少年女子

監督　渡部直樹（静岡学園高校）
コーチ　古内千夏（東海大学静岡翔洋高校教諭）
先鋒　渋谷　舞（東海大学静岡翔洋高校）
中堅　杵淵　萌（東海大学静岡翔洋高校）
大将　伊藤七海（藤枝順心高校）
補欠　安竹真利奈（東海大学静岡翔洋高校）
補欠　澤崎莉子（東海大学静岡翔洋高校）

少年男子

静岡県3－1三重県
静岡県3－1岐阜県
静岡県0－1愛知県
2勝1敗　2位　愛知県が本大会出場

成年女子

静岡県2－1三重県
静岡県2－0岐阜県
静岡県0－0愛知県
2勝1分　得点差により1位
静岡県が本大会出場

少年女子

静岡県2－1三重県
静岡県2－0岐阜県
静岡県1－1愛知県
2勝1分け　内容差で2位
愛知県が本大会出場

第58回 静岡県柔道祭開催

平成28年11月20日（日）
午前9時30分開始
静岡県武道館

昨年から静岡県柔道祭は秋の実施となり、今年も県武道館で開催された。静岡県柔道協会会長の野田昭一会長のあいさつに続き、今年は和道場の森近さんにより選手宣誓が行われた。森近さんは平成28年度全国小学生学年別柔道大会5年女子40kg級3位に入賞した選手である。森近さんの選手宣誓に続き、恒例の柔道協会表彰が行われ、次の方々が表彰された。

《特別功労賞》
該当者なし
《永年功労賞》
該当者なし
《功労賞》
北村光広　六段

宮本哲也　六段
尾高　浩　六段
菊地勝義　五段
岡村和幸　五段
植松憲雄　四段
亀尾信太朗　三段

《優秀指導者賞》
該当者なし

《優秀選手賞》
伊藤七海　女子初段（藤枝順心高校）
平成28年度全国高等学校柔道選手権大会女子78kg級2位
袴田佳名瑚　女子初段（浜松市立北部中学校）
平成28年度全国中学校柔道大会女子52kg級2位
百田久佳　女子初段（藤枝順心高校）
平成28年度全国中学校柔道大会女子57kg級3位
米川明穂　女子初段（藤枝順心高校）
平成28年度全国中学校柔道大会女子70kg超級優勝
森近　颯（和道場）
平成28年度全国小学生学年別柔道大会5年女子40kg級3位



今年度も表彰に続き「形」の演技が披露された。講道館護身術の形が浜北の取一瀬誠七段、受竹内紀久夫七段によって行われた。その後一斉に試合が開始された。毎年のことではあるが、小学生から一般まで県内の柔道選手が一同に集まる唯一の大会で、観客席から大きな声での声援が送られ県武道館は大いに盛り上がっていた。

第58回静岡県柔道祭成績

小学生の部
優勝　伊豆長岡柔道会
2位　富士共栄道場
3位　藤枝柔道倶楽部
　　田代道場

中学男子の部
優勝　浜松市立高台中学校
2位　育成館道場
3位　東海大学静岡翔洋中学校
　　静岡学園中学校

中学女子の部
優勝　東海大学静岡翔洋中学校
2位　藤枝順心中学校
3位　浜松市立積志中学校
　　静岡市立青島中学校

高校男子の部
優勝　日本大学付属三島高校
2位　東海大学付属静岡翔洋高校
3位　浜松商業高校
　　加藤学園高校

高校女子の部
優勝　東海大学静岡翔洋高校
2位　藤枝順心高校
3位　富士市立高校
　　沼津市立高校

一般の部
優勝　高柳喜一商店
2位　静岡産業大学
3位　富士市柔道会
　　東海翔柔クラブ

優秀選手

小学生の部
岡本剛道（伊豆長岡柔道会）
木内銀平（富士共栄道場）

中学男子の部
鈴鹿功織（高台中学校）
宇津山英弥（育誠館道場）

中学女子の部
杉山月流（東海大学静岡翔洋中学校）
百田久奈（藤枝順心中学校）

高校男子の部
重田幸大（日大三島高校）
米山竜生（東海大学静岡翔洋高校）

高校女子の部
杉山奈那（東海大学静岡翔洋高校）
山上春奈（藤枝順心高校）

一般の部
佐々木悠真（静岡産業大学）
坂中慎吾（高柳喜一商店）

第28回マルちゃん杯中部少年柔道大会
平成28年6月5日（日）
浜北総合体育館「グリーンアリーナ」

試合に先立ち6月4日（土）に恒例の柔道教室が実施された。講師は東海大学上水研一郎先生と杉本美香先生だった。

上水先生の講義に続き、実技の指導が行われた。体落とし等各先生方の得意技を中心に指導していただいた。

翌5日の日曜日には、いよいよ本番の大会が行われた。地元静岡県からの出場チームが多かったものの、中部各県から小学生58チーム、中学生男子72チーム、中学生女子49チームの参加があり、グリーンアリーナは満員だった。

白熱した好試合が続き、一日中体育館は熱気に包まれた。愛知県勢の強さが目立ち、小学生の部では羽田野道場、中学生の部では男女とも大成中学校が優勝した。静岡勢では小学生の部で富士共栄道場が3位に入賞し、中学生男子の部では引佐南部中学校が5位に入賞し全国大会出場を決めた。また、中学校女子では地元浜北北部中学校が3位入賞を果たした。

優秀選手には富士共栄道場の加藤想大君、浜北北部中学校の松野愛瑠さんが選ばれた。敢闘賞である佐藤五八郎杯には富士共栄道場の木内銀平君、引佐南部中学校の安間俊太君、浜北北部中学校の鈴木夢乃さんが選出された。

各種大会の報告

平成28年度全日本柔道選手権大会、第31回皇后杯全日本女子柔道選手権大会東海地区予選
平成28年3月6日（日）
浜松市武道館

男子
平井亮輔（東海大学静岡翔洋高校教諭）
　予選リーグ敗退
小椋俊彦（静岡県警察）
　予選リーグ敗退

女子
水野瑚春（藤枝順心高校）
決勝リーグ敗退　本大会出場ならず
伊藤七海（藤枝順心高校）
決勝リーグ敗退　本大会出場ならず

形競技大会
平成28年3月5日（土）

講道館護身術の形
一瀬　誠　竹内紀久夫
（浜北柔道協会）

五の形
小林賢治　小笠原淳
（富士市柔道会）

第36回 静岡県少年柔道団体選手権大会

平成28年2月28日（日）
静岡県武道館

優勝　伊豆長岡柔道会
2位　富士共栄道場
3位　和道場
3位　柔好会
さわやか賞
渡辺大虎（伊豆長岡柔道会）
木内銀平（富士共栄道場）
飯田叶輝（和道場）
安竹克海（柔好会）
高森誠悟（藤枝柔道倶楽部）
古賀一誠（富士市柔道会）
青木　明（清水柔道倶楽部）
外岡叶芽（田代道場）

第38回 全国高等学校柔道選手権大会

平成28年3月19日（土）20日（日・祝）
日本武道館

男子団体
1回戦
静岡学園高校○（1人残し）盛岡中央高校（岩手）
2回戦
静岡学園高校（4人残し）○日体荘原高校（東京）
女子団体
1回戦
藤枝順心高校1－0国東高校（大分）
2回戦
藤枝順心高校2－0桐蔭学園高校（神奈川）
3回戦
藤枝順心高校2－0常盤高校（群馬）
準々決勝
藤枝順心高校1－0川口総合高校（埼玉）
準決勝
藤枝順心高校0－2敬愛高校（福岡）
3位入賞

男子個人
60kg級
岡本龍司（静岡学園高校）
初戦敗退
66kg級
長屋　涼（加藤学園）
初戦敗退
73kg級
渋谷恭英（東海大学翔洋高校）
初戦敗退
81kg級
石川　大（東海大学翔洋高校）
準々決勝進出　5位
無差別級
川井康平（静岡学園高校）
3回戦進出

女子個人
48kg級
安食亜美（藤枝順心高校）
初戦敗退
52kg級
竹内智紗子（浜北西高校）
初戦敗退
57kg級
金本　唯（藤枝順心高校）
初戦敗退
63kg級
杵渕　萌（東海大学翔洋高校）
準々決勝進出　5位
無差別級
伊藤七海（藤枝順心高校）
準々決勝進出　5位

皇后杯全日本女子柔道選手権大会

平成28年4月17日（日）
横浜文化体育館

2回戦
伊藤七海（藤枝順心高校）－○橋高朱里（金沢学院大学）

全日本柔道選手権大会

平成28年4月29日（金・祝）
日本武道館

県内選手出場無

第36回全国少年柔道大会

平成28年5月5日（木・祝）
講道館

団体戦
予選リーグ
1回戦
伊豆長岡柔道会3－1時習館（岩手県）
2回戦
伊豆長岡柔道会2－0大和柔心館（奈良県）
決勝トーナメント
1回戦
伊豆長岡柔道会0－5有朋柔道塾（広島県）

第63回東海高等学校総合体育大会柔道競技

平成28年6月18日（土）19日（日）

男子
60kg級
優勝　岡本龍司（静岡学園高校）
73kg級
2位　渋谷恭英（東海大学翔洋高校）
81kg級
3位　田倉淳ノ介（加藤学園高校）
3位　杉本誠太（藤枝明誠高校）
90kg級
優勝　佐藤威基（東海大学翔洋高校）
100kg級
3位　米山竜生（東海大学翔洋高校）
100kg超級
3位　川井康平（静岡学園高校）
3位　高木一石（湖西高校）

女子
48kg級
3位　渋谷　舞（東海大学翔洋高校）
52kg級
3位　河野涼子（加藤学園高校）
57kg級
3位　山上春奈（藤枝順心高校）
3位　竹内智衣子（浜北西高校）
63kg級
優勝　杵渕　萌（東海大学翔洋高校）
70kg級
3位　安竹真利奈（東海大学翔洋高校）
78kg級
優勝　伊藤七海（藤枝順心高校）
78kg超級
3位　扇塚みのり（富士市立高校）

全日本ジュニア柔道体重別選手権静岡県大会

平成28年7月2日（土）
静岡県武道館

男子
55kg級
秩父良亮（静産大）
60kg級
岡本龍司（静岡学園高校）
66kg級
長屋　涼（加藤学園高校）
73kg級
飯川夢二郎（静岡県警察）
81kg級
石川紘太（加藤学園高校）
90kg級
佐藤威基（東海大学翔洋高校）
東海地区優勝全国大会出場
100kg級
米山竜生（東海大学翔洋高校）
100kg超級
川井康平（静岡学園高校）

女子
44kg級
吉田　韻（富士市立高校）
48kg級
渋谷　舞（東海大学翔洋高校）
東海地区優勝全国大会出場
52kg級
河野涼子（加藤学園高校）
57kg級
山上春奈（藤枝順心高校）
63kg級
杵渕　萌（東海大学翔洋高校）
東海地区優勝全国大会出場
70kg級
安竹真利奈（東海大学翔洋高校）
78kg級
澤崎莉子（東海大学翔洋高校）
78kg超級
外山紗奈（東海大学翔洋高校）
東海地区優勝全国大会出場

なお、東海大会は7月10日（日）静岡県武道館、全国大会は9月10日（土）11日（日）埼玉県にて開催された

東海地区「形」競技会

平成28年7月3日（日）静岡県

投の形
渡辺成也　佐藤邦洋

固の形
森田賢一　猪又　功

極の形
小椋俊彦　鈴木慎一

柔の形
佐野宏明　岡村和幸

講道館護身術
一瀬　誠　竹内紀久夫

五の形
小笠原淳　小林賢治

古式の形
渡辺達也　磯部正博

東海地区優勝　全国大会出場

平成28年度静岡県成年柔道体重別選手権大会

平成28年7月18日（月・祝）
静岡県武道館

成年男子

60kg級 小林大貴（中央大学）
73kg級 大木恭介（静岡県警察）
90kg級 山田知輝（帝京科学大学）
無差別級 増田圭昌（静岡県警察）

成年女子

52kg級 金田結花（VILLAG）
70kg級 村山のどか（筑波大学）
無差別級 村瀬春香（ヤックス）

第65回全国高等学校柔道大会

平成28年7月30日(土)8月3日(水)
島根県出雲市

男子団体戦

1回戦
静岡学園高等学校2－2開星高校（島根県）内容差負け

女子団体戦

2回戦
東海大学付属静岡翔洋高等学校3－0宮崎日大高等学校（宮崎県）

3回戦
東海大学付属静岡翔洋高等学校0－2富士学苑高等学校（山梨県）

男子

60kg級 岡本龍司（静岡学園高校）
初戦敗退

66kg級 川瀬　翔（東海大学静岡翔洋高校）
2回戦進出

73kg級 渋谷恭英（東海大学静岡翔洋高校）
2回戦進出

81kg級 田倉淳ノ介（加藤学園高校）
初戦敗退

90kg級 佐藤威基（東海大学静岡翔洋高校）
3回戦進出

100kg級 米山竜生（東海大学静岡翔洋高校）
初戦敗退

100kg超級 川井康平（静岡学園高校）
準々決勝進出（ベスト8）

女子

48kg級 渋谷　舞（東海大学静岡翔洋高校）
初戦敗退

52kg級 河野涼子（加藤学園高校）
初戦敗退

57kg級 山上春奈（藤枝順心高校）
初戦敗退

63kg級 杵渕　萌（東海大学静岡翔洋高校）
準々決勝進出（ベスト8）

70kg級 安竹真利奈（東海大学静岡翔洋高校）
3回戦進出

78kg級 伊藤七海（藤枝順心高校）
2位入賞

78kg超級 外山紗奈（東海大学静岡翔洋高校）
初戦敗退

※各階級県大会優勝者、優勝チームが全国大会に出場している。

平成28年度東海中学校総合体育大会柔道競技

平成28年8月6日(土)7日(日)
愛知県武道館

男子団体
2位　浜松市立引佐南部中学校

女子団体
2位　藤枝順心中学校
3位　浜松市立浜北北部中学校

男子

50kg級
優勝　加藤遼馬（長岡中学校）

55kg級
優勝　樋渡修大（引佐南部中学校）

66kg級
優勝　伊藤栄都（高台中学校）

73kg級
2位　山本斗夢（東海大学静岡翔洋高校中等部）
3位　柴田蓮音（東海大学静岡翔洋高校中等部）

81kg級
2位　飯田空翔（引佐南部中学校）
3位　後藤悠成（篠原中学校）

90kg超級
優勝　下橋颯斗（鷹岡中学校）

女子

48kg級
2位　松野愛瑠（浜松市立浜北部中学校）
3位　川口　優（東海大学静岡翔洋高校中等部）

52kg級
2位　袴田佳名瑚（浜松市立浜北部中学校）

57kg級
2位　百田久佳（藤枝順心中学校）

70kg級
3位　高山美憂（藤枝順心中学校）
3位　山本　杏（沼津市立高校中等部）

70kg超級
3位　大野イボーン（藤枝順心中学校）

第41回全国教員大会

平成28年8月6日（土）
講道館

監督　山崎大介（浜松東高校）
先鋒　青木雅俊（細江中学校）
次鋒　杉原正洋（浜松学院中学校・高校）
中堅　大場省吾（袋井商業高校）
副将　澤木　哲（常葉橘高校）
大将　山崎大介（浜松東高校）

静岡県0－4茨城県

先鋒戦では優位に試合を進め指導1つリードするも引き分け。次鋒戦は押されながらもラスト1分で技有を取るが、残り30秒で内股で1本負け。中堅戦は互角の戦いながら後半背負投げに屈する。副将はこれまた互角の戦いながら最後に背負いで投げられる。大将戦は押し込まれる中よく戦ったが、最後は左の技で一本負け。

各先生方がこの大会で得ることができた貴重な経験を、勤務される学校での指導に役立てていただければと思います。

第47回全国定時制通信制柔道大会

平成28年8月7日（日）
講道館

男子団体戦

1回戦 静岡県4－1奈良県
2回戦 静岡県4－1宮崎県
3回戦 静岡県2－2埼玉県
代表戦勝ち
準決勝 静岡県0－5兵庫県
第3位

先 根岸大智（小山高校）
次 鈴木隆太（浜松大平台高校）
中 守重裕斗（鹿島学園高校浜松校）
副 戸田　初（浜松工業高校）
大 大川裕生（三島長陵高校）

女子団体戦

1回戦 静岡県0－3三重県

男子個人戦
65kg級　根岸大智（小山高校）　2回戦進出
75kg級　太田玲弥（富士高校）　初戦敗退
90kg級　守重裕斗（鹿島学園高校浜松校）　2位
90kg超級　山口未来（倉橋学園キラリ高校）　3回戦進出（ベスト8）
女子個人戦
52kg級　外山染季（クラーク国際高校浜松校）　第5位（ベスト8）
63kg超級　木村タエコ（新居高校）　初戦敗退

第47回全国中学校柔道大会

平成28年8月17日（水）～20日（土）　新潟県上越市

男子団体戦
浜松市立引佐南部中学校3－2四倉中学校（福島県）
浜松市立引佐南部中学校3－1浅井中学校（滋賀県）
2勝し、決勝トーナメント進出
決勝トーナメント
1回戦
浜松市立引佐南部中学校2－2鎮西中学校（熊本県）　代表戦負け
女子団体戦
藤枝順心中学校3－0小杉中学校（富山県）
藤枝順心中学校1－1三重中学校（大分県）内容勝
2勝し、決勝トーナメント進出
決勝トーナメント
1回戦
藤枝順心中学校1－1東松山北中学校（埼玉県）　代表戦負け
個人戦
男子
50kg級　加藤遼馬（長岡中学校）　3回戦進出
55kg級　樋渡修大（引佐南部中学校）　3回戦進出
60kg級　鈴鹿功織（高台中学校）　初戦敗退
66kg級　伊藤栄都（高台中学校）　3回戦進出
73kg級　山本斗夢（東海大学翔洋中学校）　3回戦進出
81kg級　飯田空翔（引佐南部中学校）　3回戦進出
90kg級　大和碧瑠（観山中学校）　2回戦進出
90kg超級　下橋颯斗（鷹岡中学校）　準々進出進出（ベスト8）
女子
40kg級　大橋碧（青島中学校）　初戦敗退
44kg級　長倉誉（長岡中学校）　初戦敗退
48kg級　松野愛瑠（浜北部中学校）　3回戦進出
52kg級　袴田佳名瑚（浜北部中学校）　準優勝
57kg級　百田久佳（藤枝順心中学校）　3位
63kg級　鈴木夢乃（浜北部中学校）　初戦敗退
70kg級　高山美憂（藤枝順心中学校）　3回戦進出
70kg超級　米川明穂（藤枝順心中学校）　優勝

各階級県大会優勝者が全国大会に出場している。

第13回全国小学生学年別柔道大会

平成28年8月28日（日）　三重県伊勢市

男子5年
45kg級　長澤拓海（藤枝柔道倶楽部）　準々決勝進出（ベスト8）
45kg超級　沖山智（静岡東部柔道クラブ）　初戦敗退
男子6年
50kg級　小林勇斗（柔好会）　2回戦進出
50kg超級　木内銀平（富士共栄道場）　初戦敗退
女子5年
40kg級　森近颯（和道場）　3位入賞
40kg超級　里見奏来（清水町柔道会）　2回戦進出
6年
45kg級　辻本栞穂（田代道場）　初戦敗退
45kg超級　飯田星那（和道場）　2回戦進出

5月22日に実施された県大会の各階級優勝者が全国大会に出場している。

全国警察柔道選手権大会

平成28年9月6日（火）　日本武道館

男子
66kg級　大木恭介（静岡県警察）　初戦敗退
66kg級　正治和也（静岡県警察）　2回戦進出
100kg級　滝川英克（静岡県警察）　3回戦進出
100kg超級　増田圭省（静岡県警察）　2回戦進出
女子
63kg級　村瀬由樹　初戦敗退
63kg超級　兼子貴江　初戦敗退

定通制柔道東海大会

平成28年9月11日（日）　大垣市武道館

男子団体戦
浜松大平台高校　優勝
鹿島学園高校浜松校　2位
男子個人
65kg級　大川裕生（三島長陵高校）　2位
75kg級　白井翔祐（浜松大平台高校）　優勝
太田玲弥（富士高校松）　2位
90kg級　守重裕斗（鹿島学園高校浜校）　優勝
戸田初（浜松工業）　2位
女子個人
52kg級　外山染季（クラーク国際高校松校）　優勝

第5回静岡県小学生学年別柔道選手権大会

平成28年9月22日（木・祝）　静岡県武道館

4年生男子軽量級
優勝　長屋進（育成館）
4年生男子重量級
優勝　眞田諒太（藤枝柔道倶楽部）
4年生女子軽量級
優勝　金子穂尚美（清水町柔道会）
4年生女子重量級
優勝　松田琴海（長泉柔道会）
5年生男子軽量級
優勝　宇佐美颯（富士共栄道場）
5年生男子重量級
優勝　沖山智（東部柔道クラブ）
5年生女子軽量級
優勝　石川珠愛（心技館）
5年生女子重量級
優勝　森近颯（和道場）
6年生男子軽量級
優勝　青木滉明（清水柔道倶楽部）

6年生男子中量級
優勝　福澤純之輔（大仁柔道会）
6年生男子重量級
優勝　木内銀平（富士共栄道場）
6年生女子軽量級
優勝　原田詩依菜（誠道館）
6年生女子中量級
優勝　原川珠緒（誠道館）
6年生女子重量級
優勝　飯田星那（和道場）

全国警察柔道大会

平成28年10月17日（月）
日本武道館
団体第2部
2次リーグ敗退
来年度2部残留　静岡県警察
第1試合（1次リーグ）
静岡3－2富山
第2試合（1次リーグ）
静岡3－1青森
第3試合（2次リーグ）
静岡2－3京都
第4試合（2次リーグ）
静岡0－5佐賀

静岡県高等学校秋季定通制体育大会柔道競技

平成28年11月6日（日）
三島長陵高校
男子団体
優勝　浜松工業高校
2位　富士高校
3位　浜松大平台高校
　　鹿島学園浜松高校
男子個人
65kg級
優勝　川上ヒロシ（浜松大平台高校）
75kg級
優勝　飯川竜吉（沼津工業高校）
90kg級
優勝　守重裕斗（鹿島浜松高校）
90kg超級
優勝　大賀稜也（富士高校）

第33回静岡県大学高専柔道秋季優勝大会

平成28年12月3日（日）
静岡産業大学
団体の部
優勝　静岡産業大学A
2位　東海大学海洋学部
3位　西部合同チーム（常葉大学・静岡文化芸術大学・聖隷クリストファー大学）
3位　静岡大学
男子個人戦の部
無段の部
優勝　鈴木健吾（静岡産業大学）
66kg級
優勝　熊野暢彦（東海大学海洋学部）
81kg級
優勝　服部澪（静岡産業大学）
81kg超級
優勝　工藤史哉（静岡産業大学）
女子の部
優勝　石川朋佳（静岡産業大学）

第39回全国高等学校柔道選手権大会静岡県予選大会

個人戦
平成29年1月14日（土）
静岡県武道館
女子48kg級
優勝　渋谷　舞（東海大学静岡翔洋高校）
女子52kg級
優勝　中村愛香莉（藤枝順心高校）
女子57kg級
優勝　山上春奈（藤枝順心高校）
女子63kg級
優勝　杵渕　萌（東海大学静岡翔洋高校）
女子無差別級
優勝　澤崎莉子（東海大学静岡翔洋高校）
男子60kg級
優勝　石川俊介（加藤学園高校）
男子66kg級
優勝　橋口　雄（静岡学園高校）
男子73kg級
優勝　小笠原一貴（藤枝明誠高校）
男子81kg級
優勝　鍵山　潤（日本大学三島高校）
男子無差別級
優勝　高木一石（湖西高校）
団体戦
平成29年1月15日（日）
静岡県武道館
女子団体戦
優勝　藤枝順心高校
男子団体戦
優勝　東海大学附属静岡翔洋高校

平成29年3月に日本武道館で開催される全国大会に出場する。

全日本柔道選手権大会県予選会

平成29年2月28日（土）
静岡県武道館
男子
優勝　飯沼元紀（静岡県警察）
2位　滝川英克（静岡県警察）
女子
優勝　伊藤七海（藤枝順心高校）
2位　村瀬由樹（静岡県警察）

以上の4名が全日本選手権大会東海予選に出場する。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

柔道普及活動

西部地区

第6回めばえの親子柔道教室

平成28年6月12日（日）
午後1時～午後4時
浜松市武道館

今年の西部地区親子じゅうどう教室は6月12日（日）に例年通り浜松市武道館で開催された。静岡文化芸術大学の溝口先生に加えて今年度はフランス柔道ジュニアコーチのアブデラティフ・アミナ氏、大仁柔道会の菊池としえ氏が指導を担当された。

地元の道場の生徒や一般の方々親子約100組200名が参加した。開会式では西部地区左口幹事長の挨拶に続き、溝口先生の話、アミナ先生・菊池先生の紹介、礼法の話が行われた。座礼については甲冑を着け、刀を差した武士の作法として紹介された。

開会式に続き、ランニングをしながらグループ作りのゲーム、よつんばいになって走る練習や、後ろ回りなどの準備運動を行い、



その後学年によってグループ分けし、ドッチビーで心地よい汗をかいた。

後半はアミナ先生からフランス流の寝技の指導が行われた。また、菊池先生からは基礎練習の指導があった。

回を重ねて6回目になる「めばえ親子じゅうどう教室」ですが、今後も継続し、底辺拡大に役立つことを期待したいと思います。

中部地区

親子柔道教室

平成28年8月28日（日）
9時～11時　　静岡市北部体育館

静岡県柔道協会中部地区が女子部会を立ち上げ、その女子部会が中心になって開催する教室が、今回で3回目となりました。参加者も年々増えており、幼児・小学生・保護者の方々、指導員を合わせて、161名を数え、柔道場だけでは手狭になり、急遽、剣道場にまで畳を敷いての大イベントとなりました。

今回の試みは、東海大学付属翔洋高校と中等部の女子学生部員が、柔道を通した社会体育での現場を経験することと、子ども達と触れ合うことにより、将来、指導者を目指す、きっかけになりうる機会を与えることでした。最初は、戸惑いながらも、時間が経つうちに、教員さながらの振る舞いをする女子部員もあらわれ、お姉さんたちの優しい指導に甘える子ども達の笑顔がとても印象的でした。

教室は、コアキッズ体操に始まり、ディズニーの音楽に合わせた運動、受身の指導、最後に柔の形の披露と2時間のメニューは、あっという間に進みました。

教室の締めくくりに、田中秀幸幹事長から、「礼法」の説明があり、粛々とした雰囲気で閉講となりました。

これからは、親子のスキンシップの機会の提供はもとより、子育て等で、一度、柔道の現場から離れ、スリープしている女性を今一度、指導者として迎え入れる方策も一考の余地があるように思いました。

文責：後藤奈美

東部地区

今度も例年通りエアロビ柔道を実施しました。平成28年4月22日（水）～平成29年3月15日（水）午後7時15分～8時15分年間38回実施（一部予定）登録者は60人強、1回平均40人程度が参加している。

また、昨年から始めた「みんなで柔道2016静岡東部大会」を平成28年11月27日（日）に実施した。

東部地区の他の取り組みとしては、親子柔道教室が平成26年から田方郡柔道連盟の望月会長を中心に大仁柔道会と韮山柔道教室で行われている。平成28年9月には教室に参加した母親4人が初段を取得するという成果を上げることが出来た。

女性柔道活性化のための「親子柔道教室」実施について

（1）導入の経緯

平成22年4月

県柔道協会の重点施策・目標の中で、（2）女性柔道人口の増加と活性化への方策

ア　プロジェクトチームの発足（活動の在り方の検討）

イ　女子昇段資格改正を契機に女性柔道人口の増加を図る

が提出された。

平成22年7月

理事会第二審議会合同会議で平成22年度第1回関東・東京・東海地区女性登録推進会議の報告がなされ、県内の3地区でそれぞれ女性理事が選任された。

平成22年12月

静岡県少年柔道活性化のための連絡協議会の中で、女性柔道活性化のための「柔道教室」実施についての趣旨などが発表された。

平成23年5月

県柔道協会の重点施策・目標の中で（1）女性登録者増加に向けて親子柔道教室の実施

ア　地区ごとに年1～2回程度実施する。

イ　将来的には登録に結び付けるが、当面は女性に柔道の良さを体験させることを主眼に置く。

ウ　型通りの指導ではなく、護身術等の要素も取り入れ興味を持たせる指導を。

エ　意欲のある者には昇段の機会を与える。

が提出された。

平成23年9月

理事会第二審議会合同会議の中で平成23年度の各地区での親子柔道教室の実施報告がなされた。

平成26年11月

県柔道協会第1回広報普及委員会が開催され、普及部会が新設される。

（2）各地区の指導実態

西部地区の実施状況　会場：浜松市武道館

開催回	開催日	講師	参加人数
1	H23.11	溝口紀子、青木倫他	親子170と指導者
2	H24.11	溝口紀子、ジェレミ・アンドリュ他	親子200と指導者
3	H25.11	溝口紀子、大原尚喜他	親子180と指導者
4	H26.11	溝口紀子、北田典子他	親子160と指導者
5	H27.11	溝口紀子、恵本裕子他	親子200と指導者
6	H28.6	溝口紀子、アミグ他	親子200と指導者

中部地区の実施状況　会場：静岡市北部体育館武道場

開催回	開催日	講師	参加人数
1	H23.8	田中秀幸他	親子87と指導者22
2	H24.8	田中秀幸他	親子69と指導者15
3	H25.11	田中秀幸他	親子94と指導者
4	H26.11	後藤奈美他	親子114と指導者15
5	H27.11	後藤奈美他	総参加数142
6	H28.8	後藤奈美他	総参加数150

東部地区実施状況　会場：沼津市立沼津高校柔道場

開催回	開催日	講師	参加人数
1	H23.5～H24.2　30回	小林準一、根木谷信一	登録45、平均6.1
2	H24.5～H25.3　25回	小林準一、根木谷信一	登録33、平均4.6
3	H25.11～H26.2　29回	小林準一、根木谷信一	登録35、平均8.5
4	H26.11～H27.2　34回	小林準一、根木谷信一、鈴木久司	登録83、平均27.8
5	H27.11～H28.3　36回	小林準一、根木谷信一、鈴木久司	登録82、平均26.6
6	H28.6～H29.3　38回	小林準一、根木谷信一、鈴木久司	登録67、平均31.0

道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

鷹柔クラブ

②静岡県富士市大淵2920
③〒417-0801
静岡県富士市大淵2844-4
秋山オート商会
0545-35-0019
④秋山英生
⑤児童2名、小学生22名、中学生5名、高校生2名、大学生社会人20名

⑥道場紹介

鷹柔クラブは、平成13年4月に子どもたちに正しい柔道を教えて、中学、高校、大学、社会人になっても活躍できる人間を育てていこうという信念をもって、5人の指導者と3人の小学生で発足しました。発足当初は、富士市立鷹岡中学校の柔道場を借りて活動していましたので、鷹岡の鷹と大空をはばたく鷹にかけて鷹柔クラブとしました。

現在は、富士市立大淵中学校の柔道場を借りて、月、水、土曜日の週三回、夜7時から9時まで幼児から社会人まで、練習に励んでいます。毎月、第二水曜日には、富士市立高校で練習しています。

発足当時より、礼法、挨拶は厳しく教え、受け身、体捌き、すり足、崩しなど、基本練習に重点を置き、正しい技の入り方、正しい投げ方など、勝つことだけでなく、子どもたちの成長に合わせた正しい柔道を教えることを心がけています。

歴史は浅く、まだまだこれからの道場ですが、熱い気持ちを胸に秘め、指導者一同がんばっていきたいと思っています。いつの日か、日本武道館の畳の上で、鷹柔クラブの子どもたちが活躍できることを信じて。



富士共栄道場

②〒415-0909
富士市松岡2353-1
③〒416−0906
富士市本市場124
090-2682-9973
④金指邦浩
⑤児童1人、小学生20人、中学生25人、高校生5人、大学・社会人10人

⑥道場紹介

平成24年4月14日より富士市立岩松中学校体育館柔道場で毎週、火・木・土曜日の18：30～20：00（年中と小学生）と20：00～21：00（中学生～一般）まで稽古を行っております。2部制で、礼法から体力作り、本格的な技術までの指導をしています。

富士市で元気いっぱい楽しい柔道をやろう！を合言葉に柔道の師、嘉納治五郎先生の精力善用・自他共栄の精神を基に、柔道の基本である礼法・受け身・基本動作を主とした稽古を日々行っており、元気な女子・男子が楽しく、厳しく、仲良く、柔道を通して丈夫な身体と強い心を鍛えています。

平成26年全国中体連60kg級に古関夕響が出場、平成27年全国中体連60kg級に井出海輝・90kg級で熊谷健太・90kg超級で下橋颯斗が出場し、特に下橋は全国5位に入賞しました。

また、小学生では平成28年度第13回全国小学生学年別柔道大会に、6年生男子50kg超級で木内銀平が出場しました。団体戦では9月に行われた「マルちゃん杯全日本少年大会」に中部地区代表として出場することもできました。

柔道を通して仲間を想う心と、自分に負けずに最後までやり抜く力を身に付け健全なる青少年の育成に力を注いでいます。



静岡市中央体育館柔道教室

②静岡市葵区駿府町2の80
中央体育館内
③〒420-0854
静岡市葵区城内町4の13
（田中秀幸方）
054-252-5295
④田中秀幸
⑤小学生10名、中学生3名、大学社会人30名

⑥道場紹介

静岡市中央体育館柔道教室は、静岡市が掲げる「市民一人1スポーツ」の実現を目指し、多種多様のスポーツ教室を開催する事業の一環として、一九七三年に静岡市体育協会のもとに始まりました。

子供から高齢者まで、愛好家が集う、「夜間」の教室として、歴代の教室代表者のバトンを譲り受け、現在は田中秀幸 八段の指導のもと、週二日（月・木）、稽古に励んでおります。

教室の運営は、午後六時三〇分から、初心者および小学生対象の「一部」が始まり、午後八時からは、中学生・高校生・一般を対象とした「二部」となります。一部では、礼法、基本動作、体力づくりを中心に、二部では、主に乱取となります。近年、一部で育った小学生・中学生が、高校・一般となり、道場に戻ってくるようになりました。うれしいかぎりです。

教室の運営指針としては、第



一に、安全と事故防止を徹底し、また、強くなることに執着せず、生涯柔道を目指すような柔道家の育成をモットーとしています。

これからも、公営の教室の指導員として恥じぬよう、指導員一同、精進して、また、一人でも多くの柔道愛好家が誕生するように努力してまいります。

静岡南部柔道クラブ

②静岡市駿河区曲金3-1-30
③〒422-8006
静岡市駿河区曲金3-1-30
（南部体育館事務局）
054-285-1133
④茶山和巳
⑤児童0人、小学生7人、中学生2人、高校生0人、社会人0人

⑥道場紹介

静岡南部柔道クラブは、公益財団法人静岡市体育協会が主催するスポーツ教室のメンバーからなるクラブです。静岡市駿河区の南部体育館で火曜日と金曜日に活動しています。スポーツ教室ではありますが、団体・個人共に全日本柔道連盟への登録をして各種大会にも参加しております。

教室は全3期からなり4月から7月が1期、8月から11月が2期、12月から3月が3期となっています。常時3名の指導員がレベルに合わせた指導を行います。また、柔道の技術指導は元より礼節を重んじ精神面でも成長できるような指導を心がけています。

稽古は毎週2回（火曜日と金曜日）

1部（小学生）午後6時30分から午後7時50分まで

2部（中学、一般）午後7時50分から午後8時45分まで

申し込みなど詳細は、南部体育館窓口までお願い致します。見学は随時受け付けていますので、一度見学に来てみませんか。「楽しみながら強くなる」をコンセプトに活動していますので是非体育館に足を運んでください。



井上柔道クラブ

②浜松市中区西浅田2丁目3-1
③〒438-0051
磐田市上大之郷13-6
080-51067648
④井上ファビオ
⑤児童0人、小学生20人、中学生2人、高校生3人、大学・社会人10人

⑥道場紹介

井上柔道クラブは平成23年に創設されました。ブラジル人を主に外国籍を持った方が多く参加していることを特徴とするクラブです。⑤で示したように総勢35名で活動しています。

週3回の練習を行っていて、月・土曜日は浜松市中区西浅田町の浜松市武道館を借りて、日曜日は磐田市見附の磐田市総合体育館の道場を借りて練習しています。月・土曜日の練習は午後7時から9時まで、日曜日は午後5時から7時まで行っています。

月1回近隣の中学生や高校生を集めて合同練習を開催しており、互いに柔道の技術を高めあっています。そして、この合同練習は子どもたちにとって良い国際交流の場にもなっています。

井上ファビオ先生（3段）を中心に多くの協力者の力をいただき、日々生徒の柔道の向上に励んでいます。クラブの特徴として日本語とポルトガル語、2か国語で柔道を教えています。また、多くの柔術の選手がクラブに集まり、寝技を重視した練習を心がけています。



礼儀の大切さを生徒に教えることを一番に考え、生徒のそれぞれの個性を生かした教え方を先生と先輩たちが共に考えています。初段以上の生徒に後輩を教えさせることで自分の勉強にもなり責任を持てるようになります。そのような教え方で5年間やってきました。来年も生徒がそれぞれ持つ課題を解決するために、先生や先輩方と一緒に考えていく方針でやっていきたいと思っています。

これからも、学生や一般の人が新しくクラブに入ることを願い、一人でも多くの柔道を続ける選手が育つように指導していきたいと思っています。

大須賀柔道クラブ

②静岡県立横須賀高校柔道場
③〒439-0019
菊川市半済1162-8
090-7699-5907
④鈴木啓祐
⑤児童4人、小学生8人、中学生4人、高校生4人、大学・社会人9人

⑥道場紹介

平成18年に旧大須賀町に児童の健全育成を目的とした大須賀柔道クラブを立ち上げました。昨年10周年を迎え、個性豊かなクラブとなりました。

練習は週3回（火曜日・木曜日・日曜日）午後7時から9時まで、それぞれが目標に向かって、時には涙を流し時には喜びを感じ稽古に励んでいます。

また、月に1回のボランティア活動や、年に数回行われる親睦会があり、子供から大人までが楽しんで参加しています。

今後も結果だけでなく、努力する厳しさや喜びを教え、個々の個性を大切にし、柔道を通じ色々な事を経験し学び、多くの人に愛される柔道人を育てていけるように指導したいと思っています。



新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーを継続することができた。全国大会で3位までに入賞した若い選手（高校生以下の選手）を紹介しているコーナーで、今年度は8名の選手が該当した。昨年の4名を大きく上回りよく頑張ってくれました。特に女子選手の活躍が顕著でした。女子団体の藤枝順心高校もコメントをいただきました。



初段　守重裕斗 さん
（鹿島学園高等学校浜松キャンパス）

平成28年度第47回全国高等学校定時制通信制柔道大会男子90kg級　2位

お父さんと弟さんで近所の「日本一狭い道場」と書いてあった道場を見学に行き、多くの道場出身者が強豪校に進学していることを知り興味を持ったそうです。強くなりたかったんですね。

今回の結果については、「優勝を目指していたので悔しいの一言です。ただ、相手も同じ気持ちだと思うので、相手の方が少しだけ思いが強かったのだと思います。今年は必ず優勝したいと思う。」と語ってくれました。

将来は、「進学して多くのことを学び、できれば柔道の楽しさを伝えるような社会人になりたいと思います。」と夢を語ってくれました。

監督の岩田先生からは、「本校は通信制高校のため、学校での練習は難しく、自ら相手を求めて出稽古をしています。柔道が大好きな生徒で、優しくて練習熱心であり将来は良い指導者になると思います。今年こそは日本一になってほしいものです。」と期待されています。

守重君は個人戦だけでなく団体戦の選手としても活躍し、静岡県チームの主力として活躍し、全国3位入賞に貢献してくれました。日本一目指してがんばってください。



初段　渋谷　舞 さん
（東海大学静岡翔洋高校）

平成28年度全日本カデ柔道体重別選手権大会48kg級優勝、ドイツカデ国際大会48kg級優勝

渋谷さんが柔道を始めたきっかけは「兄が柔道をやっていて、それを見て始めました」ということで、本当によくあるケースです。今回の成績については以下のように語ってくれています。「今回これらの大きな大会で結果を残すことができたのは、冷静になって攻め続けるという自分の柔道ができたからだと思います。試合では絶対負けないという気持ちで戦うことができました。そして、毎日の練習で指導してくれる先生、支えてくれる両親、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、さらに上を目指して一生懸命頑張りたいです。」冷静に分析することができる素晴らしい選手だと思います。

今後の希望としては、「一つ一つの試合を集中して戦っていきたい。ジュニアで戦えるように練習の時から自分に負けないよう頑張りたいです。将来は東京五輪を目指して、世界で通用する選手になりたい。」と決意を語っています。

顧問の古内先生からは「本校に入学し、4月の全日本カデで優勝することができ国際大会という大きな舞台で戦うことができました。ドイツでは渋谷の良さが出た試合となり優勝という結果を残してくれました。カデでの結果や経験を生かして、ジュニア世代での活躍は無論、東京五輪を目指して引き続き頑張ってもらいたい。」とエールを贈られています。



初段　伊藤七海 さん
（藤枝順心高校）

平成28年度全国高等学校総合体育大会女子78kg級2位

柔道を始めたきっかけは「何気なく見学に行ったら楽しそうだったから」ということだそうです。

今回の入賞に関しては「優勝することが目標だったので悔しいです。あと一つ手が届かなかったのは自分に甘さがあったからだと思います。しかし、中学校時代何の結果も無かった私が高校に入り全国で少しずつ勝てるようになったのは、先生や家族・仲間等多くの人の支えがあったからです。感謝の気持ちを忘れず、自分の課題を克服していきたいです。」と、謙虚に語ってくれました。

今後の目標はずばり「大学で日本一」だそうです。がんばってください。

顧問の沼野先生からは次のようなアドバイスが贈られています。「柔道が大好きという選手です。大好きという気持ちが高校で力をつけ実績にもつながったのだと思います。大学では高校で果たせなかった『日本一』になってほしいと思います。」



初段　小笠原一貴 さん
（藤枝明誠高校）

平成28年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子73kg級3位

小笠原君が柔道を始めたきっかけは「兄の練習を見ていて、自分ならもっと強くなれると思ったから。」ということで、強気な性格が見えるようです。

今回の入賞に関しては「この大会は2回目の挑戦であった。大会前に怪我をし、復帰後初めての試合で不安はあったが、『運と周囲の支え』が結果につながった。感謝の気持ちでいっぱいです。」と感謝の気持ちを語っています。

今後は「大学に進学し多くのことを学びたい。柔道選手としても人間としても大きく成長したい。」と前向きに夢を語ってくれました。

顧問の野々山先生は「素直な性格で熱心に取り組んでいる。地力と対応力を向上させるため更なる努力を

期待する。挑戦する気持ちを常に持ち続けてほしい。」と熱いエールを贈っています。



初段　袴田佳名瑚 さん
（浜松市立浜北部中学校）
平成28年度全国中学校柔道大会女子52kg級2位

袴田さんが柔道を始めたきっかけは「父が柔道をやっていて、年長の時に見学をしに行って楽しそうだったのでそこから柔道を始めました。」ということで、経験年数は非常に長い選手ということになります。

今回の入賞に関しては「目標は優勝だったので悔しいです。私がここまでこられたのは今まで支えてくれた先生・仲間・家族など多くの方々に支えられていたからだと思うので感謝の気持ちでいっぱいです。中学では全国制覇が出来なかったので、高校では優勝できるよう一日一日の練習を大切にしていきたいです。」と非常に前向きにとらえています。

今後の夢は「藤枝順心高校に進学し、頑張ります。将来はオリンピック選手になって一番高い台の上に上がりたいと思っています。」と大きな夢を語ってくれました。

顧問の川合先生は「何事にもまじめに取り組める生徒であり、特に柔道では常に目標を持ち、その目標達成のために努力を続けられる選手です。今回は本人の目標を達成することが出来なかったが、次のステージではその目標を達成するために更なる努力をし目標を達成してくれることを信じています。」と温かい言葉を贈っています。



初段　百田久佳 さん
（藤枝順心中学校）
平成28年度全国中学校柔道大会女子57kg級3位

百田さんが柔道を始めたきっかけは次のようなことだそうです。「小さいころ身体がとても弱くて身体を強くするために母がやっていた柔道をしようと思ったのがきっかけです」前向きに挑戦したのですね。

今回の結果については「1回戦から厳しい戦いが続きましたが、何とか準決勝まで勝ち上がることができました。準決勝では、自分の柔道が出来なくて負けてしまったのでとても悔しかったです。初めての全国という大舞台でとても緊張しましたが結果を残すことができ良かったと思います。」と感想を語ってくれました。

今後の夢は「高校では中学の時よりも良い成績が残せるようにこれからの練習を今まで以上に必死でやっていきたいです。またその後、大学に進学し中高とは違った環境の中で自分を成長させ、教員免許を取得し中高の学校に就職して指導者になりたいです。」と非常に具体的にしっかりとしたものを持っています。

顧問の沼野先生からは「中学校1年生から親元を離れ寮生活は大変なこともあったかもしれませんが、その分メンタル面が成長でき、そのメンタル面での強さが今回の結果につながったと思います。高校でも頑張ってほしいと思います。」と励ましの言葉を贈られています。



初段　米川明穂 さん
（藤枝順心中学校）
平成28年度全国中学校柔道大会女子70kg超級優勝

米川さんが柔道を始めたきっかけは「姉が柔道をやっていて自分も興味を持ちやり始めました」ということでよくあるケースです。

今回の優勝については「緊張し、自分の柔道がなかなかできなくて危ない場面やポイントを取られた場面がありましたが、そこを『絶対に勝つ』という気持ちで向かっていき、危ない場面でも、ポイントを取られた場面でも勝ち切ることができたと思います。大舞台で結果を残すことができてよかったです。」と述べており、気持ちを強調しています。

今後は「高校ではインターハイに出場し、自分の柔道をして優勝したいと思います。」と高校での活躍を期しています。

顧問の沼野先生からは「怪我をし、万全な状態で臨むことが出来なかったが全国大会では精神力だけで戦っていました。彼女自身が今回の試合を通して学んだことがこれからの柔道人生に生かされていくと思います。頑張ってほしいです。」と冷静に分析しアドバイスを贈っています。



森近　颯 さん
（和道場）
平成28年度全国小学生学年別柔道大会5年女子40kg級3位

森近さんが柔道を始めたきっかけは「和道場のポスターを見て『やってみたい』と思い体験に行ったら楽しかったからです」ということで、道場としては理想的なケースだと思います。

今回の結果については「全国大会3位なんて思ってもみなかったので、びっくりしたのとうれしい気持ちがありました。」と素直に語ってくれました。

今後の夢は「来年は全国大会で優勝をしたいです。夢はオリンピックに出ることです。」ということでぜひ実現してください。

指導されている新村先生からは「初めての全国大会で緊張とプレッシャーがあったと思いますが、それをはねのけ3位という結果を残すことが出来良かったと思います。今回の結果に満足せず、もっと上を目指して日々の練習に励んでもらいたいです。」と、温かいコメントをいただいています。

藤枝順心高校

第38回全国高等学校柔道選手権大会
女子団体　3位

菊池涼音 さん
水野瑚春 さん
伊藤七海 さん
梶田珠未 さん

選手を代表して、水野さんよりコメントをいただきました。「選手がそれぞれの役割を果たし、チーム一丸となって試合に臨み結果を出すことができ、うれしく思います。しかし、自らの実力不足を感じさらに努力しなければならないと思いました。チームとして日本一を目標に頑張りたい。」

顧問の沼野先生からは「中学時代に大きな実績もないメンバー達が全国3位という結果を残してくれたことはとても立派なことだと思います。彼女達の頑張りが『努力は決して裏切らない』ということを証明してくれました。今後もそれぞれの目標に向かって頑張ってほしい。」と選手たちに賛辞を贈っています。

訃報



高柳喜一　八段

平成29年1月5日御逝去
行年79歳

高柳元会長は、静岡県立浜松商業高等学校柔道部時代から有力選手として活躍され、インターハイや国体などの全国大会に出場されていました。高校卒業後も柔道を続け、多くの輝かしい実績を残しておられます。

企業人としても、株式会社高柳喜一商店や有限会社武興を経営し、武道振興に尽力されました。

柔道協会の役員としては、平成2年から静岡県柔道協会副会長（西部地区幹事長）として西部地区の協会運営に尽力されました。そして、平成11年からは静岡県柔道協会会長として静岡県柔道界の運営にその手腕をいかんなく発揮されました。

特に、平成15年に高柳先生の地元、浜北市で開催された「Ｎｅｗ‼わかふじ国体」の成功に大いに尽力されました。国体の前年に開催された全国教員大会の開催や、三地区対抗戦の開催、マルちゃん杯の開催など永年にわたり、国体成功に向けてきめ細かく準備を進められました。まさに企業人としての経営センスがいかんなく発揮されたものと思います。

また、平成16年には第1回全日本マスターズ柔道大会を国体が行われたあのグリーンアリーナで開催しました。世界につながり、多くの柔道人が参加する生涯スポーツとしてのマスターズの第1回大会でした。この大会も高柳先生の尽力で実現したものであります。

高柳先生は、平成16年に静岡県体育協会体育功労章、平成17年には文部大臣表彰、平成26年には旭日双光章を受章されました。

仕事の合間に養神館植松道場で後進の指導を行っていらっしゃいました。また、静岡県柔道協会名誉会長、静岡県体育協会顧問、全柔連顧問など多くの役職も務めておられました。まさに静岡県のスポーツ界の重鎮として活躍されました。

高柳先生のご冥福をお祈りします。



旭日双光章受章祝賀会にて



佐野　始　七段

平成28年8月24日御逝去
行年72歳

山梨県出身。身延高校卒業後、国士舘大学を経て静岡県警察機動隊に奉職されました。温厚な人柄は、誰からも好感を持たれ、人望が厚い方でした。

柔道の感性は際立っており、小柄な体でありながら、相手の心理を読みとり、左組み手から繰り出す背負投で、大柄で強い相手を投げ飛ばす様は圧巻であり、まさに「柔よく剛を制す」そのものでした。

高校三年次の全国高校総体個人軽量級で準優勝、県警では国体出場4回という輝かしい戦績を持ち、地元山梨では怪童と呼ばれていたようです。

退職後は、各駐在所の巡回指導者として、後輩の指導にあたり、忙しい日々を送られていました。最近では、富士宮柔道会の子供達に柔道の指導をしていきたいと話されていましたが、その願いも叶いませんでした。

突然の訃報に私たち柔道会のだれもが心を痛めています。先生の教えや先生のことをいつまでも忘れません。ありがとうございました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

（富士宮柔道会会長　小林　賢治）



吉川博智　七段

平成28年7月3日御逝去
行年70歳

沼津市立高校に入学以来、故高原富夫先生に先生に師事し柔道の世界に踏み入ることになりました。

静岡県柔道協会理事、沼津柔道連盟会長等要職に就きながら、沼津市民体育館柔道教室を40年以上にわたり指導・育成されました。少年柔道への情熱は熱く、柔道をよく理解した豊富な知識によって、基礎・基本を大切にする指導をされました。

熱血指導ながらも卒業した多くの教え子から敬愛される御人柄でした。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（沼津市民体育館　田中隆）



多久島一貴　四段

平成28年6月3日御逝去
行年42歳

先生は、静岡県立伊東高等学校柔道部にて稽古に励み、高校を卒業後、地元の企業に就職し忙しい仕事の傍ら、自身の稽古、後者への指導と熱心になされておられました。

普段の先生は温厚ですが、ひとたび道着を着て指導に当たると声を張り上げ子供たちに稽古をつけておられました。その姿が、周りの仲間に信頼され慕われておりました。

また、東部柔道連盟の理事として貢献されておられました。

五月末に突然の病に倒れ、あまりにも早い旅立ちに無念でなりません。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（伊東柔道会　鈴木　尚・秋山）



中林忠史　四段

平成28年5月18日御逝去
行年54歳

中林先生は、大学卒業後、愛知県での講師を経て静岡県立下田南高等学校（現下田高校）に社会科（専門は日本史）教諭として赴任されました。以後、県立気賀高校（現浜松湖北高校）、浜松

市立高台中学校、浜松湖南高校、浜松北高校に奉職されました。

柔道との関わりは、ご実家近くにある道場へ通われたことから始まったと伺っております。また教員生活の始まりとともに柔道部顧問として活躍され、全国高校選手権女子個人戦に出場する選手を育てました。柔道協会とのご縁ができたのもこの頃だったと記憶しております。柔道協会においては、西部地区事務局の一員としてご尽力いただき、近年は形講習会の講師（投の形）を長年務められました。

私は八年間、浜松湖南高校でご一緒させていただきました。明るく、ユーモアのある独特の語り口調、日本史に関する博学さ、生徒への細やかな配慮、生徒指導主事として淡々と業務を遂行される姿がすぐさま思い起こされます。普段から先生がおっしゃっていたことで印象深いのは、「僕は、部活の指導をするのが当たり前だと思っている」という言葉です。教員としては至極当然のことなのですが、その当然のことを長年継続していくことができる人こそ、本当の努力家です。中林先生は、まさに努力の人であり、常に柔道に真摯に向き合い、積極進取の人であったと感じております。だからこそ多くの卒業生が先生を慕っているのです。

今回の訃報に接して、当初はまったく信じられませんでした。つい先日、事務局の業務をした際、新天地で水泳部顧問として日焼けされた姿に驚いたという記憶があります。健康そのものでいらっしゃった姿を思い起こすたびに、鬼籍へお入りになったことが残念で仕方がありません。それだけ存在が大きかったのだと、改めて気づかされた次第です。

中林先生のご冥福をお祈りします。

（前浜松湖南高校柔道部顧問　増尾　清己）



齊藤　剛　七段

平成28年8月8日御逝去
行年76歳

先生は北海道の出身で寒さ厳しい土地に育ったという。そのためか物事に対して忍耐強く、くじけない精神を持ち合わせていた。気候温暖の静岡へ来てからもその気持ちは変わることなく柔道を通して交流させていただいたが、様々な場面で先生の不屈の精神が感じられた。

静岡市立の中学校で社会科の教員として教鞭をとり、部活動においては柔道部顧問として生徒指導に情熱を持ってあたった。数多くの名選手を育て、その指導力は高い評価を得ている。

静岡市中学校体育連盟柔道部長（昭和五十二年から二年間）や静岡県中学校体育連盟柔道部長（昭和五十二年から十一年間）としてその任にあたり、選手強化、普及に尽力した。とりわけ昭和六十二年に全国中学校柔道大会が地元静岡県で開催された際には総指揮をとり、細部にわたり気配りを見せ選手、観客を第一に考えた進行に務め、大会を大成功に導いた功績は大きい。

さらに静岡県柔道協会や静岡市柔道連盟役員、審判員として組織の中で柔道発展に尽力し、永年の功績が認められ公認スポーツ指導者として平成十八年に日本体育協会から全国表彰を受けている。中学校教員定年退職後も県柔道協会や市柔道連盟に関わり、柔道人口増大に向けて公立中学校柔道部コーチ、公立体育館夜間柔道教室指導員として児童・生徒に対して献身的に汗を流した。

お酒が好きで柔道仲間らと機会あるごとに懇親会に参加し、飲むほどに酔うほどに多弁となり楽しそうに歓談していたのを思い出す。

中学校の運動部活動の指導者が減っている中で、社会科という教科でありながら専門家として中学校における柔道の発展に寄与された先生のご功績は大きく、先生のご尽力を無駄にすることなく我々はこれからも柔道の普及発展に務めていくことをお誓いいたします。どうぞ安らかにお休みください。

（静岡県柔道協会中部地区幹事長・田中秀幸）



赤池進司　八段

平成28年9月16日御逝去
行年69歳

先生は中部地区や県協会のご意見番として、いつも正論を説き我々を助けてくれていた。一級審査、月次試合、形講習会、昇段審査会など中部地区の行事にはいつも早々と会場に来て準備にあたっていた。大きな身体を動かして細かいところまで気配りしていた。受験者ファーストの考え方を持ち、これらの諸行事を通して生徒を指導・教育されていた。あの指導が今後聞かれないと思うと誠に残念である。

先生は高校時代から柔道を習い始め、全国的大会に出場するなど活躍した。日本大学へ進学しその実力をさらに磨いた。静岡県へ戻り県警察官として奉職され、勤務の傍ら各種大会に出て活躍した。選手を退いてからは職務を務める一方、全柔連公認Aライセンス審判員として各種全国大会の審判にあたった。

また静岡市柔道連盟理事、同副会長、静岡県柔道協会理事、同審議部長としてその手腕を発揮されており、これからの組織改革の中で先生の能力に期待するところが大きかっただけに突然の別れが残念でたまらない。

先生は話が好きで、大会や会議の空き時間には仲間と歓談し、時折冗談を言っては周囲を笑わせていた。博識で我々に色々なことを教えてくれた。また美味しいものに目がなく、何処の店の何が美味しいとかよく知っていて、自分自身でその店へ足を運び購入していたとか、人間味溢れる先生であった。

本協会は、大きな目標に向かって活動し始めたばかりであり、先生の力量発揮の場面であったが、それを前にしてのご逝去は残念でならず、また先生もさぞご無念であったかと思う。これまでのご貢献に感謝しつつ我々は力を合わせて取り組むことをお誓いいたします。どうぞ安らかにお休みください。

（静岡県柔道協会中部地区幹事長・田中秀幸）

今年は多くの方々の訃報を掲載することになりました。皆さんまだまだこれからの先生方ばかりです。

お互い健康には十分注意していきましょう。

各先生方のご冥福をお祈りします。



ア　柔道人口拡大策の研究・実施
イ　女性指導者増員及び活用のための事業　親子柔道教室事業、女性登録推進委員会等が目標とされる。

（3）指導の経緯と内容（東部地区を中心に）

柔道の基本（礼法や受身）・技（寝技や立技）・形を工夫し、日常生活に生かすことが三地区の共通点でした。

東部地区は「エアロビ柔道」を毎週水曜日、1年間通して続けました。「エアロビ柔道」は昭和63年、西ドイツのエッセンで行われた「世界柔道選手権大会」のエキシビションゲームをヒントに、私が沼津市立高校柔道部のトレーニングの一つとして工夫を重ねてきたものです。東部地区役員が一丸となり、父母の昇段に結び付けたのでご報告いたします。

第1回の教室は平成23年5月11日（水）、雨天の中参加者19名は沼市高柔道部員の母親が中心でした。初年度は40代の女性が中心で、最年少は2歳でした。対象者は老若男女年齢制限なしでした。年間受講者延べ183名（年間30回、登録45人・一回平均6.1人）でした。

2年目は受講者が減少し参加者ゼロの日もありました。参加者が激増したのは4年目でした。私の教え子から話が広がりグループ単位で参加者が増加しました。中年の女性はグループで行動することが多く、ネズミ算式に増加していきました。年金受給者にとって無料で参加できることも魅力であったこともわかりました。問題点としては、1～2回しか来ない人がいることと保険を自己加入としたことでした。（これらは平成28年度から年間保険代を一人500円徴収することで解決しました。）

平成26年は節目の年でした。「エアロビ」柔道の受講者急増に合わせるかのように、田方郡柔道連盟の望月会長を中心に「親子柔道教室」が大仁柔道会の菊池四段（水曜日）韮山柔道教室の斎藤七段（木曜日）によって始められました。

この活動と平成27年から始めた『みんなで柔道』が好作用をもたらしました。

大会に参加した母親の中から5人の初段合格者が出ました。合格者の皆さんは、平成28年9月の東部地区審査会で、幹事長から昇段証書を授与されました。これは田方郡柔道連盟の取り組みと高柳先生の理想が実現したものと言えます。

普及部会責任者　東部地区
根木谷信一

ちょっと良い話題

丸山さん親子に感謝状

平成28年3月3日付けの中日新聞で次のような記事が掲載されました。「火災から女性救助、菊川署と菊川市消防本部は丸山さん親子に感謝状」

内容は、西部地区の丸山博行さんと長男で大学4年生の大樹さんが、小笠高校柔道場での練習から帰宅する途中で納屋の火災を発見し、隣の母屋にいた女性（84歳）を救助するとともに自家用車などを避難させた、ということです。2人の活動で消火活動が迅速に行われ、隣家への延焼も防ぐことができたと高く評価され、表彰されました。「たまたま通りがかり、当然のことをしただけです。」博行さんは語っているが、丸山さん親子に対して大いに拍手を贈りたい。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

平成28年度講道館『形』東海地区講習会

平成28年5月8日（日）
浜松市武道館

午前9時45分から開会式が行われた。高田会長の挨拶に続き、指導者を代表して尾形敬史八段（柔の形担当）から挨拶があり講習会が始まった。今回の講習会の指導者は、尾形氏のほか村田直樹八段（古式の形担当）長谷川育男八段（極の形担当）山本三四郎七段（投の形担当）の3名が務めてくれた。参加者は東海地区『形』競技大会の各県参加者・審判員と、地元静岡県からの希望者で総勢百名弱であった。

各形に分かれて午前午後と充実した講習会が行われた。投げの形に参加させていただいたが、いろいろな面白い指摘があった。例えば投げの形の背負投は背負投げといいながら実際は一本背負いであることは良く知られている。これはかつての柔術の名残があり、本当は関節を極めて投げていた技が元になっているそうで、いわゆる一本背負いではないという指摘は新鮮だった。

最後に各形を代表者に演技していただいた。東海大会に出場する選手達だと思われるが、見事な形であった。

閉会式では、村田直樹先生から講評があり、受講生の真剣な取り組みに対して誉めの言葉をいただいた。充実した一日を過ごすことができました。

西部地区形講習会

西部地区の形の講習会が9月11日（日）浜松市武道館にて審査会終了後実施された。講師には浜北柔道協会（JR東海ツアーズ）の森田氏が担当された。今年は固の形が行われ、森田氏の指導のもと西部地区の指導者が講習を受講した。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

編集後記

柔道しずおか20号をお届けします。今年度は計報が多く、本当に残念でなりません。お亡くなりになられて各先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

リオオリンピックで日本柔道は素晴らしい成績を残し、東京大会に大きな期待を抱かせてもらいました。2020年に期待したいと思います。静岡県関係の選手が活躍することを期待します。

柔道のルールが一部変わるようです。特に「有効」・「合わせ技一本」がなくなること、反則では勝負が決しないこと、試合時間が短くなる等、大きな変更が行われるようです。柔道からJUDOになり、仕方がない面もありますがしっかり対応しましょう。

柔道しずおか編集担当
宮崎貞夫

第21号

柔道しずおか

平成30年3月　静岡県柔道協会発行

事務局　〒422-8004 静岡市駿河区国吉田5-1-1　公益財団法人 静岡県体育協会内 静岡県柔道協会事務局
TEL　090-1832-9084　　FAX　055-988-3611
メール　　shizuokajudo5803@yahoo.co.jp

【巻頭言】

今後の本県柔道協会の発展をめざして

静岡県柔道協会副会長　七段　間宮幸男



平成29年4月1日、西部支部幹事長の重責を担うことになりました。新体制へ移行してから、8ヶ月、現役時代は巧みに体を扱い、躍動に溢れていたにもかかわらず、引退すると不慣れな仕事を始めることになり、不安をかかえての出発でありましたが、歴代西部支部副会長の意志を引き継ぎ、柔道の普及に力を注ぎ、静岡県柔道協会の発展に全力を尽くしたいと思います。

中学時代に、浜松養神館で柔道を志し、高校、大学と自己研鑽をして、卒業後は母校に戻り、高校教師として指導者の道を38年間歩み続けて、教職に身を置いての、柔道の普及に努めてきました。当時は、テレビあるいはオリンピックで柔道を大々的に取り上げられ、部活動においての部員確保には困ることなく、柔道を通して、人間形成の重要さを教えてきました。

協会役員としては、平成5年度から強化委員を、野田昭一委員長（現会長）の下、強化スタッフを組織化して県内の中高生の競技力向上を図り、東海ブロックの壁を破り、国体本大会出場を至上命令として、合宿を重ね切磋琢磨し、各種別で出場権を確保してきた中で、少年男子のコーチとして、平成10年神奈川国体では、少年男子が念願の4位入賞を勝ち取りました。平成15年には、静岡国体柔道競技が浜北市（現浜松市浜北区）で開催が決定し、少年男子の監督という重責を負い、選手強化を図り、戦い続けていくのは困難でしたが、素晴らしい強化スタッフ達と試行錯誤しながら本大会に臨み、8位入賞、競技別天皇杯4位を勝ち得たものでした。その後も強化委員として競技力向上に努めて、平成25年東京国体では、成年女子の監督として、金田結花選手（浜松商業高出身）、村山のぞみ選手（市立沼津高出身）、土屋文香選手（東海大静岡翔洋高出身）を擁して決勝まで上り詰め、強化選手が数多くいる千葉県と互角に渡り合い、堂々の準優勝を勝ち取り、競技別皇后杯では3位という成績を収めることができました。3選手は、国体県代表のユニフォームを着たという自信を持って、失敗を恐れずにやれたことが勝利に繋がったと思います。強化スタッフ並びに協会関係者と喜びを分かち合うことができました。

本年度は世界選手権男子73kg級で優勝した橋本壮市選手（パーク24・浜松市出身）が階級変更や怪我を乗り越え、初出場初優勝したことをマスコミで大きく取り上げられました。2020年東京五輪では金メダルを狙っていると、浜松市に報告に訪れたときに言っていました。なお浜松市では、東京五輪を前にして、ブラジルナショナルチムが事前合宿を雄踏地区に内定をして、身近で世界レベルの柔道が見られるという経験ができることは、この上ない機会だと思います。

しかしながら、本県の柔道界を取り巻く環境は非常に厳しいものがあり、柔道人口の減少は続いています。その要因として、スポーツの多様化、少子化による児童・生徒数の減少から、全国で進む小中学校や高校の統廃合、生徒数が減れば顧問がいないために部活動が存続できなくなったりするなどの支障が出てきて、柔道離れに歯止めが利かない状況があり、折角小学生以下の子ども達を主体として、少年柔道が地域に根ざし、熱い気持ちを持って指導をしても先細りをしてしまう形になってしまいます。2020年東京五輪では、マスメディアで柔道を取り上げる比率は非常に多くなると思いますので、各国の代表選手を間近で観戦して、名選手に出会い、柔道の素晴らしさを見つけ、共に感動をして、今より多くの子ども達に夢を与えられて、少年チームが増えれば、地域も活性化し、競技力も向上し、競技人口も増加して、ファンの数も増えれば、人気もアップすると思いますので、役員、会員が一丸となってそれらの諸問題を解決して、一歩一歩前進したいと思います。

結びに、静岡県柔道協会の益々の普及・発展を祈念申し上げ、拙文を終わります。



第72回 国民体育大会柔道競技 報告

今年度より国体予選並びに参加手順や種別に大きな変更がありました。まず少年女子・成年女子が廃止され、新たに女子（五人戦）という種別で設置されました。次に年度により本戦出場があらかじめ決定している種別や、従来どおり東海予選を勝ち抜いて本戦出場を獲得する種別に分かれるようになりました。今年度は少年男子が東海予選なしで本戦出場を獲得しました。女子は東海予選を勝ち抜いて本戦出場を果たしましたが、成年男子は残念ながら東海予選で敗退し、本戦出場はかないませんでした。

以下、少年男子監督並びに女子監督による国体報告をいたします。

少年男子

愛媛国体を終えて

国体少年男子監督　小柳津敬博

今年度の国民体育大会の少年男子は47都道府県すべて参加できる年になりました。国体柔道競技の方法が新しくなり大変良い年に監督として参加させていただき光栄に感じております。また、本校生徒も2名参加することができ大変有意義な大会になりました。以下に試合結果を報告いたします。



〈一回戦〉**静岡県5－0鳥取県**

先鋒　山本蒼良　○（反則勝ち）岸本悠希

序盤から積極的に攻撃に出た山本選手。相手が技を出す暇を与えず、自分のペースを貫いた戦い方であった。残り30秒を切ったところで相手に3つめの指導が与えられ反則勝ちを収めた。

次鋒　坂本航輝　㊀（背負落）小田竜誠

先鋒戦のよい流れを受けて果敢に攻撃を仕掛ける坂本選手。背負落で一本かと思われたが、相手もしぶとく残し技ありの判定。そのまま試合時間終了となった。

中堅　重田幸大　○（横四方固）上灘　元

開始早々相手を崩してそのまま抑え技に入る。素早い動きと決して相手を逃がさない万全の体勢で一本勝ちを収めた。この勝利で2回戦進出が確定した。

副将　米山竜生　○（大内刈）奥田颯斗

開始直後の足技が抜群の切れを見せた。一閃の大内刈で一本勝ちを収めた。

大将　髙木一石　○（払腰）山﨑駿太郎

試合開始5秒、髙木選手の左払腰が豪快に決まって一本勝ち。

〈二回戦〉**静岡県0－2千葉県**

先鋒　山本蒼良　（隅落）○市川龍之介

千葉の先鋒（60kg級）市川選手は、春の選手権大会とインターハイ個人を制した強敵。対する山本選手は2年生ながらインターハイ個人で5位入賞した実力者。相手がまだ体が十分動いていない序盤もつれ合った時に技ありを先取したが、残り1分を切ったところで逆転の一本負けを喫してしまった。

次鋒　坂本航輝　（引き分け）岩下玄太

両者積極的に攻撃を仕掛けるも、あと一歩のところでポイントを奪えない状況が続いた。非常に惜しい試合であったが、後に続く3年生に良い流れを引き寄せてくれた。

中堅　重田幸大　（僅差）Ⓚ板東虎之輔

先鋒・次鋒と2年生が頑張りを見せていたので、ここから登場する3年生3人に一層の奮闘を期待した。しかし相手も実力者で重田選手の技もうまく封じられてしまった。結果的に指導差で負けてしまったが、後ろの二人にうまくバトンをつないでくれたのではないかと感じさせる試合内容であった。

副将　米山竜生　（引き分け）畠山竜弥

この試合で勝利をしないと次の戦いに駒を進められないといった状況の中、インターハイ個人100kg級5位入賞の米山選手は積極果敢に勝負を挑む。しかし相手も警戒して十分な組み手にさせてくれない。一進一退の攻防が続くも、時間切れとなってしまった。

大将　髙木一石　（引き分け）大淵泰志郎

いよいよ大将戦。髙木選手は春の全国高校選手権大会無差別級3位の実力者。なんとか一矢報いるべく、技を仕掛けるものの相手の大淵選手もなかなか強敵で、試合の主導権争いが続いた。お互い技を出すものの、決定打にはならずに時間終了を迎えた。

〈総括〉

今回の静岡県チームは、先鋒・次鋒と2年生が活躍し、後ろの3年生が正々堂々と戦ってくれるというスタイルであった。来年は東海地区から2チームのみの参加になるので、2年生の若い選手の活躍は来年度本大会出場への希望につながったと思われる。最後になりましたが各所属の監督の先生方の協力と、遠く愛媛県武道館まで応援に来ていただき感謝申し上げます。

女子

藤枝順心中学高等学校　沼野由香利

本年度から成年女子及び少年女子種別は、女子に統一され52

kg以下の先鋒（少年）、57kg以下の次鋒（成年）、52kg超～63kg以下の中堅（少年）、63kg超～78kg以下の副将（少年）、体重無差別の大将（成年）の5人。試合は、トーナメント方式による団体戦で行われた。

選手たちは静岡県チームとしての役割を果たそうと大変頑張ってくれた。

試合についてそれぞれの選手に感想・反省を書いてもらった。

今回の経験、反省が今後の彼女たちの柔道人生に活きてくるはずである。



〈一回戦〉**静岡県2－1富山県**

（先方）渋谷　舞×沢辺咲紀

初めから投げることだけに集中すると動きが止まってしまうため、攻め方に工夫をし、指導を取れることが出来た。背負い投はうまく技に入ることが出来たが、キメが甘かったのでポイントを取ることができなかった。

（次鋒）谷川美歩　（技あり）

○細川信子

相四つの相手に対し組勝ち、小外刈りで押していったところ、切り替えされて払い腰でポイントを取られてしまいました。その後、寝技で抑え込むチャンスがあったが決めきることができなかった。

（中堅）杵淵　萌○内股　番匠美沙貴

相手は、腰を引いている選手だったため、積極的に内股を掛けたが何度かすかされそうになった。

しかし、諦めることなく最後まで内股で投げようと掛け続け、一本を取ることが出来た。

（副将）澤崎莉子○反則勝ち

橋本美咲

力が伝わりにくい相手だったので、技を掛けたら投げ切ることと攻め続けることを意識して試合を行った。

その結果、相手に指導3を与えることができ、勝つことができた。

（大将）滝川真央×松田美悠

試合開始から自分のペースで試合を進めることができ、指導2まで取りきることができたが、試合後半は逆に相手に攻められ引き分けで終わった。

投げられはしなかったが、相手の技を捌ききれず危ない場面があったので気を付けたい。

〈二回戦〉**静岡県1－2千葉県**

（先方）渋谷　舞×横山澄香

相手は、寝技が得意の選手だったために寝技に付き合わないように気を付けた。

攻め方を工夫し、指導を取ることができたが、場外指導を受けてしまい、引き分けで終わってしまった。

試合最後まで攻めきるということが大切だということが分かった。

（次鋒）谷川美歩×長野七海

相手は長身選手で間合いを取りながら組み手をしてくる選手だったため、上手く組み手を行うことができなかった。特に釣り手を取ることが遅く、両袖を持った状態でしか技を仕掛けることができなかった。

（中堅）杵淵　萌○（技あり）

川城莉子

落ち着いて相手をよく見て、自分の柔道をすることができた。内股で投げることが出来たが、キメが甘く一本を取ることが出来なかった。

（副将）澤崎莉子（僅差）◒吉田菜美

攻めが遅く指導2で負けてしまった。どんな相手でも、積極的に攻撃しどんな形でも勝つことが大切だと感じました。

（大将）滝川真央　横四方固○

緒方亜香里

体がよく動いていて、足技も出すことができ、指導一つを取ることができたが、組み手は相手も上手なのでなかなか思うように組ませてもらえず、中途半端に技を掛けたところを関節で腕を決められ抑えられてしまった。

第59回 静岡県柔道祭開催

平成29年11月19日、藤枝市前島の静岡県武道館にて、第59回静岡県柔道祭が開催された。試合に先立って特別功労章、永年功労章、功労章、奨励章、優秀指導者章、優秀選手章の表彰が行われた。

表彰者は以下のとおりである。

〈特別功労章〉

岩崎勝壽　八段

髙田　徹　八段

斉藤圭司　七段

赤池進司（故人）　八段

〈永年功労章〉

垣野明彦　七段

内海隆治　七段

内藤克巳　八段

〈功労章〉

土屋弥生　六段

竹島政幸　七段

田中　隆　五段

〈奨励章〉

井村秀明　五段



松岡政文　四段
山口雄一　五段
菊池　隆　四段
谷川　尚　四段
宮島紳幸　五段
伊藤路照　五段

〈優秀指導者章〉
新村　覚（和道場）

〈優秀選手章〉
森近　颯（和道場）

☆平成29年度全国小学生学年別柔道大会6年女子45kg級第2位
宇津山英弥（浜松市立湖東中学校）

☆平成29年度第48回全国中学校柔道大会男子73kg級第3位
米川明穂（藤枝順心高校）

☆2017サンティアゴ世界カデ柔道選手権大会女子70kg超級第3位
静岡県チーム
川合　遼（藤枝柔道倶楽部）
渡邉誉一（伊豆長岡柔道会）
眞田諒太（藤枝柔道倶楽部）
沖山　智（静岡東部柔道クラブ）
杉山彪馬（清水町柔道会）

☆文部科学大臣杯争奪第26回日整全国少年柔道大会（団体）第3位
なお優勝チーム並びに優秀選手は以下のとおりである。
小学生団体
1位　清水町柔道会
中学男子団体
1位　静岡学園
中学女子団体
1位　東海大静岡翔洋高校中等部
高校男子団体
1位　東海大静岡翔洋高校
高校女子団体
1位　藤枝順心
一般団体
1位　静岡刑務所
優秀選手
小学生
杉山彪馬（清水町柔道会）
長屋　進（育誠館道場）
中学男子
辻本龍基（静岡学園）
渡邉爽偉（育誠館道場）
中学女子
渡辺麻唯乃（東海大静岡翔洋高校中等部）
望月珠樺（市立沼津高校中等部）
高校男子
村松孝紀（東海大静岡翔洋高校）
杉山諒馬（加藤学園）
高校女子
向尾知妃（藤枝順心）
百井優佳（東海大静岡翔洋高校）
一般
須藤行義志（静岡刑務所）
飯川夢次郎（富士柔道会A）

各種大会の報告

第39回全国高等学校柔道選手権大会

平成29年3月19日～20日
日本武道館

個人男子
60kg級
石川俊介（加藤学園）　2回戦敗退
66kg級
橋口　雄（静岡学園）　2回戦敗退
73kg級
小笠原一貴（藤枝明誠）　5位
81kg級
鍵山　潤（日大三島）　3回戦敗退
無差別級
髙木一石（湖西）　3位
女子48kg級
渋谷　舞（東海大静岡翔洋）　5位
52kg級
中村愛香莉（藤枝順心）　5位
57kg級
山上春奈（藤枝順心）　5位
63kg級
杵渕　萌（東海大学静岡翔洋）　3位
無差別級
澤崎莉子（東海大学静岡翔洋）　2回戦敗退
団体男子
東海大学静岡翔洋　3回戦敗退
女子
藤枝順心　2回戦敗退

平成29年度全日本カデ柔道体重別選手権大会

平成29年4月9日
大阪府立門真スポーツセンター
東和薬品RACTBAドーム
女子48kg級
渋谷　舞（東海大静岡翔洋）　優勝
52kg級
中村愛香莉（藤枝順心）　2位
57kg級
百田久佳（藤枝順心）初戦敗退
袴田佳名瑚（藤枝順心）初戦敗退

第37回全国少年柔道大会

平成29年5月5日　講道館
藤枝柔道倶楽部5－0　旭日柔道場（長野）
藤枝柔道倶楽部2－3　有朋柔道塾（広島）
予選リーグ敗退

平成29年度東海学生柔道夏季優勝大会

平成29年5月21日
愛知県武道館
男子団体
静岡産業大学　2回戦敗退
女子団体（3人制）
静岡産業大学　3位

第14回静岡県小学生学年別柔道大会　兼　全国小学生学年別柔道大会県予選

平成29年5月21日
於：静岡市北部体育館
男子5年生
45kg級
1位　岡本篤弥（静岡錬心館）
45kg超級
1位　眞田諒太（藤枝柔道倶楽部）
男子6年生
50kg超級
1位　寺田葵依（柔好会）
女子5年生
40kg級
1位　金子穂尚美（清水町柔道会）
40kg超級
1位　鈴木千夏（浜北スポーツ少年団）
女子6年生
45kg級
1位　森近　颯（和道場）
45kg超級
1位　里見奏来（清水町柔道会）

平成29年度関東警察柔道大会

平成29年6月22日
関東管区警察学校
団体A組予選リーグ敗退
第1試合　静岡1－3埼玉
第2試合　静岡0－6警視庁

女子個人
村瀬由樹（静岡県警察）　2回戦進出
原田祐花（静岡県警察）　2回戦敗退

平成29年度全日本ジュニア体重別選手権大会静岡県予選

平成29年6月24日　静岡県武道館

男子
55kg級
1位　石川俊介（加藤学園）
60kg級
1位　山本蒼良（東海大静岡翔洋）
66kg級
1位　橋口　雄（静岡学園）
73kg級
1位　坂本航輝（静岡学園）
81kg級
1位　服部　澪（静岡産業大）
90kg級
1位　田倉淳ノ介（加藤学園）
100kg級
1位　大橋海斗（日大三島）
100kg超級
1位　長屋　友（加藤学園）
女子
48kg級
1位　渋谷　舞（東海大静岡翔洋）
52kg級
1位　中村愛香莉（藤枝順心）

57kg級
1位　袴田佳名瑚（藤枝順心）
63kg級
1位　杵渕　萌（東海大学静岡翔洋）
70kg級
1位　梶田珠来（藤枝順心）
78kg級
1位　澤崎莉子（東海大学静岡翔洋）
78kg超級
1位　米川明穂（藤枝順心）

平成29年度全日本学生柔道優勝大会

平成29年6月24日、25日　日本武道館

女子団体3人制　1回戦
静岡産業大1－2大東文化大

静岡県成年柔道体重別選手権大会

平成29年7月17日　静岡県武道館

60kg級
1位　小林大貴（中央大学）
73kg級
1位　大木恭介（静岡県警察）
90kg級
1位　山田知輝（帝京科学大学）
無差別
1位　滝川英克（静岡県警察）
2位　花村恭介（JR東日本）

3位　飯沼元紀（静岡県警察）

全国高校総体

平成29年8月8日～11日　郡山総合体育館

団体男子
加藤学園　1回戦2－1箕島（和歌山）
2回戦1－2新田（愛媛）

女子
藤枝順心2回戦1－①天理（奈良）

個人
男子60kg級
山本蒼良（東海大静岡翔洋）　5位
66kg級
矢萩奨真（東海大静岡翔洋）　1回戦敗退
73kg級
小笠原一貴（藤枝明誠）　1回戦敗退
81kg級
鍵山　潤（日大三島）　2回戦敗退
90kg級
重田幸大（日大三島）　2回戦敗退
100kg級
米山竜生（東海大静岡翔洋）　5位
100kg超級
髙木一石（湖西）2.回戦敗退

女子48kg級
渋谷　舞（東海大静岡翔洋）　1回戦敗退
52kg級
中村愛香莉（藤枝順心）　2回戦敗退
57kg級
山上春奈（藤枝順心）　2回戦敗退
63kg級
杵渕　萌（東海大学静岡翔洋）　5位
70kg級
池田紗也（藤枝順心）　2回戦敗退
78kg級
山本　杏（藤枝順心）　1回戦敗退
78kg超級
竹川瑠奈（富士市立）　1回戦敗退

第70回静岡県中学校総合体育大会柔道競技

平成29年7月27日、28日　静岡県武道館

団体男子
1位　長岡中学校
2位　静岡学園中学校
3位　東海大学静岡翔洋高校
中等部
3位　高台中学校

女子
1位　東海大学静岡翔洋高校中等部
2位　藤枝順心中学校
3位　市立沼津高校中等部
3位　引佐南部中学校

個人
男子50kg級
1位　源平琉真（東海大学静岡翔洋高校中等部）
2位　鈴鹿睦月（高台）
3位　大賀弘渡（市立沼津高校中等部）
3位　小山仁志（清水第二）
55kg級
1位　加藤遼馬（長岡）
2位　菅谷尚優（高台）
3位　池沼　尋（積志）
3位　山本遙斗（函南）
60kg級
1位　成田魁星（富士南）
2位　福澤翔太郎（日大三島）
3位　岡村羽奏（東海大学静岡翔洋高校中等部）
3位　服部航太（湖東）
66kg級
1位　吉田篤申（聖霊クリストファー）
2位　鈴鹿功織（高台）
3位　岡本紳吾（静岡学園）
3位　長澤篤希（静岡学園）
73kg級
1位　宇津山英弥（湖東）
2位　宇佐美一誠（富士）
3位　福田翔太（静岡学園）
3位　酒井聖矢（大富士）

81kg級
1位　岡村羽詞（東海大学静岡翔洋高校中等部）
2位　渡邉爽偉（東海大学静岡翔洋高校中等部）
3位　若田部桔平（長岡）
3位　伊藤祥真（引佐南部）

90kg級
1位　矢崎洋介（岳陽）
2位　植松大郎（大富士）
3位　荒　誠人（静岡学園）
3位　林　恭平（高台）

90kg超級
1位　小田春樹（長岡）
2位　増田孝貴（北浜）
3位　蒔田稀翔（引佐南部）
3位　甲田真吾（城南静岡）

女子40kg級
1位　百田久奈（藤枝順心）
2位　太田葉月（観山）

44kg級
1位　新村侑郁（浜北北部）
2位　大橋　碧（青島）

48kg級
1位　酒井結花（北浜）
2位　佐藤由舞（東海大学静岡翔洋高校中等部）

52kg級
1位　福田智花（引佐南部）
2位　村松杏樺（龍玉）

57kg級
1位　杉山月琉（東海大学静岡翔洋高校中等部）
2位　大石紋萌（観山）

63kg級
1位　橋口英子（静岡学園）
2位　渡辺麻唯乃（東海大学静岡翔洋高校中等部）

70kg級
1位　高山美憂（藤枝順心）
2位　四條瑠那（東海大学静岡翔洋高校中等部）

70kg超級
1位　飯田星那（高台）
2位　オトウボひなた（鷲津）

第42回全国教員柔道大会

平成29年8月5日　講道館
1回戦　静岡県0－5神奈川県

第39回東海中学校総合体育大会

平成29年8月8日～9日　静岡県武道館

団体　男子
3位　高台中学校
3位　長岡中学校
5位　静岡学園中学校
5位　東海大学静岡翔洋高校中等部

女子
2位　東海大学静岡翔洋高校中等部
5位　藤枝順心中学校

個人男子

50kg級
鈴鹿睦月（高台）5位
源平琉真（東海大学静岡翔洋高校中等部）1回戦敗退
大賀弘渡（市立沼津高校中等部）1回戦敗退
小山仁志（清水第二）1回戦敗退

55kg級
加藤遼馬（長岡）優勝
菅谷尚優（高台）5位
池沼　尋（積志）1回戦敗退
山本遙斗（函南）1回戦敗退

60kg級
成田魁星（富士南）2位
岡村羽奏（東海大学静岡翔洋高校中等部）3位
福澤翔太郎（日大三島）5位
服部航太（湖東）5位

66kg級
岡本紳吾（静岡学園）優勝
鈴鹿功織（高台）2位
吉田篤申（聖霊クリストファー）3位
長澤篤希（静岡学園）5位

73kg級
宇津山英弥（湖東）優勝
酒井聖矢（大富士）2位
宇佐美一誠（富士）3位
福田翔太（静岡学園）5位

81kg級
岡村羽詞（東海大学静岡翔洋高校中等部）2位
渡邉爽偉（東海大学静岡翔洋高校中等部）1回戦敗退
若田部桔平（長岡）1回戦敗退
伊藤祥真（引佐南部）1回戦敗退

90kg級
矢崎洋介（岳陽）3位
植松大郎（大富士）1回戦敗退
荒　誠人（静岡学園）1回戦敗退
林　恭平（高台）1回戦敗退

90kg超級
小田春樹（長岡）2位
増田孝貴（北浜）5位
蒔田稀翔（引佐南部）1回戦敗退
甲田真吾（城南静岡）1回戦敗退

女子40kg級
百田久奈（藤枝順心）3位
太田葉月（観山）5位

44kg級
新村侑郁（浜北北部）2位
大橋　碧（青島）5位

48kg級
酒井結花（北浜）3位
佐藤由舞（東海大学静岡翔洋高校中等部）5位

52kg級
福田智花（引佐南部）2位
村松杏樺（龍玉）5位

57kg級
杉山月琉（東海大学静岡翔洋高校中等部）3位
大石紋萌（観山）5位

63kg級
橋口英子（静岡学園）3位
渡辺麻唯乃（東海大学静岡翔洋高校中等部）5位

70kg級
高山美憂（藤枝順心）優勝
四條瑠那（東海大学静岡翔洋高校中等部）5位

70kg超級
飯田星那（高台）3位
オトウボひなた（鷲津）5位

2017年サンティアゴ世界カデ柔道選手権大会

平成29年8月9日～13日　チリ：サンティアゴ

女子70kg超級
米川明穂（藤枝順心）3位

第48回全国高等学校定時制通信制体育大会柔道競技

平成29年8月6日　講道館

男子団体　3位
女子団体　1回戦敗退
男子個人
65kg級
大川裕生（三島長陵）棄権
75kg級
飯川竜吉（沼津工業）1回戦敗退

90kg級
守重裕斗（鹿島学園浜松）優勝
90kg超級
大賀稜也（富士）2回戦敗退
女子個人
63kg級
久保敷さくら（新居）5位
63kg超級
木村タエコ（新居）1回戦敗退

平成29年度第14回全国小学生学年別柔道大会

平成29年8月20日
北海道立総合体育センター
6年生女子 45kg級
森近颯 2位

平成29年度全国中学校体育大会 第48回全国中学校柔道大会

平成29年8月22日～25日
福岡国際センター
男子団体
Hブロック
長岡0－4埼玉栄（埼玉）
長岡2－②長崎南山（長崎）
予選リーグ敗退
女子団体
Jブロック
東海大学静岡翔洋高校中等部
2－0足利市立第一（栃木）
東海大学静岡翔洋高校中等部
3－0隠岐の島町立西郷（島根）
決勝トーナメント1回戦
東海大学静岡翔洋高校中等部
0－1鎮西敬愛学園敬愛（福岡）
男子個人
個人男子50kg級
源平琉真（東海大学静岡翔洋高校中等部）
1回戦敗退
55kg級
加藤遼馬（長岡）3回戦敗退
60kg級
成田魁星（富士南）
2回戦敗退
66kg級
吉田篤申（聖霊クリストファー）
2回戦敗退
73kg級
宇津山英弥（湖東）3位
81kg級
岡村羽詞（東海大学静岡翔洋高校中等部）
2回戦敗退
90kg級
矢崎洋介（岳陽）2回戦敗退
90kg超級
小田春樹（長岡）5位
女子40kg級
百田久奈（藤枝順心）
1回戦敗退
44kg級
新村侑郁（浜北北部）
2回戦敗退
48kg級
酒井結花（北浜）2回戦敗退
52kg級
福田智花（引佐南部）
2回戦敗退
57kg級
杉山月琉（東海大学静岡翔洋高校中等部）
2回戦敗退
63kg級
橋口英子（静岡学園）
2回戦敗退
70kg級
高山美憂（藤枝順心）5位
70kg超級
飯田星那（高台）2回戦敗退

平成29年度東海学生柔道体重別選手権大会

平成29年8月26日
愛知県武道館
女子52kg級
石川朋佳 2位

嘉納治五郎記念ウラジオストク日露ジュニア交流大会

平成29年9月4日
ロシア・ウラジオストク
男子100kg超級
髙木一石（湖西）3位

平成29年度全国警察柔道選手権大会

平成29年9月5日
日本武道館
男子66kg級
大木恭介（静岡県警）
2回戦進出
100kg級
飯沼元紀（静岡県警）初戦敗退
100kg超級
滝川英克（静岡県警）
3回戦進出
女子63kg以下級
原田祐花（静岡県警）
2回戦進出
63kg超級
村瀬由樹（静岡県警）
2回戦進出

平成29年度全日本ジュニア体重別選手権大会

平成29年9月9日、10日
埼玉面武道館
男子100kg級
大橋海斗（日大三島）
1回戦敗退
女子48kg級
渋谷舞（東海大静岡翔洋）4位
52kg級
中村愛香莉（藤枝順心）
2回戦敗退

平成29年度東海定時制通信制高等学校体育大会柔道競技

平成29年9月10日
三重県鈴鹿市武道館
男子65kg級
3位 大川裕生（三島長陵）
75kg級
1位 飯川竜吉（沼津工）
90kg級
1位 白井翔祐（浜松大平台）
90kg超級
3位 大賀稜也（富士）
女子63kg級
2位 久保敷さくら（新居）

平成29年度全日本学生柔道体重別選手権大会

平成29年10月1日
日本武道館
女子52kg級
石川朋佳（静岡産業大）
1回戦敗退

平成29年度全国警察柔道大会

平成29年10月17日
日本武道館
団体
第2部一次リーグ敗退
第1試合 静岡0－3広島
第2試合 静岡2－1岐阜

平成29年度全日本形競技大会

平成29年10月22日　講道館

投の形
渡部成也（静岡県警）
佐藤邦洋（静岡県警）　5位

固の形
森田賢一（JR東海）
猪又　功（JR東海）　11位

極の形
小椋俊彦（静岡県警）
鈴木慎一（静岡県警）　9位

古式の形
渡邉達也（静岡県警）
磯部正博（県柔道協会）　7位

平成29年度秋季定通制高等学校体育大会柔道競技

平成29年11月5日　三島長陵高校

男子団体
1位　浜松工業

男子個人
65kg級
1位　大川裕生（三島長陵）
2位　飯川竜吉（沼津工）
3位　高橋夏樹（小山）

75kg級
1位　ロドリゲスビクトルサトウ（富士）
2位　中嶋恒鷹（浜松大平台）

90kg級
1位　大村マサシ（浜松工）
2位　白井翔祐（浜松大平台）

90kg超級
1位　大賀稜也（富士）
2位　内田雄基（三島長陵）

女子個人無差別
1位　鈴木海生（鹿島浜松）
2位　VU TIN HAO（浜松工）
3位　伊藤栄理子（鹿島浜松）

平成29年度東海学生柔道冬季優勝大会

平成29年11月19日　愛知県武道館

男子団体
静岡産業大学　2回戦敗退

女子団体
静岡産業大学　1回戦敗退

平成29年度静岡県柔道祭

平成29年11月19日　静岡県武道館

小学生団体
1位　清水町柔道会
2位　育誠館道場
3位　藤枝柔道倶楽部
3位　伊豆長岡柔道会

中学男子団体
1位　静岡学園
2位　育誠館道場
3位　大仁柔道会
3位　東海大静岡翔洋高校中等部

中学女子団体
1位　東海大静岡翔洋高校中等部
2位　市立沼津高校中等部
3位　友愛道場
3位　藤枝順心

高校男子団体
1位　東海大静岡翔洋高校
2位　加藤学園
3位　浜松商業
3位　静岡学園

高校女子団体
1位　藤枝順心
2位　東海大静岡翔洋高校
3位　富士市立高校
3位　市立沼津高校

一般団体
1位　静岡刑務所
2位　富士市柔道会A
3位　東海翔洋クラブ
3位　静岡産業大学A

優秀選手
小学生
杉山彪馬（清水町柔道会）
長屋　進（育誠館道場）

中学男子
辻本龍基（静岡学園）
渡邉爽偉（育誠館道場）

中学女子
渡辺麻唯乃（東海大静岡翔洋高校中等部）
望月珠樺（市立沼津高校中等部）

高校男子
村松孝紀（東海大静岡翔洋高校）
杉山諒馬（加藤学園）

高校女子
向尾知妃（藤枝順心）

百井優佳（東海大静岡翔洋高校）

一般
須藤行義志（静岡刑務所）
飯川夢次郎（富士柔道会A）

平成29年度第34回静岡県大学高専青年柔道大会

平成29年12月16日　静岡産業大学経営学部柔道場

男子の部
団体戦
1位　静岡産業大A
2位　静岡産業大B
3位　東海大学海洋学部B
3位　東海大学海洋学部A

男子個人の部
66kg級
1位　秩父亮介（静岡産業大）
2位　熊野暢彦（東海大）
3位　平島知希（東海大）
3位　中島泰星（東海大）

81kg級
1位　早坂大志（静岡産業大）
2位　笠間　正（静岡産業大）
3位　荒木大地（東海大）

81kg超級
1位　工藤史哉（静岡産業大）
2位　石川弥明（静岡産業大）
3位　鈴木施比亜（静岡産業大）
3位　尾藤　隼（静岡産業大）

無段の部
1位　依田隼翠（東海大）
2位　三浦裕ノ亮

女子の部
1位　新倉舞音（静岡産業大）



平成29年度静岡県高等学校新人体育大会柔道競技兼第40回全国高等学校柔道選手権大会静岡県予選

平成30年1月13日、21日　静岡県武道館

個人戦
男子60kg級
1位　山本蒼良（東海大学静岡翔洋）

66kg級
1位　寺内遼太郎（浜松商業）

73kg級
1位　角田英知（東海大学静岡翔洋）

81kg級
1位　村松孝紀（東海大学静岡翔洋）

無差別級
1位 熊谷健太（加藤学園）
女子
48kg級
1位 渋谷 舞（東海大学静岡翔洋）
52kg級
1位 中村愛香莉（藤枝順心）
57kg級
1位 袴田佳名瑚（藤枝順心）
63kg級
1位 向尾知妃（藤枝順心）
無差別級
1位 米川明穂（藤枝順心）
団体戦
男子優勝 加藤学園高等学校
女子優勝 東海大学静岡翔洋高校

各階級1位及び団体優勝チームは平成30年3月、日本武道館にて開催される全国大会に出場。

全日本柔道選手権大会（男女）静岡県予選会

平成30年1月27日
静岡県武道館

男子
1位 齋藤光星（早稲田大学）
2位 滝井英克（静岡県警）
3位 長屋 友（加藤学園高）
女子
1位 原田祐花（静岡県警）
2位 村瀬由樹（静岡県警）

＊上位二名は、平成30年3月4日に愛知県武道館にて行われる東海地区予選に出場。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

柔道普及活動

中部地区
笑顔があふれる柔道教室

平成29年12月3日、静岡北部体育館にて少年柔道教室が開催された。

今回の柔道教室には、全柔連から中田善久先生、後藤徳子先生、さらには北海道旭川市在住の上野和香子先生が講師として参加された。上野先生のお話に続き、風船やバランスボール、フラフープといった道具を用いての練習に、参加した小学生や園児、さらには指導者の先生方も熱中して取り組んでいた。後藤先生のテンポの良い声かけに、反応よく行動する受講生には常に笑顔が満ちていた。学校や道場で指導されている先生方も、子ども達の笑顔につられてか、常に穏やかな表情で笑顔が絶えない様子であった。帯を用いた大縄跳びでは、各グループに自然に分かれ、自分たちが設定した目標をクリアすべく話し合いをするなど目標設定の大切さ、努力することの尊さを体験できたと思われる。



今回の柔道教室には柔道未経験者の園児や小学生も参加していた。そうした子ども達に受け身の基本姿勢や座礼・立礼といった礼儀作法を指導する面もあった。上手にできれば全員で拍手をするなど、常に楽しい雰囲気の中で会が進んでいった。参加した小学生・園児は約100名。柔道人口を増やしていくために、普及活動に力を入れて行くことも大切だと感じた一日であった。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

県トレセンを終えて

十一月二十四日、二十五日の二日間に渡り、今年度第一回目の県トレセン強化練習会が行われた。今年度は二〇二〇年の静岡全中に向けた強化の取り組みとして、全国より強豪校を招き、練習会を行った。男子は、県外から「大成中学校」「埼玉栄中学校」「南淡中学校」、女子は県外から「前橋育英高校」と県内から藤枝順心高校を招いての練習会となった。全国にその名を轟かせる学校が集まり、静岡県の選手たちにとって大いに刺激となった。



練習会は静岡県の指導者主導のもとで行われたが、大成中学校や埼玉栄中学校にはアップ運動を紹介してもらい、全国区の学校の強さの秘密の一端を垣間見ることができた。練習は打ち込み、乱取りを中心に行い、少数精鋭の中、充実した時間を過ごすことができた。中には、強豪校のチーム相手に互角以上の力を見せた選手もおり、何よりの自信となったことだろう。

一日目の練習を終えた選手たちが書いた感想文を見ると、強豪校選手たちの強さのみならず、「意識の高さ」や「礼儀正しい挨拶」「練習の盛り上げ方」などに感銘を受けた者が多くいたことが分かる。表面的な部分だけでなく、その根底にあるものに気づけたことは、大きな収穫となったと思う。

今回の練習会は選手、指導者共に学び多き練習会となった。この経験が必ずや三年後につながると思う。来年度以降も、このような取り組みをぜひ実施していただきたい。



道場紹介（どうじょうしょうかい）

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

①名称
②住所（練習場所）
③連絡先
④代表者氏名
⑤所属人数

静岡北部柔道クラブ

②〒420-0941
静岡市葵区松富4丁目14-1
静岡市北部体育館
③静岡市北部体育館
054-255-6262
④渡邉達也
⑤小学生11人、中学生4人、大学生1人、社会人5人

⑥道場紹介

静岡北部柔道クラブは、公益財団法人静岡市体育協会が主催するスポーツ教室のメンバーからなるクラブです。

教室は、平成9年から静岡市北部体育館で始まり、4か月がひとつの期で、年度で全3期からなります。現在は、月3回火曜日に活動しており、受身の基本や礼法を学ぶことに重きを置いています。

また、初級と上級にグループ分けして練習しますので、初心者でも安心です。

健康な身体と礼儀正しくたくましい精神を養いたいという老若男女どなたでも歓迎します。

見学は随時受付けていますので、一度見学に来てみませんか。



誠勇館

②島田市伊太2075-1
③同上住所
島田樟誠高等学校
0547-37-3116
④中村　航
⑤小学生9名、中学生3名、高校生（島田樟誠高校部員）、社会人10名

⑥道場紹介

誠勇館は島田市にある島田樟誠高等学校（当時の島田学園高等学校）武道場を拠点に約10年前に開始しました。以前の島田市は柔道が盛んだった印象もありますが、現在活動している団体は2つしかありません。そこで平成20年度にこの学校に勤務することになったこともあり、夜間開放の一つとして柔道教室を始めました。当初は認知されていませんでしたが、広報活動をしていく中で徐々に人も集まりはじめ、現在は社会人の方がお子さんやお孫さんを連れ一緒に練習する姿を見ることができています。また、毎週水曜日は島田樟誠高校の生徒も参加し合同練習をしています。

新年は1月3日に恒例の初稽古を実施しました。高校と道場が合同で行うため、今年は保護者を含め70名程が参加し盛大なものでした。練習日は月平均8回程度と他の道場に比べ少ないと思いますが底辺拡大、礼儀作法をメインに日々取り組んでいます。強い選手はいませんが、全員が各自の目標を設定し活動しています。また、島田樟誠高校の卒業生を中心とした社会人で実業団登録もし、大会等にも出場しています。試合出場だけが全てではありませんが、生涯スポーツとなってくれればと願っています。

最後に、今後とも誠勇館をよろしくお願いします。



浜松養神館

②浜松市中区西浅田二丁目2−1　浜松市武道館
③〒438−0821　磐田市立野2026−1ベルメゾン豊田805
0538−33−6175
④会　長　森下　修
理事長　神谷元久
⑤小学生19人、中学生13人、高校生1人、大学・社会人30人）

⑥道場紹介

浜松養神館は昭和5年5月佐藤五八郎先生により設立されて以来、諸先輩方のご尽力により、幾多の変遷を経て現在に至っております。稽古の現状については、毎週日、水、金曜日の3回、午後6時30分（日曜日は午後6時）から9時まで浜松市武道館において稽古に励んでおります。小中学生が多く在籍しているため、礼法や受け身をはじめとして正しい柔道の修得を目的として、養神館は精神を養う館（ところ）「柔道で健康な体と心を養う」ことに重点を置き、柔道修行に励んでおります。

当道場は、他の道場との親睦を深めるため、年に1回養神館柔道大会を開催し、今年で37回目を行うことができました。子供たちが勝って喜び負けて悔しがり、柔道大会で子供たちの成長を見ることが、とても重要であると日々感じております。

近年は、養神館で育った子供達が指導者として道場に戻ってきて活気のある稽古ができています。柔道人口が減少している



状況ですが、当道場は子供の会員が増加してきています。今後も柔道の発展に向けて尽力してまいります。

SSU柔道クラブ

②静岡県磐田市大原1572−1
静岡産業大学磐田キャンパス内
③〒438-0831静岡県磐田市上新屋811-4-A205
④岡田紘味
⑤小学生14人

⑥道場紹介

SSU柔道クラブは、静岡産業大学磐田キャンパス内柔道場で、毎週水・金曜日、17時半から19時半まで活動しています。小学4年生以下が多い、まだ新しいチームです。

稽古は、礼法や体捌き、崩しなどの基本練習を中心に行い、しっかり組んで一本取れる柔道を目指しています。稽古の前半には、全身を動かせるよう、身体作り運動をしたり、ドッチボールをしたりと柔道以外の動きも取り入れています。

指導者は、若手が多いですが、子供たちに柔道の楽しさを伝えられるように、1人1人に合わせた指導を心掛け、共に成長していけるように努めています。また、子供たちが中学生や高校生、一般になっても柔道が好きで、戻ってきてくれるような道場にしていきたいと思っています。

今後は、大会や合同練習などにも積極的に参加させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。たくさんの仲間との交流を楽しみしています。



伊豆市柔道部

②・修善寺道場〒410−2407伊豆市修善寺1010
修善寺農村環境改善センター内
・土肥道場　〒410−3302伊豆市土肥870−1
伊豆総合高校土肥分校武道場
・天城道場　〒410−3215伊豆市月ヶ瀬853
天城中学校武道場
③0558−87−0780
④井村秀明
⑤園児5人、小学生27人、中学生19人
高校生2人、社会人28人

⑥道場紹介

平成十六年、伊豆市誕生を機に、それまでの旧四町ごとの道場（修善寺柔道会、土肥柔道会、天城柔道会、中伊豆柔道会）を統合し、山口友孝先生（元メキシコナショナルコーチ）を会長として、伊豆市柔道部を発足しました。

現在は井村秀明会長以下、総勢八十一名の会員が、日々厳しい中にも楽しい稽古を積み重ねています。とはいえ、県内で五番目に面積の広い伊豆市であるため、日常の稽古は週二回、旧道場単位で行い、月一回程度、週末に合同稽古を行っています。道場別の稽古では、それぞれの指導者から丁寧で熱のこもった指導を受け、合同稽古では、多くのライバルたちとしのぎを削り、お互いに高め合っています。そして、合同稽古の最大の利点は、複数の指導者から多角的な指導や助言、称揚を受けられることです。



伊豆市の子どもたちを伊豆市の指導者全員で温かく見守り育てていくことが、将来の伊豆市の柔道の発展につながるものと確信しています。

富士宮柔道会

②〒418−0007
富士宮市外神東町115
富士宮市民体育館内武道場
③〒418−0112
富士宮市北山1403
電話090−2947−3569
④小林賢治
⑤小学生41人、中学生24人、高校生17人、社会人50人

⑥道場紹介

富士宮柔道会は歴史が長く、大正末期に大宮柔道館としてスタートし、開設九十年になります。道場は、昭和七年大宮町の大火で焼失、その後は四ヶ所を転々とし、ようやく市民体育館内に本格的な武道場が完成し、現在に至っています。

本会は、柔道の発展と普及、同時に市民青少年の基礎体力向上と、礼儀と人を思いやる人格形成を目的として活動しています。柔道の代名詞でもある「礼に始まり礼に終わる」を重視し、小学生・中学生・社会人の共通の目的として取り組み、強い身体と正しい礼儀を身に着けさせることを伝統とし、日々稽古に励んでおります。

稽古は公認資格指導者が中心となり、週三回（水・金・日）夜七〜九時（小学生は八時）まで行っています。会員は小学生が四十一名、中学生〜一般が九十一名の総勢百三十二名が日々精進しています。安全性向上のため、全柔連公認の指導者講習を指導者全員が受け、安全・安心を最優先に努めています。

これからも、柔道を通じて色々な人との出会いと交流を楽しめる町道場を目指し、活動を行っていきたいと思います。



新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーを継続することができた。全国大会で３位までに入賞した若い選手（高校生以下）を紹介しており、今年度は８名の個人と１つの県代表チームが該当した。昨年に引き続いての登場となった選手が４名、新たに登場した選手４名と代表チームが１つ。今年度も大いに静岡県の柔道界を盛り上げてくれた。



弐段　髙木一石さん（湖西高校）

第39回全国高等学校選手権大会
男子無差別級3位

高木選手が柔道を始めたのは、小学校一年生の時。「痩せるため」だったそうです。次第に柔道がおもしろくなり、小4、小5と東海大会で優勝できたことでうれしさを感じたということでした。技術的なことはあまり考えることもなく、特に組み手などは高校に入ってから川端先生から教わったそうです。川端先生は、基本的なことを繰り返し指導してくださったので、そうしたことがしっかりと身に付いたのだと思うと語ってくれました。

選手権に関しては、「とにかく思い切ってやろう」ということを心掛けたそうです。その思い切りの良さが今回の結果に繋がったのではないかと自己分析してくれました。

またロシア・モンゴル・日本が競い合う国際大会（ウラジオストク）に参加する機会を得ましたが、体格の大きな選手と試合をしたことが良い経験になったと語ってくれました。パワーの差を特に痛感したそうです。

今後の目標としては、筑波大学体育学群への進学が決まったとのことで、運動生理学などの学問を深めていきたいとのことでした。その上で、全日本ジュニアや全日本学生で優勝できるよう、努力を継続していきたいと語ってくれました。

指導されている川端先生によると、「こんなに根性のある重量級選手は見たことがない」そうです。また自分にとって今何が足りないかを考え、行動に移すことのできる選手だとも語ってくれました。学業成績も非常に良く、入学してすぐに英検準二級を取得したなど、まさに文武両道を実践した選手でもあるとのこと。大学進学後も自己を見つめながら更に成長していくのではないかと期待しているとのことでした。



初段　宇津山英弥さん（湖東中学校）

第48回全国中学校柔道大会
男子73kg級3位

宇津山選手が柔道を始めたのは、小学校二年生の時、仲の良かった同級生に誘われる形で始めたとのことでした。振り返れば「勝ち負けよりも相手と全力でぶつかり合うところが魅力だった」と語ってくれました。小学校時代の戦績は、六年生の時に県大会ベスト16だったそうです。

中学校に進んで、全国大会出場を目標に稽古を積んできたそうです。今回の全国大会では、「一戦一戦全力で取り組もうと思って戦いました」と爽やかな笑顔で答えてくれました。中学校では生徒会長を務め、学校行事の企画や運営にも積極的にかかわっていったそうです。また学習面でも決して妥協することなく、熱心な取り組みを見せているそうで、何事にも積極的に取り組んでいく姿勢が顕著な人物であることがインタビューを通じてよく分かりました。

指導されている杉山崇先生からは「逃げずに前へ出ること」「自信のある技にこだわって戦い抜く」などといった、精神面でのアドバイスを受けることが多かったそうです。それを実践できたからこそ今回の戦績を残せたのだと思いますと答えてくれました。

今後の目標を聞いてみると、中学校での戦績を上回りたいと、力強く語ってくれました。宇津山選手の今後に期待したいと思います。



森近　颯さん（和道場）

全国小学生学年別柔道大会
女子6年生45kg級第2位

森近さんは小学1年生の時、偶然見かけた柔道勧誘のポスターを見て練習の見学をしたことが柔道との出会いと語ってくれました。昨年は3位、今年は2位と確実にステップアップしてきたのですが、道場の新村先生によると「真面目な子なので、アドバイスを素直に受け入れ、反復練習してきた」結果だそうです。森近さん自身も「練習の時にはスイッチをオンにして、遊ぶときは切り替えて」といったけじめをつけることを心がけているそうです。全国大会では初戦が最も緊張したけれど、新村先生が「落ち着いてやれば大丈夫。」「自分がやってきたことを信じなさい。」といった言葉をかけてくれたことが印象に残っているとのことでした。「緊張をほぐしてくれた」ことで、2回戦からは動きも良くなって得意の背負い投げも出るようになったそうです。

「今年は中学生になるので、一番下からのスタート。先輩たちに少しでも追いつけるよう頑張りたい。」という意気込みも語ってくれました。「できれば全中に出て活躍できるようになりたい。」が今後の目標だそうです。



初段　杵渕　萌さん
（東海大学静岡翔洋高校）

第39回全国高等学校柔道選手権大会
女子63kg級3位

監督の古内先生の言葉を借りれば、「天賦の才に努力という砥石で磨きをかける。現状に甘んじることなく、常に己に足りないものは何かを真摯に探求し続ける。」のが杵渕さんだそうです。後輩からも「いつも柔道のことを考えている先輩で、すごくストイック。今の自分にできることは何かを考え、たとえばそれがウェイトトレーニングだったとすれば、筋力アップに最も適した方法を取り入れていく」そうです。

得意技である内股はその切れ味は言うまでもないのですが、特に技に入るタイミングが絶妙です。古内先生は続けてこうもおっしゃいました。「高校での戦績は全国三位。確かに素晴らしい成績ではあるけれど本人の中にはもっとできたはずだという意識がある。だからこそ次のステージでは大輪の花を咲かせてもらいたい。世界で通用する力を身に付けてもらいたい」と。勝負師として勝ちにこだわり続ける杵渕さんへの最大級のエールを送ってくれました。



初段　渋谷　舞さん
（東海大学静岡翔洋高校）

平成29年度全日本カデ体重別選手権大会女子48kg級1位

全日本カデ48kg級で連覇を果たした渋谷さん。そのことについて話を伺おうとしたところ、「インターハイで結果が残せていなかったので、今年のカデでは挑戦者のつもりで戦っていった」という言葉が返ってきました。国体女子の先鋒として本戦に出場もしましたが、「先鋒は52kg級以下の選手で、普段の階級よりも一つ上に人たちとの対戦ばかりで学ぶことが多かった大会」だったそうです。「階級が一つ違うだけでうまく投げることができず非常に悔しかったので、背負い投げでしっかりと投げきるよう、パワーアップしたい」と語ってくれました。監督の古内先生も「本当に柔道が好きな選手で、それが彼女の原動力になっている」と話してくださいました。

今後の目標として「カデからジュニアへと進んでいくので、いつでも前を向いて努力していく」と語り、「東京五輪に出て活躍する」ということを掲げてくれました。



初段　中村愛香莉さん
（藤枝順心高校）

平成29年度全日本カデ体重別選手権大会女子52kg級2位

インタビューを始めると、「昨年は試合開始9秒で一本負けしてしまって…」と前年度の反省から話が始まりました。「だからこそ今年は何が何でも優勝する」という強い気持ちで試合に臨んだそうです。決勝戦ではゴールデンスコアにもつれ込み、「自分が焦って前に出たところを相手にうまく合わされ」て負けてしまったそうです。敗戦から学ぶことは大きい。その負けを次に生かしてこそ、負けの意味があるはずです。だからこそ「自分の感情をしっかりコントロールすることが大切だと思い、練習に励んできた」そうです。そのためにも日頃から沼野監督が標榜されている「人間性を磨くこと」が重要になるということを力説されていました。

「高校選手権には個人で出場するけれど、団体は逃してしまったので…」と悔しさを口にした中村さん。自分が成長することがチームの力になると語ってくれました。同時に「目の前のことをひとつずつ達成していく」ことで「自分の将来につながっていくはず」ということも話してくれました。



初段　米川明穂さん
（藤枝順心高校）

2017年サンティアゴ世界カデ体重別選手権大会女子70kg超級3位

今回の成績について話を伺ったところ、「実はチリへ行く前にポーランドで試合をする機会があって…」ということを語ってくれました。「ポーランドで試合をした経験が本当に大きかったと思います。外国人選手は体格も大きく、手足も長く、自分が思いもしなかった間合いから技を仕掛けてくるので最初は戸惑った」そうです。

ポーランドでの試合相手とは、世界カデ準決勝で再戦したそうです。ポーランドでは勝った相手でしたが、今回は米川選手を研究してきたようで、思いどおりに試合運びができず負けてしまったと語ってくれました。

「今後の目標は?」と尋ねると、「近い目標は高校選手権で優勝、もしくは入賞すること」と明言してくれました。同時に「一歩ずつ前に進んでいきたい」という発言もありました。インタビュー全体を通して、常に前を見据えた発言が多かったように感じました。最後に将来どんな柔道家になりたいかと聞いたところ、「日の丸を背負って戦える選手になること」と答えてくれました。

第48回全国高等学校定時制通信制体育大会柔道競技
男子団体戦　3位

先鋒　初段　**高橋夏樹**（小山高3年）
次鋒　初段　**飯川竜吉**（沼津工3年）
中堅　初段　**守重裕斗**（鹿島学年浜松3年）
副将　初段　**大賀稜也**（富士高3年）
大将　初段　**大川裕生**（三島長陵高3年）

準決勝で、神奈川県チームに敗れはしたものの、大変素晴らしい成績を収めることができました。2年連続で3位の成績は賞賛に値します。中堅の守重君は男子90kg級で全国制覇を達成しています。「昨年の2位という結果を踏まえ、今年こそは絶対に優勝する」という強い気持ちで試合に臨んだことが結果につながったと思います。

組織改編で新たな船出

平成29年度、静岡県柔道協会は大胆な組織改編を行った。その大きな狙いは以下の4点に集約される。

（1）「大会事業部」「静岡県少年柔道協議会」といった部署を創設する事で役割分担を明確にする。

（2）従来の組織を細分化して、仕事の効率化を図る。

（3）柔道人口の減少に歯止めを掛けるべく、各部署で検討した意見を集約していく。

（4）県柔道協会創立70周年記念事業及び2020年全国中学総体開催に向けた体制作りと準備。

（1）について、「大会事業部」とは柔道協会主宰の大会を実際に運営する部署であり、今まではこうした組織がないまま多くの協会員にお願いしてきた。この部署を立ち上げることで各委員会や部会とのスムースな連絡・協働が可能になると考える。また「少年柔道協議会」は3地区の少年関係組織と連携することで、あるべき姿が構築されていくことを考慮してのものである。

（2）以前は「普及・広報」が一つの委員会として存在するなど、組織としての動きが今ひとつ俊敏ではなかった反省を踏まえ、以前の組織から次に示す各委員会に分割した。

A　審判委員会
B　形技術向上委員会
C　普及委員会
D　広報委員会

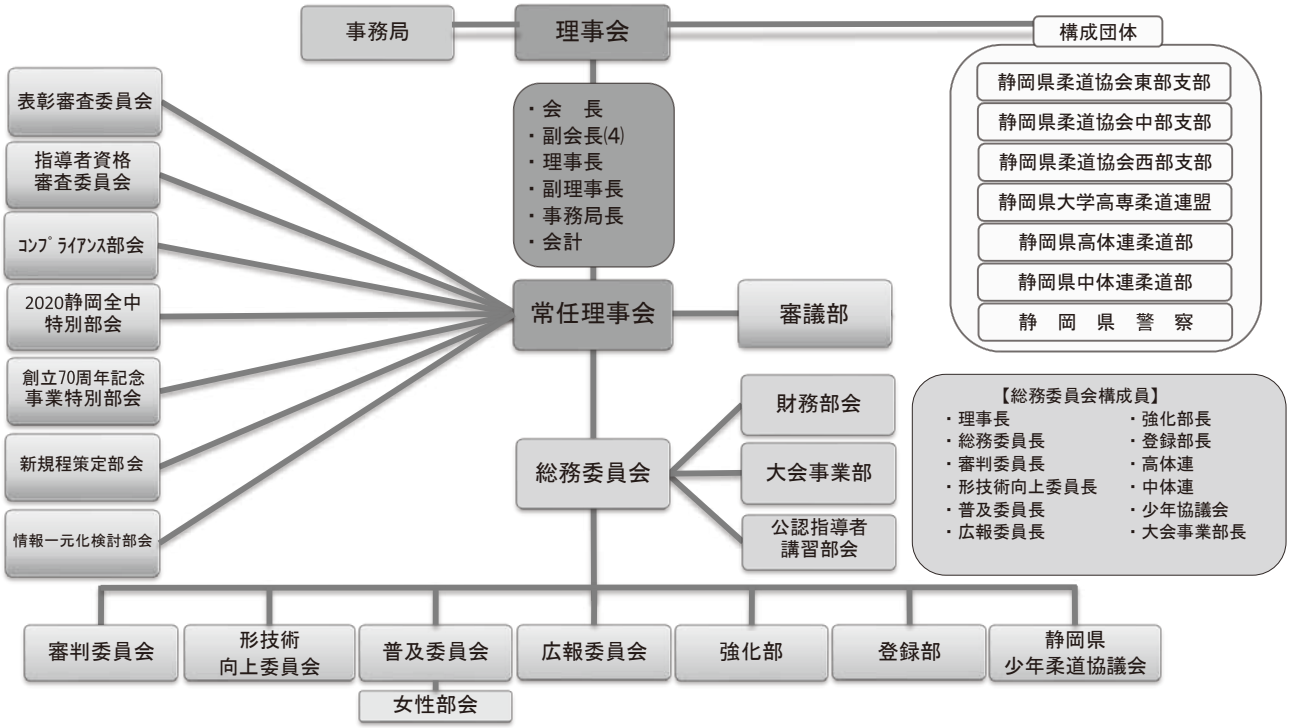
こうした組織改編は、早速効果を上げ始めている。一つ例をあげると、形技術向上委員会が設立されたことにより、東海地区形競技会において四部門（投の形、固の形、極の形、古式の形）で優勝し全国大会へ出場するなどの結果を得ることができた。また普及委員会では少年柔道協議会と連携して、全柔連から講師を招いての少年柔道教室を開催するなど、組織として積極的な動きが見受けられるようになっている。

（3）現在、どの分野でも「少子化」が問題視されている。特に近年の柔道人口の極端な減少に歯止めがかからないのは喫緊の課題である。多くの場所で多くの意見を出し合い、よりよい形を模索するためにも、多くの意見を集約できる体制作りが必要と考えた。

（4）今年度は県柔道協会創立から70年を迎える。その記念事業を行う上でも組織改善を進めた。また2020年全国中学総体開催を控え、特別部会を設置して大会を成功裏に導く支援体制を作った。

この取り組みを成功させ、柔道協会がさらなる発展を遂げる上で欠かせないのは、協会員相互の意識の高揚である。協会員の後押しなくしてこの新たな船出は成り立たない。執行部も各委員会や部会と連携していくための方策として組織改編を実行した。効率的且つ横断的な、そして何よりも強固な組織運営が持続可能であることを目指している。節目の70周年を迎え、さらに10年後、20年後への躍進・発展を視野に入れている事にご理解をいただき、是非皆様のお力を持ってこの事業を推進していきたいと考えている次第である。

静岡県柔道協会　組織図（平成30年度～）改正案



訃報



瀧井康次郎　八段

平成二十九年三月四日逝去
行年八十七歳

静岡県柔道協会副会長として永年活躍された先生は、小学校五年生より柔道を習い始め、静岡中学（現静岡高等学校）を卒業後、静岡柔道倶楽部創設と同時に入門。故大蝶美夫師範、西田亀師範に師事。持ち前の粘り強さと意欲によってメキメキと腕を上げ、若手の中心選手として活躍。

昭和四十三年五月に自ら経営するタキイ輪店内に瀧井道場を開設。家業に励むかたわら道場に掲げる「勇猛精進」をモットーに、自らの修行に一層磨きをかけるとともに、後進の育成をする。その後門弟も増え、道場が狭くなり平成元年に二階に五十六畳の道場を改築。言葉数は少ないものの、教え子ひとりひとりについてメモを取るなど、多年にわたる熱心な指導を通して柔道発展に貢献された。

一方では、県内各種の大会にて形の演武をされ、平成九年度第一回全国形競技大会に東海地区代表で、古式の形田中秀幸先生と出場し、平成十一年度一月には日本武道館鏡開き式に柔道界を代表して、古式の形を演武するなど特に形に向けての情熱は大きかった。

また形の練習のために瀧井道場を訪れた人々に丁寧に指導される姿をたびたび見かけた。加えて、西田亀先生と古式の形を毎年のように大会の折に披露してくださったことなど、静岡県の形の普及発展に尽くされた功績は計り知れない。瀧井先生のご冥福をお祈り致します。合掌。

（静岡県柔道協会中部支部熊谷幸洋）



稲葉茂男　八段

大正四年十一月二七日生まれ

先生は去る平成二十九年五月、一〇二歳をもって天寿を全うされました。

日本体育大学の前身、日本体育専門学校を卒業された後、整復師の道を歩まれましたが、指導者の道忘れ難く昭和二十七年四月、県立静岡商業高校に赴任。三十七年三月まで獅子奮迅の勢いで柔道指導に心血を注ぎ、卓越した指導力と情熱で静商柔道部ここにありを県下に知らしめた。

インターハイ出場二回の実績と同時に国体少年監督としても十一回の出場など、指導者としての実績と同期に、高体連柔道部長としても昭和三十三年から五十一年までの十九年間にわたる重責を担ってきました。さらに県立静岡工業高校、再び静岡商業高校、静岡学園高校と指導者としての道を貫き通し、その卓越した指導力と情熱は止むことがありませんでした。また生徒の急増期に合わせチーム数も増え、中・高校急成長の時代でもありましたが、それらの状況を無難にまとめ、大会等の運営面にも手腕を発揮され、質量に併せた解決ともなりました。一方、県柔道協会においては、昭和三十三年以降役員として活躍され、強化委員・理事・幹事長・副会長として、また機構改革に伴って昭和六十二年新設された初代理事長に就くなど、会運営の要となって事に当たってきました。

長年に亘るこれらの功績が認められ、静岡県体育協会体育章、叙勲、日本スポーツグランプリ顕彰（九十九歳で授彰）等の栄誉に浴しています。

謹んでその遺徳を偲び、偉大な先生の足跡に畏敬の念を抱きつつ合掌とします。

西部支部形講習会

西部支部の形講習会が8月27日（日）審査会終了後に開催された。昨年度に引き続き固の形を、森田氏（JR東海ツアーズ）、猪又氏（JR東海）が担当した。この二人は今年度東海地区代表として、全国形選手権大会に参加している実力者である。

森田氏が取、猪又氏が受を担当し、細かな所作や流れるような抑え技の攻防、絞め技・関節技の理合などを学習した。特に抑え技の攻防の激しさや関節技の間合いなど、形の競技者ならではの観点を知ることができた。

柔道は相手と組み合って勝負を決する『試合』だけでなく、形の理合を学ぶことで崩しや体捌きを理解することが重要だと感じている。この講習が地区形講習会に役立つことを願ってやまない。



第10回記念全国視覚障害者学生柔道大会観戦記

平成29年8月19・20日の両日にわたり、浜松市武道館に於いて視覚障害者学生の大会が開催された。

19日には、合同練習、計量、オリエンテーションや情報交換会を行い、20日に試合が行われた。北は北海道から南は福岡県まで全国の選手が参加した。中には今年度の金鷲旗柔道大会にも出場した高校生もいて、多くの試合で熱戦が繰り広げられた。午前は体重別のリーグ戦を行い、午後は東西対抗戦という形式で試合を行った。

現在日本には約32万人の視覚に障害を持った方が暮らしていると聞く。その中で視覚障害者柔道の競技人口は約１３０人。わずか０．０４％にすぎないそうだ。実はリオパラリンピックメダリストの中にも視覚障害者であることに気づかず、健常者の中で競技に取り組んでいた人もいたのだそうだ。しかし視覚障害者柔道の存在を知り転向し、一気に活躍の場を広げた選手もいるとのことであった。今大会を観戦して、一本で決まることが非常に多いのも、視覚障害者柔道の特徴のように感じられた。組んだところから始まる試合の形がそうさせるのではないかと想われた。また主催者であるＮＰＯ法人の方によると、視覚障害者が柔道をすることの利点も多いと聞いた。日常生活で転倒した際、受身が事故の体を守ることになるのだそうだ。２０２０年の東京パラリンピックに向け、選手の発掘・育成が課題とのことであった。



ブラジルナショナルチーム来浜

7月6日から9日まで、ブラジルナショナルチームが浜松市西区の雄踏体育館で合宿を行った。２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、合宿地である浜松の練習施設を確認する意味もあってのことだ。今回は西部地区の高校生や大学生が参加して、ナショナルチームとの合同練習を行った。

ナショナルチームは、リオデジャネイロオリンピックで金メダルを獲得した女子のダシルバ選手や、天竜林業高校（現天竜高校）に在籍していた男子のバルボザ・カツヒロ選手をはじめとして、男女各階級2名ずつの選手で構成されていた。合宿初日の6日は午後から立ち技中心の練習が行われた。来浜してすぐということもあり、女子重量級の選手は軽いトレーニングにとどめていたが、男子選手は軽量級から重量級まで多くの乱取りを行っていた。外国選手特有のパワーと独特のリズムから繰り出される技に、高校生の多くは大いに戸惑っていたようだ。しかしこうした経験はなかなかできないことなので、高校生にとっては貴重な時間であったと思われる。

２０２０年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、県内では多くの自治体が合宿候補地（もしくは決定・内定しているところもある）として名乗りを上げている。藤枝市はイタリア・ナショナルチームと調印式を行い、今後、年に何度か合宿を県立武道館で行う予定だと聞いている。せっかくの機会ですので、多くの方に練習を公開してもらえたら柔道の普及という観点からも、またＪｕｄｏを知るという意味でも大きな効果があるのではないか、と考えている。





編集後記

宮崎前委員長から仕事を引き継ぎ、悪戦苦闘しながらも周囲の皆様に支えられてなんとか「柔道しずおか」21号を発行することができました。今回の編集作業で改めて取材することの難しさや、伝えること・表現することの難しさを感じています。また各種大会記録の情報収集につきまして、多くの皆様のお手を煩わせてしまったことを心苦しく感じております。情報の一元管理はなかなか難しいことも多いのですが、こうした課題を一つ一つ解決・克服していくことも使命かと存じます。

大会記録を整理していて気づいたことは、形競技会への全国出場者が際立って多いことでした。東海地区の激戦を勝ち抜いての全国大会出場は特筆すべきではないかと感じました。組織改革の成果が早くも出てきたとも感じております。多くの静岡県選手が各種大会で活躍する姿を伝えることで、柔道人口の増加・普及拡大に少しでも貢献できれば、と考えております。これからも多くの皆様のお力をお借りして、真摯に「柔道しずおか」制作に励んで参りたいと思います。

柔道しずおか編集担当
増尾清己

5. 雑誌「柔道」に見る静岡

雑誌「柔道」静岡県関係 2009～2018

1　平成21年（2009年）　7月号　p51~54　各地だより「北から南から」~平成20年度の静岡県柔道界を振り返って~
宮﨑　貞夫（広報普及委員長）

2　平成21年（2009年）　8月号　p24~27　「講道館講習会」　八木　卓（審判研修委員長）

3　平成21年（2009年）　12月号　巻頭言p1~5　「柔道100周年を迎えたハンガリーに招かれて」
安齊　悦雄（会長）

4　平成23年（2011年）　3月号　p68~71　黒帯白帯「嘉納師範に学ぶ」　宮﨑　貞夫（広報普及委員長）

5　平成23年（2011年）　10月号　p32~34　「講道館講習会」　八木　卓（審判研修委員長）

6　平成23年（2011年）　12月号　p34~36　各地だより北から南から　宮﨑　貞夫（広報普及委員長）

7　平成25年（2013年）　4月号　p58~61　各地だより南から北から　宮﨑　貞夫（広報普及委員長）

8　平成25年（2013年）　10月号　p18~20　「講道館講習会」　和久田守男（審判研修委員長）

9　平成26年（2014年）　7月号　p18~20　「講道館形講習会」　根木谷信一（東海柔道連合会事務局長）

10　平成26年（2014年）　8月号　p37~39　各地だより南から北から　宮﨑　貞夫（広報普及委員長）

11　平成27年（2015年）　7月号　巻頭言p1~4「静岡県柔道の発展を目指して」野田　昭一（会長）

12　平成27年（2015年）　12月号　p29~32　各地だより南から北から　宮﨑　貞夫（広報普及委員会広報担当）

13　平成29年（2017年）　2月号　p91~93「オーストラリア連邦派遣日本武道代表団」
渡部　成也（静岡県警察）

各地だより「北から南から」

平成20年度の静岡県柔道界を振り返って

静岡県　宮　﨑　貞　夫

（１）新体制発足

平成20年３月の評議員会において、高柳喜一前会長から安齊悦雄会長にバトンが渡ることになった。そして、野田理事長、佐々木事務局長の新体制が４月から動き出した。安齊会長は長年理事長として本県柔道協会を支えてこられたが、今回の会長就任にあたり、①柔道人口減少を食い止めること、②大会運営方法の改善、③競技力向上、④協会運営の合理化などを掲げている。（「柔道しずおか」第12号巻頭言より）

（２）第５回全国小学生学年別柔道大会開催

平成20年８月24日（日）浜松アリーナにて第５回全国小学生学年別柔道大会が開催された。開会宣言に続き、嘉納行光大会会長、安齊大会副会長、鈴木康友名誉顧問（浜松市長）の挨拶があり、藤猪省太審判長より試合上の注意があった。選手宣誓は岡村康平君（富士市柔道会）が行った。柔道ルネッサンス運動の発表は山村響君（育誠館）と遠田真子さん（清水柔道倶楽部）が行い、それぞれ柔道に取り組む決意を述べてくれた。

熱のこもった素晴らしい試合が展開された。決勝戦は軽い階級から女子・男子交互に行われ、８試合のうち４試合が「一本」で勝負がつき、まさに「一本を取る柔道」を実践してくれた。

なお、前日には全柔連主催で柔道教室が実施され、約450名の参加があった。講師は地元浜松西高校出身でバルセロナオリンピック52kg級の銀メダリスト溝口紀子先生（静岡文化芸術大学）と、カイロ世界選手権無差別の金メダリスト薪谷翠先生（ミキハウス）であった。溝口先生の講話と薪谷先生の得意技指導があり、約２時間があっという間に経過した。

（３）第20回マルちゃん杯中部少年柔道大会開催

平成20年６月１日（日）浜北総合体育館で、第20回マルちゃん杯中部少年柔道大会が開催された。中部地区９県から合わせて261チーム約1700人の選手が参加した。開会式では会場いっぱいに選手が整列し壮観であった。試合場では終日気魄のこもった掛け声が飛び交い、２階席の保護者から熱い声援が送られていた。

なお、前日には柔道教室が行われた。講師は佐藤宣践全日本柔道連盟副会長、越野忠則国際武道大学柔道部監督、中村佳央旭化成柔道部監督であった。佐藤先生の講話と、越野先生・中村先生の技の披露が行われた。参加者は約500人だったが、皆が満足した素晴らしい講習会になった。

（４）各種講習会開催

①「形」講習会　平成20年６月７日（土）静岡県武道館

講道館護身術の講習会が講道館八段・錬成部主事・早稲田大学教授の小野沢弘史先生をお迎えして行われた。受講者は協会役員合わせて69名であった。

会長の挨拶の後、理事長より講師の小野沢先生の紹介が行われ、引き続き小野沢先生の講義が始められた。講義の後は実技指導になり、形の説明と模範演技を見せていただいた。

受講生は、繰り返し練習し、より早く正確に演ずることができるよう努力していた。

②少年講習会　平成20年12月21日（日）　静岡市北部体育館

児童・指導者・協会関係者約650名が参加して全柔連主催の柔道教室が開催された。

講師は金野潤先生（日本大学柔道部監督）、腹巻宏一先生（柔道塾「紀柔館」館長）、松田基子先生（大阪体育大学柔道部コーチ）の３名が担当された。

会長の挨拶に続き講師の３先生より挨拶をいただき早速講習が開始された。腹巻先生には道場の実践に基づき、基本的な動きを指導していただいた。松田先生には得意の「払腰」を指導していただいた。また、金野先生は講演の中で、強くなる秘訣として①柔道を好きになること、②正しい柔道を学ぶこと、③感謝の心を持つこと、の３つを挙げていた。

昼食後の懇談の中でも、各先生方の実体験に基づいた指導方法など多くの示唆に富んだ話をしていただいた。実技や講演を含め大変中身の濃い講習会が行われ、参加者は多いに満足した一日だった。

③「安全指導」講習会開催　平成21年２月８日（日）　静岡県武道館

全柔連主催の「安全指導」講習会が佐藤幸夫先生（東京都教職員研修センター教授）をお迎えして行われた。県内の指導者が多数参加し、熱心に先生の講義を受講した。「柔道の安全指導」の冊子を参考に指導者として必要な事柄を、限られた時間の中で丁寧に説明していただいた。

（５）本県選手の活躍

今年度活躍した本県選手を紹介する。第５回全国小学生学年別大会で３名の入賞者がでた。５年男子45kg級優勝の森下北斗君（神士館）、５年男子45kg超級三位の小笠原雄也君（藤枝柔道倶楽部）、５年女子40kg級三位の鈴木茉莉さん（柔清会）の３名だ。また、第39回全国中学校柔道大会では４名の入賞者が出た。女子48kg級で優勝した片岡まゆさん（富士宮第一中学）、男子73kg級で準優勝した大島遼平君（静岡学園中学）、女子70kg級で三位に入賞した渡辺貴子さん（富士宮第一中学）、そして女子44kg級で三位に入賞した岡本理帆さん（藤枝順心中学）の４名だ。そして今年度最も活躍してくれたのは、女子52kg級藤枝順心高校の加賀谷千保さん（現在山梨学院大学１年）である。全日本ジュニア選手権大会で優勝（２連覇）し、インターハイも制した。フランスジュニア国際大会では準優勝、世界ジュニア選手権大会（タイ・バンコク）では見事優勝した。また、日本で行われた嘉納杯や講道館杯では三位入賞とシニアの部でも十分戦えることを示してくれた。

また柔道協会表彰選手として、全国警察柔道選手権大会73kg級で三位に入賞した日下徹朗選手、同じく女子63kg級で準優勝した川口有紀選手、静岡県立天竜林業高校を卒業後母国ブラジルで代表となり北京オリンピック女子63kg級に出場したバルボザ・ユリ選手、北京パラリンピック女子52kg級に出場した土屋美奈子選手（静岡県立浜松視聴覚特別支援学校）が挙げられる。

以上のように、平成20年度は静岡県の柔道界にとって実りある素晴らしい一年であったと思う。しかし、国体には成年男子のみの出場であり、上位進出もならなかった。安齊新会長が指摘されているように多くの課題はあるが、新会長を中心に平成21年度もさらに頑張っていきたい。

（静岡県柔協・広報普及委員長）

講道館講習会

講道館では、かねてより各地から寄せられていたご要望に応え、正しい柔道の一層の普及発展を図るため、本館からの講師派遣（経費は講道館負担）による「講道館講習会」を平成元年度より開催してまいりました。本年度（平成21年度）も引き続き開催致しますので、講道館講習会要項をご参照の上、活用下さるようご案内致します。

なお、本講習会開催の対象となる主管団体は原則として、下記諸団体と致します。

１．全柔連地区柔道連盟（協会・連合会）と府県柔道連盟（協会・会）
２．１項以外の講道館段位推薦委託団体
３．全国及び県の高体連・中体連柔道部
４．全日本柔道少年団

本誌平成９年８月号から、各都道府県柔道連盟等で実施されました「講道館講習会」を掲載しております。

静岡県　八　木　　卓

静岡県柔道協会では、講道館より講師を派遣して頂き、講道館講習会・静岡県形中央講習会を次の通り開催した。

１　日時

平成21年６月６日（土）

午前10時～午後４時

２　場所

静岡市北部体育館　柔道場

３　講師

尾形敬史　八段

全日本柔道連盟教育普及委員長・茨城大学教授

４　受講者数

役員８名・受講生52名

尾形先生には、平成14年に翌年の静岡国体に備え、静岡市北部体育館にて「講道館柔道審判規定」、「国際柔道連盟試合審判規定」の解説のご指導を頂きました。この講習会に参加した者もあって、何となく先生を身近に感じて終始和やか

な雰囲気での講習会となった。

開講式で、安齊悦雄静岡県柔道協会会長より、「皆さんは、この貴重な機会を利用して、尾形先生から正しい形を学び、細かな点までご指導頂いて技の理合い、原点を体感して更にいろいろな形に接するようお願いしたい」との挨拶があった。

講習に入り、最初に明治20年の「柔の形」の制定から平成６年のＶＴＲ制作に至るまでの経緯について、そして、嘉納師範「柔の形」解説（『柔道』大正４年２月）から「柔の形」の成立の概要について説明があった。

また、この形の持つ特色を活かして、力に頼りがちな男子の柔道とは異なり、柔道の理合いや心構え、原則的な進退動作、体捌き、及び力の用法に重きを置いた講道館女子部の稽古について、先生の体験から大変興味深いお話が聞けた。

第一教に入るにあたり、「右手で左手の手首を持ち両手が離れないようにして、左手で右手の手首を持ち替えてください」と、相手に手首を制されたときに、それを外して逆に相手の手首を制する方法を「柔の形」の導入として紹介して下さった。

第一教では最初に両手取から入った。

「嘉納先生は、先ず形をやって、その後、乱取の稽古に入った。現在に普通に行われている稽古の中に、例え１つでも２つでも必ず形の技を取り入れた稽古はできる。それを積み重ねて最終的に１つの形としてまとまればよい。それには、形の最初からでなくとも、理解しやすい技から入る等の工夫があって良い。要は形をどのように普段の稽古に取り入れるかである」と、形を取り入れた稽古の必要性を強調された。

講習は、先ず先生が技のポイント、特に受の攻撃を受けた後、これを防ぎ十分に崩して相手を制することに重きを置いて、各技の攻防の理合いを解説しながら範を示された。４人１組を作り、先ず２人組でそれぞれに練習して、更にもう１組が加わってお互いに出来具合を批評し合ったり、助言する方法で行った。この間、先生は巡回しながら受講生に指導・助言しながら、徹底できない部分については必要に応じて受講生を中央に集めて分かり易く指導された。

「両手取」では、投げ上げられた形が最終的には外巻込で取ることを想定しているなど初めて聞く内容であった。また、「肩廻」の終わった後から、「腮押」に移る間合いの取り方、途切れなく自然に攻防するためには、手刀で右腮を突かれる際、顔を動かさずに手刀がどこまで視野に入っているかなどを十分把握しておくことの大切さなどのご指導があった。

午前中には、第一教の両手取から始めて、「肩廻」「腮押」「肩押」と進み、最も難しいとされる「突出」を練習して午前の部を終了した。

午後は、第二教の「切下」「両肩押」「斜打」「片手取」「片手挙」と順に進んでいったが、第一教で指導を受けた崩しや攻防の理合いを意識しながら先生の解説を聞いたため、午前の講習より速いペースで進んでいった。

「両肩押」では、取が受の右手首を持ち、４・５歩前進して右肩越しに投げようとするのを、受が左掌を後腰に当て右手を引くと、取は制せられて全く前に進めなくなるなど、初めて経験し納得する講習生が多かった。また、「斜打」で受が右手刀で取の烏兎を打っていくときや、指頭で両眼を突いていくときは、相手から目を離さず注視しながら攻撃するなど演技でなく本当の生きた攻撃の重要性を強調された。

第三教は、「帯取」「胸押」「突上」「打下」「両眼突」と進んでいったが、体捌きにも慣れ、制する方法が「左浮腰」や「大外落」と投技に繋がるために理解が早かった。

第一教から第三教まで15本終了したところで、全受講生が道場全域に広がり正面への礼から15本を通しで復習した。「柔の形」を初めてやる者から、15本を一通り理解している者まで幅があるために、成果の発表は第一教をやる者、第二教をやる者、第三教をやる者に分かれた。受講生を代表して、第一教では海野良信六段・植田秀四段、第二教では水野進七段・中村寿一七段、第三教では高校生の長嶋女子初段・神山女子初段の３組が形を演じた。それぞれに尾形先生から講習を頂いたなかで、高校生は、「受が確実に崩されている。しっかりできていた。更に練習して、是非、形選手権に出られるように頑張りなさい」と励ましの言葉を頂いた。

閉講式に移り、安齊会長から受講生を代表して、望月純子女子二段に修了証が授与された。そして、高田勝之副会長の御礼の言葉で講習会は終了した。

「講習会の案内は毎年頂くが、今回初めて参加させて頂いた。中央の先生からご指導を頂き、正しい形を練習できて本当に良かった。自分の不勉強で初歩的な事柄を質問しても尾形先生は懇切丁寧にご指導下さり、正しい形の普及に本当にご尽力されていることがよく分かりました」の感想が聞かれた。

また、「今まで『柔の形』を指導してきたが、自分は形だけにとらわれて技の攻防の理合いなど本質までは指導できていなかった。今日は尾形先生のご指導のお陰で、今後の指導に幅が広がり本当に有難かった」という、ご年配の先生のこ

の言葉は、受講生が各地区に戻り、この講習の成果として正しい「柔の形」の普及発展に尽力してくれることが期待できるものであった。

最後に、本事業を開催して頂きました講道館、および、お忙しい中大変熱心にご指導いただきました尾形先生に厚く御礼申し上げます。

（静岡県柔協・審判研修委員長）

柔道百周年を迎えたハンガリーに招かれて

安 齊 悦 雄

本年３月、ハンガリー柔道伝来百周年に当たり、柔道関係者の招待を受けました。

ハンガリー柔道の歴史は、1909（明治42）年佐々木吉三郎氏によって紹介され、昨年で百周年を迎えることとなり、様々な記念行事が行われたようです。

そうした記念行事の関連でしょうか、昨年から、度々招待の手紙をいただいておりましたが、中々都合が付かず、この度の訪問ということになりました。そして、思いがけず、ハンガリー柔道連盟から表彰されました。その所以は、ヨーロッパ選手権初の金メダル、オリンピック初の銅メダルの獲得に尽力したほか、ハンガリー柔道発展に多大な貢献をしたことに対するものだそうです。

私とハンガリー柔道との関係は、33年前に遡ります。昭和51年、醍醐敏郎先生のご推薦をいただき、国際交流基金による海外専門家派遣として約半年間派遣されたのが始まりでした。２回目は、昭和58年、ハンガリー国際大会へ出場のため松下三郎先生を団長とした全日本チームの監督として、３回目は平成元年、阿部高弘先生とともに東欧３ヵ国（ルーマニア、ハンガリー、ポーランド）の巡回指導の際で、今回と併せて４回目となります。

当時を述懐しますと、指導者要請のお話をいただいたのは、昭和51年１月でした。30歳、まだ強化選手に指定されていましたので、その時は、いよいよ現役も終わりかなと、若干複雑な心境でしたが、結局お受けすることにいたしました。

出発は３月、ハンガリーの情報は少なく、言葉や習慣もよく判らない状況でしたので、不安な気持ちで旅立ちました。着任間もない頃、欧州派遣中の安部一郎先生が立ち寄られ、数日間付き添っていただいたことがありました。初の海外指導、不安一杯で始まったこの派遣が、私の柔道人生観を一変させるような、貴重で素晴らしい体験をもたらしてくれようとは夢にも思っておりませんでした。

当時のハンガリーは共産圏で、経済的にも決して恵まれておりませんでしたが、国民性は、勤勉で誠実、人情に厚く、まるで古きよき時代の日本人を彷彿させるものがありました。何よりも親日的で１週間もすると全く違和感もなくとけ込めることができました。また、大変なスポーツ王国で、サッカーをはじめ、他の多くのスポーツも世界的トップクラスで、柔道のレベルも、実際に稽古してみて、かなりのものと感じました。

ハンガリーにとって、日本の指導者は待望久しく、その期待度は相当なもので、示されたスケジュールは朝９時から夜８時までの過密なものでした。内容は、午前・午後のナショナルチーム指導がベース、この合間に指導者への指導、夜間はジュニア指導となっており、一時も無駄にしたくないというようなものでした。つい「いつ休んで、いつ食事をするの」と冗談半分に質問をしてしまったくらいです。さらに、週末には各地の少年大会や段級審査へ行くという、まさに柔道漬けの日々でした。

そして、指導が始まると、予想通り５着の柔道衣は乾く暇もない状態。やっと一日が終わって部屋に戻り、一休みのつもりで、横になったと思ったら靴を履いたまま朝まで気付かない、といった日が何日かありました。それでも、役員や選手たちの真剣な眼差し、何でも吸収してやろうという姿勢や誠実さに、要望のほとんどを引き受けることができたので、我ながらよく頑張ったのではないかと自負しています。それにしても、よく身体がもったものだと今でも感心しております。

５月の初めに、ソ連のキエフ（現在のウクライナの首都）でヨーロッパ選手権が開催されました。会場には、ヨーロッパ各地で活躍されている日本の指導者の方々も参集され、粟津正蔵先生、村上清先生（フランス）、村田直樹先生（アイスランド）、松下雅見先生（イタリア）をはじめ、在欧の先生方とお会いし、外国での指導方法やご意見等を拝聴することができ、経験の浅い私にとって大変勉強になりました。

このヨーロッパ選手権で、ハンガリー柔道界にとって画期的な出来事が起こりました。なんと、ハンガリー柔道史上初のヨーロッパチャンピオンが誕生したのです。

この大会２週間程前のこと、出場選手の選考で連盟と私の意見が食い違いました。ヨーロッパ選手権への選考は、自動的にオリンピックへの出場へとつながっていただけに、かなり議論され、結局「それまで言うのであれば、もう一人連れて行く」ということになり、63kg級だけ２人をエントリーすることになりました。その追加したトンチェック選手が優勝したのです。私としては手応えがあっての推薦でありましたが、まさか優勝するとまでは思っておりませんでしたので、正直驚きました。

「大会に出場した者、全てに優勝のチャンスがある」当たり前のことですが、改めて再認識した次第で、この時以降、私の指導語録に入れております。

トンチェック選手は、大会終了後のレセプション席上で、最優秀選手に選ばれました。８月、カナダで開催されたモントリオール五輪へ出場したことは言うまでもありません。そして、このトンチェック選手が、これまたハンガリー柔道史上初のオリンピック銅メダルを獲得したのです。

このモントリオール五輪は、本年、講道館長・全日本柔道連盟会長に就任された上村春樹先生が無差別、そして二宮和弘先生が93kg級、園田勇先生が80kg級で、それぞれ金メダルを獲得された大会です。選手村や練習会場で、団長の醍醐先生、監督の岡野功先生ともお会いでき、激励をいただきました。ハンガリー選手にも憧れの日本選手との合同稽古の機会を作っていただきました。また、カナダ在住の中村浩之先生宅での日本チーム打ち上げパーティーへ五輪に参加した在外日本人指導者とともに、お招きをいただきました。

ハンガリー柔道チームが初の銅メダルを手に凱旋帰国すると、連盟事務所が今までの３倍位の大きさへと変わっておりました。これが当時の共産圏ならではのことだと思います。ハンガリー柔道にとって、これらの成果が自信になり、国際舞台へ大きく羽ばたいていく引き金になったと思っております。それは、その後のオリンピックでの成績で示しております。１９８０年モスクワ（日本不参加）で銅２、1984年ロサンゼルス（共産圏はボイコットで不参加）の時は、共産圏だけの五輪代替大会で金１、銅２、1992年バルセロナで金１、銀２、銅１と、これまでが嘘だったかのようにメダルを獲得しております。

さて、思いがけないこの度の表彰は、まさにサプライズの連続でした。関係者からホテルで「昼食会があるから、背広にネクタイで」と言われて、何も聞かされていなかったので、何気なく出掛けると、そこには歴代の連盟会長や役員そして元コーチやメダリストをはじめ、旧知の友人達40人程が集まっており、私を迎えてくれました。これには本当に驚き、とにかく再会を喜び合い、懐かしく語り合いながら昼食会が進みました。宴たけなわに、会場中央に呼び出され、立ち上って行くと、突然、表彰のセレモニーとなりました。訳もわからず、現会長のラスロー氏から表彰状とメダルを授与されました。そして、トンチェック氏のスピーチとなり、感激で思わず涙が溢れてしまいました。

ハンガリーへの指導派遣は、わずか半年余のことでしたが、今までになかった中身の濃い経験をさせていただき、これらのことが私の柔道観を一変させたといっても過言ではなく、その後の私の柔道人生の大きな糧となっております。また、ハンガリー滞在中の過酷なスケジュールのお陰か、あきらめかけていた現役も、帰国した後も、全日本選手権や全日本選抜体重別に出場するなど、34歳まで継続できたことは、逆に感謝をしたい気持ちで一杯です。

勤勉で実直、そして人情に厚いハンガリー柔道の仲間達、20年前、ベルリンの壁が崩壊された後、国の体制が大きく変化していても、彼らは33年前と少しも変わっておりませんでした。今、日本にとって一番必要とされているこうした気概や精神を再認識し、微力ではありますが、斯道発展に尽力したいと思っております。

（静岡県柔道協会会長）

黒帯白帯（投稿欄）

嘉納師範に学ぶ

宮 﨑 貞 夫

静岡県柔道協会主催平成22年度柔道教養講座（嘉納師範に学ぶ）を平成22年11月６日（土）に静岡県武道館において開催したのでその様子を報告する。

静岡県柔道協会主催、静岡県教育委員会・静岡県武道協議会・静岡新聞社・静岡放送後援で柔道教養講座（嘉納師範に学ぶ）を開催した。開催の趣旨は「平成24年度から実施される中学校武道必修化を機会に、原点である嘉納治五郎師範が創始した講道館柔道について学び、もって日本の伝統文化としての柔道の武道的・体育的・教育的意義を再確認し、県内柔道人の指導力向上に資する」（実施要綱より）である。講師には村田直樹先生（講道館図書資料部長・日本武道学会理

事長・講道館七段）をお迎えした。高校生からベテラン指導者まで県内各地から120名の柔道人が出席した。午前中の講話「柔道史概論」に続いて午後は「柔道を語る、柔道の良さと今日的課題」と題してパネルディスカッションを行った。

１．開講式

開講式では安齊悦雄静岡県柔道協会長から今回の講座の目的等が話され、田中秀幸静岡大学名誉教授から講師の村田直樹先生の紹介がなされた。村田先生の挨拶に続いて講演が行われた。

２．講演「嘉納治五郎師範に学ぶー私達は柔道をどのように理解しておけばよいのかー」

村田先生自作のパワーポイントや資料を用いながら講演が開始された。資料の目次は次のようにまとめられていた。

（１）柔道の誕生→５つの理由⇔４つの疑問と１つの感嘆
（２）普及の契機→警視庁武術大会の勝利
（３）創始者の横顔→本人・家族・知人・門人・外国人等の声
（４）制度行事の整備→形・五教の技・試合・段位・鏡開式等
（５）修業者数→講道館・全日本柔道連盟・国際柔道連盟
（６）武道の禁止から競技スポーツとして復活→ＪＵＤＯへの道
（７）競技スポーツの発展原理→ＳＤＣＭＳ
（８）武道教育の技と心→心の中身は少なくとも３つある
（９）修行かスポーツか→発祥国の宿命と知恵
（10）現代社会論→期待される国土の育成

最初に歴史を研究する場合、共通に理解しなくてはならないポイントとして、①直接体験できないので常に「あやしい」ということを意識すること、②今回の講義では嘉納師範本人の記録を基にして考察していく、の２点が強調され、今日の講演も「鵜呑み」にしないでほしいと研究者らしく語られた。

前半は柔道成立の歴史が語られた。特に４つの疑問と１つの感嘆という話は面白く説得力があった。「柔の理」だけでなく「心身の力を最も有効に使うこと」を柔道の原理とする話は新鮮であり納得できた。また、嘉納師範が長年書かれていた英文の日記が存在し、その解読がなされていないこともはじめて知った。早く研究が進むことを期待したい。

戦後、学校武道が禁止され、競技スポーツとして復活し、ＪＵＤＯへと発展していくところの解説も興味深かった。

「武道教育の技と心」では、特に３つのポイントを話された。①運動に伴う心、②勝負に即した心、③伝統の心、の３つであるが、柔道を指導する立場の者としてははっきりと意識しておかなくてはならない点だと感じた。

「修行かスポーツか」では、日本は柔道発祥の国として宿命があり、知恵が求められているとの解説がなされた。特にルールについて、村田先生は講道館柔道試合審判規定と国際柔道連盟試合審判規定の「すみ分け」を主張されていた。

柔道の目的に関して村田先生は「国土の育成である」ことを強調された。戦後65年の中で自己中心的な態度や目に余るマナー違反が日常的に見られるようになってきており、これらを改善するのに武道教育が役立つのではないかと提案された。

３．パネルディスカッション

コメンテーター
　村田直樹先生
パネリスト
　安齊　悦雄（静岡県柔道協会長）
　田中　秀幸（静岡大学名誉教授）
　溝口　紀子（静岡文化芸術大学准教授）
　伊藤　武治（県立浜松東高等学校教頭）
　川合　達彦（浜松市立篭玉中学校教諭）
司　会
　佐々木秀男（静岡県柔道協会事務局長）

司会　審判規定について意見をお願いしたい。

安齊　全柔連主催の試合は全てＩＪＦ規定で行うことになっている。講道館規定が無くなった訳ではない。昇段の試合に関して、静岡県は現在ＩＪＦ規定で実施しているが講道館規定で実施することも考える必要がある。

田中　講道館柔道・試合審判規定と区切ると考えている。講道館は柔道の普及や教育面・段位の認定が主であり、全柔連

は競技力向上を目指す。

溝口　村田案（すみ分け案）を支持する。普及の面では講道館ルールも残してほしい。

安齊　今年の全日本選手権は講道館規定だったが、来年はＩＪＦ規定で実施することになっている。

村田　日本柔道は「世界知らず」の面がある。制限が少ない中で勝負を決するほうが良い。何故全日本選手権をＩＪＦ規定でやるのか不思議だ。しかし、世代が異なると価値観も異なり難しい面もある。

伊藤　他のスポーツで国内と国外でルールが違うことは無い。審判はむしろやりやすくなったのではないか。

司会　柔道必修化についてはどうか。

川合　６月に千葉で行われた講習会に参加した。今回は安全に関する指導が加わっていた。受身だけでなく技の指導も求められている。

伊藤　県教委では柔道を選択する中学校の先生方に２年かけて指導法を伝えている。浜松市では先生方のアドバイザー的な仕事で直接各中学校へ９名が出向いている。

溝口　部活動に関しては社会体育に移管したほうが良い。指導者については柔道協会が派遣し、技術だけでなく精神も伝えてほしい。

田中　教員養成に携わってきた。武道Ⅰ、武道Ⅱという講義があったが、十分な時間は取れなかった。中学校の授業中の10数時間で教えるのは大変だと思う。

（議論の一部を掲載）

４．受講者の感想・意見（一部抜粋）

・２年ほど前から授業で教えるために柔道を学んでいる。まだ月日も浅く柔道をよく知らないので、生徒に教えるにあたってきちんと学びたいと日々思っていた。（略）
　今回嘉納師範の思いや講道館柔道の成り立ちなどを聞くことができ指導しやすくなった。

・今回のような講座が大切だと考える。単なる技術力の強化のみの追及ではなく、柔道思想をきちんと身に付けることが柔道家の使命とも考える。

・今回は指導者が対象だったが、中学生・高校生・大学生・一般の柔道愛好家等にも聞かせたい内容も多かった、機会があれば多くの方が参加できる講習会をお願いしたい。

５．まとめ

午前の講義で講道館柔道の成り立ちとその価値を再確認することができ、午後のパネルディスカッションを通して、今静岡県で何が問題になっているのか改めて考えることができた。平成22年５月14日･15日に東京で開催された柔道ルネッサンスフォーラムでも嘉納師範の教えを正しく理解し伝えていくことの大切さが強調されたが、今回改めてその必要性を感じた。

各県でも競技力向上は当然やられていることと思う。しかし柔道のさらなる普及と発展のためには、今回の様な講座を実施し、指導者が柔道の心を学び伝えていく努力が求められている。講道館でも積極的にバックアップして頂きたいと思う。

（静岡県柔協広報普及委員長）

講道館講習会

静岡県　八　木　　卓

講道館主催、静岡県柔道協会主管による講道館講習会・静岡県中央形講習会が次の通り開催された。

１　日時　平成23年７月17日（日）
　　午前９時30分～午後３時30分まで

２　場所　静岡市北部体育館

３　講師　七段　道場良久先生
　　講道館指導員・警視庁柔道師範

４　受講者数　役員５名・受講生37名

開講式で、髙田勝之副会長の挨拶、田中秀幸理事より講師の紹介の後、準備運動を行い、続いて講習が開始された。

講習は、固の形の最初の動作である礼法・踞姿・膝行・受の仰臥姿勢の練習から始まった。参加者が二段から八段と幅

広く、姿勢や体捌きなどの習熟の度合いに大きな開きがあった。しかし、踞姿は右足先の方向に留意、膝行は、重心を残したまま、ぶれずに前後に移動するなどの具体的な指導を先生から受けた後は、参加者の踞姿や膝行が見違えるほど良くなった。

続いて抑込技の練習に入り、「固の形は地味なので、取の極めに対して、受がそれから逃げるための攻防の理合いを表現するには、それぞれの動きに関連性を持たせ、動作を大きく表現することが大切である」と説明を受けた。そのためには、取が極めた後、受が動きを作れるように、多少の隙を作ってやると受の動きを大きくすることができるというアドバイスを頂いた。

袈裟固では、攻防の理合いを理解するために、取と受のそれぞれの３つの動きを確認した。①受は右掌に左掌を添えて取の左肘の逆を取る。取はこれに応じて左足を大きく踏み出し、うつ伏せで対応する。②受はあおりを利用して右膝を取の身体の下へ入れる。取は腰を切ってこれに応ずる。③受は取の左肩越しから帯（背中）をとりにいき、鉄砲で返す。取は左足を大きく踏み出しうつ伏せになって応ずる。そして、受は「参った」の合図をする。

この３つの攻防の動作を１つずつ確実にできるようにして、何回も繰り返し、最後は、取の極めから受の「参った」までの動きを途切れることなく行えるようにした。

こうした方法で、他の抑込技についても３つの逃げ方と取の対応を決め、双方の動きが途切れることなく出来るまで練習することで、何故こうなるかといった攻防の理合いを学ぶことができた。

この間、先生は道場を隈無く回り、受講生のそれぞれの手や足の位置、姿勢など事細かく指導をして下さった。また、理解不十分と思われる部分については、受講生を中央に集めて、受講生の陥りがちな点と正しい動作を順を追って説明して下さったため、大変分かり易かった。抑込技の５本を終えたところで、礼法から抑込技の５本を通しで練習して、午前の部を終了した。

午後の部は１時から始まり、先生が参加された３月のヨーロッパ講道館講習会の様子や感想を含む講義が始まった。ヨーロッパの形の実情や今後の世界形選手権の展望、形の普及による更なる柔道の技の理解と発展など例を挙げてお話されたので、大変興味深く聞くことができた。

講義に続き、絞技・関節技の練習に入った。抑込技に比べ、受の対応が単純なためスムーズに進んだ。練習の中で、絞技では、送襟絞、片羽絞、逆十字絞で、受の「参った」の際の姿勢が活きていないことを指摘され、それを直す方法の指導を受けた。

関節技では、受が襟を取りに行くタイミングは、教本では、取の「攻める気勢」と表現してあるように、約束でお互いにそれが分かるようにしておくこと、腕挫腕固は取の襟を取りに行くとき身体全体で襟を取り行くこと、腕挫十字固では、取の襟を取りに行くとき親指が襟の中に入り、取られた瞬間親指が上になるように取ること、等の指導があった。休憩を挟んで、それぞれの組で抑込技から関節技までを通して練習し、最後に代表の２組が講習の成果を演じ、他の受講生の拍手を浴びる中、道場先生からお誉めの言葉を頂いた。そして受講生の取り組みについての講評と、それぞれの立場で更なる向上を目指すよう期待が述べられ、講習が無事終了した。

閉講式に移り、川中邦夫副会長から受講生代表の熊谷幸洋七段に修了証が授与された。そして、「道場先生の豊富な形指導に裏付けられた分かり易いご指導に加え、ユーモアに富んだ巧みな話術や、汗を吹きだしながらの熱心なご指導に、リラックスした中にも受講生一度は真剣に取り組むことができました。この講習で乱取の形としての攻防の理合いがよく理解できました。誠にありがとうございました。」とお礼の挨拶があった。

今回の講習会に当たって講師を派遣してくださった講道館並びに終始ご熱心にご指導頂きました道場先生に、心からお礼申し上げます。

（静岡県柔協審判研修委員長）

各地だより「北から南から」

平成22年度の静岡県柔道界を振り返る

静岡県　宮　﨑　貞　夫

平成22年度の静岡県柔道界について、主な行事を中心に報告したい。

１．国体予選・本大会

第31回国体東海ブロック大会が８月22日（日）岐阜県大垣武道館で開催された。本県選手団は健闘したが、成績は成年

女子２分１敗で三位、少年男子は３敗で四位、少年女子は１勝２敗で三位、残念ながら出場権を得ることはできなかった。

本大会では、成年男子が二回戦で埼玉県と対戦し２対３で惜敗した。試合は敗れたものの、強豪の埼玉県を相手に一進一退の試合を繰り広げ、国体の舞台で静岡県の強さを示すことができたと思っている。

２．第52回静岡県柔道祭開催

今年度の柔道祭は５月９日（日）、静岡県武道館で開催された。他の大会との関係で例年より少し遅い開催となった。小学生の部から一般の部まで県内の柔道愛好家が一堂に集まる唯一の大会となっている。

恒例の柔道協会表彰が行われ、特別功労賞４名、永年功労賞３名、功労賞３名の表彰が行われた。

形の競技には投の形、講道館護身術に各２組、固の形、柔の形、五の形、古式の形に各１組が参加し、日頃鍛えた形を披露してくれた。形に続いて小学生、中学男女、高校男女・一般の６種別の団体戦が８試合場で行われた。例年のことではあるが、観客席から大きな声援が送られ、決勝戦まで熱気あふれる試合が続いた。

３．第22回マルちゃん杯中部少年柔道大会

柔道教室が６月５日（土）浜北総合体育館グリーンアリーナで開催された。講師には村田正夫六段（びわこ成蹊スポーツ大学）と金野潤五段（日本大学）を迎え、地元の選手や大会参加者が多数参加した。14時から開会式が行われ挨拶、講師紹介に続き講師の講話が行われた。続いて各講師から得意技の披露と実技指導が行われた。

翌６日（日）に大会が実施された。岐阜県の少年大会と日程が重なり岐阜の参加チームが少なかったが、それでも中部地区の精鋭が集まり、全国大会を目指し熱戦を繰り広げた。県内チームも頑張り、静岡学園中学と東海大学翔洋高校中東部が全国大会出場を決めた。

４．救急講習会開催

静岡県少年柔道連絡協議会が主催し、浜松市消防局の協力を得て「救急講習会」が浜松市武道館で９月５日（日）に開催された。指導者30名、選手220名、保護者50名が参加し、応急処置の方法を実技と講義を通して学ぶことができた。さらに、ＡＥＤの使用方法、熱中症への対応策も指導された。参加した指導者からは「とても参考になった。今後も定期的に実施して欲しい」との感想が寄せられた。

５．柔道教養講座「嘉納師範に学ぶ」開催

雑誌「柔道」ですでに報告したが、本県柔協主催平成22年度柔道教養講座「嘉納師範に学ぶ」が11月６日（土）静岡県武道館で開催された。

開催の趣旨は「平成24年度から実施される中学校武道（柔道）必修化を機会に、原点である嘉納治五郎師範が起こした講道館柔道について学び、もっと日本の伝統文化としての柔道の武道的・体育的・教育的意義を再確認し、県内柔道人の指導力向上に資する」（実施要綱より）である。

講師には村田直樹先生（講道館図書資料部長・日本武道学会理事長・七段）をお迎えした。高校生からベテラン指導者まで県内各地から120名の柔道人が出席した。午前中の講話「柔道史概論」に続いて午後は「柔道を語る、柔道の良さと今日的課題」と題してパネルディスカッションを行った。

６．武道競技会創設10周年「武道始め」

静岡県武道協議会が創設されて10周年となり、平成23年１月８日（土）県武道館にて記念講演会が行われた。講師は東海大学の山下泰裕先生だった。県内の武道愛好家が集まり山下先生のご講演を聞き、その後各団体（柔道・剣道・空手等９団体）が演武を行った。

山下先生は柔道との出会いによって多くのことを学ぶことができたことを具体的にお話しされ、参加した子どもたちにも十分伝わったことと思う。特に講演後の慌しい中、一緒に記念写真を撮っていただくなど参加した子どもたちには良い想い出になったことと思う。

午後の演武には静岡県西部地区の道場連盟に所属する子どもたちが参加し、坐礼から始まり打込や受身・乱取等を披露し、最後に投の形を演じてくれた。参加団体中の最後の演武であり、きびきびした動作で見事に全体を引き締めてくれた。

７．若い静岡県選手の活躍

平成22年度に全国大会で三位までに入賞した若い選手は４名だった。昨年度には及ばなかったが今年度も頑張ってくれた。

第41回全国中学校柔道大会男子90kg級で準優勝した佐藤和也君（静岡学園中学校）、同大会女子70kg超級で三位に入賞した滝川真央さん（沼津市立原中学校）、第59回全国高等学校総合体育大会男子66kg級で三位に入賞した吉澤駿君

（静岡学園高等学校）、同大会女子57kg級で三位入賞の井口采美さん（静岡県立浜松商業高等学校）である。本県では女子選手が活躍する例が多かったが、昨年に続き男子選手も頑張ってくれた。

８．最後に

平成23年４月10日（日）に平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会が県武道館で開催された。詳細は「柔道」誌に掲載済みであるが、久しぶりの全国大会開催で県柔道協会挙げて取り組み、立派に開催できたと思う。

他県と同様本県でも柔道人口の減少が問題となっている。対策として、保護者、特に母親に柔道を広める対策や、中学校武道必修化をチャンスととらえ、県及び政令市教育委員会と連携を図り、中学校に協会役員を指導者として派遣すること等を考えている。

また、平成22年度に実施された教養講座や救急講演会は、柔道普及のために非常に役立つ行事だったと考え、今後どう継続していくかが課題と認識している。

（静岡県柔道広報普及委員長）

各地だより「南から北から」
親子柔道教室の実施に関する報告

静岡県　宮　﨑　貞　夫

１．静岡県柔道協会の重点目標

平成24年度、本県柔道協会では次の３つの重点目標として取り組んだ。

（１）柔道の安全性に対する啓蒙（信頼回復）と、指導者の更なる指導力・人間性の向上を図る。

（２）女性登録者増加に向け親子柔道教室を実施する。

（３）形の研修及び指導者養成を図る。

今回は、（２）の項目について具体的に報告する。

柔道人口の減少は本県柔協でも大きな問題となっている。その対策の１つとして、女性（母親）に柔道の良さを体験してもらい、将来的には登録者増加を目指している。

意欲のある参加者には昇段の機会を提供することも視野に入れ、底辺拡大につながればと考えている。

２．親子柔道教室の実施

本県柔協は大きく３地区に分かれており、今回の取り組みも３地区でそれぞれ工夫して行われている。各地区の取り組みを紹介する。

（１）中部地区　親子体験柔道教室

平成24年８月26日（日）午前10時から正午まで静岡市北部体育館柔道場で開催した。参加者は、大人男性19人、女性10人（内有段者３人）、子ども男子26人、女子14人、指導者15人であった。

指導内容は、開講式に続き、エアロビクスを取り入れた準備運動、ゆかいな柔道ゲーム、礼法指導、受身指導、お父さん・お母さんを投げ飛ばせ、閉講式と楽しめるメニューで行った。例えば、ゆかいな柔道ゲームでは、赤帯をつけて鬼ごっこや変身動物（クモ・アザラシ・ウサギ・猪）、親子トレーニング（手押し車・おんぶ）等があり、親子のスキンシップが図れる内容になっている。

また、この柔道教室は毎回好評で、柔道の「礼儀作法・楽しさ」等の発信機会にもなっている。

教室参加者からは以下のような意見や感想が寄せられている。

・初めて柔道衣を着たが、心が清潔になったような気がした。
・親子で組み合うことで日常にないスキンシップができた。
・女性指導者の優しい言葉や接し方が、子どもたちを柔道へ導くうえでの男性指導者にはない魅力であると感じた。
・プロの指導者によるエアロビクスを準備運動に取り入れたが好評であった。
・100名を超える参加者があり楽しい教室であった。
・50着を超えるレンタル柔道衣の洗濯には苦労する。

（２）西部地区　親子柔道教室（めばえの柔道教室）

平成24年11月４日（日）午後１時から午後３時30分まで浜松市武道館で開催した。

講師は溝口紀子氏（静岡文化芸術大学準教授、バルセロナオリンピック銀メダリスト）とジェレミ・アンドリュ氏（フ

ランススポーツ指導員、フランス選手権66kg級優勝）であった。

幼稚園の年少から小学３年生以下を対象に広く一般にも参加を呼びかけた。その結果、西部地区各道場に所属する子どもだけでなく、一般の子どもたちも参加してくれた。保護者の参加もあり、子どもたちが131人、保護者65人、指導者30人と200人を超える参加者であった。

今回は講師に、フランスの柔道界に詳しい溝口先生と、フランス人のアンドリュ氏を迎えて行われた。柔道の人気が高く柔道人口が非常に多い（特に底辺）フランス流の柔道を経験することができた。

最初に溝口先生とアンドリュ氏から柔道の基本的な準備運動の指導がなされた。参加者は本当に楽しそうに、親子で取り組んでいた。

後半はアンドリュ氏から柔道の実技が紹介され、浜松西高校ＯＢで筑波大学学生の鈴木壮太君を受に切れの良い技を披露してくれた。

地元の大学生や高校生の女子部員の応援参加もあり、女性に対してアピールできたものと思われる。

（３）東部地区　エアロビ柔道

東部地区での取り組みは沼津市立沼津高校柔道部前監督の根木谷信一先生を中心に長年実施されているエアロビ柔道が基本となっている。エアロビ柔道は「礼法・受身等の基本動作から立技・寝技まで曲にのって動き、技を身につけスタミナの養成も兼ねる」もので、さらに広く「転倒安全対策」としての側面も考えられている。

今年度も毎週水曜日午後７時から８時30分まで、市立沼津高校柔道場でエアロビ柔道を継続して開催している。「年齢・性別に関係なく、健康で『柔道の礼法・受身』などを体得し、怪我防止と体力増強を目指したい人、また子供や孫と遊びたい人」を対象に、「全市民、礼と受身の体得を」をスローガンに掲げ実践している。

初級から上級まで６段級に分け、礼・ストレッチ・動物・体さばき・送足払・小内刈・大内刈・膝車・内股・体落・背負投・受身・寝技・心拍数増加運動・クーリングダウン・礼の順（内容は選択できる）で行われる。各種目の時間は決まっており、各級で必要な時間は異なるが約１時間かかる内容となっている。

女性向けのエアロビ柔道だけでなく、老若男女を対象に「歌によるおむすび受身」も実践し、中学校での実施も検討している。

３．まとめ

年度末に行われた静岡県柔道協会理事会の自己評価では、３地区での取り組みに対して、６割近くの理事が評価している。また、「親子柔道教室は少しずつ定着していると感じる」「裾野を広げ競技人口の増加につながるような広報活動も必要であると感じる」「登録費用の面を考慮することが必要だと思う」「今のところ女性の登録は増えていない」「知名度はまだまだ、ポスターや広告等で啓蒙する必要がある」など様々な意見が寄せられている。

柔道人口増加に向けての特効薬はなかなか見つからないが、できることを地道に続けていくことが大切だと感じている。日頃の指導を適切に行い、少年柔道から中学校、高校、一般と継続・発展していくことが求められている。その１つの取り組みとして、親子柔道教室の実施を着実に進めていきたい。

（静岡県柔協広報普及委員長）

講道館講習会

静岡県　和久田　守男

静岡県柔道協会では、審判員の審判技能及び資質の向上を目的として、平成25年度講道館主催「静岡県中央審判講習会」を左記の通り開催した。

日　時：平成25年８月４日（日）

午前10時～午後３時

会　場：島田市総合スポーツセンター　ローズアリーナ

講　師：高橋　進　七段

（全日本柔道連盟審判委員）

受講者：

本県柔道協会長以下会員108名

講習内容

安齊悦雄静岡県柔協会長の挨拶に始まり、全柔連Ｓ級審判員・ＩＪＦインターナショナル審判員である高橋進先生の紹介の後、講習が開始された。

講義は先生の理解し易い説明とパワーポイントによる映像もあり、最初から受講者の関心を引き寄せるのに十分であった。講習内容の一部を紹介する。

（1）現行ルールと新ルールの違い

共通部分はあるものの、現行ルールの審判で混同しないようにとの注意があった。いわゆる脚取りの反則について、反則となる場合・反則とならない場合の解説の後、国際大会等の試合を確認しながら、クロスグリップの変化なども詳しく指導して頂いた。

（2）ジュリー等の意見聴取

合議は短時間で終わらせることが重要で、ジュリーからアドバイスを受ける場合、終了と同時に技が決まった場合などは、時計係を適切に利用するなど、普段なかなか気が付かない指摘があり大変参考になった。

（3）ご自身の苦い経験

先生は、実際の審判の中で、偽装攻撃と思われる行為があり「アッ」と思いペナルティを取ろうと思ったが取り切れず、その後何回か同様の行為があったが、１回目を取れなかったことから、最後まで取りきれなかった。「アッ」と思ったら取るべきである。とご自身の苦い経験を披露してくださった。

（4）新ルールの説明

１人審判員制についてホワイトボードに分かり易く図解しての説明があり、観客に見易く、主審と副審の判断に差が出る柔道はおかしいと思われないためなど、導入の経緯について説明があった。

（5）技の評価

技の評価について、「一本」は「一本」の条件を満たすものだけが「一本」となる。実際に「一本」とはならない場合の説明があり、静岡県警特錬選手を使って、実際の技を掛けさせ、投げた状態を「一本」であるか「技あり」であるか受講者に質問するなど、技の見極めの大切さを強調された。

（6）ゴールデンスコアの延長戦

延長戦は、全く同スコアの場合のみ時間無制限で行われるが、実際は短時間で決まることが殆どとのことで、受講者は安心した。

（7）技重視

新ルールではペナルティの扱いが変って技重視となり、正しく組んで技を掛けること、積極的にペナルティを取って選手にどんどん技を掛けさせダイナミック柔道をやらせることが大切であるとのことであった。

最後に髙田勝之副会長の謝辞で「講道館講習会」が終了した。終了後も受講者の質問が続き、高橋先生は熱心に受け応えてくれた。

受講者からは、「高橋先生の国際大会等を通じての貴重な経験を基に、分かり易いご指導を頂き大変勉強になった。新ルールについてもっと勉強したい」など多くの感想が寄せられ、有意義な講習会となった。

ご多忙の中、遠路来静頂き始終熱心にご指導賜りました講師の高橋進先生に厚くお礼申し上げますと共に、本講習会の機会を与えて頂いた講道館に重ねてお礼申し上げます。

（静岡県柔協審判研修委員長）

講道館「形」講習会

講道館柔道の“形”の普及、振興を図るために平成９年から全日本柔道「形」競技大会を開催しておりますが、「形」に対する意義と重要性の認識も深まり、技術も向上してまいりましたことは、ご同慶の至りに存じます。

本講習会は“形”の技術向上を目指す人、または全日本柔道「形」競技大会の出場を目指す人を対象に、各地区柔道連盟（協会・連合会）において開催しておりますが、平成26年も引き続き実施することになりました。

主催　　公益財団法人講道館

主管　　地区柔道連盟（協会・連合会）

東海地区

根木谷　信一

講道館主催「東海地区形講習会」は平成26年５月11日（日）、静岡市北部体育館で行われた。９時45分、石川裕章東海柔道連合会理事長による開式の辞、髙田勝之東海柔道連合会会長の挨拶、髙栁喜一名誉顧問による来賓挨拶に続き、講師紹介を石川理事長が行った。続いて講師を代表し佐藤正八段からご挨拶を頂き、講習が開始された。講習会場は４試合場分あり、４つの形がそれぞれの試合場を使い安全に進められた。

東海柔道連合会が主管者として一番心配だったのは受講者数だった。正規の形が学べるチャンスに「受講者が少なかったらどうしよう」と思った。しかし、東海形競技大会に出場する選手はほぼ参加、事前申し込み者が６名だった「投の形」も当日申し込み者が４名あり合計10名となりホッとした。他の形も当日申し込みがあり、「古式の形」18名、「柔の形」22名（女性11名）、「極の形」12名（女性１名）、総人数62名の参加となった。東海地区形審査員も「投の形」３名、「古式の形」２名、「柔の形」３名、「極の形」２名の延べ10名が参加した。

10時から仮屋力講師によるストレッチ体操、受身で体を十分ほぐした後、「古式の形」を佐藤正八段、「柔の形」を尾形敬史八段、「極の形」を片田誠八段、「投の形」を仮屋五段が担当され、各会場に分かれ開始された。どの会場も言葉遣いが丁寧で、礼法の大切さ、技についても詳しく説明して下さった。見学をしながら、「極の形」における「崩す方向・間合いを考えながら練習を重ね、受と取の呼吸を合わせ、速さと正確さを学んでほしい」という指導内容、「柔の形」における目線や四肢の動き、攻撃・防御の流れるような動き、ポイントをおさえながらの説明と実技などが印象に残った。

受講者は、東海形競技大会（平成26年７月６日（日）大垣市武道館にて開催）に出場する各県代表選手と、練習が不十分な受講者との差が大きいため、一定の技まで進めた後、各県代表選手による形演技の披露が行われた。

午後の部の講習は、13時から15時30分まで行った。各形の説明が終了したところで、東海形競技大会に出場する４種目の静岡県代表選手が競技会の雰囲気で実演。その後、受講者全員が通しの練習を行い、各講師が見回りながら直し、受講者からの質問に答え、終了時刻となった。

閉講式では、尾形八段から受講者の姿勢について「１つの技を説明し、受取１回の練習と指示をしても、納得するまで何回も繰り返し練習したり、質問も多く出たりと大変に熱心であった」との講評を頂いた。続いて、受講者を代表し、「古式の形」静岡県代表の渡辺達也選手から「日頃の形稽古において自己流になっていたところがあり、正しい動作に直すことが出来た。今日学んだことを忘れることなく、より一層の精進を目指したい」と謝辞が述べられた。一般の受講者からは「柔道の乱取に必要な要素は形を学ぶことにあると実感した」との声も聞かれた。

東海形競技大会の代表者から、全国大会に止まらず世界大会で活躍する選手が出るようになったのも、「講道館形講習会」によるところが大きい。しかし、各県からの代表者が固定化しているので、層を厚くするために「低年齢層の育成」が大切と考える。現在少年の全国大会は乱取試合中心なので「礼法や受身大会」「形競技会」など、楽しく生活に活かせる、親も夢中になる方法で行えたら良いと思う。

最後に、「講道館形講習会」を熱心にご指導いただいた４名の先生方に対し、心からお礼申し上げ報告とする。

（東海柔連会事務局長）

静岡県柔道協会の近況報告

静岡県　宮　﨑　貞　夫

平成25年度の静岡県柔道協会の近況と、最近本県で実施した第64回全日本実業柔道団体対抗大会の様子を報告する。

本県柔協にとって平成25年度の一番大きな出来事は、東京国体（スポーツ祭東京2013）における成年女子チームの活躍であった。平成15年に地元静岡で開催した「Newわかふじ国体」以来の準優勝で、地道な強化活動が実ったものと思う。今回の国体には成年男子だけでなく、成年女子、少年男子の２種別が非常に厳しい状況の中で東海地区予選を勝ち抜き、出場権を獲得することができ、県チーム全体の意気が大いに上がったことが大きな要因となったことと思う。皇后杯で３位入賞、天皇杯で６位入賞となった東京国体での静岡県チームの活躍の様子を報告したい。

大会初日、成年女子は、一回戦を１対１ながら内容差で勝ち上がり、続く準々決勝で栃木県を２対０で下しベスト４に進出した。準決勝では山梨学院大学の学生で固めた山梨県と対戦した。１対１の内容差でリードされていたが、大将・土

屋選手の見事な一本勝で逆転、決勝進出を果した。決勝では強敵千葉県に屈したものの、見事準優勝を果した。

続く少年男子でも上位進出が期待されたが、佐藤和哉選手が怪我で欠場となり、急遽浜松商業高校の片山選手が大将を務めることになった。緒戦の新潟県は先鋒、次鋒と敗れリードを許すが、中堅、副将で盛り返し、同点で大将戦となった。片山選手も良く健闘したが急な出場ということもあり、残念ながら敗れてしまい緒戦敗退という結果であった。

翌日の成年男子は二回戦からの登場となり鹿児島県と対戦した。緊迫した試合展開となり、中堅・山下選手が一本勝したものの大将・増田選手が一本負けで、代表戦にもつれ込んだ。抽選の結果先鋒戦の再戦となり、惟村選手が登場した。前半良く攻めたが後半盛り返され、旗判定の結果惜しくも敗れ、二回戦敗退となった。

次に本県の大きな話題は、高校生の活躍であった。静岡学園高校の佐藤和哉選手の全日本選手権大会出場、富士市立高校の滝川真央選手の全日本女子選手権大会出場という快挙である。共に大会では緒戦の二回戦を勝ち抜き三回戦に進出した。現役高校生男女の全日本選手権出場は、地元の若い柔道家に大いに勇気を与えてくれた。平成26年度も揃って全日本選手権大会への出場を果し、今後の活躍が期待されている。

また、国際大会での県内高校生の活躍も目立った。藤枝順心高校の鈴木茉莉選手は2013年８月の世界カデ柔道選手権大会女子44kg級で優勝し、東海大学翔洋高校の遠田真子選手も女子70kg級で準優勝に輝いた。

本県柔協では、国内大会で上位入賞（３位以内）を果した若手選手（高校生以下）を機関誌「柔道しずおか」で紹介している。平成25年度は静岡学園の佐藤選手、富士市立高校の滝川選手、藤枝順心高校の鈴木選手、東海大学翔洋高校の遠田選手ほか、全国中学校体育大会で女子63kg級３位の東海大学翔洋中学校の安竹真利奈選手、男子60kg級２位の静岡学園中学校の岡本龍司選手、全日本カデ女子40kg級２位の加藤学園暁秀中学校の小林夏希選手、全国小学生学年別柔道大会６年男子50kg超級３位の下橋颯斗選手、全国定時制通信制柔道大会女子63kg超級優勝の県立新居高校の木下由美選手など、９名の選手を紹介することができた。

静岡県では柔道人口拡大への取り組みとして、県内３地区毎で工夫しながら柔道教室を開催している。東部地区では「エアロビ柔道」を毎週水曜日に市立沼津高校柔道場で実施している。元沼津市立高校柔道部顧問の根木谷信一先生を中心に「トレーニング編」「おむすび受身編」の実技が実施されている。中部地区と西部地区では幼児・小学生を対象にした「柔道教室」が開催され、それぞれ多くの親子が参加し、柔道を通してさわやかな汗を流している。

最後に平成26年６月７日（土）、８日（日）に静岡県武道館で開催された第64回全日本実業柔道団体対抗大会の様子を報告する。静岡県では過去に多くの全国大会を実施してきているが、平成23年４月に行われた全日本カデ柔道選手権大会以来の全国大会であった。協会の事務局長を中心に準備作業が進められ、大会当日を迎えることができた。

開会式では、宗岡正二全日本柔道連盟会長が「柔道界の現状から、人格と強さを兼ね備えた柔道人を育成していかなくてはならない」と挨拶され、旭化成の野田嘉明選手が選手宣誓を行い、１日目の競技が開始された。女子１部は４チームのリーグ戦が行われ、日本のトップ選手たちが息詰まる熱戦を展開し、コマツが制した。男子３部は、地元静岡県のチームが活躍し、静岡県警察が準優勝、東海翔柔クラブが３位に入賞した。スタンドから「パパ頑張って」という声援が飛び、真剣勝負の中にもさわやかさを感じることができた。

２日目は男子１部と２部、女子２部の試合が行われた。前日の試合より更に厳しくかつ面白い試合が展開された。男子では旭化成の強さが目立った。２部では旭化成同士の決勝戦となり、１部でも旭化成が優勝した。男子は体重別の試合ではなく無差別の戦いであり、体重差が大きい選手たちによる戦いは非常に面白く、「柔能く剛を制す」の言葉通り、大きな相手を投げ飛ばし、会場から大きな歓声が上がった試合もあった。女子２部ではＡＬＳＯＫが底力を発揮して優勝した。

大会運営では地元高校生が活躍し、会場の設営や片付け、補助役員などを務めてくれた。身近に一流選手の技を見ることができ、大きな刺激を受けてくれたことと思う。

（静岡県柔協広報普及委員会）

静岡県柔道の発展を目指して

野　田　昭　一

平成26年４月、静岡県柔道協会会長に推挙され、就任いたしました。

これまで西田亀会長（当時）のご指導のもとで柔道協会の役員を始め、代々の会長のもとで協会の強化部長として県のレベルアップに努め、理事長として大会運営を担ってきました。また高体連の委員長を16年間務め、その集大成として全国

高体連副部長を務めさせて頂きました。重責でありましたが素晴らしい経験で、これを活かし今後も県柔道協会長という大役に臨んでいく所存です。

私は昭和43年４月、静岡学園高校に赴任して以来、柔道指導者として高校柔道に携わって参りました。静岡学園高校は地方ながら選手に恵まれ、全国大会にチーム・個人を多く出場させることができ、日本一の選手を輩出することもできました。全日本学生選手権無差別で優勝した山本稔、全日本ジュニア優勝の海野幸彦、インターハイ優勝の井川清隆、また柔道選手の晴れ舞台である全日本柔道選手権へ高校生として出場を果した佐藤和哉、今年度出場の山下諒輔などがおります。どの選手にも思い出があり、私の誇りです。

今後もこのような選手を数多く静岡県から輩出するためにも、県柔道協会では現代の柔道界の課題として次の３点に取り組んでいきます。

（１）柔道人口の減少対策

親子・初心者教室等の開催・実施

昨今の柔道人口の減少の要因として、若い世代の柔道離れがあります。柔道に触れる機会のない低学年児童や未就学児たちに向けて、親子・初心者教室等を開催し、柔道に触れる機会を積極的に提供することが必要と思われます。その際に保護者にも柔道衣を着て実際に体験してもらうことで、子どもだけでなく保護者にも柔道の素晴らしさを広めていきたいと思っております。柔道を学ぼうとする子どもを増やし、それを支援するご家庭の理解を深めることで、よりよい柔道環境を整えていくことが狙いです。

県柔道協会ホームページの充実

現在ではインターネット上で情報を得る機会が大変多く、特に若い世代で顕著に見られます。県協会としても昨年ホームページを立ち上げました。柔道に興味を持った若者が気軽に情報を得られるように、また柔道により興味を持ってもらえるようにホームページで情報提供していきたいと考えています。

指導者の資質向上

全柔連・講道館の講習会を始め、講習会開催機会を増やし、それを通じて指導者の柔道理解や資質向上に繋げられるようにしていきます。

（２）全日本形競技大会参加者の増強

静岡県内で形講習会・形競技大会を開催し、地区予選会に選出する選手の育成や形の理解や技術向上を目指します。指導者側としても全国講習会に計画的に参加し、指導者そのものの育成と共に伝達講習を行い、中央の技術を広く県内の指導者に伝えていきます。

（３）県柔道協会の組織改革

静岡県では昨年から組織の改革を行っています。これまでの細分化されていた委員会・部会を再編成して、それぞれに権限と責任を集約しました。事業の推進や情報の共有化を図り、協会運営を円滑にすることが狙いです。これにより新しくなった全柔連の活動組織に連動することが可能となりました。組織再編から１年経ちましたが、今後もより良い組織運営を目指し改革を引き続き実施していきます。

以上の重点目標を掲げ、県柔道協会の会員一人一人が柔道発展のために日々努力しています。

また個人的に力を入れたいと思っていることに「柔道ＭＩＮＤ活動」があります。これは周知の通り全柔連改革の１つです。嘉納治五郎師範の教えの精神、柔道の心に立ち返ろうという取り組みであり、Manner（礼儀）、Independence（自立）、Nobility（高潔）、Dignity（品格）これらを守ってこそ真の柔道家に相応しいとのメッセージがこめられています。

私が昔から特に指導しているのが「礼儀」です。柔道は礼を重んじる競技です。柔道初心者、特に小さな子どもたちに散見されるのが、試合の終わった後に礼を忘れてしまうことです。柔道は武道であり、ただ勝敗を競うだけのスポーツではありません。勝負をしてくれた相手へ心から感謝し礼儀を尽す行為は、柔道ＭＩＮＤの精神そのものです。「礼に始まり、礼に終わる」、それを今後も子どもたちに指導していきたいと考えております。

柔道を教えて47年が過ぎました。先述した山下諒輔選手は父親・叔父が共に静岡学園高校柔道部ＯＢで、彼は私にとって孫弟子にあたります。私の教え子が親になり、その子が孫弟子となり、柔道の精神が脈々と受け継がれていることが大変嬉しくもあり、今後も続くことを願ってやみません。

孫弟子世代の全日本での活躍を楽しみつつ、今後も柔道の精神を培った子どもたちが増えていくよう、柔道指導者として生涯現役を貫き、微力ながら柔道発展のため尽力したいと思っています。　（静岡県柔道協会会長）

各地だより「南から北から」

平成26年度の本県柔道協会

静岡県　宮　﨑　貞　夫

はじめに

静岡県柔道協会にとって平成26年度は非常に大きな変化の年になった。長年本県の柔道界を牽引していただいた安齊悦雄前会長から、野田昭一氏にバトンが渡された。野田新会長の下、新しい体制がスタートし、全柔連に合わせながら多方面で改革が始まっている。大きな問題を抱える柔道界を、地方からどう立て直していくことができるか、静岡県の挑戦が始まった。野田会長は就任にあたり『柔道しずおか』第18号の巻頭言で次のように抱負を述べている。

「‥このような取り組みの基盤となる協会組織につきましても、今年度より以下のとおり再編し、役割分担を明確にし、各種事業の推進に取り組んでいます。

◆総務委員会

（財務部会　柔道ＭＩＮＤプロジェクト部会　登録部会）

◆審判・「形」委員会

（審判技術向上部会　形技術向上部会）

◆広報・普及委員会

（広報・記録部会　普及部会）

◆強化部

全柔連同様、静岡県柔道協会も「改革」が必要です。しかし、まだ試行錯誤の連続で、皆様の協力なしでは成りたちません。静岡県の柔道が全国のモデルになるよう、執行役員一丸となり、普及・強化、組織の充実を図っていく所存です…」

全日本実業柔道団体対抗大会

26年度の静岡県柔道協会一番の出来事はやはり全日本実業柔道団体対抗大会の開催であろう。平成26年６月７日（土）、８日（日）に静岡県武道館を会場に実施された。

１日目には女子１部と男子３部が行われた。女子１部は４チームのリーグ戦で行われ、日本のトップクラスの選手たちが息詰まる熱戦を展開してくれた。コマツが女子１部を制した。男子３部は、地元静岡県のチームが活躍し、静岡県警察が準優勝、東海翔柔クラブが３位に入賞した。スタンドから「パパがんばって」という声援が飛び、真剣勝負の中にもさわやかさを感じた。

２日目は男子１部と２部、女子２部の試合が行われた。前日の試合より更に厳しくかつ面白い試合が展開された。男子では旭化成チームの強さが目立った。２部では旭化成チーム同士の決勝戦となり、１部でも旭化成チームが優勝した。男子は無差別の戦いであり、体重差が大きい選手同士の戦いは非常に面白く、「柔能く剛を制す」の言葉どおり、大きな相手を投げ飛ばし、会場から大きな歓声が上がった試合もあった。女子２部ではＡＬＳＯＫが底力を発揮して優勝した。

県内選手の活躍

本県では全国大会３位までに入賞した選手を毎年優秀選手として表彰している。平成26年度は小学生１人、中学生１人、高校生４人、団体１、警察官２人と例年以上に活躍した。特に、藤枝順心高校の谷川美歩選手、清水町柔道会の澤崎凛選手、静岡県警察の山下諒輔選手・正治和也選手は全国優勝を成し遂げた。国際大会で活躍した選手も出ており、オリンピック出場を期待してしまう。

柔道普及の取り組み

本県では柔道普及の取り組みを３地区ごとに行っている。各地区での取り組みを簡単に紹介する。

（１）西部地区　めばえの親子じゅうどう教室

11月２日（日）午後１時から午後３時30分に浜松市武道館で実施された。最初に開会式があり、溝口紀子先生の挨拶に続いて北田典子先生から柔道の「礼」を中心にした講話を聴くことができた。その後ランニングで体をほぐし、ドッジボールで楽しく汗を流した。休憩を挟んで後半では、後ろ受身と前受身を親子で練習した。その後、北田先生から送足払の解説をして頂き打込練習を行った。参加した約80組の親子だけでなく、普段道場で指導している先生方も良い汗をかいた。

（２）中部地区　親子柔道教室

11月９日（日）午前10時から正午まで静岡北部体育館で実施された。今回は昨年度を上回る、幼児・小学生・保護者合わせて114名の参加があり、それに女子部会の女性指導者と他の指導者が加わり、総勢129名で賑やかなイベントに

なった。

最初に「誰にでもできるエアロビック体操」で心肺機能を働くようにさせ、各所の幼稚園で行われている、コアキッズ体操や回転運動で体をほぐした。その後、年齢別・対格別に分かれて、親子でのレクリエーションを交えた運動を行った。最後に田中幹事長から、「礼法」の説明があり、粛々とした雰囲気で閉講となった。

（３）東部地区　エアロビ柔道

沼津市立沼津高校柔道場において、４月23日から、毎週水曜日午後７時～午後８時半まで、週１回のペースで実施している。参加者は数人の時もあったが最近では増加しており、30名を超えることもある。10代から70代まで老若男女が楽しく活動し、地元の新聞にも取り上げられ、注目を集めている。

その他

（１）全柔連審判講習会

９月21日（日）午前10時から午後３時まで静岡市北部体育館柔道場を会場に、全柔連審判講習会が県中央審判講習会を兼ねて実施された。講師は全柔連審判委員長の西田孝宏七段（山梨学院大学教授）であった。

県内各地から200名もの会員が参加して講習会は開催された。野田会長の挨拶に続いて講師の紹介があり、早速講習が始まった。最近の国際大会での審判の現状についてご自身の体験を基に話され、新しい審判規定の解釈について、細かくジェスチャーなどを交えて丁寧に説明して頂いた。

（２）旭日双光章の受賞

高柳喜一本県柔道協会元会長が旭日双光章を受賞され、平成27年２月14日グランドホテル浜松にて祝賀会が開催された。多くのご来賓、柔道関係者、先生の母校の静岡県立浜松商業高等学校関係者、ご親族等300名弱の参加者が高柳先生の受賞をお祝いした。

（静岡県柔協広報普及委員会広報担当）

オーストラリア連邦派遣日本武道代表団

渡　部　成　也

はじめに

この度、２０１６年日豪友好協力基本条約調印40周年を記念し、オーストラリア連邦シドニー市において日本武道を紹介するための演武会が開催された。

臼井日出男日本武道館理事長を武道団団長に、現代武道として柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道の９道、古武道として大東流合気柔術琢磨会、北辰一刀流剣術、宝蔵院流高田派槍術の３流派、総勢96名が派遣された。

一連の行事として、シドニー日本人学校における武道演武会、ニューサウスウェールズ大学における武道文化セミナー、地元の子どもたちとの交流稽古等が行われ、いずれも大好評であった。なかでも、今回の目玉でもあるシドニーオリンピックパークにおける日本武道演武会は、最高の盛り上がりを見せた。

主催

日本武道館

日本武道協議会

柔道代表団

責任者

　小俣　幸嗣八段（講道館評議員）

副責任者

　多田隈和博七段（福岡地区柔道協会副理事長）

団員

　芳森　信吾六段（愛知県警察）

　渡部　成也六段（静岡県警察）

　平岡　拓晃五段（筑波大学大学院）

　三山　悟司四段（京都刑務所）

日程

平成28年11月９日（水）～16日（水）８日間

シドニー日本人学校での武道演武会

11月10日（木）、シドニー日本人学校の体育館に学生、教職員及び保護者など約200名が集まり、演武会が開催された。柔道は、受身から始まり、打込、投込、そして最後は固技で締めくくった。

ニューサウスウェールズ大学での武道文化セミナー

11月11日（金）、ニューサウスウェールズ大学において武道文化セミナーが開催された。学長をはじめ、学生など約150名が集まり、武道文化セミナー後には、たくさんの質問があるなど、人気の高さが感じられた。その後は、学生たちと写真撮影するなど、有意義な時間を過ごした。

その日の夜は、シドニー総領事館主催のウェルカムパーティーに招かれ、沢山のお酒と、豪華な料理を頂いた。

交流指導稽古会

11月12日（土）、ニューサウスウェールズ州アーモリーにあるトレーニングセンターにおいて交流指導稽古会が開催された。ニューサウスウェールズチームなどのジュニアチーム（15歳以下）約50名、シニアチーム（16歳以上）約60名、指導者及び保護者など合わせて約150名の参加があった。柔道場は約200畳が２面ある大きな道場であった。参加者の中には、オリンピック出場者や東京オリンピック出場候補者なども多数おり、現地での関心の高さを実感した。団員の得意技や得意分野を順に指導し、その後、生徒たちと乱取稽古などで汗を流した。

日本武道演武会及びワークショップ

11月13日（日）、今回の日本武道団派遣のメインイベントである日本武道演武会及びワークショップがシドニーオリンピックパークで開催された。観客が集まるのか事務局は心配していたが、その心配をよそに、約2200名が来場した。

柔道は目玉でもあり、最後の登場であった。全員での礼で始まり、基本的な後ろ受身、前受身、飛び越し受身の後、技の披露に移った。技の披露は、「静」と「動」の違いが一般の方にもわかるように行った。

最後は、ロンドンオリンピック銀メダリストの平岡五段の飛びついての腕挫十字固で締めくくった。演武後は鳴りやまない拍手が場内に響き渡った。演武終了後、柔道体験とワークショップを行った。大勢の人たちと触れ合い、時間が足りない程の人気であった。

おわりに

オーストラリア連邦は、決して競技としての柔道は盛んでないようだが、沢山の人たちと交流することができ、日本柔道の素晴らしさを伝えることが出来たと感じている。

参加者からは「日本武道は日本だけの文化ではなく世界遺産だ！」との嬉しい声を頂いた。

この言葉を胸に刻み、今後も精進し、後進の指導にあたり、柔道の普及に努めたい。

（静岡県警察）

編　集　後　記

平成 25 年 4 月に広報委員に就任して以来、懸案となっていた「平成 20 年からのあゆみ」を皆様方のおかげで何とか刊行することができました。平成 29 年 4 月に、前任者の宮﨑貞夫先生から委員長職を引き継ぎましたが、慌ただしく取材や広報誌編集作業に携わったことを覚えています。

当初は平成 30 年 3 月刊行をと委員会での会合で決めておりましたが、今年度静岡県柔道協会が創立 70 周年を迎えることも相俟って、一連の記念行事も掲載するのがよかろうとの助言を左口理事長からいただき、今回の刊行となった次第です。

協会創立 70 周年記念事業実行委員会にも参加する機会を得て、各部署で様々な企画が形となっていく段階を目の当たりにして、その一端をこうした冊子で残しておくことも重要なことだと認識し編集作業に携わってまいりました。原稿依頼に始まり、校正などの作業を繰り返していく中で、少しずつ形になっていくことが喜びでもありました。

刊行にあたり、関係各位に感謝申し上げる次第です。特に多くの助言・提案をしていただいた松本印刷株式会社の太田武芳氏にはたいへんお世話になりました。この場をお借りして深く感謝の意を申し述べたく存じます。

平成 31 年 3 月吉日　広報委員会委員長　増尾清己
副委員長　川合孝弘
西部担当　岩倉隆樹
中部担当　森　順次
東部担当　菊池勝義

静岡県柔道協会70周年記念
平成20年からの歩み

発 行 日　平成31年３月31日

発 行 者　静岡県柔道協会
静岡県浜名郡新居町新居3035-6
TEL（053）594-2403

印　　刷　松本印刷株式会社

静岡県の代表という誇り

SHIZUOKA

静岡県柔道協会 シンボルマーク

静岡県柔道協会のシンボルマークができました。静岡県を代表して全国大会などに出場する選手だけがつけることができる、特別なマークです。ぜひ皆さんも静岡県を代表する柔道選手になって、このマークをつけて活躍してください。

静岡県柔道協会

http://shizuokajudokyokai.g1.xrea.com/